

むかい　さま　だ
向　様　田　A　遺　跡

—森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ—
遺　物　篇

2004・3

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、これまで大きな洪水や渇水の被害に見舞われてきた米代川や阿仁川の流域では、そうした自然被害の脅威や不安を解消するためのダム建設が長く望まれ、洪水被害の軽減、灌漑用水・水道水の供給、水辺環境の保全などを目的とする森吉山ダムの建設事業が行われております。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

森吉山ダム建設に先立ち、平成12・13年度に実施した森吉町向様田A遺跡の発掘調査では、縄文時代晩期の環状配石遺構、土坑墓群や配石遺構群などの祭祀遺構が発見され、すでに報告しております。本報告書は調査成果のうち、捨て場と遺物についてまとめたものであります。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所、森吉町、森吉町教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

例 言

1. 本報告書は、森吉山ダム建設事業に係り、平成12・13年度に行われた向様田A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は、平成14年度に刊行した『秋田県文化財調査報告書第346集 向様田A遺跡 - 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 - 遺構篇 -』に続いて、遺物についての成果をまとめた2冊目であり、森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては12冊目となる。
3. 本書の作成にあたり、以下の方々からご指導・ご助言をいただいた。記して感謝の意を表する。
赤沼英男 阿部朝衛 阿部義平 五十嵐俊雄 池田淳子 伊藤玄三 稲野祐介 榎本剛治 大村和弘
岡村道雄 小林和彦 小林達雄 熊谷常正 佐野一絵 滝沢規朗 富樫泰時 日暮晃一 宮尾亨
(50音順・敬称略)
4. 第3章の¹⁴C年代測定について、総合研究大学院大学 小林謙一氏、国立歴史民俗博物館 今村峯雄、坂本稔、陳建立氏より玉橋を賜った。
5. 土器の実測・トレース・写真撮影の一部を株式会社シン技術コンサルに委託した。
6. 本書は、石器部分の粗稿を佐々木彩子が執筆した。宇田川浩一が他の部分と合わせて執筆・補筆して文体を統一し、柴田陽一郎と宇田川が編集した。遺物の写真撮影は柴田が行った。

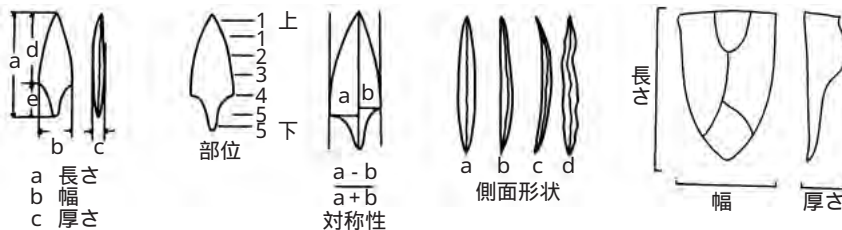
凡 例

1. 発掘調査時にトータル・ステーション、または手書きによって図面を作成し取り上げを行ったものは、本文中「点取り遺物」と記載した。又、本書で言う「完形土器」とは、完全なものから大きく破損はあるが口縁部もしくは底部が残り、完形復原可能なものまで様々な状態のものを含む。
2. 標準偏差・不偏分散は、分母を(n-1)で計算した。
3. 遺物の出土重量・数量、地点別特化度は、偏差値に置き換えて記載した。特に断らない限り、偏差値は標準化データ×20+50で計算しており、平均値が偏差値50となる。
4. マッカーサーの多様度(H')と公平度(E)の計算は、以下の公式に従った。

$$H' = -c \{ (Ni/N) \log(Ni/N) \} \quad c = 1 \quad H_{\max} = \log_2 S \quad (Ni = N/S) \quad E = H' / H_{\max}$$
5. 修正ウェーバー値(Wn)の計算は、以下の公式に従った。

$$Wn = \sum_{i=1}^n \{ Xi - (100/n) \}^2 \quad n: \text{上位からの順番} \quad Xi: i \text{ 番目の種の構成比}$$

6. 地点別特化度(QL)の計算は、右の公式に従った。 $QL = (Ri/Rj)(Ni/N)$
Rj: j地点で採集された全種の総個体数 Ri: j地点採集のi種の個体数
N: 対象地全域で採集された全種の総個体数 Ni: 対象地全域で採集されたi種の個体数
7. 本書で使用した遺構略号は、ST:捨て場とSN:焼土遺構である。
8. 土器観察表で使用した単位は、長幅厚をcm、重量はgである。()は推定値、 は残存値。
9. 石器の計測点は、以下の通りに行った。



10. 挿図中に使用したスクリーン・トーンは、以下のとおりである。



目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次

第1章 はじめに..... 1	8 土器の使用痕について182
第2章 捨て場と遺物..... 3	第4節 縄文時代晩期の石器・石製品.....207
第1節 『遺構篇』との変更点及び捨て場全体の概要..... 3	1 概要207
第2節 捨て場.....16	2 狩猟具208
1 1号捨て場.....16	3 加工具251
2 2号捨て場.....60	4 調理具307
3 3号捨て場.....69	5 祭祀具・装身具・石製品322
4 4号捨て場.....70	6 素材332
第3節 縄文時代晩期の土器・土製品79	第5節 中世・近世の遺物.....366
1 扱う資料の概要と分析方法.....79	1 陶磁器・製鉄関連遺物・木器366
2 大洞B ₂ 式土器82	第3章 自然科学分析
3 大洞BC式土器.....95	第1節 森吉町向様田A遺跡出土土器付着物の ¹⁴ C年代測定 ...368
4 大洞C ₁ 式土器.....117	第4章 まとめ372
5 大洞C ₂ 式土器169	写真図版375
6 無文土器181	報告書抄録
7 土偶・土製品.....182	

挿 図 目 次

第1図a 捨て場出土土器重量等偏差値線(4mグリッド)... 5	第16図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC・C ₁ 式(ミニチュア土器)38
第1図b 遺構数検出量線図..... 5	第17図 1号捨て場(ST183)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC・C ₁ 式(土偶)39
第2図a 1号捨て場出土土器重量等偏差値線(2mグリッド)... 6	第18図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(深鉢)40
第2図b 2号捨て場出土土器重量等偏差値線(2mグリッド)... 6	第19図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(台付鉢)41
第3図 グリッド別出土土器組成.....17	第20図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(鉢).....42
第4図 グリッド別出土土器組成.....18	第21図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(浅鉢)43
第5図 グリッド別出土土器組成.....19	第22図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(壺)44
第6図 グリッド別出土土器組成.....20	第23図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(注口土器)45
第7図 グリッド別出土土器組成.....21	第24図 2号捨て場(ST184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₁ 式(香炉)46
第8図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞B ₂ 式(台付鉢・鉢・浅鉢・注口土器) ...30	第25図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C ₂ 式(浅鉢)47
第9図 1号捨て場(ST183)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(深鉢)31	第26図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)晩期無文土器(壺).....48
第10図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(台付鉢)32	第27図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)晩期無文土器(深鉢・台付鉢・鉢).....49
第11図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(台付鉢)33	第28図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大
第12図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(鉢)34	
第13図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(浅鉢)35	
第14図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(壺)36	
第15図 1・2号捨て場(ST183・184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞BC式(注口土器)37	

洞B ₂ 式(深鉢・台付鉢・鉢・浅鉢・注口土器・壺).....50	第60図 大洞B ₂ 式 注口土器(1)93
第29図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞BC式(深鉢・台付鉢・浅鉢・注口土器・壺).....51	第61図 大洞B ₂ 式 壺(1)94
第30図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞BC式(台付鉢・鉢).....52	第62図 大洞BC式 深鉢(1)96
第31図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₁ 式(深鉢・鉢).....53	第63図 大洞BC式 深鉢(2)97
第32図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₁ ・C ₂ 式(浅鉢).....54	第64図 大洞BC式 深鉢(3)98
第33図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₁ 式(台付鉢・壺・注口土器).....55	第65図 大洞BC式 深鉢(4)99
第34図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₂ 式(深鉢・台付鉢・浅鉢).....56	第66図 大洞BC式 台付鉢(1)101
第35図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)晩期無文土器(深鉢・台付鉢・鉢・壺).....57	第67図 大洞BC式 台付鉢(2)102
第36図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞式(ミニチュア土器).....58	第68図 大洞BC式 台付鉢(3)103
第37図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞式(土偶・土製品).....59	第69図 大洞BC式 台付鉢(4)104
第38図a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞BC式(台付鉢・鉢・壺).....63	第70図 大洞BC式 台付鉢(5)105
第38図b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞B ₂ 式(台付鉢・鉢・浅鉢・注口土器).....63	第71図 大洞BC式 台付鉢(6)106
第39図a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞BC式(注口土器・香炉).....64	第72図 大洞BC式 台付鉢(7)107
第39図b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞BC式(浅鉢).....64	第73図 大洞BC式 鉢(1)109
第40図a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₁ 式(浅鉢).....65	第74図 大洞BC式 鉢(2)110
第40図b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₁ 式(深鉢・鉢・注口土器).....65	第75図 大洞BC式 鉢(3)111
第41図a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)晩期無文土器(深鉢・台付鉢・鉢・壺)大洞C ₁ 式(香炉・土偶).....66	第76図 大洞BC式 鉢(4)112
第41図b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)大洞C ₁ 式(台付鉢・壺)大洞C ₂ 式(浅鉢).....66	第77図 大洞BC式 浅鉢(1)113
第42図a 2号捨て場(ST184)土器出土状況.....67	第78図 大洞BC式 浅鉢(2)114
第42図b 2号捨て場(ST184)石棒祭祀.....67	第79図 大洞BC式 浅鉢(3)115
第43図 捨て場出土石棒・石剣・岩版分布図.....68	第80図 大洞BC式 浅鉢(4)116
第44図 3・4号捨て場出土土器分布図 大洞B ₂ 式71	第81図 大洞BC式 注口土器(1)118
第45図 3・4号捨て場出土土器分布図 大洞BC式72	第82図 大洞BC式 注口土器(2)119
第46図 2~4号捨て場出土土器分布図 大洞C ₁ ・C ₂ 式73	第83図 大洞BC式 注口土器(3)120
第47図 3・4号捨て場出土土器分布図 ミニチュア土器・土偶・無文土器.....74	第84図 大洞BC式 注口土器(4)121
第48図 捨て場出土土器数量別偏差値分布図.....75	第85図 大洞BC式 注口土器(5)122
第49図 捨て場出土土器数量別偏差値分布図.....76	第86図 大洞BC式 注口土器(6)123
第50図 捨て場出土土器数量別偏差値分布図.....77	第87図 大洞BC式 注口土器(7)124
第51図 大洞B ₂ 式 深鉢(1)83	第88図 大洞BC式 壺(1)125
第52図 大洞B ₂ 式 深鉢(2)84	第89図 大洞BC式 壺(2)126
第53図 大洞B ₂ 式 台付鉢(1)85	第90図 大洞BC式 壺(3)127
第54図 大洞B ₂ 式 台付鉢(2)86	第91図 大洞BC・C ₁ 式 香炉(1)128
第55図 大洞B ₂ 式 台付鉢(3)87	第92図 大洞C ₁ 式 深鉢(1)130
第56図 大洞B ₂ 式 台付鉢(4)88	第93図 大洞C ₁ 式 深鉢(2)131
第57図 大洞B ₂ 式 鉢(1)89	第94図 大洞C ₁ 式 深鉢(3)132
第58図 大洞B ₂ 式 鉢(2)90	第95図 大洞C ₁ 式 台付鉢(1)134
第59図 大洞B ₂ ・BC式 鉢・浅鉢(3)91	第96図 大洞C ₁ 式 台付鉢(2)135
	第97図 大洞C ₁ 式 台付鉢(3)136
	第98図 大洞C ₁ 式 台付鉢(4)137
	第99図 大洞C ₁ 式 台付鉢(5)138
	第100図 大洞C ₁ 式 台付鉢(6)139
	第101図 大洞C ₁ ・C ₂ 式 台付鉢(1)140
	第102図 大洞C ₁ 式 鉢(1)141
	第103図 大洞C ₁ 式 鉢(2)142
	第104図 大洞C ₁ 式 鉢(3)143
	第105図 大洞C ₁ 式 鉢(4)144
	第106図 大洞C ₁ 式 鉢(5)145
	第107図 大洞C ₁ 式 鉢(6)146
	第108図 大洞C ₁ 式 鉢(7)147
	第109図 大洞C ₁ 式 浅鉢(1)148
	第110図 大洞C ₁ 式 浅鉢(2)149
	第111図 大洞C ₁ 式 浅鉢(3)150
	第112図 大洞C ₁ 式 浅鉢(4)151
	第113図 大洞C ₁ 式 浅鉢(5)152
	第114図 大洞C ₁ 式 浅鉢(6)153

第115図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (7)	154	第170図	石鏃 (2)	215
第116図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (8)	155	第171図	石鏃 (3)	216
第117図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (9)	156	第172図	石鏃 (4)	217
第118図	大洞 C ₁ ・C ₂ 式 浅鉢 (10)	157	第173図	石鏃 (5)	218
第119図	大洞 C ₁ ・C ₂ 式 浅鉢 (11)	158	第174図	石鏃 (6)	219
第120図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (12)	159	第175図	石鏃 (7)	220
第121図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (13)	160	第176図	尖頭器の分類とサイズの特徴	221
第122図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (14)	161	第177図	尖頭器 (1)	222
第123図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (15)	162	第178図	尖頭器 (2)	223
第124図	大洞 C ₁ ・C ₂ 式 浅鉢 (16)	163	第179図	石鏃の分類	224
第125図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (17)	164	第180図	石鏃 (1)	225
第126図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (18)	165	第181図	石鏃 (2)	226
第127図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (19)	166	第182図	土掘具サイズの特徴	227
第128図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (20)	167	第183図	土掘具 (1)	228
第129図	大洞 C ₁ 式 浅鉢 (21)	168	第184図	磨製石斧の分類	229
第130図	大洞 C ₁ 式 注口土器 (1)	170	第185図	磨製石斧完形品サイズの特徴	230
第131図	大洞 C ₁ 式 注口土器 (2)	171	第186図	磨製石斧サイズの特徴	231
第132図	大洞 C ₁ 式 壺 (1)	172	第187図	磨製石斧 (1)	232
第133図	大洞 C ₁ 式 壺 (2)	173	第188図	磨製石斧 (2)	233
第134図	大洞 C ₁ 式 壺 (3)	174	第189図	磨製石斧 (3)	234
第135図	大洞 C ₁ 式 壺 (4)	175	第190図	磨製石斧 (4)	235
第136図	大洞 C ₁ 式 壺 (5)	176	第191図	磨製石斧 (5)	236
第137図	大洞 C ₁ 式 壺 (6)	177	第192図	磨製石斧 (6)	237
第138図	大洞 C ₁ 式 壺 (7)	178	第193図	磨製石斧 (7)	238
第139図	大洞 C ₁ 式 壺 (8)	179	第194図	磨製石斧 (8)	239
第140図	大洞 C ₁ 式 壺 (9)	180	第195図	磨製石斧 (9)	240
第141図	大洞 C ₁ 式 壺 (10)	181	第196図	磨製石斧 (10)	241
第142図	大洞 C ₁ 式 香炉 (1)	183	第197図	スクレイパーの分類	242
第143図	大洞 C ₂ 式 深鉢 (1)	184	第198図	スクレイパーサイズの特徴	243
第144図	大洞 C ₂ 式 浅鉢・鉢 (1)	185	第199図	スクレイパー (1)	244
第145図	大洞式 深鉢 (1)	186	第200図	スクレイパー (2)	245
第146図	大洞式 深鉢 (2)	187	第201図	スクレイパー (3)	246
第147図	大洞式 深鉢 (3)	188	第202図	スクレイパー (4)	247
第148図	大洞式 深鉢 (4)	189	第203図	スクレイパー (5)	248
第149図	大洞式 鉢 (1)	190	第204図	スクレイパー (6)	249
第150図	大洞式 鉢 (2)	191	第205図	スクレイパー (7)	250
第151図	大洞式 鉢 (3)	192	第206図	コア・スクレイパーサイズの特徴	251
第152図	大洞式 鉢 (4)	193	第207図	コア・スクレイパー (1)	252
第153図	大洞式 壺 (1)	194	第208図	鋸歯縁石器サイズの特徴	253
第154図	大洞式 壺 (2)	195	第209図	抉入石器サイズの特徴	254
第155図	大洞式 壺 (3)	196	第210図	鋸歯縁石器・抉入石器 (1)	255
第156図	大洞BC・C ₁ 式 ミニチュア土器 (1)	197	第211図	石匙の分類とサイズの特徴	256
第157図	大洞式 ミニチュア土器 (1)	198	第212図	石匙 (1)	257
第158図	大洞BC式 土偶 (1)	199	第213図	石匙 (2)	258
第159図	大洞BC式 土偶 (2)	200	第214図	石匙 (3)	259
第160図	大洞 C ₁ 式 土偶 (1)	201	第215図	石匙 (4)	260
第161図	大洞 C ₁ 式 土偶 (2)	203	第216図	石匙 (5)	261
第162図	大洞 C ₁ 式 土偶 (3)	204	第217図	石匙 (6)	262
第163図	大洞式 土偶 (1)	205	第218図	石匙 (7)	263
第164図	大洞BC・C ₁ ・C ₂ 式 土製品 (1)	206	第219図	石匙 (8)	264
第165図	石鏃の分類	209	第220図	石筥の分類	265
第166図	アスファルト付着石鏃サイズの特徴	210	第221図	石筥サイズの特徴	266
第167図	アスファルト付着石鏃対称性	211	第222図	石筥 (1)	267
第168図	アスファルトなし石鏃サイズの特徴	213	第223図	石筥 (2)	268
第169図	石鏃 (1)	214	第224図	石錐の分類	269

第225図	石錐サイズの特徴	270	第280図	石棒・石剣(7)	313
第226図	石錐(1)	271	第281図	石棒・石剣(8)	313
第227図	石錐(2)	272	第282図	石棒・石剣(9)	314
第228図	石錐(3)	273	第283図	石棒・石剣(10)	314
第229図	石錐(4)	274	第284図	石棒・石剣(11)	315
第230図	石錐(5)	275	第285図	石棒・石剣(12)	315
第231図	石錐(6)	276	第286図	石棒・石剣(13)	316
第232図	石錐(7)	277	第287図	石棒・石剣(14)	316
第233図	石錐(8)	278	第288図	石棒・石剣(15)	317
第234図	楔形石器の分類とサイズの特徴	279	第289図	石棒・石剣(16)	317
第235図	楔形石器(1)	280	第290図	石棒・石剣(17)	318
第236図	楔形石器(2)	281	第291図	石棒・石剣(18)	318
第237図	楔形石器(3)	282	第292図	石棒・石剣(19)	319
第238図	礫器サイズの特徴	283	第293図	石棒・石剣(20)	319
第239図	礫器(1)	284	第294図	岩偶(1)	320
第240図	礫器(2)	285	第295図	岩偶(2)	320
第241図	パンチサイズの特徴	286	第296図	岩偶(3)	321
第242図	パンチ(1)	287	第297図	岩版の分類	322
第243図	台石サイズの特徴	288	第298図	岩版(1)	323
第244図	砥石サイズの特徴	289	第299図	岩版(2)	324
第245図	砥石(1)	290	第300図	岩版(3)	325
第246図	敲石サイズの特徴	291	第301図	岩版(4)	326
第247図	敲石(1)	292	第302図	異形石器の分類	327
第248図	石皿の分類	293	第303図	異形石器(1)	328
第249図	石皿サイズの特徴	294	第304図	異形石器(2)	329
第250図	石皿(1)	295	第305図	異形石器(3)	330
第251図	石皿(2)	295	第306図	円盤状石製品の分類	331
第252図	石皿(3)	296	第307図	円盤状石製品サイズの特徴	332
第253図	石皿(4)	296	第308図	円盤状石製品(1)	333
第254図	石皿(5)	297	第309図	円盤状石製品(2)	334
第255図	石皿(6)	297	第310図	円盤状石製品(3)	335
第256図	石皿(7)	298	第311図	円盤状石製品(4)	336
第257図	石皿(8)	298	第312図	石球サイズの特徴	337
第258図	石皿(9)	299	第313図	石冠(1)	338
第259図	石皿(10)	299	第314図	石製品の分類	339
第260図	石皿(11)	300	第315図	有孔石製品サイズの特徴	340
第261図	石皿(12)	300	第316図	有孔石製品形態比率	341
第262図	石皿(13)	301	第317図	石製品(1)	342
第263図	石皿(14)	301	第318図	石製品(2)	343
第264図	磨石の分類	302	第319図	石製品(3)	344
第265図	磨石サイズの特徴	303	第320図	石製品(4)	345
第266図	磨石(1)	304	第321図	赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)の分類	346
第267図	磨石(2)	304	第322図	赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)(1)	
第268図	磨石(3)	305		1~3楔形石器 4~7剥片	347
第269図	磨石(4)	305	第323図	赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)(2)	
第270図	磨石(5)	306		1剥片 2・3石核	348
第271図	凹石サイズの特徴	307	第324図	赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)(3)	
第272図	石棒・石剣の分類	308		1~7石核 8原石	349
第273図	石棒・石剣サイズの特徴	309	第325図	剥片サイズの特徴	350
第274図	石棒(1)	310	第326図	R.F.サイズの特徴	351
第275図	石棒(2)	310	第327図	U.F.サイズの特徴	352
第276図	石棒(3)	311	第328図	剥片(1)	353
第277図	石棒・石剣(4)	311	第329図	剥片(2)	354
第278図	石棒・石剣(5)	312	第330図	石核の分類	355
第279図	石棒・石剣(6)	312	第331図	石核サイズの特徴	356

第332図	石核(1)	357	第338図	石核(7)	363
第333図	石核(2)	358	第339図	石核(8)	364
第334図	石核(3)	359	第340図	接合資料(剥片と石核)	365
第335図	石核(4)	360	第341図	中世・近世遺物 1 龍泉窯青磁 2 ~ 5 近世国産 陶磁器 6 碗形滓	366
第336図	石核(5)	361	第342図	木器(1)	367
第337図	石核(6)	362			

表 目 次

第1表	捨て場遺物出土座標	7	第42表	アスファルトなし石鏃破損部位	212
第2表	捨て場遺物出土座標	8	第43表	アスファルト付着石鏃基部形態多様度	212
第3表	捨て場遺物出土座標	9	第44表	アスファルト付着石鏃基部形態多様度 (不明分除外)	212
第4表	大洞BC式と大洞C1式出土レベル検定結果	9	第45表	アスファルト付着石鏃基部形態	212
第5表	1号捨て場出土土器組成	9	第46表	アスファルト付着石鏃破損部位詳細	212
第6表	2号捨て場出土土器組成	9	第47表	アスファルトなし石鏃完形品基部形態多様度	212
第7表	3号捨て場出土土器組成	9	第48表	アスファルトなし石鏃完形品側面形態多様度	212
第8表	4号捨て場出土土器組成	9	第49表	アスファルトなし石鏃破損形態多様度	212
第9表	捨て場外出土土器組成	9	第50表	アスファルトなし石鏃破損形態多様度 (不明分除外)	212
第10表	グリッド別出土土器重量(4mグリッド)	11	第51表	アスファルトなし石鏃サイズの特徴 (全370点)	213
第11表	グリッド別出土土器重量(4mグリッド)	12	第52表	アスファルトなし石鏃側面形態	213
第12表	グリッド別出土土器重量(4mグリッド)	12	第53表	アスファルトなし石鏃破損比率	213
第13表	グリッド別出土土器重量(2mグリッド)	12	第54表	アスファルトなし石鏃鏃身形態	213
第14表	グリッド別出土土器重量(2mグリッド)	13	第55表	アスファルトなし石鏃基部形態	213
第15表	グリッド別出土土器重量(2mグリッド)	14	第56表	尖頭器サイズの特徴(全118点)	221
第16表	グリッド別出土土器重量(2mグリッド)	15	第57表	石鏃サイズの特徴(全4点)	224
第17表	グリッド別出土土器組成	17	第58表	土掘具サイズの特徴(全12点)	227
第18表	グリッド別出土土器組成	18	第59表	土掘具と石篋のサイズ比較	227
第19表	グリッド別出土土器組成	19	第60表	磨製石斧サイズの特徴(完形品22点)	230
第20表	グリッド別出土土器組成	20	第61表	磨製石斧サイズの特徴(全87点)	231
第21表	グリッド別出土土器組成	21	第62表	スクレイパーサイズの特徴(全3,074点)	243
第22表a	資料信頼度と有意差(資料信頼度)	80	第63表	コア・スクレイパーサイズの特徴(全515点)	251
第22表b	資料信頼度と有意差(有意差)	80	第64表	鋸歯縁石器サイズの特徴(全83点)	253
第23表a	土器重量と最小個体数(土器重量)	80	第65表	抉入石器サイズの特徴(全187点)	254
第23表b	土器重量と最小個体数(最小個体数)	80	第66表	石匙サイズの特徴(全536点)	256
第24表	土器使用痕付着位置	193	第67表	石篋サイズの特徴(全128点)	266
第25表a	石器組成と順位(石器組成)	207	第68表	石錐サイズの特徴(全957点)	270
第25表b	石器組成と順位(順位)	207	第69表	楔形石器サイズの特徴(全533点)	279
第26表	アスファルト付着石鏃完形品サイズの特徴 (全87点)	210	第70表	礫器サイズの特徴(全80点)	283
第27表	石鏃完形品・破損品とアスファルト付着	210	第71表	パンチサイズの特徴(全21点)	286
第28表	石鏃の石材	210	第72表	台石サイズの特徴(全11点)	288
第29表	アスファルト付着部分	210	第73表	砥石サイズの特徴(全33点)	289
第30表	アスファルト付着石鏃対称性の基礎統計	211	第74表	敲石サイズの特徴(全274点)	291
第31表	アスファルト付着石鏃側面形態多様度	211	第75表	石皿サイズの特徴(全85点)	294
第32表	アスファルト付着石鏃破損形態多様度	211	第76表	磨石サイズの特徴(全396点)	303
第33表	アスファルト付着石鏃破損形態多様度 (不明分除外)	211	第77表	凹石サイズの特徴(全56点)	307
第34表	アスファルト付着石鏃の対称性度数分布	211	第78表	石棒サイズの特徴(全146点)	309
第35表	アスファルト付着石鏃破損率	212	第79表	円盤状石製品サイズの特徴(全90点)	332
第36表	アスファルト付着石鏃側面形態	212	第80表	石球サイズの特徴(全20点)	337
第37表	アスファルト付着石鏃鏃身形態	212	第81表	有孔石製品サイズの特徴(全29点)	340
第38表	アスファルト付着石鏃詳細破損部位比率	212	第82表	有孔石製品A 類サイズの特徴(全5点)	341
第39表	アスファルトなし石鏃完形品基部形態	212	第83表	有孔石製品A 類サイズの特徴(全2点)	341
第40表	アスファルトなし石鏃完形品側面形態	212	第84表	有孔石製品B 類サイズの特徴(全3点)	341
第41表	アスファルトなし石鏃完形品鏃身形態	212			

第85表	有孔石製品B 類サイズの特徴(全10点)	341	第89表	剥片サイズの特徴(全49,700点)	350
第86表	有孔石製品C 類サイズの特徴(全5点)	341	第90表	R.F.サイズの特徴(全13,909点)	351
第87表	有孔石製品D 類サイズの特徴(全3点)	341	第91表	U.F.サイズの特徴(全8,874点)	352
第88表	有孔石製品形態別数量	341	第92表	石核サイズの特徴(全1,108点)	356

図版目次

図版1	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版32	大洞B ₂ 式
図版2	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版33	大洞B ₂ ・BC式
図版3	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版34	大洞BC式
図版4	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版35	大洞BC式
図版5	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版36	大洞BC式
図版6	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版37	大洞BC式
図版7	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版38	大洞BC・C ₁ 式
図版8	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版39	大洞BC・C ₁ 式
図版9	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版40	大洞C ₁ 式
図版10	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版41	大洞C ₁ 式
図版11	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版42	大洞C ₁ 式
図版12	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版43	大洞C ₁ ・C ₂ 式
図版13	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版44	大洞C ₁ 式
図版14	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版45	大洞C ₁ 式
図版15	1号捨て場(ST183)遺物出土状況	図版46	大洞C ₁ 式
図版16	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版47	大洞C ₁ 式
図版17	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版48	大洞C ₁ 式
図版18	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版49	大洞式土偶・土製品
図版19	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版50	大洞式土製品・石鏃
図版20	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版51	尖頭器
図版21	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版52	石鍬・土掘具
図版22	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版53	磨製石斧・石匙
図版23	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版54	石籠・楔形石器
図版24	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版55	石錐
図版25	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版56	岩版・石棒
図版26	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版57	岩偶・異形石器
図版27	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版58	石冠・有孔石製品
図版28	2号捨て場(ST184)遺物出土状況	図版59	接合資料・赤礫(ベンガラ・鉄鉱石・鉄石英)
図版29	大洞B ₂ 式	図版60	木器・龍泉窯青磁・国産陶磁器・鉄滓
図版30	大洞B ₂ 式		
図版31	大洞B ₂ 式		

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

向様田A遺跡の発掘調査は森吉山ダム建設に伴い、遺跡総面積7,600㎡に対して平成12(2000)年度と、平成13(2001)年度に行われた。平成12年度より整理作業も開始し、平成14(2002)年度3月に、捨て場以外の遺構部分についての調査成果をまとめ、『秋田県文化財調査報告書第346集 向様田A遺跡 - 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 - 遺構篇 - 』(以下『遺構篇』と略)として刊行した。発掘調査に関わる経過はすでに報告済みであるので、本書では省略する。

また、遺跡立地・遺跡概要についても『遺構篇』第2～3章に報告済みなので省略する。

整理作業は『遺構篇』刊行後も、平成15(2003)年度までさらに1年継続して行い、出土遺物の99%以上が出土した捨て場と出土遺物についての成果をまとめたものが本書である。

なお、環状配石遺構検出部分の約1,000㎡は、今後再調査する予定である。

第2節 調査要項

遺跡名 向様田A遺跡(むかいさまだAいせき)(略号2MSD-A)

所在地 秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ8外

調査期間 平成12年度：平成12(2000)年7月17日～10月27日

平成13年度：平成13(2001)年5月17日～10月19日

調査目的 森吉山ダム建設事業に係る発掘調査

調査面積 7,600㎡(平成12年度：3,600㎡ 平成13年度：4,000㎡)

調査主体者 秋田県教育委員会

調査担当者

[平成12年度] 三嶋 隆儀(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

牧野 賢美(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

吉田 英亮(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

加藤 竜(秋田県埋蔵文化財センター文化財主事)

[平成13年度] 児玉 準(秋田県埋蔵文化財センター副主幹(兼)調査班長)

山本 起嗣(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

吉田 英亮(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

整理担当者

[平成12年度] 三嶋 隆儀(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

牧野 賢美(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

吉田 英亮(秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)

加藤 竜(秋田県埋蔵文化財センター文化財主事)

第1章 はじめに

- [平成13年度] 児玉 準 (秋田県埋蔵文化財センター副主幹 (兼) 調査班長)
山本 起嗣 (秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)
吉田 英亮 (秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)
- [平成14年度] 児玉 準 (秋田県埋蔵文化財センター副主幹 (兼) 調査班長)
山本 起嗣 (秋田県埋蔵文化財センター学芸主事)
宇田川浩一 (秋田県埋蔵文化財センター文化財主事)
- [平成15年度] 柴田陽一郎 (秋田県埋蔵文化財センター副主幹 (兼) 調査班長)
宇田川浩一 (秋田県埋蔵文化財センター文化財主事)
佐々木彩子 (秋田県埋蔵文化財センター調査・研究員)

総務担当者

- [平成12年度] 佐藤 悟 (秋田県埋蔵文化財センター総務課長)
嶋田 敏輝 (秋田県埋蔵文化財センター主査)
佐々木敬隆 (秋田県埋蔵文化財センター主事)
八文字 隆 (秋田県埋蔵文化財センター主事)
- [平成13年度] 佐藤 悟 (秋田県埋蔵文化財センター総務課長)
嶋田 敏輝 (秋田県埋蔵文化財センター主査)
佐々木敬隆 (秋田県埋蔵文化財センター主事)
成田 誠 (秋田県埋蔵文化財センター主事)
- [平成14年度] 佐藤 悟 (秋田県埋蔵文化財センター総務課長)
嶋田 敏輝 (秋田県埋蔵文化財センター主査)
高橋 修 (秋田県埋蔵文化財センター主任)
成田 誠 (秋田県埋蔵文化財センター主事)
- [平成15年度] 金 義晃 (秋田県埋蔵文化財センター総務課長)
池端 徹 (秋田県埋蔵文化財センター副主幹)
高橋 修 (秋田県埋蔵文化財センター主任)
田口 旭 (秋田県埋蔵文化財センター主事) 職名は全て整理年当時のもの

調査協力機関 国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所 森吉町 森吉町教育委員会

第2章 捨て場と遺物

第1節 『遺構篇』との変更点及び捨て場全体の概要

1 『本書』の要点及び『遺構篇』との変更点

本遺跡は環状配石遺構群の再調査を予定しており、見解を変更する可能性はあるが、現在の所見を示す。なお、『遺構篇』に掲載した遺構分布図、遺構平面図、層位図は本書では再掲載せず、『遺構篇』の該当ページと挿図番号を記す。『本書』の要点は4点にまとまる。

『遺構篇』で捨て場と記載したS T 183・184及び、調査区東側土坑墓群の間を埋めて分布する遺物包含層は、それぞれに出土遺物重量の集中区を明確に持ちつつ4箇所の大きなクラスターにまとまる事が判明した。これらの4大クラスターを、本章では捨て場と呼ぶ(372ページ「まとめ」を見よ)。

4基ある捨て場は、大洞B₂式期に本格的な形成が始まり、大洞BC～C₁式期にピークを迎え、大洞C₂式期まで続く。

捨て場は、複数ある墓群間を充填して形成されている。

1号・2号捨て場では、大洞BC式と大洞C₁式が明確な標高差・分布域差を持って出土した。

捨て場は、報告書『遺構篇』では北東部捨て場(S T 183)と南西部捨て場(S T 184)と記載されていた。遺物分布の検討をふまえて本書ではそれぞれを以下のように変更した。

『遺構篇』北東部捨て場(S T 183) 『本書』1号捨て場

『遺構篇』南西部捨て場(S T 184) 『本書』2号捨て場

『遺構篇』記載なし 『本書』3号捨て場

『遺構篇』記載なし 『本書』4号捨て場

『遺構篇』から『本書』に至る変更点とその根拠を理解するために、土器分布の概要を述べる。遺物分布を論じる上で、サイト・フォーメーション・プロセス^(註1)の視点から、以下2点の前提を置く。

遺物埋没・移動に関わる営力は、重力を基本とする。

ひとまとまりの遺物が埋没し時間が経過する過程で個々の遺物破片は基本的には同心円状に拡散していくはずである。実際には遺物の拡散方向は一様ではなく、地形や水流によって偏りが現れる。遺構内の遺物分布に対する等偏差値線は、地点ごとのピークから西へ向かって扇形に拡散する傾向を持つ(第2図)。この拡散傾向は地形の傾斜方向とほぼ一致するので、土器に対する埋没後の営力は重力を基本としていることがわかる。

流水の影響は、無視する。

等高線を観察すると小さな埋没谷があるので、流水はこのラインに沿って流れたはずである。遺物もこの埋没谷を埋めて安置されるので、降雨時における流水の影響を若干受けた可能性はあるが、完形土器がほぼ原位置を保ってつぶれていることから遺物分布全体に対する影響は小さいと考えてよい。したがって、流水による遺物移動は無視する。

なお、本遺跡の東側にあつて道を挟んで隣接する向様田B遺跡でも、縄文時代晩期の遺物が出土しており、晩期包含層の真の分布は、本遺跡内で完結しない。出土遺物に対する数値の取り方が異なっ

ているので正しい比較は出来ないが、本遺跡との隣接地点では、縄文時代後期中葉の十腰内2～3式が目立って出土しているように見える。したがって、捨て場の中心部は向様田A遺跡内にあり、捨て場周縁部に形成される小クラスターが向様田B遺跡に展開したものと考えている。

2 捨て場全体の概要

遺跡全体における捨て場の位置は、『遺構篇』19・20ページ第7図に、層位図は18ページ第6図に掲載されている。

遺物出土量について、土器は調査区全体7,600㎡、533グリッドで約4,456kg（出土地点不明分含む）出土している。そのうち完形土器867点と捨て場を中心とした190グリッドから出土した重量約3,700kg 83.0%、口縁部・底部破片数13,907点が、捨て場に関わってピックアップしたものである。以下、破片数を記述する場合は、いずれも口縁部・底部破片数であり、約3,700kgから大量の胴部破片を除外した数であることに注意されたい。石器は、出土総数83,529点全量をつかかった。

上記遺物の内、477点はトータル・ステーションでの遺物取り上げを行った。そのうち389点が土器で、大洞B₂式15点、大洞BC式148点、大洞C₁式223点、大洞C₂式3点という内訳である。他は土偶・土製品・石器・石製品88点である。これら遺物の出土座標を第1～3表に示した。

土器の出土標高について注目すべき点が1点ある。大洞BC式の出土標高平均は135.9883m、大洞C₁式の出土標高平均は136.0273mであり、大洞C₁式の方が出土標高が39mm高い。この値に意味があるのかを検定したのが、第4表である。

まず、大洞BC式と大洞C₁式の出土標高の不偏分散に対してF検定を行った。有意差はなく、母分散が同じであることを確認した。その上で、t検定を行うと、t(1%)の水準で高度の有意差が出た。すなわち、これら2型式の出土標高は異なり、大洞BC式が下に、大洞C₁式が上にあるとってよい。土器の出土標高は、型式にしたがって上下関係を持つ。

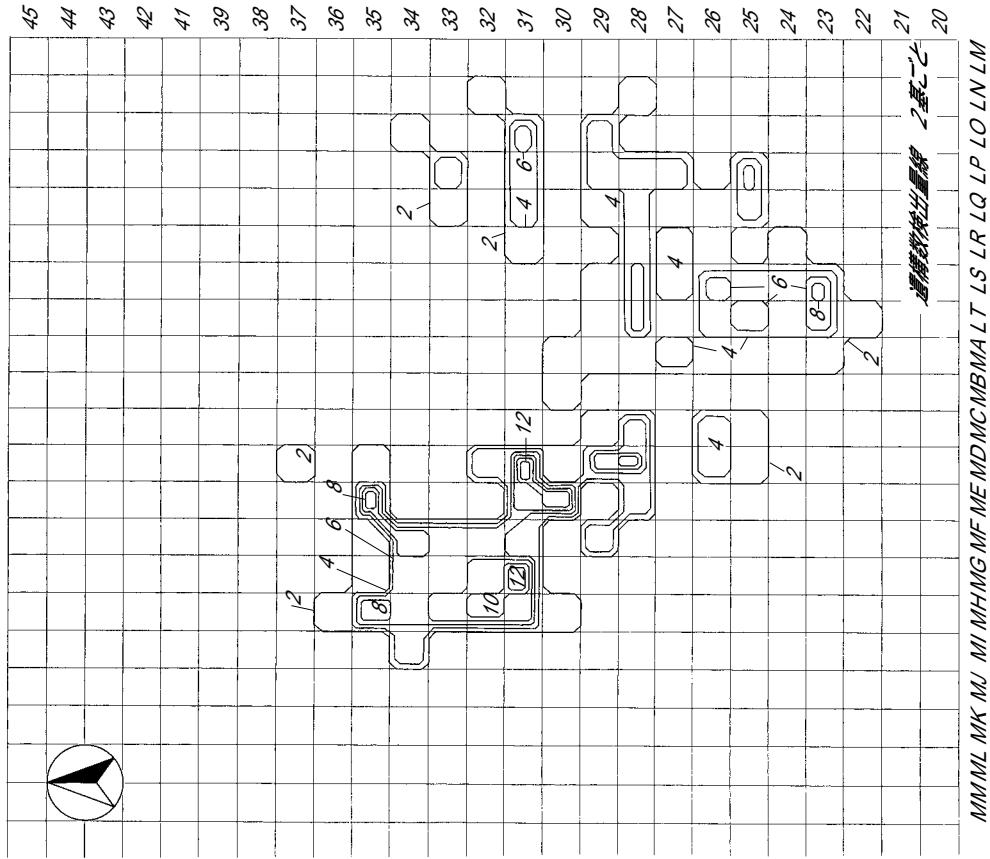
大洞B₂式、大洞C₂式についてもそれぞれ検定したが、有意差は出なかった。サンプル数が少ないことが原因と考えられる。

本来ならば、遺物の垂直分布に対するヴィーナス・ラインを描き、ピーク標高の上下をもって検定すべきだろうが、本書では果たし得なかった。今後の課題として、追加検討していきたいと思う。

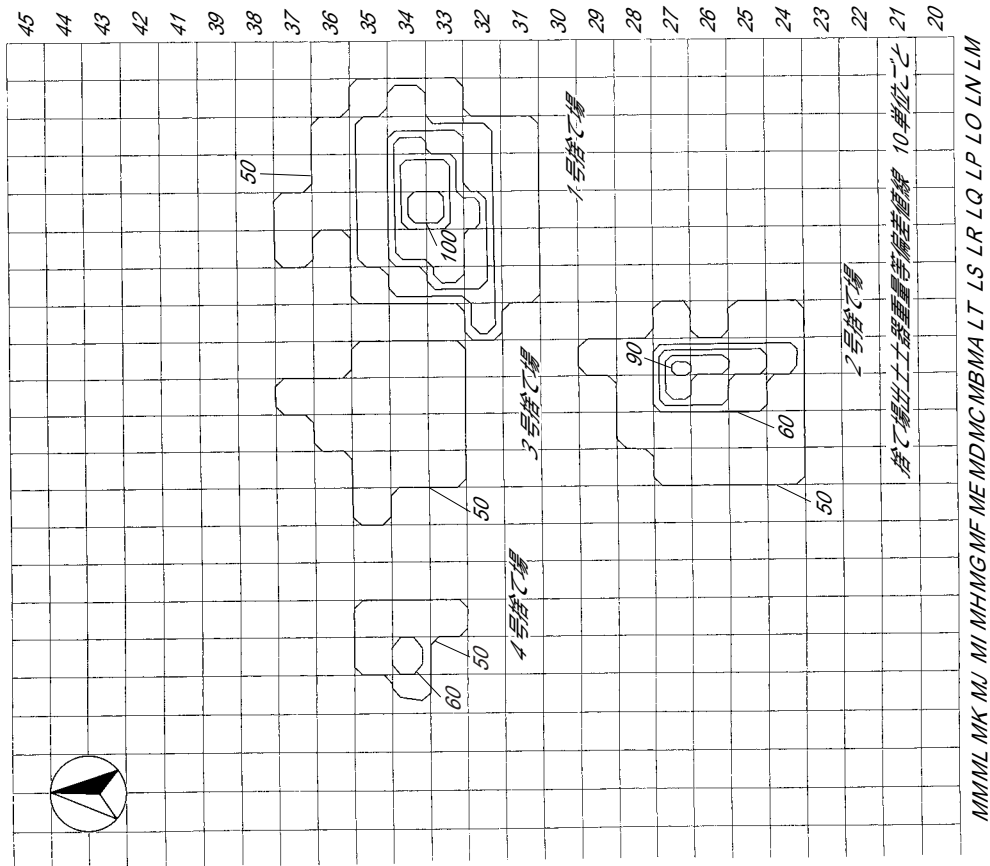
第1図bは、『遺構篇』第7図をもとに作成した遺構分布数等量線である。第1図aと第2図は、土器出土数量偏差値図である。『遺構篇』185・186ページ第67図に提示された出土土器重量比の基礎データは、本書第10～16表である。

この第10～16表を元に4m四方の大グリッドごと（第1図a）と、より詳細に2m四方の小グリッドごと（第2図）に土器重量の標準偏差を計算した。次に、標準偏差から各小グリッド出土土器重量の標準化を行い、所謂「土器出土量偏差値」（偏差値 = 標準化データ × 20 + 50）を算出、四捨五入した上で10単位とし、50以上を示してある（以下「土器出土量」を略す。特に記さない場合は「出土量」に対する偏差値の意味で用いる。後述の「地点別特化度偏差値」とは異なる）。そして同一偏差値のグリッドを、等高線を引く要領でつないだ。これを土器の「等偏差値線」と仮称する。

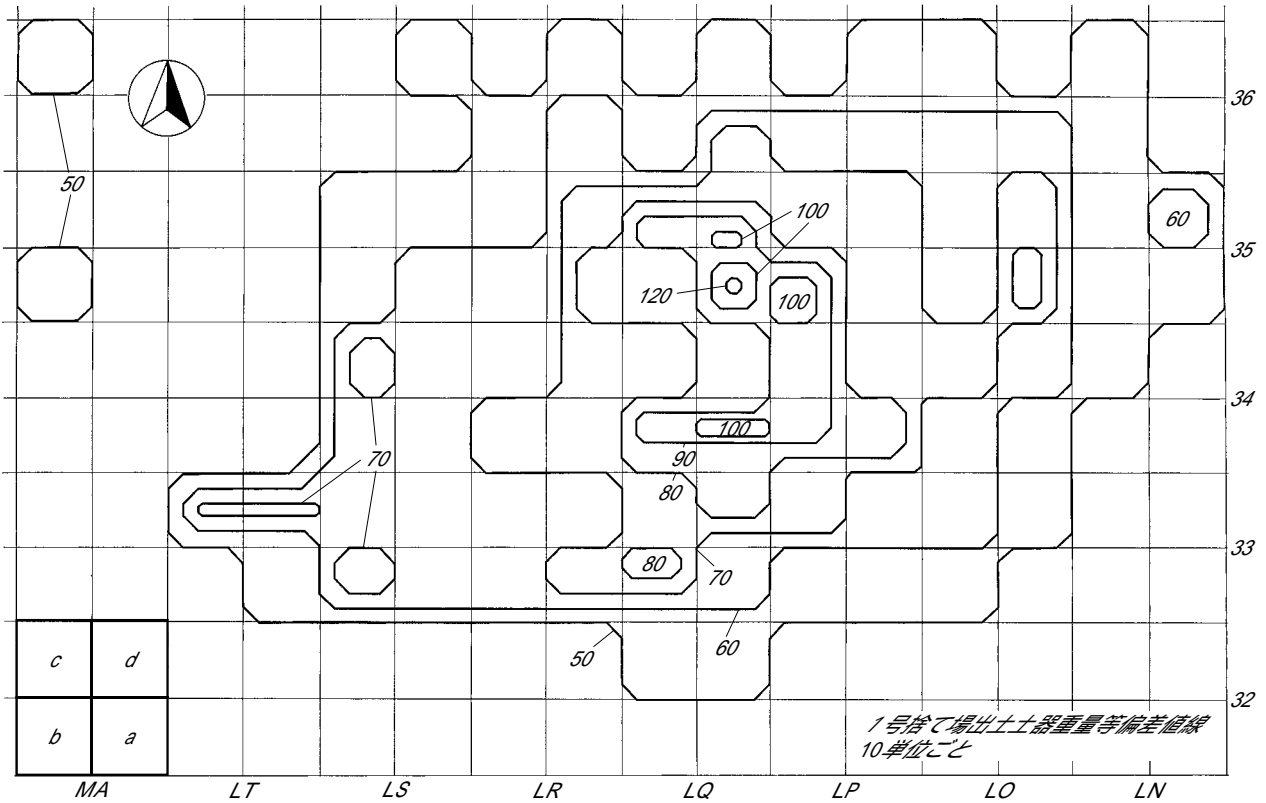
この等偏差値線の最高点は、MA28とLQ35の2グリッドにある。また、最高点よりも相対的に低くなるが、小さなピークが複数グリッドに存在する。これら大小のピークが、捨て場形成時の中心で



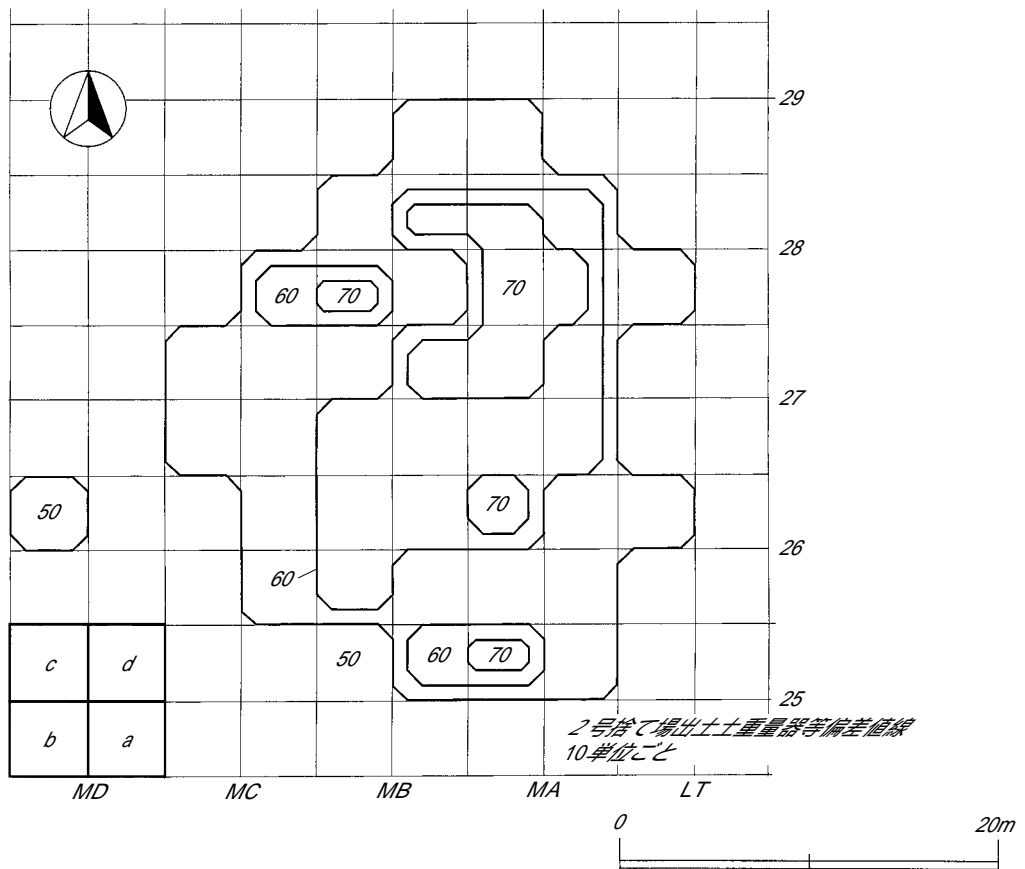
第1図b 遺構数検出量線図



第1図a 捨て場出土器重量等偏差値線 (4mグリッド)



第2図a 1号捨て場出土土器重量等偏差値線（2mグリッド）



第2図b 2号捨て場出土土器重量等偏差値線（2mグリッド）

第1表 捨て場遺物出土座標

Table with columns: 調査区, 階位, 距離, No., 図位, No., 遺物番号, 現場番号, 形式, 細分類, 材質, 用途, 座標. Contains detailed inventory data for various items found at the site.

Table with columns: 調査区, 階位, 距離, No., 図位, No., 遺物番号, 現場番号, 形式, 細分類, 材質, 用途, 座標. Continuation of the inventory data from the first table, listing items found at the site.

第2章 捨て場と遺物

第2表 捨て場遺物出土座標

Table with columns: 調査区 (Survey Area), 席位 (Seat), 種類 (Type), No., 図版 (Figure), No., 遺物番号 (Artifact No.), 図版番号 (Figure No.), 型式 (Form), 種分類 (Classification), Y座標 (Y-coordinate), X座標 (X-coordinate), Z座標 (Z-coordinate). Contains a list of archaeological findings with their respective coordinates and classifications.

Table with columns: 調査区 (Survey Area), 席位 (Seat), 種類 (Type), No., 図版 (Figure), No., 遺物番号 (Artifact No.), 図版番号 (Figure No.), 型式 (Form), 種分類 (Classification), Y座標 (Y-coordinate), X座標 (X-coordinate), Z座標 (Z-coordinate). Contains a list of archaeological findings with their respective coordinates and classifications.

ある。

偏差値50以上の分布域は、4カ所の大クラスターを形成する(第1図a)。これらの内でも比較的小規模な2カ所を、それぞれ3号・4号捨て場と呼ぶ。大規模なクラスターはそれぞれ1号と2号の捨て場である。3号・4号捨て場では、出土量偏差値ピークが相対的に不明瞭であるが、完形土器が複数まとまって出土するグリッドが点在することから、1・2号捨て場に比べて反復利用の回数が少なく形成初期の状態をとどめたものと判断した。

次に、出土破片数を元に偏差値を計算し、さらに時期ごとの等偏差値線に分解する。ここで用いたデータは、遺物出土重量のピークとその周辺、逆に捨て場から離れて独立する遺物集中地点の土器片のうち、口縁部と底部をカウントした13,909点分である。

重量比・遺物破片数比どちらをとって計算してもMA28グリッドは、捨て場の存続期間を通して中心となる。また、時期が下るごとに分布域が拡大していることもわかる。特に大洞C₁式期には大量の遺物が安置される。

第1図bに示した遺構数等量線分布域と第1図aの遺物偏差値分布域が、明確にずれることに注目してほしい。配石墓・土坑墓によって構成される墓域と捨て場は、相互の形成位置に明確な補完関係がある。以下、全体を時期ごとに記載する。

大洞B₂式期の土器分布は、2号捨て場MA28グリッドにピークがあり、南西へ向かって拡散している。他の捨て場でも、遺物量は相対的に少ないながら形成が始まっている。また、1グリッドにおさまる小さなピークが形成される。当該期捨て場を形成するグリッド数は15であり、偏差値50以上はMA28グリッド1カ所のみで6.7%である。

大洞BC式期の土器分布は、1・2号捨て場の形成が明瞭となる。3・4号捨て場は明確なピークを持たない。

1号捨て場のピークは、LQ35グリッドにある。2号捨て場は、MA28グリッドにピークが形成される。遺物は、39グリッドから出土している。偏差値50以上のグリッドは2グリッドで5.3%である。

大洞C₁式期の土器分布域は、拡大している。3・4号捨て場との境界が不明瞭となる。

また、全体の遺物分布域は北へ向かって拡散している。偏差値50以上のグリッドが前代の大洞BC式期に比べて13グリッド15%と一気に増加している。

2号捨て場のピークは前代を踏襲してMA28グリッドにあるが、1号捨て場ではLP34グリッドに最大値が移動する。前代までのピークであるLQ35グリッドにも引き続き土器は集中しており、偏差値74で第2位となる。

大洞C₂式期になると急激に遺物量が減少し、捨て場の形成も終了する。偏差値50を超える地点はなく、2号捨て場の中心であったMA28グリッドと、3号捨て場のMB38グリッドにわずかに土器が置かれる。大洞C₁式期に急速に拡大した1号捨て場は、大洞C₂式期には消滅している。

以下、各捨て場ごとに詳述する。

第10表 グリッド別出土土器重量(4mグリッド)

Table with 4 columns: グリッド, 重量(g), 標準化データ, 偏差値. Contains data for grids MA 2.1 to MC 2.1.

Table with 4 columns: グリッド, 重量(g), 標準化データ, 偏差値. Contains data for grids ME 2.1 to MH 3.0.

Table with 4 columns: グリッド, 重量(g), 標準化データ, 偏差値. Contains data for grids MN 2.1 to LN 3.9.

Table with 4 columns: グリッド, 重量(g), 標準化データ, 偏差値. Contains data for grids LO 2.1 to LP 3.7.

Table with 4 columns: グリッド, 重量(g), 標準化データ, 偏差値. Contains data for grids LQ 3.0 to LS 3.8.

Table with 4 columns: グリッド, 重量(g), 標準化データ, 偏差値. Contains data for grids LT 3.0 to ND 2.8.

第2章 捨て場と遺物

第11表 グリッド別出土土器重量(4mグリッド) 第13表 グリッド別出土土器重量(2mグリッド)

グリッド	重量(g)	標準化データ	偏差値
NE2.4	11.2	-0.36242308	43
NE2.5	71.4	-0.36039113	43
NE2.6	177.9	-0.3567964	43
NE2.7	945.8	-0.35087722	43
NE2.8	443.3	-0.34783247	43
NE2.9	18.3	-0.36218344	43
NE3.3	18.7	-0.36216993	43
NF2.3	9.8	-0.36246696	43
NF2.5	1479.4	-0.31286643	44
NF2.6	382.9	-0.34987697	43
NF2.7	94.4	-0.3561181	43
NF2.8	15.3	-0.3622841	43
NG2.3	119.5	-0.3587676	43
NG2.4	347.8	-0.35196171	43
NG2.5	2081.8	-0.29253342	44
NG2.6	364.5	-0.35049803	43
NG2.7	847.3	-0.33420192	43
NG2.8	431.8	-0.34822643	43
NG2.9	1534	-0.3110235	44
NH2.4	42.3	-0.36137336	43
NH2.5	75.7	-0.36024599	43
NH2.6	1280.8	-0.32024491	41
NH2.7	373.5	-0.35019425	43
NH2.8	184.6	-0.35657026	43
NH2.9	69.1	-0.36046677	43
NI2.5	109.8	-0.35909501	43
NI2.6	395.4	-0.34945503	43
NI2.7	790.1	-0.33613261	45
NI2.8	318.8	-0.35201056	45
NI2.9	411.9	-0.34889812	43
NJ2.4	90.8	-0.35973632	43
NJ2.5	95.7	-0.35957093	43
NJ2.6	780.7	-0.33746249	45
NJ2.7	626.9	-0.34164115	43
NJ2.8	613.1	-0.34109455	43
NJ2.9	813.1	-0.33535828	43
NK2.5	607.4	-0.34229934	43
NK2.6	282.6	-0.35326243	43
NK2.7	1606.9	-0.32681489	43
NK2.8	4545.2	-0.20938545	46
NK2.9	2095.7	-0.29503455	44
NK3.0	95	-0.35959455	43
NI.2.4	241.2	-0.35463982	43
NI.2.5	772.3	-0.33672667	45

第12表 グリッド別出土土器重量(4mグリッド)

グリッド	重量(g)	標準化データ	偏差値
NI.2.6	580.6	-0.3425661	43
NI.2.7	1215.9	-0.32176044	44
NI.2.8	4513.2	-0.21046536	46
NI.2.9	9154.7	-0.03379914	49
NM2.4	336.9	-0.35142962	43
NM2.5	1061.2	-0.32698208	43
NM2.6	1274.5	-0.31973249	44
NM2.7	2659	-0.23929766	45
NN2.4	87.1	-0.35985108	43
NN2.5	181.9	-0.35666139	43
NN2.6	98.2	-0.35948654	43
NO2.5	982.7	-0.32963172	43
NO2.8	21.7	-0.36206867	43
NP2.5	3100	-0.1906591	46
合計	4439171.4		
平均	10748.58903		
標準偏差	29626.71617		

註) 本表の重量合計からは、出土地点不明土器を除外してある。従って本文中の土器出土総重量4,459,391.4gとは一致しない。

グリッド	サブグリッド	土器種別	重量(g)	合計	偏差値	グリッド偏差値
MA2.1			474.0	474.0	39	39
MA2.2			68.6	68.6	38	38
MA2.3			178.0	178.0	39	39
MA2.4			1,003.9	1,003.9	40	40
MA2.5	A		6,541.6	47,694.3	49	114
	B		3,286.8		43	
	C		25,637.1		79	
	D		12,228.8		58	
MA2.6		ST18.4	1,916.6	70,516.0	41	150
	A	ST18.4	10,601.4		54	
	B	ST18.4	7,981.8		51	
	C	ST18.4	39,514.8		101	
MA2.7		ST18.4	10,901.4	134,419.7	56	
	A	ST18.4	253.4		39	251
	B	ST18.4	21,629.9		72	
	C	ST18.4	26,099.0		80	
MA2.8		ST18.4	60,922.3	258,521.0	135	
	D	ST18.4	26,145.1		80	
	A	ST18.4	4,280.3		45	448
	B	ST18.4	62,686.6		138	
MA2.9		ST18.4	86,504.8	28,230.0	175	
	C	ST18.4	87,176.7		176	
	D	ST18.4	12,872.6		67	
	A	ST18.4	12,434.0		58	83
MA2.9	A	ST18.1	2,837.5	11,383.6	43	
	B	ST18.4	11,556.0		57	
	C	ST18.4	1,002.5		40	
	D	ST18.4	10,586.5		55	56
MA3.0	A		8.5	11,383.6	38	
	C		523.0		39	
	D		271.6		39	
			3,235.3		43	45
MA3.1	A		23.0	3,964.8	38	
	B		105.5		38	
	C		581.0		39	
MA3.2			2,079.3	2,691.3	42	43
	B		285.0		39	
	C		327.0		39	
MA3.3		ST18.3	5,683.5	8,910.1	47	52
	A	ST18.3	1,562.9		41	
	C	ST18.3	29.8		38	
	D	ST18.3	1,533.9		41	
MA3.4		ST18.3	15,606.2	27,537.2	63	82
	A	ST18.3	3,971.1		45	
	B	ST18.3	2,374.4		42	
	D	ST18.3	5,582.2		47	
MA3.5		ST18.3	11,797.0	25,806.2	57	79
	A	ST18.3	2,333.7		42	
	B	ST18.3	7,848.8		51	
	C	ST18.3	3,698.0		44	
MA3.6		ST18.3	130.7	23,767.4	38	
	A	ST18.3	8,790.7		52	76
	B	ST18.3	2,091.5		42	
	C	ST18.3	5,247.1		47	
MA3.7		ST18.3	7,119.7	5,963.0	50	
	B	ST18.3	518.4		39	
	C	ST18.3	1,682.5		41	48
	A	ST18.3	1,404.0		40	
MA3.8		ST18.3	994.5	4,927.0	40	
	C	ST18.3	1,582.0		41	
		ST18.3	3,674.9		44	46
	B	ST18.3	115.3		38	
MA3.9		ST18.3	1,136.8	3,329.6	40	
			479.5		39	44
	B		1,779.6		41	
	C		887.9		40	
MA4.0			182.6	114.8	39	
			111.8		38	38
			974.2		40	40
			171.6		39	39
MB2.1			697.4	697.4	39	39
MB2.2			171.6	171.6	39	39
MB2.3			697.4	697.4	39	39
MB2.4			2,602.5	2,602.5	42	42
MB2.5		ST18.4	285.0	21,906.7	39	73
	A	ST18.4	580.0		39	
	B	ST18.4	516.6		39	
	C	ST18.4	5,397.7		47	
MB2.6		ST18.4	15,117.4	59,303.5	62	
		ST18.4	1,738.6		46	132
	A	ST18.4	10,561.9		55	
	B	ST18.4	14,508.1		61	
MB2.7		ST18.4	15,450.6	121,650.9	63	
	C	ST18.4	14,024.3		60	
	D	ST18.4	18,915.6		68	231
	A	ST18.4	21,368.1		72	
MB2.7		ST18.4	9,833.4	71,533.4	54	
		ST18.4	71,533.4		152	
		ST18.4	1,533.4		68	
		ST18.4	1,533.4		68	

第14表 グリッド別出土土器重量(2mグリッド)

グリッド	サブグリッド	土器検出位置	重量(g)	合計	偏差値	グリッド偏差率
MB28	A	ST184	10,432.1	133,106.6	55	249
	B	ST184	20,359.6			
	C	ST184	11,197.8			
	D	ST184	89,866.0			
MB29	A	ST184	18,370.8	34,256.3	67	93
	B	ST184	10,183.5			
	C	ST184	5,341.0			
	D	ST184	312.2			
MB30			3,544.8	44	44	
MB31			4,460.8	45	45	
MB32			1,875.2	41	41	
MB33			712.4	39	39	
MB34			7,291.2	50	63	
	A		1,413.0	41		
MB35	D		6,679.5	49		
	A		21,678.1	73	88	
MB36	A		4,483.0	45		
	C		3,989.0	45		
MB37	D		1,259.6	40		
	A		30,728.9	87	87	
MB38	A		75.6	38		
	D		115.6	38		
MB39	A		19,859.0	70	70	
	A		129.5	38		
MB40	C		200.0	39		
	D		15.3	38		
MB41			17,275.1	66	69	
	A		172.0	39		
	B		52.1	38		
	C		558.2	39		
MB42	D		1,393.1	40		
	A		2,382.3	42	47	
	B		1,189.1	40		
	C		269.4	39		
MB43	D		717.8	39		
	A		717.2	39		
	B		1,410.0	40	43	
	C		658.0	39		
MB44	D		22.1	38		
	A		846.8	40		
	B		726.0	39	40	
	C		300.4	39		
MB45	D		186.6	39		
	B		36.4	38	38	
MB46	C		16.0	38		
MB47	B		46.2	38	38	
MC21			83.4	38	38	
MC22			6,785.7	49	49	
MC23			2,471.9	42	42	
MC24			5,674.4	47	47	
MC25		ST184	208.7	39	54	
	A	ST184	65.0	38		
	C	ST184	767.2	39		
	D	ST184	9,130.0	53		
MC26		ST184	326.8	39	77	
	A	ST184	7,733.2	51		
	B	ST184	3,272.8	43		
	C	ST184	3,717.6	44		
MC27	D	ST184	9,212.4	53		
		ST184	907.2	40	100	
	A	ST184	9,016.4	53		
	B	ST184	9,812.0	54		
MC28	C	ST184	9,399.5	53		
	D	ST184	9,526.6	53		
	A	ST184	3,270.6	47	87	
	B	ST184	13,857.6	60		
MC29	C	ST184	5,756.0	47		
	D	ST184	4,220.7	45		
	A	ST184	1,732.7	41		
	B	ST184	6,558.0	49	59	
MC30	A	ST184	3,795.8	44		
	B	ST184	1,900.2	41		
	C	ST184	121.2	39		
	D	ST184	537.3	39		
MC31			3,304.8	44	44	
MC32			499.3	39	39	
MC33			1,191.6	40	40	
MC34			4,149.0	45	45	
MC35			21,690.3	77	77	
MC36			17,145.9	65	65	
MC37			12,629.6	58	58	
MC38			18,381.3	68	68	
MC39			2,698.1	43	43	
			6,092.2	48	48	

グリッド	サブグリッド	土器検出位置	重量(g)	合計	偏差値	グリッド偏差率
MC40			1.9	375.4	38	39
	B		373.5			
MC41	B		107.0	139.0	38	38
	C		32.0			
MD22			7,683.5	7,683.5	50	50
MD23			1,452.9	1,452.9	45	45
MD24			3,669.5	3,669.5	44	44
	A	ST184	9,651.4	12,673.9	54	58
B	ST184	1,241.0				
C	ST184	1,781.5				
MD26		ST184	10,292.4	31,027.1	55	87
	A	ST184	5,150.0			
	B	ST184	2,440.0			
	C	ST184	8,152.0			
MD27	D	ST184	1,962.7	21,591.0	46	72
	A	ST184	6,174.2			
	B	ST184	4,552.9			
	C	ST184	2,848.0			
MD28	D	ST184	5,511.3	9,320.7	47	53
	A	ST184	2,504.6			
	B	ST184	709.2			
	C	ST184	4,028.0			
MD29	C	ST184	3,169.0	3,311.1	45	44
	D	ST184	2,114.5			
MD30			2,398.6	42		
MD31			1,002.5	40		
MD32			304.4	39	39	
MD33			3,032.6	3,032.6	43	43
MD34			615.7	615.7	39	39
MD35			889.1	889.1	40	40
MD36			13,730.2	13,730.2	60	60
MD37			12,302.9	12,302.9	58	58
MD38			17,970.0	17,970.0	67	67
MD39			2,709.0	2,709.0	43	43
MD40			3,932.6	3,932.6	44	44
ME22			1,449.0	1,449.0	41	41
ME23			612.0	612.0	39	39
ME24			713.0	713.0	39	39
ME25	A		813.6	813.6	40	40
ME26	D		4.2	4.2	38	38
ME27			59.0	59.0	38	38
ME28			3,239.0	3,239.0	43	45
ME29	A		1,056.5	1,293.5	40	
ME30			220.0	220.0	39	39
ME31			937.1	937.1	40	40
ME32			7,535.2	7,535.2	50	50
ME33			2,287.6	2,287.6	42	42
ME34			1,551.8	1,551.8	41	41
ME35			1,563.1	1,563.1	45	45
ME36			440.2	440.2	39	39
ME37			16,928.4	16,928.4	65	65
ME38			3,459.2	3,459.2	44	44
ME39			5,527.8	5,527.8	47	47
MF22			128.3	128.3	38	38
MF23			26.1	26.1	38	38
MF24			76.4	76.4	38	38
MF25			185.8	185.8	39	39
MF26			56.8	56.8	38	38
MF27			323.6	323.6	39	39
MF28			758.2	758.2	39	39
MF29			1,252.7	1,252.7	40	40
MF30			4,237.8	4,237.8	45	45
MF31			2,976.4	2,976.4	43	43
MF32			1,171.0	1,171.0	40	40
MF33			1,150.0	1,150.0	40	40
MF34			2,372.6	2,372.6	42	42
MF35			4,335.0	4,335.0	45	45
MG24			141.0	141.0	38	38
MG25			51.5	51.5	38	38
MG26			822.3	822.3	40	40
MG27			343.5	343.5	39	39
MG28			765.7	765.7	39	39
MG29			248.0	248.0	39	39
MG30			5,703.1	5,703.1	47	47
MG31			1,412.2	1,412.2	41	41
MG32			4,123.1	4,123.1	45	45
MG33			2,359.9	2,359.9	42	42
MH23			34.5	34.5	38	38
MH24			83.2	83.2	38	38
MH25			862.1	862.1	40	40
MH26	C		81.5	103.5	38	38
	D		19.0			
MH27			320.9	320.9	39	39
MH28			4,081.4	4,081.4	45	45
MH29			1,352.2	1,352.2	40	40

第2章 捨て場と遺物

第15表 グリッド別出土土器重量(2mグリッド)

グリッド	ホグリッド	土器検出位置	重量(g)	合計	偏差値	グリッド幅方向
M123			97.4	97.4	38	38
M124			1,356.8	1,356.8	40	40
M125			591.1	591.1	39	39
M126			101.4	101.4	38	38
M123			61.0	61.0	38	38
M126			126.0	126.0	38	38
MK23			370.0	370.0	39	39
MK25			160.0	160.0	39	39
LT21			406.2	406.2	39	39
LT22			457.6	457.6	39	39
LT24			3,511.0	3,511.0	44	44
LT25		ST184	9,237.9	22,669.6	53	74
	A	ST184	1,476.8		41	
	B	ST184	6,825.0		49	
	C	ST184	3,876.1		44	
LT26		ST184	1,253.8	18,604.2	40	68
	A	ST184	1,177.1		40	
	B	ST184	1,199.9		40	
	C	ST184	6,152.6		48	
LT27		ST184	9,529.3	5,704.8	53	
	A	ST184	546.2		39	
	B	ST184	674.9		39	47
	C	ST184	1,392.0		40	
LT28		ST181	3,637.9	15,423.7	44	
	A	ST184	1,657.2		41	63
	B	ST184	8,058.7		51	
LT29		ST184	5,730.8	5,599.0	47	
	A	ST184	3,583.0		44	45
	B	ST184	60.0		38	
LT30		ST184	610.0	4,283.0	39	
	A	ST183	6,358.3		48	176
	B	ST183	13,766.3		60	
	C	ST183	5,012.1		46	
LT33		ST183	31,833.5	87,184.4	93	
	A	ST183	27,213.2		81	
	B	ST183	1,470.0		41	54
	C	ST183	4,292.9		45	
LT36		ST183	3,753.3	9,780.8	44	
	A	ST183	264.6		39	
	B	ST183	855.9		40	42
	C	ST183	881.7		40	
LT37		ST183	720.0	2,457.6	39	
	A	ST183	7,330.1		50	50
	B	ST183	21.9		38	
LT38		ST183	24.5	7,351.1	38	42
	A	ST183	1,664.8		41	
	B	ST183	678.4		39	
LT40			194.0	194.0	39	39
LT41			2,340.0	2,340.0	42	42
LT43			119.0	119.0	38	38
LS21			770.0	770.0	39	39
LS22			871.0	871.0	40	40
LS23			242.0	242.0	39	39
LS24			971.0	971.0	40	40
LS25			1,529.0	1,529.0	41	41
LS26			1,476.0	1,476.0	41	41
LS27			2,585.0	2,585.0	42	42
LS28			382.7	382.7	39	39
LS29			4,986.0	4,986.0	46	46
LS30			5,121.0	3,716.9	46	47
	C		392.9		39	
LS31			3,688.3	3,688.3	43	43
LS32		ST183	140.0	13,186.6	38	59
	A	ST183	648.0		39	
	B	ST183	673.1		39	
	C	ST183	5,513.0		47	
LS33		ST183	6,212.2	88,853.1	48	
	A	ST183	6,572.9		49	179
	B	ST183	17,633.7		66	
	C	ST183	26,786.3		81	
LS34		ST183	17,460.8	102,929.2	66	
	A	ST183	20,398.9		71	
	B	ST183	23,611.8		76	201
	C	ST183	26,433.5		80	
LS35		ST183	32,133.5	58,270.2	89	
	A	ST183	20,747.1		71	
	B	ST183	2,566.3		42	131
	C	ST183	20,194.5		71	
LS36		ST183	13,042.1	32,716.3	59	
	A	ST183	11,812.6		57	
	B	ST183	10,024.1		54	
	C	ST183	8,901.6		52	90
LS36		ST183	6,774.6	32,716.3	49	
	B	ST183	3,467.9		44	

グリッド	ホグリッド	土器検出位置	重量(g)	合計	偏差値	グリッド幅方向
LS36		ST183	6,415.0	32,716.3	48	
	D	ST183	7,097.2		50	
LS37		ST183	8,759.7	7,403,698.4	52	11776
	A	ST183	58.7		38	
	B	ST183	845.2		40	
LS38			5,807.9	5,807.9	47	47
LS39			1,111.0	1,980.6	40	46
	A		1,210.0		40	
	B		605.1		39	
	D		2,024.2		41	
LS40			21.7	21.7	38	38
LS44			81.6	81.6	38	38
LR22			250.0	250.0	39	39
LR23			48.9	48.9	38	38
LR24			21.3	21.3	38	38
LR25			571.5	571.5	39	39
LR26			131.0	131.0	38	38
LR27			1,004.0	1,004.0	40	40
LR28			311.0	311.0	39	39
LR29			1,657.0	1,657.0	41	41
LR30			7,381.1	7,400.9	50	50
	A		16.5		38	
			5,816.0		48	50
LR31			720.0	7,200.4	39	
	A		642.1		47	
	C		538.3		39	66
LR32		ST183	5,810.0	17,351.7	40	
	A	ST183	3,759.0		44	
	B	ST183	1,004.3		40	
	C	ST183	4,780.0		46	
LR33		ST183	2,001.4	96,093.3	41	
	A	ST183	15,558.6		63	191
	B	ST183	32,129.7		89	
	C	ST183	16,575.6		65	
LR34		ST183	15,203.8	113,315.1	62	
	A	ST183	16,825.6		65	
	B	ST183	2,540.0		42	218
	C	ST183	29,173.8		85	
LR35		ST183	31,117.9	114,401.3	88	
	A	ST183	15,299.9		63	
	B	ST183	35,183.8		94	
	C	ST183	5,676.4		47	220
LR36		ST183	41,428.1	49,450.3	104	
	A	ST183	21,761.2		73	
	B	ST183	7,893.1		51	
	C	ST183	37,772.3		98	
LR37		ST183	9,171.6	14,556.5	53	117
	A	ST183	16,596.5		65	
	B	ST183	11,947.9		57	
	C	ST183	2,270.0		42	
LR38		ST183	9,161.0	10,013.0	53	
	A	ST183	8,033.0		51	54
	B	ST183	68.2		38	
	C	ST183	1,820.0		41	
LR39		ST183	91.8	14,556.5	38	
	A	ST183	8,798.2		52	61
	B	ST183	2,204.8		42	
	C	ST183	3,553.5		44	
LR40			1,503.0	3,315.2	41	44
	A		1,402.2		40	
	B		110.0		39	
LR41			851.2	851.2	40	40
LR42			24.0	198.4	38	39
	A		123.8		38	
	B		50.6		38	
LR43			12.2	12.2	38	38
LQ23			2.8	2.8	38	38
LQ25			191.0	191.0	39	39
LQ26			126.8	479.2	39	39
	A		52.4		38	
LQ27			452.7	452.7	39	39
LQ28			356.8	356.8	39	39
LQ29			1,375.1	1,375.1	40	40
LQ30			4,718.5	4,718.5	46	46
LQ31			9,314.6	9,549.8	53	53
	A		205.2		39	
LQ32		ST183	3.2	26,778.1	38	81
	A	ST183	4,030.7		45	
	B	ST183	3,115.1		43	
	C	ST183	10,970.9		56	
LQ33		ST183	8,656.2	129,325.5	52	
	A	ST183	6,195.0		48	243
	B	ST183	18,984.0		68	
	C	ST183	34,769.3		93	
LQ33		ST183	29,636.2	129,325.5	85	
	D	ST183	39,845.0		101	

第16表 グリッド別出土土器重量(2mグリッド)

グリッド	サブグリッド	土器検出位置	重量(g)	合計	偏差値	グリッド偏差値
LQ34	A	ST183	60,802.5	192,914.0	134	343
	B	ST183	50,552.5		118	
	C	ST183	56,160.2		96	
	D	ST183	45,008.8		110	
LQ35	A	ST183	38,165.5	207,744.3	99	368
	B	ST183	11,397.3		109	
	C	ST183	82,927.8		121	
	D	ST183	72,553.7		153	
LQ36	A	ST183	330.7	60,949.8	39	155
	B	ST183	30,038.5		86	
	C	ST183	13,775.4		60	
	D	ST183	3,289.4		47	
LQ37	A	ST183	11,514.3	27,395.1	57	
	B	ST183	15,312.2		63	82
	C	ST183	5,481.1		47	
	D	ST183	6,398.8		49	
LQ38	A	ST183	15,170.4	15,265.8	62	62
	B	ST183	95.4		38	
LQ39	A		531.2	2,249.2	39	42
	B		1,718.0		41	
LQ40	A		486.6	762.8	39	39
	C		6.2		38	
LQ41	A		210.0	583.1	39	
	D		270.0		39	39
LQ42	A		244.0	422.0	39	
	D		339.4		39	39
LQ44	A		210.8	14.6	38	
	D		210.8		38	38
LP26	A		130.0	130.0	38	38
	D		6.2		38	
LP27	A		18.0	710.0	38	38
	D		710.0		39	39
LP29	A		1,742.0	1,742.0	41	41
	D		1,742.0		41	41
LP31	A		4,847.4	4,917.4	46	46
	B		130.0		38	
LP32	A	ST183	2,242.2	16,834.8	42	65
	B	ST183	1,582.5		41	
	C	ST183	3,147.1		43	
	D	ST183	6,831.2		49	
LP33	A	ST183	3,028.2	80,953.0	49	
	B	ST183	5,847.0		48	167
	C	ST183	8,721.6		52	
	D	ST183	9,096.5		53	
LP34	A	ST183	30,782.4	173,440.7	87	
	B	ST183	26,493.5		80	
	C	ST183	788.0		40	313
	D	ST183	42,477.7		106	
LP35	A	ST183	19,208.3	187,386.5	116	
	B	ST183	57,307.9		129	
	C	ST183	23,558.5		76	
	D	ST183	8,065.2		51	304
LP36	A	ST183	31,642.7	51,721.5	88	
	B	ST183	68,733.6		147	
	C	ST183	28,373.3		83	
	D	ST183	30,554.7		87	
LP37	A	ST183	294.1	24,889.3	39	125
	B	ST183	16,792.4		65	
	C	ST183	20,280.3		70	
	D	ST183	5,908.4		48	
LP38	A	ST183	11,448.3	10,302.5	56	
	B	ST183	11,933.2		57	78
	C	ST183	2,939.0		43	
	D	ST183	6,731.2		49	
LP39	A	ST183	2,897.7	3,421.8	42	
	B	ST183	592.2		39	
	C	ST183	8,061.4		48	55
	D	ST183	316.6		39	
LP40	A	ST183	1,324.6	6.0	40	
	B	ST183	1,522.9		41	
	C	ST183	1,977.0		40	
	D	ST183	394.6		39	44
LO25	A		2,473.6	6.0	42	
	C		533.6		39	
LO26	A		6.0	104.4	38	38
	B		104.4		38	38
LO27	A		27.4	27.4	38	38
	B		86.0		38	38
LO28	A		742.8	274.8	39	39
	D		32.0		38	
LO29	A		829.2	895.0	40	40
	B		65.8		38	
LO30	A		2,091.3	2,213.1	42	42
	C		90.3		38	
LO31	A		41.5	7,262.0	38	
	B		6,836.4		49	50

グリッド	サブグリッド	土器検出位置	重量(g)	合計	偏差値	グリッド偏差値
LO31	A		88.7	7,263.0	38	
	B		24.8		38	
	C		313.6		39	
LO32	A	ST183	41.0	10,910.7	38	56
	B	ST183	1,129.6		40	
	C	ST183	5,182.1		46	
	D	ST183	1,808.0		41	
LO33	A	ST183	2,710.0	54,256.1	43	124
	B	ST183	2,913.5		47	
	C	ST183	5,659.1		62	
	D	ST183	15,294.0		69	
LO34	A	ST183	19,158.3	77,101.3	56	
	B	ST183	11,240.7		44	161
	C	ST183	3,759.0		55	
	D	ST183	10,482.6		62	
LO35	A	ST183	14,821.3	107,033.3	62	
	B	ST183	31,885.4		89	
	C	ST183	16,143.0		64	
	D	ST183	3,816.0		44	208
LO36	A	ST183	37,216.3	60,682.4	97	
	B	ST183	26,350.1		80	
	C	ST183	11,371.7		56	
	D	ST183	28,049.2		83	
LO37	A	ST183	458.5	20,842.1	39	119
	B	ST183	21,245.0		72	
	C	ST183	18,880.0		68	
	D	ST183	7,559.9		51	
LO38	A	ST183	2,229.0	4,315.8	42	
	B	ST183	3,042.4		46	71
	C	ST183	2,344.8		42	
	D	ST183	3,610.0		44	
LO39	A	ST183	5,859.5	20,842.1	48	
	B	ST183	3,985.4		45	
	C	ST183	4,315.8		45	45
	D	ST183	1,109.5		40	40
LO40	A		176.0	176.0	39	39
	B		176.0		39	39
LO42	A		33.0	33.0	38	38
	B		33.0		38	38
LN28	A		107.9	107.9	38	38
	B		107.9		38	38
LN29	A		669.6	669.6	39	39
	B		669.6		39	39
LN30	A		592.2	592.2	39	39
	B		592.2		39	39
LN31	A		2,642.4	2,642.4	42	42
	B		2,642.4		42	42
LN32	A	ST183	1,860.8	4,508.3	41	45
	B	ST183	847.5		40	
	C	ST183	1,800.0		41	
LN33	A	ST183	2,380.3	7,239.6	42	50
	B	ST183	333.1		39	
	C	ST183	1,359.4		40	
	D	ST183	2,170.7		42	
LN34	A	ST183	1,016.1	23,217.3	40	
	B	ST183	3,181.5		43	75
	C	ST183	2,737.8		43	
	D	ST183	4,784.2		46	
LN35	A	ST183	9,119.1	57,610.2	53	
	B	ST183	3,447.7		44	
	C	ST183	9,278.8		53	130
	D	ST183	11,066.3		56	
LN36	A	ST183	12,512.0	24,510.1	58	
	B	ST183	10,099.7		54	
	C	ST183	11,653.4		61	
	D	ST183	66.2		38	77
LN37	A	ST183	4,412.6	918.2	45	
	B	ST183	12,170.1		58	
	C	ST183	7,748.7		51	
	D	ST183	111.5		38	
LN38	A		848.2	198.4	40	40
	B		198.4		39	39
LN39	A		171.6	1,145.9	39	40
	D		974.3		40	
合計			4,285,691.9			
平均			7,104.9			
標準偏差			12,622.9			

註) 本表の重量合計からは、出土地点不明土器を除外してある。従って本文中の出土土器総重量4,459,391.4gとは一致しない。又、第12表の4mグリッド出土土器重量よりも少ない。

第2節 捨て場

1 1号捨て場（S T 183、『遺構篇』北東部捨て場）

概要

1号捨て場は、内部に焼土遺構S N86・99を包含する。遺構内の土器分布を第8～36図に掲げた（グリッド一括取り上げの土器は主なものを選択して図示した）。大洞B₂式期から形成が始まり、大洞B₂式期から大洞C₁式期へ時期が下るにつれて土器分布域中心はL S 34からL Q 35へと移る。

大洞B₂式期の分布

大洞B₂式期には、L Q 32～35、L R 32～35、L S 32～35、L T 32～35が作る16グリッドの範囲内に完形土器が52点分布する。出土した完形土器52点の内訳は、浅鉢4点7.7%、台付鉢17点32.7%、台部のみ1点1.9%（以下、他型式も台部のみ資料は台付鉢に含めて記述する。したがって台付鉢18点34.6%となる）、注口土器3点5.8%、壺2点3.8%、鉢20点38.5%、深鉢5点9.6%である。

破片資料は、L P 34・L O 35・L Q 35の3グリッドまで現れるが、完形品と破片の分布状態は等質的ではなく大きな差異を示す。それは、完形品出現率の高さと破片出現率の低さ、そして完形土器出土範囲と破片出土範囲がずれることである。大洞B₂式土器総数に対して、破片は、出現率は0.1%未満、数量偏差値と地点別特化度偏差値は共に40台と低く、目立ったピークを形成しない。したがって、完形品の残存率が非常に高く、当該期遺物の保存状態は良好で、攪乱を受けていない。

完形土器出土位置のドット分布（第8図）は、L R 33d～L R 35dとL Q 33c・L Q 34cが空白となる。これは、土器を小グリッドごと一括取り上げたことが原因である。第28図の小グリッドごとの完形土器出土位置を見ればちょうど補完関係になっていることがわかる。すなわち、大洞B₂式期の中心はL R 34c、L S 34b・dの連続する3つの小グリッドであることがわかる。中心は一つではなく、土器分布の南西部縁辺に当たるL T 33a・b、L S 33bにも集中している。

最も完形土器が集中したL R 34cでは鉢3点（3120・3170・3270）、深鉢1点（3173）、壺1点（3172）の5点9.6%であり、偏差値64である。L S 34dでは鉢1点（3007）、台付鉢2点（3137・3369）、壺1点（3310）、L T 33bでは深鉢2点（3121・3123）、台付鉢1点（3118）、注口土器1点（3017）の4点7.7%ずつで偏差値はともに58である。大洞B₂式期の中心はこの地点であるといえる。

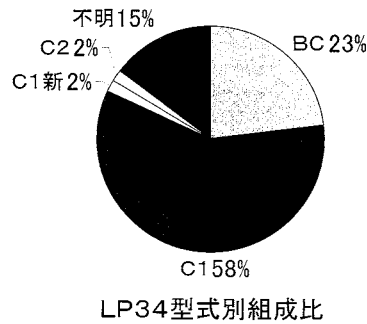
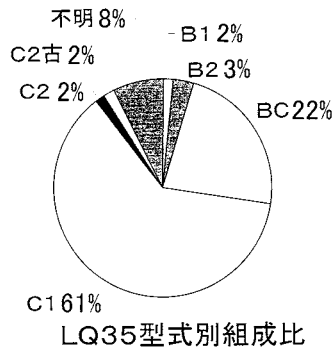
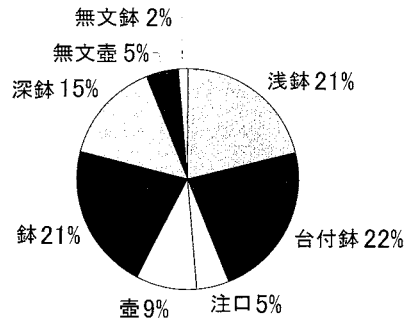
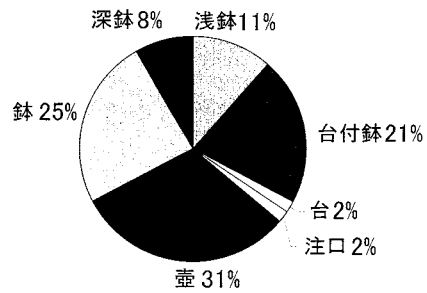
個別器種に分けて出土数量偏差値を検討すると、L S 33bとL R 34cの2地点では、台付鉢と鉢がそれぞれ3点5.8%ずつ出土し偏差値81となる。L Q 34bでは台付鉢、L T 33bでは深鉢、L S 34cでは鉢、そしてL S 34dにおいて台付鉢がそれぞれ2点3.8%ずつ出土している。偏差値は62である。

次に、地点別特化度により少量の出土であってもその出現を無視できない地点について検討する。特化度偏差値が50を超えるのは10小グリッドである。中でもL R 34cでは偏差値56、L S 34dとL T 33bの2グリッドでは偏差値53である。各器種に分解して特化度を計算するといずれも偏差値45となり目立った地点はない。

そこで偏差値を、標準化データ×100+50で再計算してみると、L S 33bでの台付鉢3点とL R 34cでの鉢3点が、偏差値26（大洞B₂式期の最低偏差値23）に対して高く出る。したがってこれら2グリッドは、他のグリッドに比べて台付鉢や鉢の集中度が高いといえる。

第17表 グリッド別出土土器組成

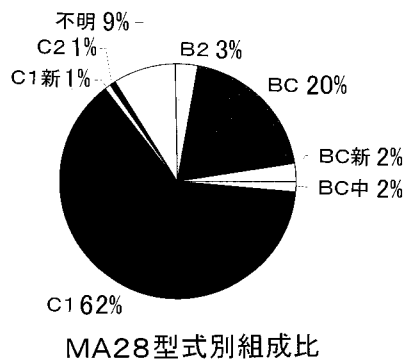
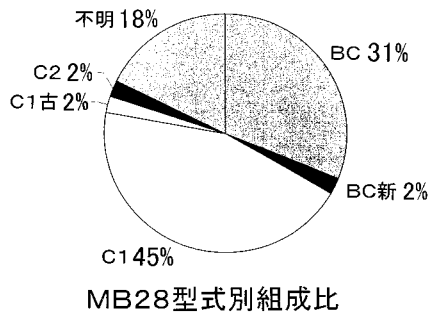
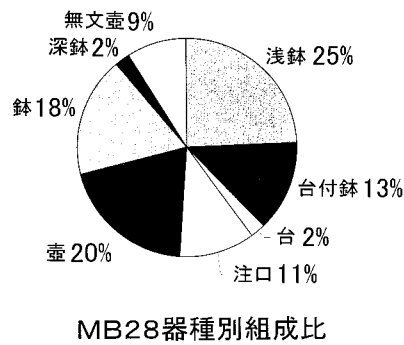
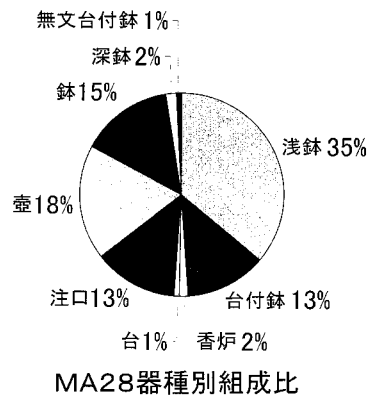
グリッド	形式	器種	個数	グリッド	形式	器種	個数	グリッド	形式	器種	個数			
LQ35	BC	台付鉢	2	LQ35	B	浅鉢	1	LS34	BC	浅鉢	1			
	BC	鉢	1			B2	鉢		2		BC	台	1	
	BC	深鉢	3			BC	浅鉢		1		BC	注口	1	
	C1	浅鉢	8			BC	台付鉢		8		BC	鉢	3	
	C1	台付鉢	1			BC	注口		2	LS35	B2	台付鉢	1	
	C1	壺	6			BC	鉢		2			B2	鉢	2
	C1	鉢	1			BC	深鉢		2			BC	浅鉢	2
	C2	浅鉢	2			C1	浅鉢		11			BC	注口	1
	不明	鉢	3			C1	台付鉢		7			BC	壺	1
	不明	無文鉢	1			C1	注口		1			BC中	注口	2
				C1	壺	5		C1	壺		1			
				C1	鉢	8		不明	壺		1			
LP34	BC	台付鉢	3	LP34	C1	深鉢	6	LT34	B2	浅鉢	1			
	BC	壺	6			C1	無文壺		2		B2	台付鉢	2	
	BC	鉢	4			C1	無文鉢		1		B2	注口	1	
	C1	浅鉢	6			C2	深鉢		1		B2	鉢	2	
	C1	台付鉢	9			C2古	浅鉢		1		BC	台付鉢	1	
	C1	壺	11			不明	壺		1		BC	注口	2	
	C1	鉢	7			不明	鉢		2		BC	壺	1	
	C1	深鉢	3			不明	深鉢		1		C1	壺	1	
	C1新	注口	1			不明	無文壺		1		C1	深鉢	1	
	C2	浅鉢	2		LR34	B2	台付鉢		1		C1	無文壺	1	
不明	台付鉢	1		B2		壺	1		不明	鉢	1			
不明	壺	2		B2		鉢	4				379			
不明	鉢	4		B2		深鉢	1							
不明	深鉢	2		BC		浅鉢	2							
				BC		台付鉢	1							
				BC		注口	5							
				BC		壺	4							
				BC		注口	1							
				BC		壺	1							
LP35	B2	鉢	1	LP35	BC	台付鉢	5	LR35	B2	鉢	1			
	BC	浅鉢	2			BC	浅鉢		3		BC	浅鉢	1	
	BC	台付鉢	1			BC	注口		1		BC	注口	2	
	BC	注口	1			BC	壺		4		BC	壺	1	
	BC	鉢	1			BC	注口		1		C1	深鉢	1	
	C1	浅鉢	7			BC	深鉢		3		C1	無文壺	1	
	C1	台付鉢	6			BC	無文浅鉢		1		C1	鉢	6	
	C1	注口	1			C1	鉢		6		C1	深鉢	1	
	C1	壺	2			C1	深鉢		1		C1	無文壺	1	
	C1	鉢	5			不明	壺		2		不明	鉢	2	
不明	浅鉢	1		不明	鉢	2		不明	深鉢	1				
不明	鉢	1						LS33	B2	台	1			
LQ33	BC	台付鉢	3	LQ33	BC	浅鉢	2	LS33	B2	台付鉢	4			
	BC	注口	2			BC	台付鉢		3		B2	鉢	2	
	BC	鉢	7			BC	注口		1		BC	浅鉢	1	
	BC	深鉢	1			BC	壺		1		BC	台付鉢	1	
	C1	浅鉢	4			BC	鉢		3		BC中	注口	1	
	C1	台付鉢	1			BC	深鉢		1		C1	浅鉢	1	
	C1	壺	5			BC	無文浅鉢		1		C1	壺	1	
	C1	鉢	6			C1	鉢		6		C1	浅鉢	1	
	C1	無文壺	3			C1	深鉢		1		C1	壺	1	
	不明	台付鉢	1			不明	無文壺		2		不明	鉢	2	
不明	壺	3		不明	鉢	2		不明	深鉢	1				
不明	鉢	1						LS34	B2	台付鉢	3			
LQ34	B2	台付鉢	3	LQ34	B2	鉢	1	LS34	B2	台付鉢	3			
	B2	鉢	1			BC	浅鉢		1		B2	壺	1	
	BC	浅鉢	3			BC	台付鉢		1		B2	鉢	4	
	BC	台	2			BC	壺		1					
	BC	台付鉢	4			BC中	注口		1					
	BC	注口	2			C1	浅鉢		1					
	BC	深鉢	3			C1	壺		1					
	BC新	注口	1			不明	鉢		1					
	C1	浅鉢	5			不明	無文壺		2					
	C1	台付鉢	2			不明	鉢		1					
C1	壺	6												
C1	鉢	5												
不明	無文壺	1												
不明	壺	1												
不明	深鉢	1												



第3図 グリッド別出土土器組成

第18表 グリッド別出土土器組成

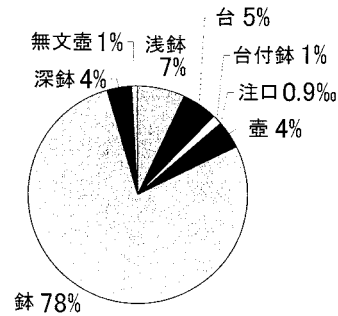
グリッド	形式	器種	個数	グリッド	形式	器種	個数
MA26	B2	浅鉢	1	MB28	BC	浅鉢	5
	BC	浅鉢	1		BC	台付鉢	3
	C1	浅鉢	6		BC	台	1
	C1	台付鉢	1		BC	注口	3
	C1	壺	1		BC	壺	1
MA27	B2	台付鉢	1		BC	鉢	1
	BC	鉢	3		BC新	注口	1
	BC新	注口	1		C1	浅鉢	5
	C1	浅鉢	2		C1	台付鉢	2
	C1	台付鉢	1		C1	注口	1
	C1	壺	1		C1	壺	6
	C1	鉢	2		C1	浅鉢	4
	C1	深鉢	1		C1	無文壺	2
	不明	壺	2		C1古	浅鉢	1
	MA28	B2	浅鉢		1	C2	台付鉢
B2		台付鉢	2	不明	壺	2	
B2		注口	1	不明	鉢	3	
BC		浅鉢	7	不明	深鉢	1	
BC		台付鉢	4	不明	無文壺	2	
BC		台	1			230	
BC		注口	8				
BC		壺	3				
BC		鉢	1				
BC		無文台付鉢	1				
BC新		注口	3				
BC中		注口	2				
C1		浅鉢	36				
C1		台付鉢	10				
C1		香炉	2				
C1		注口	3				
C1		壺	14				
C1		鉢	13				
C1		深鉢	2				
C1新		浅鉢	1				
C2		浅鉢	1				
不明		壺	6				
不明		鉢	5				
MA29		BC	台付鉢	1			
		BC	鉢	1			
	BC新	注口	1				
	C1	浅鉢	3				
	C1	注口	2				
	C1	壺	1				
MA36	B2	台付鉢	2				
	B2	注口	1				
	B2	鉢	1				
	BC	台	2				
	BC	壺	1				
	C1	無文壺	1				
MB27	不明	鉢	1				
	不明	深鉢	1				
	B2	台付鉢	1				
	BC	浅鉢	2				
	BC	台付鉢	1				
	BC	注口	1				
MA28 (Pie Chart)	BC	鉢	1				
	BC	浅鉢	1				
	C1	浅鉢	1				
	C1	壺	1				
	C1古	浅鉢	1				
	C1新	注口	1				
	不明	香炉	1				
	不明	台付鉢	1				
	不明	壺	1				
	不明	鉢	1				



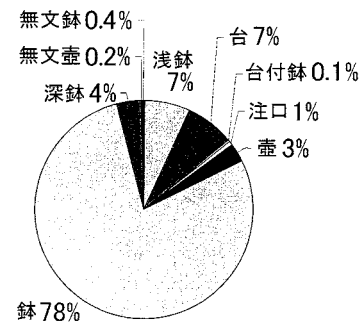
第4図 グリッド別出土土器組成

第19表 グリッド別出土土器組成

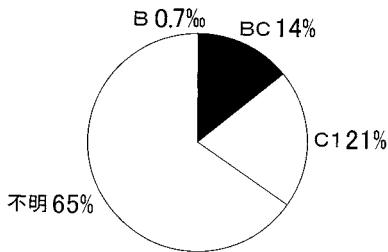
グリッド	形式	器種	破片数	グリッド	形式	器種	破片数	グリッド	形式	器種	破片数		
LN35	BC	台付鉢	1	LP35	不明	壺	2	LS34	不明	鉢	107		
	BC	鉢	1		不明	鉢	4		不明	深鉢	2		
	C1	浅鉢	7		不明	無文浅鉢	2		LT33	B2	鉢	1	
	C1	台	3		不明	無文壺	3			B2	深鉢	1	
	C1	鉢	69		LQ33	BC	浅鉢			1	BC	鉢	1
	不明	浅鉢	4			BC	鉢			32	BC	台	1
	不明	台	1			BC	台			1	BC	鉢	10
	不明	壺	9			C1	浅鉢			7	C1	浅鉢	1
	不明	鉢	101			C1	台			7	C1	注口	2
	不明	深鉢	6			C1	注口			3	C1	鉢	18
不明	無文浅鉢	2	C1	壺		3	C1	深鉢		1			
LN36	BC	鉢	1	C1		鉢	91	不明		台	7		
	C1	浅鉢	13	不明		浅鉢	4	不明	不明	71			
	C1	台	2	不明		台	14	不明	深鉢	10			
	C1	注口	1	不明	壺	11			4378				
	C1	鉢	94	不明	鉢	143							
	不明	浅鉢	2	不明	深鉢	6							
	不明	台	10	LQ34	BC	台				2			
	不明	壺	13		BC	鉢				14			
	不明	鉢	160		C1	浅鉢				8			
	不明	深鉢	5		C1	台				6			
LO35	B2	鉢	1		C1	壺				3			
	BC	浅鉢	1		C1	深鉢				1			
	C1	浅鉢	38		C1	浅鉢				42			
	C1	台	9		不明	浅鉢	1						
	C1	注口	1		不明	台	3						
	C1	壺	1		不明	壺	3						
	C1	鉢	113	不明	鉢	52							
	不明	浅鉢	8	不明	鉢	16							
	不明	台	11	LQ35	B	鉢	1						
	不明	壺	18		BC	浅鉢	12						
不明	鉢	196	BC		台	17							
不明	深鉢	33	BC		台付鉢	1							
不明	無文浅鉢	3	BC		注口	7							
不明	無文壺	4	BC		鉢	158							
不明	無文鉢	1	C1		浅鉢	56							
LP34	B2	鉢	2		C1	台	34						
	BC	浅鉢	2		C1	壺	3						
	BC	台	5		C1	浅鉢	195						
	BC	台付鉢	1	不明	浅鉢	24							
	BC	鉢	27	不明	台	51							
	BC	深鉢	2	不明	台付鉢	1							
	C1	浅鉢	69	不明	壺	38							
	C1	高台	12	不明	鉢	736							
	C1	台付鉢	1	不明	深鉢	49							
	C1	注口	1	不明	無文壺	3							
LP35	C1	壺	4	不明	無文鉢	6							
	C1	鉢	260	LS33	BC	鉢	11						
	C1	深鉢	1		C1	浅鉢	1						
	不明	浅鉢	8		C1	台	1						
	不明	台	43		C1	注口	1						
	不明	台付鉢	12		不明	鉢	12						
	不明	鉢	42		不明	台	10						
	不明	深鉢	575		不明	壺	8						
	不明	深鉢	38		不明	鉢	92						
	不明	無文壺	8		不明	深鉢	5						
LP35	BC	台	1		LS34	BC	鉢	5					
	C1	浅鉢	24	C1		浅鉢	1						
	C1	壺	1	C1		注口	2						
	C1	鉢	1	C1		壺	1						
	不明	浅鉢	2	C1		鉢	23						
	不明	台	1	不明		台	3						
不明	台付鉢	1	不明	壺	4								



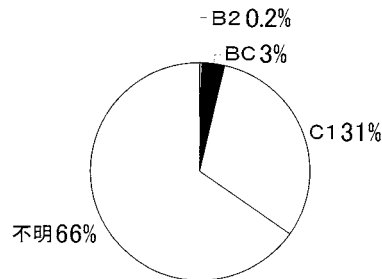
LP34器種別組成比



LQ35器種別組成比



LQ35型式別組成比

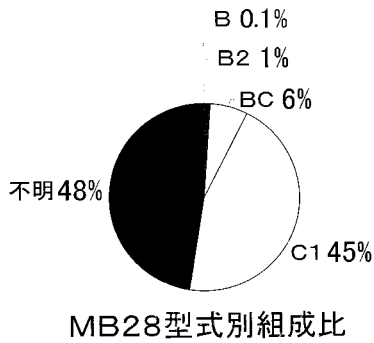
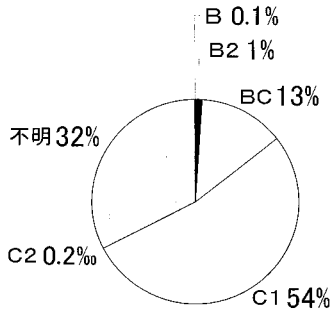
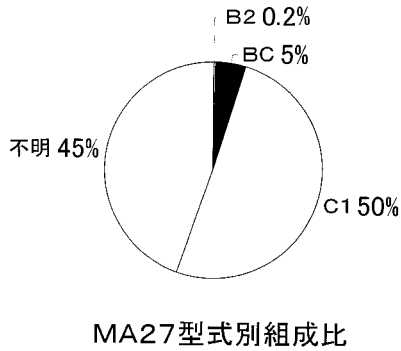
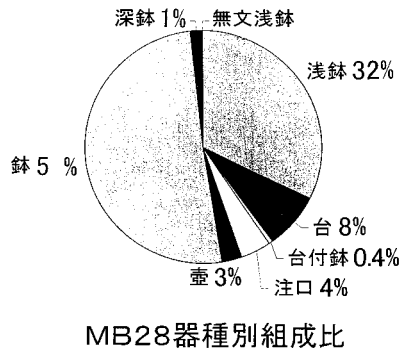
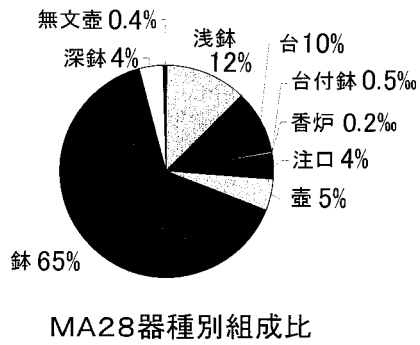
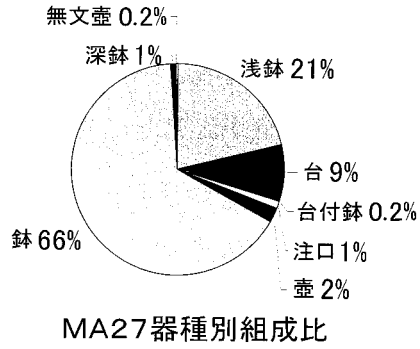


LP34型式別組成比

第5図 グリッド別出土土器組成

第20表 グリッド別出土土器組成

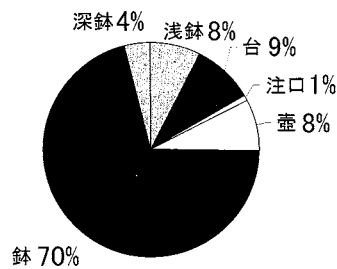
グリッド	形式	器種	破片数	グリッド	形式	器種	破片数
MA25	BC	浅鉢	1	MA28	C1	浅鉢	438
	BC	香炉	1		C1	台	264
	BC	鉢	8		C1	台付鉢	1
	C1	浅鉢	1		C1	注口	6
	C1	台	13		C1	壺	50
	C1	台付鉢	1		C1	深鉢	1497
	C1	壺	1		C1	深鉢	7
	C1	鉢	83		C2	浅鉢	1
	不明	台	27		不明	浅鉢	42
	不明	台付鉢	1		不明	台	123
	不明	壺	9		不明	壺	147
	不明	鉢	106		不明	鉢	907
	不明	深鉢	1		不明	深鉢	140
	不明	無文壺	1		不明	無文壺	19
MA26	BC	台付鉢	1	MB27	B	鉢	3
	BC	香炉	3		B2	浅鉢	2
	BC	注口	1		B2	鉢	4
	BC	鉢	8		BC	注口	3
	C1	浅鉢	13		BC	鉢	16
	C1	台	32		BC	深鉢	1
	C1	台付鉢	1		C1	浅鉢	20
	C1	注口	3		C1	台	3
	C1	壺	3		C1	注口	5
	C1	鉢	287		C1	壺	2
	不明	台	39		不明	浅鉢	37
	不明	浅鉢	4		不明	浅鉢	9
	不明	壺	19		不明	台	6
	不明	鉢	232		不明	注口	1
不明	深鉢	5	不明	壺	7		
不明	無文壺	2	不明	深鉢	27		
MA27	B2	深鉢	1	MB28	B	鉢	1
	BC	浅鉢	1		B2	浅鉢	2
	BC	台	2		B2	注口	4
	BC	壺	1		B2	鉢	3
	BC	鉢	23		BC	浅鉢	5
	C1	浅鉢	111		BC	台	6
	C1	台	18		BC	注口	9
	C1	台付鉢	1		BC	鉢	31
	C1	注口	6		BC	深鉢	1
	C1	壺	1		C1	浅鉢	235
	C1	鉢	166		C1	台	14
	不明	浅鉢	15		C1	注口	19
	不明	台	31		C1	壺	1
	不明	壺	12		C1	深鉢	107
不明	鉢	205	不明	浅鉢	28		
不明	深鉢	5	不明	台	45		
不明	無文壺	1	不明	台付鉢	3		
MA28	B	鉢	4	不明	注口	3	
	B2	浅鉢	2	不明	壺	23	
	B2	鉢	34	不明	鉢	283	
	B2	深鉢	5	不明	深鉢	11	
	BC	浅鉢	40	不明	無文浅鉢	1	
	BC	台	28	不明	無文浅鉢	1	
	BC	台付鉢	1				
	BC	香炉	1				
	BC	注口	164				
	BC	壺	3				
	BC	鉢	329				
	BC	深鉢	1				
						6770	



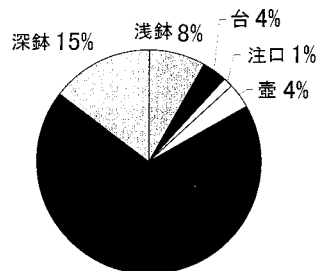
第6図 グリッド別出土土器組成

第21表 グリッド別出土土器組成

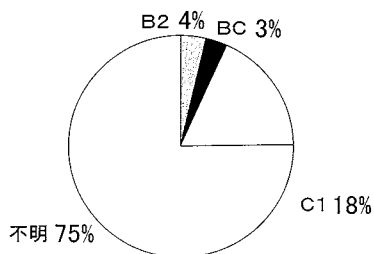
グリッド	形式	器種	破片数	グリッド	形式	器種	破片数	
MA35	B2	鉢	3	MC35	BC	鉢	2	
	BC	鉢	1		C1	浅鉢	1	
	C1	浅鉢	6		C1	浅鉢	20	
	C1	注口	3		不明	浅鉢	6	
	C1	鉢	21		不明	台	6	
	不明	浅鉢	3		不明	壺	1	
	不明	台	1		不明	深鉢	68	
	不明	壺	12		不明	深鉢	8	
	不明	鉢	87		MD34	B2	深鉢	1
	不明	深鉢	7			BC	浅鉢	3
	不明	無文鉢	2			BC	浅鉢	1
						C1	浅鉢	3
	MB35	BC	浅鉢		1	MB37	B2	鉢
BC		鉢	3	BC	鉢		3	
BC		深鉢	1	C1	浅鉢		9	
C1		浅鉢	7	C1	注口		1	
C1		壺	1	C1	鉢		25	
C1		鉢	13	不明	浅鉢		4	
不明		浅鉢	7	不明	台		7	
不明		台	1	不明	壺		4	
不明		台付鉢	2	不明	鉢		127	
不明		壺	5	不明	深鉢		2	
不明		鉢	88	不明	無文鉢		4	
不明		深鉢	15	MH35	B2		浅鉢	1
不明		無文浅鉢	1		B2		鉢	4
MB37	B2	鉢	3		BC	鉢	4	
	BC	鉢	3		C1	浅鉢	9	
	C1	浅鉢	9		C1	台	2	
	C1	注口	1		C1	注口	2	
	C1	鉢	25		C1	鉢	12	
	不明	浅鉢	4		不明	浅鉢	1	
	不明	台	7		不明	台	3	
	不明	壺	4		不明	壺	5	
	不明	鉢	127		不明	鉢	74	
	不明	深鉢	2		不明	深鉢	20	
	不明	無文鉢	4		MH36	BC	浅鉢	1
	MB38	BC	浅鉢	5		BC	鉢	6
		C1	浅鉢	2		C1	浅鉢	7
C1		台	2	C1		台	3	
C1		鉢	32	C1		注口	3	
C2		鉢	1	C1		鉢	20	
不明		浅鉢	3	不明		台	6	
不明		台	10	不明		壺	1	
不明		注口	1	不明		壺	22	
不明		壺	10	不明		鉢	65	
不明		鉢	60	不明		深鉢	10	
不明		深鉢	5	不明		無文壺	1	
MC34		B2	浅鉢	2				
		B2	鉢	4				
	B2	深鉢	1					
	BC	鉢	1					
	C1	鉢	1					
	不明	浅鉢	20					
	不明	台	1					
	不明	壺	8					
	不明	壺	10					
	不明	鉢	65					
	不明	深鉢	10					
	不明	無文壺	1					



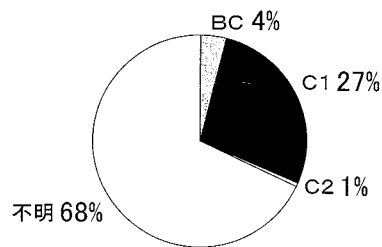
MB38器種別組成比



MH35器種別組成比



MH35型式別組成比



MB38型式別組成比

第7図 グリッド別出土土器組成

第2章 捨て場と遺物

大洞BC式期の分布

大洞BC式期には、LO33~36、LP33~36、LQ33~36、LR33~36、LS33~36、LT33~36の24グリッドが作る範囲内に完形土器・土偶・土製品が142点分布する。破片資料321点も同じグリッドから出土している。

完形土器・土製品類142点の内訳は、浅鉢22点15.5%、台付鉢46点32.4%、注口土器19点13.4%、壺12点8.5%、鉢20点14.1%、深鉢17点12.0%、ミニチュア土器1点0.7%、土偶4点2.8%、土製品1点0.7%である。

破片資料321点の内訳は、精製土器は浅鉢17点5.3%、台付鉢31点9.7%、注口土器7点2.2%、壺5点1.6%、鉢257点80.1%である。粗製土器は、鉢と深鉢が2点ずつ0.6%である。

完形土器出土位置のドット分布(第9~17図)は、大洞B₂式期の項で先述したように、LR33d~LR35dとLQ33c・LQ34cが、小グリッドごとの取り上げによって空白となる。ドット図(第9~17図)と小グリッドごとの完形土器出土位置図(第29~30図)では、土器集中区域が2m東に移動している。

すなわち、大洞BC式期完形土器の分布中心はLQ34bであり、小さなピークがLQ35bとLR34b、LR35aにある。大洞B₂式期と同様に中心は一つではなく、小さなピークが複数存在し、土器分布の東縁辺LO35、LP35や南西部縁辺に当たるLT33d、LS33cにも比較的まとまる。

完形土器が11点出土と最も集中したLQ34bでは、浅鉢1点0.7%(第13図 240)、台付鉢4点2.8%(第10図 244・245・618、第30図 3268)、注口土器2点1.4%(第15図 617、第29図 511)、深鉢3点2.1%(第18図 517・564、第29図 3426)、土偶1点0.7%(第17図 246)であり、偏差値100である。

第2位のLQ35bでは8点出土している。内訳は、浅鉢1点0.7%(第13図 215)、台付鉢6点4.2%(第10図 199・201・647、第30図 3032・3243・3302)、深鉢1点0.7%(645)で偏差値82、第3位のLR34bとLR35aでは、6点ずつである。LR34bが浅鉢1点0.7%(第29図 3233)、台付鉢3点2.1%(第30図 3182・3233・3266)、注口土器1点0.7%(第29図 3075)、壺1点0.7%(第14図 233)で、LR35aでは浅鉢(第29図 3146・3175)と台付鉢(第30図 3042・3287)2点1.4%ずつ、注口土器(第29図 3177)と壺(3238)1点0.7%ずつで、偏差値は70である。

個別器種に分けて出土数量偏差値を検討すると、LQ35bから出土した台付鉢6点は偏差値138と最も高い。第2位はLQ34bの台付鉢4点偏差値100である。偏差値62以上を示す小グリッド18中、半数を超える10小グリッドで台付鉢が2点以上出土している。

台付鉢が卓越する中で、LP34bでは壺が、LQ34bでは深鉢がそれぞれ3点出土し、偏差値81とまとまっている。注口土器は、唯一LQ35aで2点出土し偏差値62と目立っている。

次に、地点別特化度により少量の出土であってもその出現を無視できない地点について検討する。特化度偏差値が50を超えるのは21小グリッドである。中でもLQ34bでは偏差値74、LQ35bとLR35aでは偏差値59である。

各器種に分解し偏差値を、標準化データ×100+50で計算すると、LQ35bでの台付鉢6点が特化度偏差値31と最高である。LQ34bでも台付鉢4点が、偏差値27と第2位である。したがってこれら2グリッドは、他のグリッドに比べて台付鉢の集中度が高く、上述の出土数量偏差値を補強する。

次に破片資料を検討する。破片資料は完形土器に比べて目立たない分、点取り遺物のような「珍品」に偏ることがなく、土器分布の実態をより正確に示していると考えられる。

破片資料では、L Q 35の偏差値が65と最大値を示す。2号捨て場の中心であるM A 28の偏差値が102となっており、当該期捨て場は2号を主、1号を従として形成され始める。L Q 35が捨て場の中心として考えると、遺物出土数の等偏差値線はL O 35からL Q 35をとってL S 34へ抜ける、おおよそ北東 - 南西軸に高偏差値部を持つことがわかる。

中心のL Q 35を2 m四方の小グリッドによって、さらに細かく土器分布を検討するとL Q 35d、cがそれぞれ偏差値77と72で最も高い。小グリッドbでも63を示す。L Q 35に北側で隣接するL Q 36a・bでは急激に偏差値が低下しており、遺物分布の中心から外れている。また、L Q 33b、L Q 34aでも偏差値50を超えており小さなピークとなることがわかる。

次に、器種ごとの分布域を2 m小グリッドで検討する。1号捨て場では、精製土器の鉢がL Q 35b・c・dから偏差値63・72・77と高率で出土している。先述したL Q 33b、L Q 34aも鉢の出土によって偏差値50を超える。

他の器種は偏差値50以下であるが、大洞C₁式期に出土した大量の土器に影響された結果であることから、偏差値が低くても無視することはできない。

浅鉢はL Q 35c、台付鉢の台部分はL P 34a・b、L Q 35b・dから、壺はL T 34d、深鉢はL P 34c・d、そして注口土器は、L Q 35b・cで出土している。精製鉢が大量に出土しているL Q 35c・dとは分布を若干ずらしていることがわかる。

出土量は少量でも無視できない土器を、地点別特化度によって検討する。器種ごとに地点別特化度の偏差値が50以上となるものを列挙する。

大量に出土して数量比・重量比の中心を形成している鉢では、捨て場の周縁部に当たるL N 36dに、特化度が目立っている。台付鉢(台部のみ)はL P 35d、L Q 34b、L T 33である。出土量偏差値が高いL P 34a・b、L Q 35b・dの近隣に当たる。浅鉢はL R 36、壺はL S 36、L T 33、L T 34dである。いずれの値も出土量の最も多い地点から若干ずれた位置にある。このことは、各器種ごとの出土量最多点 = 中心 : 特化地点 = 周縁の関係として置き換えることが可能である。つまり、各器種はいずれも中心を共有しながら小ピークを形成しつつ、それぞれに特有の土器置き場へ向かって分布が移動するのである。

次に、赤彩土器の分布を検討する。大洞B C式期の赤彩土器は完形品11点、破片資料13点である。完形品の分布は、L P 34bとL P 35cに2点ずつ、他はL O 34b、L Q 33、L R 34b、L R 35c、L Q 35b、L T 34dにそれぞれ1点ずつとなる。上述の大洞B C式期中心であるL Q 35から東にはずれて1号捨て場の東側に多く分布していることがわかる。

破片資料で大洞B C式と同定できた資料は、非常に少ない。L P 34dで粗製の深鉢が1点出土している。後述する無文赤彩土器に当該期の資料が含まれている可能性が高い。

赤彩土器と捨て場内部に構築された遺構との関連では、L Q 35bにはS N 86が作られている。また、時期は下って大洞C₁式期であるが、L O 35ほぼ全域に被さってS N 99(図版3 - 4、『遺構篇』127 ~ 128ページ第43図、206ページ図版18 - 2)が構築されている。S N 99の直下L O 35bからは大洞C₁式の695と岩偶692 ~ 694が出土している(図版3 - 4、695は第22図・第137図2、692 ~ 694は第

17図・第296図)。後述するが、赤礫の分布中心も1号捨て場東側L O35とその周辺にある。

赤彩された土器は、器種組成上主体（修正ウェーバー値による）とならない器種を選択しており、赤彩土器の量的過少性・捨て場周縁という「位置」との有機的関連と相まって、この地点が大洞BC式期にすでに特殊な機能を付加されていたこと、そして大洞C₁式期における焼土遺構S N99の構築へつながったことを想定させる。次項で詳述するが、大洞C₁式期における赤彩土器分布の中心は、LP34dに移動することから、赤彩土器の配置と焼土遺構の構築位置にも何らかの意味、もしくは有機的関連があったと考えている。

以上より、大洞BC式期の1号捨て場では、大量の精製土器の鉢に少量の他器種がセットとなり、LQ35c・dを中心として土器が置かれている。また、周辺部にも同じ内容を持つ小さなピークが出現する。大量の鉢を中心として他の器種が取り巻くように安置されていると考えてよい。また、それら少量の器種の置き場は特化度が示すように、それぞれ特有の位置もしくは方向がある。そして、捨て場東側L O35に完形の赤彩土器が集中することから、捨て場中央部と対応する有機的関連を想定した。

大洞C₁式期の分布

大洞C₁式土器は、完形土器・土偶257点、破片資料1,445点が出土した。完形土器・土偶257点の内訳は、浅鉢61点23.9%、台付鉢40点15.7%、注口土器5点2.0%、鉢50点19.6%、深鉢18点7.1%、ミニチュア土器3点1.2%、土偶6点2.4%となる。

破片資料1,445点の内訳は、精製浅鉢281点19.5%、台付鉢84点5.8%、注口土器11点0.8%、壺16点1.1%、鉢1,049点72.6%となる。粗製土器は4点で、鉢1点0.1%、深鉢3点0.2%である。

この時期に、本捨て場は一気に拡大する。破片数量偏差値50以上のグリッドが捨て場群全体で13ある内の7グリッドをしめる。捨て場の範囲も前代の11グリッドから32グリッドと3倍弱となる。ただし土器の集中度は2号捨て場に比べて低く、最大値を示すLP34でも偏差値80にとどまる。その代わりに、小さなピークは2号捨て場よりも多く形成される。小さなピークは、LN35d、LO35a、LQ34a、LQ33b、LS33b、LS34c、LT33c・dの8カ所である。

当該期に破片数量偏差値80と最大値を示すLP34では、大洞B₂式期に小グリッドb・cに遺物が置かれ始める。大洞BC式期では、小グリッドcに12点32.4%、小グリッドaに11点29.7%が置かれる。小グリッドdが最も少なく6点16.2%であった。

大洞C₁式期では、LP34の小グリッドの地位が逆転する。大洞BC式期第3位だった小グリッドbが98点28.2%で第1位、第4位だった小グリッドdは91点26.1%と第2位になる。遺物量の増加とともに、各小グリッドに分布する土器の数量差が縮まる。

LQ35では、大洞BC式期には小グリッドdに74点37.9%がまとめ第1位、小グリッドaは16点8.2%で第4位である。ところが大洞C₁式期になると、地位が逆転する。小グリッドdは99点34.4%で第1位、小グリッドaは82点28.5%で第2位となる。

次に器種ごとの分布について述べる。完形品は、鉢・深鉢（第18～20図）と浅鉢（第21図）では重なりながらも、明確に分布範囲がずれている。鉢・深鉢では、LO～LR・33～35にほぼまとまる。浅鉢は、LN～LQ・33～36にある。LP～LQ・33～35で重なるものの、捨て場の北東方向にまとまる浅鉢、南西方向にまとまる鉢・深鉢の分布域に明確な違いがあることがわかる。そして壺（第22図）は、これら3器種の間を埋めるように配置されている。

完形土器が最も集中しているのはL Q35dで、16点出土しており、257点中6.2%を占め、偏差値は130である。精製品は深鉢2点(第18図 376 - 1・393)、浅鉢5点(第21図 376 - 2・376 - 3・392 - 1、第32図 3241・3395)、台付鉢2点(第19図 621・688)、鉢5点(第20図 383・389 - 1・389 - 2、第31図 3311・3387)、粗製土器深鉢2点(第18図 377・380)という内訳である。5点出土した浅鉢・鉢の偏差値119、2点ずつ出土している深鉢・台付鉢の偏差値62となる。

L Q35d周辺に完形品はまとまっており、隣接するL Q36aとL Q35bでそれぞれ12点と11点出土している。L Q36aでは、完形土器が12点出土しており、257点中4.7%で偏差値106である。内訳は、精製土器の台付鉢が4点(第19図 372 - 2・373、第33図 3112・3301)、浅鉢3点(第21図 368 - 1・368 - 2・372 - 1)、注口土器(369)、鉢(第20図 374 - 2)、壺(619)が1点ずつ、粗製土器の深鉢(372 - 3)、壺(374 - 1)がそれぞれ1点ずつ集中している。台付鉢の偏差値100、浅鉢の偏差値は81となる。

深鉢・鉢・台付鉢の出土量が浅鉢の倍以上となるL Q35dに対して、L Q36aでは鉢は1点のみで台付鉢・浅鉢が増え、注口土器が組成に含まれてくるといった違いがある。土器組成が補完し合うと考えられる。

2 m離れたL P34c、L P35bではそれぞれ11点ずつ、L P34aで10点、L P34bで9点出土しており、別の集中区を形成している。

次に、完形土器における器種ごとの分布傾向の差異を、破片資料で検証する。精製の浅鉢は、L O35aにピークを持ち、L Q35dがそれに準ずる。1号捨て場の土器出土量偏差値の中心はL Q35であるから、浅鉢は中心部とその東側に当たる周辺に1カ所ずつの置き場を形成していることになる。

鉢では、L O35aが偏差値97で第1位となる。次がL P34b・aでそれぞれ偏差値87・81と第2・3位を占める。偏差値70以上の小グリッド数は一気に増えて、L N35d、L N36b、L P34c・d、L Q35a・dの6地点となる。このことから鉢の出土地点も2カ所の中心(L O35a・L P34b)を持ち、その周辺に小さなピークが展開することがわかる。その他の器種は出土量が低くそれ自体で中心を作ることはない。

地点別特化度によって少量出土土器の意義を検討すると、L N37bに粗製鉢があり、これが捨て場北東端を区画する基準点であることがわかる。L S34cには精製鉢が置かれており捨て場の西側を区画する。台付鉢(台部のみ)がL O32aにあって、捨て場の南東端を区画する。

壺がL P35c、L Q34c・d、L R35、L S34cに配置され、遺物出土量中心のL Q35を取り巻く。

注口土器がL S34にあり、同じく特化度が高い壺・鉢とともにセットとして小さな1群を形成していると考えてよい。

したがって、大洞C₁式期でも前代と同様、大量の精製土器の鉢に少量の他器種がセットとなる。鉢の置き場は移動しており、大洞B C式期のL Q35c・dからL O35aとL P34b・aを中心とする。

また、捨て場縁辺を区画する地点別特化度の高い器種が出現する。周縁部には、土器安置の3点セットを思わせる鉢・壺・注口土器で構成される小さなピークが出現する。壺の分布は特徴的で遺物出土数の中心であるL Q35グリッドを取り巻くように安置されている。

本捨て場が大洞C₁式期に急激に拡大したことを考えると、短期間での形成であることから、ある1時期の土器配置を示している可能性が2号捨て場よりも相対的に高い。土器出土量中心点に対する壺

の周縁配置は、捨て場形成における各器種の置き場を示している。

大洞C₁式期において重層的に形成されたとしても、出土量中心に対する縁辺配置は変わらない。したがって、捨て場が鉢・壺・注口土器の3点セットで構成されるならば、出土量特化度で示される少量器種の分布場所が、捨て場形成行為における少量出土器種の特定の置き場を示すとの考えは肯定される。

大洞C₂式土器の分布

大洞C₂式土器は、遺跡全体で出ている完形土器12点の内8点が本捨て場の出土品である。第32・34図に示したとおり、L O34・35に集中する。前代に比べて急激な減少であり、捨て場の形成が終わったことを示す。

無文土器の分布

無文土器は、大洞B₂式から大洞C₂式までの各時期を含んでいるが、型式分類が困難であるため、時期を一括し赤彩の有無と器形によって分布傾向を分析する。

破片資料は2,964点出土している。その内訳は精製浅鉢42点1.4%、台付鉢30点1.0%、壺35点1.2%、鉢71点2.4%である。粗製土器は浅鉢31点1.0%、台付鉢149点5.0%、壺150点5.1%、鉢2,286点77.1%、深鉢170点5.7%である。

小グリッド別に取り上げている土器では、口縁部・底部破片総数4,365点の内、無文土器は2,580点59.1%と有文土器1,785点40.9%に対して圧倒的に数量が多く、重量比で4グリッド、破片数量比で3グリッドの出土量偏差値が100を超えている。L O35・L P34・L Q35が土器出土量の中心をなしていることと合致している。

小グリッド別にみても、L Q35d・b・c、L O35a、L P34bでは、偏差値140を超えている。偏差値100を超えているのはすべて粗製の鉢である。他器種で出土数が目立つものは以下である。出土量偏差値は、浅鉢がL Q35cで51、台付鉢(台のみ)がL P34bで62、壺がL O35aで54、L P34cで53、L Q35bで51、深鉢がL O35aで59、L P34cで53、L Q34aで65、L Q35dで53となる。

これらも鉢の大量出土地点とほぼ重なる分布であることから、L Q35d・b・c、L O35a、L P34bの3地点をピークとして、鉢・深鉢・壺の3点セットを基本に、捨て場を形成していることがわかる。

無文土器には赤彩土器が346点4.7%含まれる。器壁表面に対する研磨の著しい精製品161点46.5%と、目立った調整を施さない粗製品185点53.5%がある。赤彩土器の分布は、無彩色無文土器の分布に関係して興味深い特徴がある。

1号捨て場における出土土器重量の等偏差値線によって描かれる中心部を形成するのに最も影響を与えているのが、圧倒的な出土量の無文土器であった。無彩色無文土器がつくるピーク、L Q35d・b・c、L O35a、L P34bの3地点での赤彩土器の特化度は低い。3ピークに隣接するように分布している。

より詳しく1カ所ずつ記述する。無彩色無文土器の第1位ピークL Q35d・b・cに対して、赤彩土器の特化度は鉢ではL Q36a、L R36a、L R35、L Q35dに、壺ではL Q34cに現れている。第2位ピークL O35aに対しては、鉢がL O35b、L O34a・b・d、L O33c、L N33c、L P34bに現れている。第3位ピークであるL P34bには明確な特化地点がない。

L S34・35にも特化地点が形成される。無彩色無文土器の集中度を偏差値90以上で探せばL S33b・

L S34cに見つかることから、このピークに伴って配置されているといえる。

上で第2ピークに伴うと考えた赤彩鉢特化地点L O35b、L O34a・b・dは、空白地点L O34cを取り囲んでいるように見える。重量比に目を転ずると、L O34cは31kgを超えており偏差値97と大量に集中している。無彩色無文土器集中区の周辺に赤彩土器が配置されている状態がよく現れている。

これら器種ごとの出土量比と地点別特化度の出現地点分布から、赤色と地色が対立する色彩のセットと配置を示していると考えている。

完形の赤彩土器は、L P34dに2点（第22図 426・第32図 3322）と赤彩された土偶1点が集中する。隣接するL O35の焼土遺構S N99（『遺構篇』128ページ第43図）は、当該期に形成されており、赤彩土器の置き場を規制したと考えてよい。

石器の分布

次に石器の分布を検討する。本捨て場からは、4基ある捨て場から出土した石器の総数13,909点中6,046点43.5%が出土した。器種別数量偏差値の分布を、第48～50図に示した。いずれの器種も出土量偏差値の分布に粗密がある。地点別特化度の偏差値分布は捨て場周辺で高くなる傾向があるが、土坑墓・配石墓が集中する墓域とは出現地点を異にしており、捨て場形成に伴って石器が集中する「場」として特殊化していると考えられる。

狩猟具は石鏃518点8.6%（1号捨て場出土石器6,046点に対する百分率、以下同）、尖頭器40点0.7%が出土している（第48図）。

石鏃分布の粗密は、分け方にもよるが6カ所の中心を持つ。L O33～35、L O36・L P36～37、L Q33～35、L R35～36・L S35、L S33～34・L T34、L S32・L T31～32に集中し、L P34が空白となる。

特化度偏差値の分布は、ほぼ50台であり捨て場周縁L O30・L T37・M B33の3グリッドでわずかに60台が現れる。

尖頭器は、出土数が石鏃に比べて約8分の1と少ないことから、その分布には目立ったピークを持たない。特化度分布の偏差値ではL P32・L Q31からL T32～33に出現がまとまっている。この地点は捨て場南西部縁辺に当たる。L O～L R32が作る4m幅の範囲はごく低い微高地状の尾根が走り、S K65など6基の土坑が作られている。捨て場の分布範囲と墓域範囲がずれていることと関連して、尖頭器の分布域がこの地点別特化度が高くなるように配置されている可能性がある。

加工具は、3,706点61.3%出土している。

磨製石斧は、31点0.5%で出土量が少ない。そのため、数量偏差値ではピークを形成しない。磨製石斧の特化度偏差値では、大きく3カ所のまとまりがある。捨て場の東側L N33・35・L O33、中央西寄りL Q～L R35～36、南西側L R33・L S33～34・L T34である。

スクレイパーは1,861点30.8%と数量が多いことから、数量偏差値は1号捨て場全域にわたって高い値を示している。したがって特化度偏差値も平均化されており、全域にわたって50台である。L N34は数量偏差値は高いものの、特化度では空白であり、周辺に比べて相対的にスクレイパーの出土量が低いといえる。スクレイパーと刃部形態が類似する5器種（コア・スクレイパー、鋸歯縁石器、挟入石器、石匙、石篋）のうち、鋸歯縁石器が同じくL N34を空白とする。

コア・スクレイパー（以下C S C）は、322点5.3%出土している。スクレイパーよりも分布域は狭

くまとまっている(第48図)。出土偏差値がピークを示すのは5カ所で L N35~36・L O35、 L O37・L P36~37・L Q36、 L Q34、 L R35、 L S34である。

地点別特化度は偏差値はいずれも50台で、目立ったピークは形成されていないが、捨て場南側 L N~L S30~33にも現れている。

鋸歯縁石器・挟入石器は、それぞれ41点0.7%と111点1.8%出土している。共に出土数量が少なく目立たない。挟入石器の数量偏差値は、L P~L Q36で小さなピークを作る。特化度偏差値では、鋸歯縁石器が L N37~38で89.97と高い得点を得ること、L R~L T33~36にまとまった分布域を持つことが指摘できる。挟入石器は特化度がほぼ50台で、捨て場全体によりまんべんなく分布している。

石匙・石篋は、それぞれ340点5.6%と73点1.2%出土している。石匙の数量偏差値は、3カ所にピークを持つ。 L O~L P35、 L Q~L R33~34、 L S34~37である(第49図)。石篋は、目立ったピークを持たない。

特化度の分布では、両者とも50台がまんべんなく分布するが、石匙では L N~L T30~35にあり、石篋は L N~L S35~37に主に分布する。石篋も L M~L T31~34にも分布しているが、石匙に比べて空白部が目立つ。石匙の分布域が捨て場の南寄りに、石篋の分布域が捨て場の北寄りにあるといえる。スクレイパーから石篋まで機能が類似していると想定されている6器種であるが、特化度が目立つ地点の分布は異なっており、それぞれに安置される場が存在していたことが考えられる。

石錐は458点7.6%出土している。数量分布は捨て場全域で高い偏差値となっているが、L P34が空白となる。石鏃・C S Cが同じくこのグリッドを空白としていた。地点別特化度は全体的に50台であり、目立って高い地点はない。

楔形石器は、292点4.8%出土している。数量偏差値では、4カ所のピークを持つ(第49図)。 L O33、 L P32、 L P36、 L R34~35である。石錐と同じく L P34や L O~L P35が分布の空白となる。このピークは捨て場南の縁となる。この位置にピークが現れるのは珍しい。またピーク4カ所の配置は、空白地を取り囲んでいる。地点別特化度をみてもこの空白地3グリッドのうち2つが空白である。

L O35には焼土遺構 S N99があり、土器の項で先述した通り、L P34~35は大洞 C1式期に土器分布の中心の一つとなる地点である。また、ピーク に隣接する L S34~35、ピーク に隣接する L R37は、無文赤彩土器の特化度偏差値がいずれも70以上と高い値を示す。

これらのことから、楔形石器の分布とピークは、捨て場の周縁にあり無文赤彩土器の集積場所と隣接して存在することがわかる。

敲石と磨石は、それぞれ177点2.9%と162点2.7%出土している。形態的類似から、一括して扱われがちなこれら2器種であるが、数量偏差値ピークの出現地点には明確な補完関係がある(第50図)。

敲石は、 L Q34、 L Q36、 L S33の3カ所のピークを持つ。磨石も、3カ所のピークを持つ。 L O34、 L O36、 L R~L S34~35である。焼土遺構 S N99がある L O35は、どちらの器種も空白となる。磨石のピーク ・ は S N99の南北に置かれ、敲石のピーク ・ はその西側に置かれている。そして磨石のピーク がさらに西側に、敲石のピーク が南側に重ならず配置される。

地点別特化度の分布は、両者とも50台でおおむね重なるが、数量別偏差値のピークを中心とした広がりを持つことから、それぞれ2器種の特化地点は出土量の多寡によっているのだろう。

石皿・凹石の分布は上記2器種と関わって興味深い。石皿は、出土点数が10点0.2%と少ないことから、数量別偏差値では明確なピークを持たないが、地点別特化度の分布域は、LP33~35・LP34、LT34、LS~LT36に現れている。これらの分布を敲石・磨石と重ねてみると、石皿のピークは、敲石の数量別偏差値ピークとよく合致する。石皿のピークは敲石・磨石の西側に、ピークは敲石・磨石の北側に重ならず配置される。

また、凹石は20点出土している。地点別特化度の分布は、石皿と類似しているがより広く2カ所に分かれる。特化度分布域はLP~LQ33~35であり、は、LR~LT34~36にある。

注目すべき点は、2点ある。1点目は、凹石の特化度分布域と石皿の特化度分布域は、共に空白部を補完する関係であり、2点目は石皿のピークの西隣には、3号捨て場東端に置かれた凹石のピークが出現することである。

敲石・磨石・石皿・凹石はいずれも、多くの発掘現場で注目されることなくグリッド一括で取り上げられ、数量どころか存在すら記載されないことがある。しかしこれらの分布には、明確な補完関係が存在したのであり、捨て場におけるそれぞれの「場」を形成していた。その「場」とは調理具のセット関係から導き出される、おそらくは女性たちの「場」と考えてよい。ジェンダーに視点をおくことで、優品のみから描かれる遺跡像とは別の世界が開かれることに注意したい。

祭祀を想定しうる6器種、石棒・岩版・岩偶・異形石器・有孔石製品・円盤状石製品は、全部で184点3.0%出土している。出土量は多いが、捨て場全体に分布しており、多くても1カ所3点と明確な出土数量のピークを形成しない(第43図)。ただし、地点別特化度の分布域では興味深い傾向がある。また、定性的には、岩偶692~694の出土状況は特筆に値する(第17図、第296図、図版3-4)。

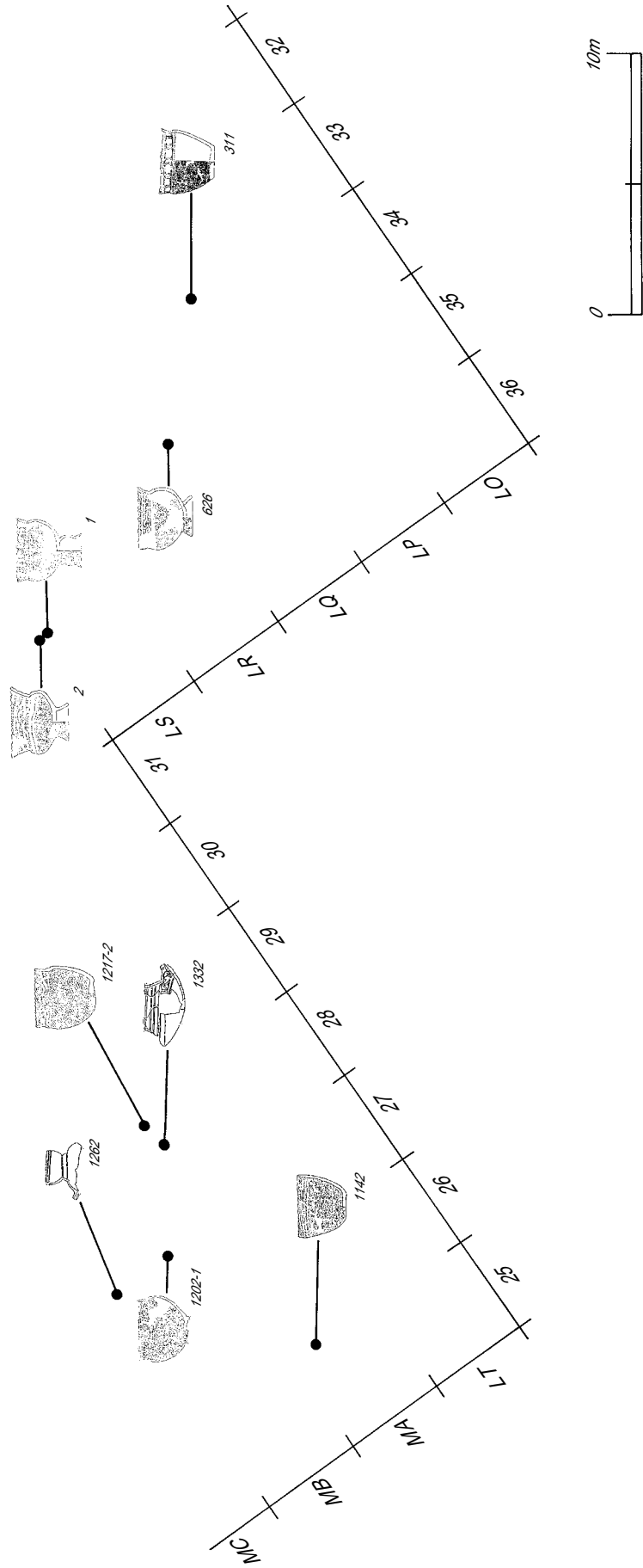
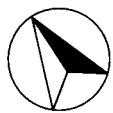
岩偶692~694は、上半身1点692と下半身2点693・694に3分割された破片が、接合して1体となる(第17図)。これら3破片は、焼土遺構SN99の焼成面直下にごく近接しておかれており、大洞C₁式土器695・699と共伴する(第22図、第137図4)。岩偶・土器共に二次焼成は受けていないので、SN99で火が焚かれる前に土で埋められていたことになる。

岩偶の破損・廃棄状態と焼土遺構SN99を積極的に関係づけるなら、岩偶は意図的に壊された後、土饅頭で埋められて、その上で火を使った祭祀行為が行われた可能性がある。

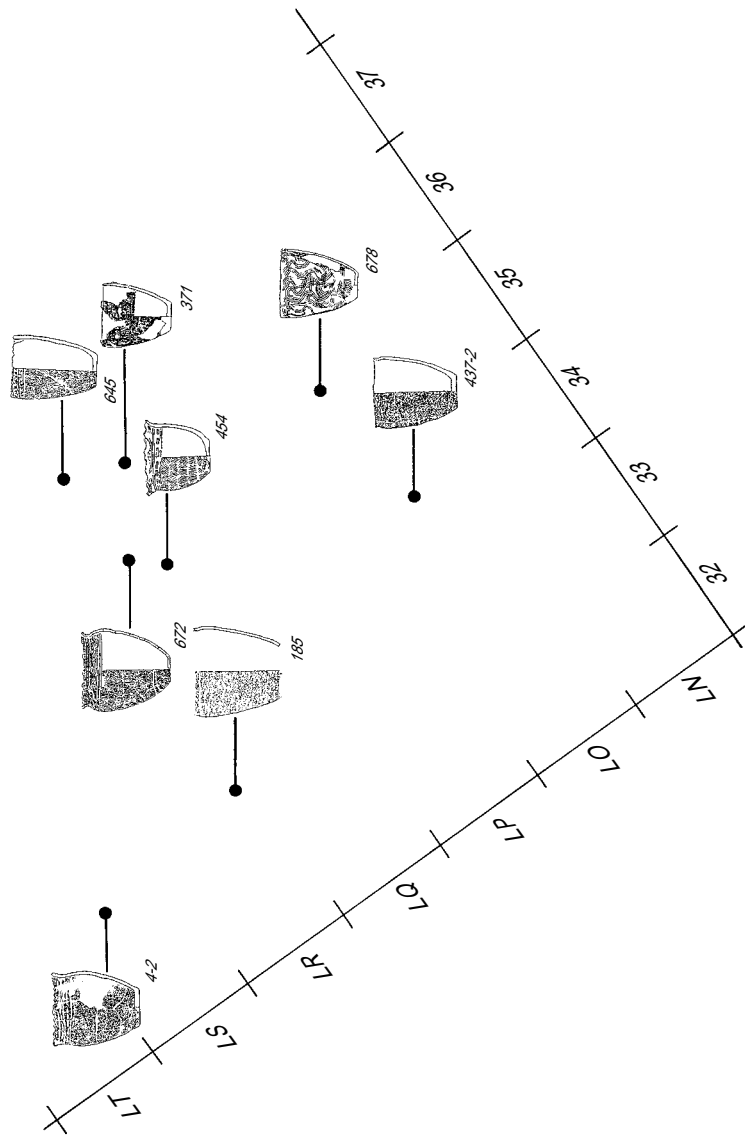
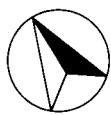
赤礫の分布も非常に意図的である。原石・石核・剥片を合わせて200点9.3%出土している。これまで述べてきた石器は、焼土遺構SN99を取り巻くように分布しており、その上面にピークが現れる器種はなかった。ところが赤礫原石のみは、まさにSN99と共にある。そしてその周辺に石核と剥片が小さなピークを形成している。

ベンガラ生産において、原石の分割にあたって「焼成」は必須工程であり、焼土遺構SN99はそのために反復利用されていたと考えられる(註2)。したがって、SN99は、岩偶692~694に伴う祭祀行為によって形成されたのち、ベンガラ生産によって反復利用されていたことになる。ある遺構の形成要因を一つに限定して、一対一の対応関係を想定する必要はないのであり、様々な行為が有機的且つ重層的に関連する先史社会像を前提とするならば、同一遺構に対する目的を異にした反復利用は、現れない方が不自然であろう。

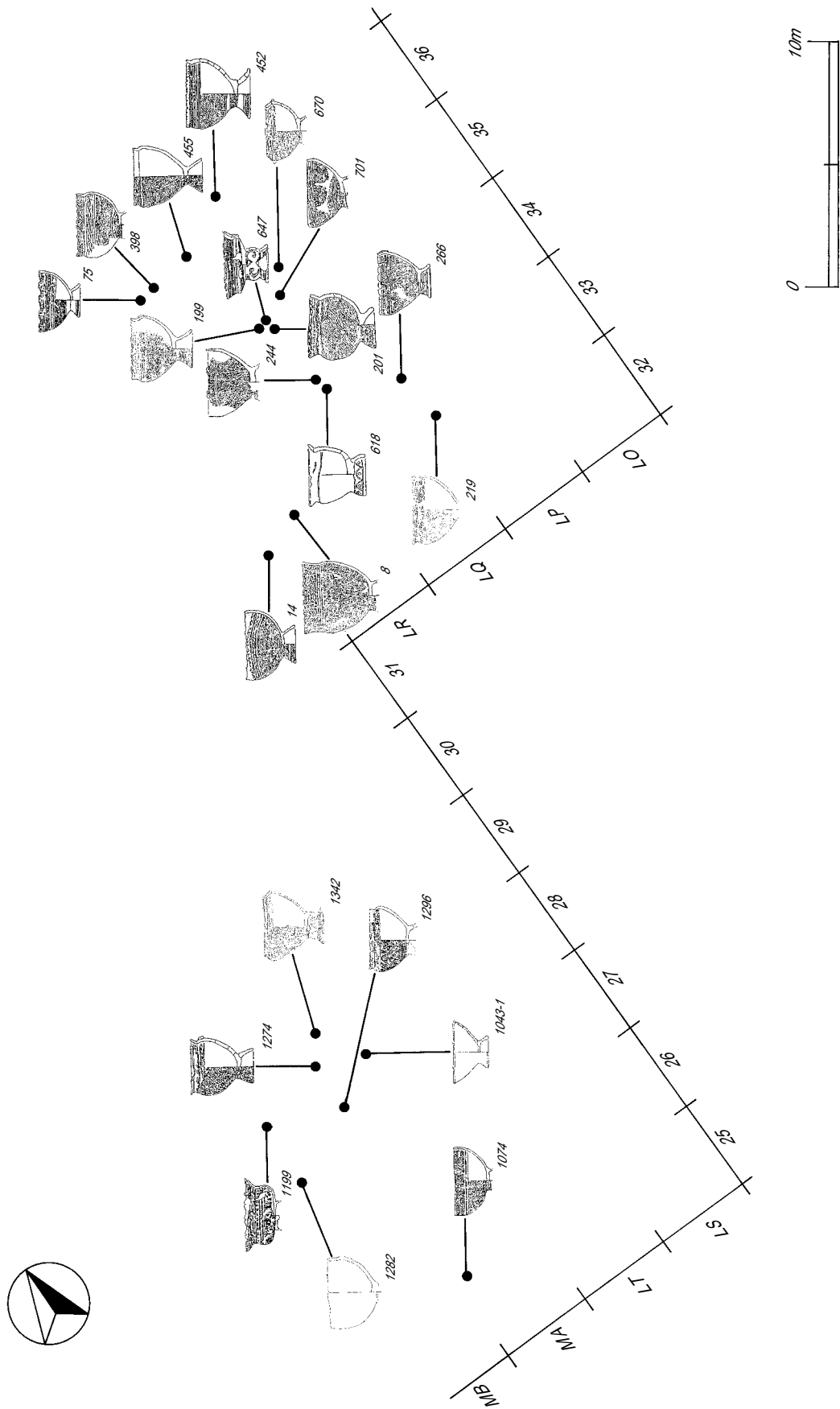
したがって、焼土遺構SN99に伴う赤礫原石・石核・剥片の分布は、原石選択 焼成・非焼成 剥片剥離 剥片粉碎 塗料製作 土器・土製品他への塗布としてフロー・チャート化される生産工程の



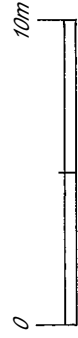
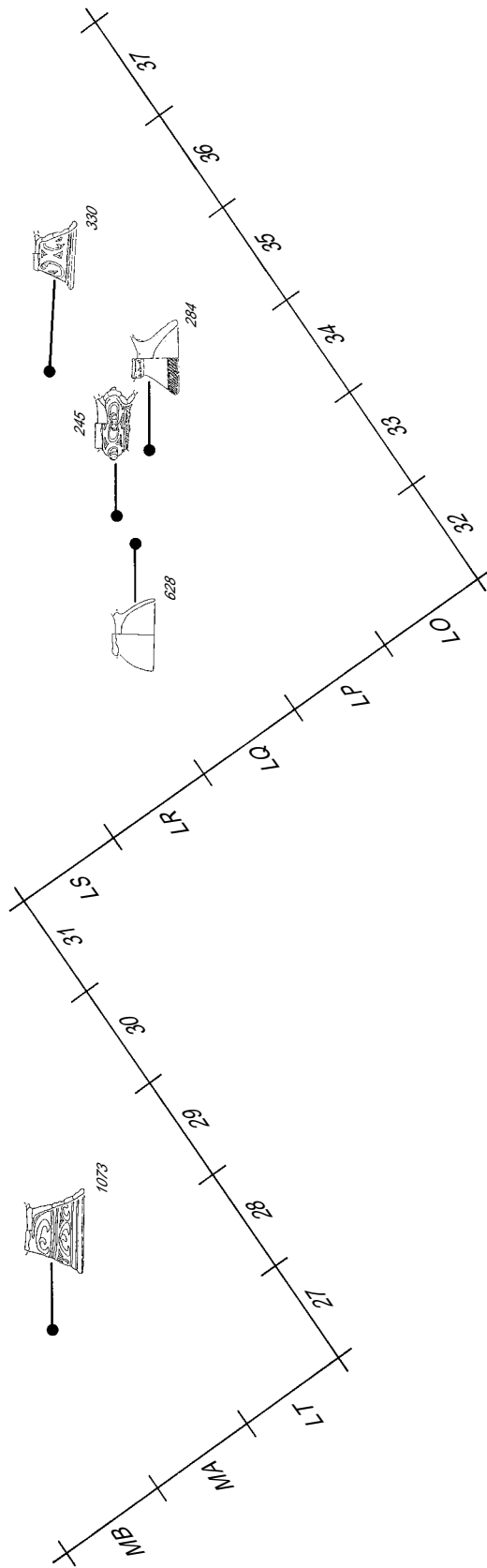
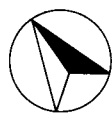
第8図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞B2式 (点取り遺物) 鉢・浅鉢・鉢・浅鉢・注口土器)



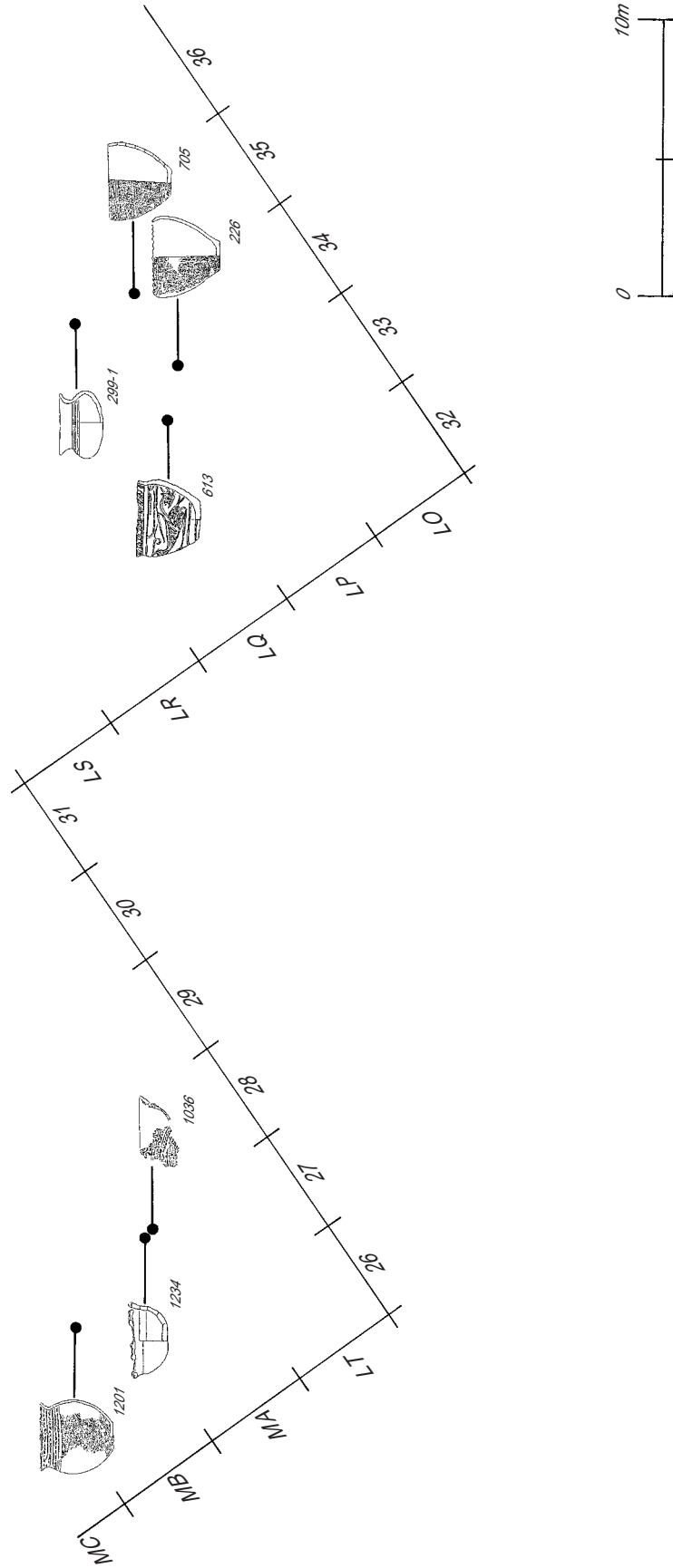
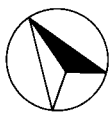
第9図 1号捨て場 (ST183) 出土器分布図 (点取り遺物) 大河BC式 (深鉢)



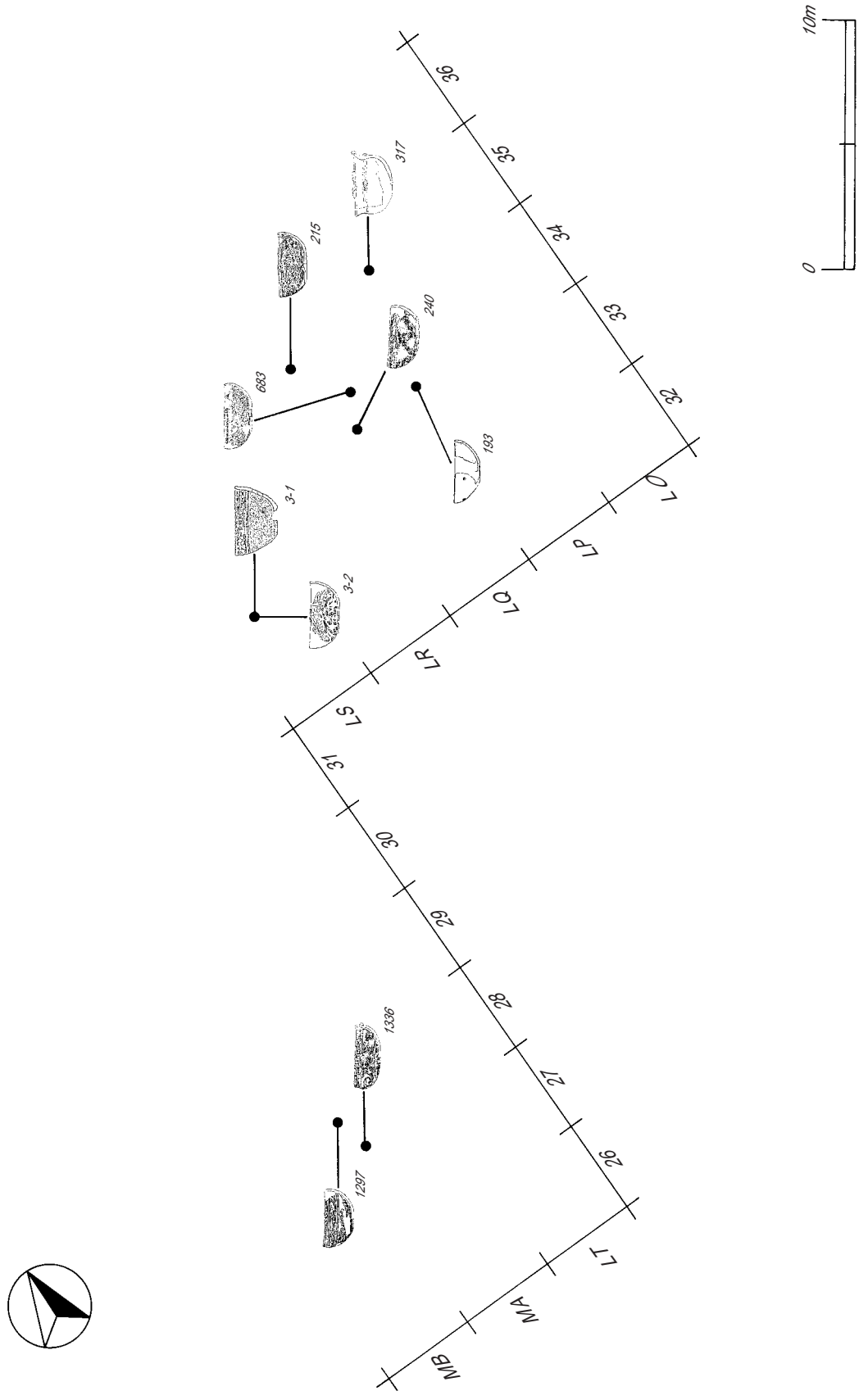
第10図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC式 (台付鉢)



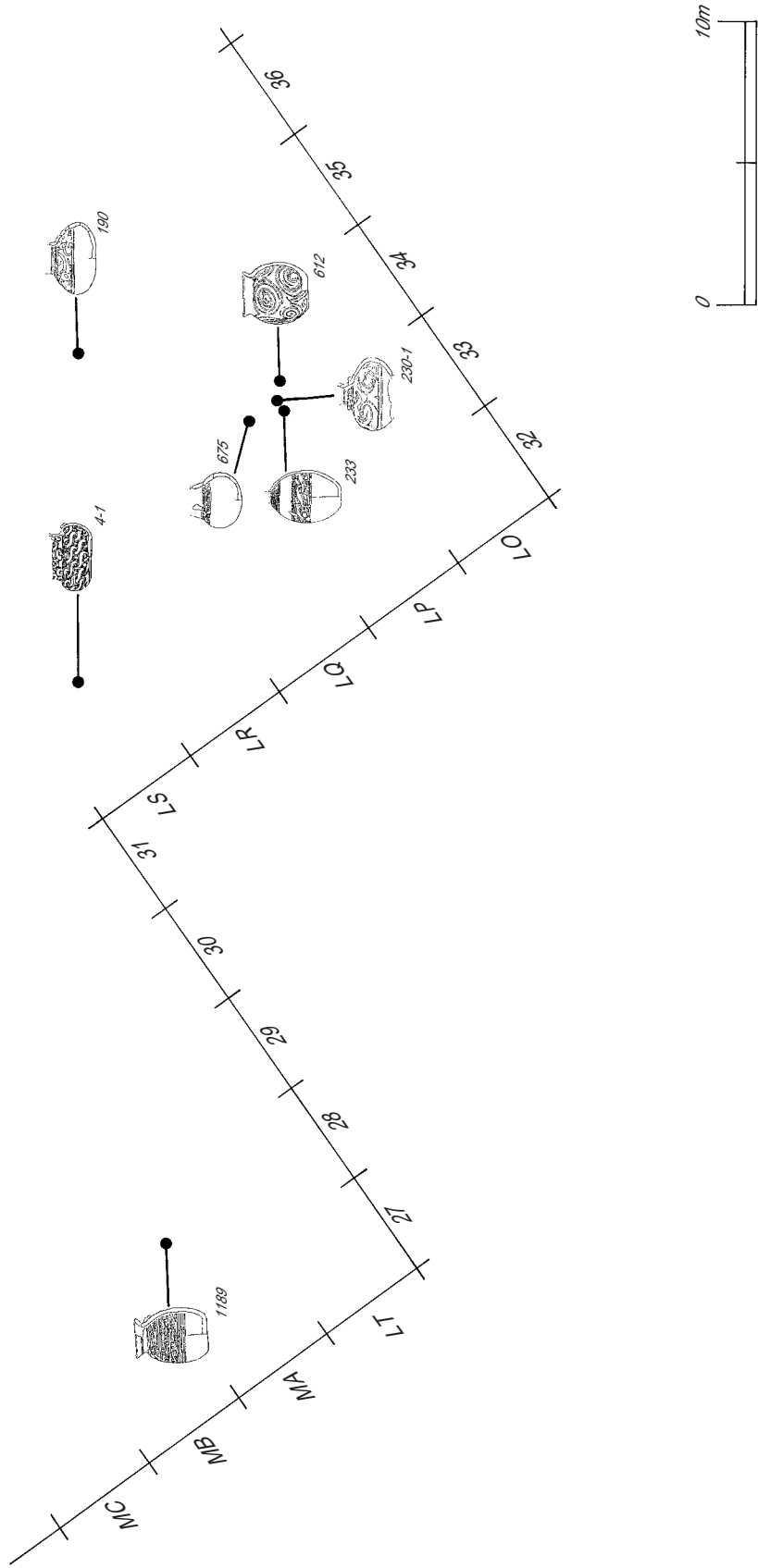
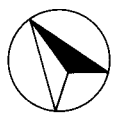
第11図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC式 (台付鉢)



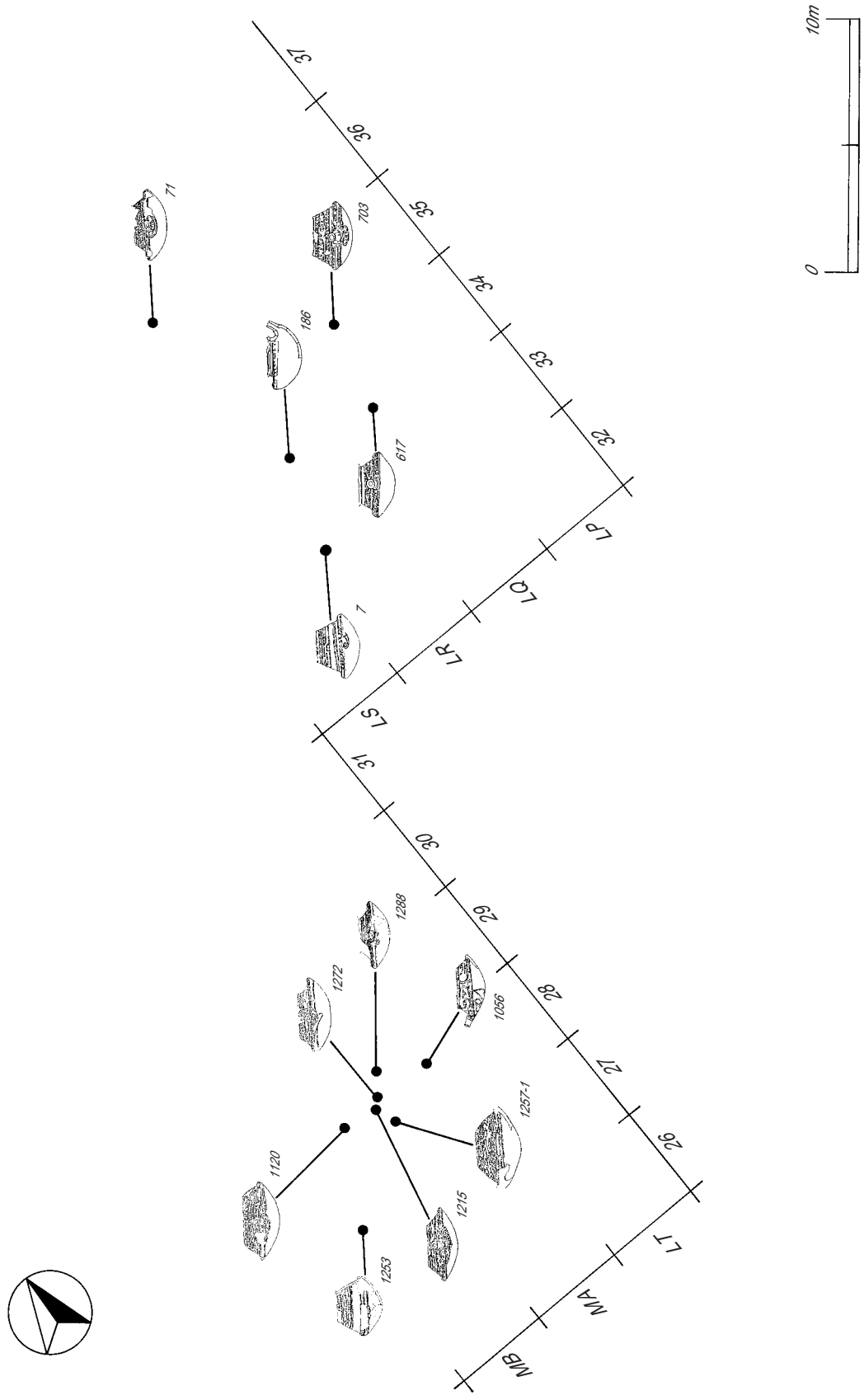
第12図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC式 (鉢)



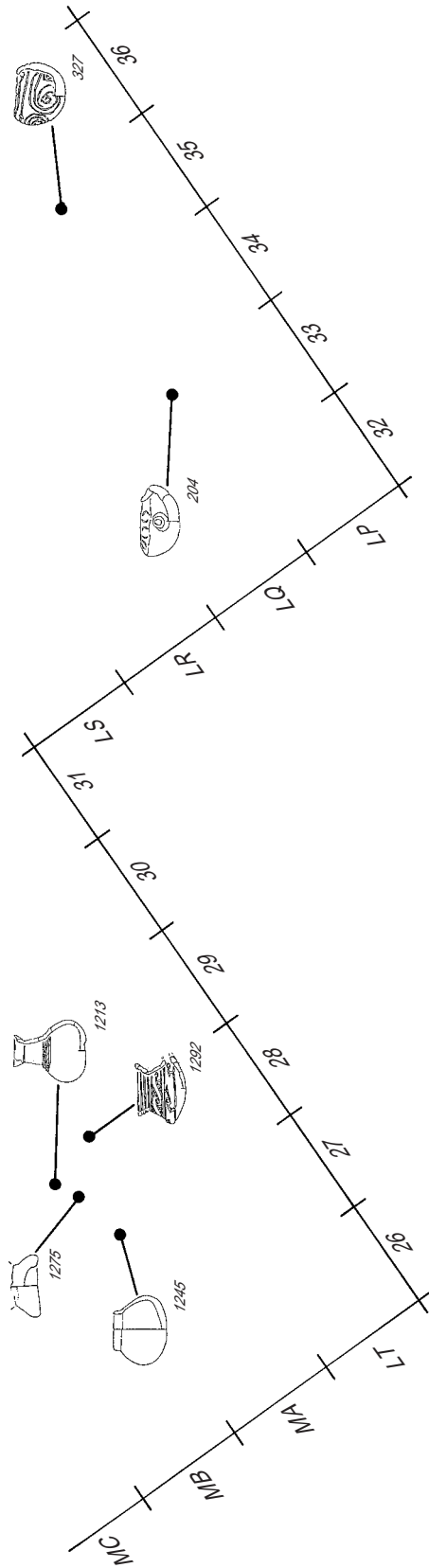
第13図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC式 (浅鉢)



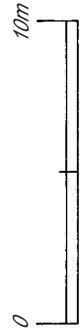
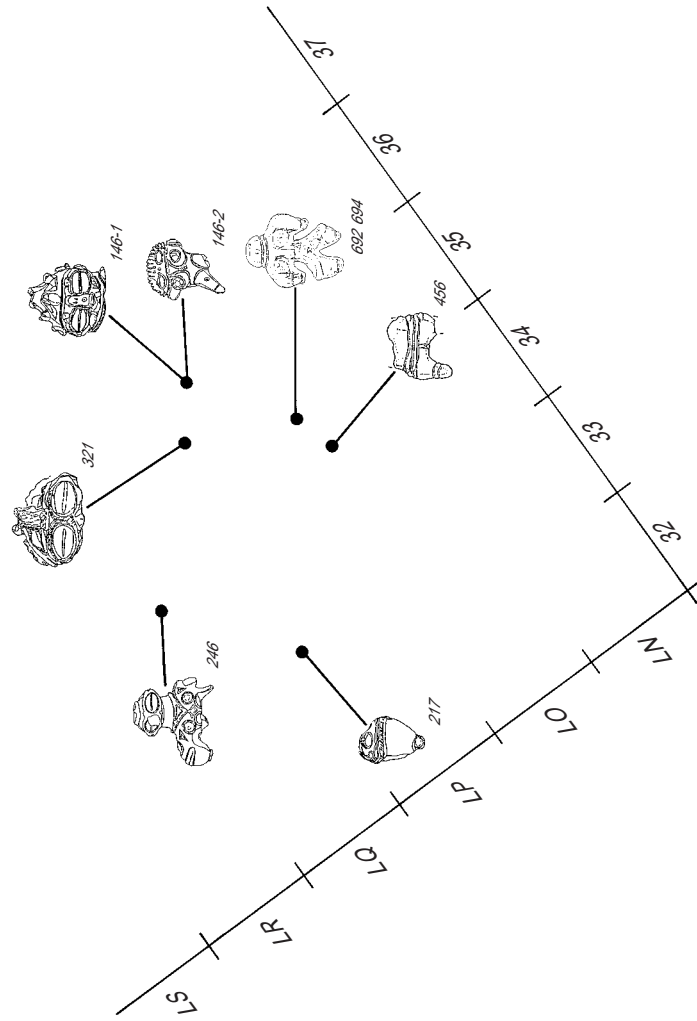
第14図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC式 (壺)



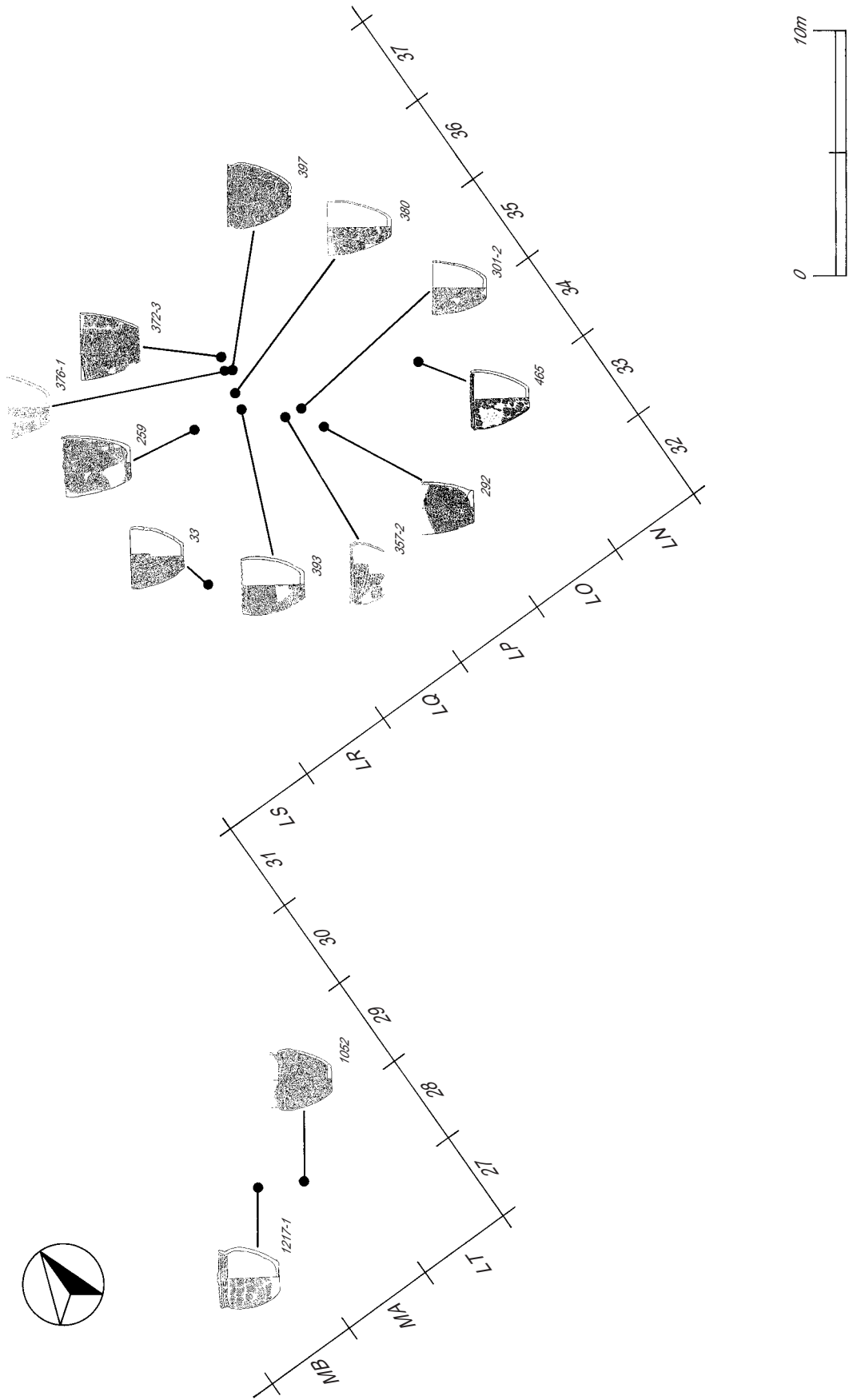
第15図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC式 (注口土器)



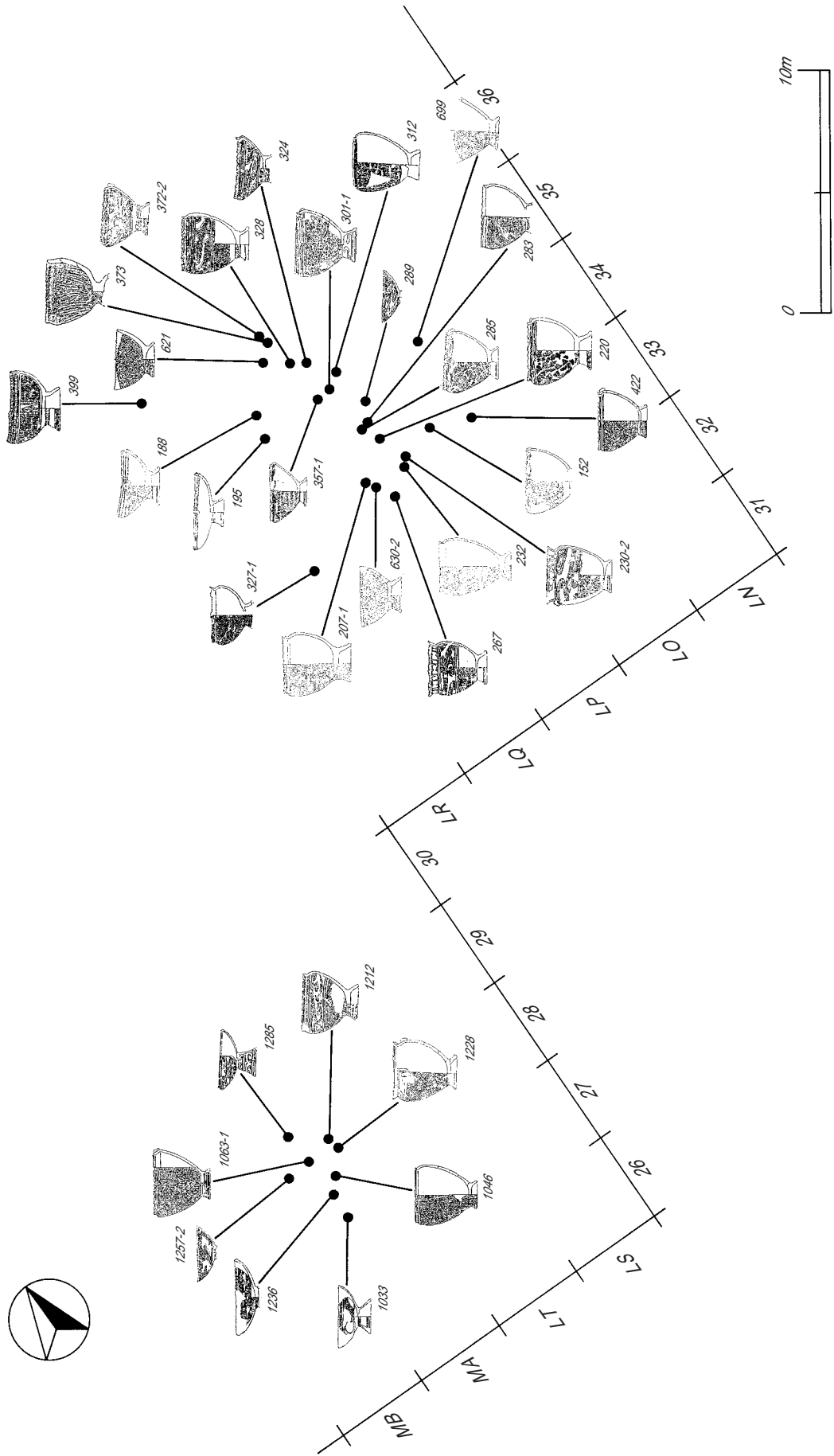
第16図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC・C1式 (ミニチュア土器)



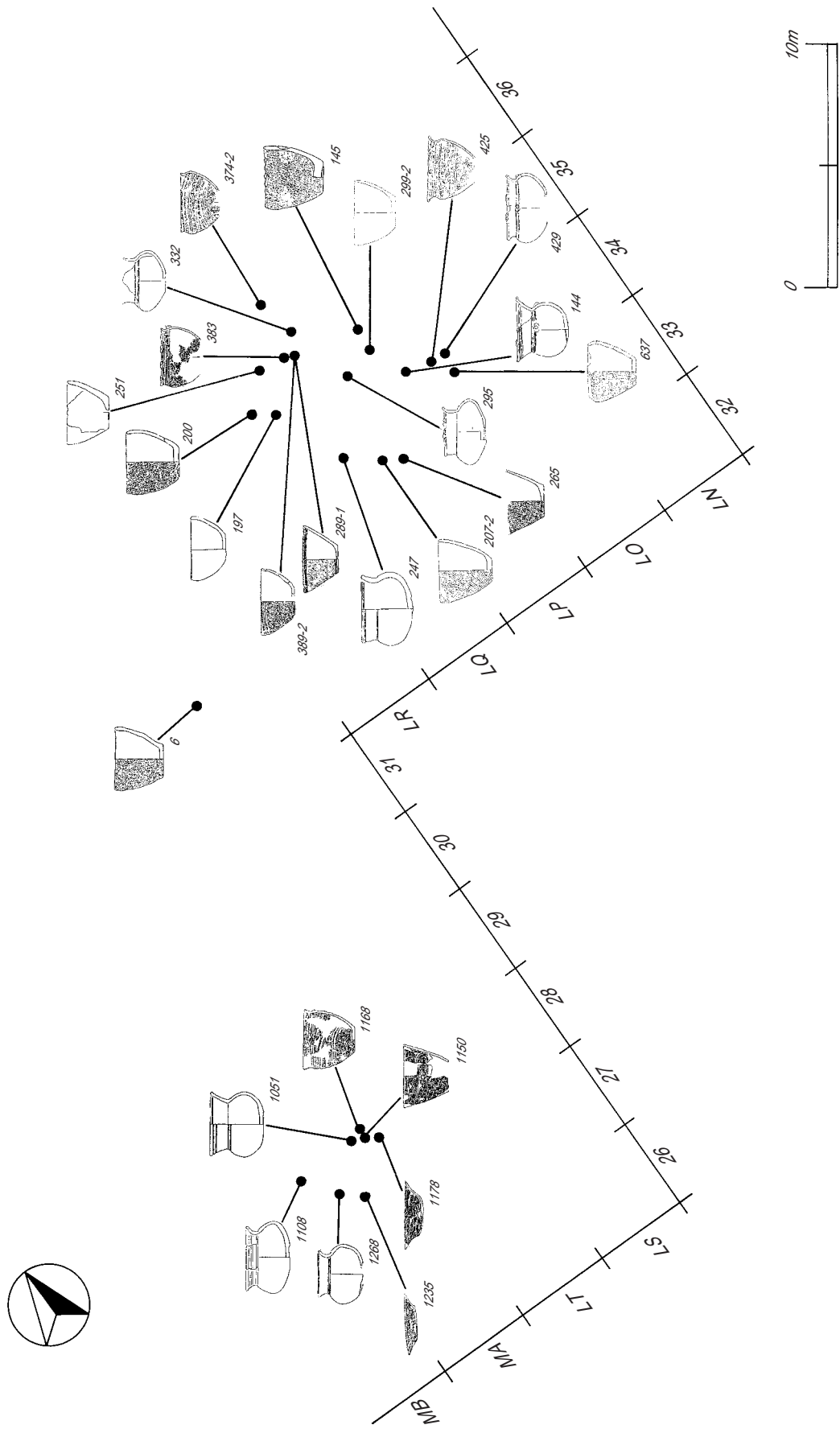
第17図 1号捨て場 (ST183) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞BC・C1式 (土偶)



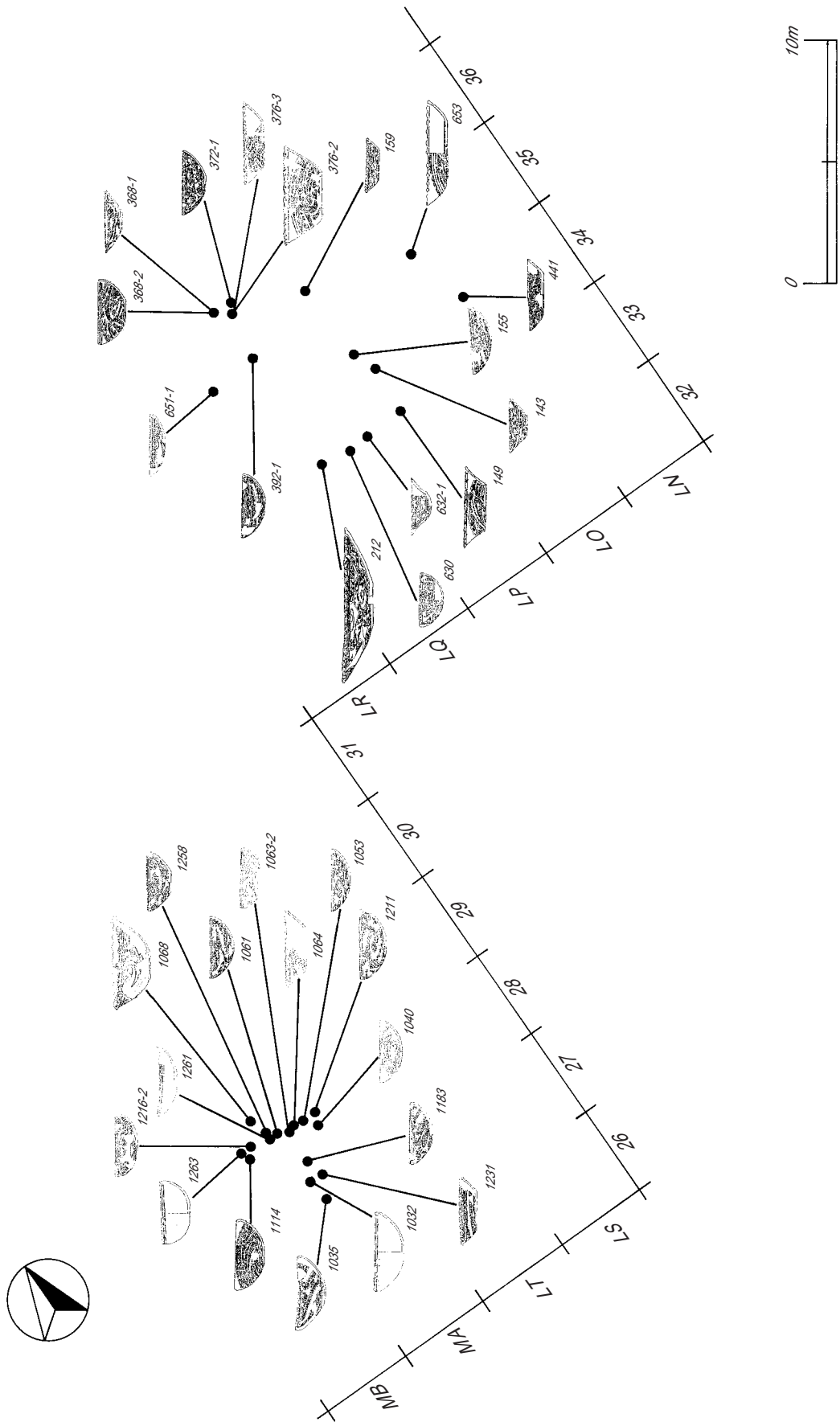
第18図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞C1式 (深鉢)



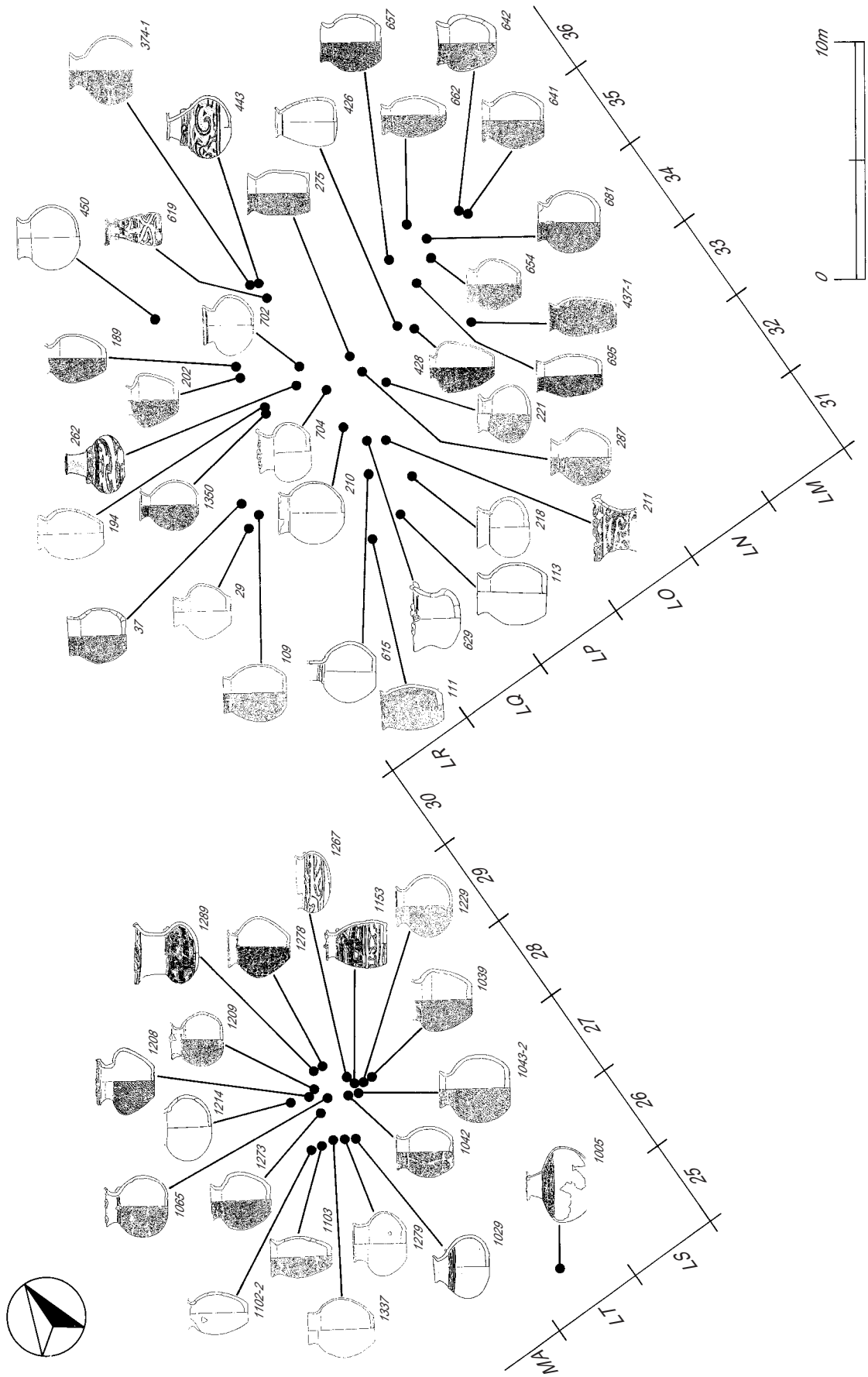
第19図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土器分布図 (点取り遺物) 大洞C1式 (台付鉢)



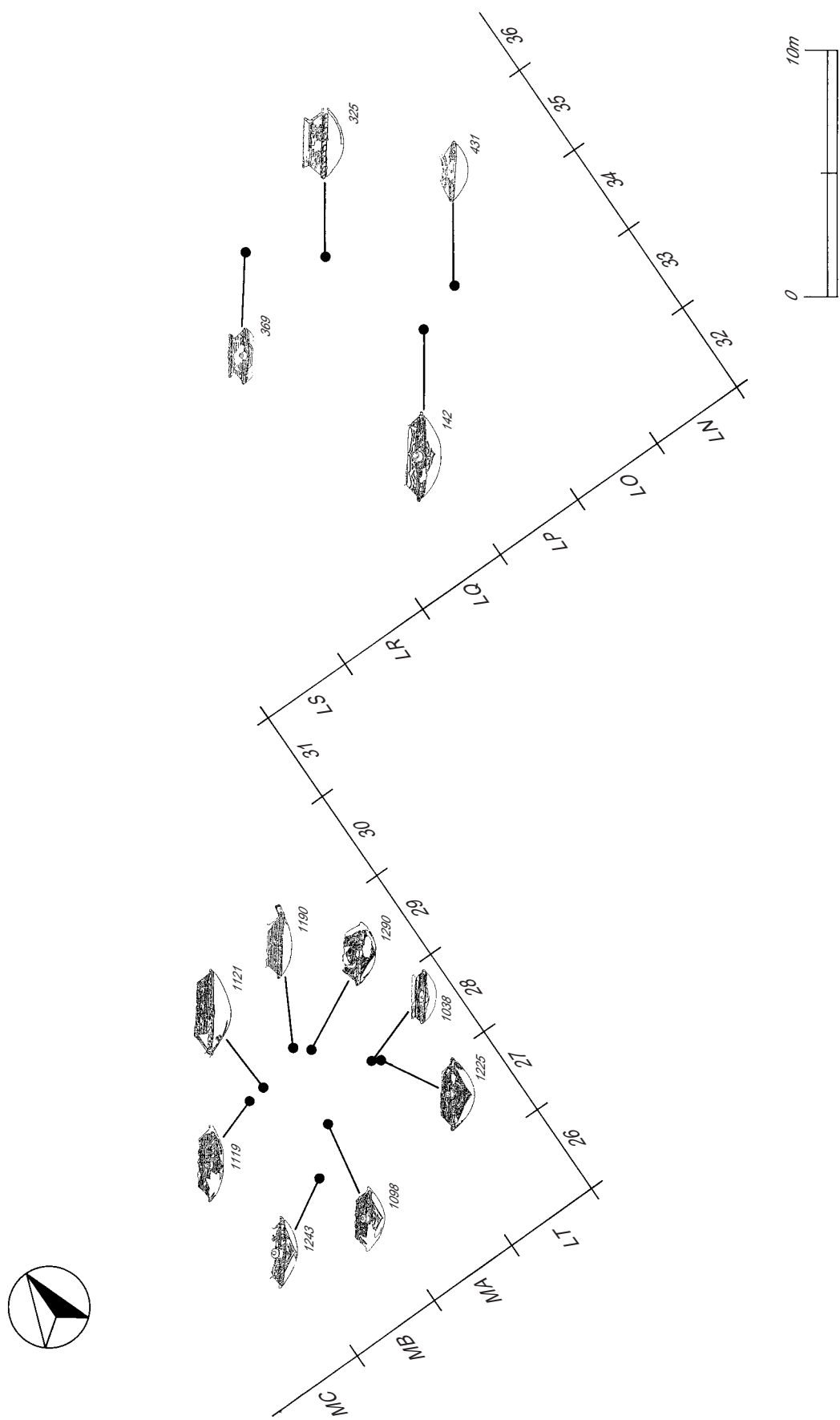
第20図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞C1式 (鉢)



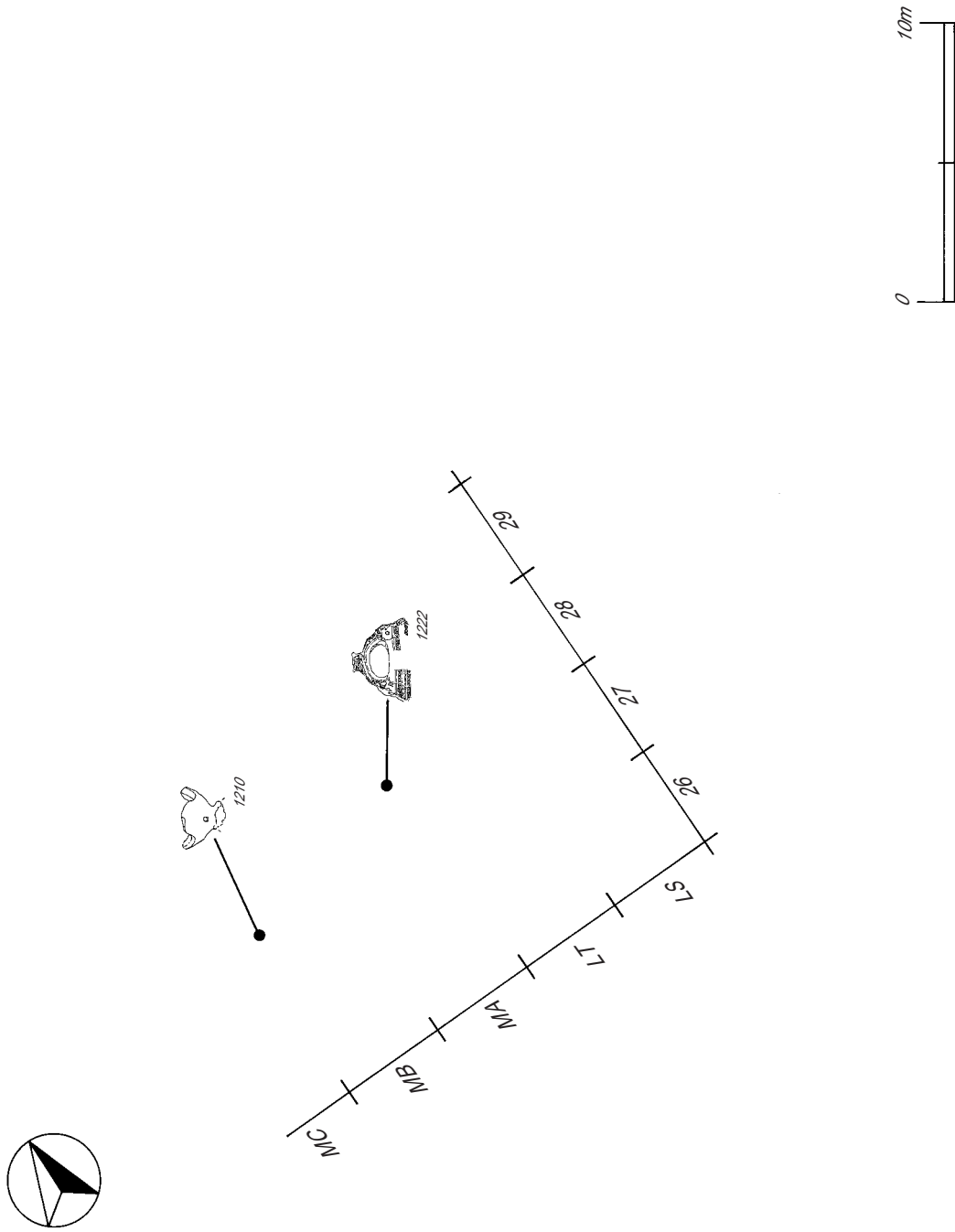
第21図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土器分布図 (点取り遺物) 大洞C1式 (浅鉢)



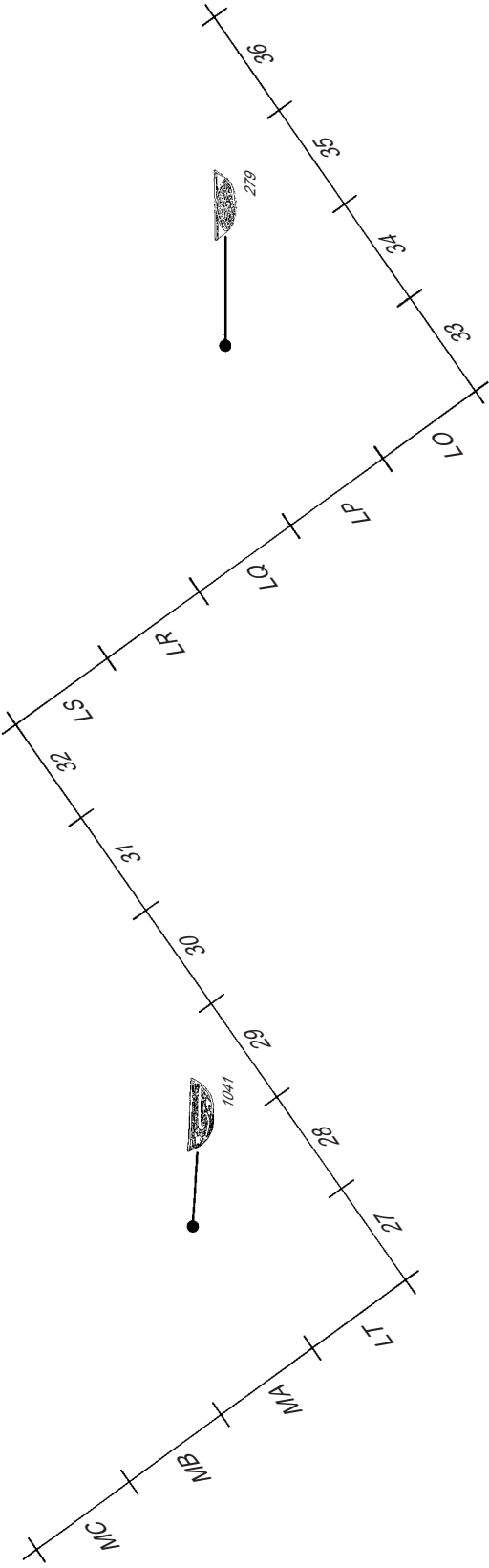
第22図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞C1式 (壺)



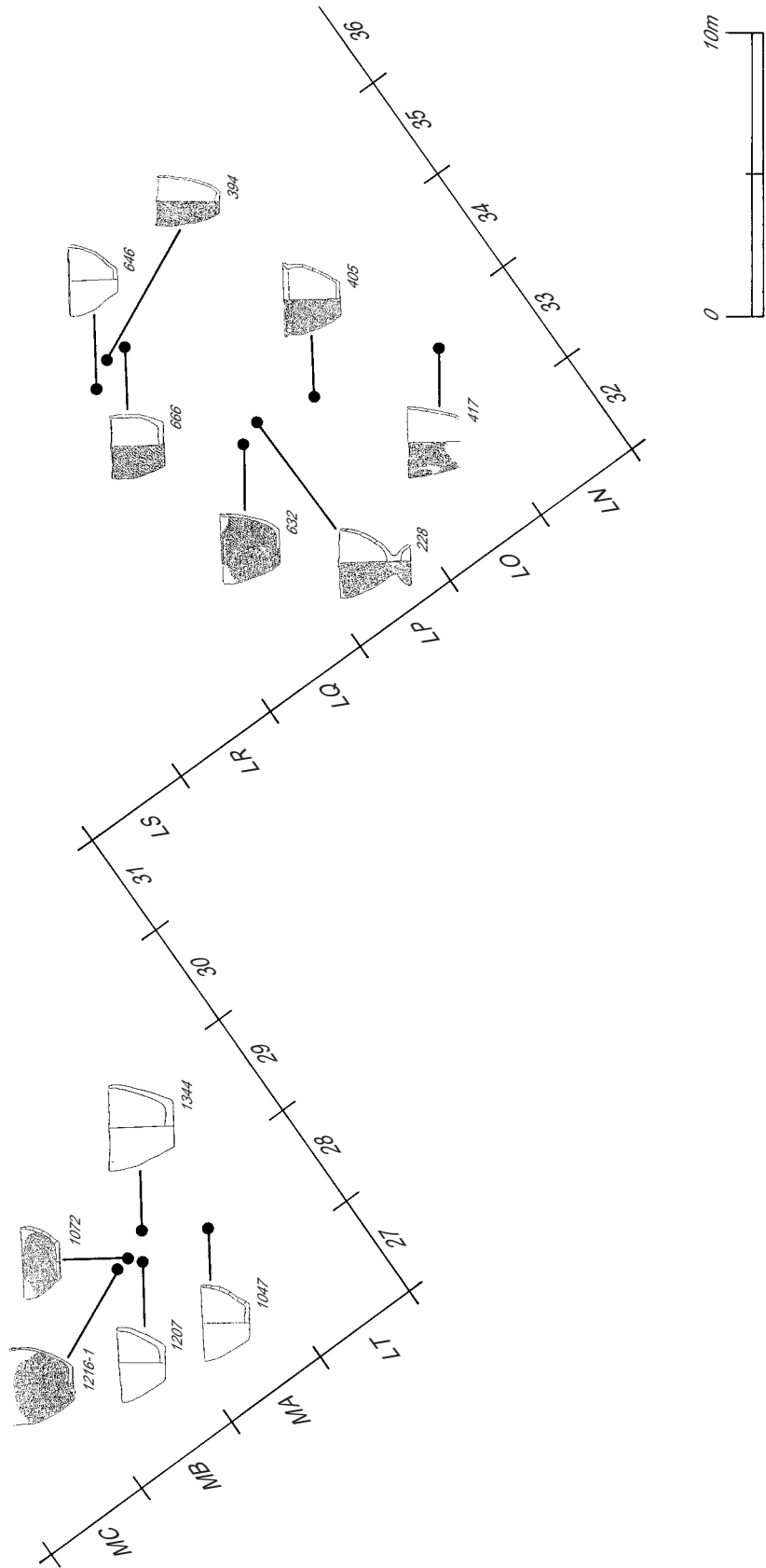
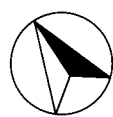
第23図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞C1式 (注口土器)



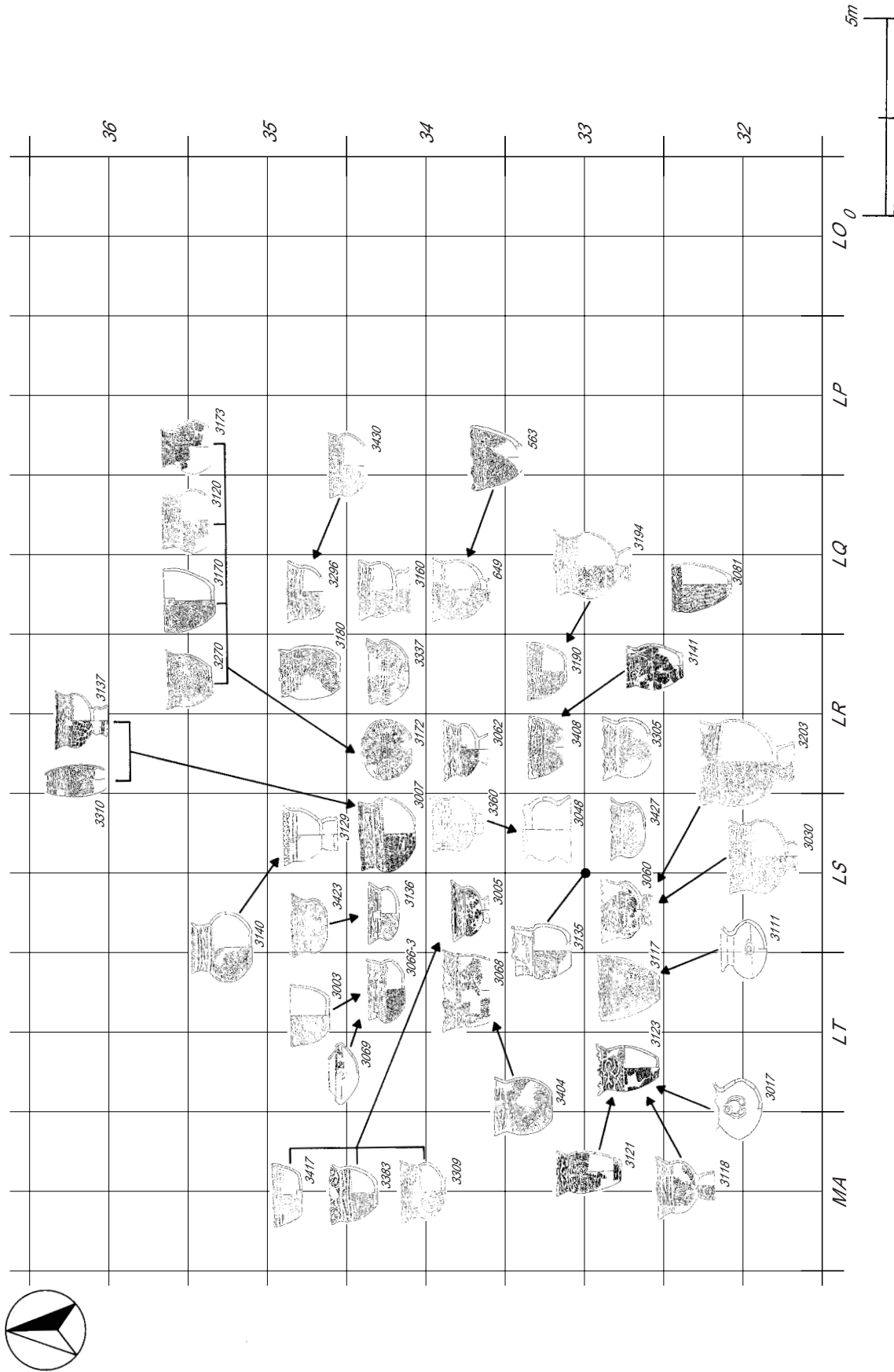
第24図 2号捨て場(ST184)出土土器分布図(点取り遺物)大洞C1式(香炉)

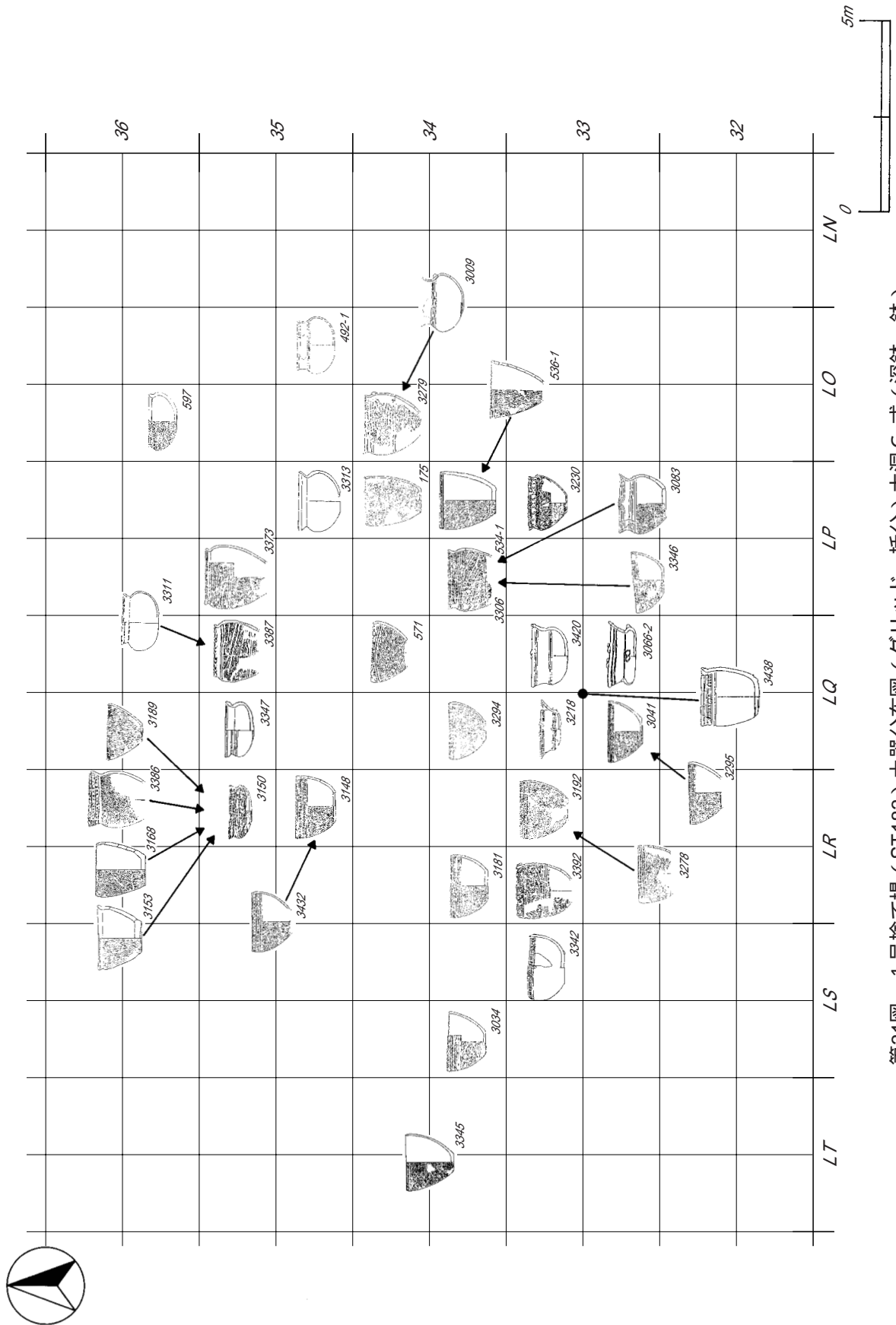


第25図 1・2号捨て場 (ST183・184) 出土土器分布図 (点取り遺物) 大洞C2式 (浅鉢)

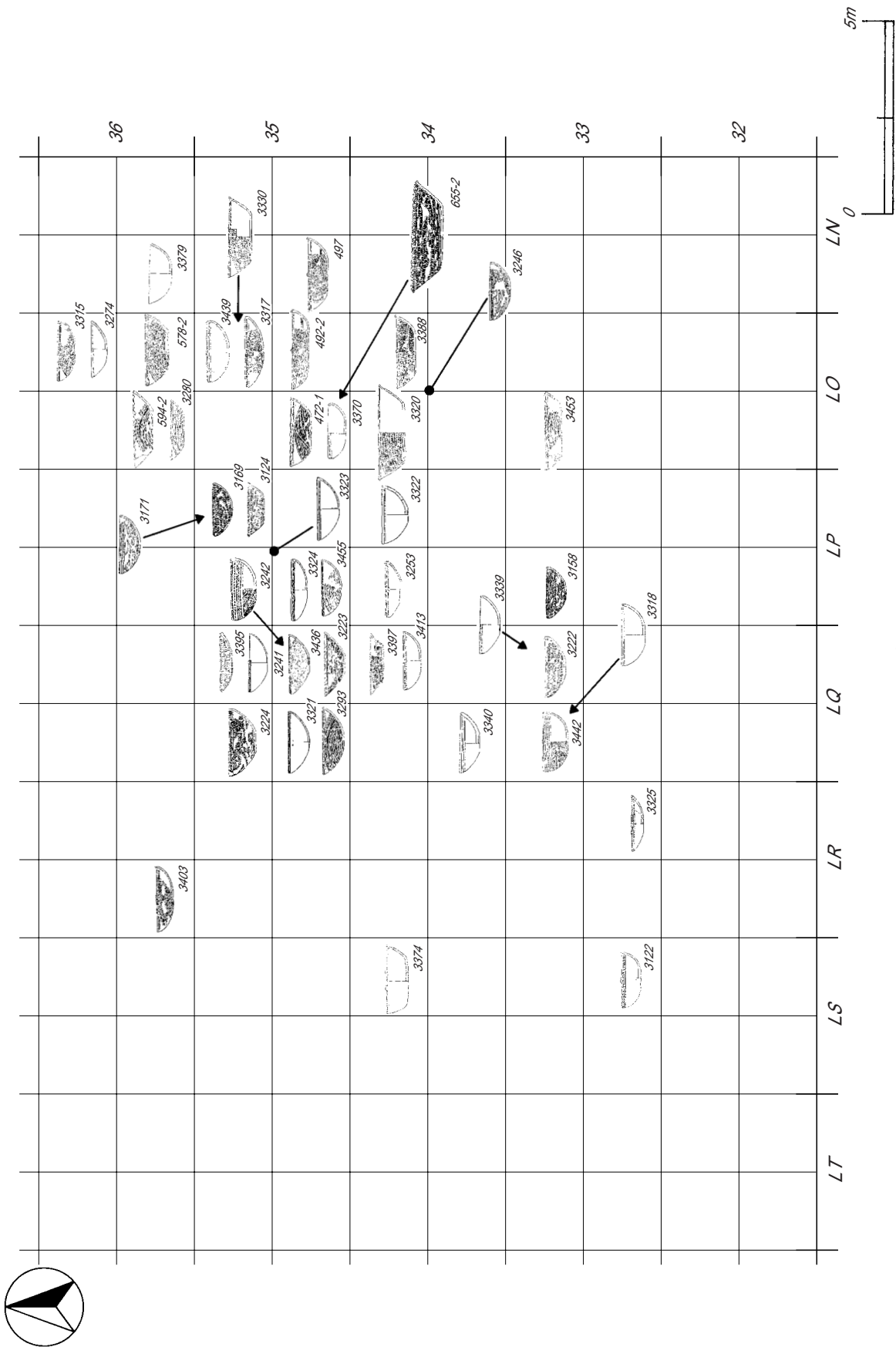


第27図 1・2号捨て場（ST183・184）出土土器分布図（点取り遺物）晩期無文土器（深鉢・台付鉢・鉢）

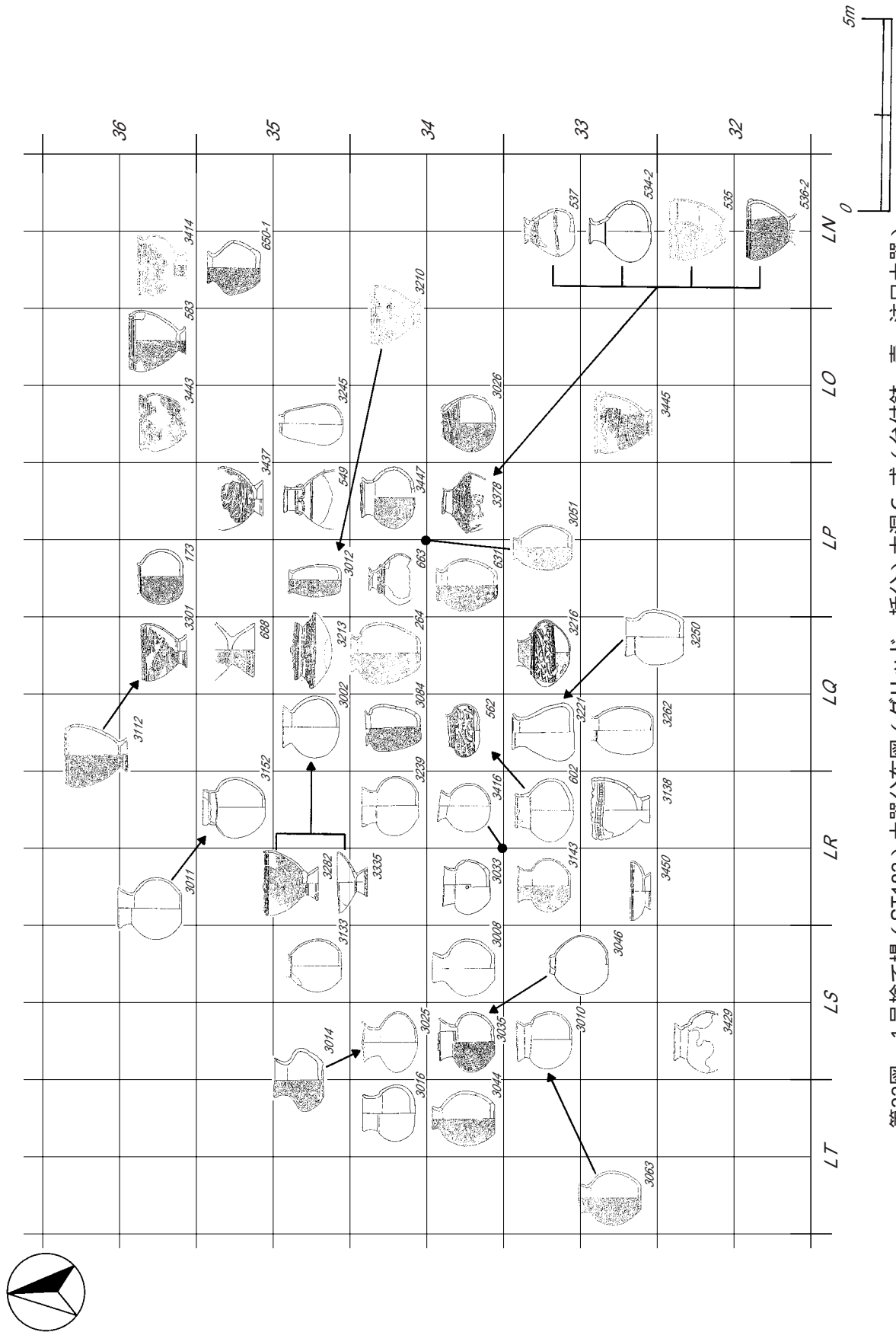




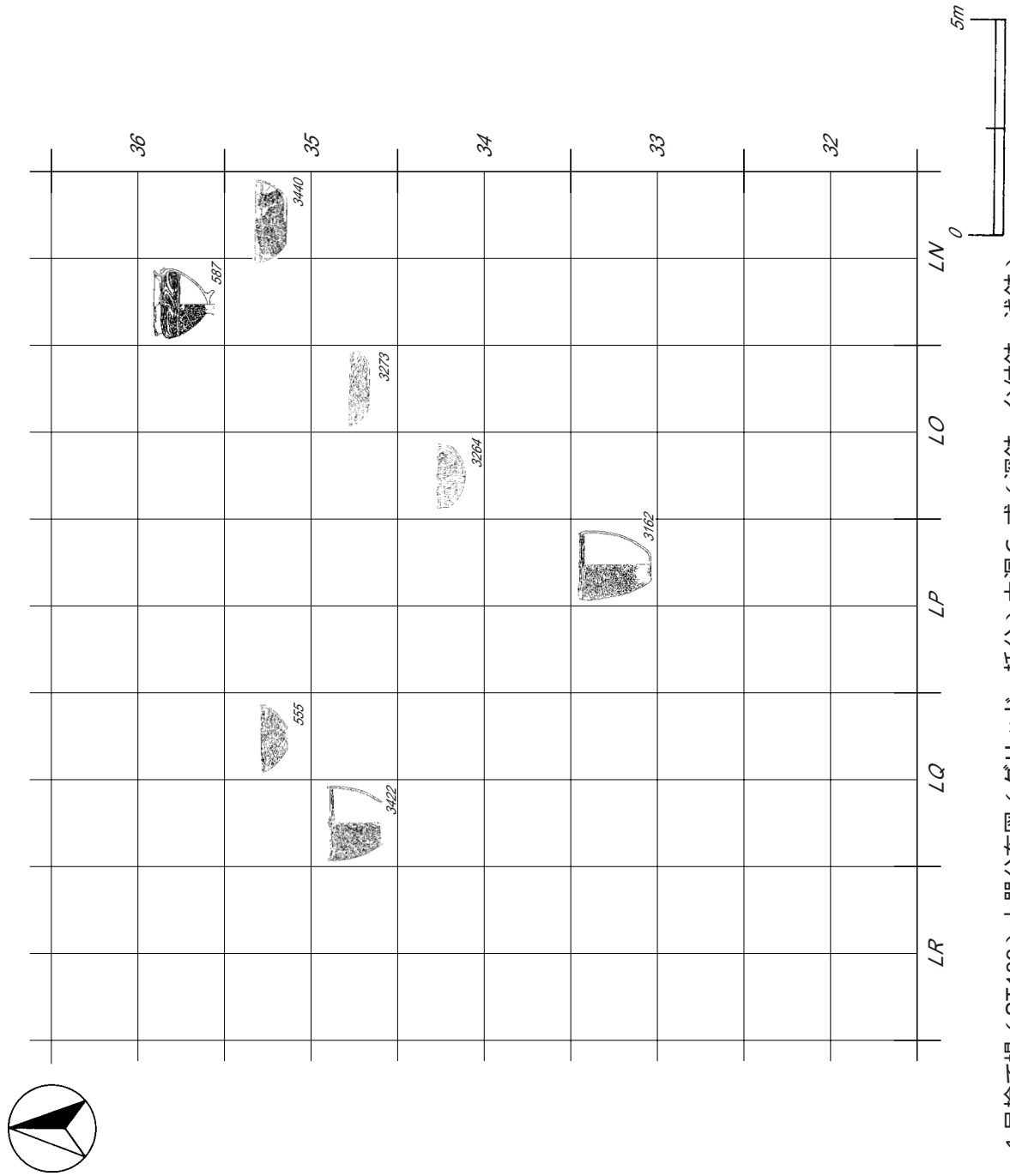
第31図 1号捨て場 (ST183) 土器分布図 (グリッド一括分) 大洞C1式 (深鉢・鉢)



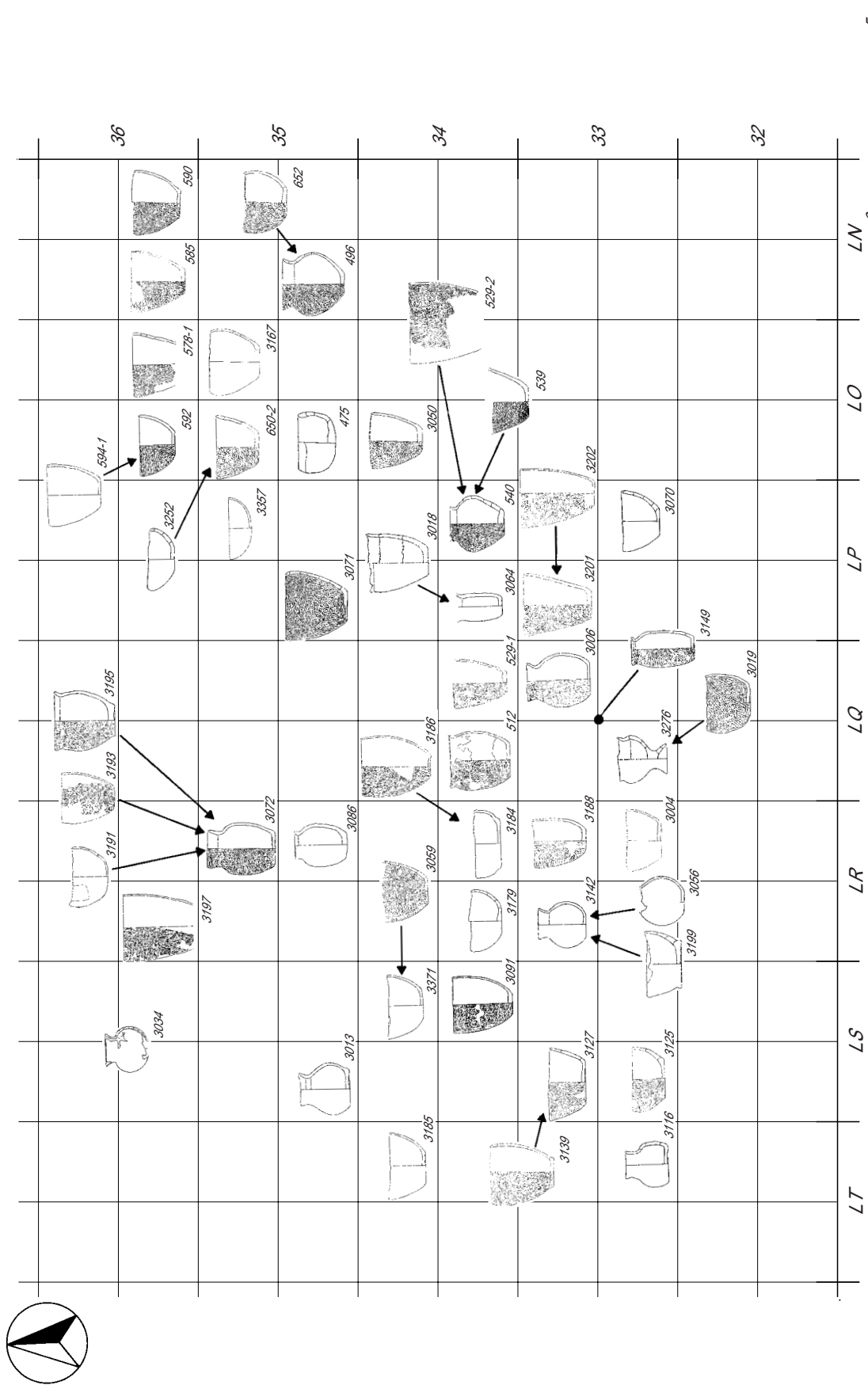
第32図 1号捨て場 (ST183) 土器分布図 (グリッド一括分) 大洞C1・C2式 (浅鉢)



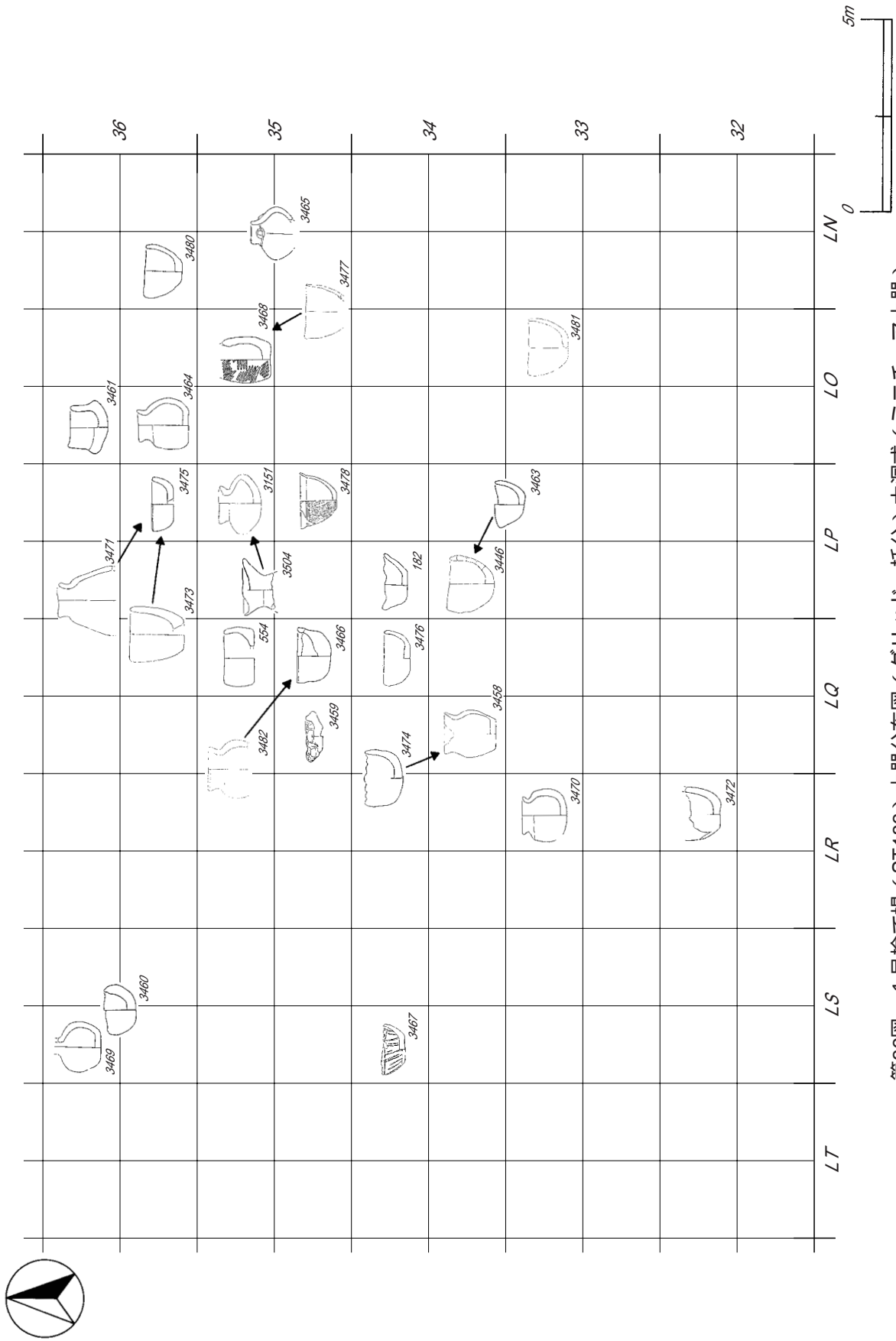
第33図 1号捨て場 (ST183) 土器分布図 (グリッド一括分) 大洞C1式 (台付鉢・壺・注口土器)



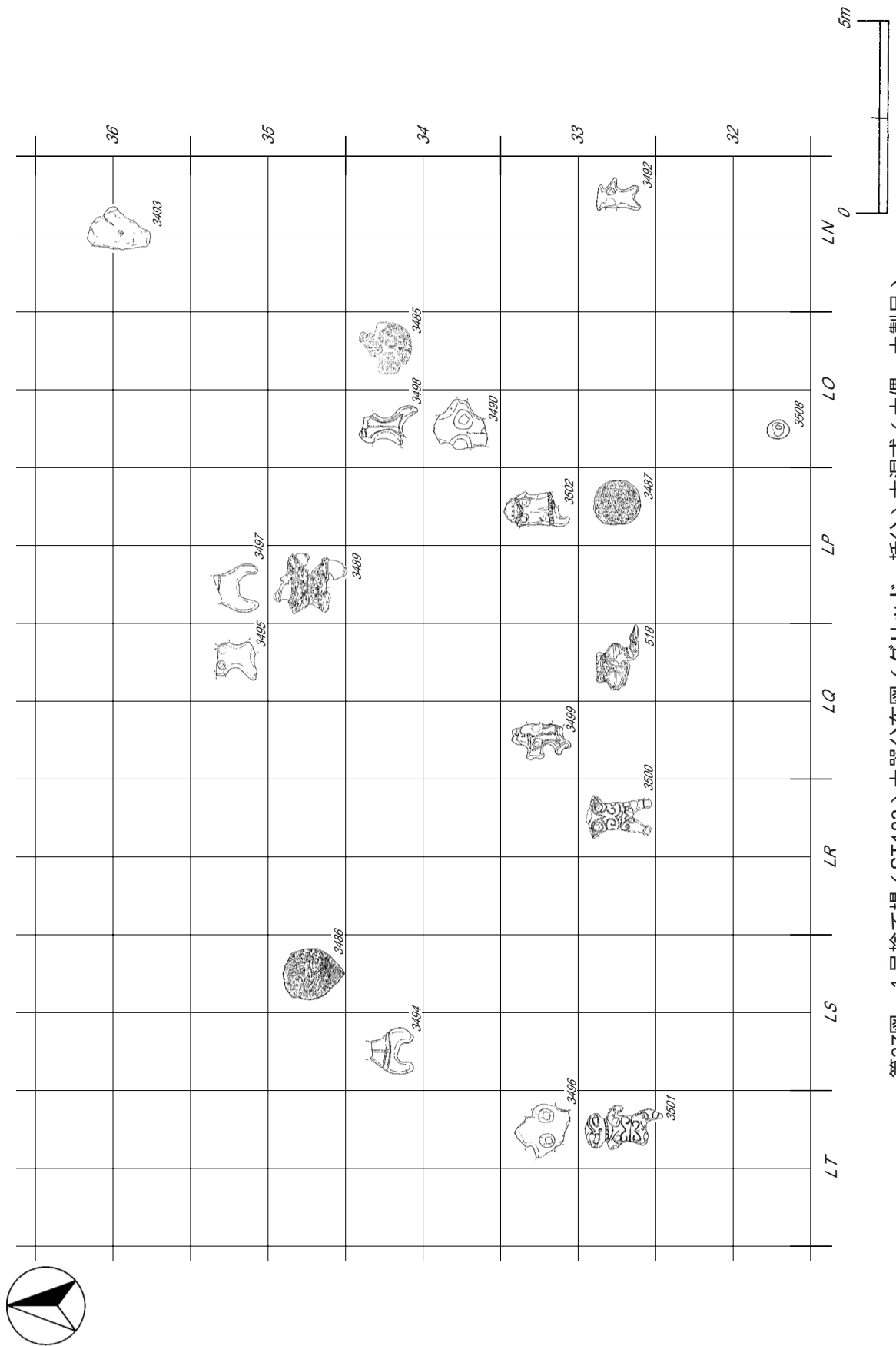
第34図 1号捨て場 (ST183) 土器分布図 (グリッド一括分) 大洞C₂式 (深鉢・台付鉢・台付鉢・浅鉢)



第35図 1号捨て場 (ST183) 土器分布図 (グリッド一括分) 晩期無文土器 (深鉢・台付鉢・鉢・壺)



第36図 1号捨て場(ST183)土器分布図(グリッド一括分)大洞式(ミニチュア土器)



第37図 1号捨て場 (ST183) 土器分布図 (グリッド一括分) 大洞式 (土偶・土製品)

内の前半部分、すなわちベンガラ生産工房内で行われた原石選択から剥片剥離工程までを明確に遺存したものとして、きわめて重要である。

ベンガラ生産工程の前半部分が明確となったことから、赤色顔料が付着した石皿・磨石の分布を明らかにすることで、工程の後半部分を見つける必要があり、遺跡内外における工程別異所製作をも想定した将来的調査・研究が望まれる。

2 2号捨て場（S T 184、『遺構篇』南西部捨て場）

概要

遺構内の土器分布を第8～16・18～27・38～42図に掲げた。グリッド一括で取り上げた完形土器は、主なものを選択して提示している。

MA28グリッドに土器集中のピークがあり、大洞B₂式期から大洞C₂式期まで変わらないことを先述した。1号捨て場が広がりを持つのに対し、MA28グリッドを中心として狭い範囲に異常な集中区を形成する点が異なっている。

2m四方の小グリッドに対する土器重量の等偏差値線を描いたものが第2図bである。第1図aと分布形状が変化しているのは、2mグリッド取り上げ遺物に限定した土器重量で再計算していることによる（第1図aでは4mグリッド一括取り上げ遺物を含めて計算している）。

MA28a・b・c、MA27c、MB27d、MB28dの6小グリッドにまたがる大きなピーク以外に、MA25c、MA26c、MB28bの3カ所にも小さなピークがある。また、MD26cにも独立した分布域が形成されている。

次に土器片数を元に時期別のピークの移り変わりをみる。MA28グリッドでは、大洞B₂式期には、土器片数45点中31点68.9%が小グリッドcにある。つまり、2号捨て場はMA28cグリッドを中心として形成が始まったといえる。

大洞BC式期では、MA28bグリッドに259点49.8%、MA28cグリッドに164点31.5%が集中しており、最大値が小グリッドcの南にある小グリッドbへ移動しつつあることがわかる。

大洞C₁式期となると、MA28グリッド出土遺物2,176点の内、MA28bグリッドで1,081点49.7%、小グリッドaで606点27.8%となり土器集中区は南側への移動を完了している。小グリッドcでは377点17.3%と小グリッドdの112点5.1%に比べれば多いが、相対的な地位の低下が著しい。

大洞B₂式期

破片資料ではMA28cで、鉢が出土数量偏差値58と最も多く出土している。この時期の遺跡内において、出土数量偏差値が50を超える唯一の地点であり、2号捨て場の形成がこの地点から始まっていることを示す。

地点別特化度偏差値では、MB28bに注口土器、隣接するMB28aとMB27dでは浅鉢が特化度偏差値50以上となる。MA28cには偏差値49と低いながら台付鉢（台のみ）が出土しており、大量の鉢と少量の台付鉢がセットとなる。

大量に出土する鉢がMA28に、それ以外の器種がMB27d・MA28a・bにまとまっており、各器種の配置関係がわかる。

完形土器の分布（第8図）でも、MA28cに鉢 1217 - 2・浅鉢 3286・台付鉢 1154・注口土器

1332がまとまっている。その南側MA28bにも台付鉢 3100が出土しており、これらがセットをなす。

MB27b・dには台付鉢 3110、MC27aには浅鉢 3365がまとまり、約2m離れたMC27dで注口土器 1262が出土している（第38図）。これは、鉢以外の土器破片出土数の特化度が高い地点と重なる。

MA26bとMA25cでは鉢 1142（第8図）と台付鉢 3398があり、約2m東側のLT26bでは注口土器 3113（第38図b）が出土している。これらに伴う精製鉢は出土していないので、単体で安置されていた可能性がある。ただし、無文土器の分布を見たときにMA25dとMC26cの出土量偏差値はそれぞれ70と141と高いことから、無文土器が形成するピークに伴って安置されていた可能性も高い。

MC28dにある台付鉢 3107（第38図b）は単体で安置されていた可能性が高い。このグリッドはどの時期・器種をとっても出土量偏差値が44と極めて低く、重量偏差値でもMC28全体で50、2m小グリッドではMC28aのみが偏差値60で、他は49以下である。したがって、3107の台付鉢は、大洞B₂式期における2号捨て場の外縁を区画しておかれていたと考えられる。供伴するかは不明であるが、赤彩の無文壺・浅鉢の地点別特化度がMC28a・dで高く出ていることから、MA28を中心とした捨て場の外縁部であることは間違いない。

2号捨て場からわずかに離れて、単体の鉢がMC29（第44図）で出土している。捨て場形成期の最初は、このような単体土器の安置から始まると考えられる。

大洞BC式期

完形土器は、MA28c・MB28dで出土数量偏差値が136・106と高率で出現する。MA28aでは94でこれら3グリッド以外はMA28aで58、他はいずれも40台である。器種ごとの分布を見ていくと、出土数偏差値が138と最も高いのは、MA28cにある注口土器6個体 1056・1288・1272・1215・1257・1169である（第15図、第39図a）。東に隣接するMA28dではさらに4点 3204・3206・3207・3211がまとまっており、西に隣接するMB28dでは 1120が出土している。

次に高率を示すのは、浅鉢である。数量偏差値119のMA28b、偏差値100のMB28dという分布である。3095・3289・3405・1163・2・3089・3236・3328などが出土している（第13図、第39図b）。点取り遺物・グリッド一括遺物ともに出土地点が、注口土器とは異なる。

破片資料では、有文精製鉢が最も大量に出土している。MA28b・cでは、出土数量偏差値が100以上となる。1号捨て場における当該期の有文精製鉢に対する偏差値の最大値が77であることをみれば、いかに圧倒的な数量の有文精製鉢が集積されているかがわかる。2号捨て場内でも他器種の偏差値では最大70を超える注口土器だけで、他は60台以下であることから理解される。

注口土器の出土数量偏差値は、MA28bで76、MA28cで70と鉢に次いだ地位を占める。浅鉢もMA28bで偏差値66と第3位である。出土数量偏差値50以上のグリッドはMA27c、MB27d、MB28dの3小グリッド以外は全てMA28であり、中でも小グリッドb・cに集中している。これら3器種、鉢・注口土器・浅鉢が、当該期の土器3点セットである。

破片資料では、粗製深鉢がMB27cで特化度偏差値100と集中区を作る。完形土器・破片資料ともに当該期時の集中度は著しく、1号捨て場に先行して形成される。殊にMA28に集積され、分布域があまり広がらないことも、1号捨て場との違いである。

大洞C₁式期

完形土器・破片資料ともに、MA28cに集中する。完形土器全点で数量偏差値220、器種ごとにわけ

第2章 捨て場と遺物

た出土数量偏差値では290と前段階に比べて大量に出土している。土器組成が大洞BC式期と変わって、浅鉢が第1位となり前代1位の注口土器は急激に減少している。それは、数量偏差値上位を占めるグリッドに全く現れなくなること、そして遺物の項で詳述する土器組成比に明確に示されている。

数量偏差値100を超える2mグリッドは、9つある。200台2グリッドMA28b・c、100台7グリッドMA28a～d・MB28d・MA26cで、浅鉢・壺・鉢である。これらの傾向を破片資料で検証する。

破片資料の数量偏差値が100を超えるのは、MA26c・MA27c・MA28a～dの6グリッドである。浅鉢がMA28bに出現するが、完形品組成とは違い壺は上位に入らず代わりに台付鉢が現れている。完形品に壺が多いのは、比較的小型で優品が目立つために、調査時に選択的に計測・整理されたことによるバイアスだろう。事実、破片資料ではMA28aでの出土量偏差値は57で、上位を占めているわけではない。粗製壺をあわせた土器組成比をとっても全量の4.4%のみであるから、完形の壺に対する発掘・整理の現場での「注目度」がいかに高いかわかる数字となっている。

MA28bには、鉢・浅鉢がセットで出現している。この組み合わせが本来のものだろう。これに壺・台付鉢が加わると考えられる。

MA26cにも鉢が出土量偏差値172と目立つ。地点をずらして小さなピークを形成している。他の器種はいずれも少量で、MA28b・cが浅鉢・台付鉢とともに3点セットを構成するのとは異なる。

特化度偏差値の分布では、台付鉢が目立つ。MA25～MA27まで2mの小グリッドごとに断続的なピークが現れている。このことは、数量偏差値分布で浅鉢・鉢がMA28b・cに集中して他に出てこないことと対照的といえる。つまり、浅鉢・鉢を中心に土器を集積し、周辺に至ると台付鉢がまばらに置かれることを示す。

大洞C₂式期

完形土器は、MA28a・dから浅鉢と台付鉢が1点ずつ出土している（第41・46図）。破片資料は、MA28aで鉢が1点のみである。どちらも、非常に少なく当該期の遺物分布は1号捨て場にある。

無文土器

完形土器では、無文土器が多く出ているとはいえない。それが実態を示していないのは、今までも述べてきたとおり調査方法におけるバイアスである。それでも、MA28cで鉢が出土数量偏差値81となっている。完形土器では、様々な器形がまんべんなく少量ずつ拾われている。

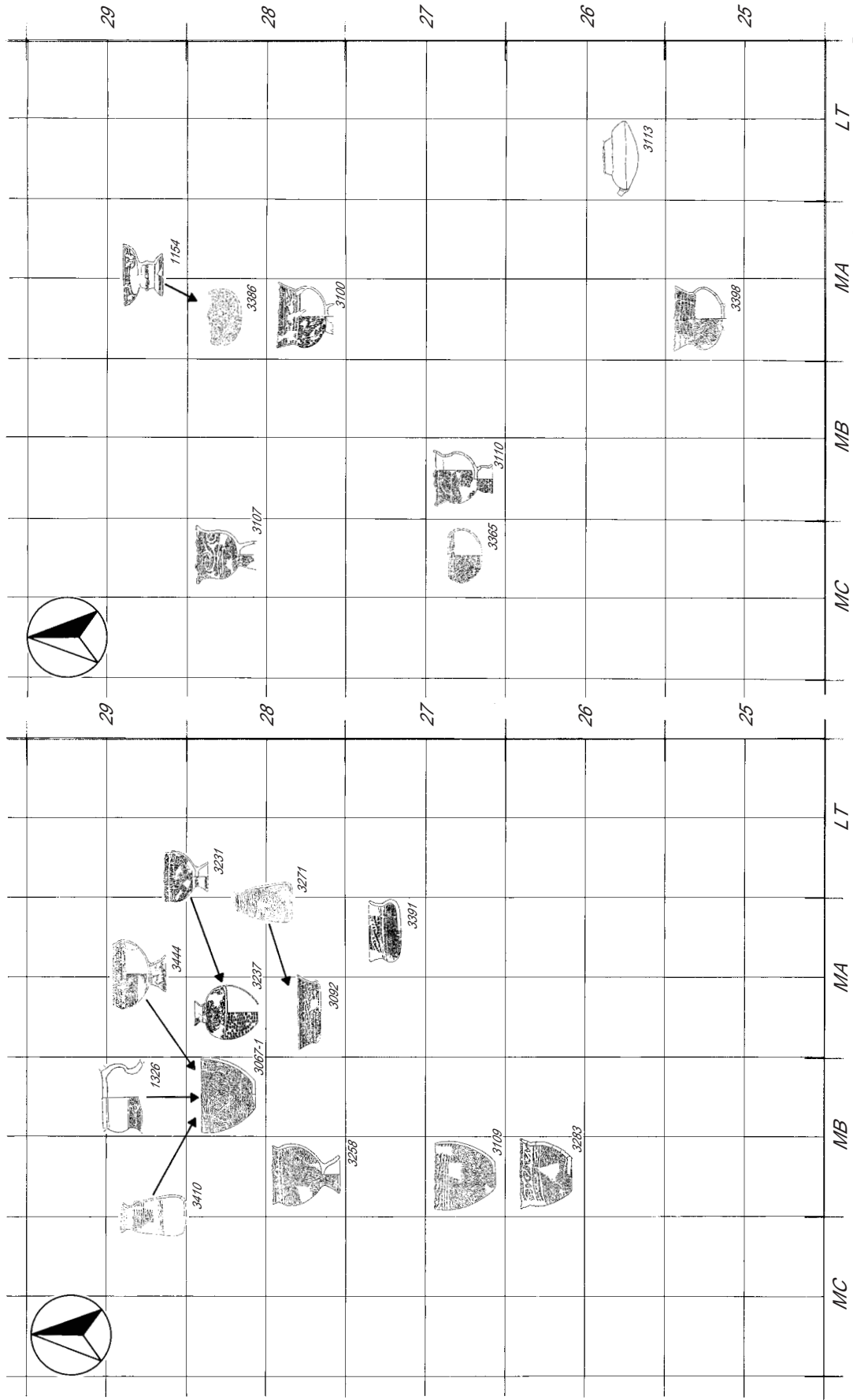
破片資料では、出土数量偏差値100を超える2mの小グリッドは7つある。全て鉢で、特にMA28bは偏差値228と遺跡内全体での最大値を示している。数量偏差値100以下では、深鉢がMA28aで81と鉢以外の器種では最高値を示している。また、MA28bでも偏差値78となっている。鉢が大量に出土するMA28cに隣接して深鉢がおかれていることがわかる。

赤彩されることの多い無文土器だが、MB27bとMB28bに壺と台付鉢が1点ずつ出土しているのみである。型式が判明する物の多くは大洞C₁式の浅鉢で、MA28b・cに集中していることから、これらとは若干分布を分けておかれていることになる。

石器

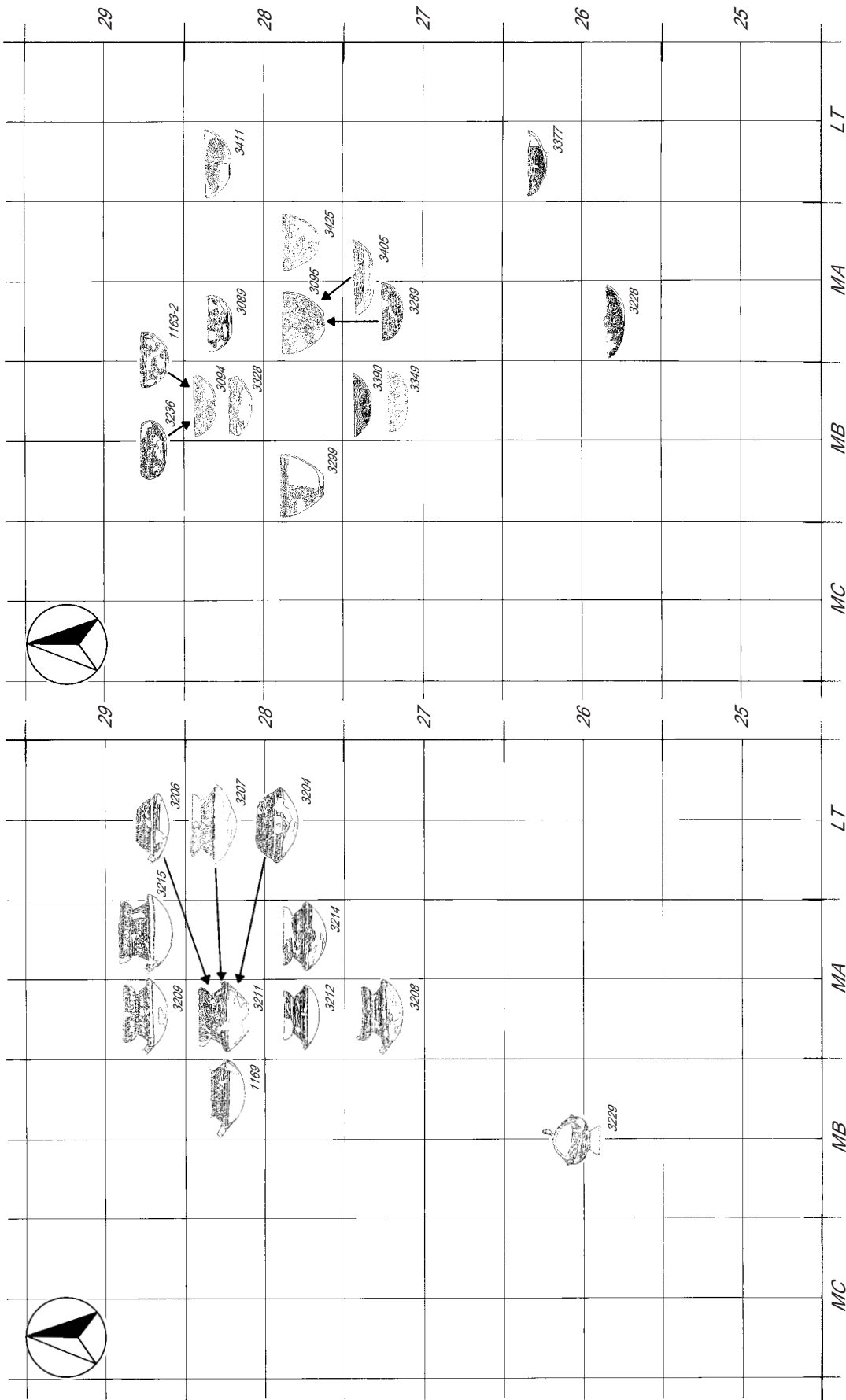
2,152点15.5%が出土した。狩猟具は、石鏃246点11.4%、尖頭器50点2.3%が出土している。

加工具は、1,187点55.6%出土している。磨製石斧は、21点1.0%出土している。スクレイパーは、568点26.4%出土している。CSCは75点3.5%出土している。鋸歯縁石器は、16点0.7%出土している。



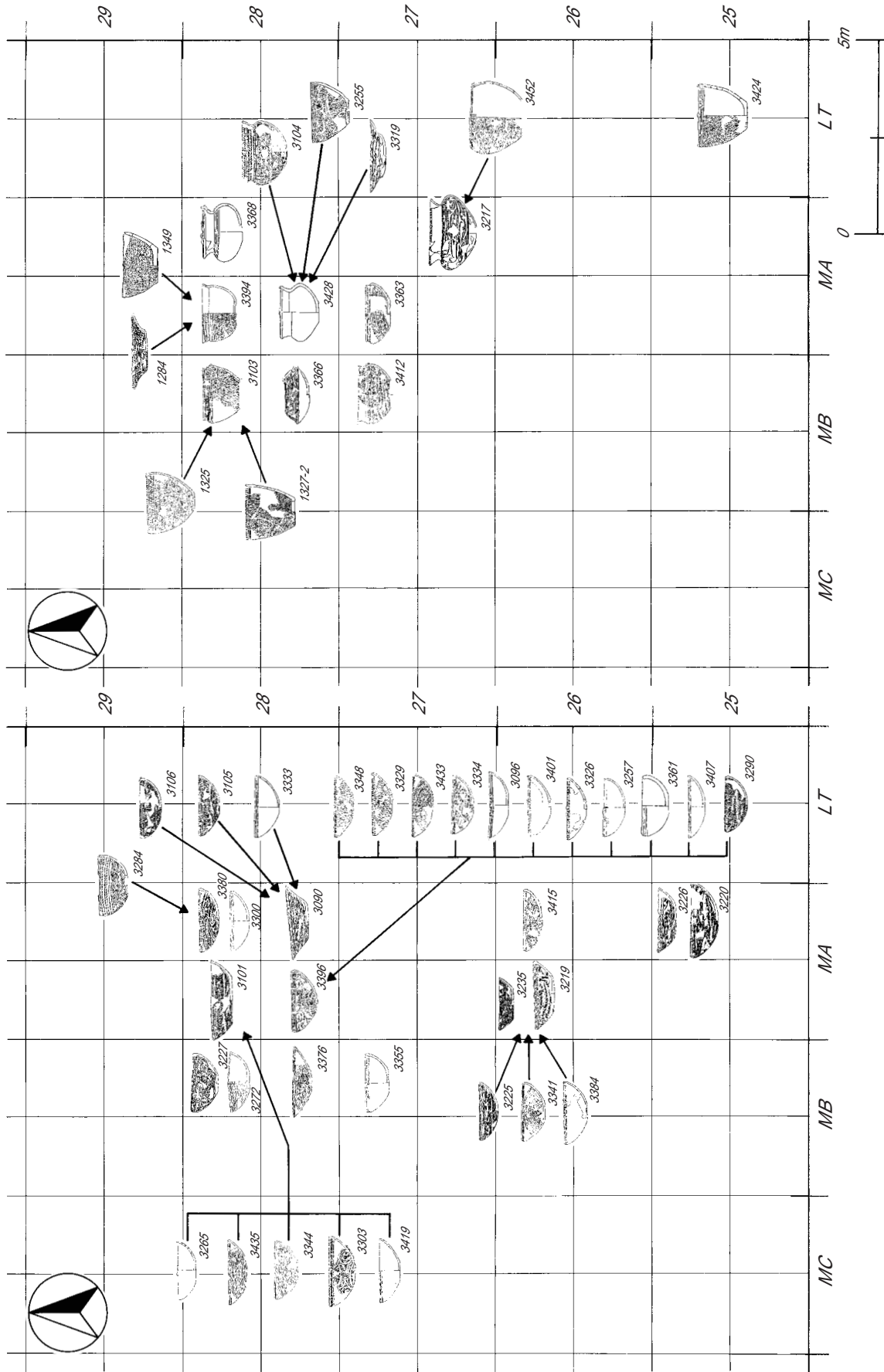
第38図 a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞BC式(台付鉢・鉢・壺)

第38図 b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞B₂式(台付鉢・鉢・浅鉢・注口土器)



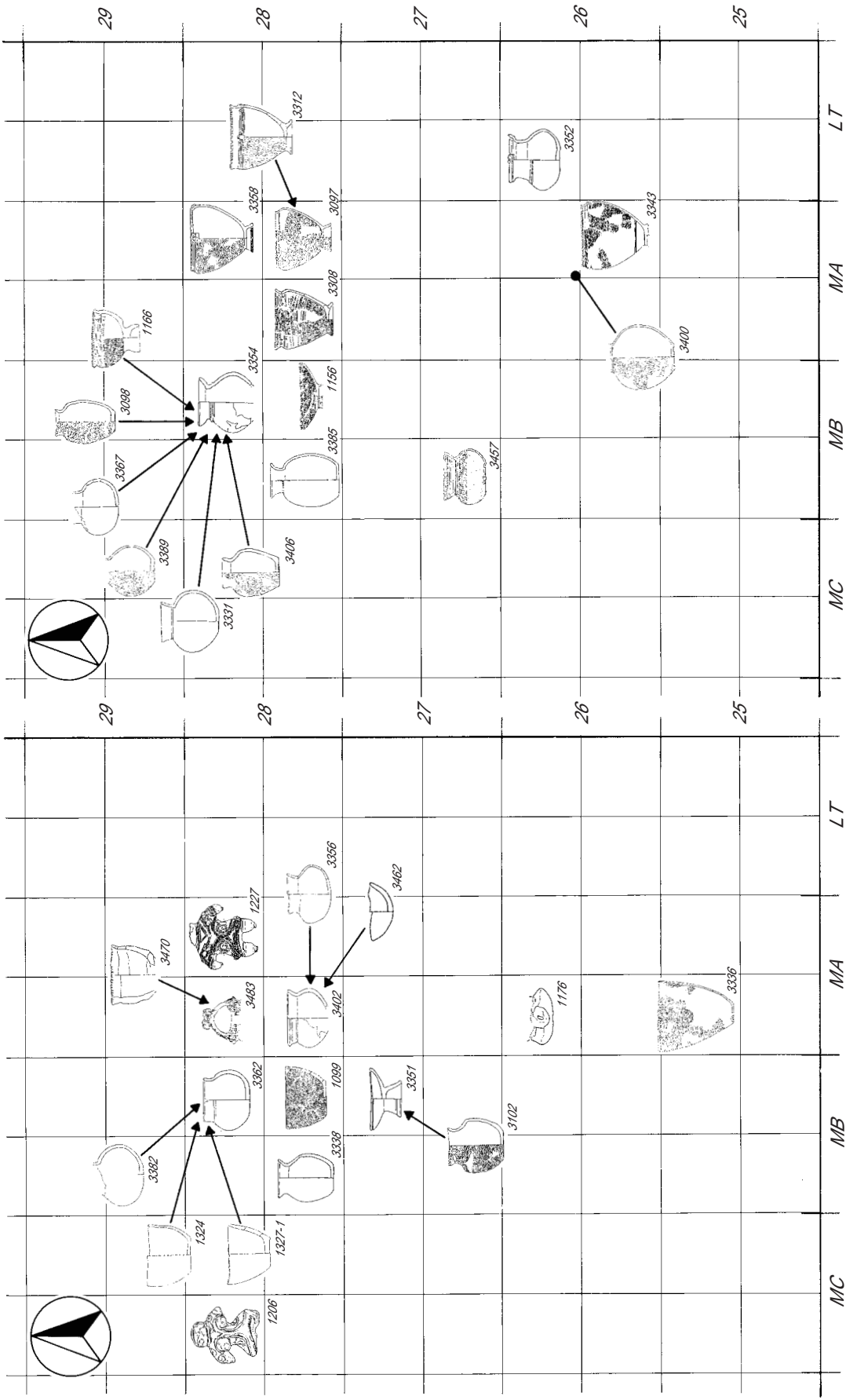
第39図 a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞BC式(注口土器・香炉)

第39図 b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞BC式(浅鉢)



第40図 a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞C1式(浅鉢)

第40図 b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞C1式(深鉢・鉢・注口土器)

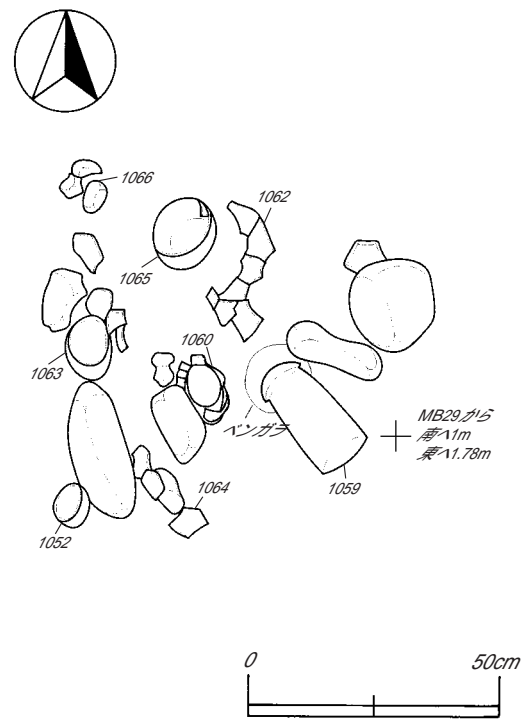


第41図 b 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
大洞C1式(台付鉢・壺) 大洞C2式(浅鉢)

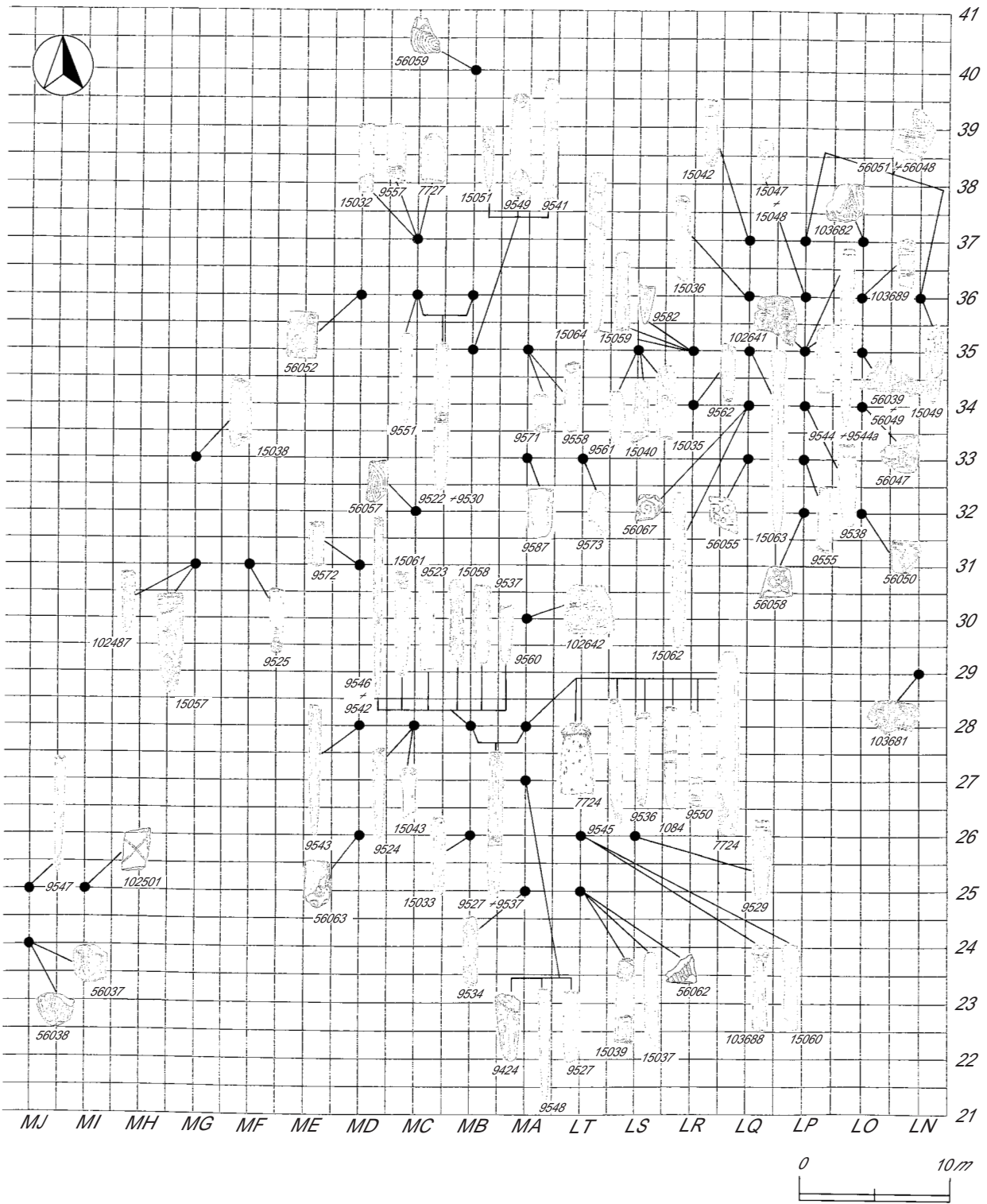
第41図 a 2号捨て場(ST184)土器分布図(グリッド一括分)
晩期無文土器(深鉢・台付鉢・鉢・壺) 大洞C1式(香炉・土偶)



第42図 a 2号捨て場 (ST184) 土偶出土状況



第42図 b 2号捨て場 (ST184) 石棒祭祀



第43図 捨て場出土石棒・石剣・岩版分布図

挟入石器は、34点1.6%出土している。石匙は、58点2.7%出土している。石籠は18点0.8%出土している。石錐は177点8.2%出土している。楔形石器は、124点5.8%、敲石は、96点4.5%出土している。

調理具は、104点4.8%出土している。石皿は、25点1.2%出土している。磨石は、64点3.0%出土している。凹石は15点0.7%出土している。

祭祀具は、105点4.9%出土している。石棒は、40点1.9%出土している。円盤状石製品は、39点1.8%出土している。異形石器・有孔石製品は、19点0.9%出土している。岩版は、7点0.3%出土している。本捨て場では、石棒の出土率の高さが目を引く(第43図)。石器総数は1号捨て場の3分の1だが、石棒出土数はほぼ変わらない。遺跡全体でも146点しか出土していない石棒が40点27.4%も出土している。中でもグリッドMA28とMB28への集中度が高い。

出土状況でも、大形石棒 1056の出土状態はきわめて特異である(第42図b、第275図、図版20-5~8)。石棒先端直下に赤色顔料が撒かれており、周辺からは大量の土器 1052・1060~1066が出ている。まさに石棒祭祀を示すものとなっている。礫に囲まれて出土した土偶 1227(第43図a、第160図、図版23-6)の出土状態を含めて、祭祀行為をそのまま残した状態である。

3 3号捨て場

遺構内の土器分布を第44~47図に掲げた。1・2号捨て場に比べて遺物の集中度が低く、4号捨て場と共に、調査中には捨て場と認識されなかった遺構である。しかし第1図aに掲げたクラスター分布を見れば明白な様に、1号捨て場の西側LT32~36の1列分を遺物分布の希薄地帯として挟んだ後、偏差値50以上のグリッドが集中して一定の分布域を形成している。したがって、1・2号捨て場に比べて反復利用の回数が少ない「形成初期」に留まる捨て場であると考えられる。

大洞B₂式期

完形土器は、MA36・MB36・MB37にまとまる(第44図)。中でもMA36に集中する傾向がある。台付鉢・鉢・注口土器のセットであることから、1回性の安置であったと考えている。

大洞BC式期

大洞B₂式期に比べて分布が西側に移動し、4号捨て場との中間地点に完形土器が分布する(第45図)。

大洞C₁・C₂式期

分布は稀薄となる(第46図)。特に大洞C₂式は単体出土と言っていい。

無文土器

1号捨て場との境界にあるMA35に多く集中している。破片資料は、数量偏差値100を超えるMB36・MB37を中心としてMC35~MD35まで、偏差値80を超えて分布している。

石器

888点6.4%が出土した。主だった22器種のうち、主体となるのは上位7器種である。第1位よりスクレイパー、石錐、赤礫剥片、石鏃、石匙、CSC、楔形石器の順となる。

狩猟具は、石鏃59点6.6%、尖頭器10点1.1%が出土している。

加工具は、553点62.2%出土している。磨製石斧は、6点0.7%出土している。スクレイパーは、239点26.9%出土している。CSCは45点5.1%出土している。鋸歯縁石器は、9点1.0%出土している。挟入石器は、20点2.3%出土している。石匙は、50点5.6%出土している。石籠は12点1.4%出土してい

第2章 捨て場と遺物

る。石錐は103点11.6%出土している。楔形石器は、41点4.6%、敲石は、28点3.2%出土している。

調理具は、28点3.2%出土している。石皿は、5点0.6%出土している。磨石は、18点2.0%出土している。凹石は5点0.6%出土している。

祭祀具は、40点4.5%出土している。石棒は、26点2.9%出土している。円盤状石製品は、3点0.3%出土している。異形石器・有孔石製品は、10点1.1%出土している。岩版は、1点0.1%出土している。本捨て場でも、石棒の出土率の高さが目を引く。石器総数は2号捨て場の半分以下だが、石棒は遺跡全体の出土数146点中26点17.8%が出土している。

4 4号捨て場

3号捨て場と同じく形成初期にある。遺構内の土器分布を第44～47図に掲げた。

大洞B₂式期

大洞B₂式期では、MI35に深鉢・台付鉢・注口土器が集中している（第44図）。破片資料では、MH35に鉢・深鉢がある。

大洞BC式期

土器の分布は、3号捨て場側へ移動する。3号捨て場でも4号捨て場へ分布域が移動する傾向があり、この時期3・4号捨て場が融合する（第45図）。

大洞C₁・C₂式期

分布は稀薄である。MH36における大洞C₂式浅鉢 3525の単体出土が注目される（第46図）。

無文土器

破片資料はMH35・MJ35に多く出土している。数量偏差値は80を超えている。

石器

132点0.9%が出土した。主だった22器種のうち、主体となるのは上位5器種である。第1位よりスクレイパー、楔形石器、CSC、石皿、石棒の順となる。他の3捨て場が工具類と赤礫剥片が主体とするのに比べて、調理具である石皿と祭祀具である石棒が主体器種に含まれる点が特異である。また、赤礫が出土していない。

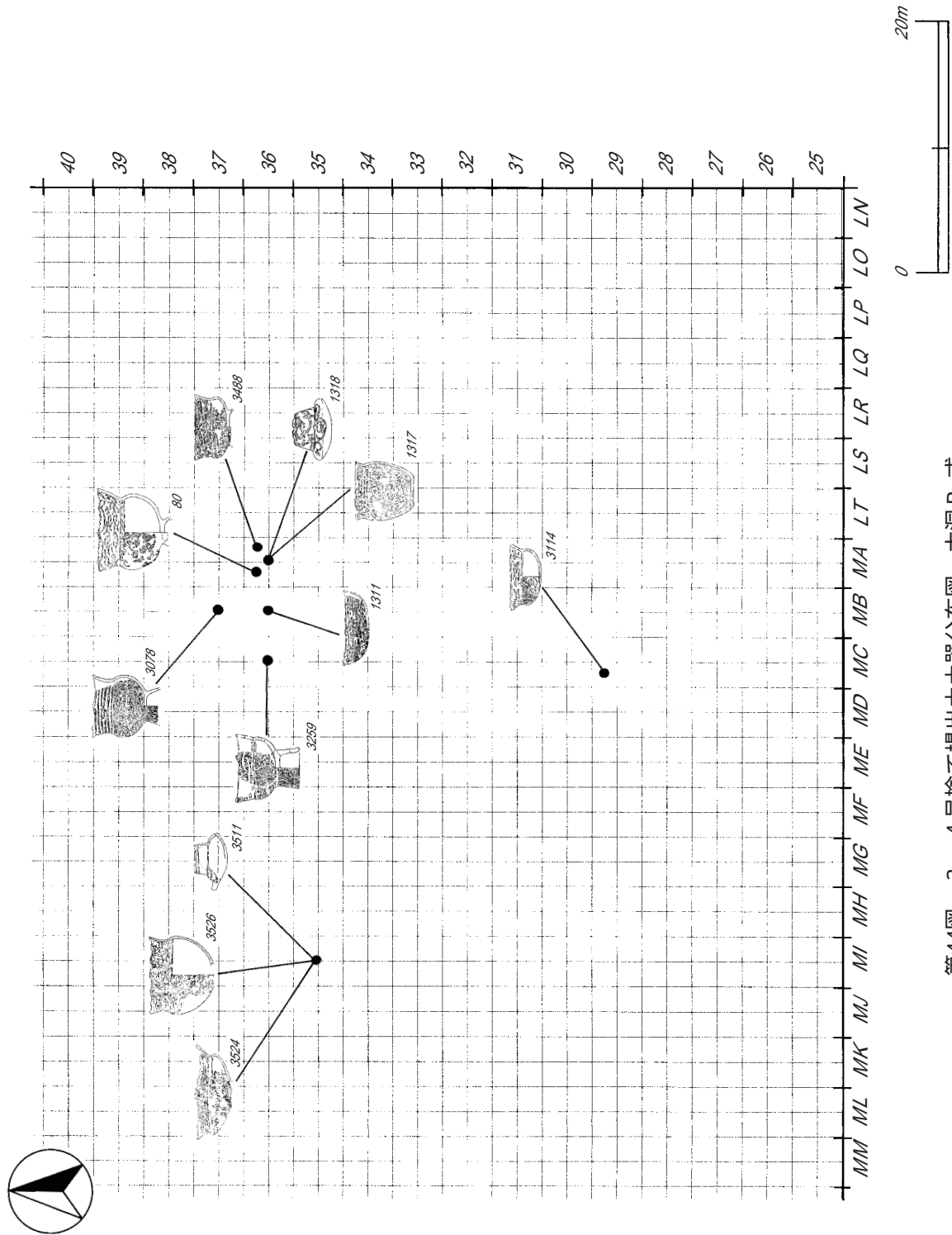
狩猟具は、石鏃2点1.5%、尖頭器4点3.0%が出土している。

加工具は、78点59.1%出土している。その内訳は、磨製石斧が2点1.5%、スクレイパーが39点29.5%、CSCが12点9.1%、石匙が6点4.5%、楔形石器が14点10.6%、敲石が5点3.8%である。スクレイパーが圧倒的に多いのは、他の捨て場と共通する。

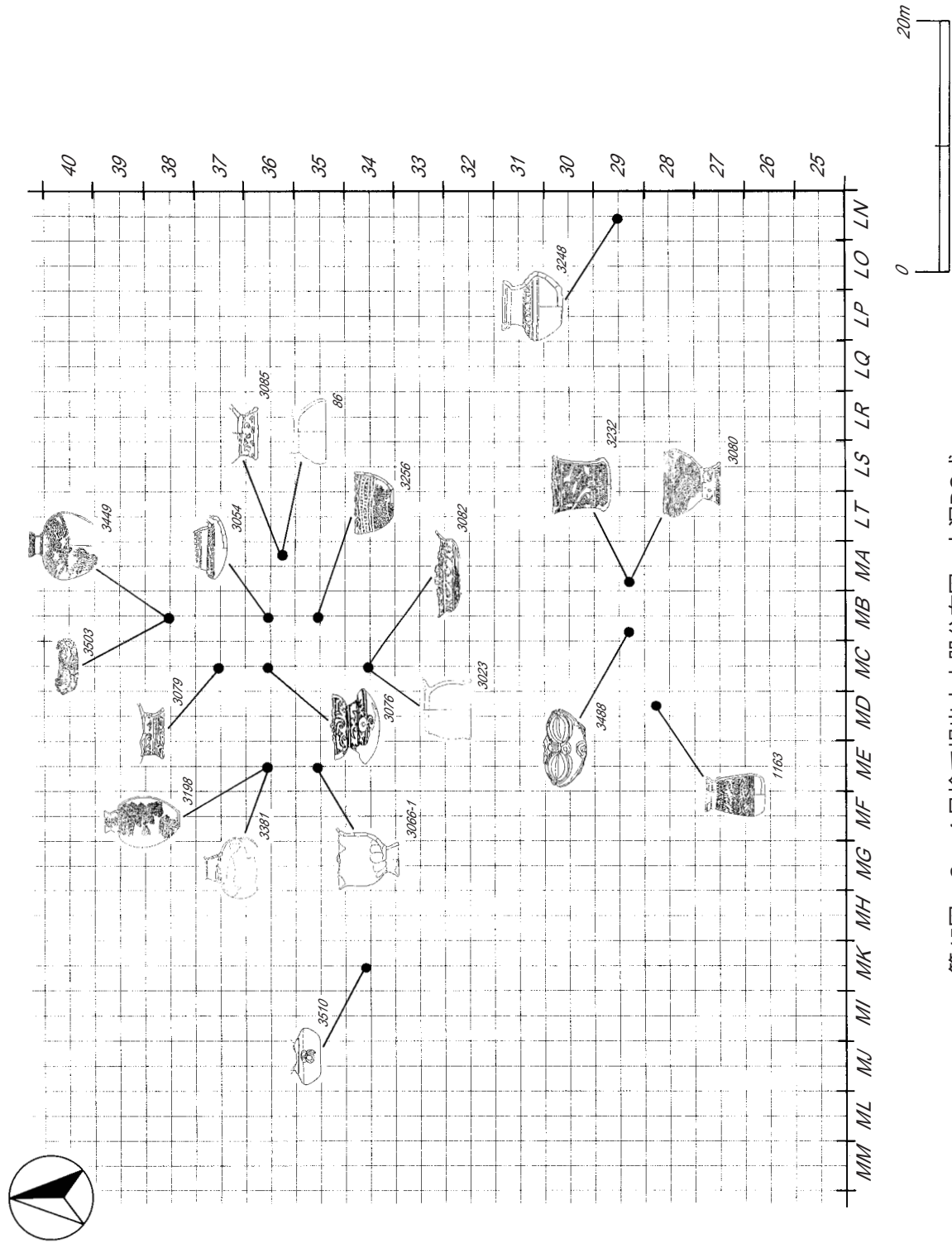
調理具は、12点9.1%出土している。その内訳は、石皿が9点6.8%、磨石が2点1.5%、凹石が1点0.8%である。

祭祀具は、11点8.3%出土している。その内訳は、石棒が7点5.3%、円盤状石製品が2点1.5%、異形石器・有孔石製品が1点0.1%、岩版が1点0.1%である。本捨て場でも、石棒の出土率の高さが目を引く。石器総数は3号捨て場の7分の1弱だが、石棒出土率5.3%は4基の捨て場中最高であり、遺跡全体の出土数146点中7点4.8%にあたる。

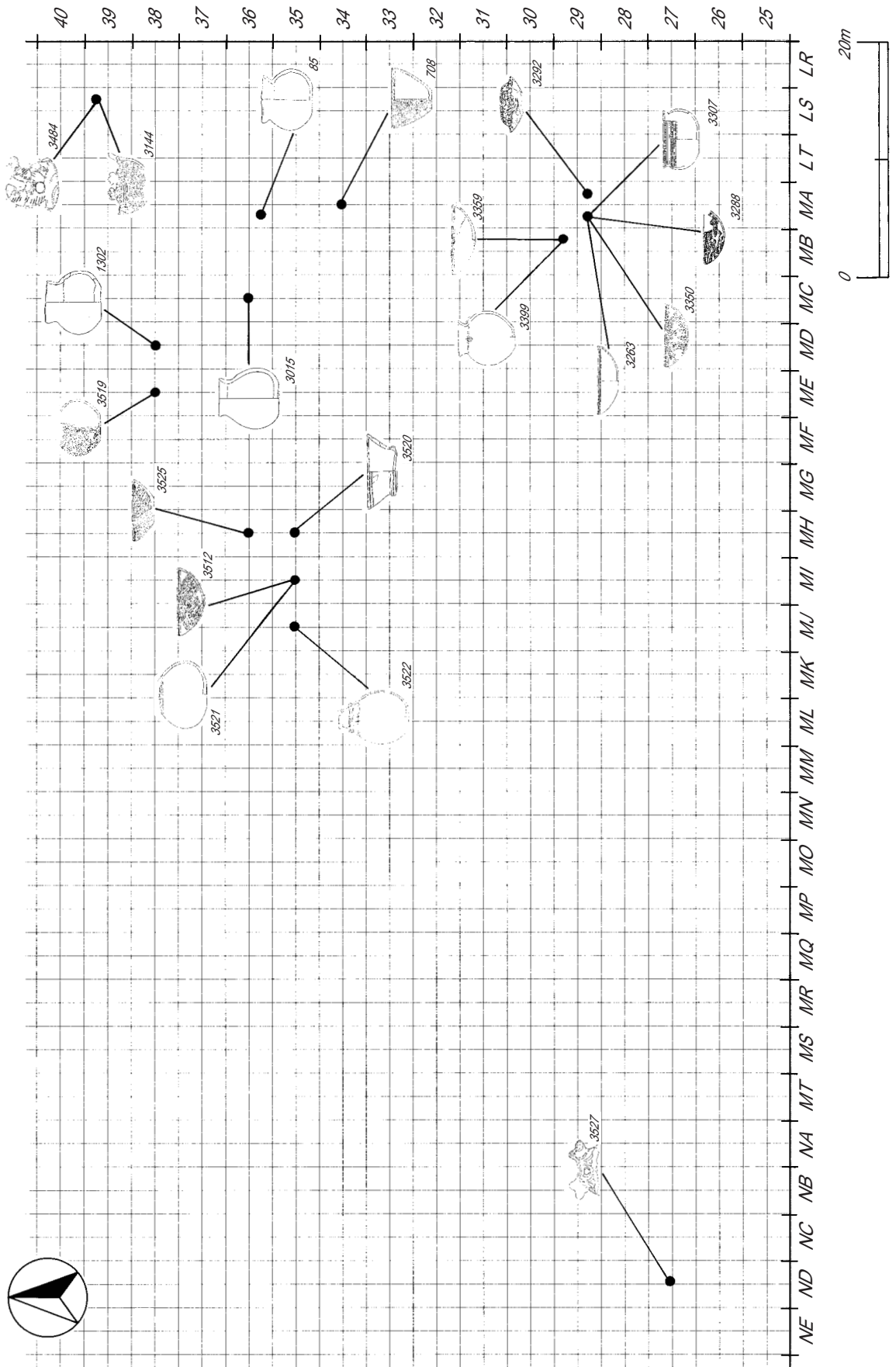
反面、赤礫が出土していない点も特異である。この地点は配石墓の集中区であり、多く出土した石棒はこれらに伴う祭祀に使われたものかもしれない。赤礫とは相反する関係にあったと仮定して他の



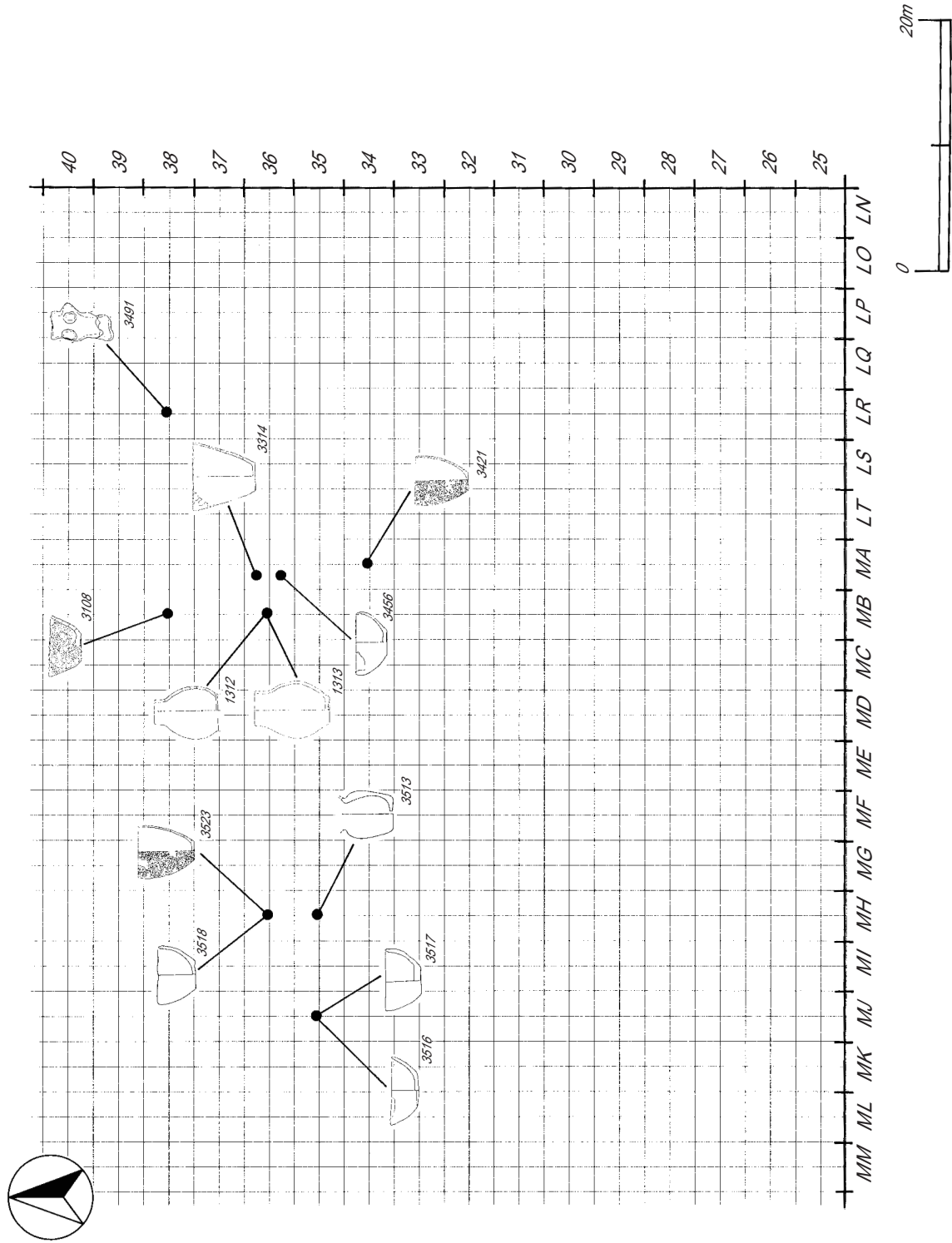
第44図 3・4号捨て場出土土器分布図 大洞B₂式



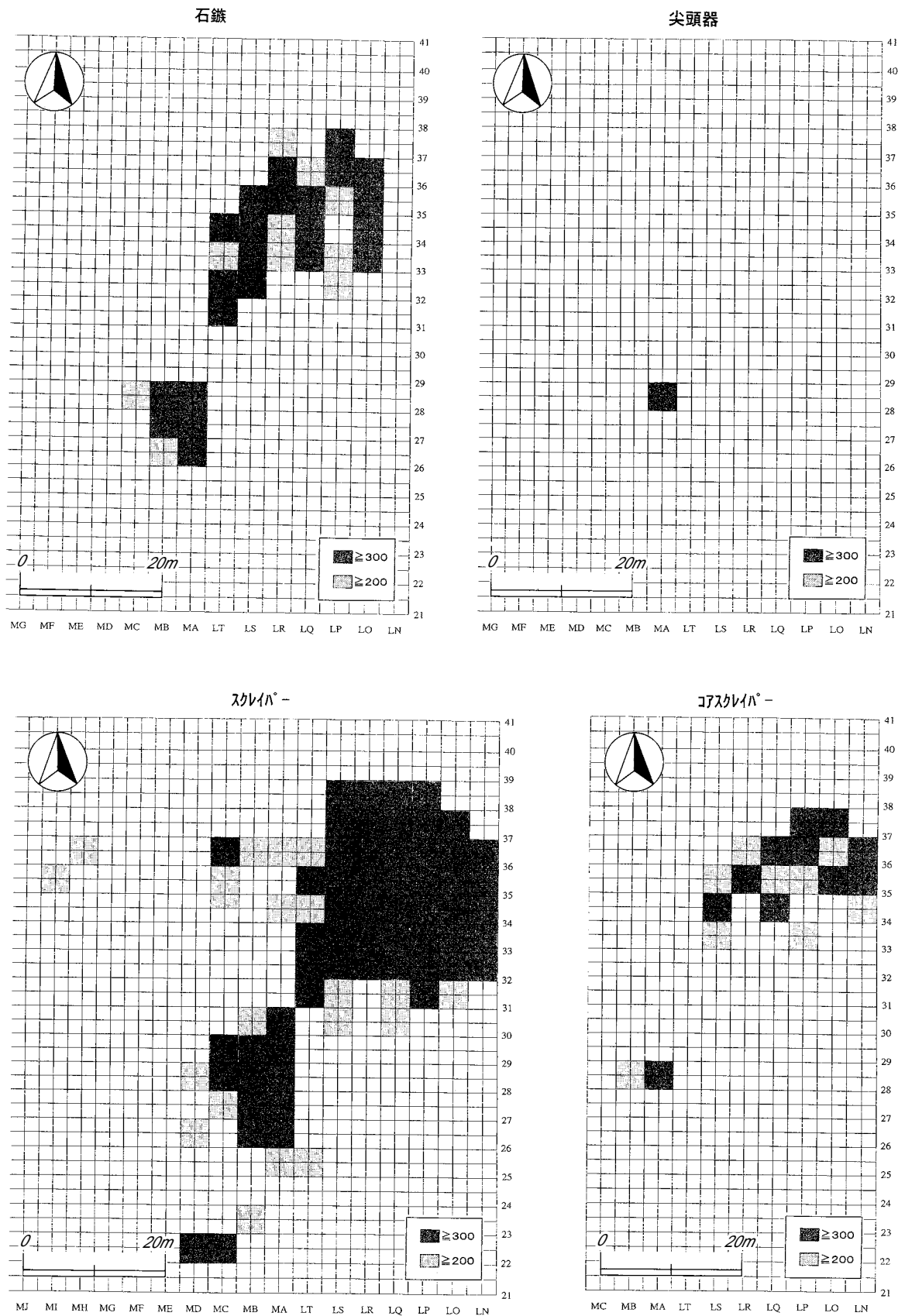
第45図 3・4号捨て場出土土器分布図 大洞BC式



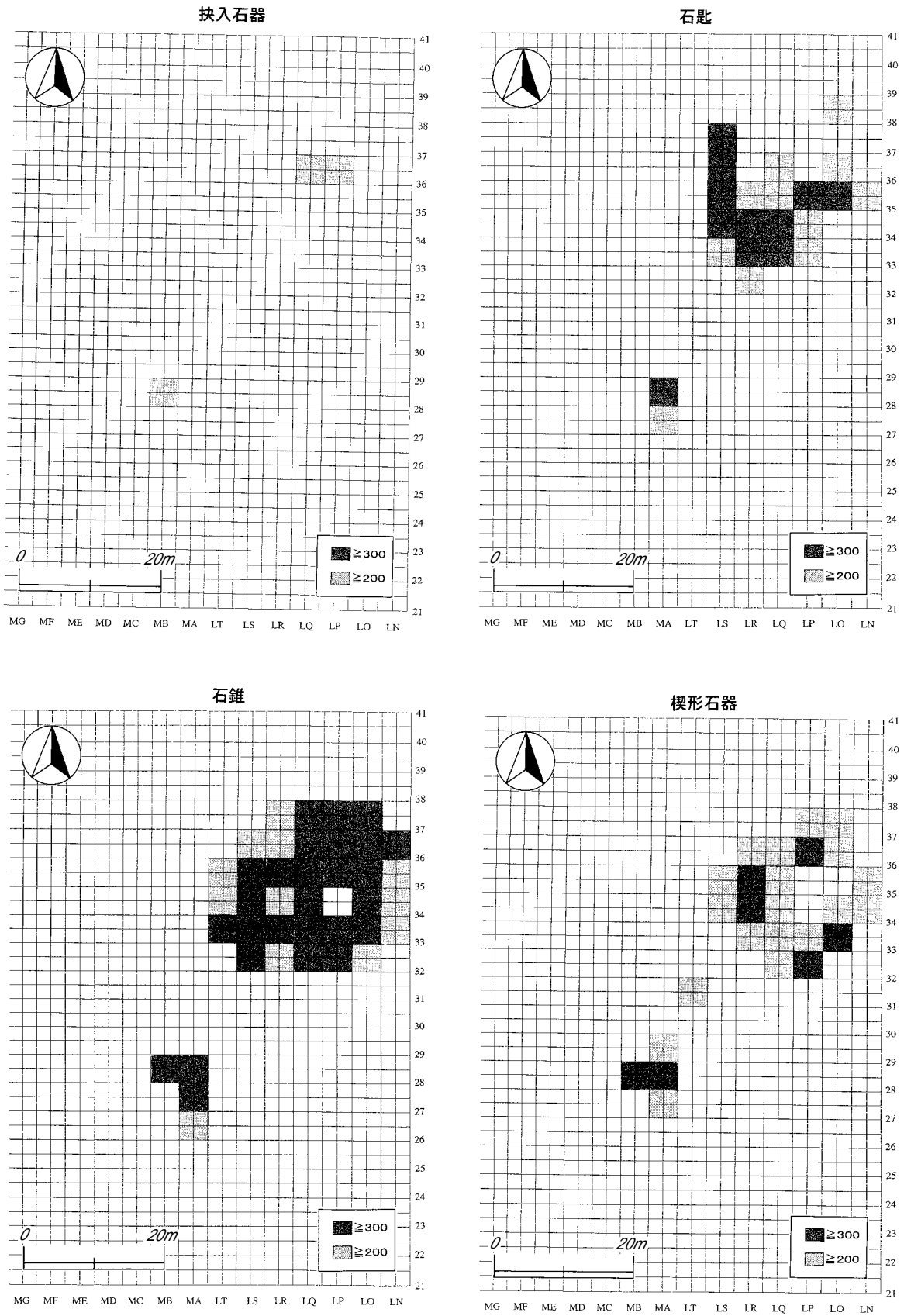
第46図 2～4号捨て場出土土器分布図 大洞C1・C2式



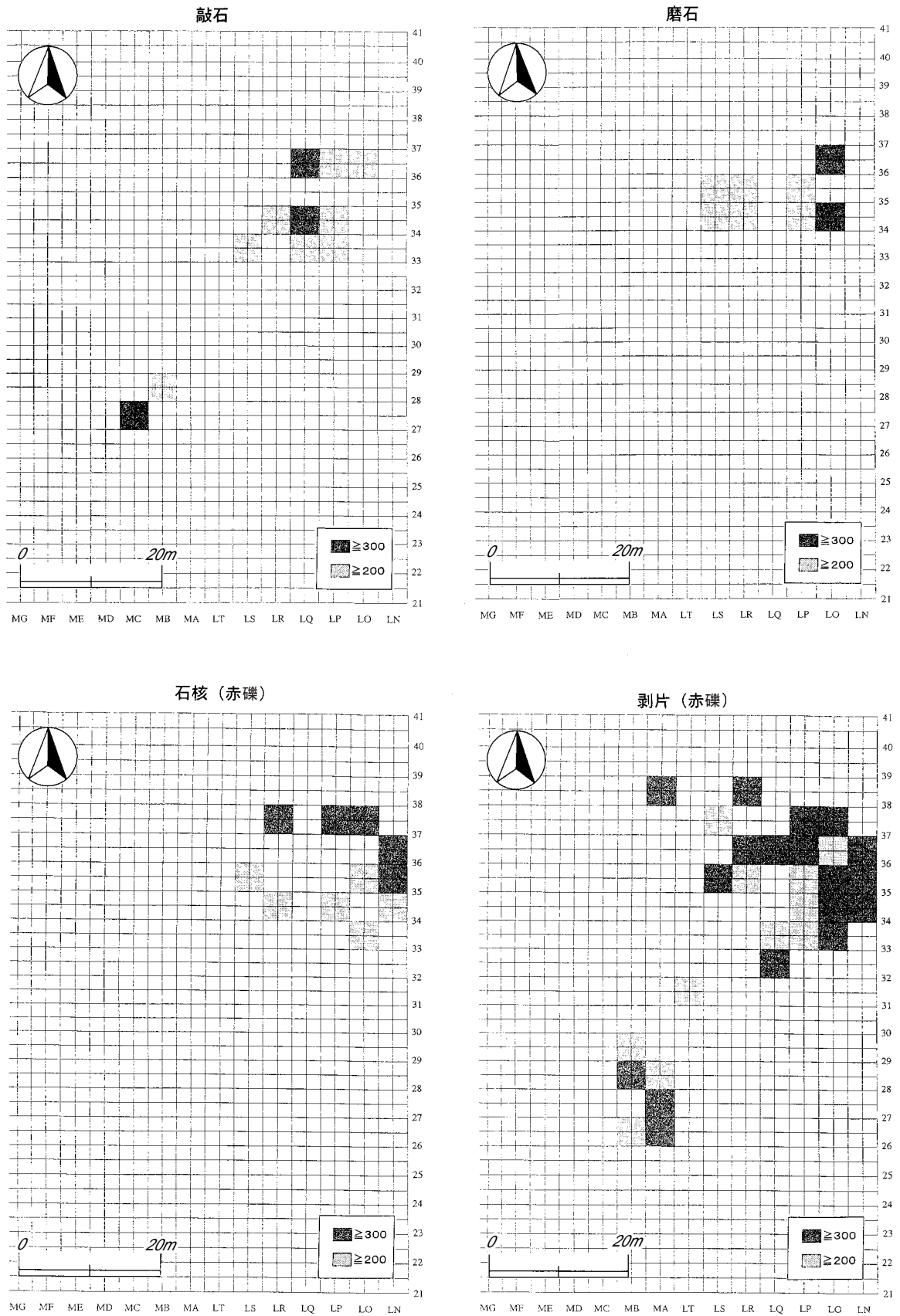
第47図 3・4号捨て場出土土器分布図 ミニチュア土器・土偶・土器・無文土器



第48図 捨て場出土石器数量別偏差値分布図



第49図 捨て場出土石器数量別偏差値分布図



第50図 捨て場出土石器数量別偏差値分布図

捨て場の石棒：赤礫分布関係を見直すと、赤礫の分布は1号捨て場のように焼土遺構S N99との強い関係が伺われたり、2号捨て場のようにある程度集中する傾向がある。それに対して、石棒は中心域を形成することなく、分布域がばらつくという違いが見えてくる。

ここからも石棒は、地点個々でそれぞれ扱われ、折損・廃棄される祭祀具であり、赤礫はまとめて消費される原料であることが予測される。

小結

1・2号捨て場における完形品出土率の高さは、本捨て場が大きな攪乱を受けておらず、保存度が高い事を示す。大洞C₁式期まで連綿と存続するにもかかわらず、大洞B₂式破片の出現率が特に低いのは、原位置を保ったままで急速に埋没し、攪乱を受けていないことを傍証している。時期の推移とともに土器分布の中心が移動していくこととも関連する。模式的に記述するならば、大洞B₂式期の捨て場を埋めた「土饅頭」頂点をさけて大洞B C式期の捨て場が形成され、さらにそれを埋めた「土饅頭」の隣に大洞C₁式期の捨て場が形成されると考えてよい。

捨て場形成 急速な埋没 捨て場形成のプロセスは、その内部に焼土遺構の形成を包括する。焼土遺構の形成には複数の要因が考えられ、焼土遺構S N99の様に岩偶祭祀を契機として形成され、その後ベンガラ生産工房として継続使用される遺構がある。

琴丘町高石野遺跡の土層断面には、類似の断面が形成されている（1999年8月、筆者の巡検結果による）し、古くから著名な佐倉市遠部台・吉見台遺跡の土器塚での土器片出土状況とは酷似する。さらには、千葉市の園生貝塚や貝塚町貝塚群、加曽利貝塚、栃木県寺野東遺跡、パナマ共和国Cerro Juan Diaz遺跡での貝や土・灰を用いたマウンド形成プロセスとの類似も指摘できる。

最後に、大洞B C式と大洞C₁式では、出土標高が明確に異なることが判明した。大洞C₁式が上に、大洞B C式が下にある。各時期ごとの平面分布も異なっており、中心域が移動する。

註1 Schiffer, Michael 『FORMATION PROCESSES of the ARCHAEOLOGICAL RECORD』 University of Utah Press (1987)

註2 赤礫の理科学的分析をくださった岩手県立博物館・赤沼英男氏より、以下のコメントをいただいた。感謝いたします。「焼土遺構S N99周辺に分布する赤色小物質塊は、主として酸化ケイ素からなり、局所的に微細な酸化鉄(Fe₂O₃と推定される)が残存する。泥岩もしくはチャート(以下では赤色チャートという)の可能性もある。青森県三内丸山遺跡の縄文時代前期および中期の遺構から出土した資料の自然科学的調査結果から指摘されているように、この岩石の利用方法として石鏃をはじめとする石器への加工、および赤色系色材料としての使用が挙げられる。後者の場合、赤色チャートの粉碎が不可欠で、磨石や石皿といった道具が必要となる。また、粉碎を容易にし、色調を調えるため熱的処理を施した可能性もある。焼土遺構S N99周辺における当該資料の残存塊はそれを示唆している可能性もあり、この点については焼土遺構S N99の構造と検出された資料の組成をもとに、確認する必要がある。」

第3節 縄文時代晩期の土器・土製品

1 扱う資料の概要と分析方法

2001年に円筒上層C式の深鉢が、ほぼ完形で1個体出土した。これ以外は全て大洞B₂~C₂式である。発掘調査総面積7,600m²553グリッドから、土器・土製品は遺跡全体で約4,459kg(4,459,391.4g)出土した。そのうち捨て場出土土器を中心に完形土器853点、破片資料のうち口縁部・底部資料13,907点を扱う。ここで完形土器としてカウントしたものは、点取り遺物・グリッド取り上げ遺物の内、現場でほぼ完形で取り上げ得たものを中心として、後の短期間の接合作業で復原され得たものを加えた資料である。全点を図示した。

破片資料とは、上記完形土器以外の資料のうち、意図的に選択した、2000年度に調査した捨て場から遺物出土量の最も多い中心部分65グリッド分と、2000・2001年調査区域からランダムにピックアップした29グリッド分を合わせたものである。扱った破片資料は、94グリッド分約3,700kg(3,700,400.6g)で、重量比にして全体の83.0%にあたる。この中に含まれる口縁部・底部破片を1破片1点としてカウントした結果が上記13,907点である。優品が選択されがちな完形品よりも本来の型式・器種組成を示しており、バイアスを排除できる資料である。

全破片重量約4,459kgの型式・器種組成を分析できていればベターであるが、それはかなわなかった。したがって、全量の83%にあたる約3,700kgの破片資料による型式・器種の組成比率を遺跡の内容を代表するサンプルと仮定して、以下に分析する。全体の母集団に対する比率は重量比によって計算し、各型式・器種組成の百分率は点数を元に計算している。

個別の土器について述べる前に、今回扱った資料群が遺跡全体の土器をどこまで代表しうるのかを検討しておく。殊に、優品が選択されがちな完形土器群を用いて、型式比率の算出や器種組成の復原をすることが、母集団に対してどの程度信頼しうるものだろうか。その信頼性を、統計学的に提示しておくことは、報告書として必須な作業・記述だと考える。

捨て場の項で示した通り、各時期各器種の分布に地点ごとの違いはあるが、ここでピックアップした破片分布の中心65グリッドでは全ての時期が重層化して出土していることから、2mグリッドにおける各時期ごとのピークがあるにせよ、サンプルに対しては平均化されていると仮定できる。

まず、全体に対して83%の破片資料を用いたサンプルの信頼区間を求めておく。精製浅鉢1,520点を例にとると、信頼上限 $P_1 = 0.109$ ($n_1 = 3042$, $n_2 = 24772$, $F_{1(0.01)} = 1.0$)、信頼下限 $P_2 = 0.055$ ($n_1 = 24772$, $n_2 = 3042$, $F_{2(0.01)} = 1.0$) である。

信頼度は98% ($F_{0.01}$) で計算し、全量に対して精製浅鉢破片数 P は、10.9% P 5.5%の範囲内で出現しうる。他器種についても信頼度98%で計算し、結果を第22表aに示した。精製の深鉢と鉢は口縁部のみ・底部のみでは判別しがたいので、一括して扱っている。全量の83%をピックアップした資料ではあるが、サンプル数が1万点を超えているため信頼区間は非常に限定されており、ほぼ母集団の実態を示していると考えてよい。

次に、図示した完形土器853点の器種組成と母集団器種組成の100分率を検定する(第22表b)。破片資料における精製深鉢と鉢は、口縁部・底部破片では区別しがたいため、一括して扱っている。

計算する前から予想されたことだが、粗製深鉢と浅鉢以外の器種全てに高度な有意差がある。同じ

第2章 捨て場と遺物

母集団から取り出されたサンプルである以上、本来なら有意差は出ないはずである。つまり、完形土器の器種組成は、母集団に対して異常な値を示している。すなわち完形土器の器種組成は、母集団を代表していない。この原因は、完形の精製土器が実測対象遺物として、優先的に選択されたことによるものと考えられる。

整理作業・報告書出版における真に技術的・物理的問題であるが、どんな報告書でも遺物全てを記載するのは不可能である。必然的に選択せざるを得ないからこそ、記載対象としたサンプルの信頼性の程度を提示しておくことは、報告書記述における必須事項と考える。

以上の手続きを踏んだ上で、破片資料を基に存在しうる土器の個体数を算出しておく。まず、破片資料による器種組成比を算出する。深鉢・鉢・浅鉢・壺については、口縁部と底部破片を合計したもの、注口土器は注口部、台付鉢については底部破片数を用いた。この値を（器種別破片数量比）とする。次に、完形土器重量を器種ごとに合計・平均化して各器種ごとの1個体重量平均（第23表a）を求める。この値を（器種別重量）とする。（総重量）×（器種別破片数量比）/（器種別重量）を計算すると、器種ごとの重量比からみた総重量に対する最小個体数が7,387個体、分析対象重量約3,700kgに対する最小個体数は、6,130個体と出る（第23表b）。

次に、今回直接の分析対象とした破片資料13,907点に含まれる最小個体数を算出する（第23表b）。

第22表 a 資料信頼度と有意差（資料信頼度）

信頼区間	破片資料	精製浅鉢	精製香炉	精製台付鉢	精製注口	精製壺	精製鉢・深鉢	粗製浅鉢	粗製台付鉢	粗製壺	粗製鉢	粗製深鉢
信頼上限	φ1	3042	14	1292	530	480	9218	164	860	768	10512	956
	φ2	24772	27800	26522	27284	27334	18596	27650	26954	27046	17302	26858
	P1	0.109369	0.001041	0.046451	0.021851	0.019795	0.331416	0.008002	0.035393	0.031623	0.377939	0.039324
信頼下限	φ1	24772	27800	26522	27284	27334	18596	27650	26954	27046	17302	26858
	φ2	3042	14	1292	530	480	9218	164	860	768	10512	956
	P2	0.109369	0.000168	0.046451	0.016062	0.013854	0.331416	0.00444	0.026112	0.023306	0.377939	0.029043

信頼度98% (F0.01) で計算

第22表 b 資料信頼度と有意差（有意差）

精製深鉢・鉢を一括したもの

F値	精製浅鉢	精製香炉	精製台付鉢	精製注口	精製壺	精製鉢・鉢	粗製浅鉢	粗製台付鉢	粗製壺	粗製鉢	粗製深鉢
p	0.109297	0.000431	0.04638	0.018983	0.017186	0.331344	0.005824	0.030848	0.02754	0.377867	0.034299
q	0.890703	0.999569	0.95362	0.981017	0.982814	0.668656	0.994176	0.969152	0.97246	0.622133	0.965701
n	853	853	853	853	853	853	853	853	853	853	853
k	174	3	79	60	162	229	3	7	60	49	26
k/n	0.203986	0.003517	0.092614	0.07034	0.189918	0.268464	0.003517	0.008206	0.07034	0.057444	0.030481
φ1	1360	1702	1550	1588	1384	460	8	16	1588	100	54
φ2	348	6	158	120	324	1248	1700	1692	120	1608	1654
Fs	2.085273	8.16745	2.09592	3.905141	13.38801	1.344414	1.244937	3.365985	2.668315	9.766574	1.087888
F(0.01)	1.28	6.88	1.33	1.43	1.28	1.25	2.51	1.99	1.43	1.36	1.52
有意差	高度にあり	高度にあり	高度にあり	高度にあり	高度にあり	高度にあり	なし	高度にあり	高度にあり	高度にあり	なし

第23表 土器重量と最小個体数

a (土器重量)

精製・粗製	器種	重量(g)
精製	浅鉢	241
	香炉	125
	台付鉢	312
	注口	324
	壺	371
	鉢	248
	深鉢	619
粗製	ミニチュア	39
	浅鉢	245
	台付鉢	371
	壺	502
	鉢	302
	深鉢	723

完形土器重量を器種ごとに平均した。小数点第1位を四捨五入。

b (最小個体数)

精製・粗製	器種	破片点数	比率	総重量に対する最小個体数	分析対象重量に対する最小個体数
精製	浅鉢	1520	0.109297	2022	1678
	香炉	6	0.000431	15	13
	台付鉢	645	0.04638	663	550
	注口	264	0.018983	261	217
	壺	239	0.017186	207	171
	鉢・深鉢	4608	0.331344	1704	1414
	粗製	浅鉢	81	0.005824	106
台付鉢		429	0.030848	371	308
壺		383	0.02754	245	203
鉢・深鉢		5732	0.412167	1793	1488
合計		13907		7387	6130

完形土器重量を器種ごとに平均した。小数点第1位を四捨五入。

カウント方法は、以下を基本とする。

破片資料をグリッド単位で扱い、1グリッドから1破片のみ出土しているものは1個体と考える。複数の口縁部破片と底部破片が出ている場合は、底部破片数を優先し1個体とする。

注口土器は、注口部をカウントする。

すると、最小個体数は4,925個体となる。重量比によって算出した最小個体数6,130個体とのズレが1,205個体分あるのだが、これがまさに破片数カウントに先立って除外されていた、完形土器853個体分の近似値を示すものである。完形土器を加えると5,778個体となり、ズレは352個体分である。誤差は、6,130点に対して5.7%、5,778点に対して6.1%と、どちらの値に対しても6%前後であり、5,778

真の個体数 6,130(6%の誤差)として考えておくことが出来る。したがって、全資料に対する最小個体数は、6,943 真の個体数 7,387(6%の誤差)となる。

さて、以下に大洞式土器について述べていく。大洞B₂式から大洞C₂式に至る型式変遷については、山内^{註1)}を代表として数多くの研究がある。近年の代表例をあげるだけでも高橋^{註2)}、金子^{註3)}、鈴木^{註4)}、小林^{註5)}がある。小林がわかりやすくまとめた様に、大洞B₂式新段階と大洞BC式古段階の区分、大洞BC式新段階と大洞C₁式古段階の区分が、何をメルク・マールにとるかで異なり、齟齬を来している。

本稿では、入り組み三叉文の末端が相対的に入り組みを強くして菱形のネガ文を形成する段階以降を大洞BC式と考える。また、相対的に洗練された雲形文の出現と「羊歯状文」の消失・「平行沈線間列点文」化をもって大洞C₁式とする。

各型式の細分は、明確には行っていない。当然の事ながら、大洞BC式ならば羊歯状文の形骸化から平行沈線間列点文化、または大腿骨文からK字文に至る諸段階があり、大きく古段階と新段階に分けることが可能である。大洞C₁式においても口縁部文様帯に前代から引きずる平行沈線間列点文の消失や雲形文の描出法の洗練化によって古段階と新段階に分けられる。

いずれの時期も器種組成は、深鉢、台付鉢、浅鉢、鉢、壺、注口土器の6器種を基本セットとして構成され、それに香炉やミニチュア土器が加わる。基本セットの器種も後期後半より著しく器形が分化し、器種ごとの内訳・器種内細別の内訳ともに時期によって変化する。例えば、「鉢」と大別される中でも口縁部直径と器高の比、文様帯の位置、装飾によって細別が可能であるが、本稿では細別せず基本セットとした6器種を用いた。なお、台付鉢と台付浅鉢は「台付鉢」として一括した。

「皿」は分類せず全て浅鉢とした。口縁部直径が器高の3倍以上という器形を示す土器は数点あるが、それらの側面形はあくまで浅鉢の範疇にあり、文様帯区分も浅鉢を踏襲している。浅鉢内での器形分化と考える。

また、広口壺と鉢第1c群の分類は非常に曖昧である。胴部から肩につながる屈曲の度合いが相対的に強く頸部をより際立たせているものを壺とした。

なお、大洞BC式期に卓越する注口土器が、大洞C₁式期には急激に減少し浅鉢にその地位を譲る点が特筆される。

2 大洞B₂式土器

概要

本遺跡からは、後期末や田柄貝塚 類・二月田貝塚出土例を思わせる初源期三叉文を持つ大洞B₁式は、出土していないが、隣接する向様田F遺跡が当該期に営まれている。また、東側で隣接する向様田B・C遺跡でも後期～晩期まで営まれているので、その中に晩期初頭が含まれている可能性がある。

大洞B₂式は、完形品73点、破片資料101点が出土した。完形品の内訳は、深鉢5点、台付鉢28点（内1点は台部のみ）、浅鉢8点、鉢23点、注口土器7点、壺2点で構成される。

破片資料の内訳は、精製土器は90点、粗製土器は11点である。精製土器は、深鉢・鉢77点、台付鉢2点、浅鉢7点、注口土器4点である。粗製土器は深鉢11点で構成される。

深鉢

深鉢は、第51・52図に図示した。大半は6～8単位を超える突起を持つ波状口縁であるが、第52図2のように平縁となるものも存在する。口縁部上端に無文部を意識して、口縁部から胴部上半に文様帯が設定されるもの（第51図3・4、第52図2）と、口縁部屈曲部やや下に文様帯の下端をおくもの（第51図1・2、第52図1）がある。両者とも、文様帯下端の区画は胴部最大径よりもやや上にあり、沈線で区画するもの、平行沈線内に列点を施すもの、解放しているものがある。

使用される文様は三叉文を基本としており、第51図2の様な玉抱き三叉文や、4の様な入組文を形成するもの、第52図2のように三叉文が連結して平行沈線化したものがある。第52図2の器形は頸部がすばまり広口壺を疑わせるが、外面肩部には明確な使用痕が付く。また、広口壺頸部は基本的には無文帯となることを考えれば、この土器の製作者は文様帯を口縁部と認識しているのであり、深鉢に分類するのが妥当である。

後述するが、鉢・台付鉢と共に口縁部内外面におコゲやスガがこびりつき、使用痕を残すものが多い。

台付鉢

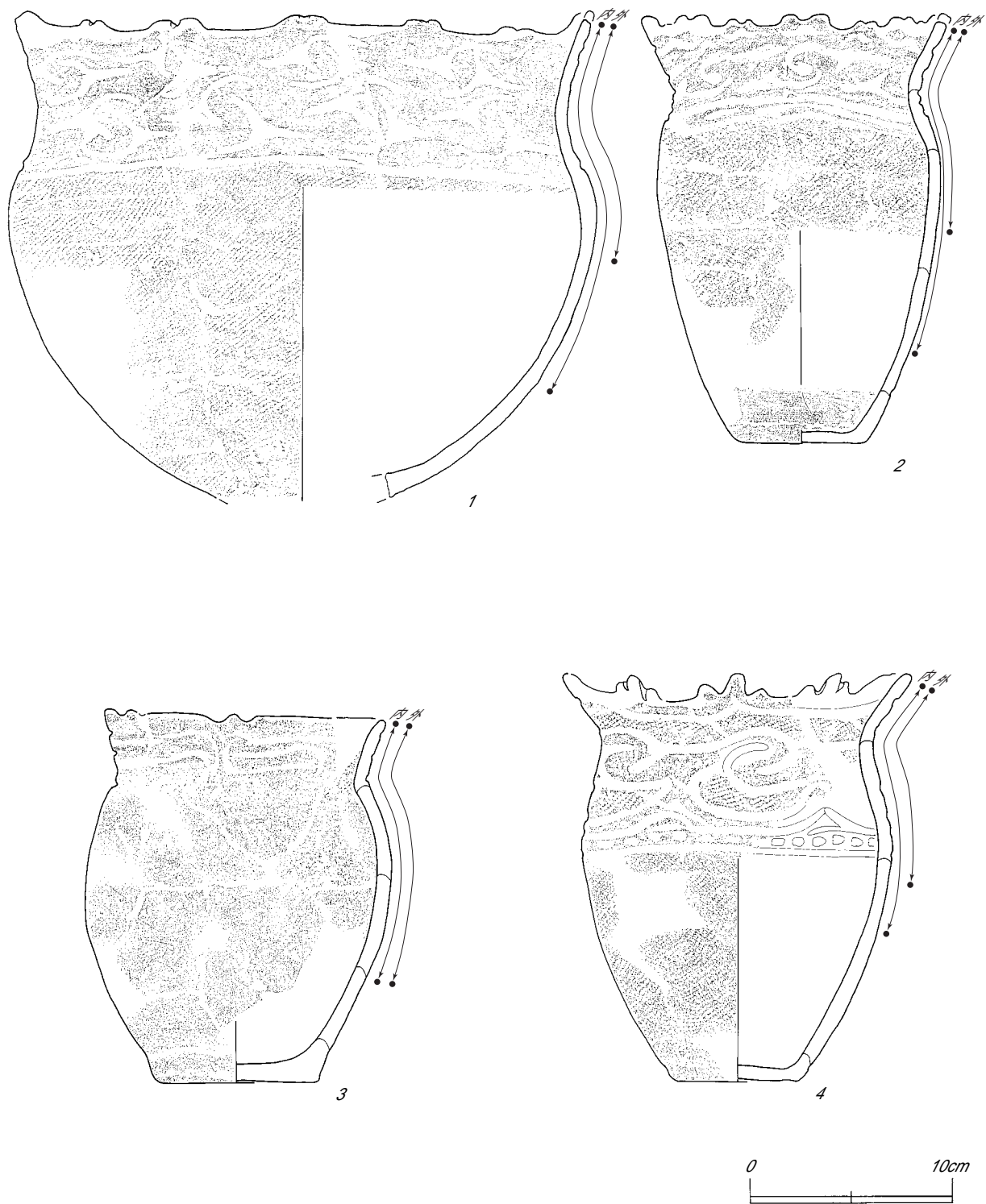
台付鉢は第53～56図に示した。また、台部が出土していないため深鉢とした第51図1や第52図2も、台付鉢である可能性がある。逆に第56図1は、深鉢かもしれない。台付鉢となるのは鉢第 a 群（鉢で後述）である。

台付鉢は、胴部の張り出しが強い球胴形で頸部が屈曲し、口縁部が緩く外反する器形を基本としている。台部は直線的に外開きとなる単純なものと、外反した裾部から張り出し部を作るものの2種類がある。外反部は短く単純で、後の時期の様なラッパ形のカーブは描かない。

口縁部は波状口縁、もしくは平縁に6単位か8単位の突起を持つ。また、第56図4は口唇部突起がすでにB突起状となっている。

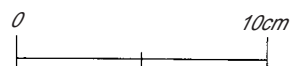
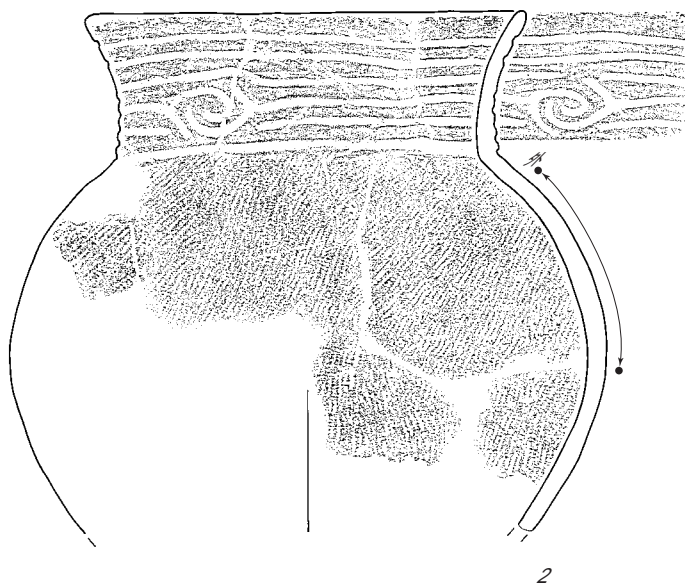
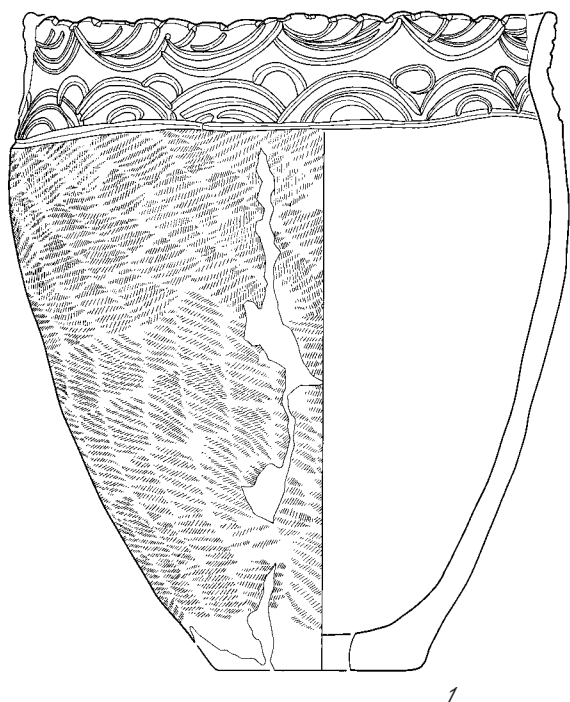
文様帯は、ほとんどの土器で口縁部に1段形成される。頸部が屈曲することから口縁部文様帯の下端は屈曲部に位置し、胴部上端もしくは屈曲部に平行沈線間を押引状列点で充填している。土器によっては、下へ垂下する「ノ」の字文が付く。

第56図1は例外的に頸部屈曲が弱く、口縁部と胴部の区別が他の土器に比べて明確でない。そのため、口縁部下の屈曲部に施される平行沈線間列点文の下部に、口縁部文様帯のパターンを繰り返して胴部文様帯が形成されている。



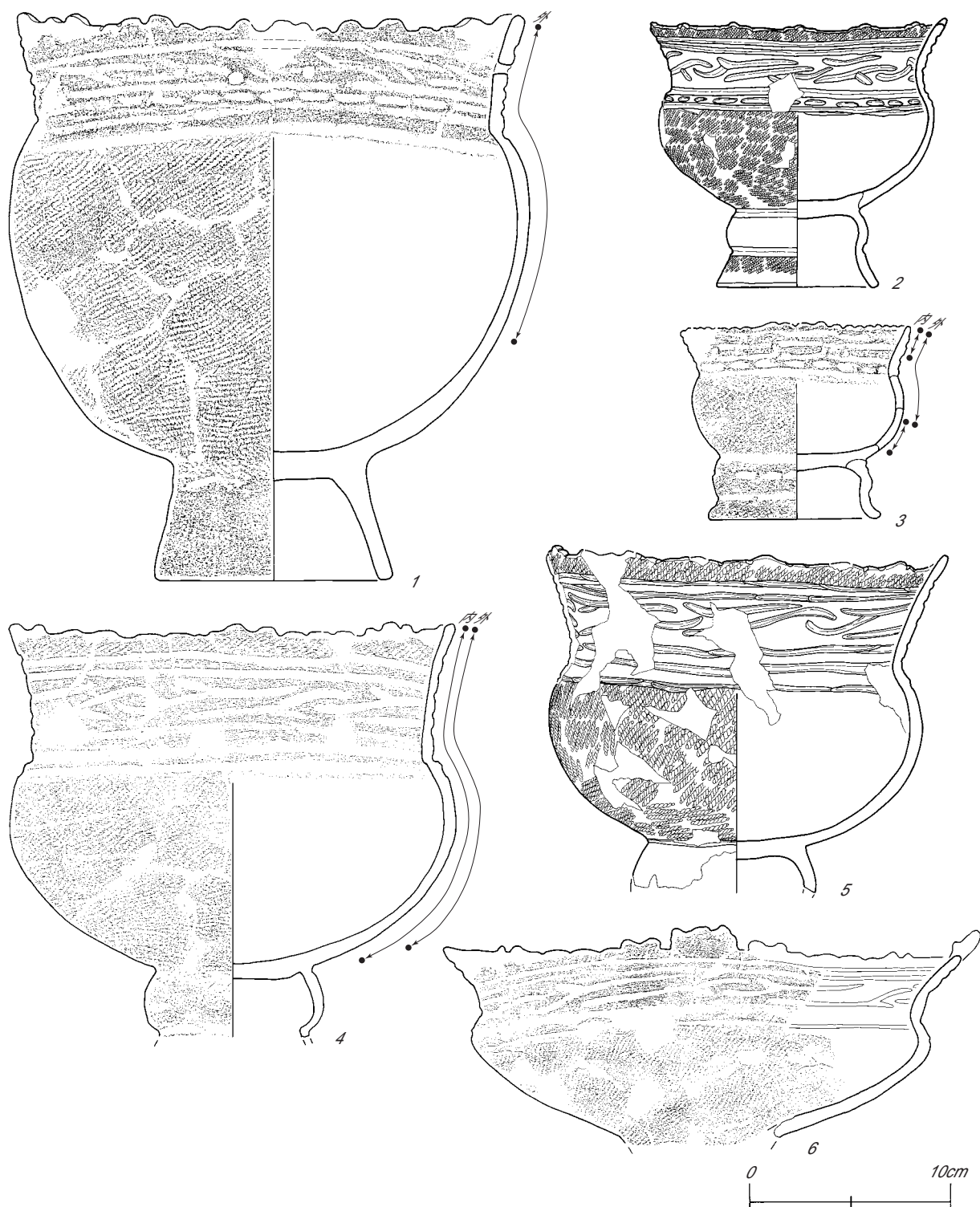
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
51	1	3526	MI35		4号	B ₂	無	深鉢		(28.4)	23.7	欠	(28.8)	(26.0)	-	-	-	138.6	
51	2	3121	LT33-b		1号	B ₂	無	深鉢		14.9	21.0	6.2	13.9	11.9	-	-	-	590.5	
51	3	3141	LR33-c		1号	B ₂	無	深鉢		13.8	18.4	8.0	15.0	12.4	-	-	-	722.0	
51	4	3123	LT33-b		1号	B ₂	無	深鉢		(17.2)	19.9	6.0	(15.2)	(13.3)	-	-	-	823.6	

第51図 大洞B₂式 深鉢 (1)



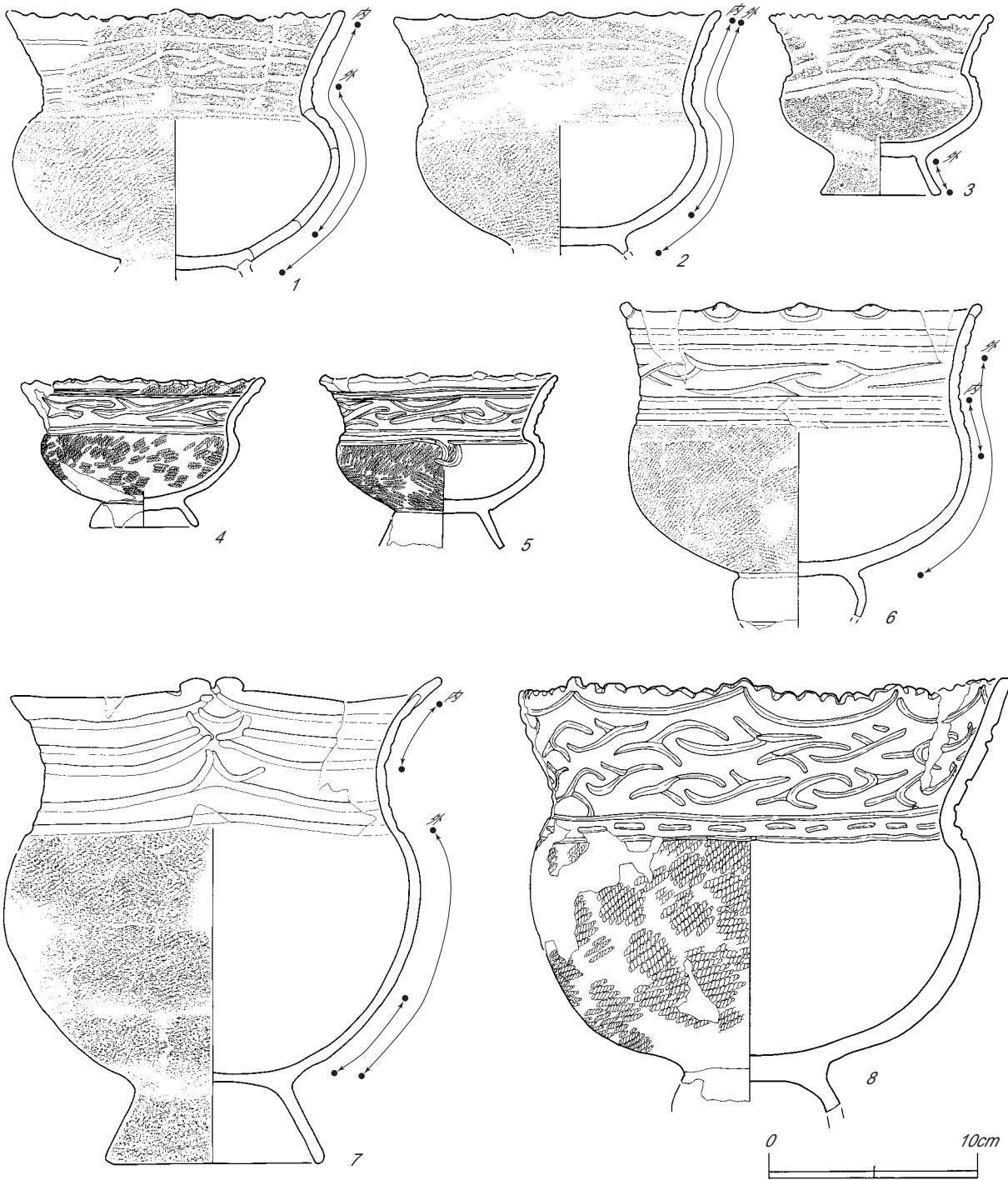
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
52	1	3081	LQ32-c		1号	B ₂	無	深鉢		(21.1)	25.5	8.1	22.1	-	-	-	-	2200.0	
52	2	3173	LR34-c		1号	B ₂	無	深鉢		(17.4)	20.6	欠	(23.5)	(14.6)	-	-	-	740.4	

第52図 大洞B₂式 深鉢 (2)



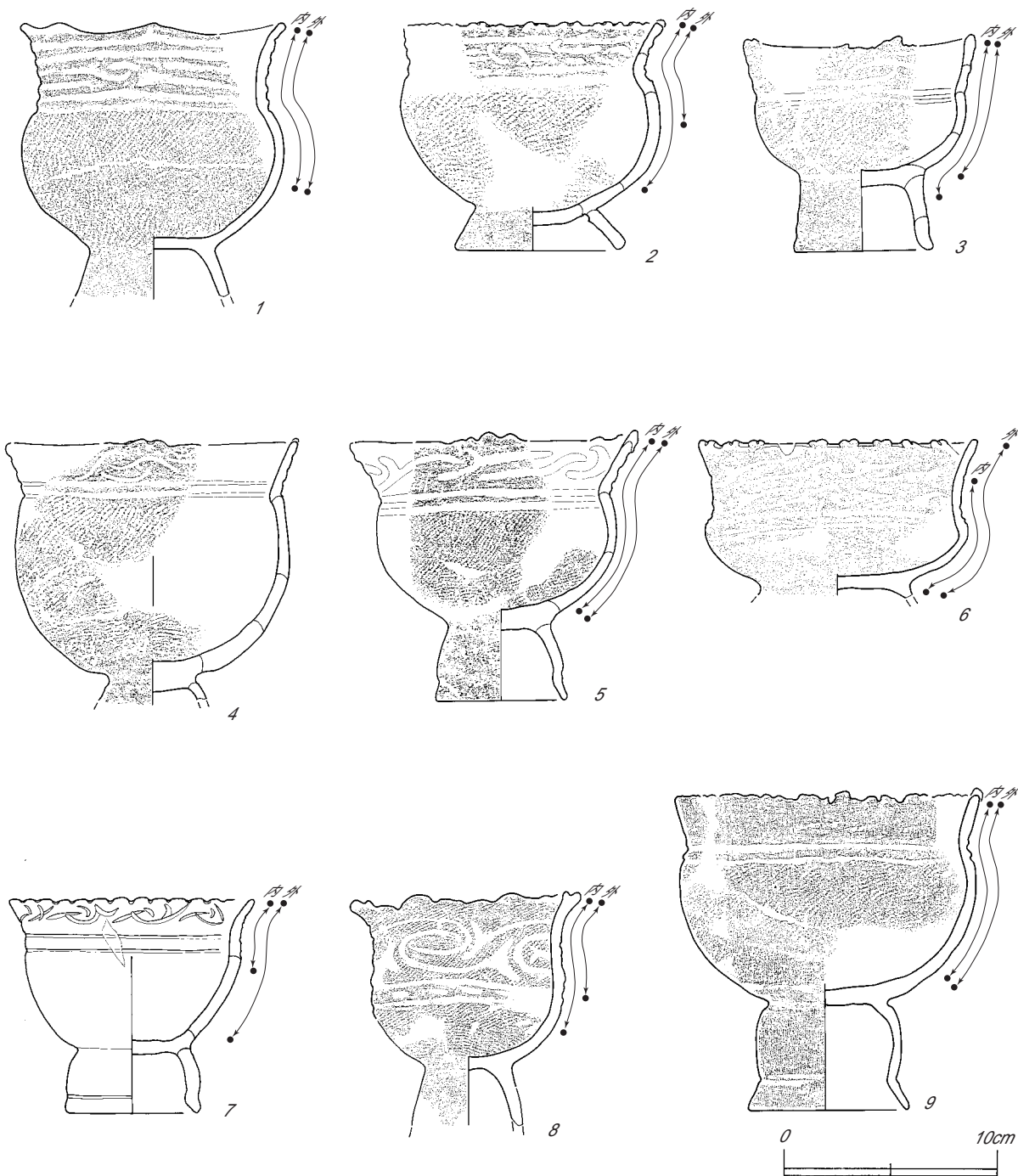
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
53	1	3203	LS33-b		1号	B ₂	無	台付鉢		25.0	28.0	11.7	25.6	22.9	22.3	5.7	9.6	234.0	
53	2	3137	LS34-d		1号	B ₂	無	台付鉢		14.6	13.0	8.0	(13.5)	12.4	9.3	3.7	6.1	293.2	
53	3	3160	LQ34-c		1号	B ₂	無	台付鉢		11.3	9.7	8.2	10.4	9.8	6.7	3.0	7.2	260.3	
53	4	3030	LS33-b		1号	B ₂	無	台付鉢		(21.9)	20.3	欠	(22.0)	(19.5)	17.0	3.3	7.8	680.0	
53	5	3100	MA28-b		2号	B ₂	無	台付鉢		19.7	17.1	欠	18.4	(16.3)	14.5	2.6	7.7	687.0	
53	6	3524	MI35		4号	B ₂	無	台付鉢		(25.5)	10.4	欠	22.6	21.6	10.4	欠	欠	599.0	

第53図 大洞B₂式 台付鉢 (1)



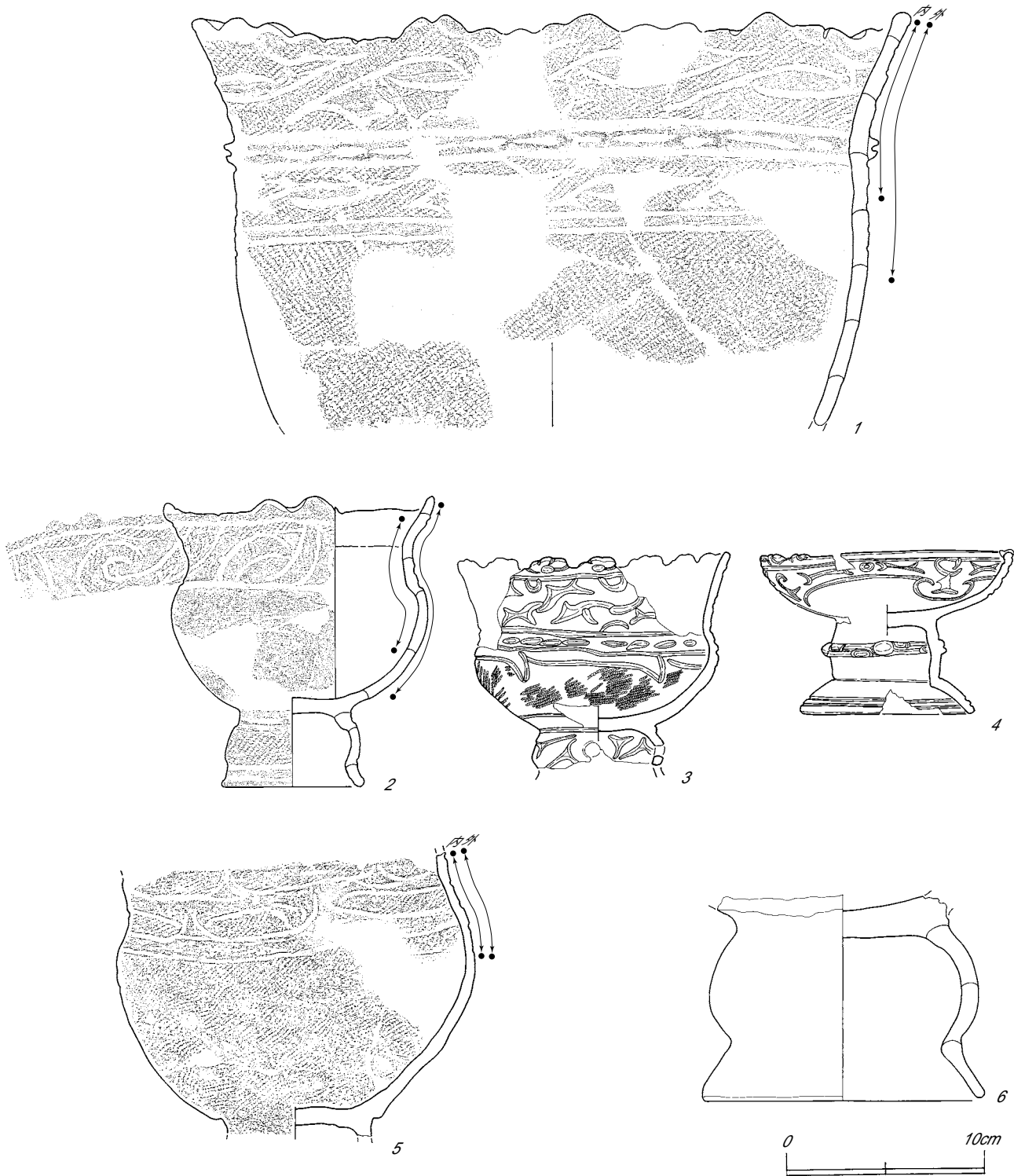
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
54	1	3398	MA25-c		2号	B ₂	無	台付鉢		(16.1)	12.3	欠	15.5	(12.6)	12.0	0.3	6.2	324.2	
54	2	3369	LS34-d		1号	B ₂	無	台付鉢		15.6	11.4	欠	13.9	12.6	10.8	0.6	(5.4)	369.8	
54	3	2	LR33-c		1号	B ₂	無	台付鉢		(10.6)	8.6	5.7	(9.5)	(8.4)	6.9	1.7	4.3	136.5	
54	4	3005	LS34-b		1号	B ₂	無	台付鉢		(11.5)	7.2	(5.2)	9.4	8.8	6.0	1.2	4.0	124.6	
54	5	3062	LR34-b		1号	B ₂	無	台付鉢		11.3	8.5	欠	9.9	9.0	6.4	2.1	4.5	187.6	
54	6	3360	LS33-d		1号	B ₂	無	台付鉢		17.4	15.6	欠	15.9	14.9	13.1	2.5	5.7	468.1	
54	7	3194	LR33-d		1号	B ₂	無	台付鉢		(19.4)	23.0	10.3	19.7	(16.1)	19.3	3.7	7.5	666.6	
54	8	80	MA36-c		3号	B ₂	無	台付鉢		(23.1)	20.7	欠	21.3	19.2	18.6	2.1	6.8	1014.3	

第54図 大洞B₂式 台付鉢 (2)



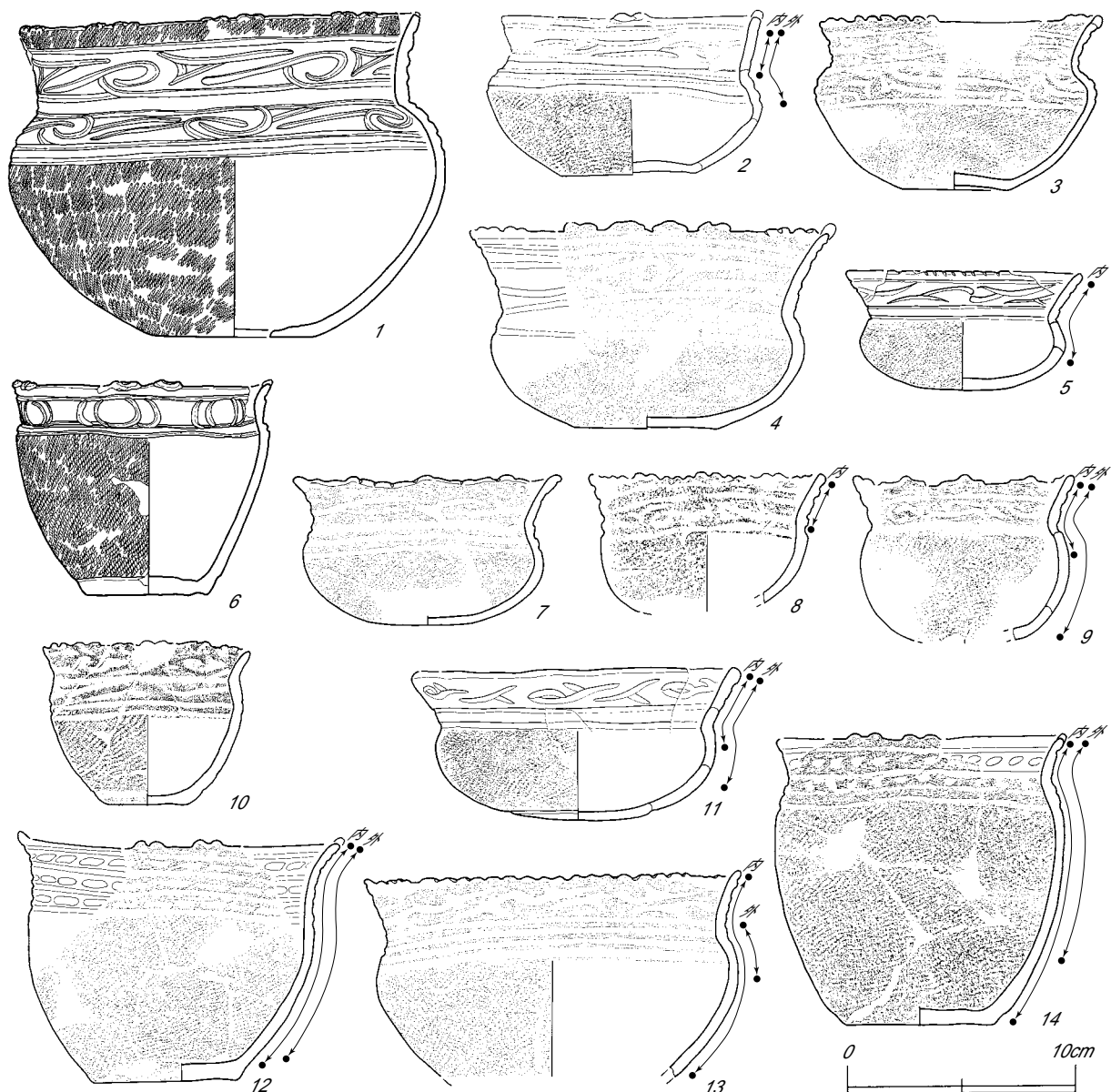
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
55	1	3078	MB37		3号	B ₂	無	台付鉢		(12.3)	12.7	欠	(12.2)	(10.4)	10.5	2.2	5.8	238.5	
55	2	626	LQ34-b		1号	B ₂	無	台付鉢		12.0	10.6	7.9	12.1	10.9	8.7	1.9	5.6	143.4	
55	3	3259	MC36		3号	B ₂	無	台付鉢		(10.8)	10.0	(6.5)	(9.9)	(9.7)	6.3	3.7	(5.8)	210.0	
55	4	649	LQ34-b		1号	B ₂	無	台付鉢		(13.6)	12.0	欠	(12.7)	(11.9)	11.0	1.0	(4.1)	373.2	
55	5	3118	LT33-b		1号	B ₂	無	台付鉢		(13.4)	12.5	(6.1)	(11.1)	(10.6)	8.8	3.7	(4.8)	180.1	
55	6	3448	MA36-d		3号	B ₂	無	台付鉢		(13.0)	7.4	欠	(12.3)	(11.5)	6.8	0.6	(6.9)	101.5	
55	7	3129	LS35-a		1号	B ₂	無	台付鉢		11.3	9.9	6.2	-	-	6.8	3.1	5.1	242.0	
55	8	3107	MC28-d		2号	B ₂	無	台付鉢		10.8	10.8	欠	9.1	8.7	8.1	2.7	(4.0)	125.1	
55	9	1	LT34-a		1号	B ₂	無	台付鉢		(14.2)	14.8	7.5	(13.8)	(12.9)	9.7	5.1	5.5	397.0	

第55図 大洞B₂式 台付鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
56	1	3068	LT34-a		1号	B ₂	無	台付鉢		(36.3)	20.5	欠	-	-	20.5	欠	欠	2492.4	
56	2	3110	MB27-b		2号	B ₂	無	台付鉢		13.8	14.6	7.2	(12.8)	11.3	11.0	3.6	5.7	399.2	
56	3	3060	LS33-b		1号	B ₂	無	台付鉢		(13.2)	10.9	欠	12.3	(11.6)	8.8	2.1	5.8	160.8	
56	4	1154	MA28-c		2号	B ₂	無	台付鉢		12.7	8.2	8.7	-	-	3.5	4.7	5.0	157.2	
56	5	1202-1	MA27-d		2号	B ₂	無	台付鉢		欠	14.3	欠	18.0	16.1	13.9	0.4	7.4	564.6	
56	6	3048	LS33-d		1号	B ₂	無	台付鉢		欠	10.3	14.2	-	-	1.5	8.8	10.7	695.9	

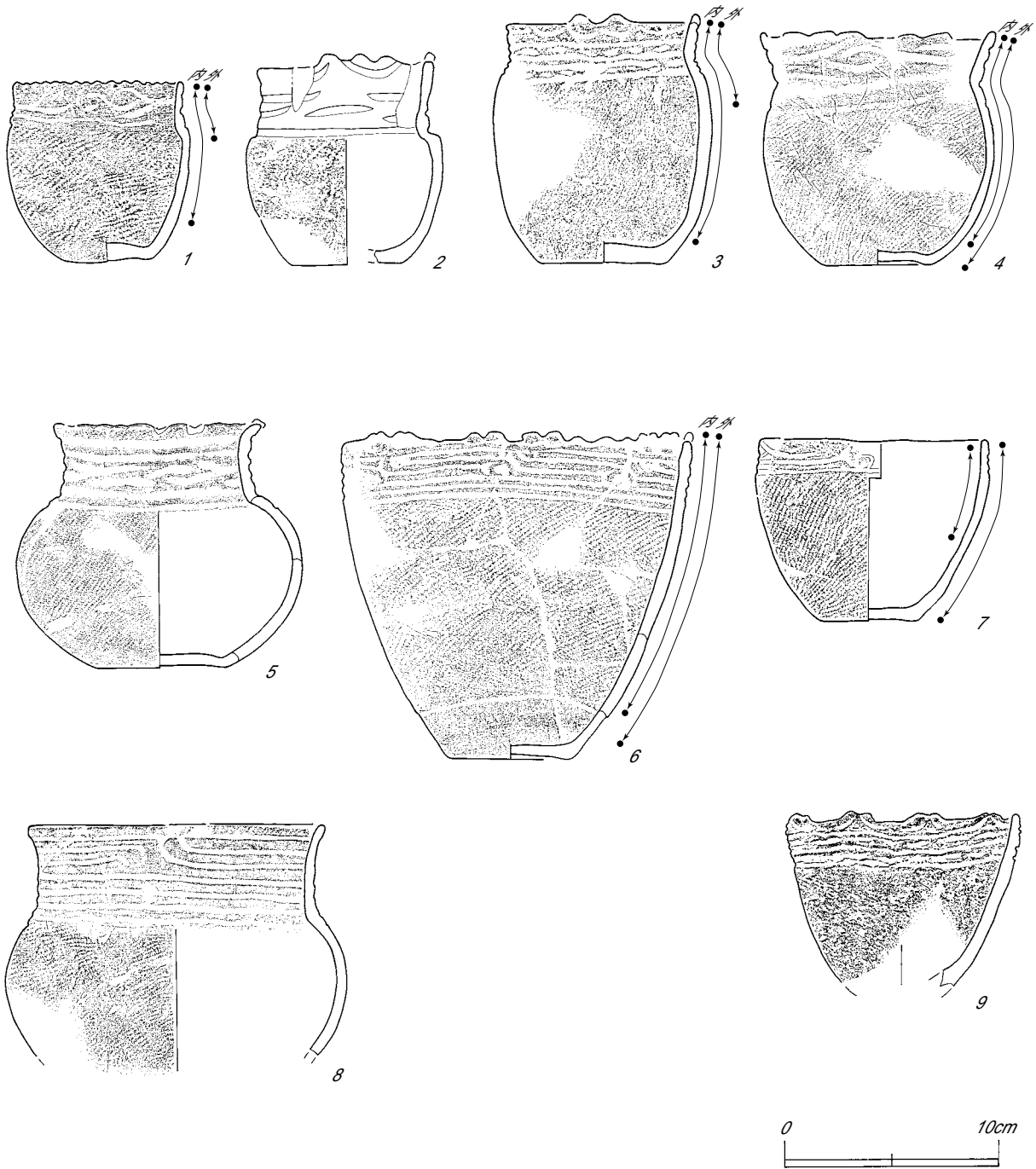
第56図 大洞B₂式 台付鉢 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
57	1	3007	LS34-d		1号	B ₂	無	鉢		17.3	14.2	6.8	18.9	16.1	-	-	-	606.1	
57	2	3066-3	LT34-d		1号	B ₂	無	鉢		(11.3)	7.0	5.9	12.0	(10.6)	-	-	-	167.0	
57	3	3337	LR34-d		1号	B ₂	無	鉢		(13.2)	7.6	4.5	(12.8)	(11.2)	-	-	-	59.5	
57	4	3423	LS34-c		1号	B ₂	無	鉢		(16.0)	9.0	(6.2)	(13.7)	(12.7)	-	-	-	313.9	
57	5	3136	LS34-c		1号	B ₂	無	鉢		10.2	5.1	3.0	8.9	8.2	-	-	-	70.7	
57	6	311	LP35-b		1号	B ₂	無	鉢		11.3	9.4	5.3	11.0	10.5	-	-	-	160.6	
57	7	3427	LS33-a		1号	B ₂	無	鉢		11.8	6.5	3.0	10.4	9.6	-	-	-	123.5	
57	8	3296	LQ35-b		1号	B ₂	無	鉢		10.3	6.0	欠	9.0	8.7	-	-	-	90.2	
57	9	3305	LR33-b		1号	B ₂	無	鉢		(9.6)	7.2	欠	(9.1)	(8.0)	-	-	-	31.0	
57	10	3383	LS34-b		1号	B ₂	無	鉢		9.0	6.9	3.2	8.3	7.9	-	-	-	107.3	
57	11	3114	MC29-b		3号	B ₂	無	鉢	屈曲	14.4	6.6	6.6	12.2	11.9	-	-	-	156.7	
57	12	3270	LR34-c		1号	B ₂	無	鉢		14.2	10.9	6.3	12.4	12.2	-	-	-	216.2	
57	13	3430	LQ35-b		1号	B ₂	無	鉢		(16.4)	9.0	欠	(15.7)	(14.7)	-	-	-	160.1	
57	14	1317	MA36		3号	B ₂	無	鉢		(12.5)	12.7	(6.5)	(12.5)	(11.4)	-	-	-	202.4	

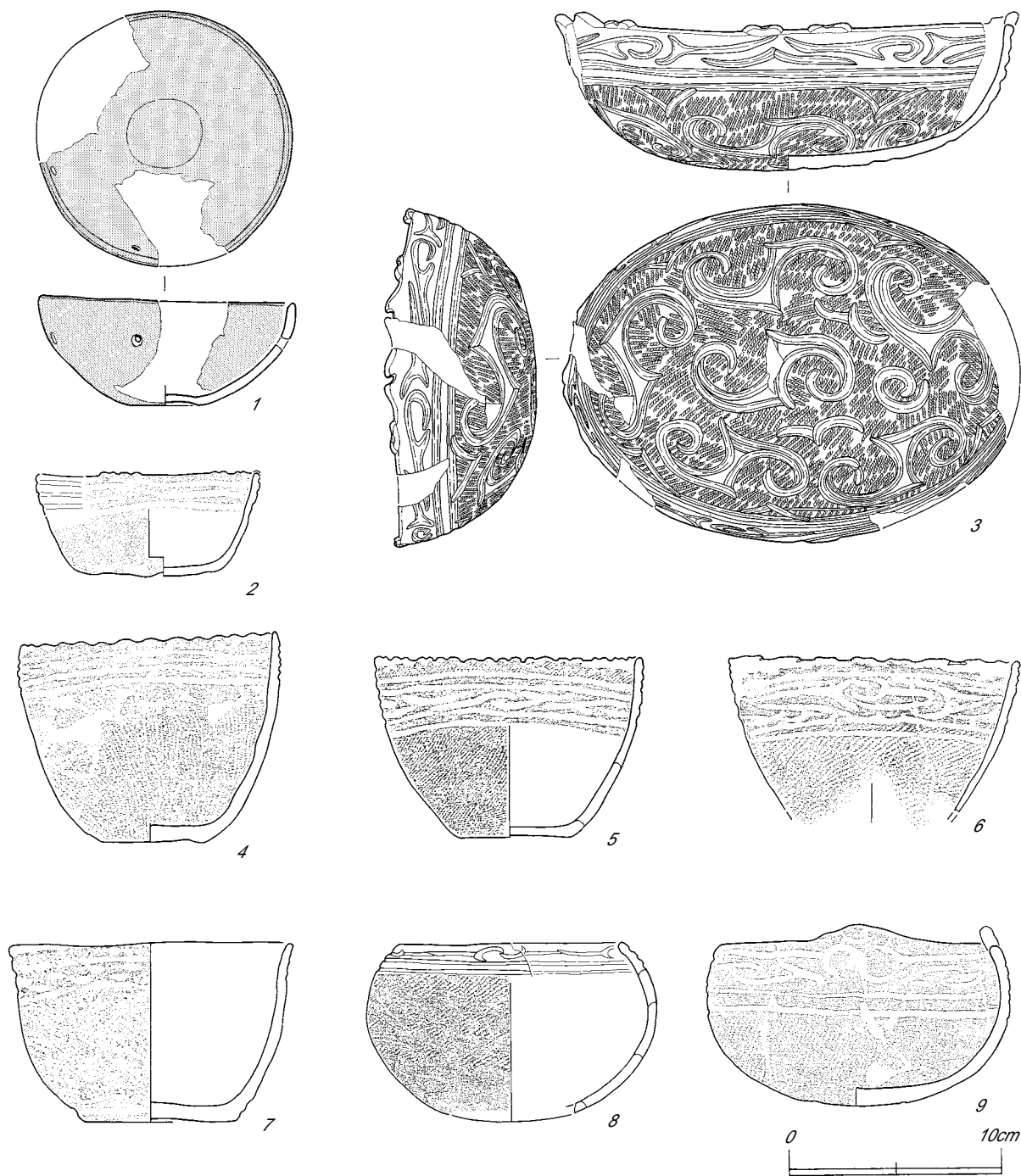
第57図 大洞B₂式 鉢 (1)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
58	1	1217-2	MC26-d		2号	B ₂	無	鉢		7.9	8.6	3.1	8.5	7.7	-	-	-	135.7	灯明皿
58	2	3135	LS33		1号	B ₂	無	鉢		8.2	9.8	(5.1)	9.1	7.7	-	-	-	142.8	
58	3	3180	LR35-a		1号	B ₂	無	鉢		8.9	11.5	5.8	10.2	8.5	-	-	-	247.3	
58	4	3404	LT34-a		1号	B ₂	無	鉢		(10.9)	10.8	(4.7)	(10.7)	(9.3)	-	-	-	226.3	
58	5	3140	LS35-a		1号	B ₂	無	鉢		9.6	11.5	5.9	13.2	8.4	-	-	-	287.6	
58	6	3117	LT33-a		1号	B ₂	無	鉢		16.2	15.5	5.7	-	-	-	-	-	365.1	
58	7	3170	LR34-c		1号	B ₂	無	鉢		(10.5)	8.4	4.3	-	-	-	-	-	132.5	
58	8	3120	LR34-c		1号	B ₂	無	鉢		(13.7)	10.7	欠	(15.8)	12.7	-	-	-	165.5	
58	9	563	LQ34-b		1号	B ₂	無	鉢		10.6	8.1	欠	10.8	-	-	-	-	143.4	

第58図 大洞B₂式 鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
59	1	193	LQ35-b		1号	B C	有	浅鉢	ボ-ル(円)	12.0	5.3	3.2	-	-	-	-	-	65.2	補修孔2ヶ所
59	2	3417	LS34-b		1号	B ₂	無	鉢		(10.4)	4.9	6.0	-	-	-	-	-	90.2	四脚
59	3	1311	MB36		3号	B ₂	無	浅鉢	ボ-ル(円)	長径21.5 短径15.8	7.5	丸	-	-	-	-	-	309.6	楕円形
59	4	1142	MA26-b		2号	B ₂	無	鉢		11.9	9.8	4.6	12.2	-	-	-	-	235.8	
59	5	3190	LR33-d		1号	B ₂	無	鉢		12.6	8.5	5.2	-	-	-	-	-	218.4	
59	6	3408	LR33-c		1号	B ₂	無	鉢		(13.6)	7.1	欠	-	-	-	-	-	86.5	
59	7	3003	LT34-d		1号	B ₂	無	鉢		13.2	8.3	7.0	-	-	-	-	-	251.1	
59	8	3365	MC27-a		2号	B ₂	無	浅鉢		(10.5)	(8.5)	(丸)	(13.6)	-	-	-	-	160.5	
59	9	3286	MA28-c		2号	B ₂	無	浅鉢		13.0	8.5	4.6	14.2	-	-	-	-	239.9	

第59図 大洞B₂・BC式 鉢・浅鉢 (3)

口縁部文様帯の施文法で大きく2種類に分けられる。第1類は、第53～55図2、第56図2～4の様な、口縁部上端に1条の沈線を引いて口縁部文様帯の上部を区画し縄文帯を形成するものである。第2類は、第55図3～9の様に解放したままで口唇端を取り込んだ文様帯とするものである。

第1類は研磨された口縁部文様帯器面に、角頭状もしくは丸棒状工具によって引かれた沈線の末端が三叉文となって入り組むものである。沈線断面は、工具先端形状に規定されて「U」字形を呈するものが多い。口縁部上端は縄文帯となって、口縁部文様帯を際立たせている。

第2類は、口縁部文様帯が口縁部上端を取り込むことから第1群よりも文様帯の幅が相対的に広い。文様要素は第1群と同じく三叉文だが、第55図8、第56図1・5の様に縄文帯であるべき口縁部上端が口縁部文様帯に取り込まれることから、口縁部文様帯が地文縄文となり三叉文がネガ文様化した結果、入組文をモチーフとして描出するものが出現する。第51図3も含めて、大洞BC式まであと一歩となるのである。

台部末端にも2条の平行沈線を施すことを基本とし、大きく張り出す部分は無文帯となることが多い。第56図3・4の様に、透かし穴を持つ玉抱き三叉文を施文したり、隆帯を貼り付けて文様を施すものがある。

鉢

鉢は、器形で大きく2類型に分けられる。第1群は、第57図と第58図1～5・8である。口縁部屈曲がより強く、胴部上端の張り出しが強調されるaと、口縁部高に対する胴部高の比率が大きく、長胴化するbの2種類に分けられる。

第1a群は、口縁部が外反して頸部が屈曲した後、胴部上半が張り出す平底、または丸底に近い平底の土器である。台付鉢は、この群を利用して台部を付けている。

第2群は、胴部の立ち上がりやや内湾しつつ、口縁部にかけて直線的に立ち上がる平底の土器である。第58図6・7・9、第59図2・4～7である。

鉢の文様帯は、台付鉢と共通し1段の口縁部文様帯を基本とし、口縁部上端を沈線によって区画するものとしめないものがある。また、胴部屈曲部かその直下に沈線による文様帯下端の区画をしているが、口縁部文様帯が多段化して胴部上半に入り込む様になると、文様帯区画の沈線はさらに下へ押しやられ、第57図1・3の様に本来口縁部文様帯だったものが胴部文様帯に変化したものもある。

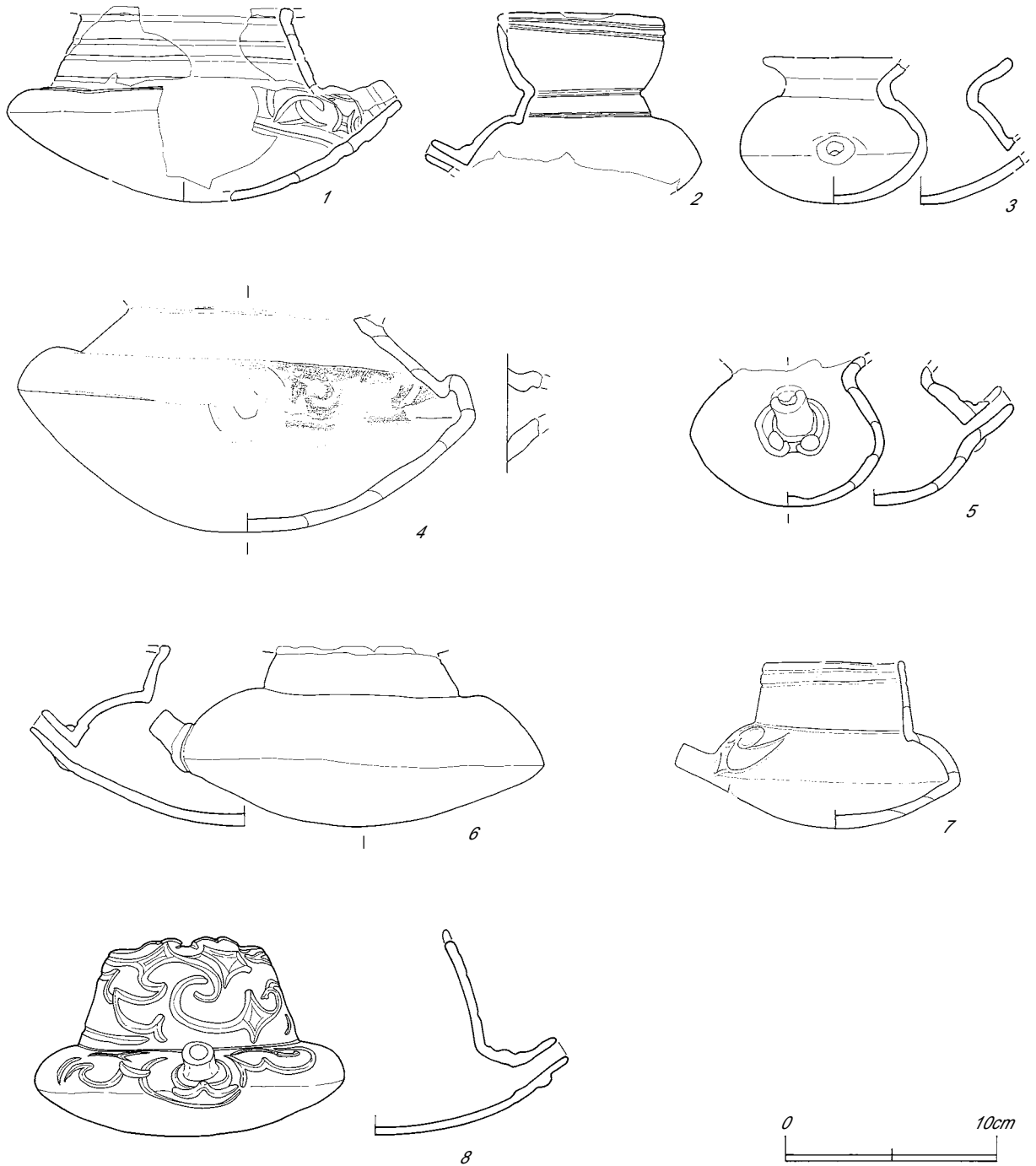
また、底部に台が付かないため、胴部文様帯下端が底部に密着するものと、第57図6・10・11、第58図6、第59図7の様に、1条の沈線で区画して磨きによる無文帯を作るものの2種類がある。

使用される文様要素は、三叉文を基本としている。当初、彫刻的な手法によって施され、3辺が短く鋭い古い要素が残存しつつ、1辺が長く伸び他の三叉文との連結をし始めることで沈線化する。その変化の過程で三叉文の独立性が失われつつ、沈線文に取り込まれて再度入組文の構成要素となるといった新しい要素が加わり、文様要素の構成はいっそう複雑化してゆく。

第57図1～11・13の様に、三叉文の末端が入り組み始めるものから、第59図8・9の様に玉抱き三叉文となるもの、三叉文が平行沈線化しつつ完全に段違いの入組文化する第58図6・8へと変化する。

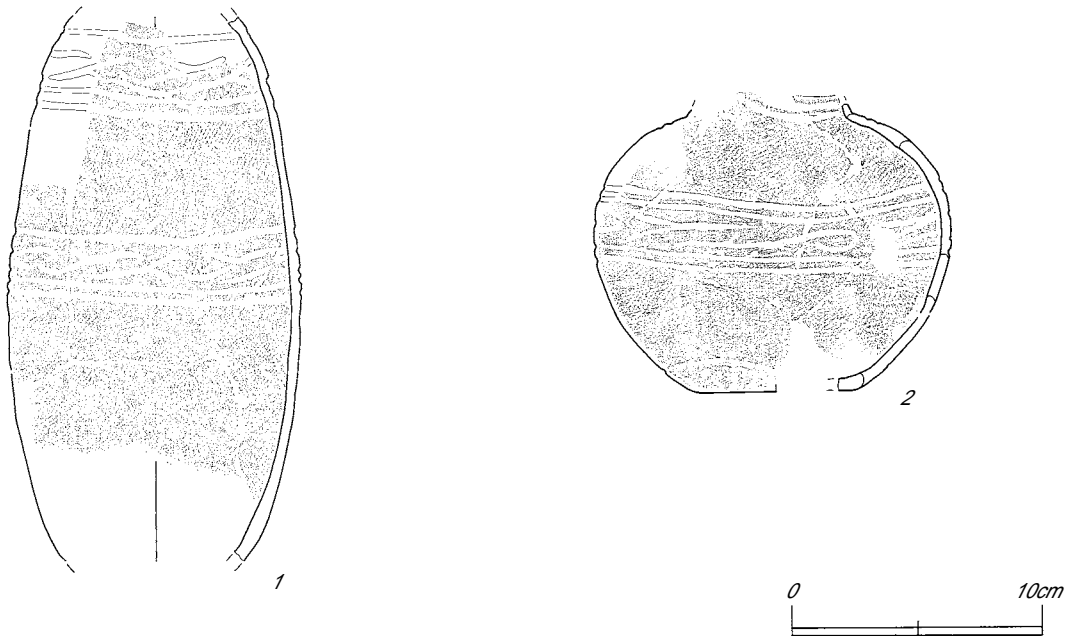
浅鉢

丸底で胴部との境界が不明瞭である。口縁部がやや外反しながら直線的に立ち上がる第59図3と、胴部から口縁部が内湾し、側面形が「柿」の様に見える第59図8・9がある。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
60	1	1332	MA28-c		2号	B ₂	無	注口		欠	9.0	(丸)	(16.6)	(9.8)	-	-	-	166.5	
60	2	1262	MC27-d		2号	B ₂	無	注口		(7.6)	8.4	欠	11.3	5.5	-	-	-	97.5	
60	3	3111	LT33-a		1号	B ₂	無	無文注口		(6.6)	6.9	丸	8.7	4.9	-	-	-	169.8	
60	4	3069	LT34-d		1号	B ₂	無	注口		欠	10.5	丸	21.5	(12.0)	-	-	-	774.0	
60	5	3017	LT33-b		1号	B ₂	無	無文注口		欠	7.0	丸	9.0	5.7	-	-	-	150.6	
60	6	3113	LT26-b		2号	B ₂	無	注口		欠	8.5	丸	16.9	(7.6)	-	-	-	319.9	
60	7	3511	MI35		4号	B ₂	無	注口		(6.6)	7.9	丸	11.7	-	-	-	-	142.2	
60	8	1318	MA36		3号	B ₂	無	注口		7.2	9.3	丸	14.4	-	-	-	-	282.5	

第60図 大洞B₂式 注口土器 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
61	1	3310	LS34-d		1号	B ₂	無	壺		欠	21.5	欠	(11.6)	-	-	-	-	179.1	
61	2	3172	LR34-c		1号	B ₂	無	壺		欠	11.1	(6.0)	(14.0)	(6.8)	-	-	-	204.4	

第61図 大洞B₂式 壺 (1)

第59図3は平面形が楕円形となる。口縁部は2つ一組の突起が4単位施される。胴部文様は入組文で大洞BC式に分類できるかもしれない。第59図9は、口縁部正面に突起が1単位付く。

第59図8の様に、三叉文の末端が入り組み始めるものから、第59図9の様に玉抱き三叉文となるもの、そして胴部文様帯は地文のみという規範から逸脱して胴部に入組文を施し、大洞BC式としてもいい第59図3が出現する。

注口土器

器形で大きく2群に分けられる。口縁部に「ツノカクシ」形の受け皿をつける第1群と、単純・直線的に内傾する口縁部を持つ第2群である。

大洞B₂式期の注口土器は胴部が高く、新しい段階となるにしたがって「そろばん玉」状にひしゃげてゆき、胴部中央の接合面に1条の明確な稜線が出現する。次の段階で胴部上半がよりひしゃげて内面に落ち込み、胴部上端と口縁部の接合面が強く屈曲する。第60図3・5が比較的古く、2・6・7を経て1・4・8へ変化するものと考えている。

文様も古手に置かれるものは沈線が数条施されるだけと単純で、新しい段階になると入組文が注口部・口縁部に描かれる。

器面は全て丁寧に研磨され、焼成は非常に良好で胎土は赤みの強い肌色をしているものが多い。

壺

長胴と丸胴という全く異なる2者が出土しているが、文様帯の施文位置は共通している。両者とも胴部最大径やや上に文様帯を持つ。頸部が欠損しているのが不明確だが、頸部文様帯を持つ第61図2の丸胴形に対して、胴部上面肩部に文様帯を持つ1の長胴形となる。長胴形の個体は、おそらく頸部文様帯を持たないだろう。

以上、大洞B₂式期の器種組成には、深鉢と台付鉢・鉢が目立ち、少量の注口土器と壺が伴うことが判明する。また、台付鉢は鉢の一部に台を付けて特殊化したものであることもわかった。

3 大洞BC式土器

概要

大洞BC式は、完形品224点、破片資料1,068点が出土した。完形品の内訳は、深鉢17点、台付鉢67点（内13点は台部のみ）、浅鉢41点、鉢31点、注口土器42点（内中段階6点、新段階7点含む）、壺21点、香炉1点、ミニチュア土器2点、土偶2点で構成される。

破片資料の内訳は、精製土器は深鉢・鉢709点、台付鉢70点、浅鉢76点、注口土器187点、壺9点、香炉6点である。粗製土器は全部で11点ある。深鉢7点、鉢4点で構成される。注口土器が圧倒的に多い点が注目される。

深鉢

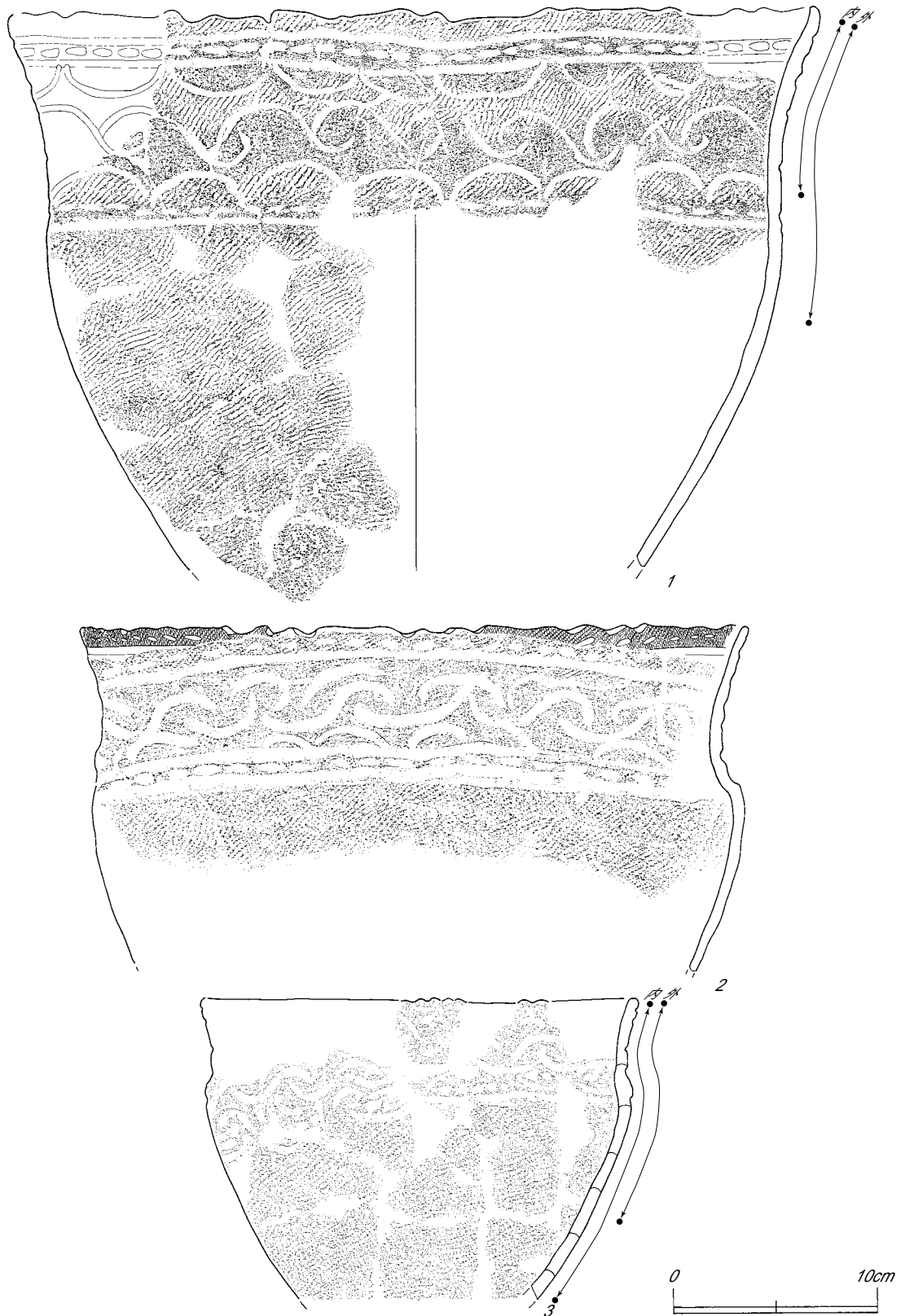
深鉢は、第62～65図に図示した。器形と使用される文様の精粗で大きく2群に分かれる。第1群は、胴部上半から器形が緩やかに屈曲し、外反して口縁に至る、幅広い口縁部文様帯を持つ精製土器である。第2群は、バケツ形の胴部から口縁部がやや内湾するか、屈曲して外反する粗製土器である。口縁部文様帯は狭いか、口縁部文様帯を持たず胴部全体に文様が描かれる。いずれの群も、大洞B₂式期には6～8単位の突起を持つ波状口縁だったが、各単位の突出が弱くなり平縁化した上で、口唇端にピッチの短い波状突起や刻み、そしてB突起を施す。前代に比べて口縁部幅が狭くなり、相対的に口縁部外反の度合いと屈曲が強くなる。器形変化と文様帯変化は当然リンクしている。古手の様相を残す第62図の3点と、羊歯状文が発生した第63図1～3を比較すれば一目瞭然である。

第1群で、古い段階におかれる第62図の3点は、口縁部文様帯の幅が広く、未だ入組文化した三叉文を文様要素として用いている。ただし、前代よりもその入り組み方は複雑且つピッチが狭くなり、細かい単位で構成される。文様帯下端を区画する平行沈線間の押引状列点文は、比較的保守的な文様で、精製土器では羊歯状文の発生と共に消失するが、半精製土器には引き続き使用されて長く残る。

上記平行沈線間列点文が半精製土器に移行しても、文様帯下端に付く垂下する「ノ」の字文は、羊歯状文と共に用いられる（第63図3）。

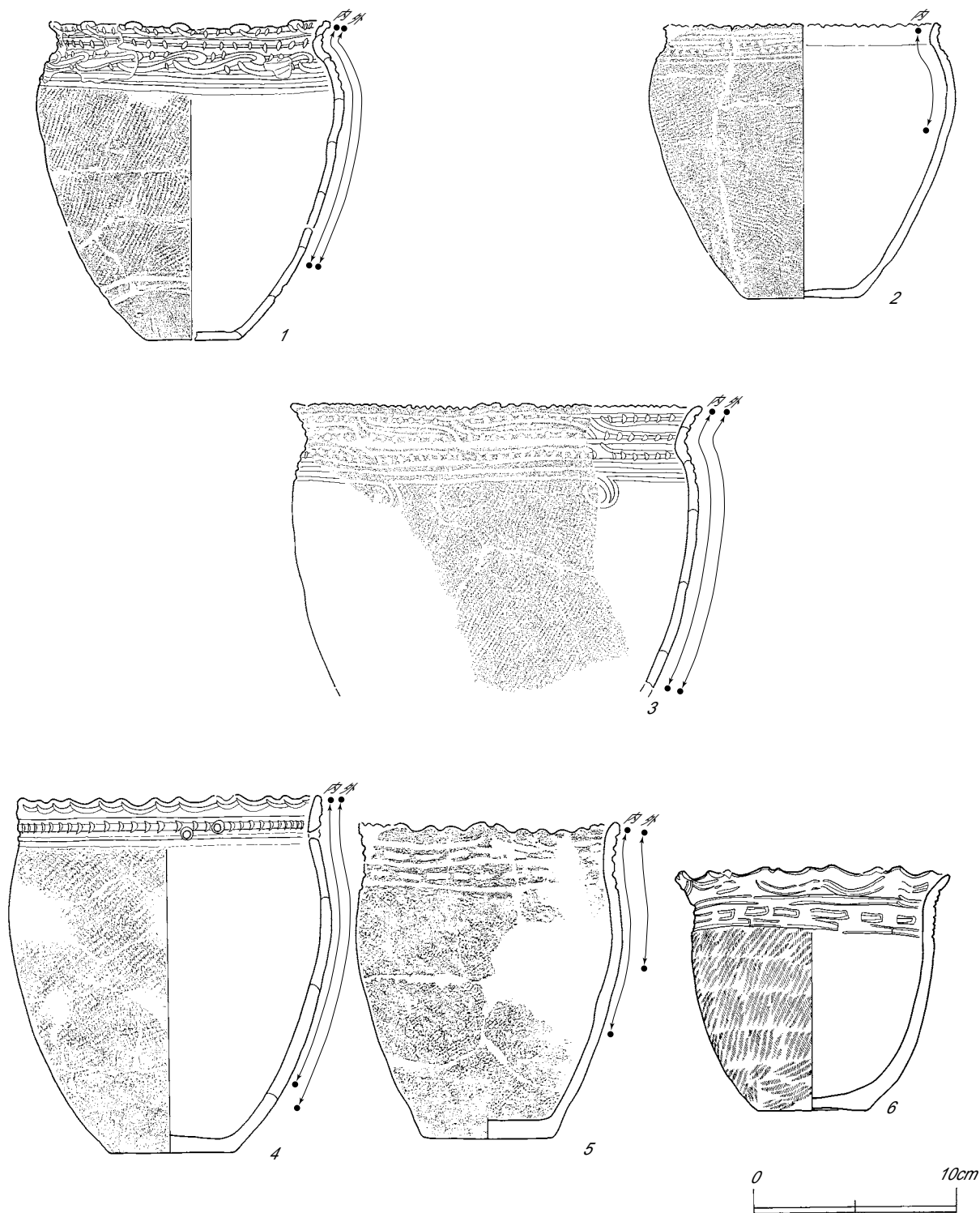
最も新しい段階に置かれるのが第65図3である。口縁部文様帯は、羊歯状文の平行沈線間列点文化に伴って狭く圧縮され、前段階までは胴部上半屈曲部に置かれていた文様帯内に、入組文が変化した「祖形」とも言うべき一単位の大きい雲形文が発生している。

第2群は、第64図、第65図1・2・5に示した半精製品で2種類ある。1類は、刺突による列点文を頸部と胴部の境界に施文して口縁部から頸部の文様帯を粗くなでた無文帯とする。胴部は地文縄文の無文帯である。頸部は屈曲し、口縁部は短く外反する（第64図）。



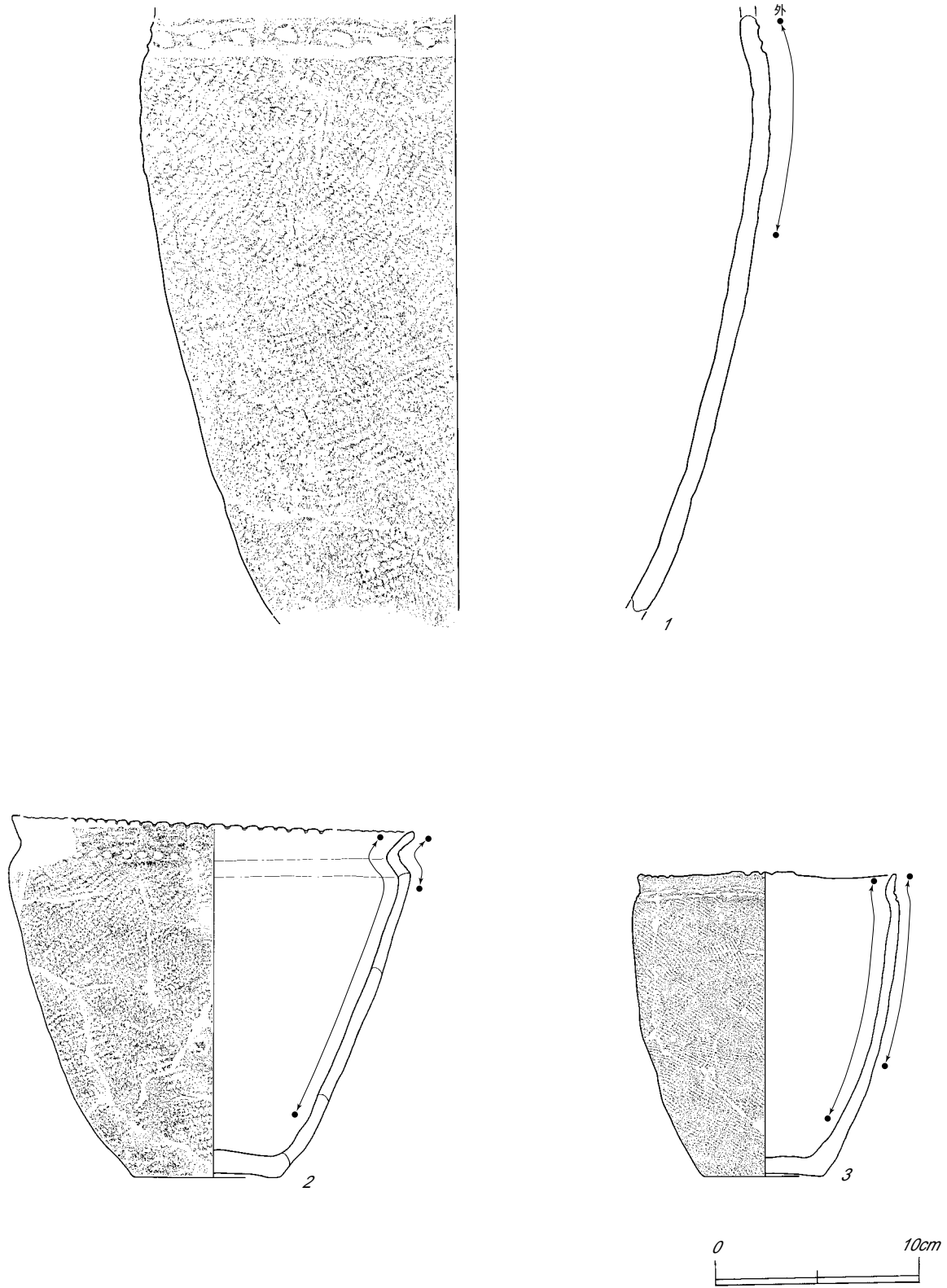
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
62	1	564	LQ34-b		1号	BC	無	深鉢		(39.5)	27.1	欠	-	-	-	-	-	1011.5	
62	2	3156	LS34-b		1号	BC	無	深鉢		32.5	16.7	欠	(32.5)	30.2	-	-	-	1200.0	
62	3	3426	LQ34-b		1号	BC	無	深鉢		(21.3)	14.6	欠	(20.8)	(20.1)	-	-	-	357.0	

第62図 大洞BC式 深鉢 (1)



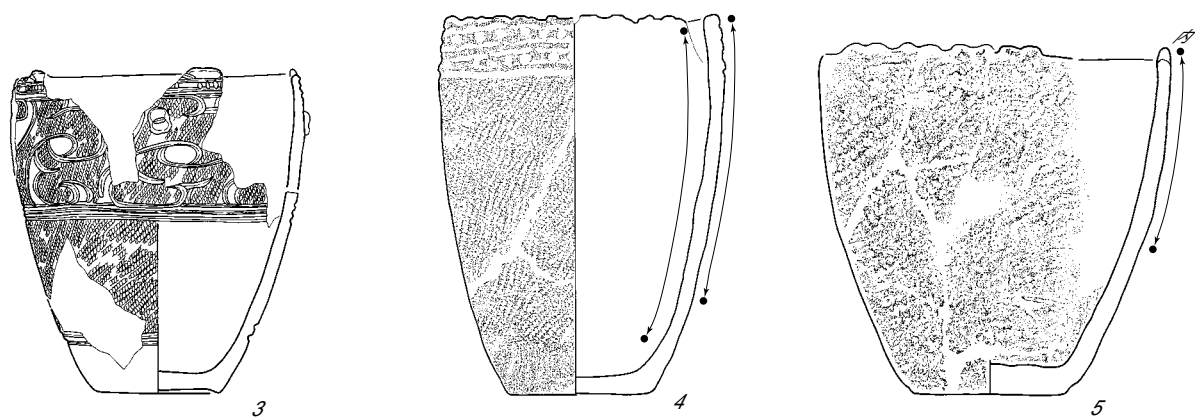
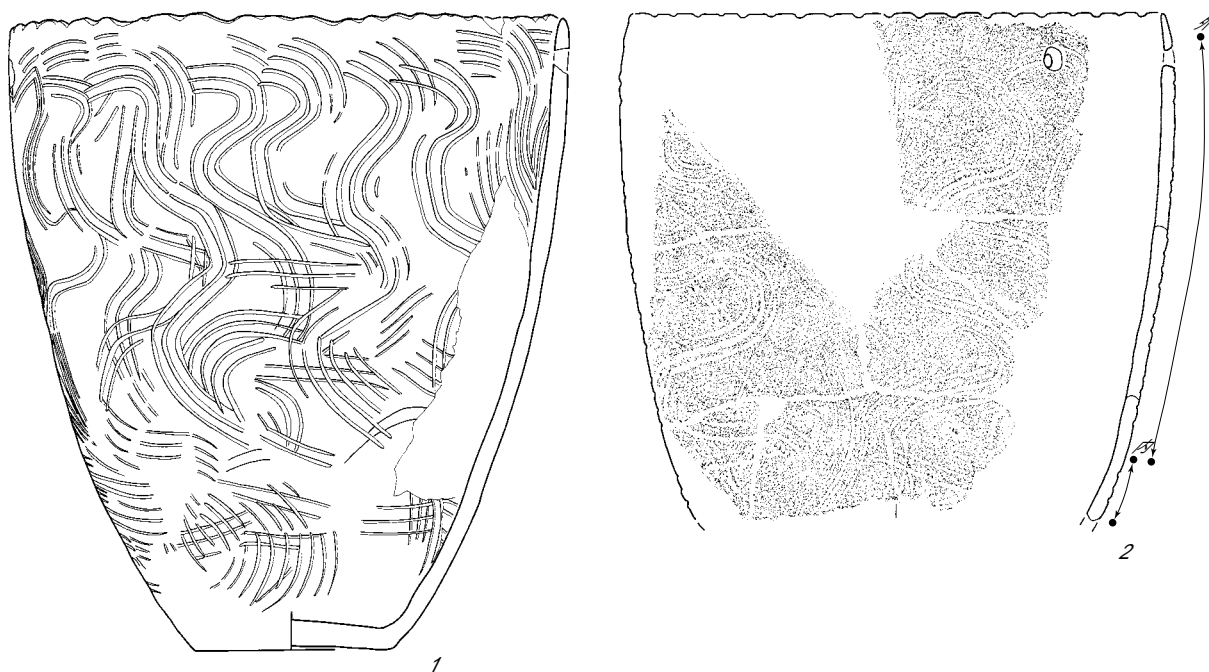
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
63	1	672	LQ35-c	1号	B C	無	深鉢		(13.7)	15.5	(4.5)	(14.9)	(12.8)	-	-	-	-	211.2	
63	2	517	LQ34-b	1号	B C	無	深鉢		(13.5)	13.4	5.4	(15.0)	(13.2)	-	-	-	-	257.6	
63	3	3431	LR35-d	1号	B C	無	深鉢		(20.2)	13.7	欠	(19.8)	(18.5)	-	-	-	-	115.6	
63	4	3298	LQ33-b	1号	B C	無	深鉢		14.8	17.4	6.0	15.8	-	-	-	-	-	450.0	補修孔1対
63	5	4-2	LR35-c	1号	B C	無	深鉢		(12.8)	15.4	6.3	(13.1)	(12.0)	-	-	-	-	442.6	
63	6	645	LQ35-b	1号	B C	無	深鉢		13.4	11.9	5.5	11.8	11.6	-	-	-	-	405.5	

第63図 大洞BC式 深鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
64	1	185	LR33-a		1号	BC	無	深鉢		欠	28.9	欠	(30.6)	-	-	-	-	2100.0	
64	2	655-1	LO35-b		1号	BC	無	深鉢		19.0	17.6	7.2	19.5	18.3	-	-	-	1164.0	
64	3	437-2	LO33-c		1号	BC	無	深鉢		12.5	14.8	5.9	12.9	12.4	-	-	-	368.6	

第64図 大洞BC式 深鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
65	1	678	LO35-c	1号	B C	無	深鉢			22.0	25.2	7.9	-	-	-	-	-	875.0	補修孔1ヶ所
65	2	3297	LO35-d	1号	B C	無	深鉢			(21.0)	19.9	欠	(22.0)	-	-	-	-	274.5	補修孔1ヶ所
65	3	371	LQ36-a	1号	B C	無	深鉢			(11.2)	12.9	4.9	(11.6)	-	-	-	-	194.8	
65	4	454	LQ36-b	1号	B C	無	深鉢			(10.8)	15.0	(5.5)	(11.4)	-	-	-	-	334.5	
65	5	3187	LR35-c	1号	B C	無	深鉢			(13.9)	13.7	5.9	-	-	-	-	-	351.7	

第65図 大洞BC式 深鉢 (4)

2類は緩やかに内湾しながら直線的に立ち上がる土器で、胴部に串書き状の縦に蛇行する平行沈線を施している（第65図1・2）。単純な地文のみのも（第65図5）もある。

台付鉢

台付鉢は第66～71図に示した。器形の特徴は前代を踏襲しているが、より規格化が著しい。器形によって大きく3群に分かれる。第1群は第66図1・2の大形品で、中・小形品に比べて前代の器形をより強く残す。胴部の張り出しが強い球胴形で頸部が屈曲し、口縁部が緩く外反する器形を基本としている。

第2群は、第66図3～第71図に示した土器で、前代から続く中・小形品の器形を踏襲しているが、大形品よりも文様帯の変化に敏感であり、4細分できる。口縁部が外反して立ち上がり頸部が屈曲するa（第66図3～第67図1・3～8、第68図12、第69図5・8・9、第70図1～4・6～9・11、第71図1・2）、頸部屈曲がより強く、口縁部幅は短く強く外反し、口縁部内面下端に稜が形成されるb（第68図1～9・11）、側面柿形の丸底浅鉢に台を付けたc（第67図2、第68図10、第69図1～4・6・7・10・11、第70図5・10・12）、皿状に口縁部が大きく開くd（第71図3・4）が出現する。

台部は直線的に外開きとなる単純なものと、外反した裾部から張り出し部を作るものの2種類があるが、張り出し部を作るのは大形品の台部に限定されており、前代の様に三叉文による透かし穴を切り込むことはない。

中・小形品の台部は、ラッパ形に外反するカーブを描き、末端に沈線で区画された縄文帯、中央に磨きを施した無文帯を作り出す。大形品とは対照的に、この部分に玉抱三叉文が描かれ、しばしば透かし穴となり、文様帯として確立する。

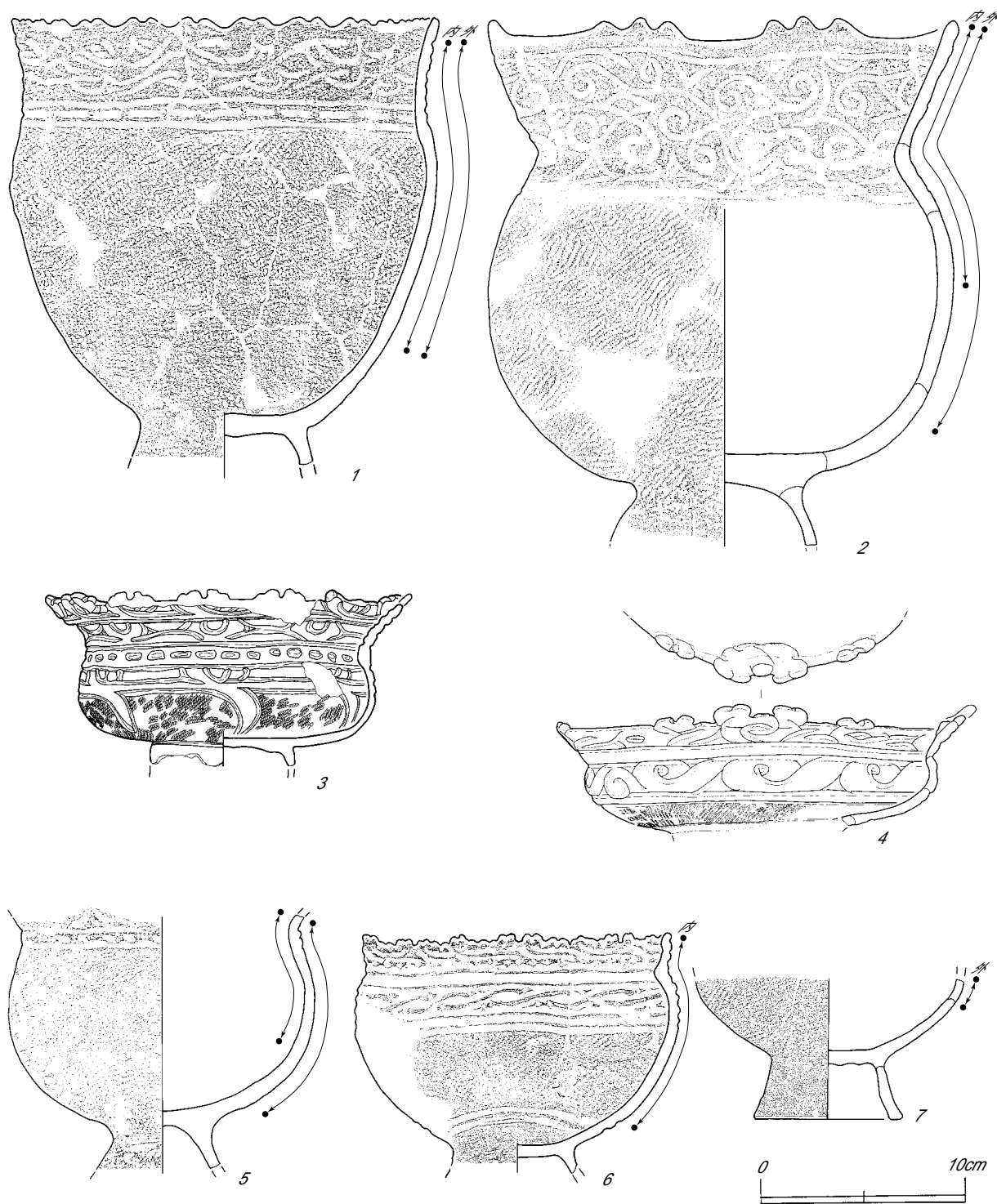
口縁部は、波状口縁もしくは平縁に4単位、または8単位の突起を持つ。各突起は、2から3の小突起がセットとなって1単位を構成する。第66図4の様に、正面に大突起があり左右に小突起を従えたスタイルをとるものもある。第67図1～5・7の様に、口唇部を幅1cm程度のピッチで刺突し、連続する突起で装飾されるものもある。第66図6は、B突起状となっている。

文様帯は多段化する。前代から胴部上半部まで口縁部文様帯の幅が広がる傾向があったが、大洞BC式期に至って胴部文様帯が独立する。頸部屈曲部を境界として沈線で上下を区画される1条の無文帯を置くことで、明確に文様帯が分離される（第66図4・6）。

第2a群では、胴部器高の低い1類（第66図3・4、第71図1・2）と高い2類（前者以外）に分離される。そして、第2a群1類古段階におかれる第66図3・4から、新段階である第71図1・2への変化を指摘できる。三叉文が入組文に転化しつつある古段階では、強く外反する口縁部と胴部最大径が下半部へ移動することで下ぶくれとなり、胴部上半に文様帯が形成されている。新段階では、胴部下ぶくれ部が明瞭な屈曲部となることで、胴部文様帯は上半部のみ限定される。それに伴って第66図3に残っていた胴部文様帯下部から垂下する「ノ」の字文は消滅する。

また、胴部が高い第2a群2類は、多段化した文様帯に羊歯状文を基本として、籠状工具を縦に持って平行沈線間を連続刺突するものや、半截竹管での押し引きによる爪形文が施文される。その後、口縁部文様帯の幅が圧縮される過程で、口縁部形態が短くより強く外反し、第2b群の発生を見る。

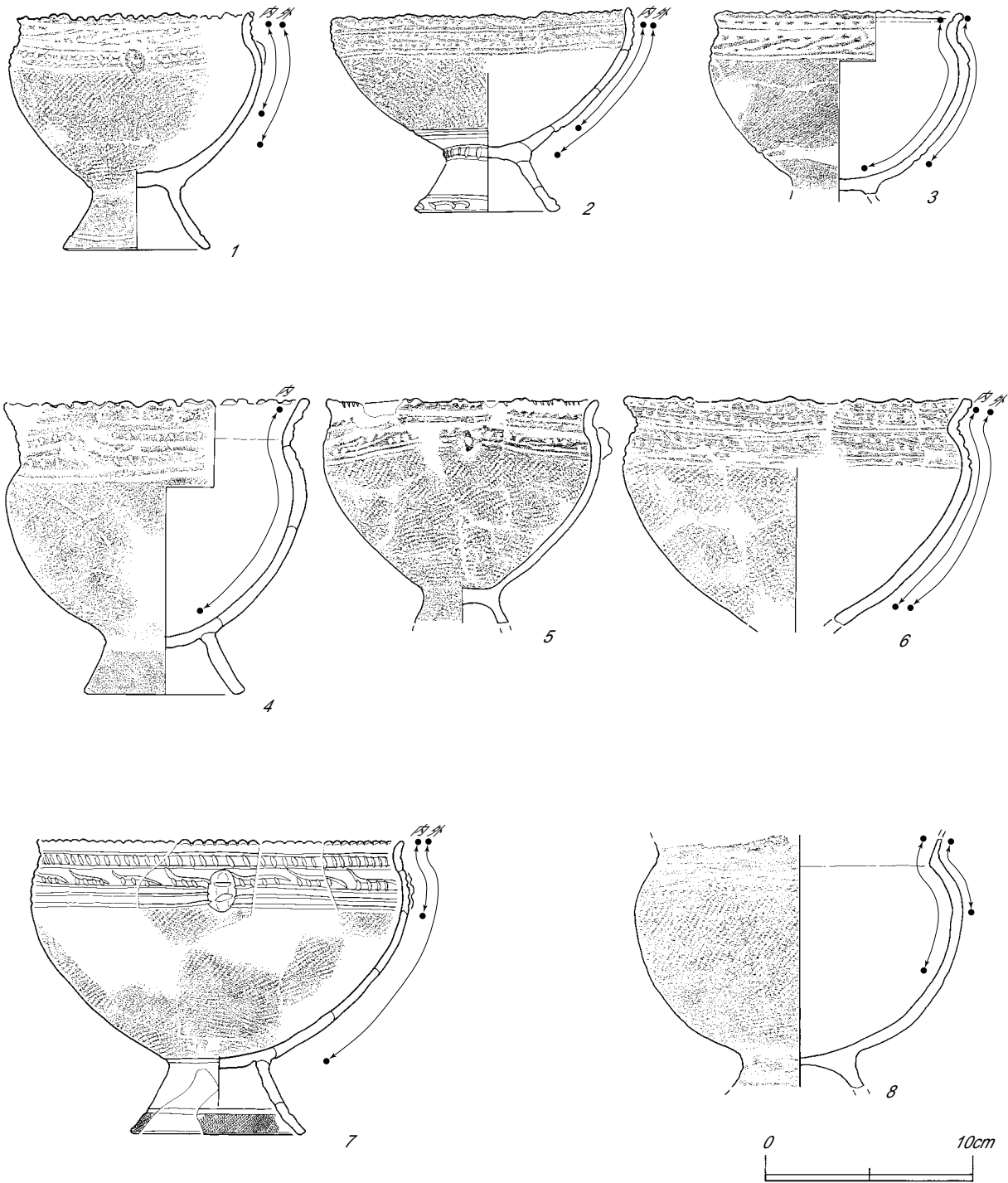
第2b群は台部にも文様帯を持つ。第2a群1類の台部にも文様が施される可能性があるが、はっきりしない。第2b群台部文様帯に施される文様要素は三叉文、玉抱き三叉文であり前代の系譜を引



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
66	1	8	LR33-b		1号	B C	無	台付鉢		(20.6)	21.6	欠	(20.6)	(19.3)	19.8	1.8	(8.1)	925.5	
66	2	3145	LT34-a		1号	B C	無	台付鉢		22.6	25.5	欠	22.5	17.9	22.4	3.1	8.0	1860.0	
66	3	1199	MB28-b		2号	B C	無	台付鉢		(17.7)	8.6	欠	14.4	13.7	7.5	1.1	6.8	267.8	
66	4	3082	MC34		3号	B C	無	台付鉢		(19.9)	5.9	欠	(17.2)	(16.7)	5.9	欠	欠	181.5	
66	5	3042	LR35-a		1号	B C	無	台付鉢		欠	12.3	欠	14.7	13.4	10.1	2.2	4.7	444.6	
66	6	398	LR36-b		1号	B C	無	台付鉢		14.7	11.6	欠	15.8	14.6	10.5	1.1	5.8	293.6	3100±40 ¹⁴ CBP
66	7	472-2	LO35-b		1号	B C	無	台付鉢		欠	6.8	7.2	13.0	-	3.8	3.0	5.5	171.0	

第66図 大洞BC式 台付鉢 (1)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
67	1	199	LQ35-b		1号	BC	無	台付鉢		(11.2)	11.3	(7.0)	(12.0)	(10.9)	8.2	3.1	(4.2)	201.8	
67	2	3243	LQ35-b		1号	BC	無	台付鉢		14.3	9.7	(6.9)	-	-	6.9	2.8	4.2	266.1	
67	3	3409	LR34-d		1号	BC	無	台付鉢		11.9	8.5	欠	12.3	11.3	7.9	0.6	4.3	155.0	
67	4	3147	LR34-c		1号	BC	無	台付鉢		14.6	14.2	7.6	14.2	13.1	11.4	2.8	5.3	363.2	
67	5	553	LQ35-d		1号	BC	無	台付鉢		(13.0)	10.6	欠	(13.2)	(12.4)	9.4	1.2	(3.6)	187.5	
67	6	219	LP34-b		1号	BC	無	台付鉢		(16.5)	10.8	欠	(16.6)	(15.2)	10.8	欠	欠	316.2	
67	7	3302	LQ35-b		1号	BC	無	台付鉢		(17.4)	(14.0)	(8.3)	(18.0)	-	10.4	3.6	(4.7)	319.8	
67	8	3032	LQ35-b		1号	BC	無	台付鉢		欠	11.7	欠	(15.5)	(13.2)	10.8	0.9	(5.3)	268.2	

第67図 大洞BC式 台付鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
68	1	3267	LP34-a		1号	B C	無	台付鉢		12.2	10.7	欠	13.5	12.5	9.9	0.8	5.2	223.0	
68	2	3260	LO33-d		1号	B C	無	台付鉢		(11.7)	10.9	(7.3)	(13.4)	-	8.9	2.8	(5.1)	186.8	
68	3	266	LP33-c		1号	B C	無	台付鉢		12.7	10.8	7.2	13.5	-	8.6	2.2	5.3	255.0	
68	4	3444	MB28-d		2号	B C	無	台付鉢		(15.0)	13.2	9.3	(17.3)	-	9.2	4.0	5.8	434.1	
68	5	3157	LP33-c		1号	B C	無	台付鉢		(12.5)	11.5	(7.5)	(14.6)	-	8.8	2.7	(5.1)	225.8	
68	6	3080	MA29-b		2号	B C	無	台付鉢		(10.8)	10.0	7.6	(12.0)	-	6.9	3.1	(5.2)	74.0	
68	7	1342	MA28-c		2号	B C	無	台付鉢		12.1	12.1	7.5	14.0	12.0	8.6	3.5	5.3	77.6	
68	8	1296	MA28-b		2号	B C	無	台付鉢		9.6	7.6	欠	10.6	9.4	6.4	1.2	4.5	121.0	
68	9	452	LQ36-a		1号	B C	無	台付鉢		(8.5)	8.0	6.3	(8.8)	(8.3)	6.0	2.0	3.9	112.4	
68	10	701	LO35-b		1号	B C	無	台付鉢		(13.7)	8.4	欠	(14.3)	-	7.4	1.0	(5.9)	211.4	
68	11	3372	LQ33-b		1号	B C	無	台付鉢		(14.8)	12.3	欠	(16.2)	-	12.3	欠	欠	246.9	
68	12	1274	MA28-c		2号	B C	無	台付鉢		9.0	10.0	5.6	9.3	8.1	7.4	2.6	4.0	206.4	

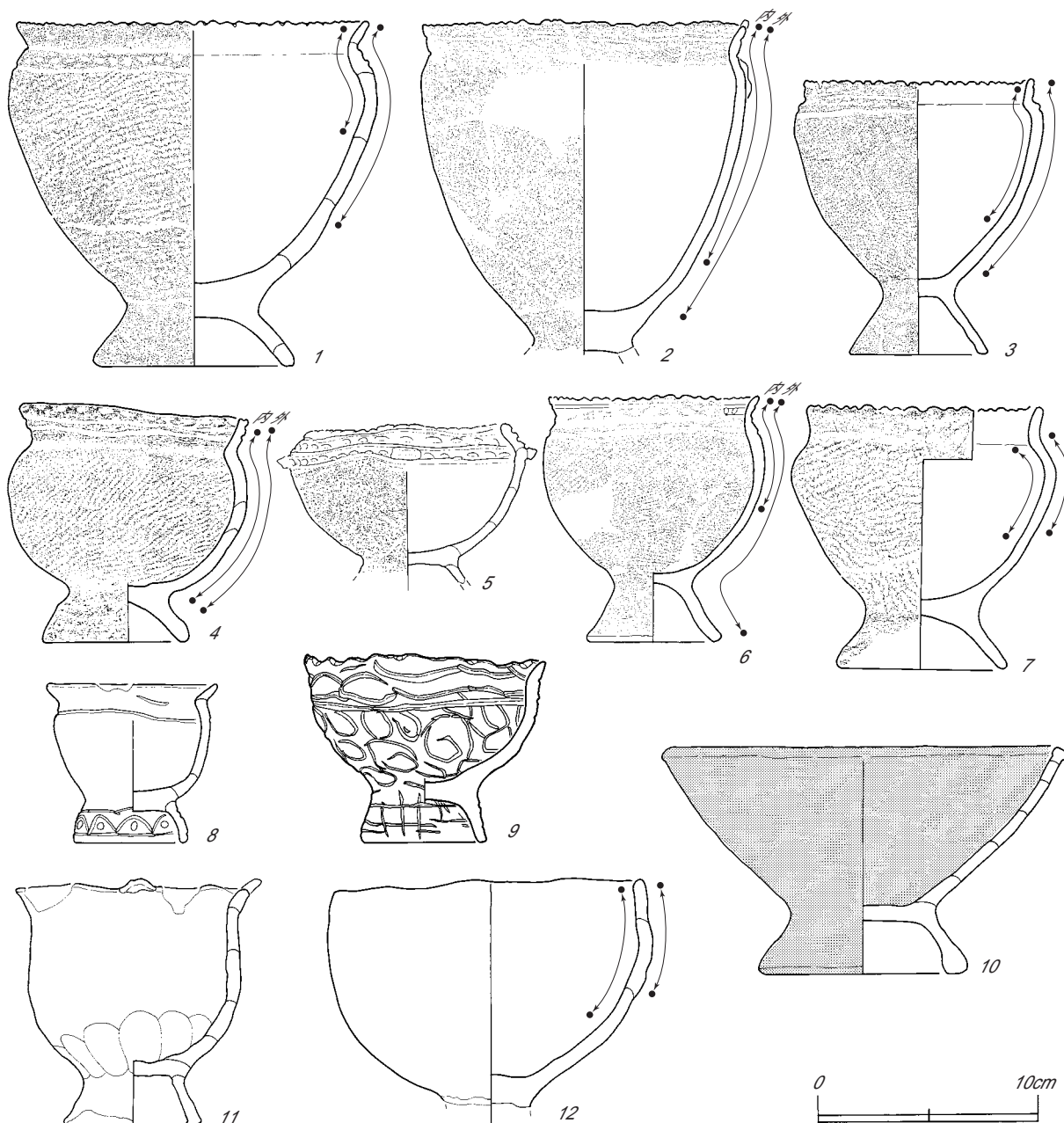
第68図 大洞BC式 台付鉢 (3)

第2章 捨て場と遺物



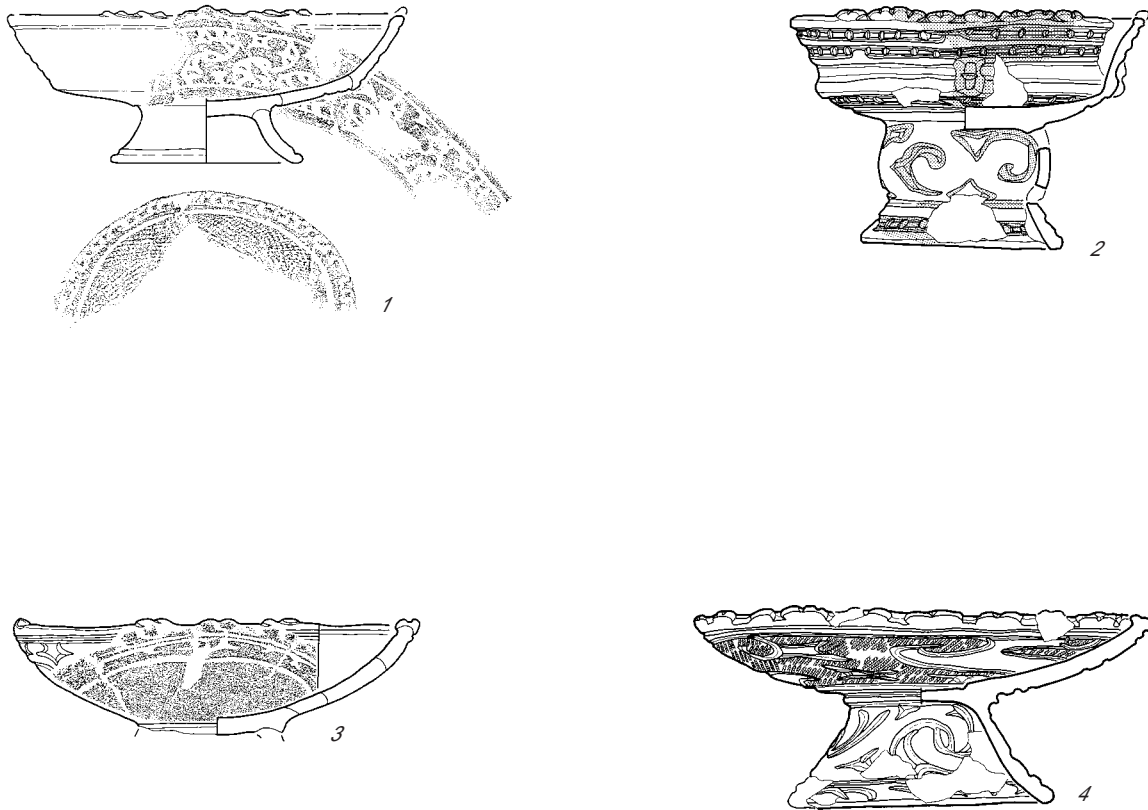
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
69	1	3332	LQ33-b		1号	BC	無	台付鉢		(16.6)	13.3	7.0	(17.4)	-	10.8	2.5	5.4	227.5	
69	2	14	LR34-d		1号	BC	無	台付鉢		13.9	10.5	7.9	14.5	-	7.8	2.7	5.1	304.0	
69	3	3287	LR35-a		1号	BC	無	台付鉢		11.0	9.0	6.7	11.3	-	6.7	2.3	4.5	131.1	
69	4	244	LQ34-b		1号	BC	無	台付鉢		(12.4)	9.7	欠	-	-	8.2	1.5	(5.6)	146.0	
69	5	3027	LT33-d		1号	BC	無	台付鉢		13.0	7.3	欠	11.9	10.5	7.1	0.2	4.7	248.3	
69	6	75	LR36-b		1号	BC	無	台付鉢		11.1	7.5	6.1	-	-	5.7	1.8	3.7	108.2	
69	7	1074	MA25-c		2号	BC	無	台付鉢		12.1	6.7	欠	12.4	-	6.2	0.5	4.1	170.8	
69	8	3268	LQ34-b		1号	BC	無	台付鉢		14.9	11.1	欠	15.4	14.4	8.9	2.2	5.8	248.1	
69	9	3231	MA28-c		2号	BC	無	台付鉢		12.1	11.0	(7.3)	12.4	11.8	8.1	2.9	4.9	214.4	
69	10	3183	LR34-b		1号	BC	無	台付鉢		13.5	10.4	7.7	14.2	-	7.2	3.2	4.8	229.8	
69	11	3182	LR34-b		1号	BC	無	台付鉢		16.9	11.9	7.6	17.4	-	8.8	3.1	5.8	391.0	

第69図 大洞BC式 台付鉢 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
70	1	3057	LQ34-d		1号	B C	無	台付鉢		15.8	15.5	9.0	16.5	14.8	12.8	2.7	5.8	566.2	
70	2	3418	LQ33-b		1号	B C	無	台付鉢		14.7	15.0	欠	(14.9)	(13.8)	14.3	0.7	(4.4)	325.3	
70	3	455	LR36-a		1号	B C	無	台付鉢		(10.3)	12.3	(6.2)	(11.1)	(10.2)	9.6	2.7	(3.2)	220.8	
70	4	201	LQ35-b		1号	B C	無	台付鉢		10.2	10.8	6.5	10.7	9.2	8.8	2.0	4.4	278.4	
70	5	670	LQ35-a		1号	B C	無	台付鉢		(9.2)	7.1	欠	(11.8)	-	8.2	1.0	4.3	143.0	
70	6	3258	MB28-b		2号	B C	無	台付鉢		9.5	11.1	6.1	10.0	8.8	8.4	2.7	3.5	126.1	
70	7	3049	LP34-a		1号	B C	無	台付鉢		(10.4)	12.3	7.9	(12.2)	(10.5)	9.6	2.7	5.4	266.3	
70	8	618	LQ34-b		1号	B C	無	台付鉢		7.6	7.2	5.0	7.0	6.7	5.3	1.9	4.0	108.5	
70	9	3055	LS33-c		1号	B C	無	台付鉢		10.8	8.5	5.7	-	-	6.2	2.3	4.8	221.6	
70	10	1043-1	MA28-a		2号	B C	有	台付鉢		(18.2)	10.2	9.4	-	-	7.5	2.7	6.5	271.0	
70	11	3066-1	ME35		3号	B C	無	台付鉢		(11.0)	11.1	(6.2)	(9.5)	(9.2)	8.5	2.6	(4.4)	245.4	
70	12	1282	MB27-c		2号	B C	無	台付鉢		13.8	10.3	欠	14.6	-	9.9	0.4	4.0	461.8	

第70図 大洞BC式 台付鉢 (5)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
71	1	3154	LR35-d		1号	B C	無	台付鉢		(15.6)	5.9	(7.6)	-	-	3.9	2.0	(5.1)	183.5	
71	2	647	LQ35-b		1号	B C	有	台付鉢		14.1	9.4	8.0	-	-	4.8	4.6	(6.2)	211.0	
71	3	3377	LT26-c		2号	B C	有	台付鉢		16.0	4.5	欠	-	-	4.2	0.3	5.8	218.7	内外面朱塗り
71	4	3249	LP35-a		1号	B C	無	台付鉢		18.3	8.0	(10.5)	-	-	3.7	4.3	6.0	307.2	

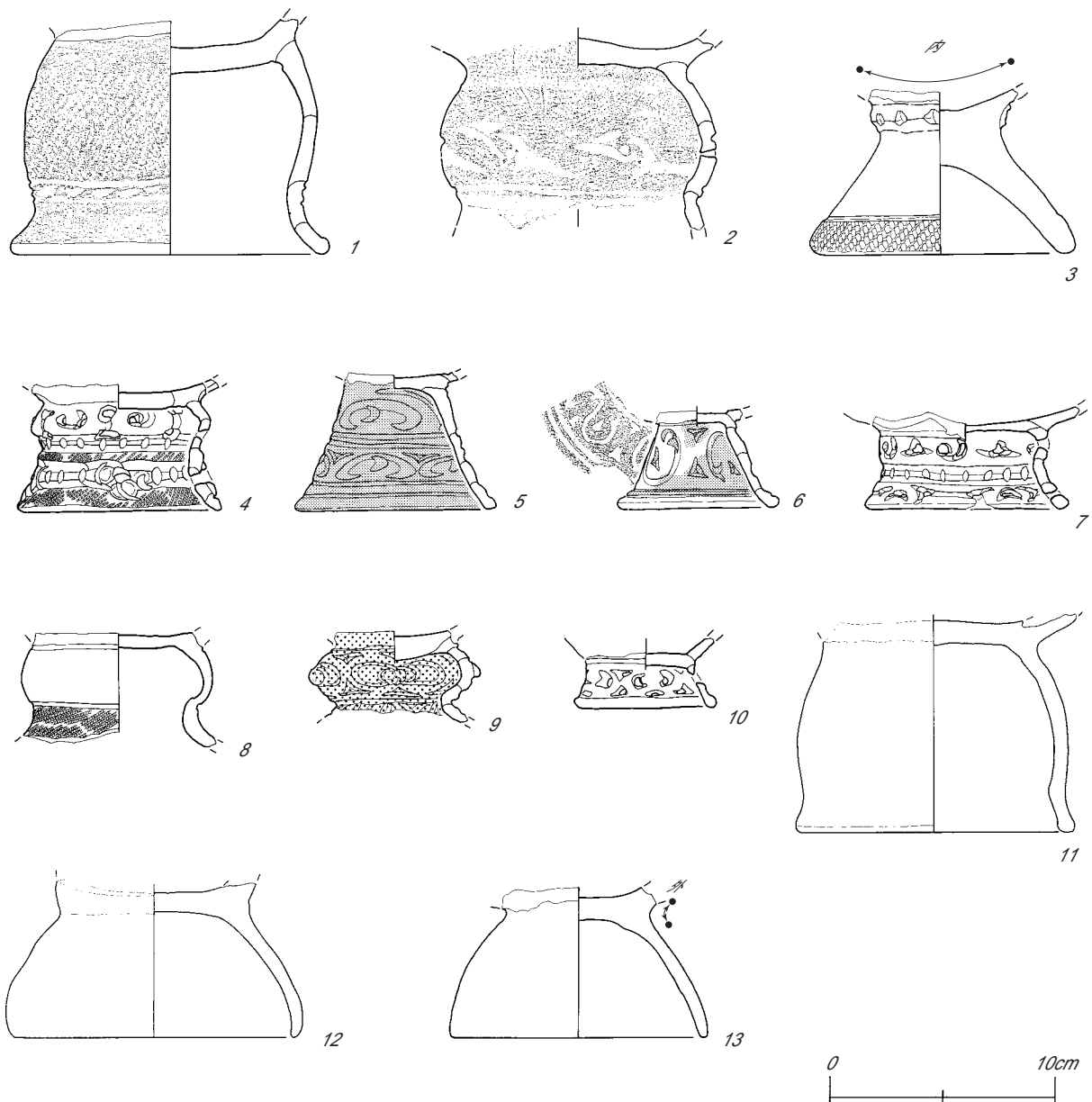
第71図 大洞BC式 台付鉢（6）

いている。口縁部文様帯ではすでに羊歯状文が列点化しつつある段階で、台部に施される文様は前代からの三叉文であることは、この文様帯の保守性を示すものだろう。

台部側面形が第2 a群に比べてラッパ形に開くのは、新たな文様帯の確立に対する視点・視覚の変化に関わっていると考えられる。大洞B₂式期においては口縁部器形・文様帯と台部器形・台部文様帯の対応は明瞭ではなく、あくまで台部の形態と文様施文の対応であった。大洞BC式では、第2 b群において台部施文の割合が多い傾向がある。

口縁部文様帯の羊歯状文が数条の沈線間に対する列点として形骸化すると同時に、土器正面の文様帯下端に縦の突起が貼り付けられ新たなアクセントとなる（第68図2・7・11・12）。

第2 c群は、側面が丸く口縁はわずかに内湾する。口縁部は平縁で、口唇端に刻み状の刺突が付くが口唇部形態は単純である。口縁部文様帯のみの1類（第69図1～4・6・7）と、胴部文様帯を持



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
72	1	3087	LS34-b		1号	B C	無	台付鉢		欠	10.3	14.0	-	-	0.3	9.5	10.5	532.8	
72	2	3038	LO35-b		1号	B C	無	台付鉢		欠	8.4	欠	-	-	1.4	7.0	9.7	334.0	
72	3	284	LP34-c		1号	B C	無	台付鉢		欠	7.2	11.6	-	-	1.7	5.5	5.3	368.1	
72	4	3266	LR34-b		1号	B C	無	台付鉢		欠	5.7	8.9	-	-	0.9	4.8	6.8	131.5	
72	5	1073	MA28-c		2号	B C	有	台付鉢		欠	6.0	8.8	-	-	0.6	5.4	4.4	105.4	
72	6	330	LP35-c		1号	B C	有	台付鉢		欠	4.3	7.1	-	-	0.5	3.8	3.3	43.0	
72	7	3079	MC37		3号	B C	無	台付鉢		欠	4.4	8.8	-	-	0.9	3.5	7.3	100.0	
72	8	1326	MB28-d		2号	B C	無	台付鉢		欠	5.0	欠	-	-	0.8	4.2	7.1	130.2	
72	9	245	LQ34-b		1号	B C	漆塗り	台付鉢		欠	4.1	欠	-	-	0.7	3.4	(5.4)	84.0	
72	10	3085	MA36-a		3号	B C	無	台付鉢		欠	3.1	6.2	-	-	1.0	2.1	4.7	36.5	
72	11	3023	MC34		3号	B C	無	台付鉢		欠	9.6	12.3	-	-	1.4	8.2	9.5	422.6	
72	12	86	MA36-b		3号	B C	無	台付鉢		欠	6.8	13.0	-	-	0.8	6.0	8.3	288.2	
72	13	628	LQ34-a		1号	B C	無	台付鉢		欠	6.6	11.3	-	-	1.2	5.4	6.2	238.4	

第72図 大洞BC式 台付鉢 (7)

つ2類(第69図10・11)に分けられる。

第2c群1類の口縁部文様帯は、羊歯状文が簡略化されて粗雑な印象を受ける平行沈線間刺突文である。胴部は地文縄文で台部との接合部にも刺突文を施す。また、台部末端は縄文帯で中央部は磨きによる無文帯となる。

第2c群2類は胴部文様帯に「祖形」雲形文を持ち、台部には形骸化して元の形態を失いつつある三叉文が施される。すでに玉抱き三叉文の原型はなく、本来は貫通孔となって透かし穴状装飾となっていた部分が、象徴的に刺突されているのみである。

胴部の「祖形」雲形文は、入組文から変化しつつ過程にあり、文様モチーフは多様である。入組文を描出する沈線が、胴部文様帯上端と下端を区画する沈線に結合し、その結合部には未だ充填文となる半円形・菱形の彫刻がされていない。ただしその萌芽は、すでに現れている。第69図9ならばZ字を呈する縄文帯の先端と末端にある短沈線のヒゲ状飛び出し部であり、10ならばX字縄文帯の上下中央部にある刺突がそれに当たる。

第2d群は、最も新しい。口唇部はB突起で飾られており、胴部及び台部文様帯にはすでに雲形文が施されている。第71図4は、大洞C₁式との境目となる。胴部の雲形文の入り組みは、大洞C₁式に比べて未だ単純であることから大洞BC式に含めた。

鉢

鉢は、前代に比べてより平縁化し、小振りな突起が2つセットで4単位施されるものが多い。また、小さな刻みを連続して施す。器形で大きく3類型に分けられる。

第1群の特徴は前代と同じで、口縁部幅がより広く、胴部最大径は胴中央よりも上におかれるa(第73図6・8・10)と、口縁部幅が広く胴部高がほとんどないb(第73図1・2・9)、側面形は壺に似るが口縁部・頸部直径が広く広口壺とも考えられるc(第73図3～5)、そして胴部最大径が胴中央より下におかれるd(第74図1～7)の4種類に分けられる。

第2群は胴部立ち上がりがやや内湾しつつ、口縁部にかけて直線的に立ち上がる平底の土器である(第75・76図)。

第3群は、口縁直径が広く、小さな平底から緩やかなカーブを描いて側面が立ち上がる。典型的な浅鉢よりも口縁直径：高さの比率が大きい、皿ではない(第74図8)。

第1a～c群の文様帯は、口縁部と胴部に複数段展開され、第73図1・10の様に器面全体が装飾されるものが現れる。第2群は口縁部に文様帯が限定されたままである。また、第3群は器高が低いこともあって口唇部端、もしくは内面に平坦面を形成して文様帯とする。胴部は全面に施文される。

使用される文様は、口縁部には羊歯状文、胴部には入組文もしくは「祖形」雲形文が施される。第73図1・2は、元々は口縁部だった部分が長くのびて「胴部文様帯」化し、本来の胴部文様帯と口縁部文様帯は狭く圧縮されている。そのため、1ではK字文化しつつある羊歯状文が、2は「祖形」雲形文が最も目立つ新出文様帯に描かれている。

浅鉢

浅鉢は平縁が主で、小振りな突起が2つセットで4単位施されるものも多い。また、小さな刻みを連続して施す。底部は丸底、もしくは小さな平底が主だが、第78図5・6の様に四ッ足がつくものもある。器形で大きく2類型に分けられる。



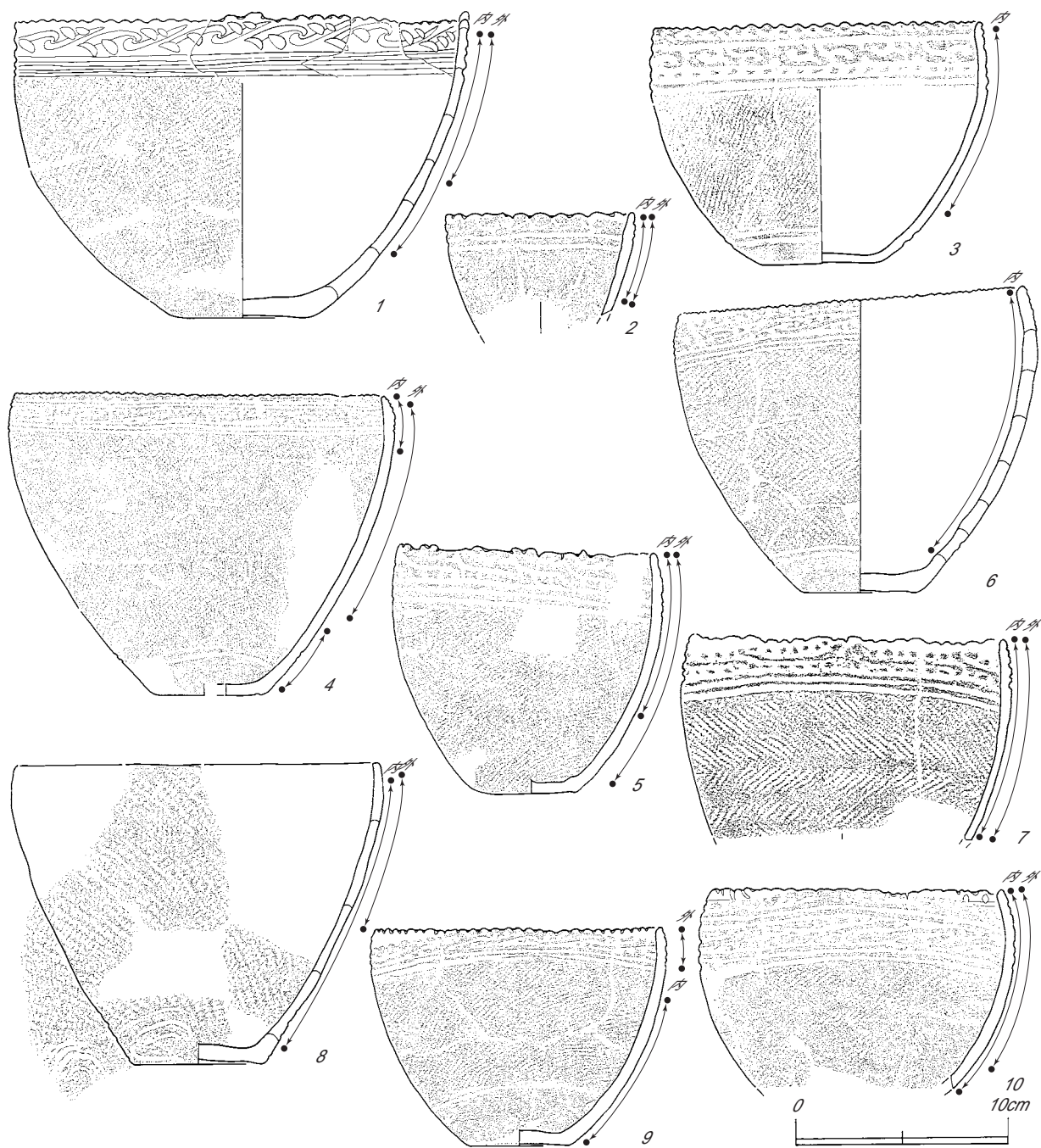
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
73	1	3092	MA28-b		2号	B C	無	鉢	屈曲	22.2	6.9	13.2	18.3	17.9	-	-	-	502.4	
73	2	3232	MA29-b		2号	B C	無	鉢		(11.3)	11.4	7.5	10.2	8.7	-	-	-	238.0	
73	3	3061	LO34-b		1号	B C	有	鉢		9.2	(8.1)	(6.0)	11.4	7.2	-	-	-	166.1	四脚
73	4	3234	LQ33-b		1号	B C	無	鉢		9.9	11.0	6.3	14.2	8.6	-	-	-	221.9	四脚
73	5	3248	LN29		外	B C	有	鉢		7.0	8.5	5.2	9.7	5.3	-	-	-	199.1	
73	6	299-1	LP34-b		1号	B C	有	鉢		7.7	5.7	3.2	8.6	6.1	-	-	-	106.8	
73	7	3047	LS34-c		1号	B C	無	鉢		8.3	10.2	(5.2)	12.2	7.2	-	-	-	276.0	
73	8	3275	LQ33-c		1号	B C	無	鉢		(11.7)	9.0	6.2	(12.5)	(10.4)	-	-	-	165.8	
73	9	3391	MA27-d		2号	B C	無	鉢		(11.4)	5.9	4.0	(11.7)	(10.2)	-	-	-	211.5	
73	10	3244	LQ33		1号	B C	有	鉢		22.4	14.7	4.6	(21.9)	19.2	-	-	-	587.5	

第73図 大洞BC式 鉢 (1)



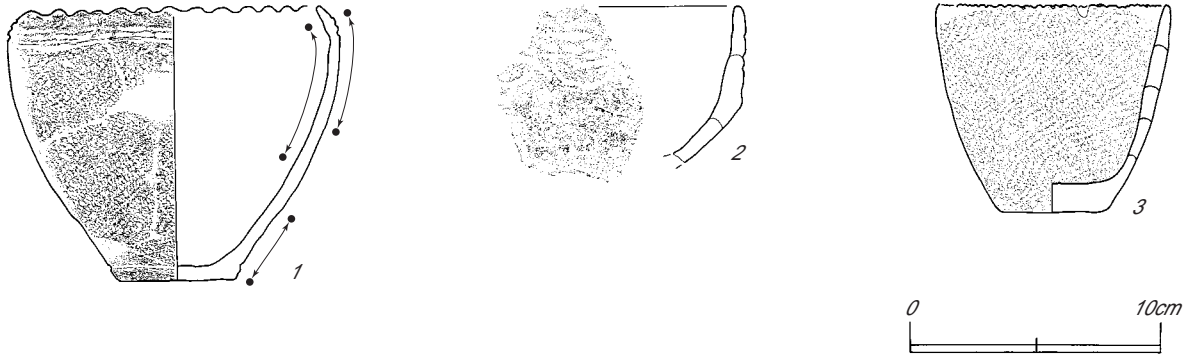
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
74	1	613	LQ33-d		1号	BC	無	鉢		9.8	8.1	4.9	10.0	9.4	-	-	-	229.0	
74	2	3155	LR35-d		1号	BC	無	鉢		(16.0)	15.7	(5.7)	(16.9)	(15.1)	-	-	-	322.7	
74	3	1201	MD27-d		2号	BC	無	鉢		(14.4)	15.9	5.6	(15.7)	(12.7)	-	-	-	228.6	
74	4	3128	LS34-a		1号	BC	無	鉢		11.1	9.7	5.2	10.9	9.6	-	-	-	229.4	
74	5	1234	MA27-c		2号	BC	無	鉢	屈曲	12.0	6.2	4.0	-	-	-	-	-	210.8	
74	6	3283	MB26-c		2号	BC	無	鉢		(10.4)	7.5	5.0	(9.7)	(9.2)	-	-	-	82.9	
74	7	3161	LP33-d		1号	BC	無	鉢		(21.3)	16.6	欠	(22.9)	(20.8)	-	-	-	1121.5	
74	8	1036	MA27-d		2号	BC	無	鉢		-	-	-	-	-	-	-	-	57.8	口縁裝飾穿孔1ヶ所

第74図 大洞BC式 鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
75	1	3434	LP35-a		1号	BC	無	鉢		21.1	14.2	6.5	-	-	-	-	-	436.7	
75	2	3254	LQ33-d		1号	BC	無	鉢		9.0	5.6	欠	-	-	-	-	-	65.5	
75	3	3364	LS34-a		1号	BC	無	鉢		(15.3)	11.2	5.1	(15.7)	-	-	-	-	257.9	
75	4	3277	LQ35-d		1号	BC	無	鉢		17.3	14.2	4.5	18.0	-	-	-	-	338.4	
75	5	3109	MB27-b		2号	BC	無	鉢		11.8	11.8	4.7	12.7	-	-	-	-	294.6	
75	6	705	LQ35-a		1号	BC	無	鉢		(16.0)	14.3	5.3	(17.0)	-	-	-	-	357.8	
75	7	3393	LR33		1号	BC	無	鉢		(14.8)	9.4	欠	(15.4)	-	-	-	-	212.4	
75	8	3281	LO34-c		1号	BC	無	鉢		(16.9)	14.0	(5.9)	(17.3)	-	-	-	-	158.0	
75	9	3067-1	MB28-d		2号	BC	無	鉢		(13.4)	10.2	(4.8)	(13.8)	-	-	-	-	215.6	
75	10	3261	LQ33		1号	BC	無	鉢		(13.6)	9.3	欠	(14.8)	-	-	-	-	230.5	

第75図 大洞BC式 鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
76	1	226	LP34-b		1号	BC	無	鉢		(11.6)	10.8	(4.6)	(13.0)	-	-	-	-	223.0	
76	2	3316	LQ33-d		1号	BC	無	鉢		-	-	-	-	-	-	-	-	42.3	
76	3	3269	LO35-c		1号	BC	無	鉢		(9.3)	8.2	(4.0)	-	-	-	-	-	177.0	

第76図 大洞BC式 鉢 (4)

第1群の特徴は、小さな平底もしくは丸底で、胴部が丸くカーブする。口縁部が内湾するa(第77図4~8・第78図、第80図9)と、直線的に開くb(第80図2~6)がある。

第2群は、口縁直径が広く、小さな平底から緩やかなカーブを描いて側面が立ち上がる。典型的な浅鉢よりも口縁直径：高さの比率が大きい。皿ではない。第77図1~3・9、第80図7・8である。

第1群は、第78図の様に器面全体が装飾されるものが現れる。第2群は口縁部に文様帯が限定されたままである。

第78図には大洞BC式でも新しい段階のものをまとめた。第1群土器の胴部に「祖形」雲形文が最もよく使われている。これらの口縁部文様帯には羊歯状文が残るものの、列点化が進行している。7は、1条斜めに引かれる沈線がわずかに羊歯状文の名残を残し、5・8はすでに平行沈線間を充填する列点文となっている。

第80図9は、顔面装飾付浅鉢である。遮光器土偶と同じ手法で顔面が描かれているが、目玉は貼り付けではなく器面に直接沈線で描出している。

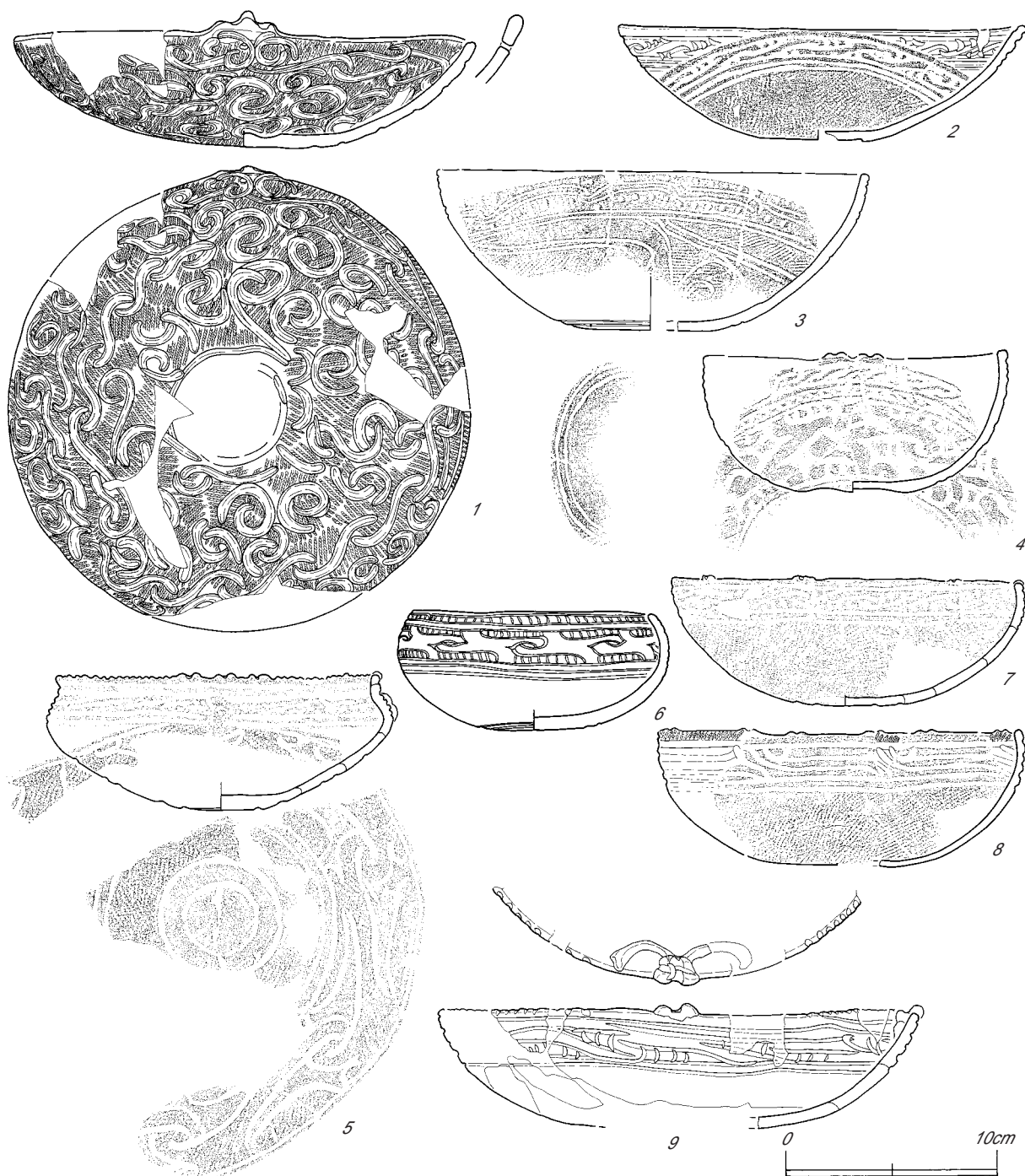
注口土器

器形で大きく2群に分けられる。口縁部に「ツノカクシ」形の受け皿をつける第1群(第81図~第84図5)と、単純・直線的に内傾する口縁部を持つ第2群(第84図6~第87図)である。

大洞B₂式期に比べて胴部は低く、特に胴部上半がひしゃげて内面に落ち込み、胴部上端と口縁部の接合面が強く屈曲する。胴部屈曲部下に1条の沈線を施し、文様帯の下端を区画する。第1群、第2群とも口縁部は平縁が目立ち、装飾は正面に数単位の突起が施される。

使用される文様は、口縁部に施される入組文(第81図1・2)、第1群の頸部に特徴的に施される入組文から発展した鉢巻状のX字状文(第81図5・6、第82図、第85図2)と同じく入組文が発展して生まれつつある「祖形」雲形文(第85図4・6)、羊歯状文(第83図3・4他)、K字文(第85図5、第86図3・5・7、第87図)がある。

文様の変化による新旧関係を、入組文から鉢巻状X字状文への変化、もしくは「祖形」雲形文化を



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
77	1	3228	MA26-b	2号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		21.6	6.4	4.5	-	-	-	-	-	388.3	口縁裝飾穿孔 1ヶ所
77	2	3390	MB27-d	2号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		19.1	5.6	5.0	-	-	-	-	-	263.6	
77	3	3411	LT28-c	2号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(20.3)	7.4	(5.8)	-	-	-	-	-	-	141.6	
77	4	3-2	LS34-a	1号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		14.0	6.7	5.2	14.3	-	-	-	-	138.6	四脚
77	5	3328	MB28-d	2号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		15.1	6.3	3.9	16.2	-	-	-	-	179.9	
77	6	3039	LQ34-c	1号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		11.3	5.6	4.7	12.7	-	-	-	-	195.4	
77	7	3094	MB28-d	2号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		16.5	6.0	4.7	-	-	-	-	-	220.0	
77	8	3353	LR34-d	1号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)		17.0	6.4	5.5	17.3	-	-	-	-	78.4	
77	9	3405	MA28-b	2号	BC	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(22.4)	(5.8)	(7.0)	-	-	-	-	-	-	139.6	

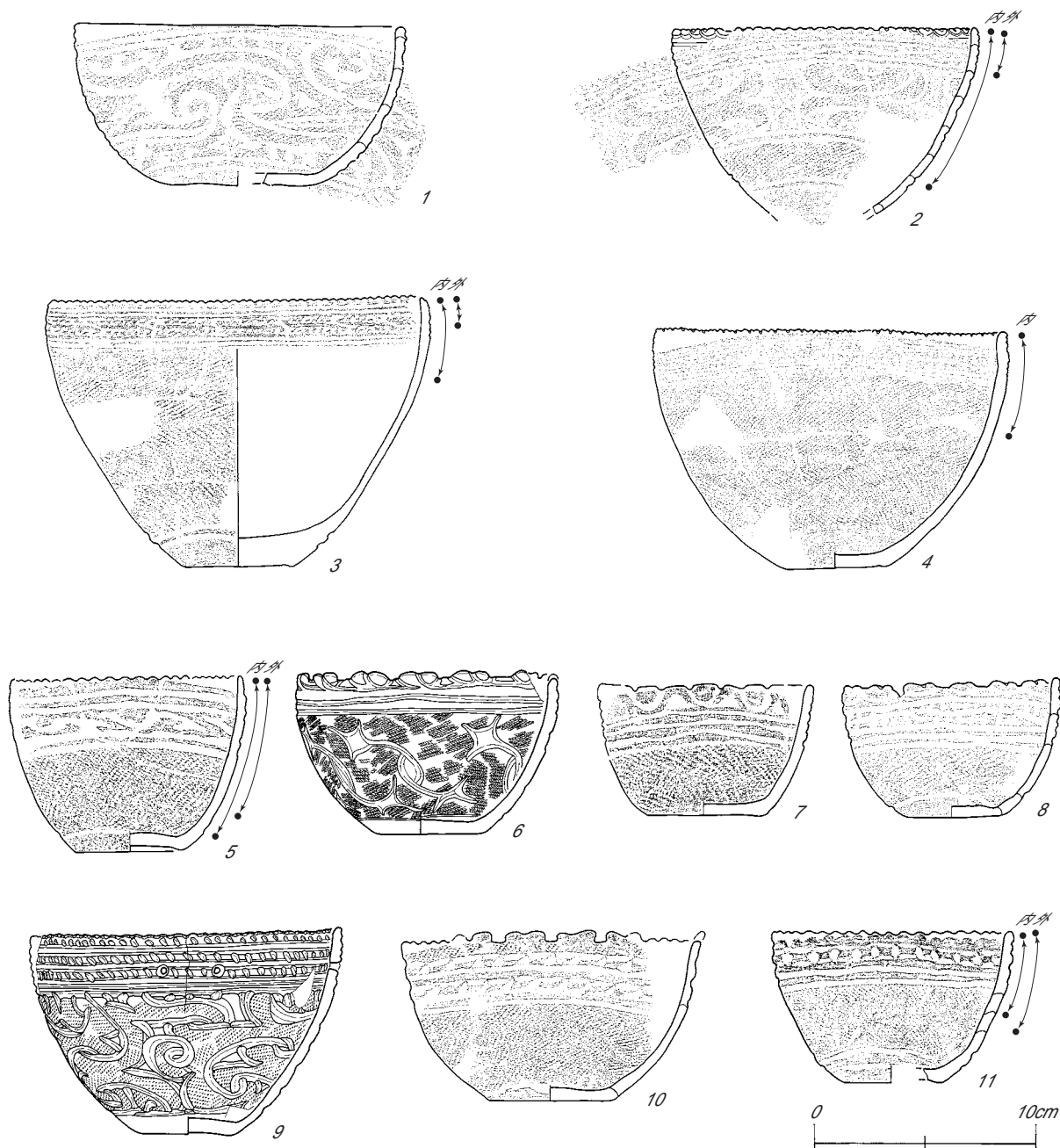
第77図 大洞BC式 浅鉢 (1)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
78	1	3200	LR33-c		1号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(17.0)	6.8	8.0	-	-	-	-	-	158.0	四脚
78	2	3349	MB27-d		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	17.4	5.8	5.6	-	-	-	-	-	237.7	
78	3	3146	LR35-a		1号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	11.0	5.2	4.8	11.8	-	-	-	-	138.6	
78	4	1163-2	MB28-d		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	13.7	7.3	4.2	-	-	-	-	-	165.0	
78	5	683	LQ34-a		1号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(18.0)	8.1	7.0	(18.7)	-	-	-	-	396.4	四脚
78	6	240	LQ34-b		1号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(12.5)	6.5	8.7	(13.0)	-	-	-	-	189.4	四脚
78	7	1297	MA28-b		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	12.4	6.5	4.7	-	-	-	-	-	126.8	
78	8	215	LQ35-b		1号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	16.8	7.7	3.4	-	-	-	-	-	302.8	
78	9	3236	MB28-d		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	12.6	6.5	5.3	(14.6)	-	-	-	-	110.8	
78	10	3289	MA28-b		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	17.2	6.5	丸	-	-	-	-	-	186.6	
78	11	1336	MA28-b		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	12.7	5.4	3.8	13.0	12.4	-	-	-	189.4	
78	12	3089	MA28-c		2号	B C	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(13.8)	6.2	4.4	-	-	-	-	-	152.4	

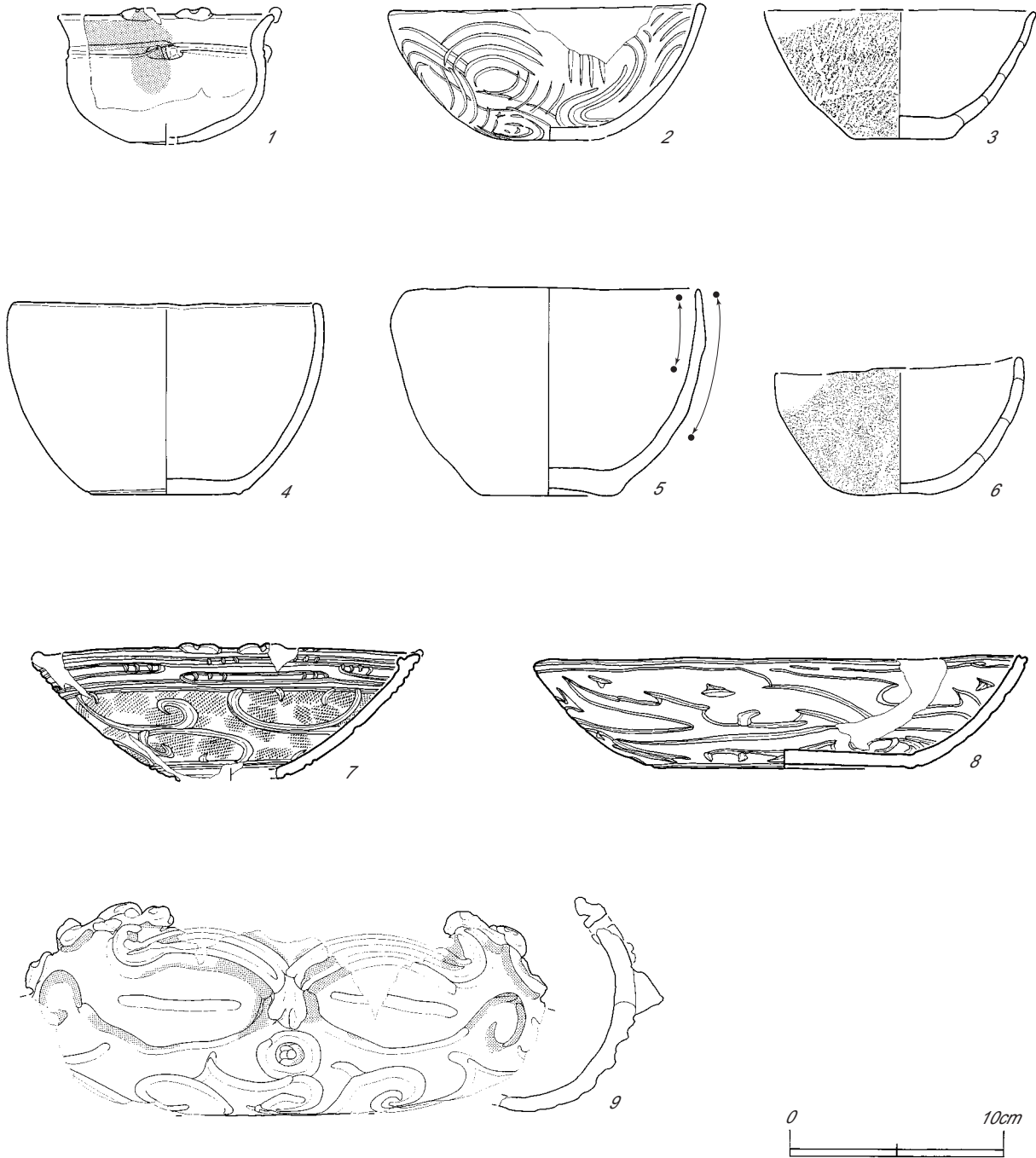
第78図 大洞BC式 浅鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
79	1	3454	LR35-b		1号	B C	無	浅鉢		(15.0)	7.2	(6.0)	-	-	-	-	-	159.9	四脚
79	2	3425	MA28-a		2号	B C	無	浅鉢		(13.8)	8.4	欠	-	-	-	-	-	147.8	
79	3	3299	MB28-b		2号	B C	無	浅鉢		(16.4)	12.1	(4.8)	(17.2)	-	-	-	-	232.0	
79	4	3095	MA28-b		2号	B C	無	浅鉢		15.8	11.0	4.6	16.0	-	-	-	-	284.4	
79	5	3132	LS35-a		1号	B C	無	浅鉢		10.3	7.8	4.7	10.6	-	-	-	-	103.8	
79	6	3053	LS33-c		1号	B C	無	浅鉢		11.7	7.4	4.8	-	-	-	-	-	148.0	
79	7	3119	LT33-d		1号	B C	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(9.7)	5.9	(5.2)	-	-	-	-	-	115.0	
79	8	3256	MB35		3号	B C	無	浅鉢		9.7	6.3	4.4	-	-	-	-	-	59.5	
79	9	3233	LR34-b		1号	B C	無	浅鉢		(14.0)	9.4	4.2	-	-	-	-	-	152.0	補修孔1対
79	10	3131	LS35-a		1号	B C	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(13.5)	7.6	(5.6)	-	-	-	-	-	134.3	
79	11	3-1	LR35-c		1号	B C	無	浅鉢		(10.9)	6.8	(4.3)	-	-	-	-	-	134.0	

第79図 大洞BC式 浅鉢 (3)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
80	1	317	LP35-b		1号	BC	有	浅鉢		(10.0)	6.3	(3.0)	(9.1)	(8.9)	-	-	-	41.4	
80	2	3304	LP35-a		1号	BC	無	浅鉢		14.8	6.4	(4.5)	-	-	-	-	-	177.6	
80	3	3196	LR36-b		1号	BC	無	浅鉢		(12.5)	5.9	4.8	-	-	-	-	-	165.8	
80	4	3175	LR35-a		1号	BC	無	無文浅鉢		(14.1)	8.9	(6.8)	(14.6)	-	-	-	-	212.5	
80	5	3058	LS34-c		1号	BC	無	無文浅鉢		13.7	9.6	6.4	14.6	-	-	-	-	458.7	
80	6	3285	LT25-c		2号	BC	無	浅鉢		11.6	6.4	3.8	-	-	-	-	-	141.1	
80	7	3291	LR33-b		1号	BC	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(17.9)	6.4	(4.8)	-	-	-	-	-	216.5	
80	8	3240	LO36-a		1号	BC	無	浅鉢	洗面器 (台形)	22.8	5.5	12.0	-	-	-	-	-	431.9	
80	9	3503	MB38		3号	BC	有	浅鉢	ボール(円)	欠	(6.7)	欠	(20.0)	-	-	-	-	109.9	顔面裝飾付浅鉢

第80図 大洞BC式 浅鉢 (4)

基準にすると、第81図1・2・4から第81図5や第82図1～5を経て、最終的には第82図6となる。また、羊歯状文のK字文化や形骸化による平行沈線間列点文化を基準にすると、第83図3・4、第84図1・2・4から第84図8・第85図1を経て、第87図へ変化するものと考えている。

壺

大洞B₂式期に比べてバリエーションが増えて4類型となる。第1群は、胴部上半に最大径を持つ球胴平底の大形壺（第88・89図）である。第2群は、花瓶形の長胴壺（第90図1～4・6・9）である。第3群は、広口壺（第90図7・8）である。第4群は、丸胴の小形壺（第90図5・10～13）である。

第1群と第4群は原則として胴部上半部最大径よりも上を文様帯として割り付け、頸部下半にもB突起や入組文を施文する。頸部上半は磨きによる無文帯となり、口縁部との境界を1条の沈線で区画する。

口縁部は地文縄文の無文帯で平縁を基本とするが、例外的に口唇部に小さなB突起を持つ第88図1の様な例もある。口縁は素直なカーブを描いて立ち上がるが、第88図3の様に有段口縁となるものがあり、口縁部内面に1条の沈線を施している。

施される文様は沈線が強く渦を巻く入組文で、入組文の間を充填する菱形文が施される第88図3などは、雲形文への変化を想定させる。また第89図1の様に、前代の三叉文の名残を持つものがある。

第2群は、胴部文様帯が多段化して施文される幅が広がっている。第90図9は胴部上半の文様帯と中央の文様帯の間に磨きによる無文帯を持つ。第90図1～4では、胴部中央の文様帯が多段化することにより無文帯が消滅している。使用される文様要素は羊歯状文であり、入組文が多用される第1群とは異なっている。

第3群は、鉢の第1c群と見分けにくい、頸部と胴部の接合部の屈曲が強く頸部が胴部にめり込む様な印象を受ける点と、鉢第1c群よりも頸部：胴部比が小さいことを根拠に壺とした。文様帯が胴部全面に広がり施文されており、鉢第1c類との見分けをつけにくくしている。

香炉

胴部の文様帯割り付けは、台付鉢第2c群1類と類似している。つまり文様帯は、下端を沈線で区画される口縁部文様帯に限定され、胴部は地文縄文のみとなる。台部は磨きによる無文帯である。装飾は口縁部から釣り手部分に突起と沈線による三角形・菱形を描出し、文様内を磨く。

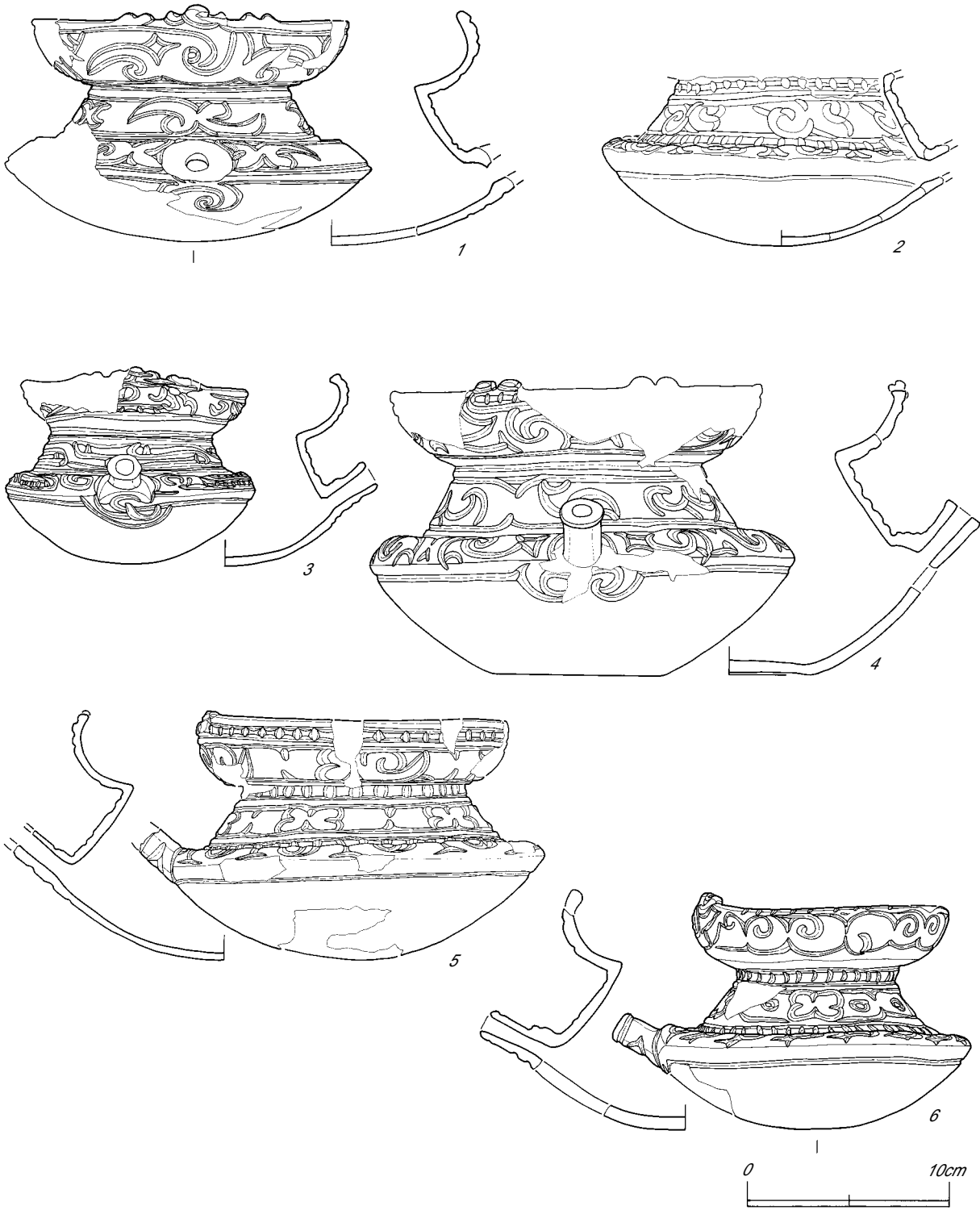
器体内面は粗いナデで、製作痕が明確に残る点、浅鉢・台付鉢とは調整技法が全く異なる。

以上、大洞BC式期の器種組成には、深鉢・台付鉢・鉢が多いものの、注口土器の急激な増加が目される。

4 大洞C₁式土器

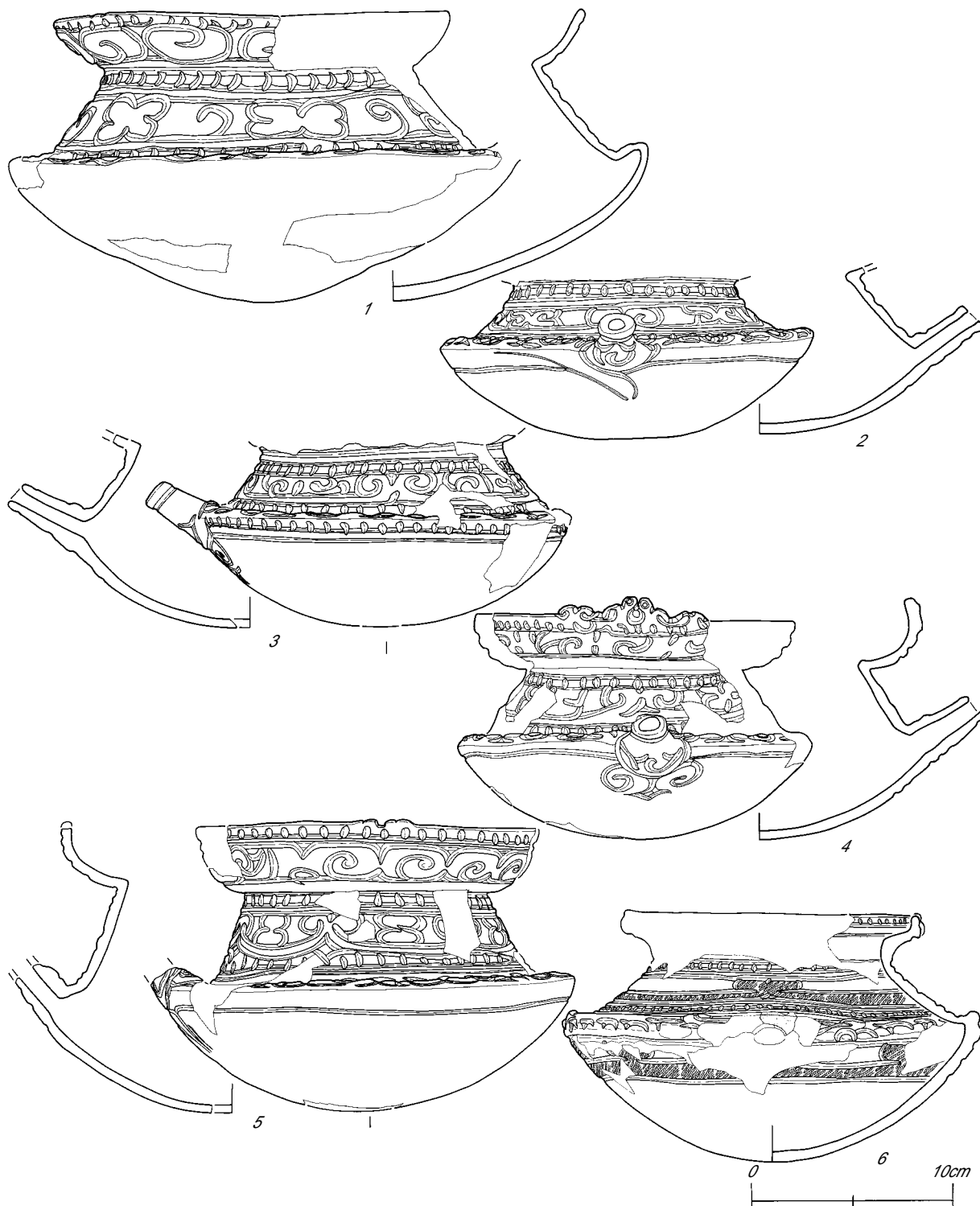
概要

大洞C₁式は、完形品388点、破片資料5,502点が出土した。完形品の内訳は、深鉢20点、台付鉢54点、浅鉢119点、鉢69点、注口土器11点、壺107点、香炉1点、ミニチュア土器2点、土偶5点で構成される。破片資料の内訳は、精製土器5,490点、粗製土器12点である。精製土器は、深鉢・鉢3,627点、台付鉢446点、浅鉢1,270点、注口土器66点、壺81点で構成される。粗製土器は、深鉢10点、鉢1点、台付鉢1点となる。



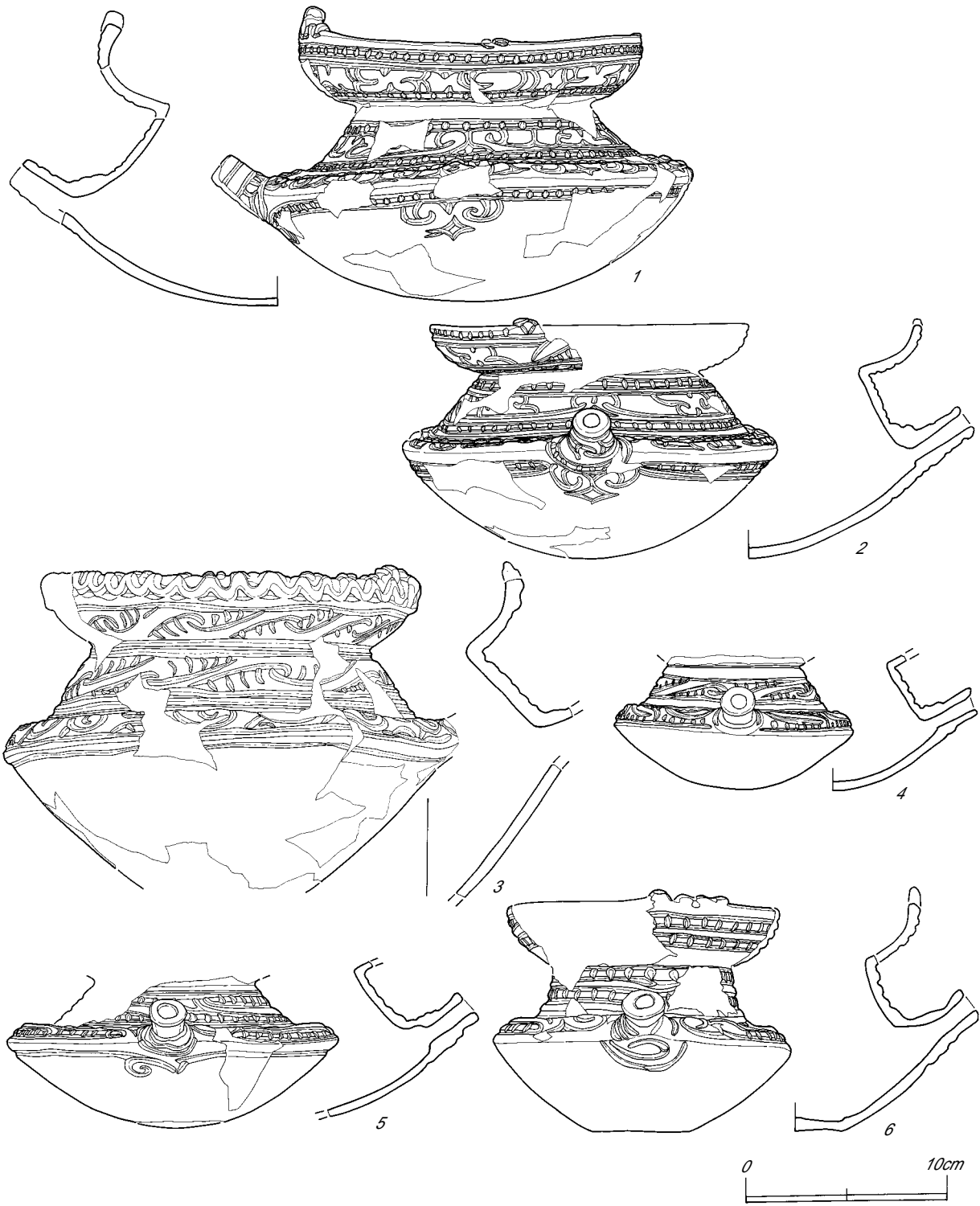
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
81	1	3076	MC36		3号	BC中	有	注口	ツノカクシ 形	(15.5)	(11.5)	(丸)	(17.9)	9.6	-	-	-	126.3	
81	2	3309	LR33-a		1号	BC	無	注口	ツノカクシ 形	欠	8.5	丸	19.6	10.3	-	-	-	287.1	
81	3	3024	LQ33-c		1号	BC	無	注口	ツノカクシ 形	(11.1)	9.6	丸	12.2	7.9	-	-	-	212.0	
81	4	3177	LR35-a		1号	BC	無	注口	ツノカクシ 形	(18.2)	14.4	8.2	20.8	12.0	-	-	-	658.2	
81	5	3209	MA28-c		2号	BC新	無	注口	ツノカクシ 形	(15.4)	(12.0)	(丸)	19.0	(10.8)	-	-	-	325.9	羊歯列点化
81	6	3205	LQ33-d		1号	BC	無	注口	ツノカクシ 形	12.5	11.6	丸	15.0	7.7	-	-	-	411.8	羊歯列点化

第81図 大洞BC式 注口土器 (1)



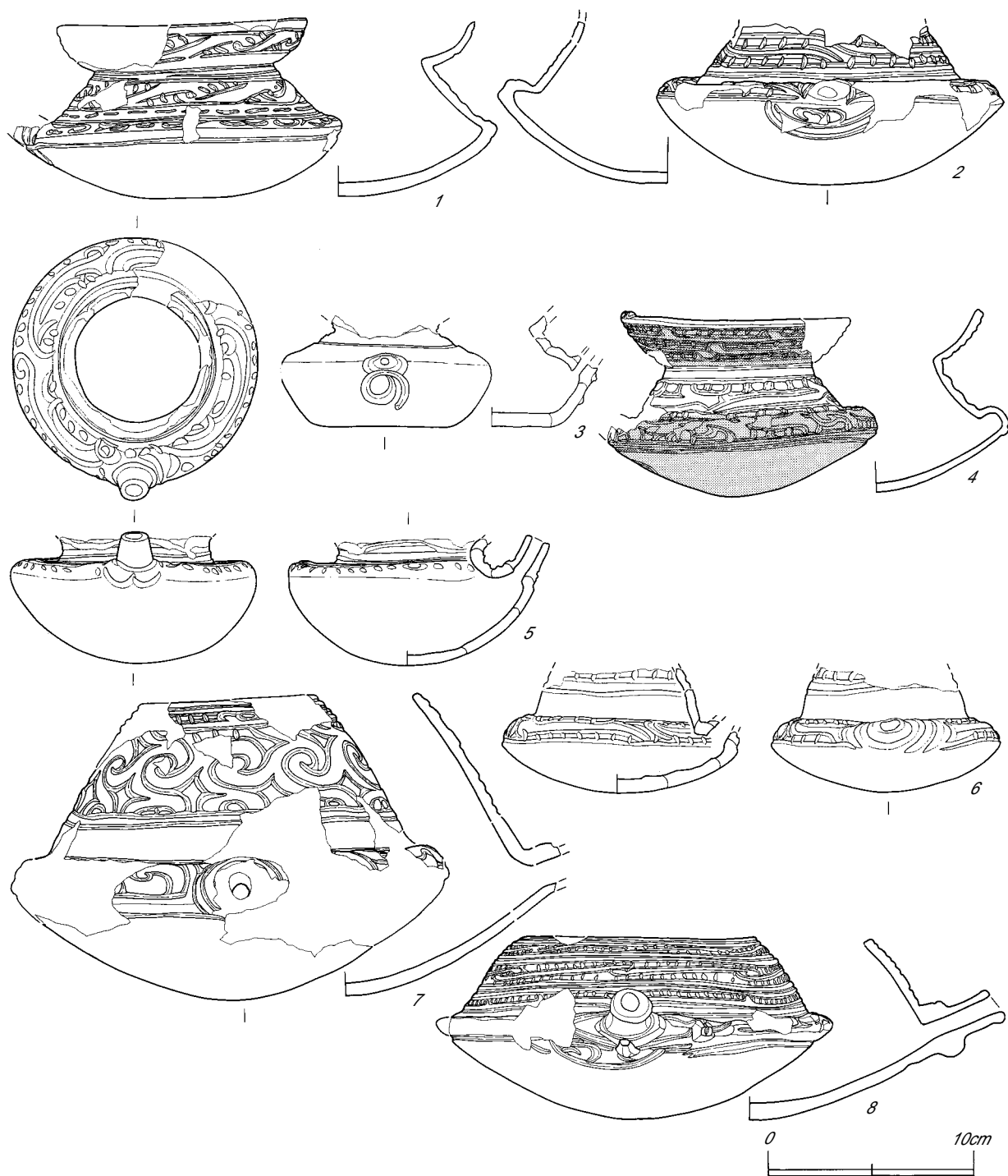
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
82	1	3207	MA28-c	2号	BC新	無	注口	ツノカクシ形	(19.5)	14.5	丸	(25.4)	(15.2)	-	-	-	-	647.2	羊歯列点化
82	2	1272	MA28-c	2号	BC	無	注口	ツノカクシ形	欠	8.0	3.3	18.5	9.9	-	-	-	-	405.5	羊歯列点化
82	3	1169	MB28-d	2号	BC新	無	注口	ツノカクシ形	欠	9.4	(丸)	(17.6)	11.9	-	-	-	-	337.8	羊歯列点化
82	4	3031	LQ34-c	1号	BC	無	注口	ツノカクシ形	(15.7)	12.0	丸	(17.4)	(10.6)	-	-	-	-	345.4	羊歯列点化
82	5	3215	MA29-a	2号	BC新	無	注口	ツノカクシ形	(16.9)	(14.3)	(丸)	20.4	11.9	-	-	-	-	502.0	羊歯列点化
82	6	3247	LP35-a	1号	BC	無	注口	ツノカクシ形	(14.7)	12.1	丸	20.6	(11.6)	-	-	-	-	398.8	羊歯列点化

第82図 大洞BC式 注口土器 (2)



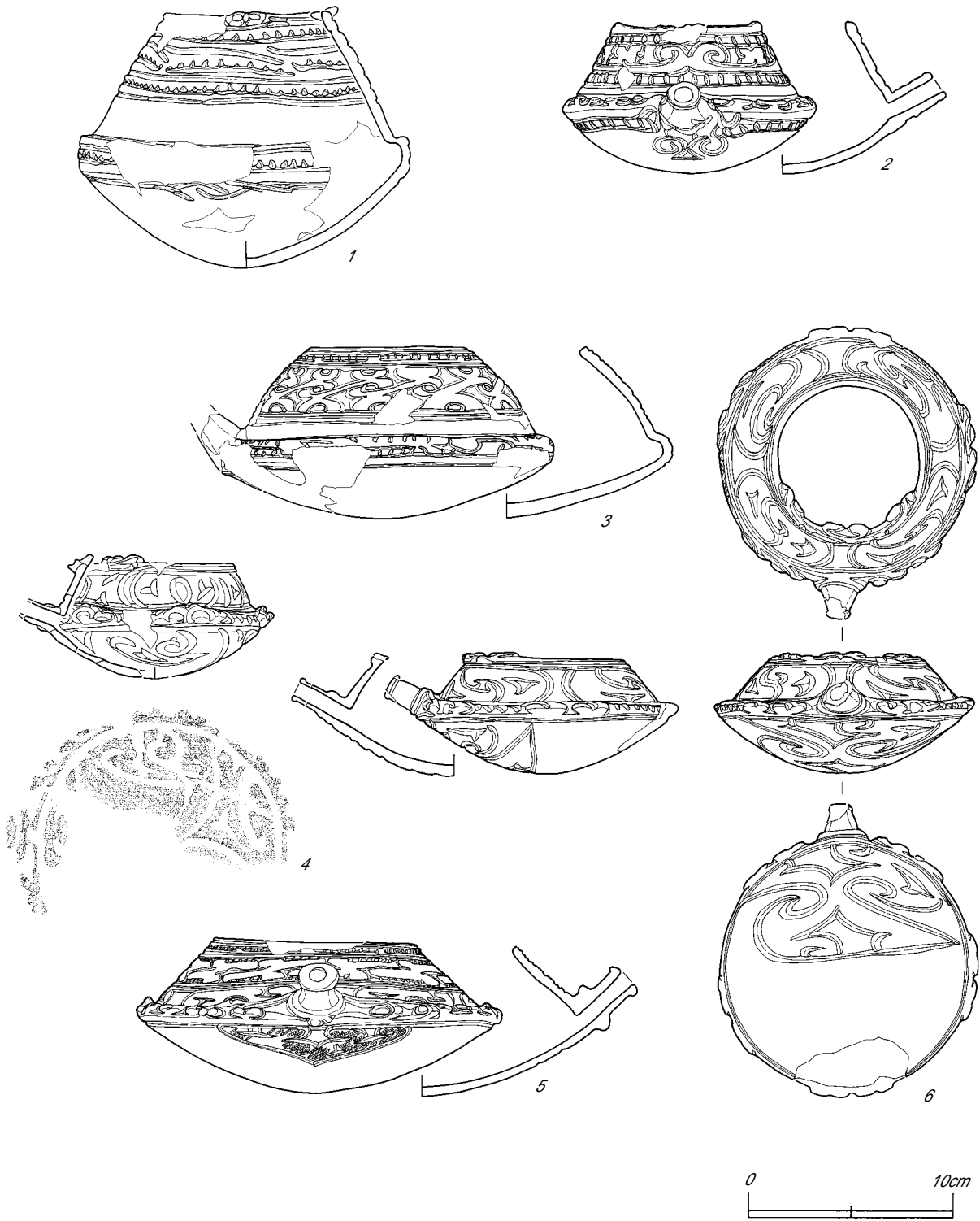
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
83	1	3208	MA27-c		2号	B C新	無	注口	ツノカクシ 形	17.0	14.7	丸	19.7	(11.6)	-	-	-	523.5	羊歯列点化
83	2	3214	MA28-a		2号	B C新	無	注口	ツノカクシ 形	(15.7)	11.7	丸	18.5	(10.7)	-	-	-	390.5	羊歯列点化
83	3	3211	MA28-c		2号	B C中	無	注口	ツノカクシ 形	(18.7)	15.6	欠	20.8	13.7	-	-	-	708.9	
83	4	617	LQ34-b		1号	B C	無	注口	ツノカクシ 形	欠	6.6	丸	11.6	6.5	-	-	-	162.5	
83	5	1288	MA28-c		2号	B C	無	注口	ツノカクシ 形	欠	7.2	(丸)	16.2	(7.8)	-	-	-	274.0	羊歯列点化
83	6	3075	LR34-b		1号	B C	無	注口	ツノカクシ 形	(13.4)	12.0	4.7	14.7	(8.7)	-	-	-	293.4	羊歯列点化

第83図 大洞BC式 注口土器 (3)



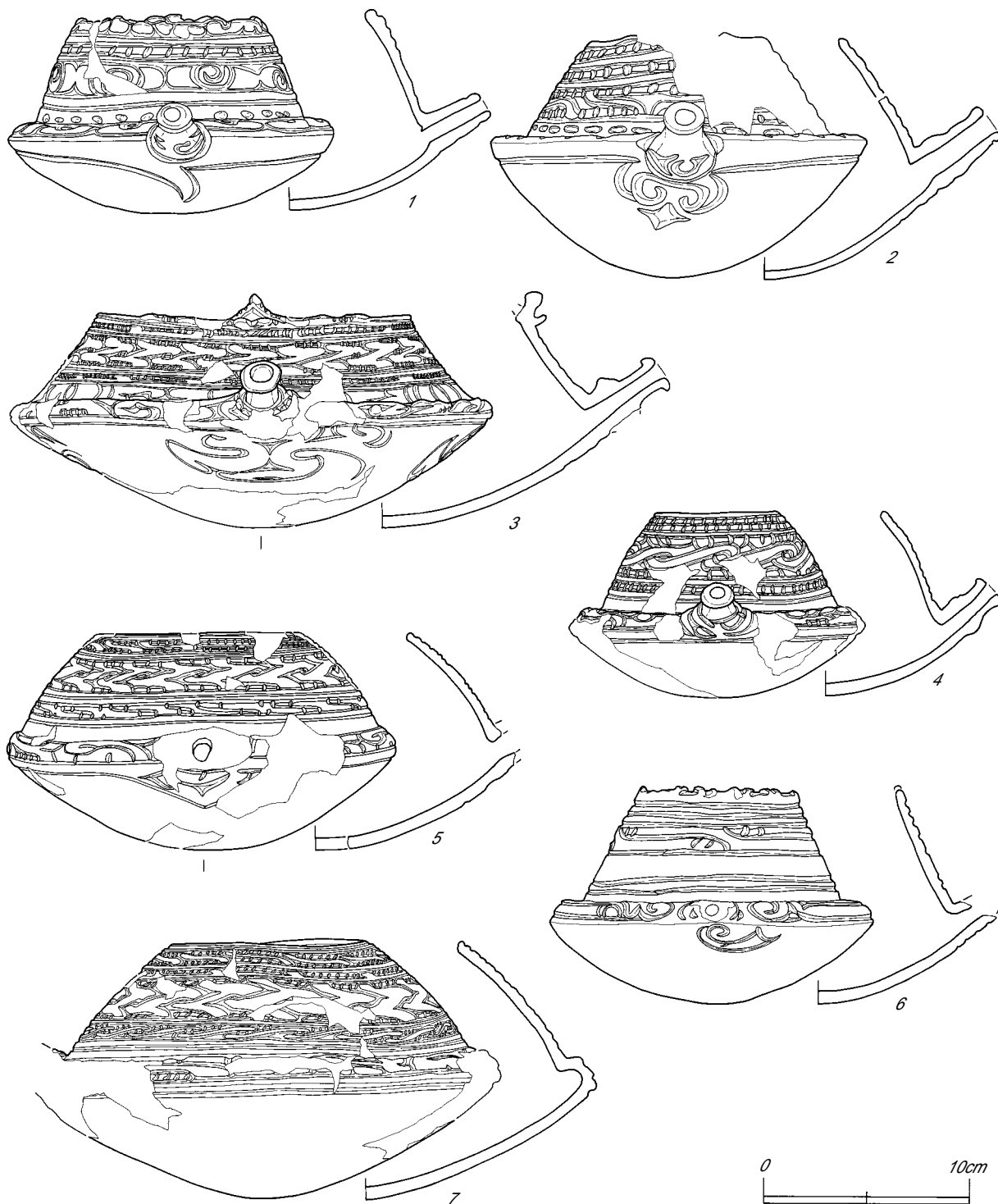
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
84	1	3212	MA28-b		2号	B C中	無	注口	ツノカクシ形	(12.0)	18.6	4.0	14.7	8.6	-	-	-	205.9	
84	2	71	LR36-b		1号	B C中	無	注口	ツノカクシ形	欠	7.7	丸	16.7	(9.1)	-	-	-	347.8	
84	3	3510	MI34		4号	B C	無	注口	ツノカクシ形	欠	5.4	6.6	10.2	(4.9)	-	-	-	155.7	
84	4	3115	LT34-d		1号	B C	有	注口	ツノカクシ形	(11.1)	9.1	丸	12.9	7.1	-	-	-	186.0	
84	5	186	LR34-a		1号	B C	無	注口	ツノカクシ形	欠	6.1	丸	11.8	7.1	-	-	-	207.0	
84	6	3054	MB36		3号	B C	無	注口		欠	6.0	丸	11.1	-	-	-	-	197.2	
84	7	3077	LS33-b		1号	B C中	無	注口		(8.7)	(14.4)	丸	(21.0)	-	-	-	-	657.5	
84	8	1120	MB28-d		2号	B C	無	注口		11.2	8.8	丸	(19.1)	-	-	-	-	416.6	

第84図 大洞BC式 注口土器 (4)



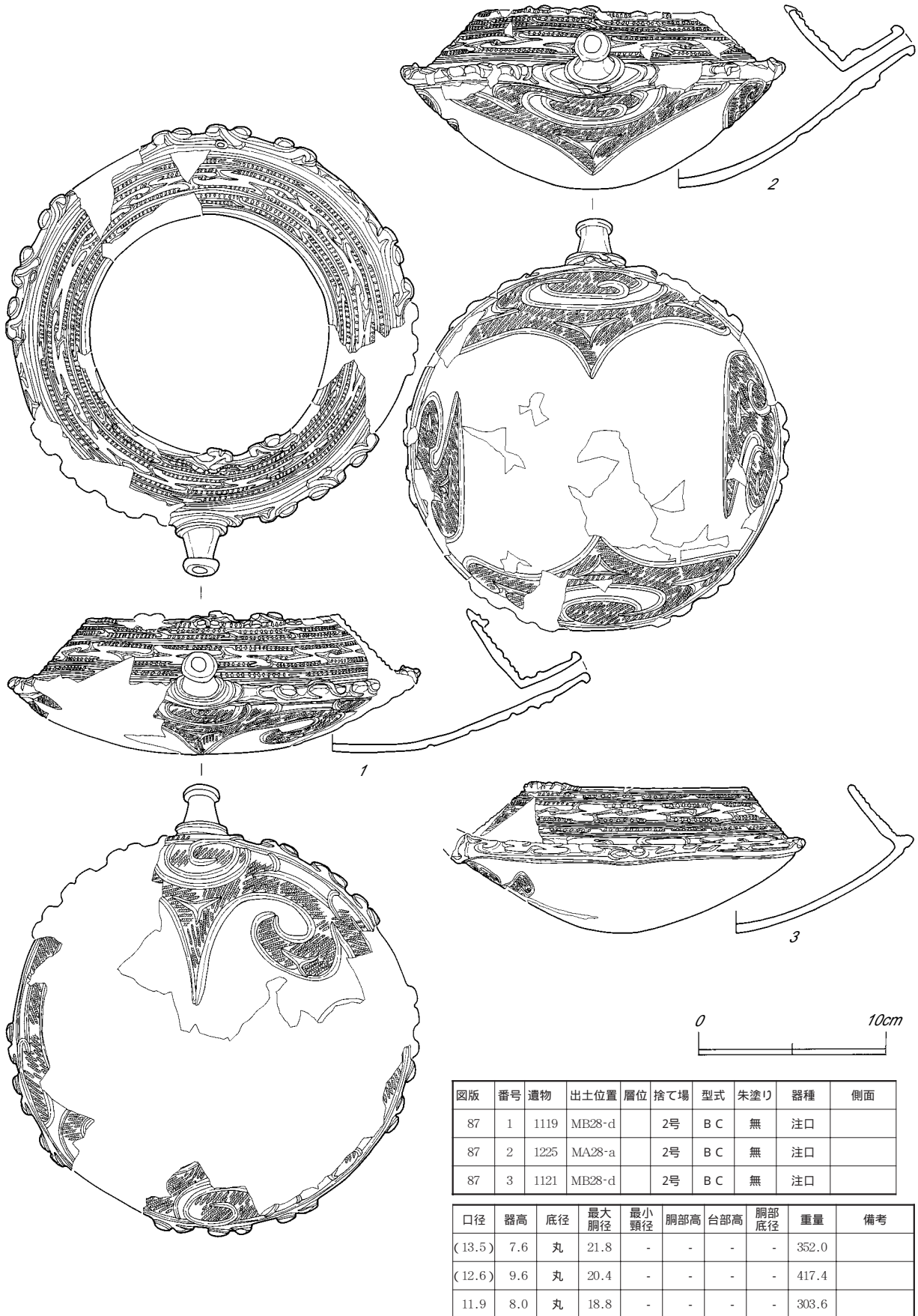
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
85	1	1253	MB27-c		2号	B C	無	注口		(8.2)	12.4	丸	16.1	-	-	-	-	299.9	
85	2	703	LQ35-a		1号	B C	無	注口		7.0	7.2	丸	12.4	-	-	-	-	177.0	
85	3	3206	MA28-c		2号	B C	無	注口		7.9	8.3	丸	16.2	-	-	-	-	301.3	
85	4	3441	LQ35-a		1号	B C	無	注口		8.0	5.9	(丸)	11.4	-	-	-	-	74.2	
85	5	1215	MA28-c		2号	B C	無	注口		9.9	7.6	丸	17.8	-	-	-	-	313.0	
85	6	1056	MA28-d		2号	B C	無	注口		7.5	5.9	丸	12.7	-	-	-	-	182.8	

第85図 大洞BC式 注口土器 (5)

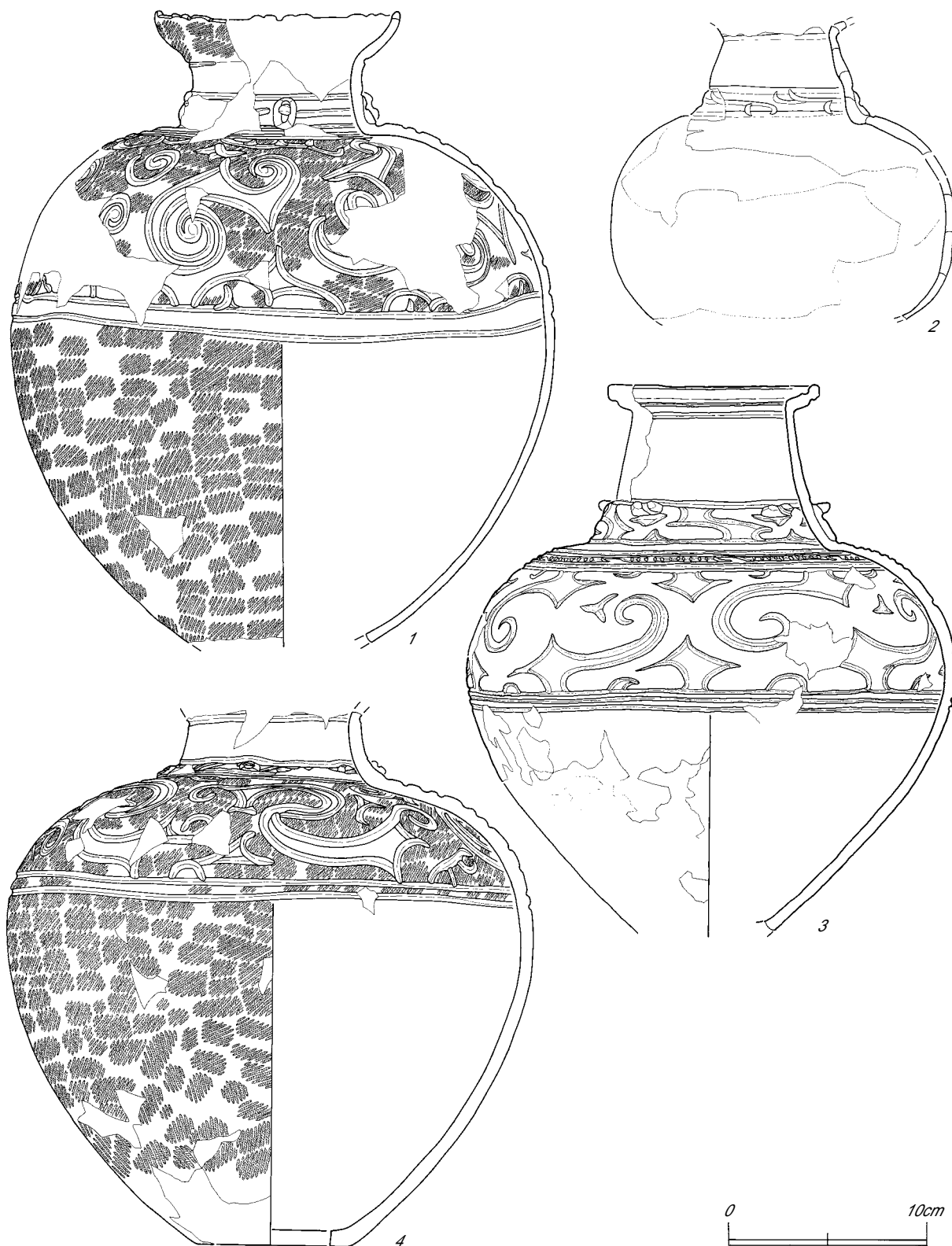


図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
86	1	3001	LS35-d		1号	B C	無	注口		8.9	9.6	丸	15.6	-	-	-	-	313.6	
86	2	3029	LT34-a		1号	B C	無	注口		(8.2)	(11.6)	丸	18.1	-	-	-	-	446.2	
86	3	511	LQ34-b		1号	B C新	無	注口		15.2	(11.2)	丸	(23.2)	-	-	-	-	159.4	234-2と接合
86	4	3097	LS35-d		1号	B C中	無	注口		6.1	9.0	丸	(14.3)	-	-	-	-	226.6	
86	5	3204	MA28-c		2号	B C	無	注口		(10.0)	10.5	丸	18.7	-	-	-	-	539.6	
86	6	7	LS34-d		1号	B C	無	注口		7.7	10.4	丸	15.6	-	-	-	-	424.6	
86	7	1257-1	MA28-c		2号	B C	無	注口		9.5	12.4	丸	(22.5)	-	-	-	-	396.0	

第86図 大洞BC式 注口土器 (6)

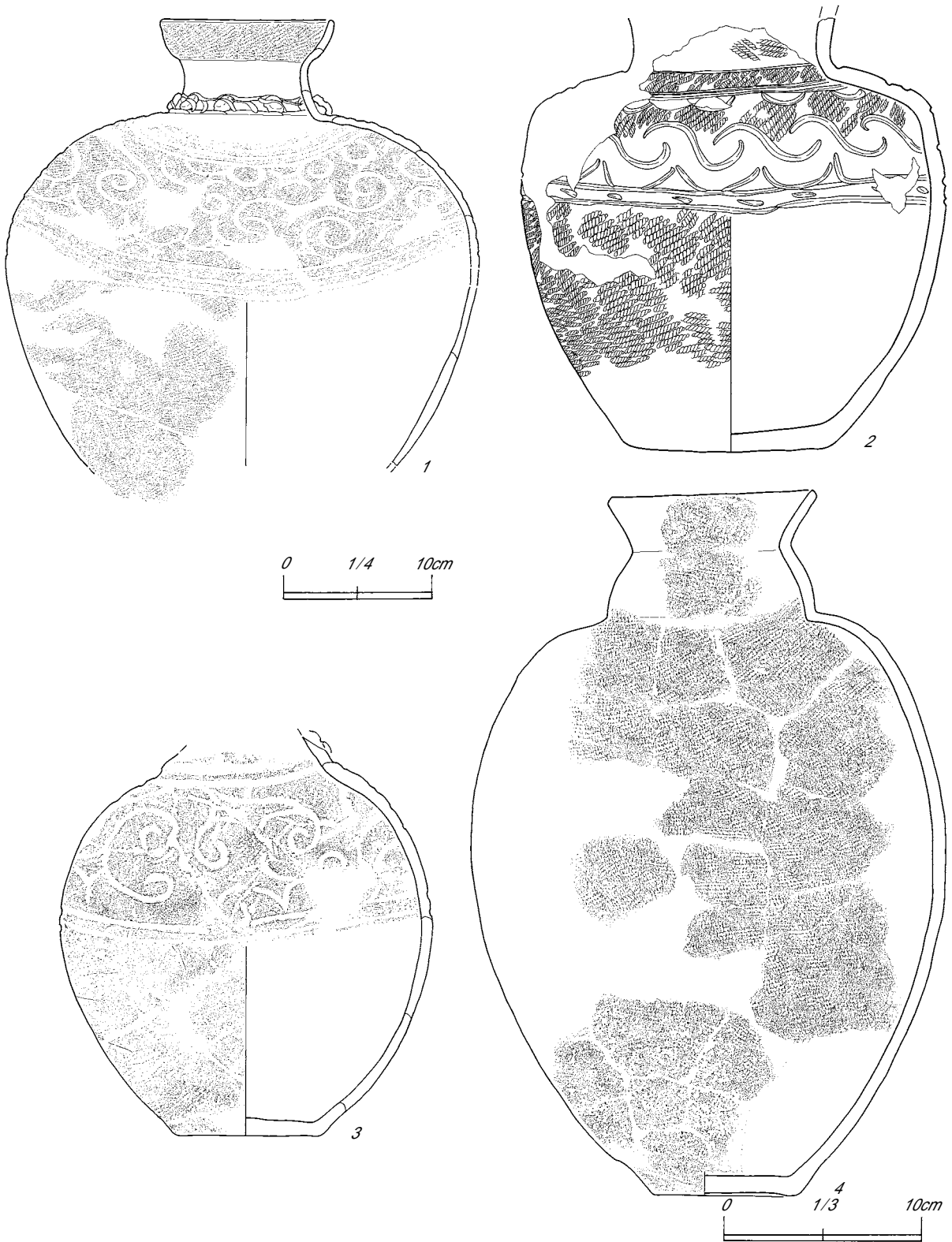


第87図 大洞BC式 注口土器 (7)



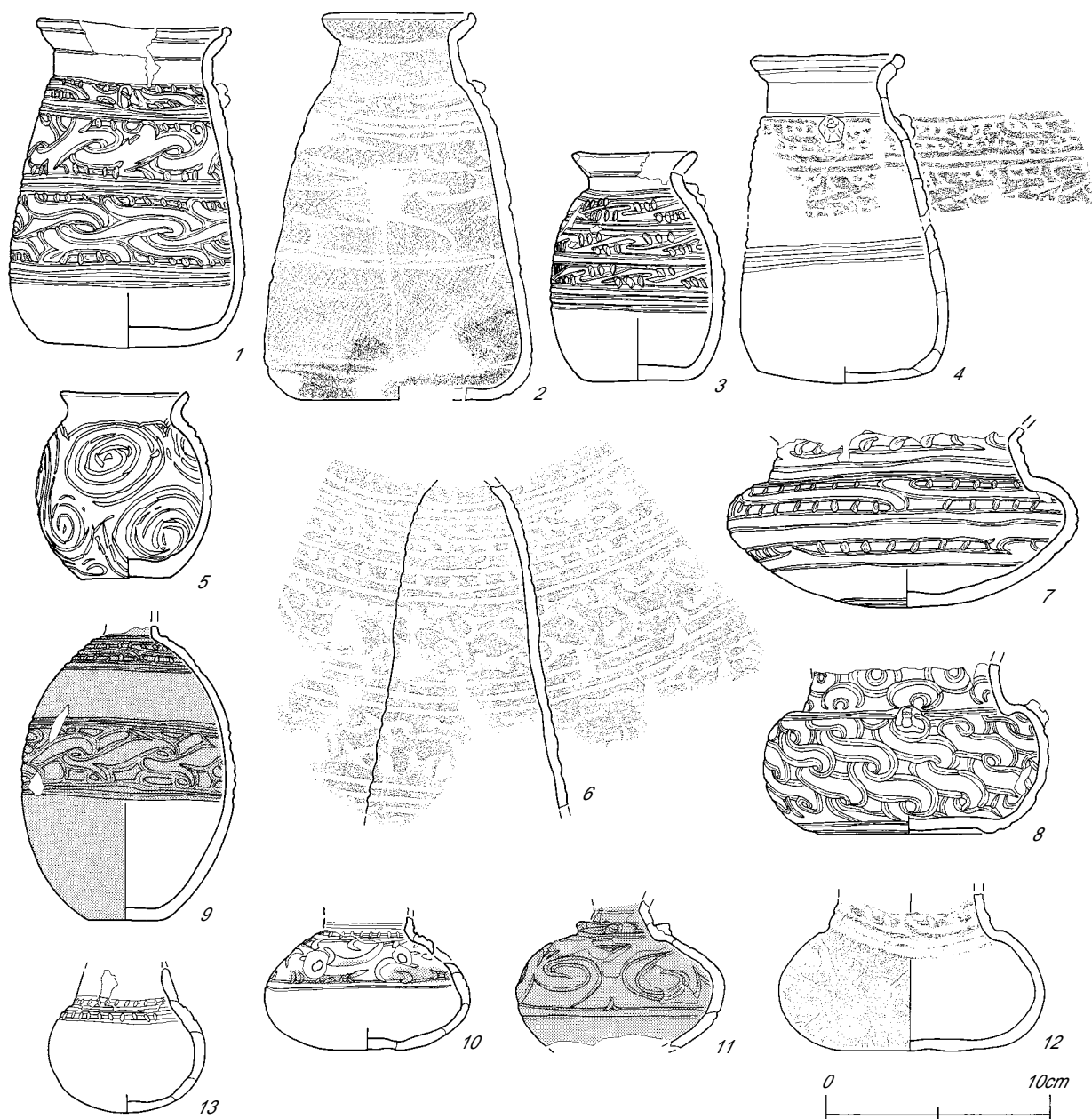
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
88	1	3237	MA28-c	2号	B C	無	壺			12.4	31.5	欠	27.4	8.5	-	-	-	1020.0	
88	2	3381	ME36	3号	B C	無	壺			欠	14.8	欠	(17.2)	(5.7)	-	-	-	330.7	
88	3	3126	LP36-b	1号	B C	無	壺			(10.7)	27.5	欠	24.7	(8.1)	-	-	-	728.5	
88	4	3238	LR35-a	1号	B C	無	壺			欠	26.7	7.7	26.5	8.6	-	-	-	1190.0	

第88図 大洞BC式 壺 (1)



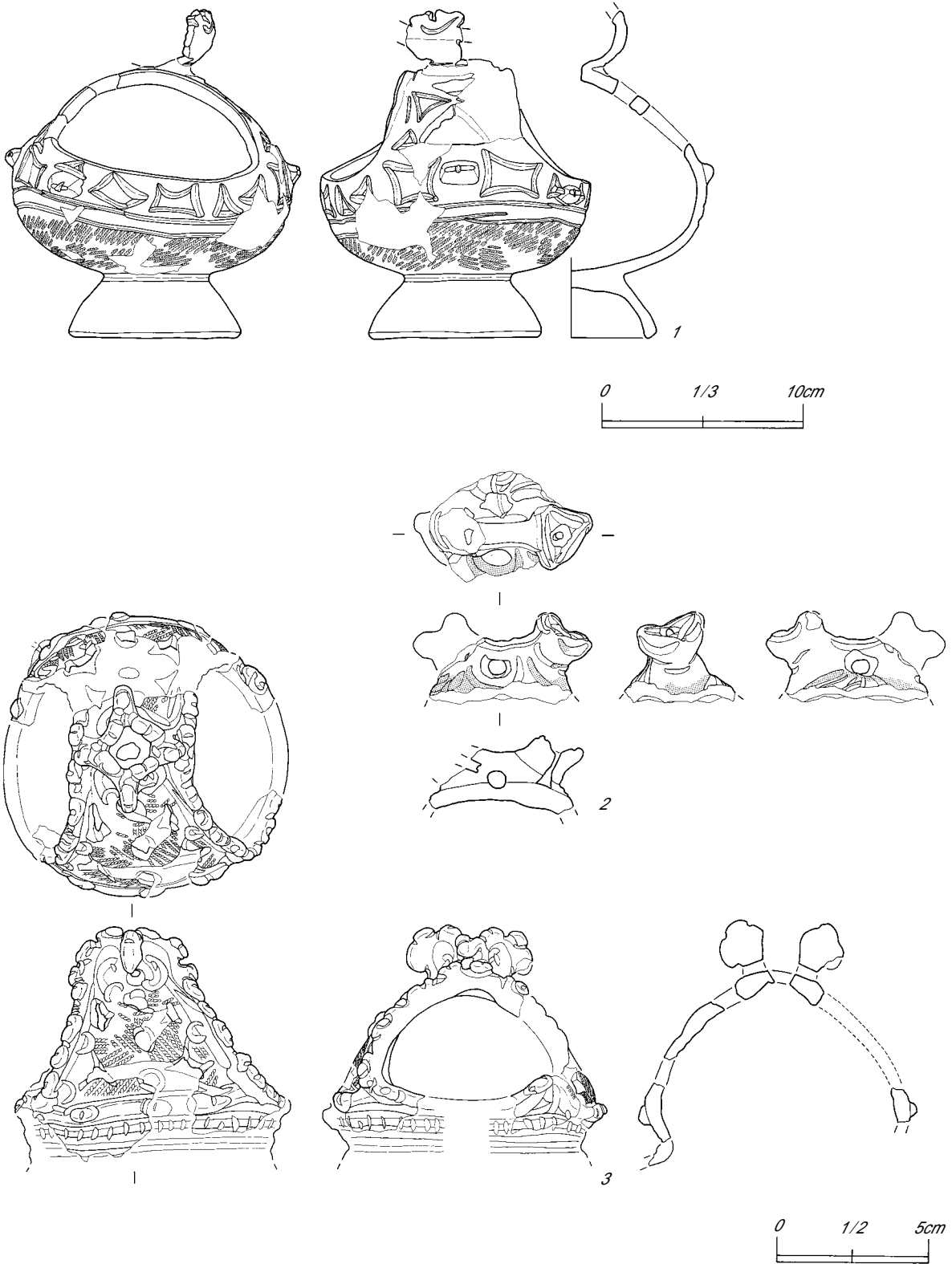
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
89	1	3449	MB38		3号	BC	無	壺		(11.3)	30.0	欠	(31.2)	7.7	-	-	-	1659.0	
89	2	3028	LS33-c		1号	BC	無	壺		欠	21.6	10.1	21.3	(10.4)	-	-	-	1700.0	
89	3	3130	LS35-a		1号	BC	無	壺		欠	19.7	6.8	18.6	-	-	-	-	852.2	
89	4	3198	ME36		3号	BC	無	壺		14.1	47.4	9.8	31.9	10.6	-	-	-	3500.0	

第89図 大洞BC式 壺 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
90	1	1163	MD28-d	2号	2号	BC	無	壺		(8.6)	14.6	7.6	10.5	7.0	-	-	-	304.5	
90	2	3271	MA28-b	2号	2号	BC	無	壺		6.9	17.2	(9.0)	12.0	5.2	-	-	-	331.6	アスファルト 付着
90	3	1189	MA28-c	2号	2号	BC	無	壺		(5.6)	10.1	4.6	7.8	4.2	-	-	-	169.0	
90	4	3410	MB28-d	2号	2号	BC	無	壺		6.8	(14.5)	丸	(9.2)	(5.2)	-	-	-	193.6	
90	5	612	LP34-b	1号	1号	BC	無	壺		5.7	8.5	3.9	7.8	5.0	-	-	-	138.8	
90	6	3052	LT33-d	1号	1号	BC	無	壺		欠	14.3	欠	-	-	-	-	-	154.0	
90	7	644	LT34-c	1号	1号	BC	無	壺		欠	7.8	4.0	15.5	(10.6)	-	-	-	308.5	
90	8	4-1	MA36-b	3号	3号	BC	無	壺		欠	7.4	7.8	12.6	8.3	-	-	-	220.0	
90	9	233	LR34-b	1号	1号	BC	有	壺		欠	13.1	3.4	9.3	(2.4)	-	-	-	219.4	
90	10	190	LR35-c	1号	1号	BC	有	壺		欠	5.9	2.6	9.1	(4.0)	-	-	-	132.0	穿孔2ヶ所
90	11	230-1	LP34-b	1号	1号	BC	有	壺		欠	6.5	欠	9.3	2.5	-	-	-	85.0	
90	12	3040	LR33-a	1号	1号	BC	無	壺		欠	7.0	5.8	11.8	6.4	-	-	-	234.8	
90	13	675	LP34-b	1号	1号	BC	無	壺		欠	6.3	丸	(6.9)	3.8	-	-	-	68.5	

第90図 大洞BC式 壺 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
91	1	3229	MB26		2号	BC	無	香炉		13.3	16.2	8.5	13.7	-	13.2	3.0	5.2	234.9	
91	2	3527	NE27		外	C ₁	有	香炉		-	3.0	-	-	-	-	-	-	24.0	最大幅 5.3 最大厚 3.6 頭部
91	3	3483	MA28-c		2号	C ₁	無	香炉		(9.0)	8.1	欠	(9.4)	-	-	-	-	55.8	

第91図 大洞BC・C₁式 香炉 (1)

深鉢

深鉢は、第92～94図に図示した。深鉢は前代に比べて文様の簡素化が著しい。精製土器は、第92図1～3だが、底部が欠損しており台付鉢の可能性もある。他は半精製品（第92図4～5、第93図1・2・4・5・7）で口縁部に2～3条の沈線を引き、正面に粘土粒を貼り付けて突起とする。そのほかは、地文縄文のみの粗製土器である。口縁部は平縁もしくは刻みによる無数の小波状が連続する。

台付鉢

台付鉢は第95～101図に示した。大洞BC式に比べて小形化している印象を受ける。それは、器形変化が台部高の低下として現れている事によるのかもしれない。胴部が長狭化する傾向があるので、法量変化と合わせて今後検討する必要がある。

器形によって大きく3群に分かれる。第1群は第95図1・2で、大洞BC式台付鉢第1群の器形を残し、胴部の張り出しが他群よりも強く、頸部が屈曲し口縁部が緩く外反する。第2群の影響を受けて、口唇部に刻みが入り胴部最大径が中央部よりも上の屈曲部におかれる（第95図2）など形態差がわかりづらくなっている。

第2群は、第95図3～第98図に示した。口縁部が外反して立ち上がり頸部が屈曲するa（第95図3・7、第96図2・3・5・6・9、第97図1、第98図1・7・8・10）、頸部屈曲がより強く、口縁部幅は短く強く外反し、口縁部内面に稜が形成されるb（第95図4・8、第96図1・4・7、第97図2～10、第98図2～6）、側面柿形の丸底浅鉢に台を付けたc（第95図5）、皿状に口縁部が大きく開くd（第99～100図）が出現する。

台部は先述の通り低くなる。前代で三叉文が描かれた文様帯が圧縮され幅が狭くなることで、大半の土器でこの部分は磨きによる無文帯に戻る。器体底部から台部末端までが短くなった分、末端の肥厚が目立つ。

口縁部は、小さなピッチで連続する波状口縁であり、B突起が4単位、8単位または12単位でつけられる。

文様帯は、多段化する。最も数が増える第2類は、胴部文様帯の有無で細分できる。胴部文様帯を持つ1類（第95図～第96図6）と持たない2類（第96図7・9～第98図）である。

1・2類とも、口縁部から頸部文様は共通するが、2類の方がより簡素化されている。口縁部にはB突起から向かって右へ長く引かれる沈線が施される。頸部屈曲部には数条の平行沈線が引かれ列点が刺突される。土器正面には1単位の突起が貼り付けられる。

1類は、胴部文様帯が大きく目立つ。胴部中央から下半に沈線で文様帯下端を区画し、雲形文が描かれる。胴部下半は地文縄文もしくは磨きによる無文帯となる。

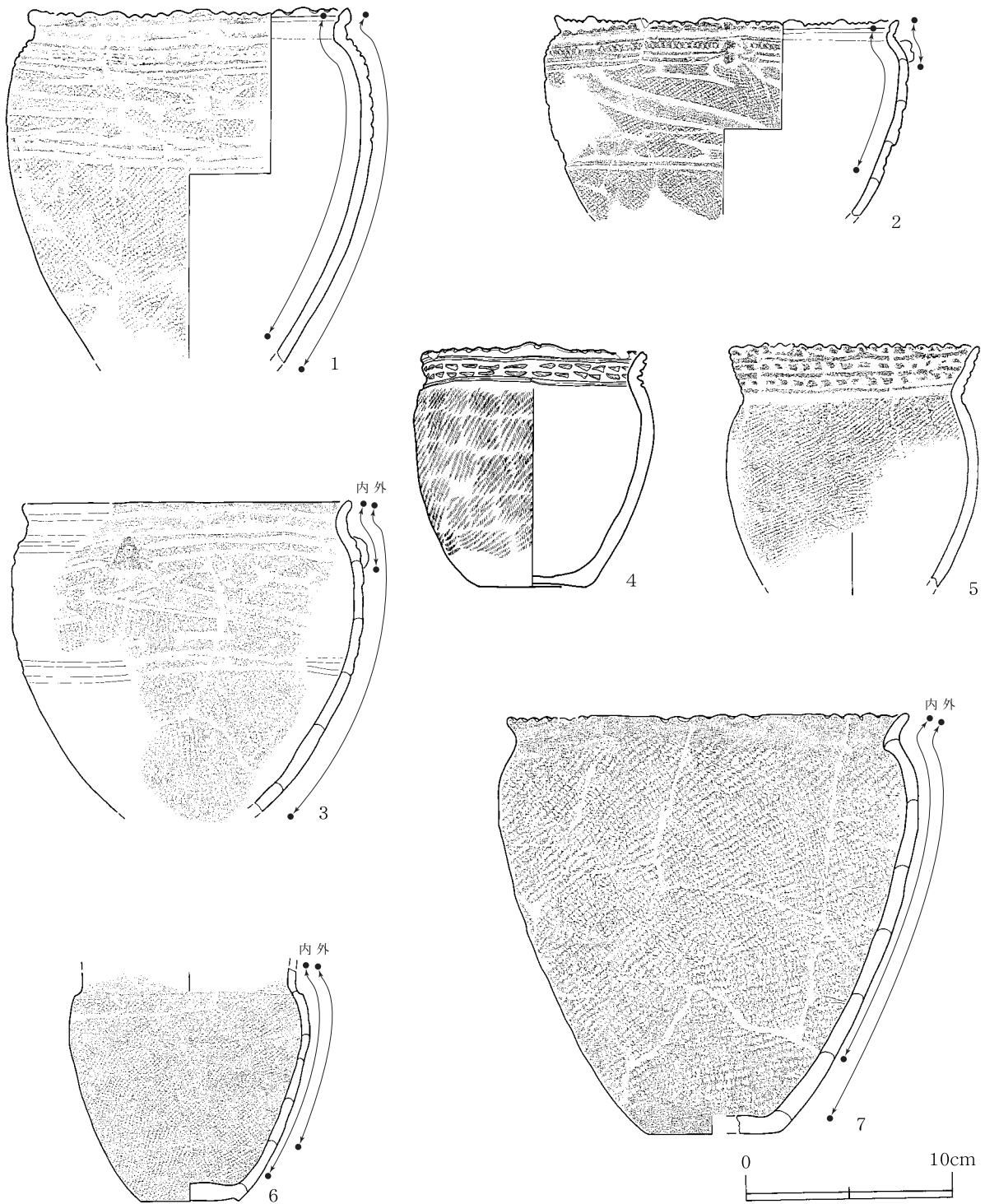
鉢

鉢は平縁が多く、小振りな突起が2つセットで4～8単位施されるものがある。また、小さな刻みを連続して施すものもある。これら口唇部装飾は、形態によって施文手法が変わる。

器形は大きく2類型に分けられる。第1群は、口縁部幅がより広く、胴部最大径は胴中央よりも上におかれるa（第102～105図2）と、口縁部幅が広く胴部高が低いb（第104図1・2・10）に分かれる。

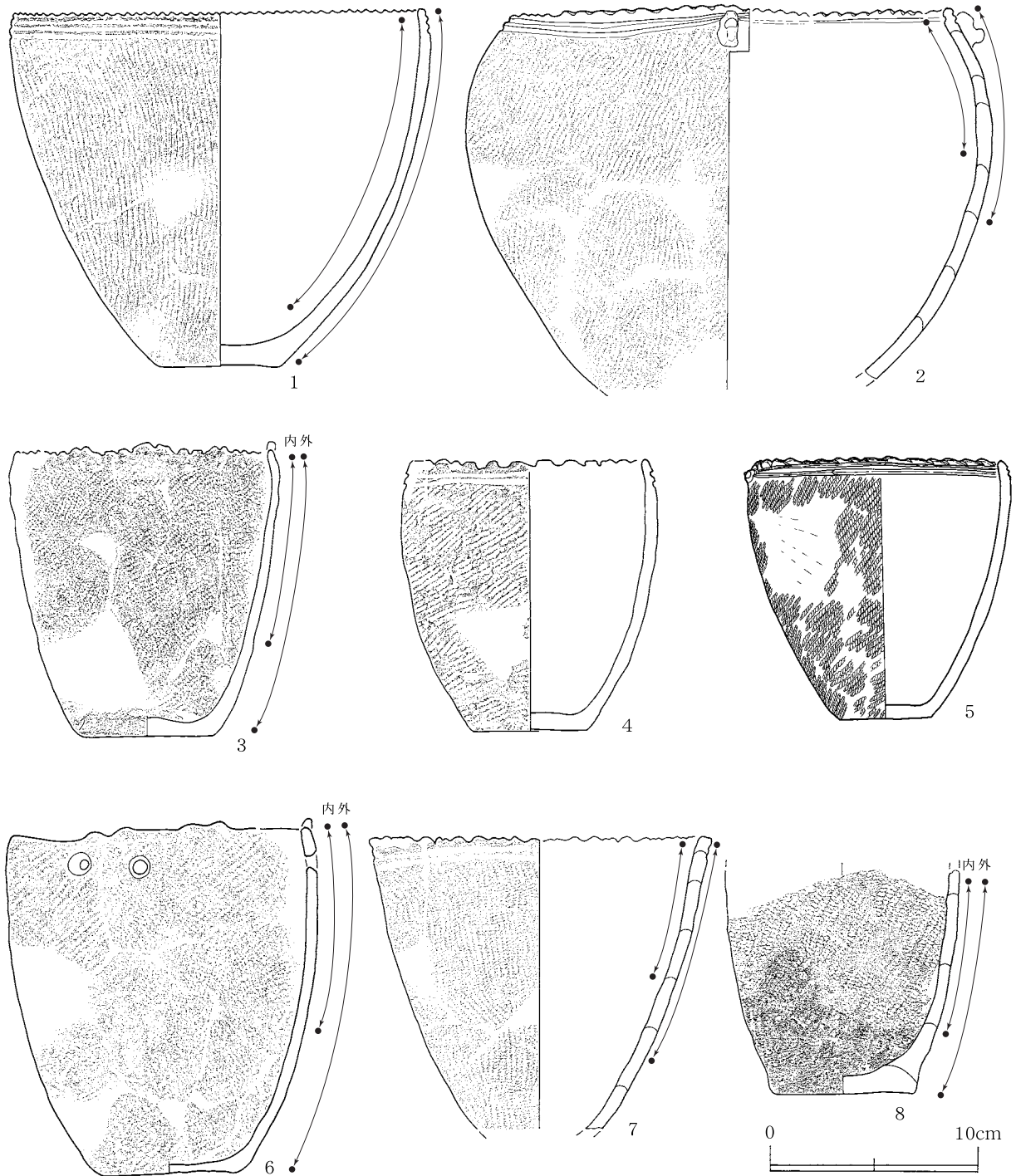
第1群はさらに文様を持つ1類（第102～103図1～9・11～12）と、器面を強く研磨し沈線とB突

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗口	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
92	1	3373	LP35-c		1号	C ₁	無	深鉢		(15.4)	17.2	欠	(17.6)	(14.8)	-	-	-	493.3	
92	2	357-2	LQ35-a		1号	C ₁	無	深鉢		(16.6)	9.4	欠	(17.5)	(16.0)	-	-	-	154.2	
92	3	3279	LO34-c		1号	C ₁	無	深鉢		(15.7)	14.8	欠	(15.8)	(15.2)	-	-	-	131.2	
92	4	1217-1	MA28-c		2号	C ₁	無	深鉢		10.9	11.8	5.3	11.6	10.2	-	-	-	383.8	
92	5	3386	LR35-d		1号	C ₁	無	深鉢		(12.0)	11.5	欠	(12.1)	(10.4)	-	-	-	135.0	
92	6	1052	MA28-c		2号	C ₁	無	深鉢		欠	11.2	(4.7)	(11.5)	(10.2)	-	-	-	228.0	
92	7	377	LQ35-d		1号	C ₁	無	深鉢		(19.2)	20.1	(6.0)	(20.0)	(18.3)	-	-	-	938.0	

第92図 大洞C₁式 深鉢 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
93	1	3345	LT34		1号	C ₁	無	深鉢		19.6	17.0	5.8	20.0	-	-	-	-	622.2	
93	2	3452	MA27-a		2号	C ₁	無	深鉢		21.0	18.2	欠	25.1	-	-	-	-	695.0	
93	3	259	LQ35-c		1号	C ₁	無	深鉢		12.4	14.0	6.4	12.8	-	-	-	-	306.8	
93	4	393	LQ35-d		1号	C ₁	無	深鉢		(11.4)	12.9	(5.4)	(12.3)	-	-	-	-	324.2	
93	5	465	LO34-c		1号	C ₁	無	深鉢		12.0	12.6	4.4	-	-	-	-	-	301.0	
93	6	175	LP34-d		1号	C ₁	無	深鉢		(14.2)	16.7	(6.2)	(14.8)	-	-	-	-	488.6	補修孔1対
93	7	536-1	LP34-a		1号	C ₁	無	深鉢		(16.4)	13.9	欠	-	-	-	-	-	434.2	
93	8	292	LP34-c		1号	C ₁	無	深鉢		欠	10.6	(6.7)	-	-	-	-	-	322.4	アスファルト 付着

第93図 大洞C₁式 深鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
94	1	380	LQ35-d		1号	C ₁	無	深鉢		(22.0)	26.3	(6.8)	(22.3)	-	-	-	-	507.5	
94	2	376-1	LQ35-d		1号	C ₁	無	深鉢		欠	11.4	(7.3)	-	-	-	-	-	628.0	底部破口朱
94	3	33	LR34-b		1号	C ₁	無	深鉢		18.5	16.2	7.5	19.7	-	-	-	-	110.0	穿孔1ヶ所
94	4	372-3	LQ36-a		1号	C ₁	無	深鉢		21.0	18.2	欠	-	-	-	-	-	892.0	
94	5	301-2	LP35-b		1号	C ₁	無	深鉢		(14.1)	13.7	(5.2)	-	-	-	-	-	384.2	

第94図 大洞C₁式 深鉢 (3)

起以外の文様を施さない2類(第104~105図2)に分けられる。

第2群は、口縁部が直線的に立ち上がるかやや内湾する土器である(第105図3~第108図)。文様を持つ1類(第105図3~第107図6、第108図1)と地文縄文の2類(第107図7~13、第108図2~3)に分けられる。

第1群1類の文様帯は、口縁部と胴部におかれ、頸部は無文帯となるが、第102図4~6の様に文様帯を持つものもある。2類は胴部と頸部の接合部屈曲箇所の下に1~2条の沈線を施し、土器正面に1単位の突起を貼り付ける。研磨した器面は、赤彩されることが多い。

使用される文様は、口縁部には平行沈線間を連続する刺突文で充填し、胴部は雲形文が施される。

浅鉢

鉢は平縁が主体となる。また、B突起が口唇部外縁に連続して施されると同時に、口唇端・口唇内面に文様帯が設定される。器形は側面形で大きく3類型に分けられる。

第1群の特徴は、側面形が「ボール状」を呈し、胴部が丸くカーブしており、小さな平底もしくは丸底を持つ(第109~117図、第127~129図)。口縁部が内湾するaと、直線的に立ち上がるbがある。

第127~129図は器面を強く研磨した上で赤彩する。焼成も良好で、赤みがかった肌色の個体が多い。文様帯は口縁部に限定されており、B突起からのびる2条の沈線が施される。B突起は土器正面に1単位つけられている。

第2群は側面形が「洗面器形」で口縁直径が広く、底部直径も広い。胴部は底から緩やかなカーブを描いて外反しつつ立ち上がる(第118~125図)。典型的な浅鉢よりも口縁直径:高さの比率が大きい。皿ではない。大洞BC式に比べて、直径50cm近い大形の個体が目立つ。

口唇部形態も第1群と第2群では異なる。口唇端が丸く調整される第1群に対して、第2群ではB突起が口唇端外縁に移動することで口唇部が平坦となり、1条の沈線や刻みが施される文様帯となる。外側へ張り出すB突起の間に対応して口唇部に三角形の彫刻が施される。その結果、上面観がX字状の陽刻が連続する視覚効果を生む(第120~124図)。口縁部内面にも1条の沈線が引かれる。

第3群は、本来「鉢」の器形であったものが、口縁部が強く外へ開き胴部屈曲部以下が底部側へ入り込んだ結果、底部と胴部下半の区別がなくなり、外面全体が文様帯化して浅鉢化したものである(第126図)。

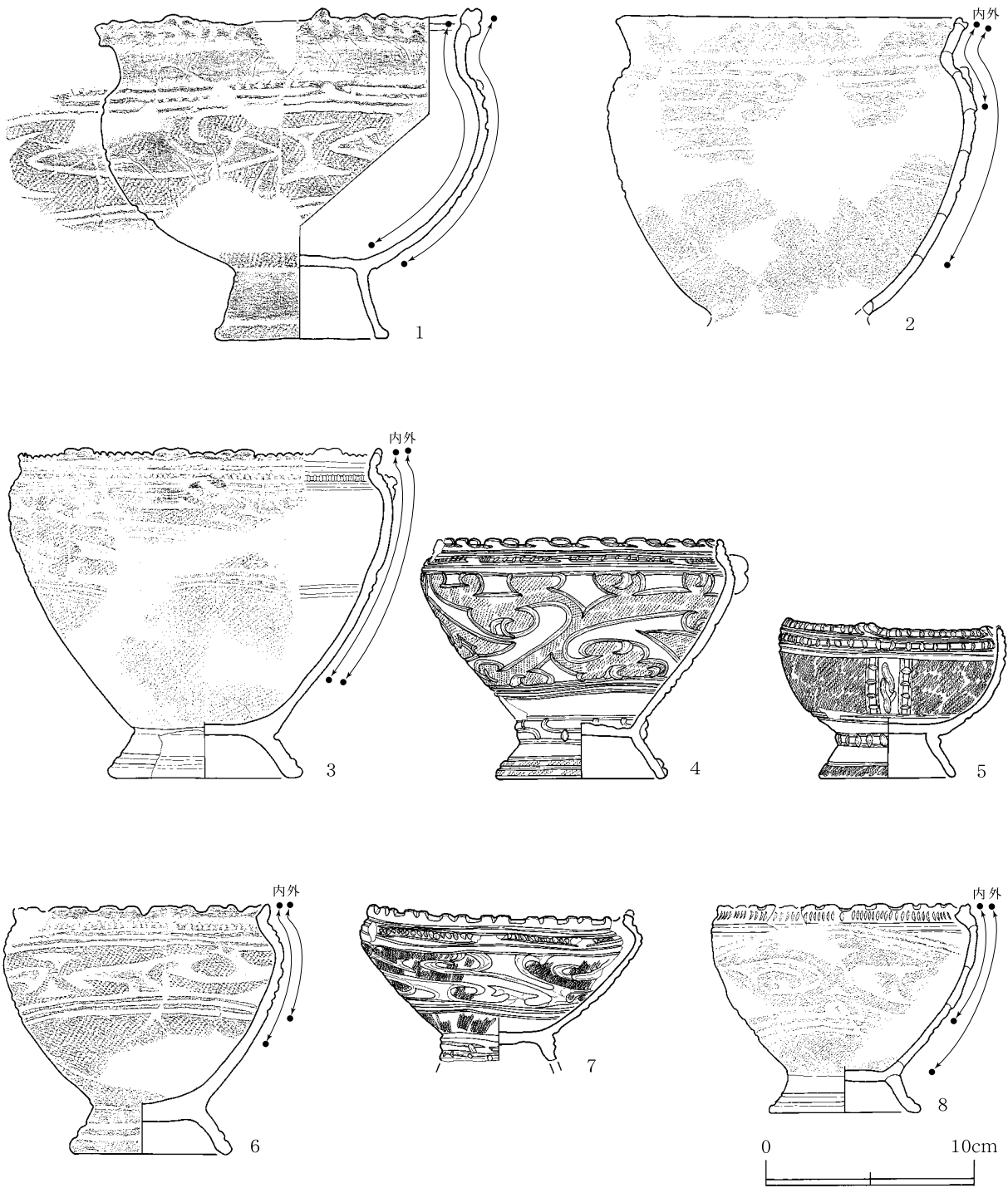
注口土器

器形で大きく2群に分けられる。大洞BC式期の名残を残して、口縁部に「ツノカクシ」形の受け皿をつける第1群(第130図)と、単純・直線的に内傾する口縁部を持つ第2群(第131図)である。1群には、羊歯状文が残ることもあり古い印象を受ける。第130図5~7は大洞BC式でもいいかもしれない。ただし、いずれも注口以下の胴部下半がより低く変化している。また、注口下には沈線による入組文が施される。

第1群は、大洞BC式から続く鉢巻状X字状文を頸部に持つ(第130図3・4)。注口の位置と対応する様に、口縁部には王冠状の突起が1単位つけられ、注口下には単純な入組文が描かれている。

第2群は、胴部上半・下半とも雲形文が施される。胴部下半文様帯に施文される面積は、第1群に比べて圧倒的に広くほぼ全面に広がる傾向を持つ(第131図1)。第1群でも胴部下半全面に雲形文が施される段階になると胴部上半文様帯にも雲形文が使用されている(第130図2)。

第2章 捨て場と遺物



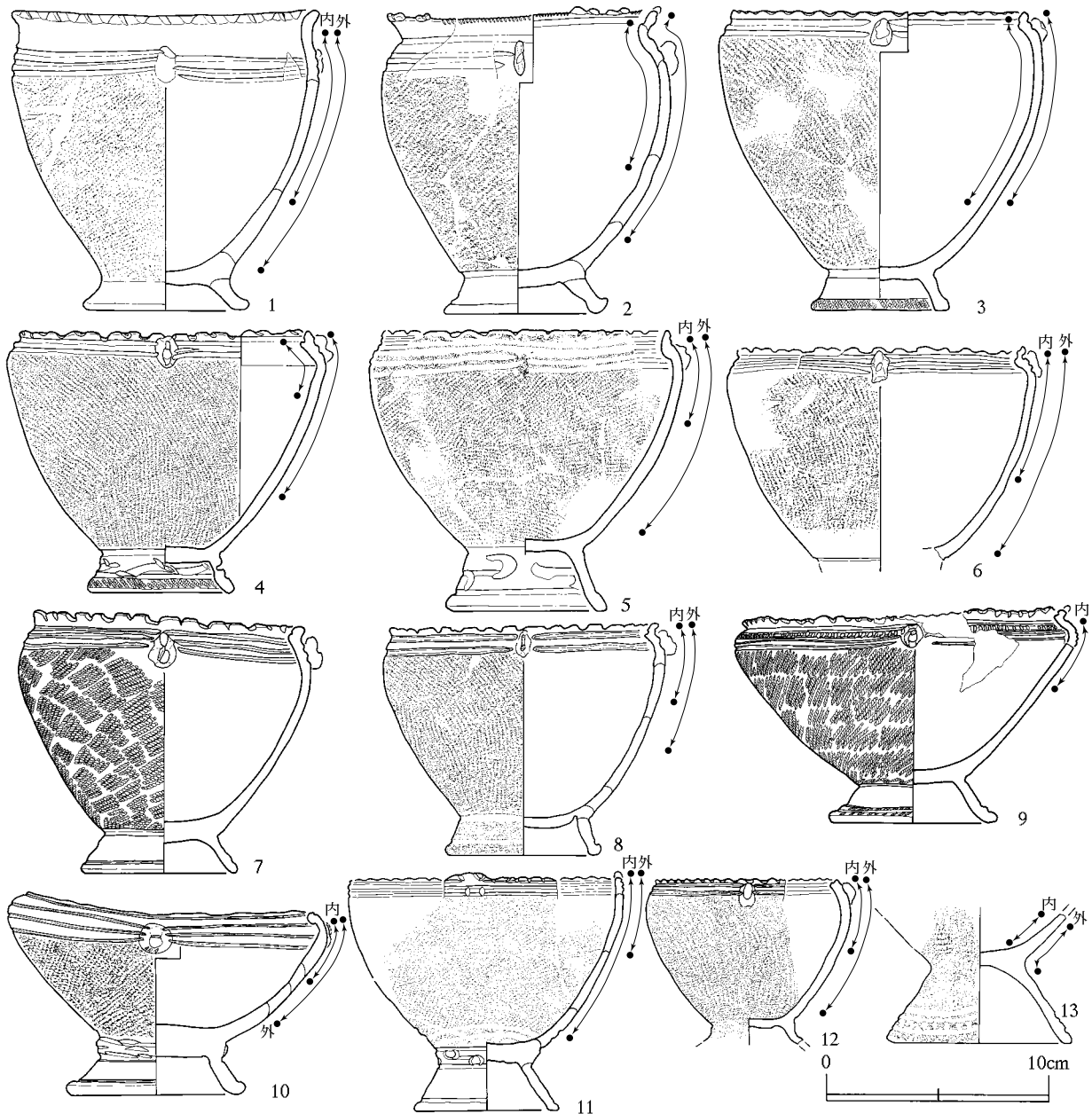
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
95	1	3414	LN36-b		1号	C ₁	無	台付鉢		18.4	15.6	8.3	18.4	16.4	12.3	3.3	6.3	366.4	
95	2	3443	LO36-b		1号	C ₁	無	台付鉢		(16.8)	14.2	欠	(17.5)	(15.3)	14.2	欠	欠	394.9	
95	3	3210	LP35-b		1号	C ₁	無	台付鉢		17.1	15.6	9.3	18.2	16.9	13.6	2.0	9.3	342.2	
95	4	372-2	LQ36-a		1号	C ₁	無	台付鉢		(13.6)	11.5	8.1	14.9	-	9.3	2.2	6.2	261.5	
95	5	399	LR36-b		1号	C ₁	無	台付鉢		10.4	7.7	6.5	-	-	5.5	2.2	4.9	144.4	
95	6	1212	MA28-d		2号	C ₁	無	台付鉢		12.2	11.9	7.7	13.3	11.9	9.6	2.3	5.3	154.0	
95	7	324	LP35-c		1号	C ₁	無	台付鉢		12.7	7.5	欠	13.4	12.6	5.8	1.7	5.3	114.2	
95	8	3301	LQ36-a		1号	C ₁	無	台付鉢		(12.0)	9.9	(7.2)	(12.6)	(11.9)	8.1	1.8	(5.3)	156.1	

第95図 大洞C₁式 台付鉢 (1)



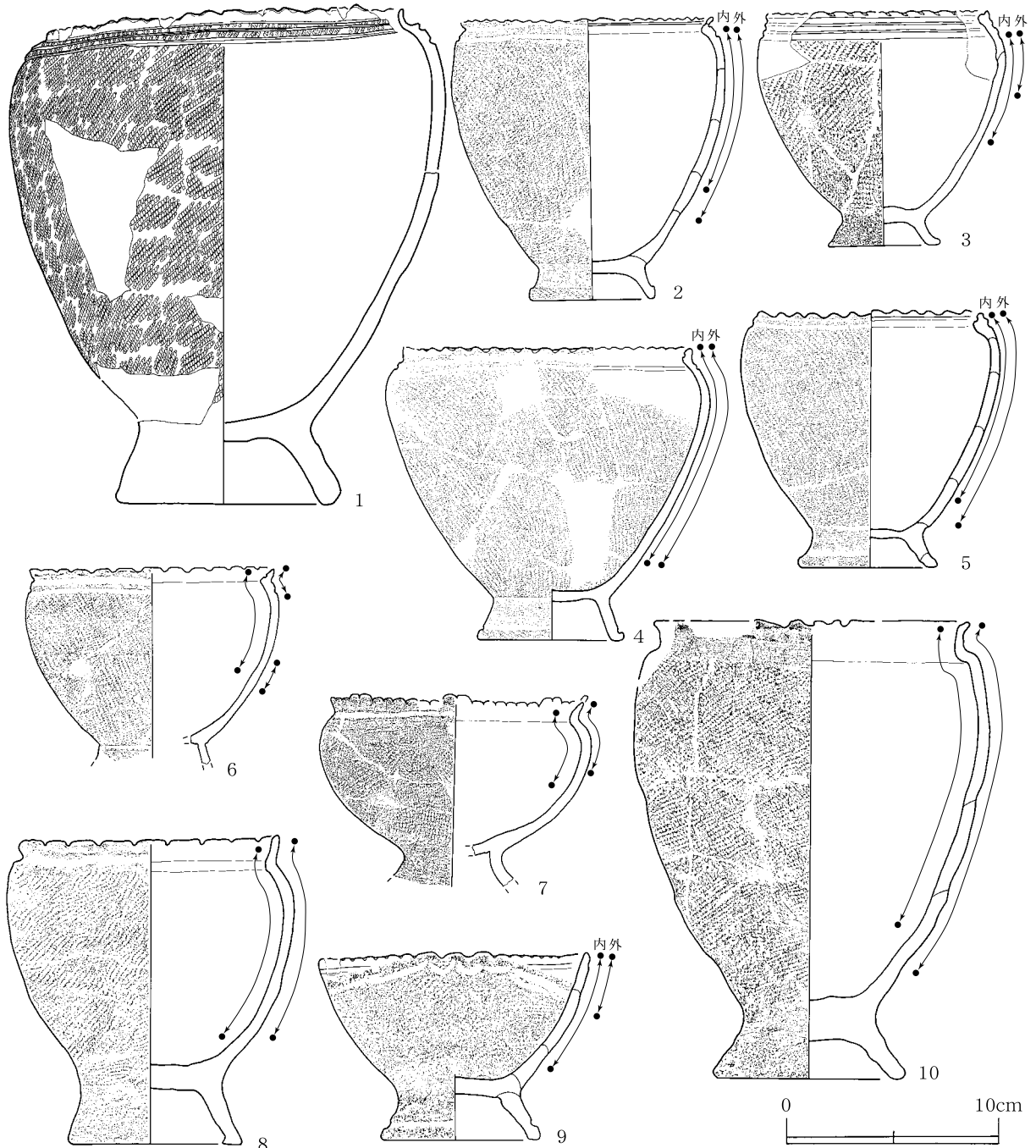
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
96	1	535	LP34-a		1号	C ₁	無	台付鉢		(14.2)	14.3	欠	(15.5)	(14.1)	14.0	0.3	(5.8)	183.8	
96	2	230-2	LP34-b		1号	C ₁	無	台付鉢		12.3	13.9	7.3	12.6	10.8	12.4	1.5	5.9	255.0	
96	3	328	LP35-c		1号	C ₁	無	台付鉢		10.0	12.4	6.7	11.3	10.0	10.4	2.0	4.6	205.0	
96	4	3445	LO33-b		1号	C ₁	無	台付鉢		(11.3)	11.1	5.3	(11.3)	(10.7)	10.0	1.1	4.3	155.5	
96	5	3308	MA28-b		2号	C ₁	無	台付鉢		(11.4)	10.9	(6.4)	(11.2)	(10.1)	9.9	1.0	(5.1)	102.6	
96	6	267	LP33-c		1号	C ₁	無	台付鉢		10.1	11.0	6.2	9.9	8.8	9.3	1.7	4.5	198.2	
96	7	3343	MA26-a		2号	C ₁	無	台付鉢		(22.2)	24.4	欠	(24.3)	(22.0)	23.1	1.3	(7.2)	852.0	
96	8	3437	LP35-d		1号	C ₁	無	台付鉢		欠	6.7	5.6	(9.9)	-	5.3	1.4	(4.0)	223.0	
96	9	220	LP34-b		1号	C ₁	無	台付鉢		10.7	12.1	7.2	12.3	10.5	9.3	2.8	5.3	317.5	
96	10	3144	LS39-d		外	C ₁	無	台付鉢		(10.3)	6.5	欠	-	-	6.5	欠	欠	54.2	

第96図 大洞C₁式 台付鉢 (2)



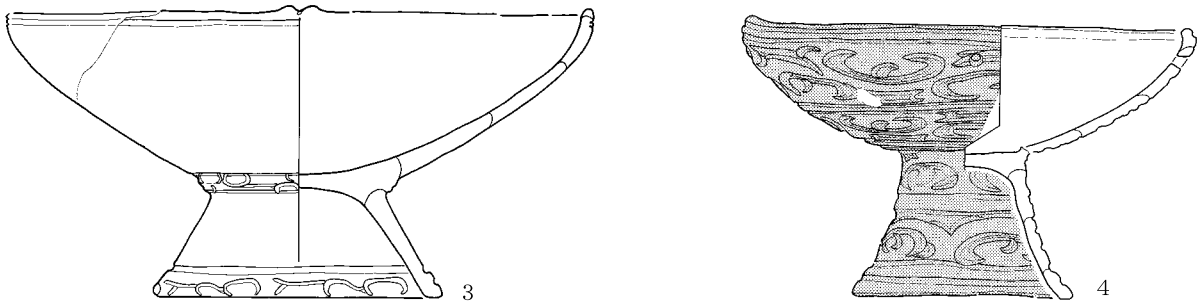
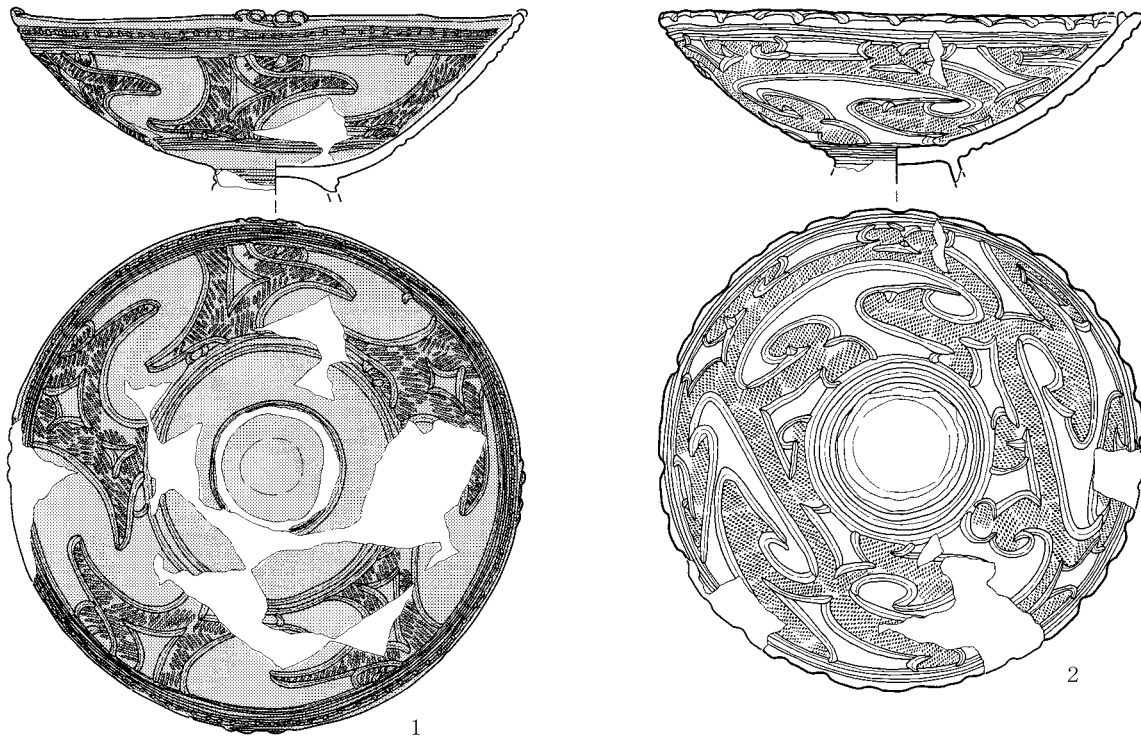
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
97	1	3312	MA28-a	2号	C ₁	無	台付鉢		(13.8)	13.3	(9.4)	(13.6)	(13.0)	11.9	1.4	(5.7)	180.8		
97	2	1228	MA28-d	2号	C ₁	無	台付鉢		12.2	13.6	7.3	12.9	10.9	11.9	1.7	5.4	361.2		
97	3	3358	MA28-d	2号	C ₁	無	台付鉢		13.2	13.4	6.1	14.4	-	11.5	1.9	4.8	347.7		
97	4	1063-1	MA28-c	2号	C ₁	無	台付鉢		(13.1)	11.6	6.5	(14.1)	-	9.9	1.7	5.2	300.4		
97	5	301-1	LP35-b	1号	C ₁	無	台付鉢		(12.7)	12.5	7.2	(14.0)	(12.8)	9.8	2.7	5.2	237.4		
97	6	152	LP34-a	1号	C ₁	無	台付鉢		(12.8)	9.5	欠	(13.7)	(12.6)	9.5	欠	欠	142.8		
97	7	285	LP34-c	1号	C ₁	無	台付鉢		12.0	11.5	7.0	12.9	11.8	9.6	1.9	5.0	302.6		
97	8	422	LO34-b	1号	C ₁	無	台付鉢		12.0	10.4	7.0	12.6	-	8.8	1.6	5.8	220.5		
97	9	357-1	LQ35-a	1号	C ₁	無	台付鉢		14.4	9.8	7.5	15.1	14.0	7.8	2.0	4.7	204.2	2980 ± 40 ¹⁴ C B P	
97	10	188	LQ35-c	1号	C ₁	無	台付鉢		(12.8)	9.1	(8.0)	(14.2)	(12.8)	7.4	1.7	(5.4)	251.8		
97	11	3282	LQ35-b	1号	C ₁	無	台付鉢		(12.1)	10.6	6.5	(12.3)	-	7.8	2.8	4.2	164.1		
97	12	536-2	LP34-a	1号	C ₁	無	台付鉢		(8.2)	7.3	欠	(9.1)	-	6.3	1.0	3.7	80.8		
97	13	688	LQ35-d	1号	C ₁	無	台付鉢		欠	5.8	8.2	-	-	2.3	3.5	4.1	83.8		

第97図 大洞C₁式 台付鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
98	1	312	LP35-b		1号	C ₁	無	台付鉢		16.7	23.4	10.5	20.3	-	20.9	2.5	8.5	848.5	
98	2	1046	MA28-a		2号	C ₁	無	台付鉢		(11.9)	13.1	(5.8)	(12.8)	(11.6)	11.5	1.6	(5.0)	171.4	
98	3	583	LO36-a		1号	C ₁	無	台付鉢		10.4	10.9	5.3	11.6	-	9.2	1.7	3.9	174.0	
98	4	3099	MA28-a		2号	C ₁	無	台付鉢		(13.5)	13.7	6.9	15.2	-	11.7	2.0	5.4	325.2	
98	5	3112	LQ36-a		1号	C ₁	無	台付鉢		10.4	11.9	6.4	12.0	-	10.3	1.6	5.1	235.7	
98	6	283	LP34-c		1号	C ₁	無	台付鉢		(11.4)	9.2	欠	(11.8)	(11.1)	8.3	0.9	(5.0)	133.4	
98	7	237-1	LQ33-b		1号	C ₁	無	台付鉢		(11.9)	8.7	欠	(12.7)	(11.4)	7.6	1.1	(4.5)	119.8	
98	8	207-1	LQ34-a		1号	C ₁	無	台付鉢		12.1	14.4	8.1	13.4	11.7	11.7	2.7	6.5	501.5	
98	9	630-2	LQ34-a		1号	C ₁	無	台付鉢		12.7	8.8	7.5	-	-	6.6	2.2	5.8	288.2	
98	10	232	LP34-b		1号	C ₁	無	台付鉢		(14.8)	21.4	(9.0)	(16.6)	(14.2)	18.2	3.2	(6.2)	724.5	

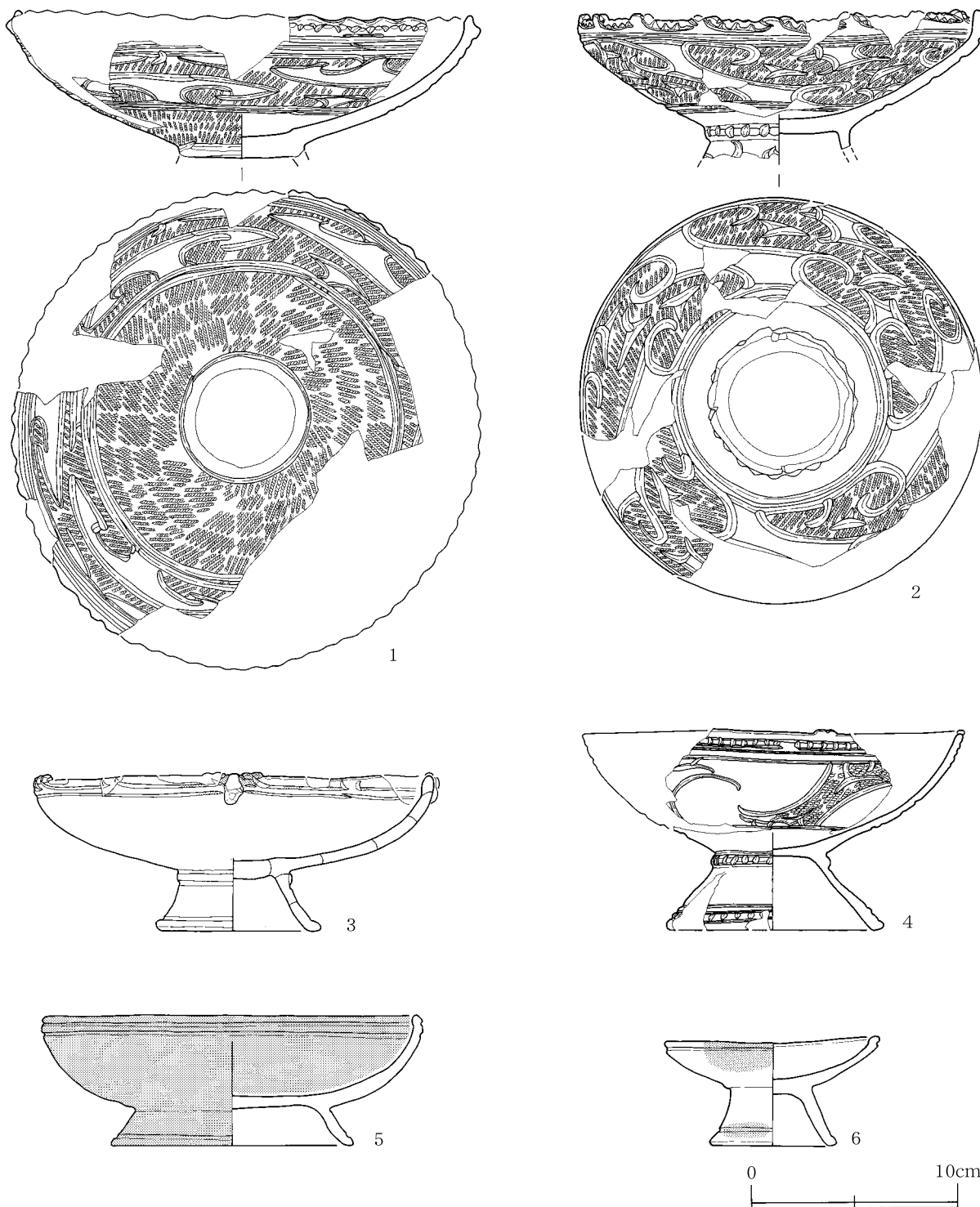
第98図 大洞C₁式 台付鉢 (4)



0 10cm

図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
99	1	1257-2	MB28-c		2号	C ₁	有	台付鉢		20.4	7.3	欠	-	-	6.6	0.7	4.9	314.0	
99	2	289	LP34-c		1号	C ₁	無	台付鉢		19.1	6.8	欠	-	-	5.8	1.0	4.9	305.2	
99	3	3335	LQ35-b		1号	C ₁	無	台付鉢		(23.2)	11.4	11.4	-	-	6.7	4.7	6.9	400.4	
99	4	1285	MA28-c		2号	C ₁	有	台付鉢		(17.5)	(11.0)	(8.7)	(18.0)	-	(5.6)	5.4	4.8	83.0	補修孔1ヶ所

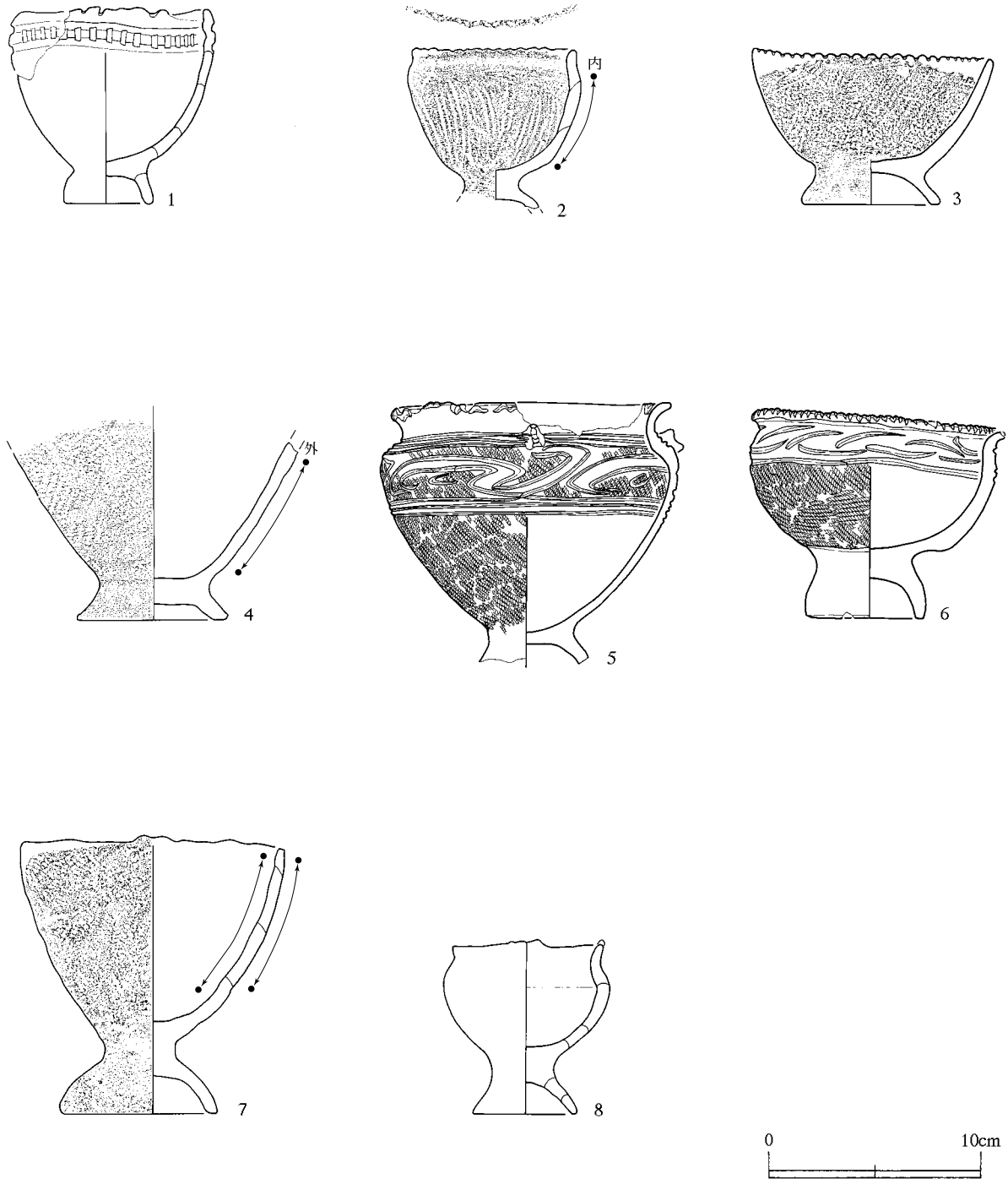
第99図 大洞C₁式 台付鉢 (5)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
100	1	1236	MA28-b		2号	C ₁	無	台付鉢		(22.2)	7.0	欠	-	-	6.4	0.6	6.1	361.2	
100	2	1156	MB28-a		2号	C ₁	無	台付鉢		19.6	6.0	欠	-	-	4.4	1.6	7.2	340.8	
100	3	195	LQ35-b		1号	C ₁	有	台付鉢		18.9	7.7	7.9	19.1	-	4.8	2.9	5.3	360.4	
100	4	1033	MA27-c		2号	C ₁	無	台付鉢		(18.3)	9.7	10.4	-	-	6.0	3.7	5.3	146.8	
100	5	3450	LR33-b		1号	C ₁	有	台付鉢		(18.4)	6.3	(11.7)	-	-	4.5	1.8	(9.4)	304.1	
100	6	3351	MB27-d		2号	C ₁	有	台付鉢		10.4	5.3	6.1	-	-	2.4	2.9	4.0	123.9	

第100図 大洞C i式 台付鉢 (6)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
101	1	3138	LR33-a		1号	C ₁	無	台付鉢		(9.4)	9.2	4.2	-	-	7.5	1.7	3.4	137.7	
101	2	373	LQ36-a		1号	C ₁	無	台付鉢		7.8	7.6	欠	8.2	7.7	6.5	1.1	2.5	118.5	
101	3	621	LQ35-d		1号	C ₁	無	台付鉢		11.2	7.3	6.4	-	-	6.0	1.3	5.0	193.5	
101	4	699	LO35-b		1号	C ₁	無	台付鉢		欠	8.3	(7.1)	13.2	-	6.8	1.5	5.1	225.5	
101	5	587	LN36-b		1号	C ₂	無	台付鉢		(13.2)	12.2	欠	14.0	11.8	11.1	1.1	4.0	303.0	
101	6	1166	MB28-d		2号	C ₂	無	台付鉢		11.8	9.9	5.6	11.5	11.0	7.2	2.7	4.5	243.2	
101	7	228	LP34-b		1号	C ₁	無	台付鉢		12.4	13.0	7.3	-	-	9.7	3.3	3.3	398.4	
101	8	3276	LQ33-b		1号	C ₁	無	台付鉢		7.1	8.2	4.9	7.8	6.8	6.0	2.2	2.8	128.9	

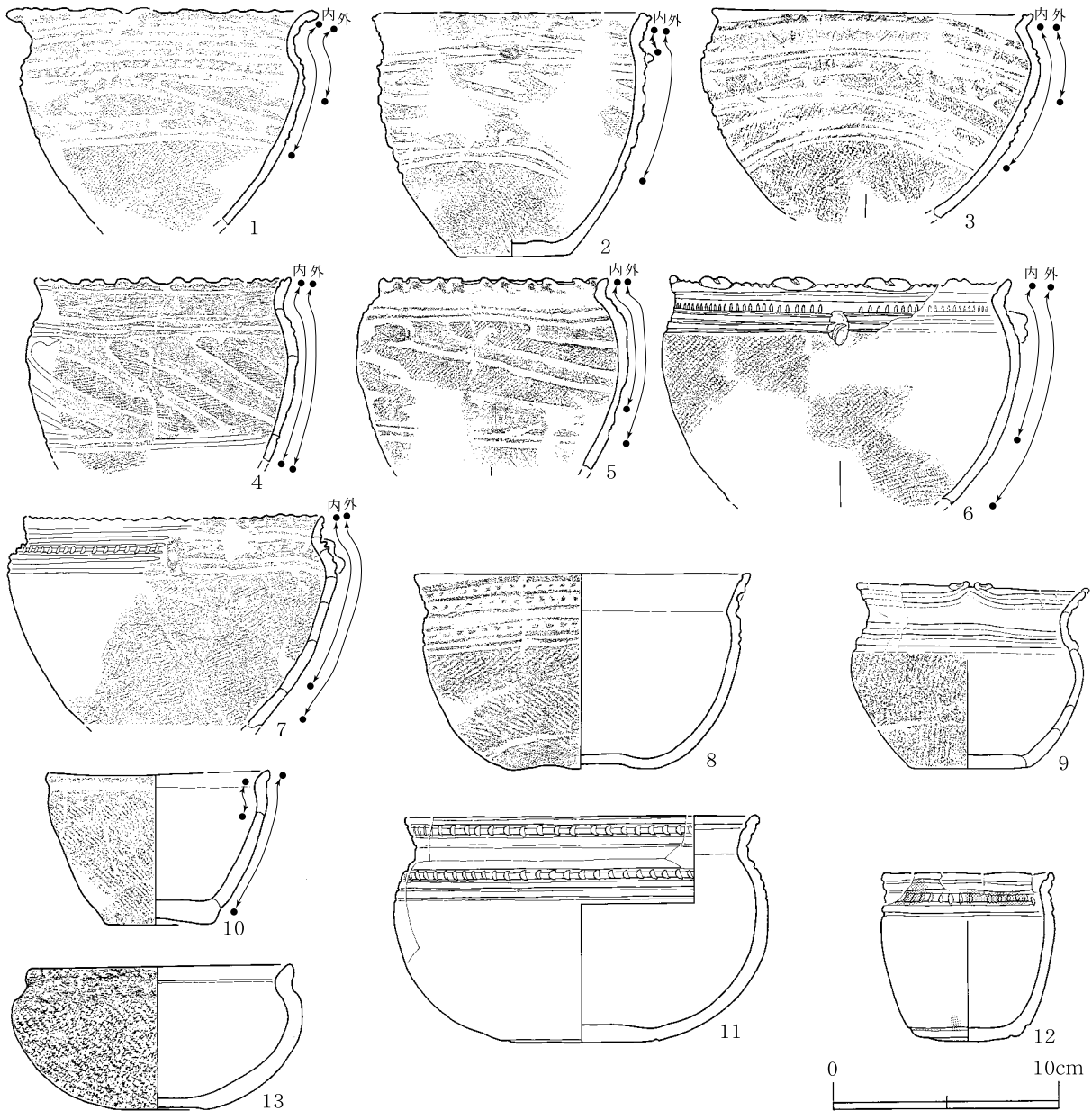
第101図 大洞C₁・C₂式 台付鉢 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
102	1	3363	MA27-c		2号	C ₁	無	鉢		(14.4)	6.3	6.2	15.4	(14.2)	-	-	-	214.8	
102	2	3412	MB27-d		2号	C ₁ 古	無	鉢		(14.0)	8.2	欠	(15.1)	(13.4)	-	-	-	116.7	
102	3	3217	MA27-a		2号	C ₁	無	鉢		25.4	18.0	欠	28.4	20.8	-	-	-	1064.0	
102	4	3104	MA28-b		2号	C ₁	無	鉢		18.7	13.9	(6.0)	19.2	16.6	-	-	-	492.6	
102	5	3150	LR35-d		1号	C ₁	有	鉢	屈曲	14.1	6.3	5.8	14.1	12.9	-	-	-	289.3	
102	6	3230	LP33-d		1号	C ₁	無	鉢		20.6	14.8	(6.3)	20.8	19.2	-	-	-	502.7	

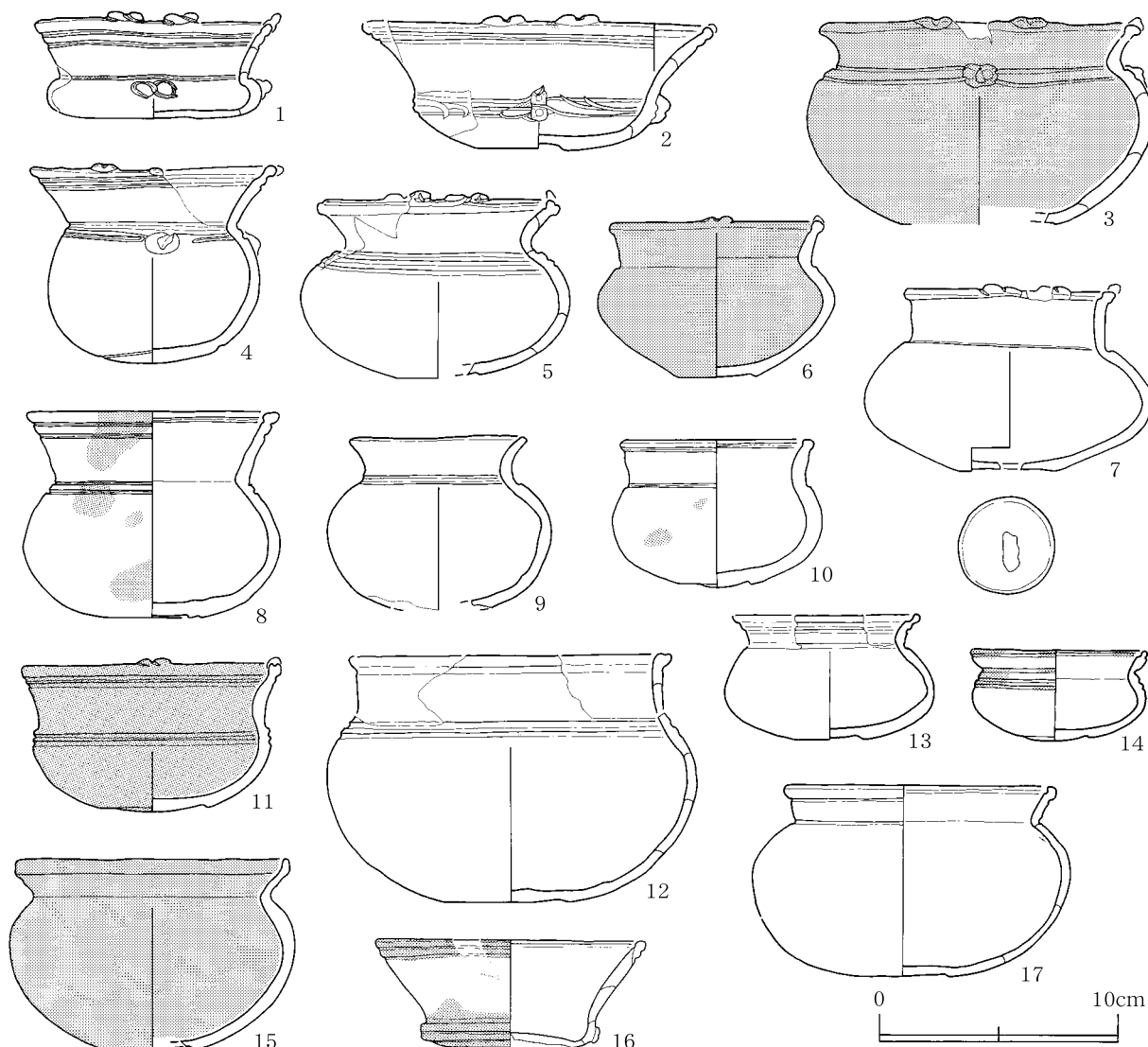
第102図 大洞C₁式 鉢 (1)

第2章 捨て場と遺物



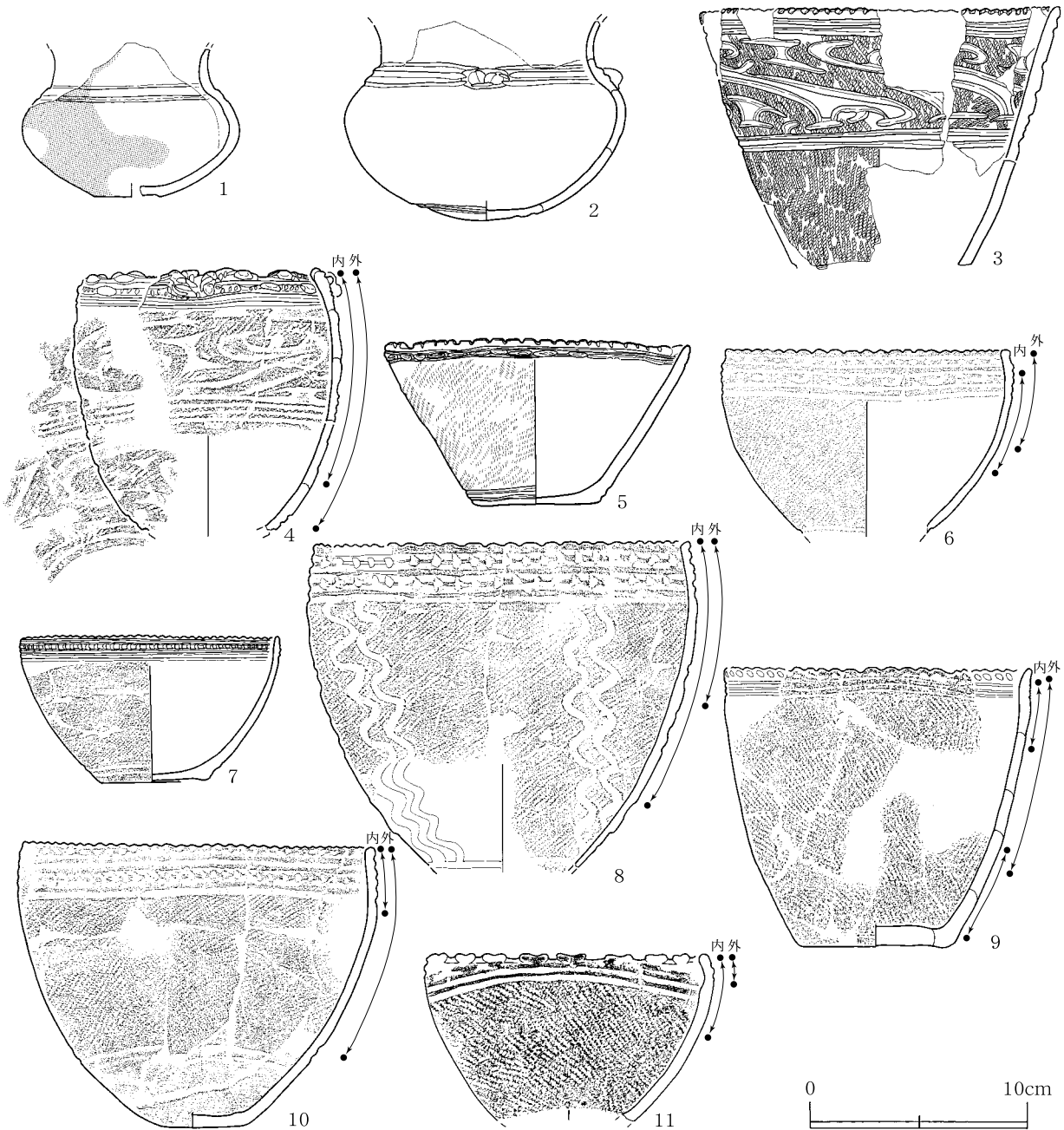
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
103	1	425	LP34-d		1号	C ₁	無	鉢		(13.7)	9.4	欠	(12.5)	(11.5)	-	-	-	81.2	
103	2	1168	MA28-a		2号	C ₁	無	鉢		(12.3)	10.7	5.0	(11.8)	(11.2)	-	-	-	104.8	
103	3	374-2	LQ36-a		1号	C ₁	無	鉢		(14.0)	9.0	欠	(14.9)	(13.5)	-	-	-	84.0	
103	4	3306	LP34-b		1号	C ₁	無	鉢		(11.2)	8.1	欠	(11.9)	(10.5)	-	-	-	64.5	
103	5	3387	LQ35-d		1号	C ₁	無	鉢		(10.1)	8.3	欠	(12.0)	(9.9)	-	-	-	116.3	
103	6	383	LQ35-d		1号	C ₁	無	鉢		(14.9)	10.1	欠	(15.7)	(14.3)	-	-	-	200.6	
103	7	3103	MB28-d		2号	C ₁	無	鉢		(13.1)	9.4	欠	(14.4)	(12.9)	-	-	-	247.7	
103	8	3394	MA28-c		2号	C ₁	無	鉢		(14.8)	8.6	(6.6)	(14.0)	(13.5)	-	-	-	259.2	四脚、補修孔1ヶ所
103	9	3083	LP34-b		1号	C ₁	無	鉢		10.0	8.3	5.1	10.2	8.7	-	-	-	149.6	
103	10	3153	LR35-d		1号	C ₁	無	鉢		(9.8)	6.7	(4.5)	(9.7)	(9.6)	-	-	-	77.7	
103	11	3307	MA29-b		2号	C ₁	無	鉢		(15.6)	9.9	6.6	(16.4)	(14.6)	-	-	-	210.6	
103	12	3438	LQ33		1号	C ₁	有	鉢		(7.6)	7.4	(4.5)	(7.6)	(7.1)	-	-	-	78.3	
103	13	597	LO36-b		1号	C ₁	無	鉢		11.3	6.4	4.0	12.7	11.5	-	-	-	286.0	

第103図 大洞C₁式 鉢 (2)



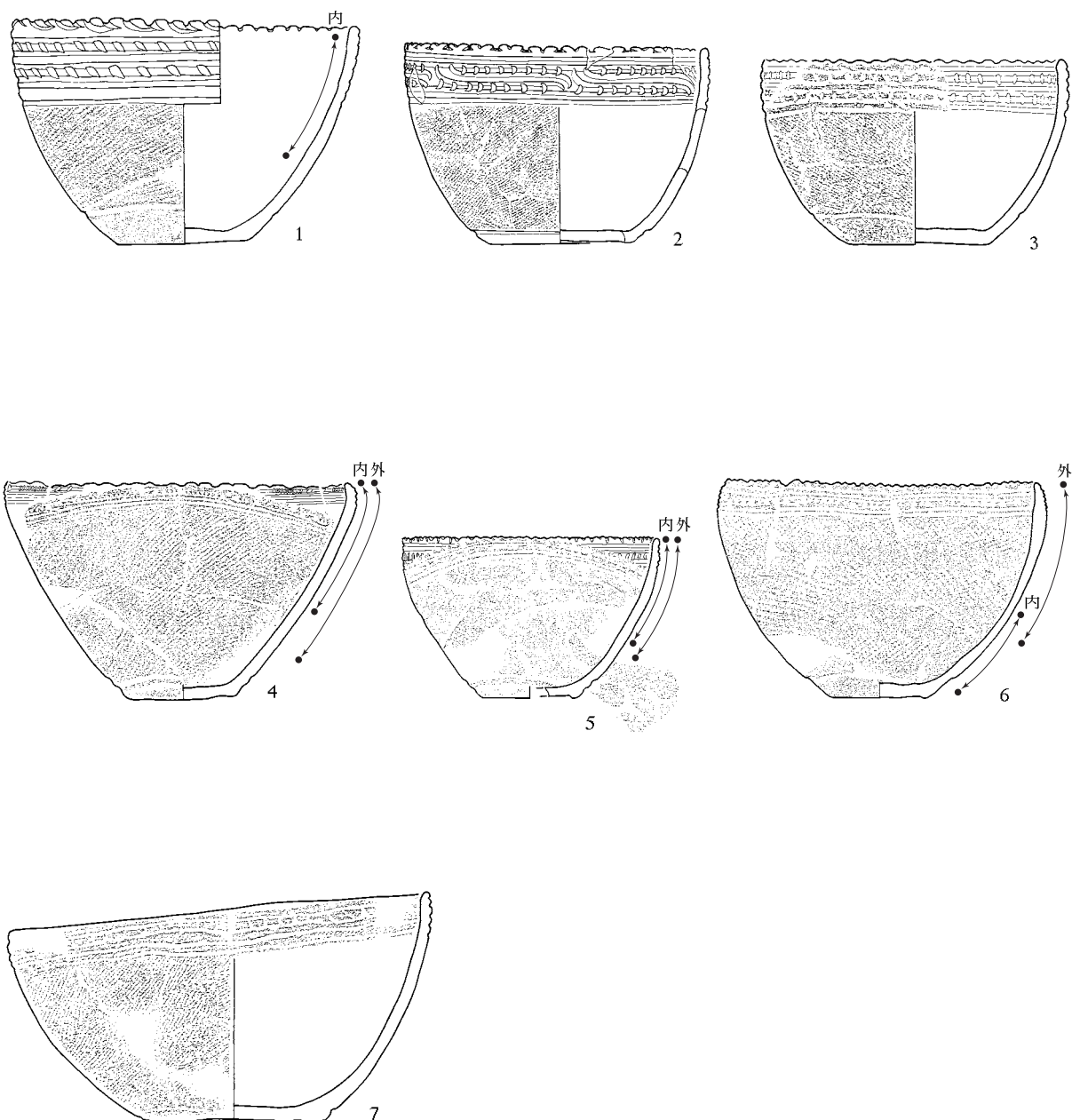
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
104	1	3066-2	LQ33-a		1号	C ₁	有	鉢		9.9	4.5	3.6	8.9	7.9	-	-	-	90.8	
104	2	3218	LQ33-c		1号	C ₁	有	鉢	屈曲	14.7	5.5	4.2	10.3	10.1	-	-	-	154.0	
104	3	429	LO34-c		1号	C ₁	有	鉢		(13.4)	8.7	(6.5)	(14.4)	(11.7)	-	-	-	113.4	
104	4	144	LP34-c		1号	C ₁	無	鉢		10.3	8.4	5.1	8.8	7.0	-	-	-	135.2	
104	5	3368	MA28-b		2号	C ₁	無	鉢		(10.2)	7.8	(2.7)	11.2	(7.7)	-	-	-	196.7	
104	6	3428	MA28-b		2号	C ₁	有	鉢		(9.0)	6.7	(3.4)	(10.0)	(8.0)	-	-	-	143.1	
104	7	295	LP35-b		1号	C ₁	無	鉢		8.8	7.8	3.9	12.0	8.0	-	-	-	210.2	底部穿孔
104	8	1051	MA28-d		2号	C ₁	有	鉢		(10.5)	8.6	(4.0)	(10.7)	(8.1)	-	-	-	125.1	
104	9	1268	MA28-b		2号	C ₁	無	鉢		(7.4)	(7.2)	欠	(9.3)	(6.1)	-	-	-	98.0	
104	10	247	LQ34-a		1号	C ₁	有	鉢		(8.1)	6.1	3.0	(8.8)	(7.4)	-	-	-	106.4	
104	11	3420	LQ33-d		1号	C ₁	有	鉢		10.8	6.4	4.4	9.9	9.4	-	-	-	120.6	
104	12	492-1	LO35-a		1号	C ₁	無	鉢		(13.5)	(10.3)	5.5	(15.5)	(12.8)	-	-	-	260.5	
104	13	1108	MB28-a		2号	C ₁	無	鉢	屈曲	(7.8)	(5.2)	2.8	8.7	(6.5)	-	-	-	93.6	
104	14	3347	LQ35-c		1号	C ₁	有	鉢		(7.4)	3.8	2.8	(7.2)	(6.3)	-	-	-	39.8	
104	15	3313	LP35-a		1号	C ₁	有	鉢		(11.4)	7.9	(3.7)	(11.9)	(9.9)	-	-	-	96.7	
104	16	3520	MH35		4号	C ₁	有	鉢		(11.4)	4.5	(5.2)	(7.6)	(7.1)	-	-	-	82.3	
104	17	3311	LQ35-d		1号	C ₁	無	鉢		(11.6)	8.1	4.6	(13.2)	(10.2)	-	-	-	134.2	

第104図 大洞C₁式 鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
105	1	332	LP35-c		1号	C ₁	有	鉢		欠	6.8	3.0	(9.9)	(6.9)	-	-	-	77.6	
105	2	3009	LO34-c		1号	C ₁	無	鉢		欠	9.0	4.5	13.0	9.8	-	-	-	251.6	
105	3	1150	MA28-a		2号	C ₁	無	鉢		16.4	11.9	欠	-	-	-	-	-	295.4	
105	4	3392	LR33-c		1号	C ₁	無	鉢		(11.1)	12.0	欠	(12.3)	-	-	-	-	160.2	
105	5	389-1	LQ35-d		1号	C ₁	無	鉢		13.9	7.6	5.5	-	-	-	-	-	243.6	
105	6	3432	LR35-a		1号	C ₁	無	鉢		(13.0)	8.4	欠	(13.4)	-	-	-	-	177.8	
105	7	3041	LQ33-b		1号	C ₁	無	鉢		11.8	6.8	4.6	-	-	-	-	-	149.4	
105	8	3192	LR33-d		1号	C ₁	無	鉢		(17.2)	14.8	欠	(17.8)	-	-	-	-	248.4	
105	9	1327-2	MB28-d		2号	C ₁	無	鉢		(14.0)	12.7	6.7	-	-	-	-	-	129.5	
105	10	1325	MB28-d		2号	C ₁	無	鉢		16.0	12.9	4.8	16.4	-	-	-	-	245.0	
105	11	571	LQ34-d		1号	C ₁	無	鉢		12.5	7.6	欠	13.2	-	-	-	-	231.2	

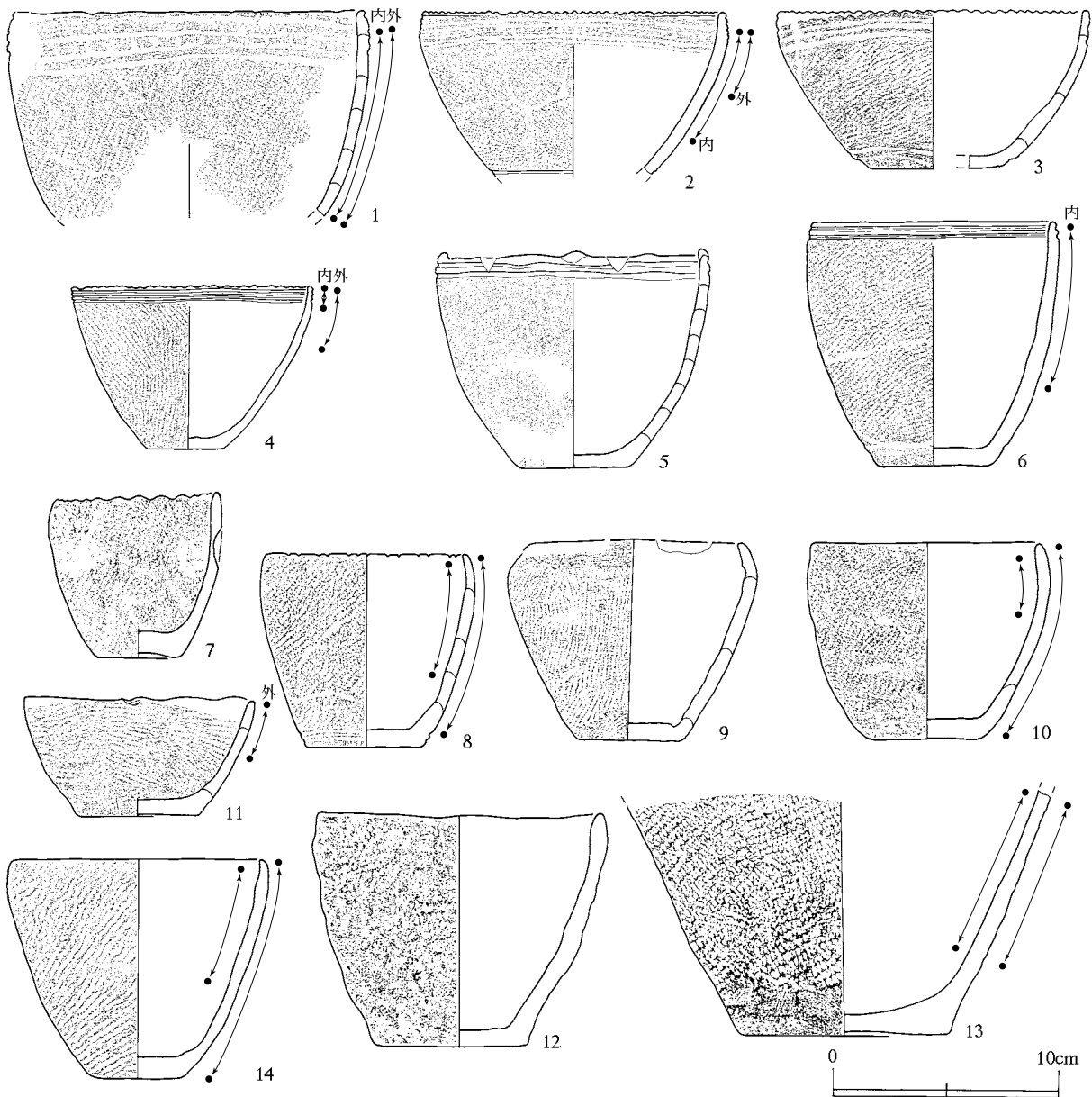
第105図 大洞C₁式 鉢 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
106	1	3034	LS34-b		1号	C ₁	無	鉢		15.3	10.0	5.8	-	-	-	-	-	195.7	
106	2	3148	LR35-a		1号	C ₁	無	鉢		13.4	8.9	6.3	-	-	-	-	-	255.2	
106	3	3181	LR34-b		1号	C ₁	無	鉢		(13.3)	8.2	(6.2)	(13.6)	-	-	-	-	210.0	
106	4	3189	LR35-d		1号	C ₁	無	鉢		15.2	9.8	4.8	15.6	-	-	-	-	197.3	
106	5	3255	MA28-b		2号	C ₁	無	鉢		(11.5)	(7.2)	(4.4)	-	-	-	-	-	80.0	黒色付着物
106	6	3294	LQ34-b		1号	C ₁	無	鉢		(13.8)	9.7	(4.2)	(14.7)	-	-	-	-	236.2	
106	7	3346	LP34-b		1号	C ₁	無	鉢		18.8	10.2	8.0	-	-	-	-	-	468.4	

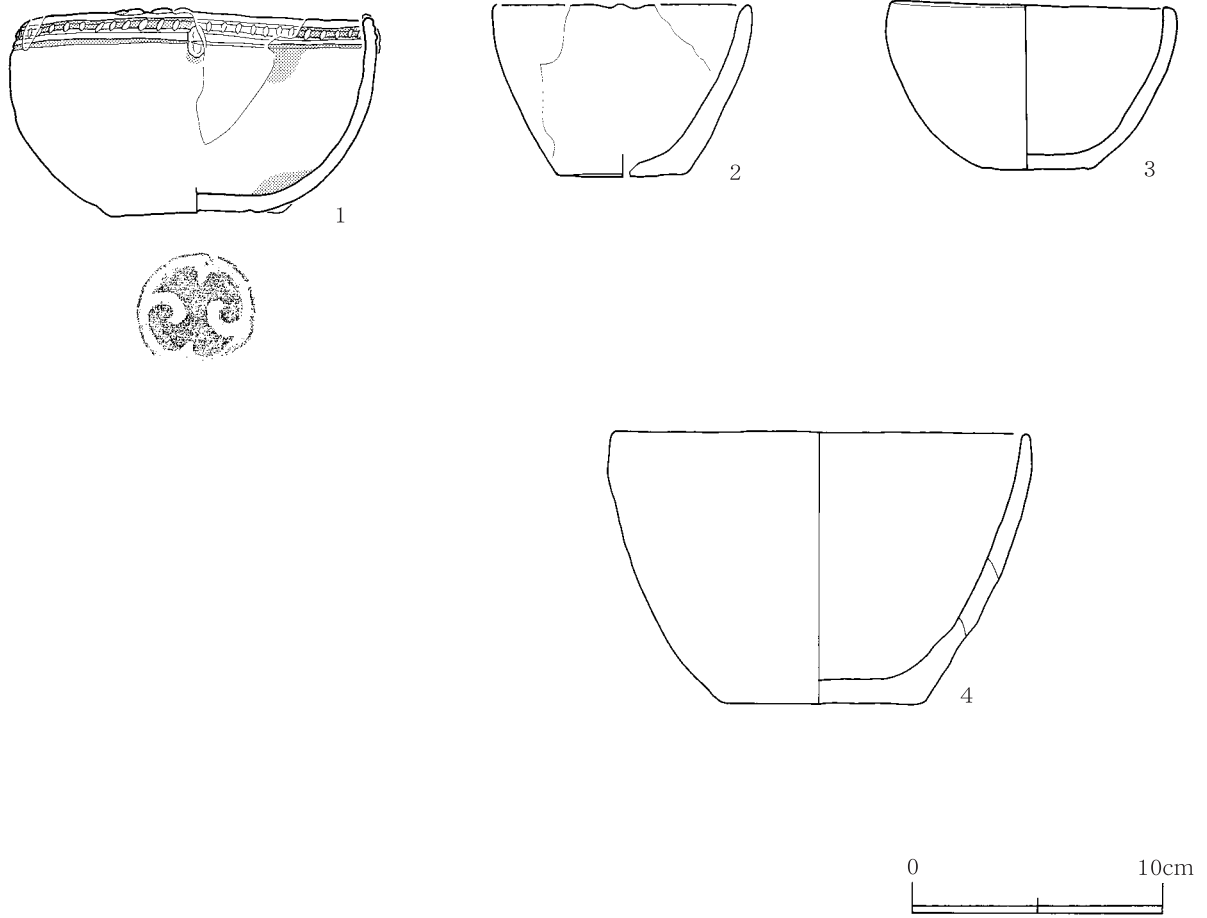
第106図 大洞C₁式 鉢 (5)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
107	1	3278	LR33-d		1号	C ₁	無	鉢		(15.3)	9.0	欠	-	-	-	-	-	94.0	
107	2	3295	LQ33-b		1号	C ₁	無	鉢		(13.1)	7.1	欠	(13.6)	-	-	-	-	200.0	
107	3	389-2	LQ35-d		1号	C ₁	無	鉢		13.6	6.9	(5.7)	-	-	-	-	-	199.0	
107	4	708	MA34		3号	C ₁	無	鉢		10.6	7.2	3.3	-	-	-	-	-	119.2	
107	5	3424	LT25		2号	C ₁	無	鉢		(12.0)	9.6	(4.7)	-	-	-	-	-	224.3	
107	6	534-1	LP34-a		1号	C ₁	無	鉢		10.7	10.7	4.8	11.1	-	-	-	-	330.0	
107	7	145	LP35-b		1号	C ₁	無	鉢		7.1	7.2	3.7	7.6	-	-	-	-	104.5	側面凹み2ヶ所
107	8	3168	LR35-d		1号	C ₁	無	鉢		(8.9)	8.5	(5.0)	(9.3)	-	-	-	-	133.1	
107	9	637	LP34-d		1号	C ₁	無	鉢		9.4	8.9	4.5	11.0	-	-	-	-	250.2	
107	10	200	LQ35-b		1号	C ₁	無	鉢		10.1	8.6	4.6	10.6	-	-	-	-	234.4	
107	11	1349	MA28-c		2号	C ₁	無	鉢		10.0	5.3	5.2	-	-	-	-	-	142.4	
107	12	6	LQ34-c		1号	C ₁	無	鉢		12.3	10.2	6.6	12.9	-	-	-	-	349.5	
107	13	265	LP33-c		1号	C ₁	無	鉢		欠	10.6	9.1	-	-	-	-	-	646.9	
107	14	207-2	LQ34-a		1号	C ₁	無	鉢		10.9	9.6	3.8	11.5	-	-	-	-	254.5	

第107図 大洞C₁式 鉢 (6)



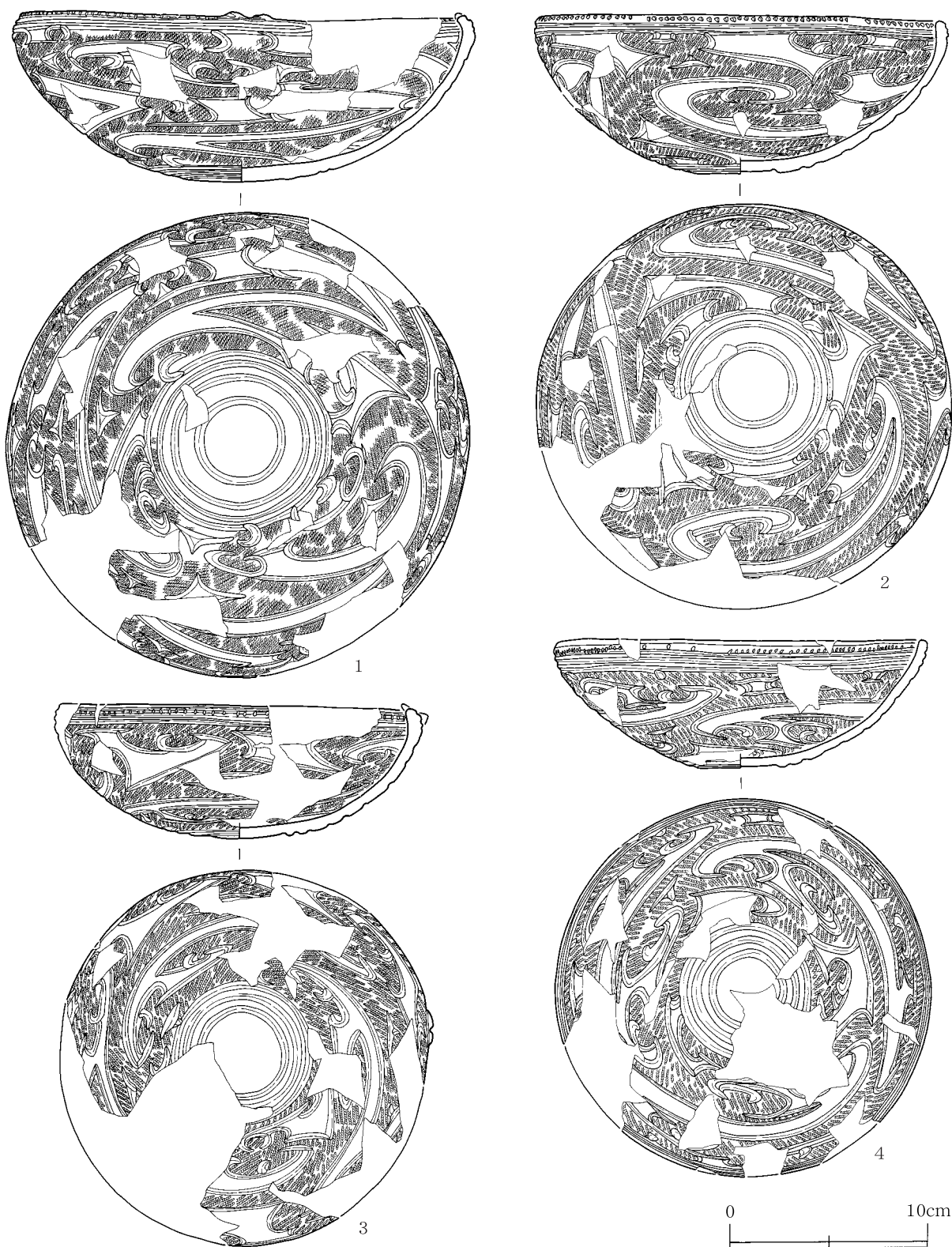
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
108	1	3342	LS33-d		1号	C ₁	有	鉢		(13.5)	8.1	6.8	14.1	-	-	-	-	245.0	四脚
108	2	251	LQ35-c		1号	C ₁	無	無文鉢		(10.2)	6.8	(5.0)	-	-	-	-	-	95.0	
108	3	197	LQ35-b		1号	C ₁	無	鉢		11.2	6.7	4.1	11.5	-	-	-	-	196.2	
108	4	299-2	LP35-b		1号	C ₁	無	鉢		16.5	10.8	7.9	16.8	-	-	-	-	637.9	

第108図 大洞C₁式 鉢 (7)



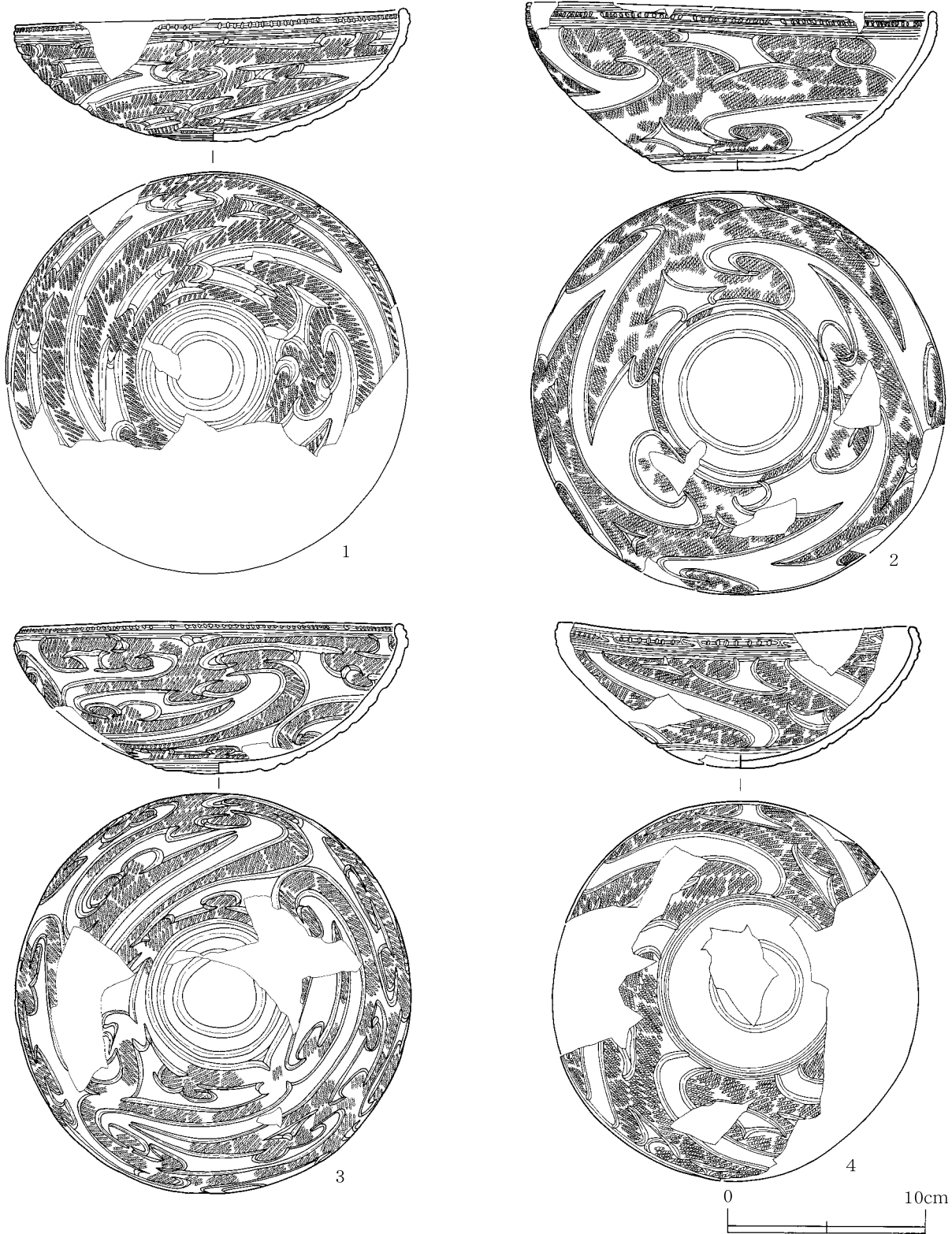
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
109	1	372-1	LQ36-a		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	28.6	10.5	6.2	-	-	-	-	-	843.5	
109	2	651-1	LQ35-b		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	15.4	3.9	3.9	-	-	-	-	-	134.1	
109	3	3222	LQ33-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(16.0)	5.5	(3.9)	-	-	-	-	-	189.8	
109	4	392-1	LQ35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(17.3)	6.7	4.0	-	-	-	-	-	103.9	

第109図 大洞C₁式 浅鉢 (1)



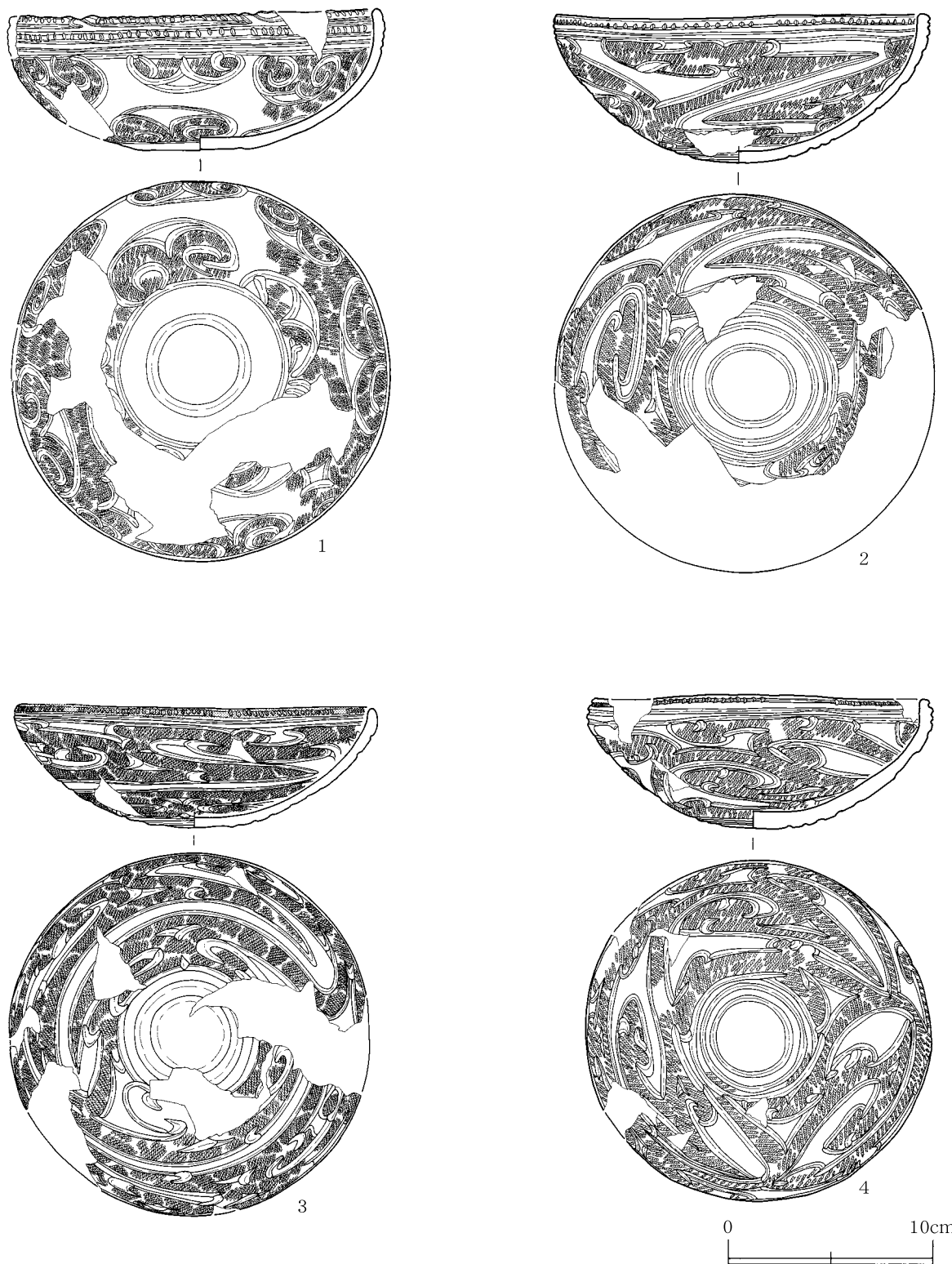
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
110	1	3220	MA25-d		2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	22.4	8.5	4.6	23.1	-	-	-	-	442.1	
110	2	1211	MA28-d		2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	20.5	8.0	4.3	-	-	-	-	-	123.5	
110	3	3106	MA28-a		2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	17.8	6.6	4.7	-	-	-	-	-	240.0	
110	4	3105	MA28-a		2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	18.8	6.4	4.0	-	-	-	-	-	265.0	

第110図 大洞C₁式 浅鉢 (2)



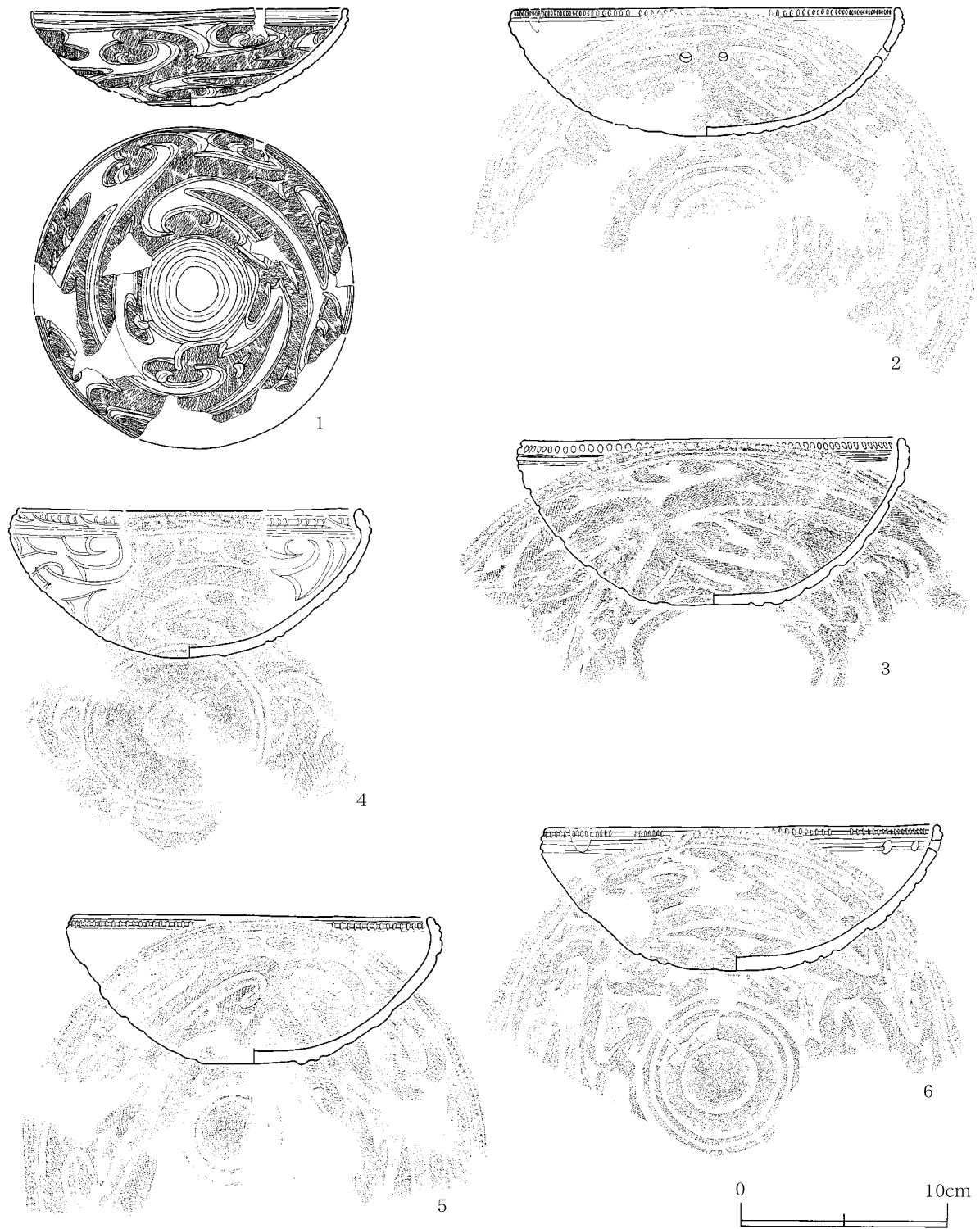
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
111	1	155	LP34-c		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(19.9)	6.8	3.9	-	-	-	-	-	175.8	
111	2	3224	LQ35-c		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	20.6	9.2	6.5	-	-	-	-	-	402.5	
111	3	3169	LP35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	19.0	7.6	5.0	19.8	-	-	-	-	318.2	
111	4	1035	MA27-c		2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(18.5)	7.2	4.7	-	-	-	-	-	178.2	

第111図 大洞C₁式 浅鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
112	1	1216-2	MA28-c	2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(18.1)	6.7	5.1	-	-	-	-	-	-	149.0	
112	2	1061	MA28-c	2号	C ₁	漆塗り	浅鉢	ボ-ル(円)	18.3	7.2	4.8	-	-	-	-	-	-	145.3	全面に漆塗り
112	3	3225	MA26-c	2号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	17.2	5.9	4.0	-	-	-	-	-	-	249.4	
112	4	1183	MA28-b	2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	16.3	6.5	4.0	-	-	-	-	-	-	314.7	

第112図 大洞C₁式 浅鉢 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
113	1	1053	MA28-d		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(15.3)	4.7	3.1	-	-	-	-	-	124.8	
113	2	3433	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(18.7)	6.2	4.0	(19.0)	-	-	-	-	255.3	補修孔1対
113	3	368-2	LQ36-a		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(18.5)	8.0	(4.0)	(19.0)	-	-	-	-	173.2	
113	4	3396	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(16.2)	7.0	3.4	(17.4)	-	-	-	-	145.1	
113	5	3341	MA26-c		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	17.8	7.0	5.2	18.2	-	-	-	-	327.3	
113	6	3350	MA29-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	19.0	7.0	4.4	19.4	-	-	-	-	300.3	補修孔2対

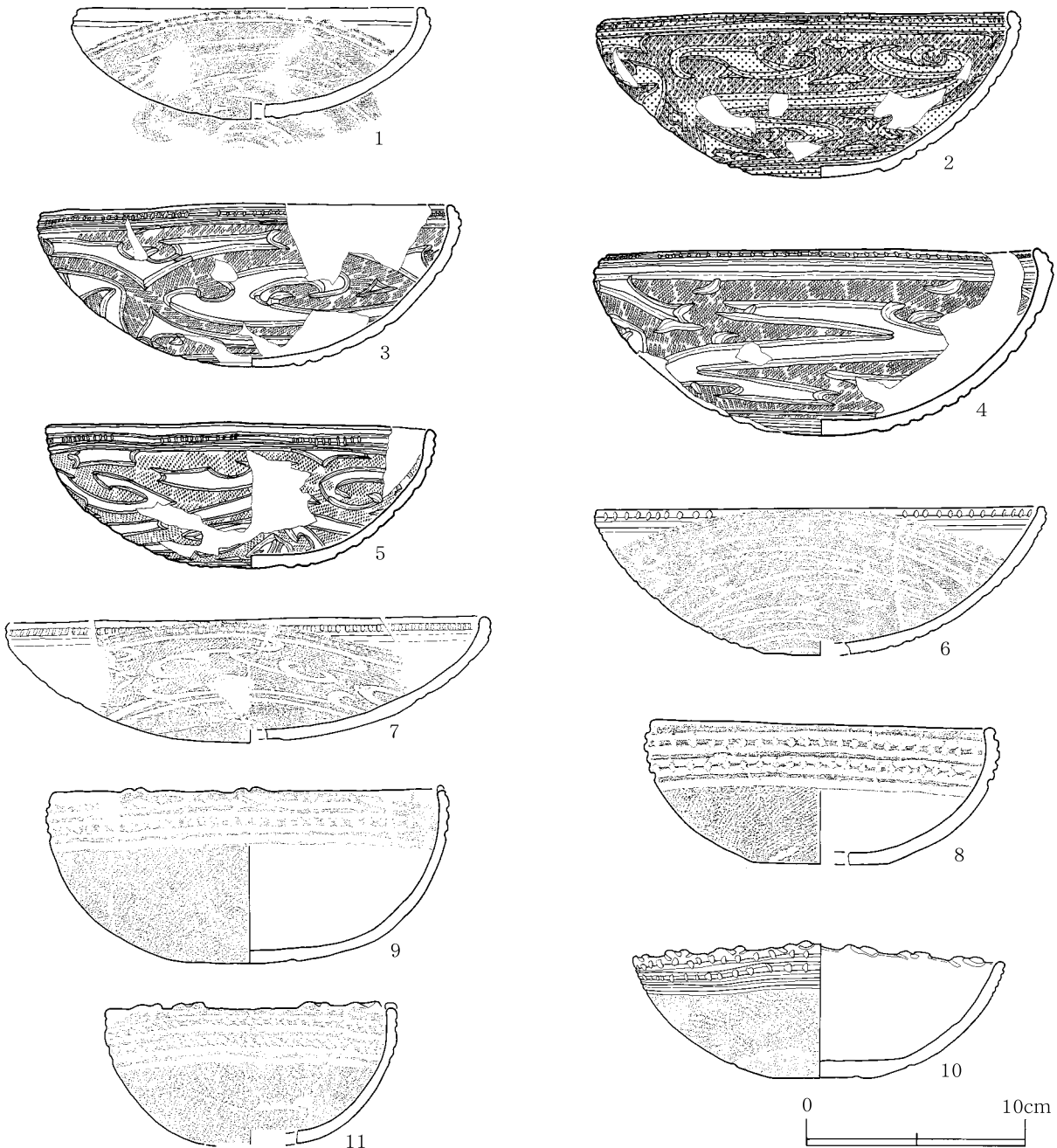
第113図 大洞C₁式 浅鉢 (5)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
114	1	3344	MA28-c		2号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(17.2)	7.3	4.6	(17.6)	-	-	-	-	171.0	
114	2	3512	MI35		4号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(20.4)	8.0	(4.4)	-	-	-	-	-	194.9	
114	3	3348	MA28-b		2号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	18.7	5.8	3.3	-	-	-	-	-	247.7	
114	4	3455	LP35-b		1号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(20.8)	(7.1)	(4.6)	-	-	-	-	-	164.8	
114	5	1114	MB28-d		2号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	19.6	8.4	5.2	20.6	-	-	-	-	193.0	
114	6	1063-2	MA28-c		2号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	17.4	5.1	欠	18.0	-	-	-	-	194.0	
114	7	3334	MA28-c		2号	C1	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(17.6)	6.7	(5.4)	(18.0)	-	-	-	-	193.6	

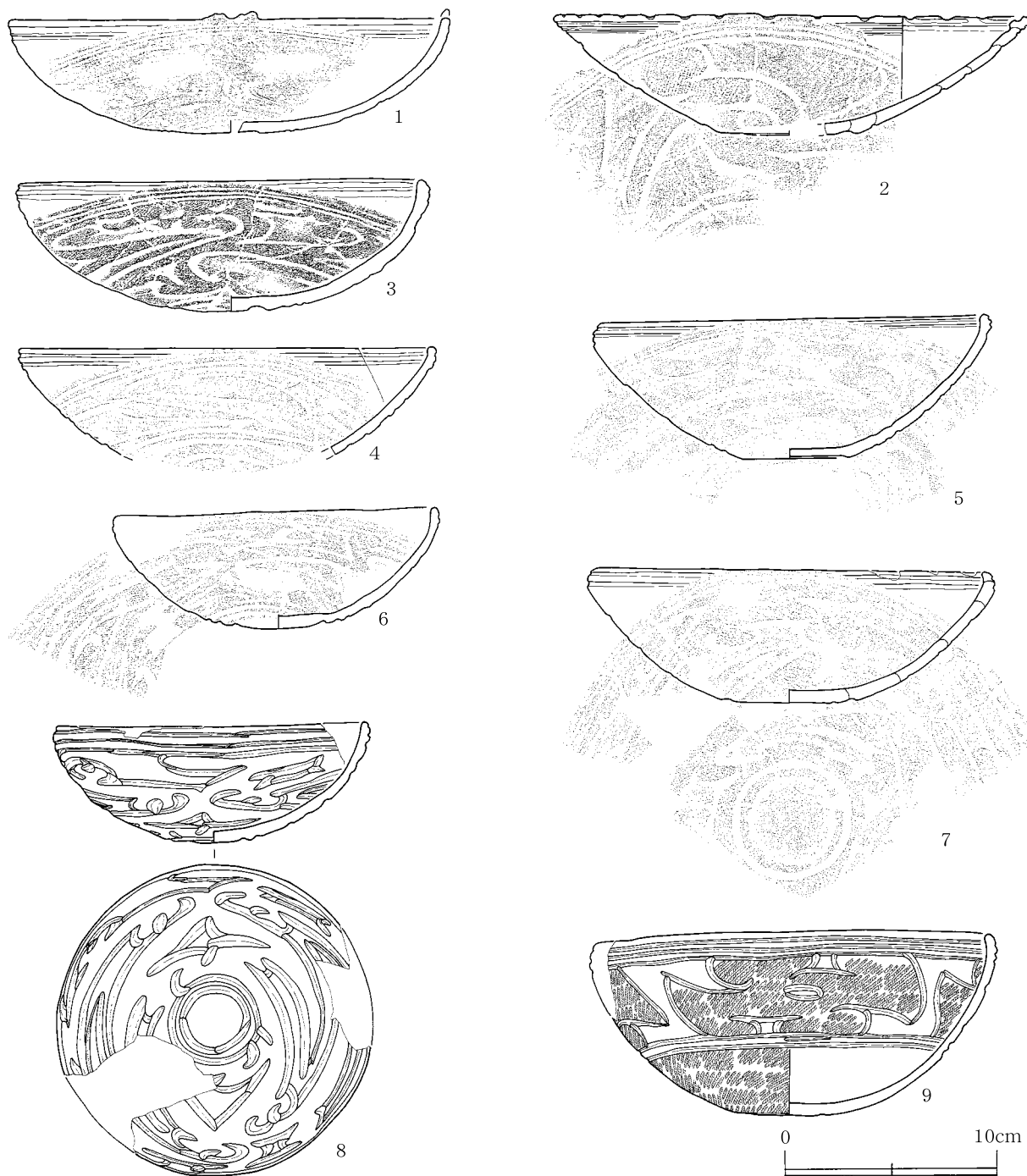
第114図 大洞C1式 浅鉢 (6)

第2章 捨て場と遺物



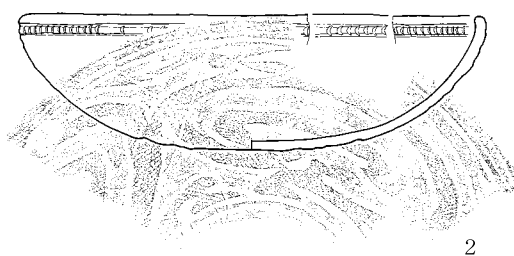
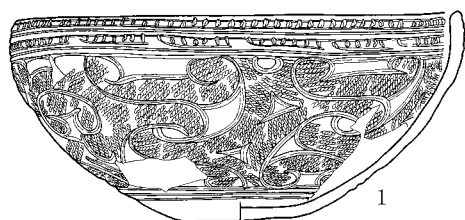
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
115	1	3415	MA26-c		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(15.7)	5.0	(2.8)	16.2	-	-	-	-	227.6	
115	2	3158	LP33-c		1号	C ₁	漆塗り	浅鉢	ボール(円)	18.7	7.5	5.8	19.2	-	-	-	-	236.6	
115	3	3288	MA29-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	18.6	7.4	4.4	19.2	-	-	-	-	245.5	
115	4	3290	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	19.5	8.4	5.6	20.7	-	-	-	-	364.4	
115	5	3246	LO34		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	17.6	6.6	4.0	-	-	-	-	-	165.9	
115	6	3293	LQ35-b		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(20.4)	(6.6)	(4.6)	-	-	-	-	-	125.6	
115	7	3317	LO35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(21.7)	5.5	(3.2)	-	-	-	-	-	147.7	
115	8	3242	LQ35-a		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	15.6	6.5	(6.0)	16.2	-	-	-	-	334.9	
115	9	3442	LQ33-c		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	17.7	8.0	4.1	18.1	-	-	-	-	371.0	
115	10	3272	MB28-d		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	16.9	6.1	4.7	-	-	-	-	-	258.1	
115	11	3284	MA28-d		2号	C ₁	無	浅鉢		(13.2)	6.4	欠	-	-	-	-	-	150.2	

第115図 大洞C₁式 浅鉢 (7)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
116	1	3403	LR36-b		1号	C ₁	有	浅鉢	ボウル(円)	(20.5)	5.7	(2.6)	-	-	-	-	-	142.9	
116	2	3376	MB28-a		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(22.2)	5.6	(6.5)	-	-	-	-	-	258.9	
116	3	3380	MA28-d		2号	C ₁	無	浅鉢	ボウル(円)	19.0	6.0	3.5	19.3	-	-	-	-	327.3	
116	4	3435	MA28-c		2号	C ₁	有	浅鉢	ボウル(円)	(19.6)	5.0	欠	-	-	-	-	-	64.7	
116	5	3436	LQ35-a		1号	C ₁	無	浅鉢	ボウル(円)	18.6	6.6	5.0	-	-	-	-	-	213.2	
116	6	1040	MA28-a		2号	C ₁	無	浅鉢	ボウル(円)	15.2	5.5	4.3	-	-	-	-	-	119.8	
116	7	3329	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボウル(円)	(19.0)	6.2	5.0	-	-	-	-	-	272.6	
116	8	3171	LP35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボウル(円)	14.5	5.6	3.6	-	-	-	-	-	140.6	
116	9	630	LQ34-a		1号	C ₁	無	浅鉢	ボウル(円)	(18.5)	8.6	4.3	(19.0)	-	-	-	-	223.0	

第116図 大洞C₁式 浅鉢 (8)



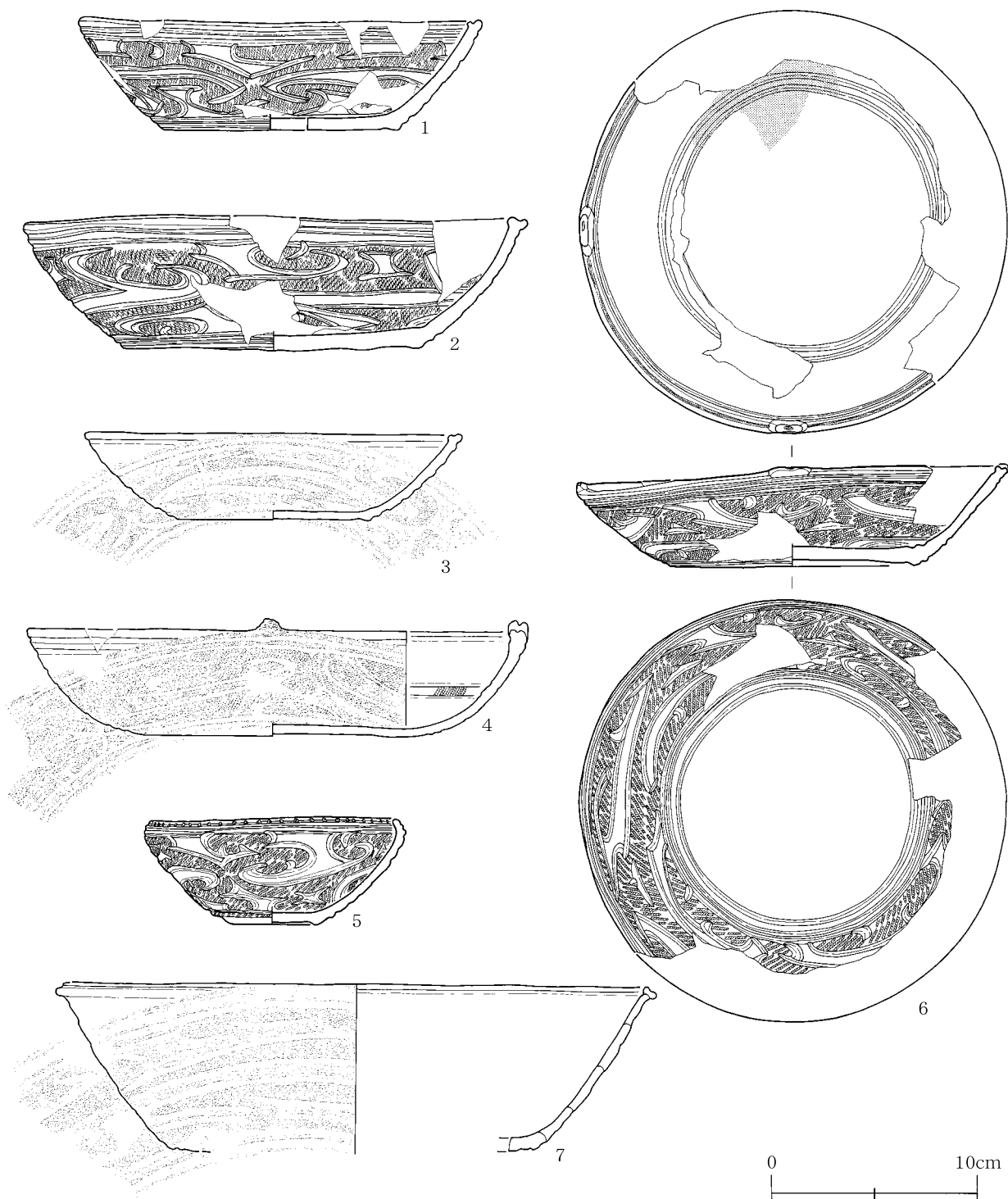
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
117	1	3227	MB28-d		2号	C _i 古	無	浅鉢	ボール(円)	17.8	8.2	4.5	-	-	-	-	-	179.6	
117	2	3315	LO36-a		1号	C _i 新	無	浅鉢	ボール(円)	(18.4)	6.3	(4.6)	-	-	-	-	-	184.8	
117	3	3303	MA28-c		2号	C _i 新	無	浅鉢	ボール(円)	21.6	8.1	5.3	-	-	-	-	-	287.6	

第117図 大洞C_i式 浅鉢 (9)

このことから、第1群の第130図1・3～7のような頸部に鉢巻状X字状文や入組文を施し、注口下に沈線で描かれる文様モチーフが単純な段階から、第130図2や第131図の第2群への変遷を想定できる。

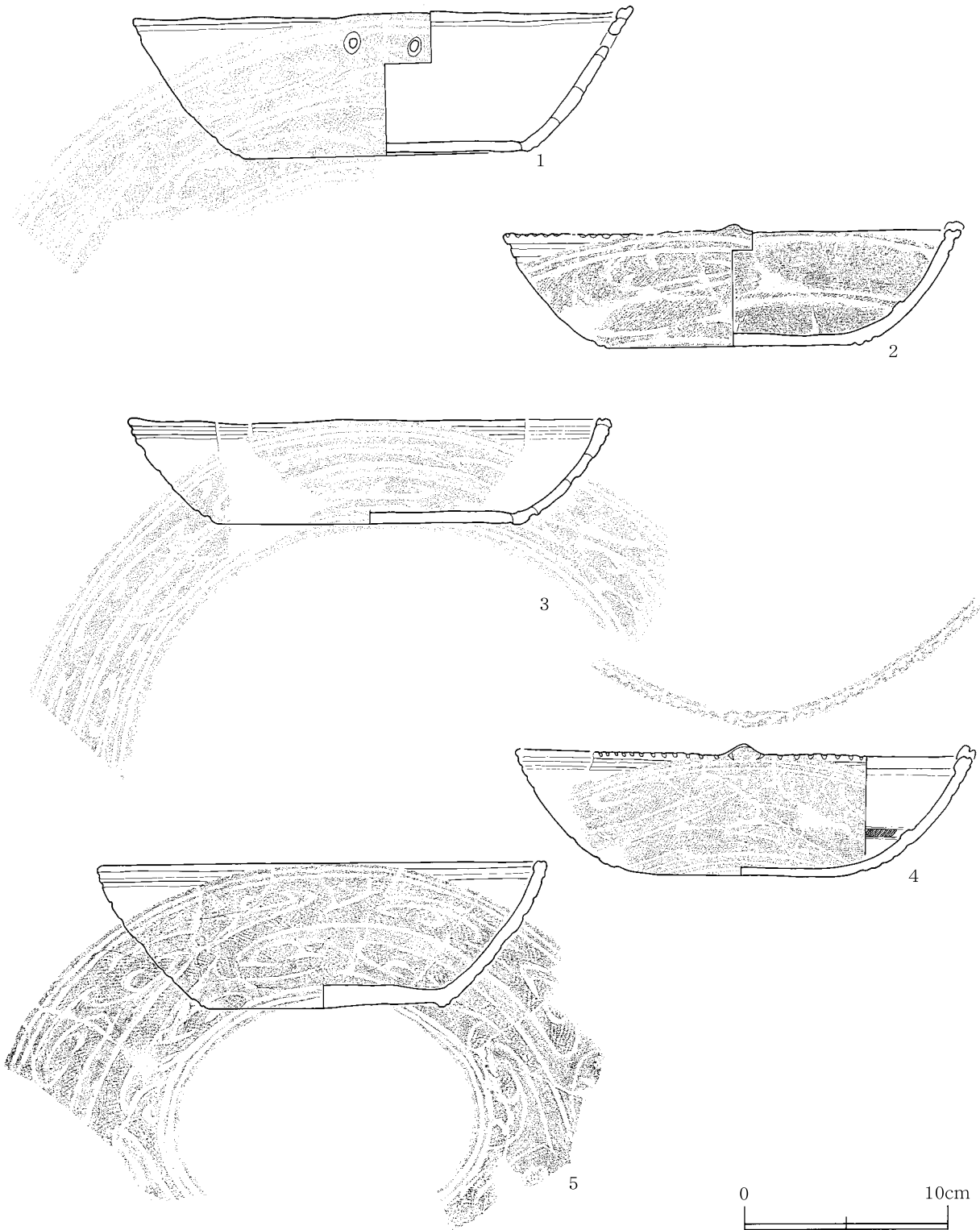
壺

器形で大きく4類型に分類できる。第1群は、胴部上半に最大径を持つ球胴平底の大形壺(第132図7・11、第133図1、第134図13、第135図1・5・8)である。第2群は、花瓶形の長胴壺(第132図



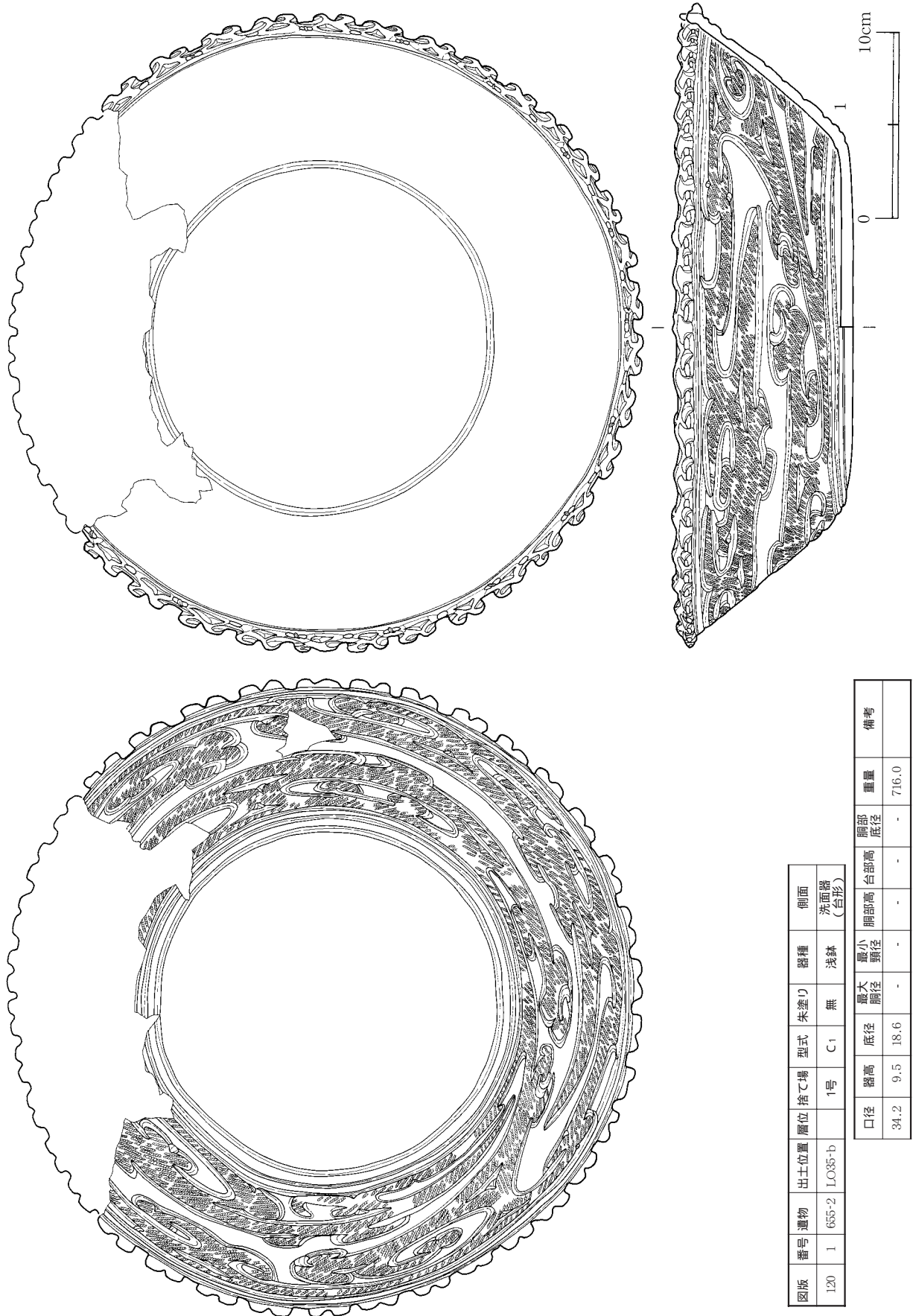
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
118	1	3235	MA26-c		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	19.5	5.6	11.3	-	-	-	-	-	286.1	
118	2	3101	MA28-c		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	24.3	6.5	14.2	-	-	-	-	-	578.5	
118	3	3280	LO36-b		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(18.2)	4.2	(9.4)	-	-	-	-	-	121.5	
118	4	492-2	LO35-a		1号	C ₂	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(24.1)	5.7	(14.8)	-	-	-	-	-	203.6	
118	5	1258	MA28-c		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	12.1	5.3	4.0	12.5	-	-	-	-	128.6	
118	6	441	LO34		1号	C ₁	有	浅鉢	洗面器 (台形)	(20.9)	4.8	11.6	-	-	-	-	-	233.8	
118	7	3320	LO34-c		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(29.0)	8.0	(17.2)	-	-	-	-	-	197.0	

第118図 大洞C₁・C₂式 浅鉢 (10)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
119	1	3330	LO35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器(台形)	24.6	7.1	14.0	-	-	-	-	-	237.3	補修孔1対
119	2	3388	LO34-d		1号	C ₂	無	浅鉢	洗面器(台形)	(22.4)	6.0	(12.4)	-	-	-	-	-	370.4	
119	3	3453	LO33-c		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器(台形)	(23.7)	5.2	15.0	-	-	-	-	-	400.0	
119	4	497	LN35-b		1号	C ₂	無	浅鉢	ボウル(円)	(22.5)	6.5	(11.4)	-	-	-	-	-	189.8	
119	5	578-2	LO36-a		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器(台形)	(22.0)	7.1	(11.7)	-	-	-	-	-	393.2	

第119図 大洞C₁・C₂式 浅鉢 (11)

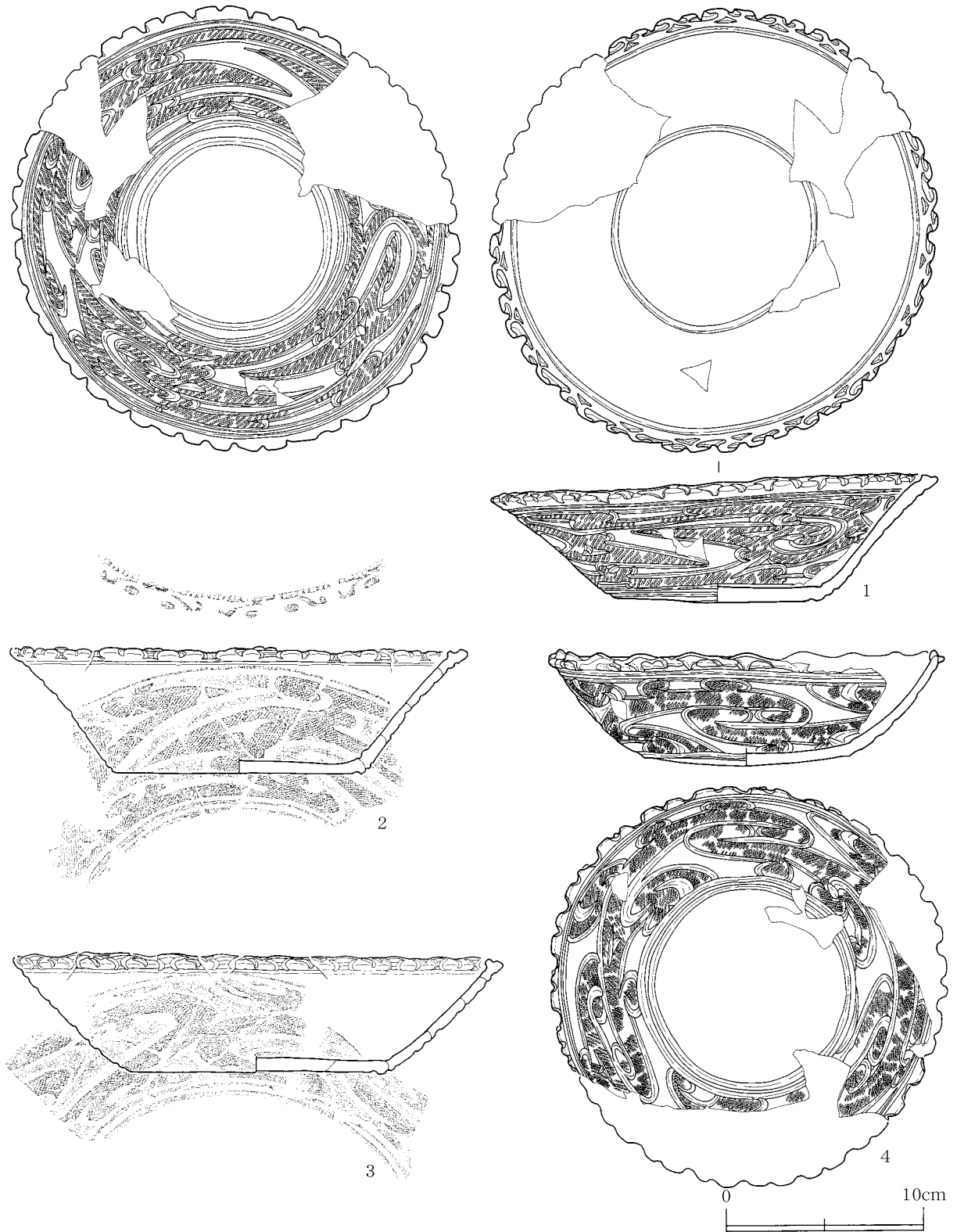


第120図 大洞C1式 浅鉢 (12)



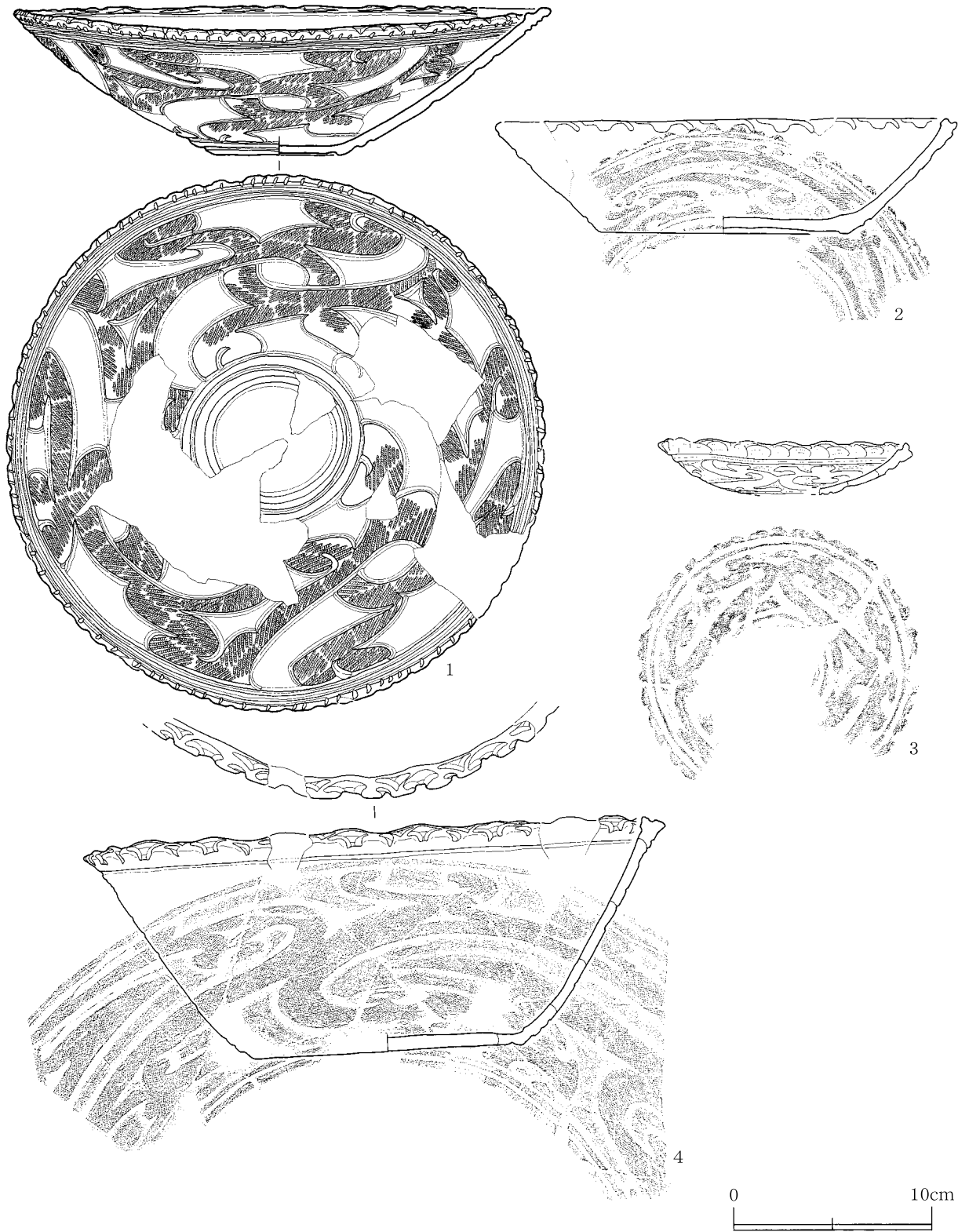
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
121	1	3223	LQ35-a		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	27.7	9.3	(7.0)	-	-	-	-	-	638.5	
121	2	3124	LP35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	16.5	5.3	9.0	-	-	-	-	-	216.9	
121	3	3219	MA26-c		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	21.6	7.6	10.3	-	-	-	-	-	270.1	
121	4	632-1	LP34-b		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	長径 16.0 短径 12.1	4.3	丸	-	-	-	-	-	95.2	楕円形
121	5	1231	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(20.3)	5.4	11.7	-	-	-	-	-	208.4	
121	6	159	LP35-c		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	22.4	5.8	11.5	-	-	-	-	-	403.1	
121	7	143	LP34-c		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	27.8	9.3	(11.0)	-	-	-	-	-	464.9	

第121図 大洞C₁式 浅鉢 (13)



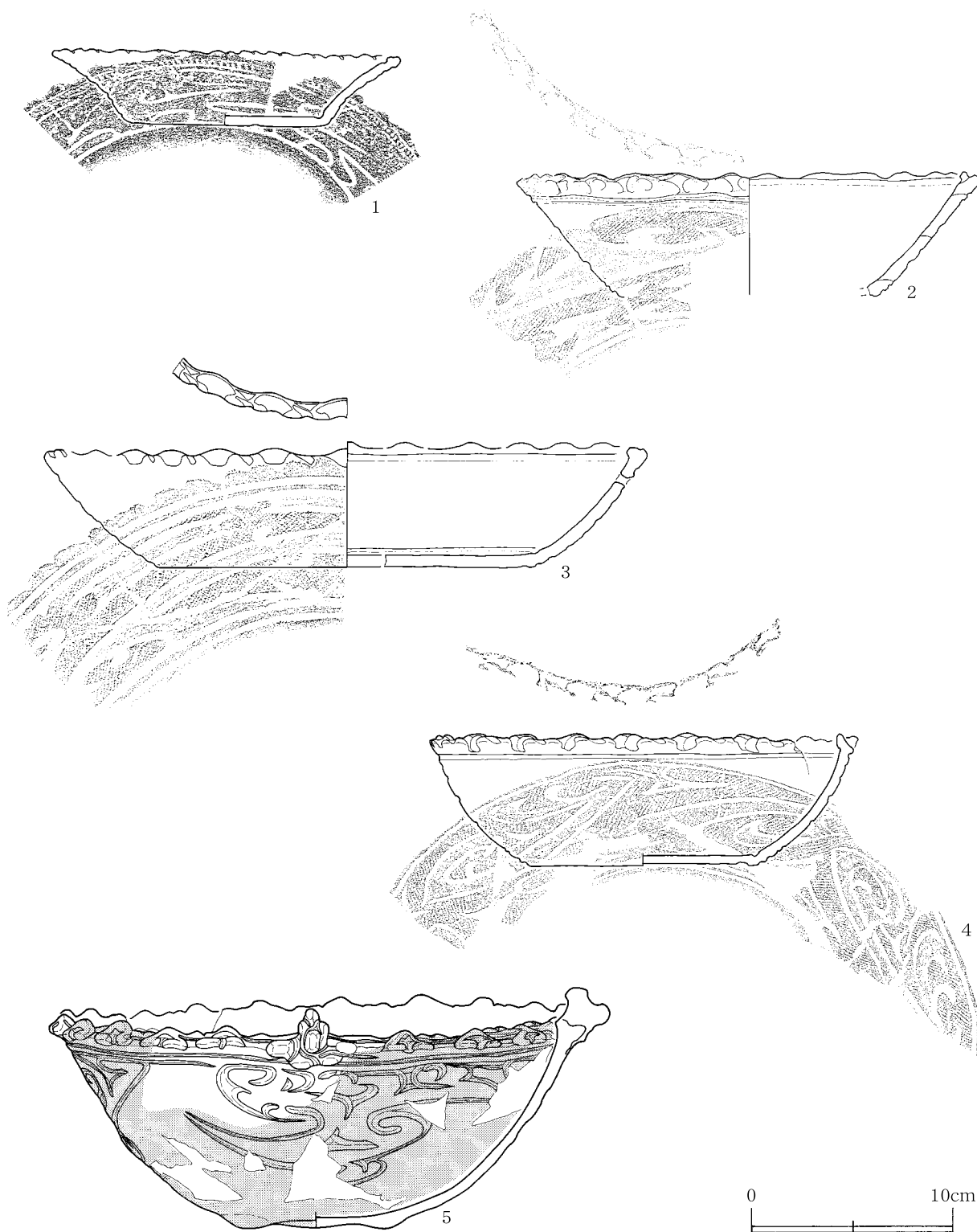
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
122	1	3090	MA28-a	2号	C1	無	浅鉢	洗面器 (台形)	22.7	6.4	11.1	-	-	-	-	-	-	407.6	
122	2	149	LP34-a	1号	C1	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(23.0)	(6.3)	(12.4)	-	-	-	-	-	-	109.4	
122	3	376-3	LQ35-d	1号	C1	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(24.6)	5.7	(12.8)	-	-	-	-	-	-	133.0	
122	4	3226	MA25-d	2号	C1	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(19.9)	6.0	10.3	-	-	-	-	-	-	300.1	

第122図 大洞C1式 浅鉢 (14)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
123	1	368-1	LQ36-a		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	27.1	7.5	6.5	-	-	-	-	-	446.9	
123	2	594-2	LO36-b		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(23.1)	5.8	(12.5)	-	-	-	-	-	399.0	
123	3	3395	LQ35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	12.9	2.7	欠	-	-	-	-	-	96.3	
123	4	376-2	LQ35-d		1号	C ₁	有	浅鉢	洗面器 (台形)	(29.2)	11.1	(13.6)	-	-	-	-	-	332.5	底部破口朱

第123図 大洞C₁式 浅鉢 (15)



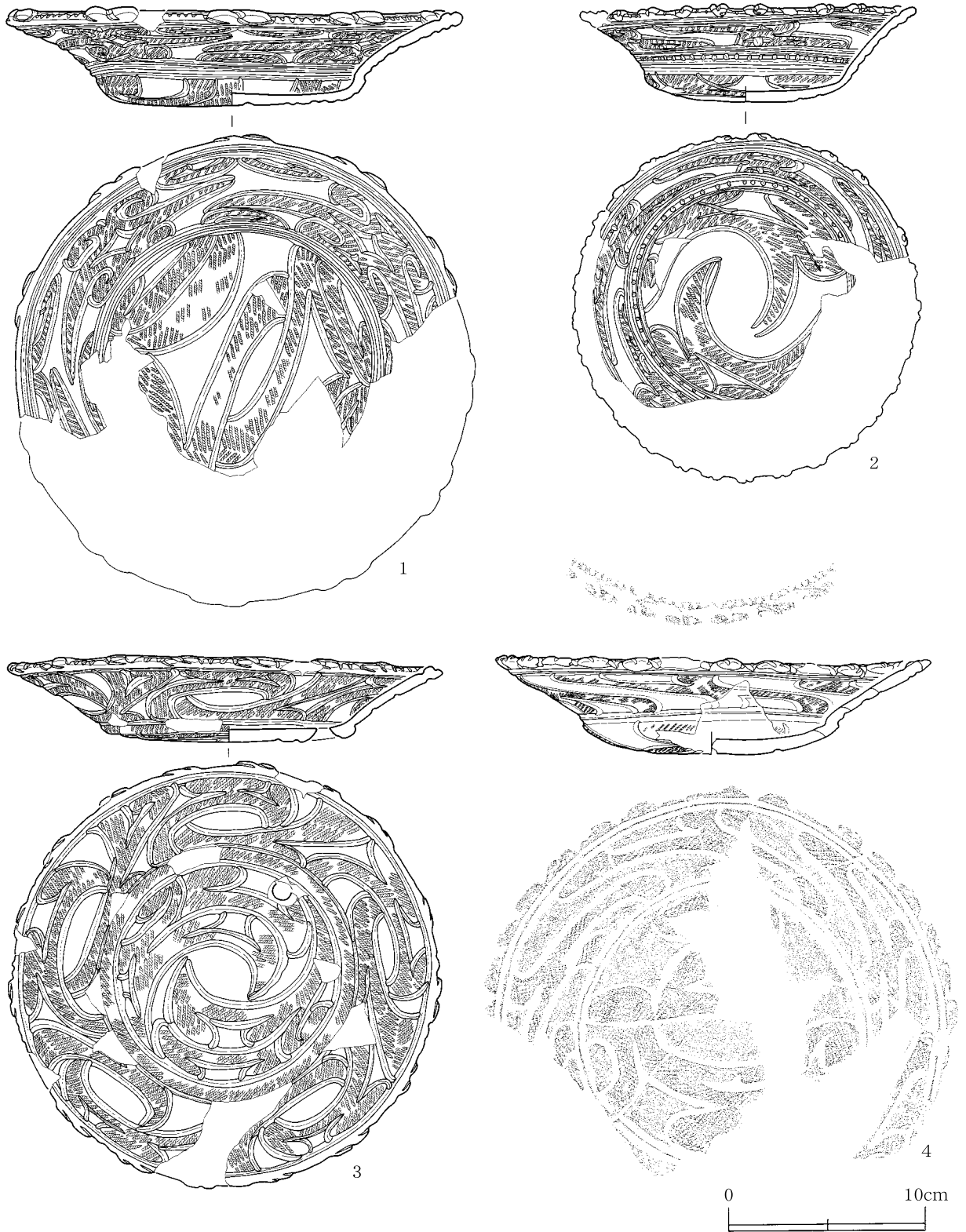
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
124	1	3397	LQ34-d		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(17.1)	3.5	(9.5)	-	-	-	-	-	173.7	
124	2	1064	MA28-c		2号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(23.0)	(6.1)	(12.6)	-	-	-	-	-	84.6	
124	3	653	LO35-a		1号	C ₂	有	浅鉢	洗面器 (台形)	29.7	5.8	18.5	-	-	-	-	-	682.0	補修孔1対
124	4	472-1	LO35-b		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	21.0	6.4	11.0	-	-	-	-	-	202.8	
124	5	1068	MA28-c		2号	C ₁	有	浅鉢	洗面器 (台形)	26.4	11.7	7.3	-	-	-	-	-	736.4	四脚、補修孔 2対

第124図 大洞C₁・C₂式 浅鉢 (16)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
125	1	212	LQ34-a		1号	C ₁	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(45.0)	(9.1)	(11.0)	-	-	-	-	-	2200.0	

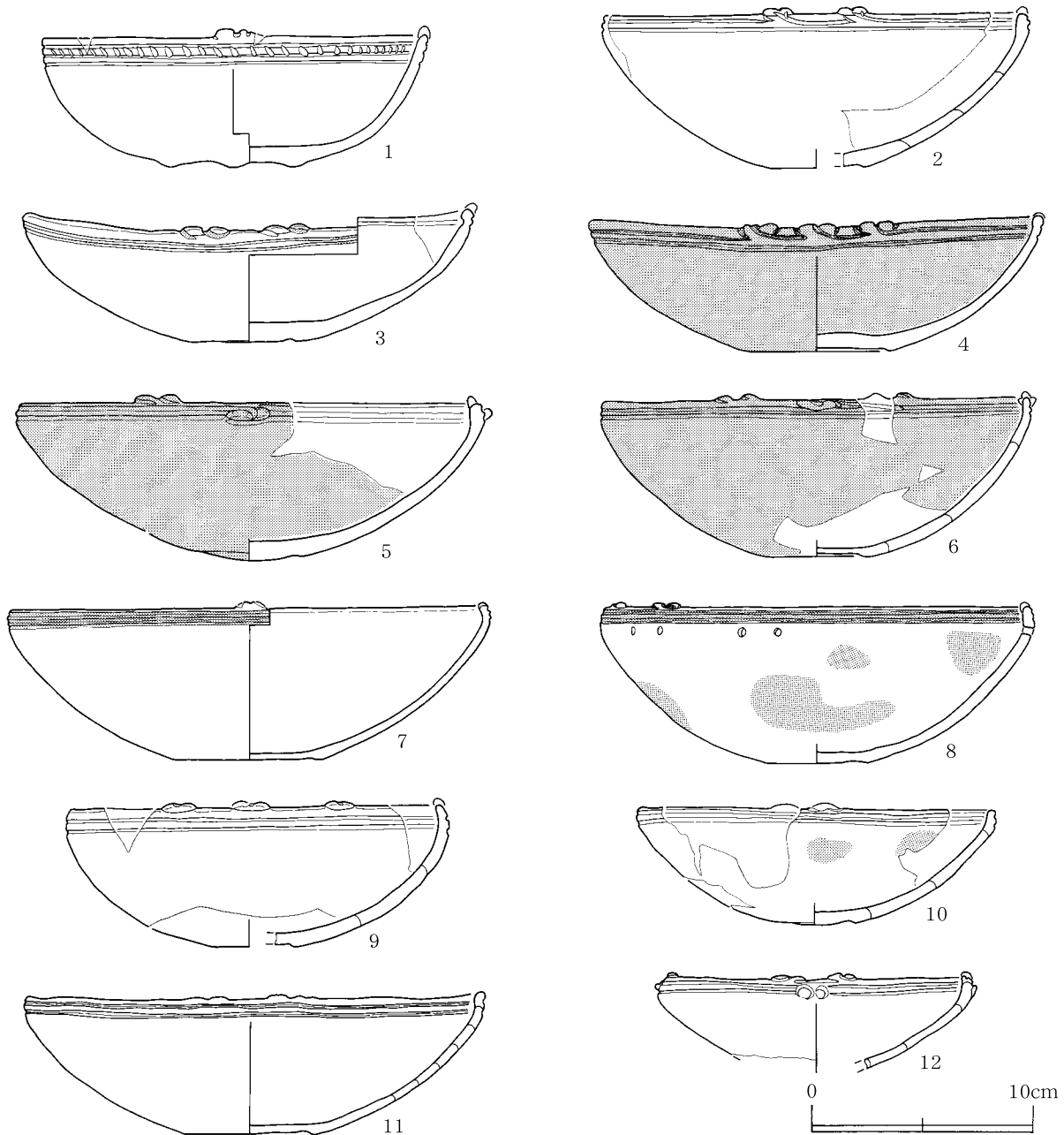
第125図 大洞C₁式 浅鉢 (17)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
126	1	1284	MA28-c		2号	C ₁	無	浅鉢	屈曲	(23.0)	4.8	(12.0)	-	-	-	-	-	235.2	
126	2	1178	MA28-a		2号	C ₁	無	浅鉢	屈曲	(17.0)	4.9	(10.2)	-	-	-	-	-	134.2	
126	3	1235	MC27-c		2号	C ₁	無	浅鉢	屈曲	21.8	4.3	12.8	-	-	-	-	-	283.8	穿孔1ヶ所
126	4	3319	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	屈曲	(21.8)	4.9	丸	-	-	-	-	-	221.6	

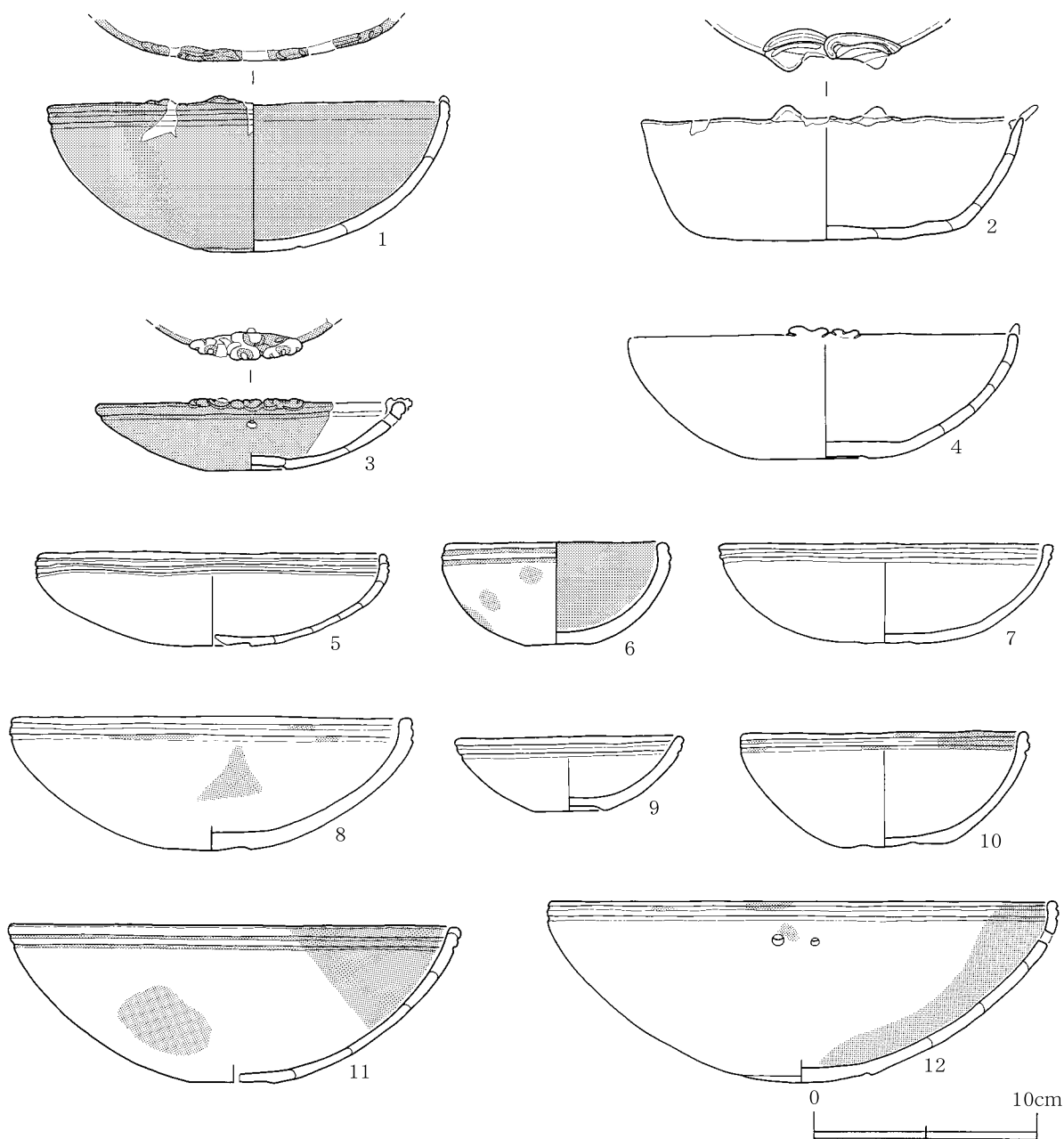
第126図 大洞C₁式 浅鉢 (18)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
127	1	3122	LS33-a		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	17.2	5.8	6.0	-	-	-	-	-	201.6	四脚
127	2	3401	MA28-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(19.0)	7.1	(4.4)	-	-	-	-	-	204.7	
127	3	1261	MA28-c		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	(20.2)	5.9	5.0	-	-	-	-	-	297.7	
127	4	3096	MA28-b		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	20.4	6.0	6.3	-	-	-	-	-	329.0	
127	5	3359	MB28-d		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	(20.6)	7.4	(5.0)	(21.0)	-	-	-	-	358.3	
127	6	3384	MA26-c		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	19.2	7.3	4.5	-	-	-	-	-	268.1	
127	7	3241	LQ35-d		1号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	21.2	7.3	6.3	21.6	-	-	-	-	363.7	
127	8	1032	MA27-c		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	(19.0)	7.2	(4.5)	(19.5)	-	-	-	-	267.9	補修孔2対
127	9	3439	LO35-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	16.7	6.6	(4.4)	17.2	-	-	-	-	372.8	
127	10	3326	MA28-b		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	16.1	5.2	3.4	-	-	-	-	-	134.9	
127	11	3263	MA29-b		2号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	20.6	6.4	5.7	-	-	-	-	-	227.2	
127	12	3253	LP34-c		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	13.7	4.2	欠	14.1	-	-	-	-	140.7	

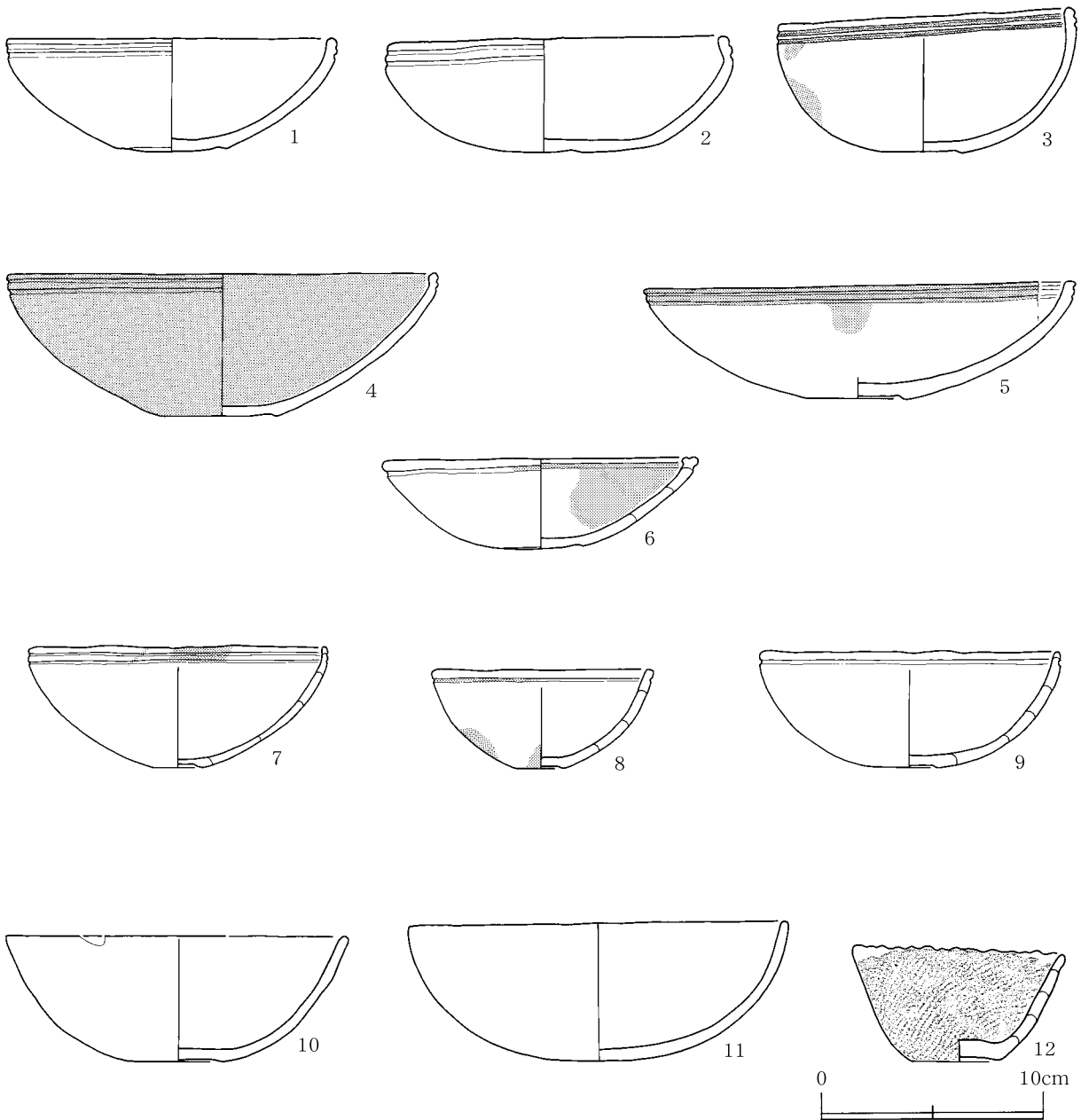
第127図 大洞C₁式 浅鉢 (19)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
128	1	3257	MA28-b		2号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	17.8	6.9	4.7	-	-	-	-	-	243.8	
128	2	3374	LS34-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	16.9	6.0	7.7	-	-	-	-	-	234.9	
128	3	3325	LR33-a		1号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	13.7	3.2	3.3	-	-	-	-	-	100.0	口縁部裝飾 穿孔1ヶ所
128	4	3265	MA28-c		2号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	17.3	5.9	3.2	-	-	-	-	-	218.8	
128	5	3324	LP35-b		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(15.4)	4.1	(3.6)	-	-	-	-	-	43.4	
128	6	3361	MA28-b		2号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	(9.8)	4.5	(2.8)	(10.2)	-	-	-	-	108.9	
128	7	3413	LQ34-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(14.8)	4.4	(2.8)	-	-	-	-	-	55.3	
128	8	3300	MA28-d		2号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	(17.5)	5.9	(3.4)	(7.8)	-	-	-	-	235.1	
128	9	3340	LQ34-b		1号	C ₁	無	浅鉢	ボ-ル(円)	(10.2)	3.3	(3.2)	-	-	-	-	-	30.4	
128	10	3355	MB27-d		2号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	12.8	5.1	4.7	-	-	-	-	-	141.3	四脚
128	11	3323	LP35		1号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	(20.0)	6.9	(3.4)	-	-	-	-	-	147.3	
128	12	3321	LQ35-b		1号	C ₁	有	浅鉢	ボ-ル(円)	(22.6)	(8.1)	(6.1)	-	-	-	-	-	156.4	補修孔1対

第128図 大洞C₁式 浅鉢 (20)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
129	1	3339	LQ33-d		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(14.7)	5.0	(4.8)	-	-	-	-	-	97.0	
129	2	3370	LO35-b		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	15.2	5.1	3.1	15.5	-	-	-	-	94.4	
129	3	1263	MB28-d		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	13.0	6.5	3.5	13.2	-	-	-	-	124.6	
129	4	3419	MA28-c		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	19.2	6.4	5.1	-	-	-	-	-	166.4	
129	5	3407	MA28-b		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	19.2	5.3	4.2	-	-	-	-	-	304.9	
129	6	3274	LO36-a		1号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	14.1	4.0	3.8	-	-	-	-	-	113.7	
129	7	3333	MA28-a		2号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	(13.3)	5.4	(2.3)	-	-	-	-	-	124.8	
129	8	3322	LP34-d		1号	C ₁	有	浅鉢	ボール(円)	(9.9)	4.4	(2.0)	-	-	-	-	-	42.8	
129	9	3318	LQ33-c		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(13.3)	5.2	(2.4)	-	-	-	-	-	90.9	
129	10	3379	LN36-b		1号	C ₁	無	浅鉢	ボール(円)	(15.2)	5.6	(4.1)	-	-	-	-	-	29.5	
129	11	3357	LP35-d		1号	C ₁	漆塗り	浅鉢	ボール(円)	(16.9)	6.1	丸	-	-	-	-	-	170.0	底部のみ漆残存
129	12	3108	MB38		3号	C ₁	無	浅鉢		9.4	5.1	3.9	-	-	-	-	-	110.5	

第129図 大洞C₁式 浅鉢 (21)

1・2、第137図1～8、第141図)である。第3群は、広口壺(第132図5・6・8、第133図2、第138図15、第139図6～9)である。第4群は、丸胴の小形壺(第132図3・4・9、第133図3～8、第134図1～12、第135図2～4・6・7、第136図1～12、第137図9～12、第138図1～14、第139図1～5・10～13、第140図)である。さらに文様や作りの精粗で精製・半精製・粗製の3種類に分けることが可能である。

第1群と第4群の精製品(第132・133図)は、原則として胴部上半部最大径よりも上を文様帯として割り付け、頸部下半にもB突起や入組文を施文する。頸部上半は磨きによる無文帯となり、口縁部との境界を1条の沈線で区画する。

口縁部は平縁を基本として、口唇部に小さなB突起を持つ。口縁は有段口縁となり、口縁部内面に1条の沈線を施している。胴部上半に施される文様は雲形文である。

また、第138・139図の様に全面を研磨して、赤彩を施すものもある。

第4群の半精製品(第133図3～8、第134図1～12)では、頸部と胴部の接点に1～2条の沈線を巡らし1単位の突起を貼り付ける例がある。

第2群は、胴部文様帯の幅がさらに広がり全面に施文される。精製品の第132図1・2の無文帯は頸部に残るだけとなっている。また、第141図1・2・5・6の様に全面が研磨され赤彩されるものであっても頸部文様帯に沈線が施される。

頸部文様帯の意識は強く、半精製・粗製品でも第137図3では突起の貼り付けと沈線施文が行われ、第137図7・8では沈線が施される。

第3群は、第133図2の様に四ツ足がつくものがある。また、第138図11・15の様に全面が研磨され、赤彩されるものでも、口縁は有段で口唇にはB突起が付く。

香炉

第91図2・3と第142図に示した。釣り手部の装飾は透かし穴を多用し、隆帯上を刻みによって連続刺突する。

以上、大洞C₁式期の器種組成は、浅鉢が急増しドンブリサイズの丸い物と、洗面器サイズで皿の機能を代用しているもの(陶磁器で言う盤に近い)ものの二者に器種分化している。台付鉢・鉢の比率も増加し、形状・サイズのばらつきが少ない。精製品であっても使用痕を残すものが多い。

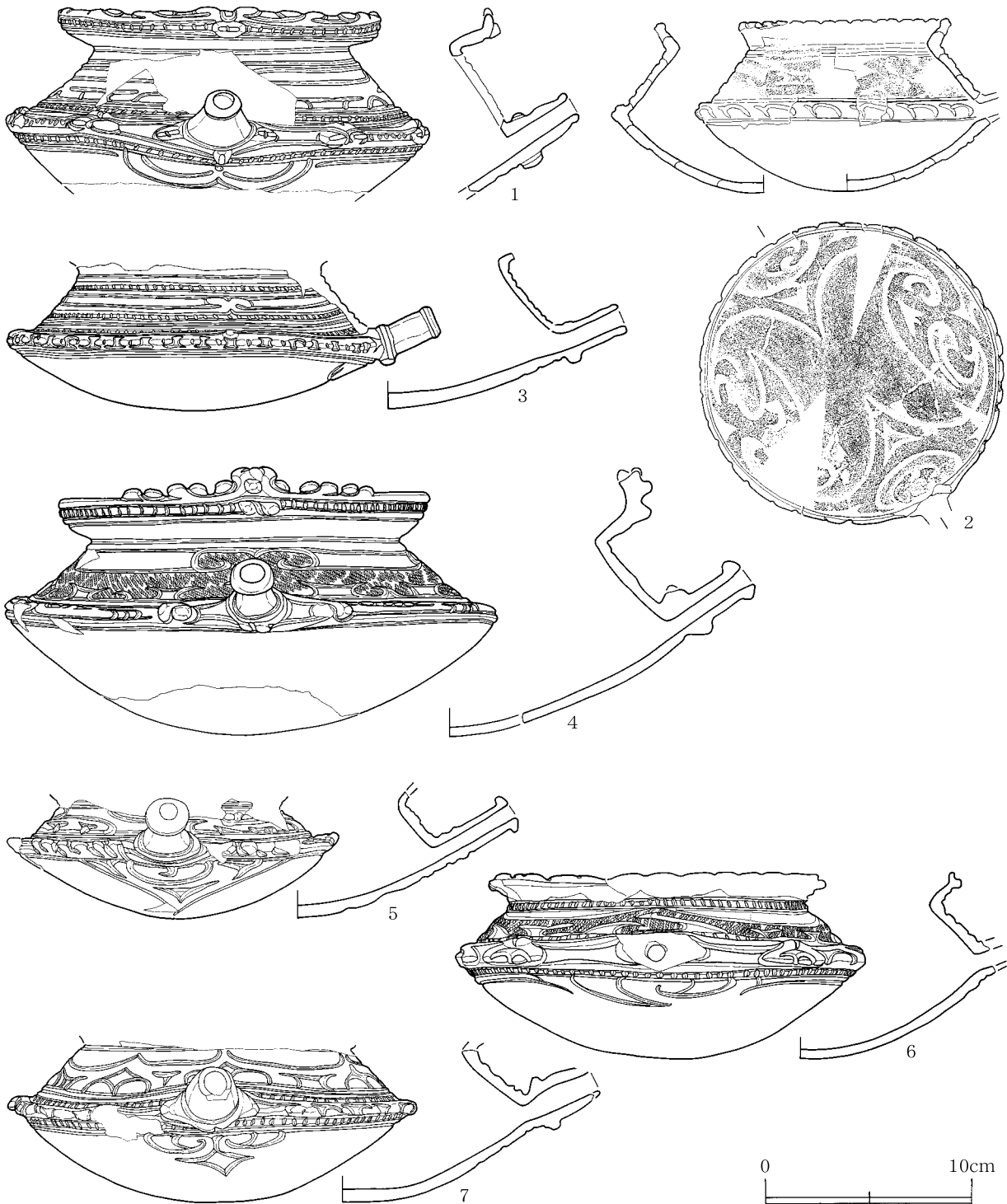
大洞B C式で多かった注口土器は非常に減少する。また、壺が増えるのは粗製品であっても頸部に突起をつけるものが目立ち、型式認定しやすいことが大きな原因と考えている。

5 大洞C₂式土器

大洞C₂式は、完形品14点、破片資料2点が出土した。完形品の内訳は、深鉢2点、台付鉢2点、浅鉢9点、鉢1点で構成される。破片資料の内訳は、精製鉢2点である。出土量が少ないのでまとめて記述する。

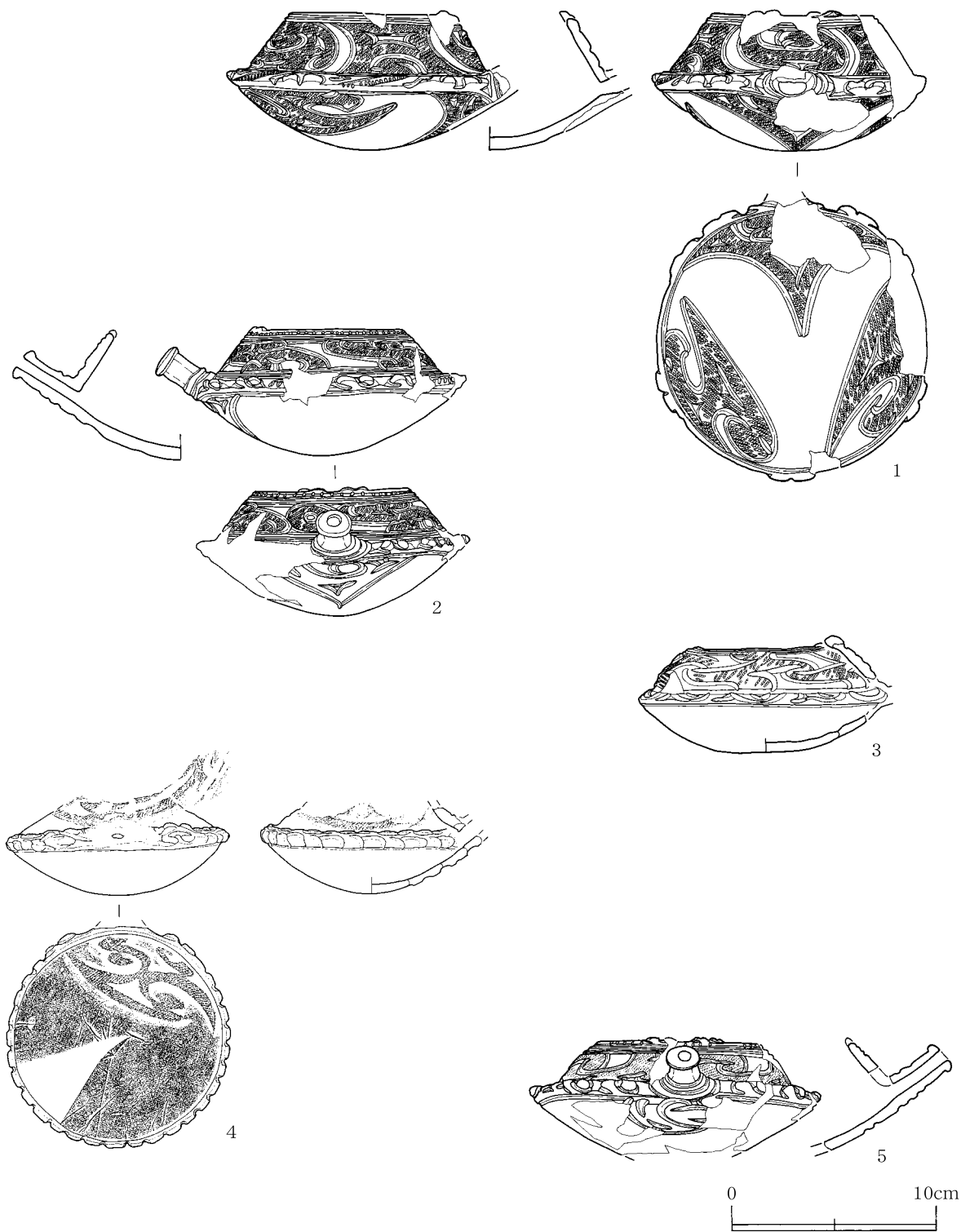
第101図5・6に台付鉢、第143図に深鉢、第124図3、第118図4、第119図2・4、第144図に鉢・浅鉢を示した。台付鉢・浅鉢胴部に施文される雲形文は、大洞C₁式に比べて入り組みが簡略化され、各単位のモチーフが独立する。

浅鉢は、側面形がボール形の第144図3・5～7と洗面器形の大形品1・2・4に分けられる。又、



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
130	1	369	LQ36-a		1号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	15.4	8.2	欠	20.2	12.2	-	-	-	361.4	
130	2	325	LP35-c		1号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	(10.1)	8.2	丸	14.4	(9.1)	-	-	-	156.4	
130	3	1190	MA29-b		2号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	欠	7.2	丸	(18.0)	(11.6)	-	-	-	343.5	
130	4	3213	LQ35-a		1号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	17.8	(12.9)	(丸)	23.6	14.8	-	-	-	588.9	
130	5	1098	MB27-d		2号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	欠	15.7	丸	(15.9)	(10.6)	-	-	-	215.4	
130	6	1038	MA28-a		2号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	(15.6)	(8.9)	丸	19.7	14.1	-	-	-	467.5	
130	7	142	LP34-a		1号	C ₁	無	注口	ツノカクシ 形	欠	7.7	丸	19.6	(12.8)	-	-	-	416.0	

第130図 大洞C₁式 注口土器 (1)



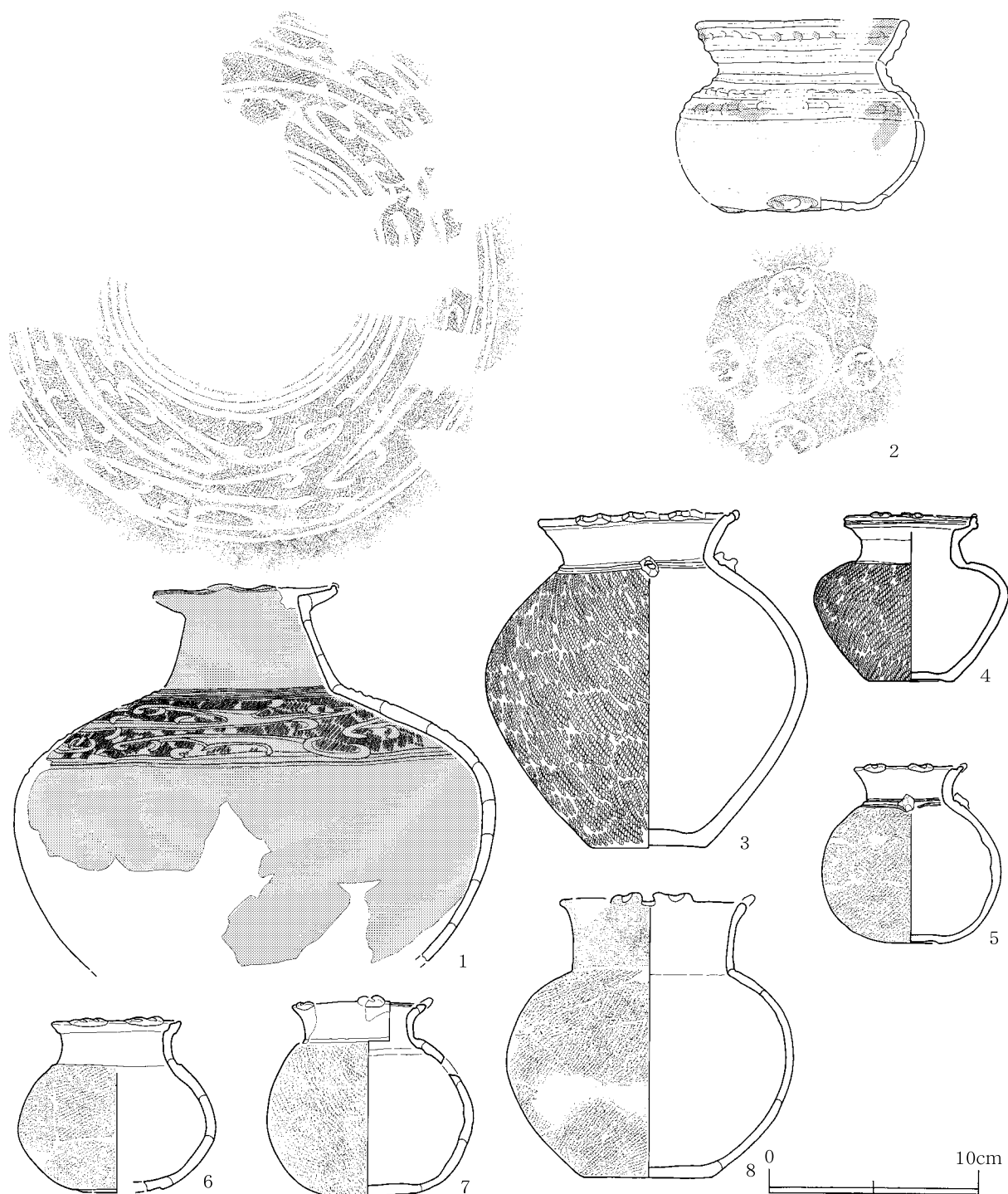
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
131	1	1290	MA28-c	2号	C ₁	無	注口			(9.0)	6.8	丸	(13.3)	-	-	-	-	202.0	
131	2	1243	MA28-b	2号	C ₁	無	注口			7.6	6.2	丸	(13.2)	-	-	-	-	167.0	
131	3	3366	MB28-a	2号	C ₁	無	注口			(7.2)	5.5	3.0	12.3	-	-	-	-	146.7	
131	4	431	LO33-b	1号	C ₁	無	注口			欠	4.2	丸	10.9	-	-	-	-	104.0	
131	5	3292	MA29-a	2号	C ₁	無	注口			(8.0)	5.6	欠	14.0	-	-	-	-	145.9	

第131図 大洞C₁式 注口土器 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
132	1	619	LQ36-a		1号	C ₁	有	壺		8.2	17.4	7.6	10.1	3.6	-	-	-	252.5	
132	2	1153	MA28-a		2号	C ₁	無	壺		5.2	10.6	6.3	8.1	4.0	-	-	-	182.5	
132	3	443	LQ36-d		1号	C ₁	有	壺		欠	8.7	3.0	8.6	2.6	-	-	-	114.5	
132	4	262	LQ35-a		1号	C ₁	有	壺		2.5	7.1	2.8	6.9	2.2	-	-	-	70.0	
132	5	1289	MA28-c		2号	C ₁	無	壺		10.2	11.0	丸	10.2	6.9	-	-	-	297.5	
132	6	1267	MA28-d		2号	C ₁	無	壺		欠	7.5	5.0	13.2	(10.8)	-	-	-	217.8	
132	7	3378	LP34-a		1号	C ₁	無	壺		(12.6)	19.7	欠	29.0	10.6	-	-	-	1126.1	
132	8	562	LQ34-b		1号	C ₁	無	壺		欠	8.5	5.7	13.6	8.0	-	-	-	195.4	
132	9	3026	LO34-b		1号	C ₁	無	壺		欠	8.2	2.0	8.5	4.2	-	-	-	145.7	穿孔1ヶ所
132	10	211	LQ33-d		1号	C ₁	無	壺		8.5	5.8	欠	-	(5.4)	-	-	-	71.0	口縁~頸部
132	11	3216	LQ33-d		1号	C ₁	有	壺		欠	19.9	6.1	(25.1)	(9.0)	-	-	-	852.7	

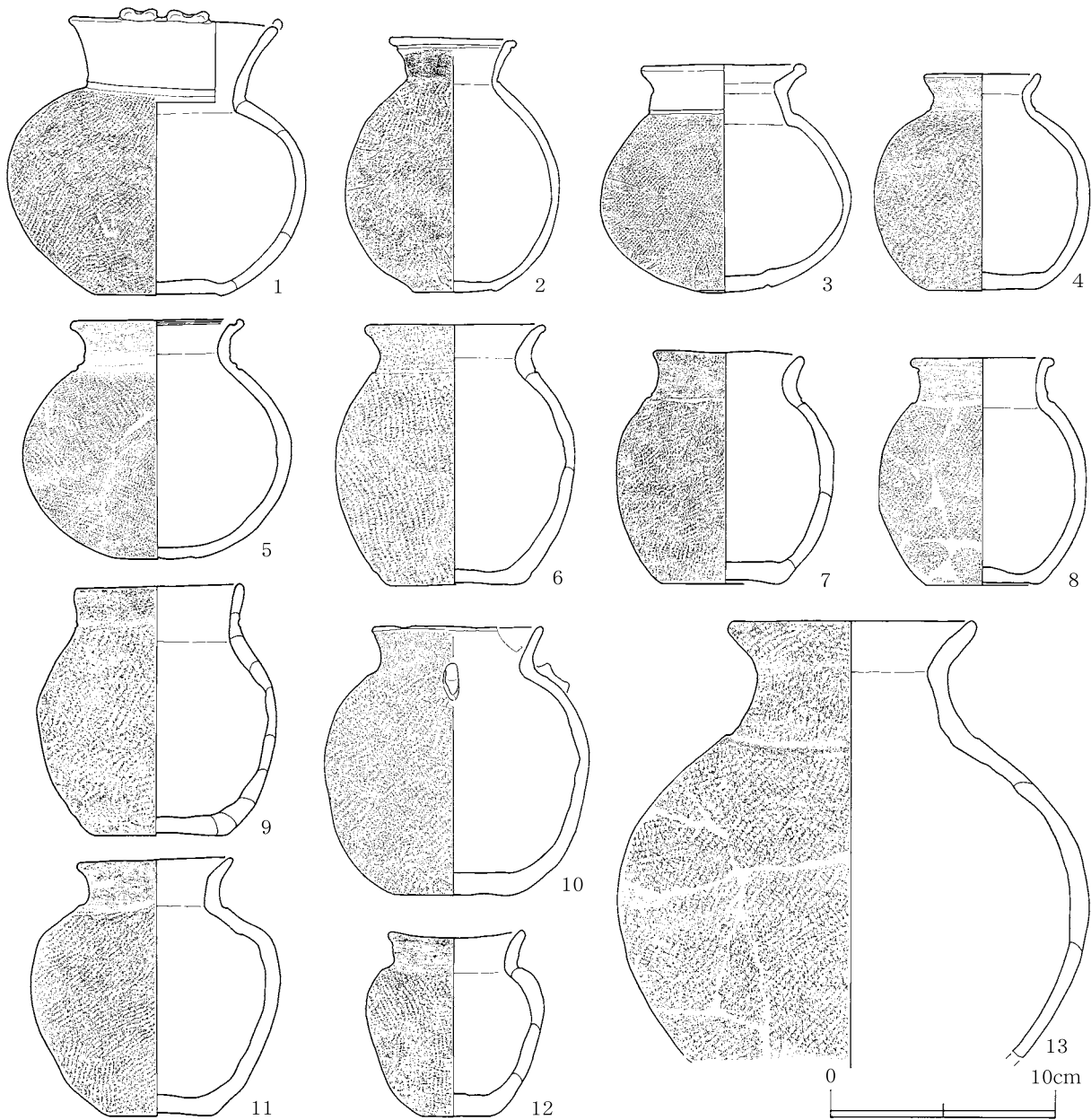
第132図 大洞C₁式 壺 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
133	1	1005	LT25-c		2号	C ₁	有	壺		(8.7)	18.1	欠	(22.9)	5.9	-	-	-	378.2	
133	2	3457	MB27-b		2号	C ₁	有	壺		(10.3)	9.2	6.5	(11.9)	(8.0)	-	-	-	232.4	四脚
133	3	1278	MA28-c		2号	C ₁	無	壺		9.6	16.1	5.5	15.3	7.2	-	-	-	577.4	
133	4	1208	MA28-c		2号	C ₁	無	壺		6.3	8.1	4.2	9.3	4.6	-	-	-	154.8	
133	5	1065	MA28-c		2号	C ₁	無	壺		5.3	8.5	2.6	8.5	4.1	-	-	-	131.2	
133	6	3447	LP34-d		1号	C ₁	無	壺		(6.1)	8.3	(4.2)	(9.4)	(5.2)	-	-	-	95.5	
133	7	1209	MA28-c		2号	C ₁	無	壺		(6.4)	(9.5)	3.7	(9.8)	(5.1)	-	-	-	109.8	
133	8	3143	LR33-c		1号	C ₁	無	壺		8.9	13.5	5.9	13.7	7.7	-	-	-	233.8	

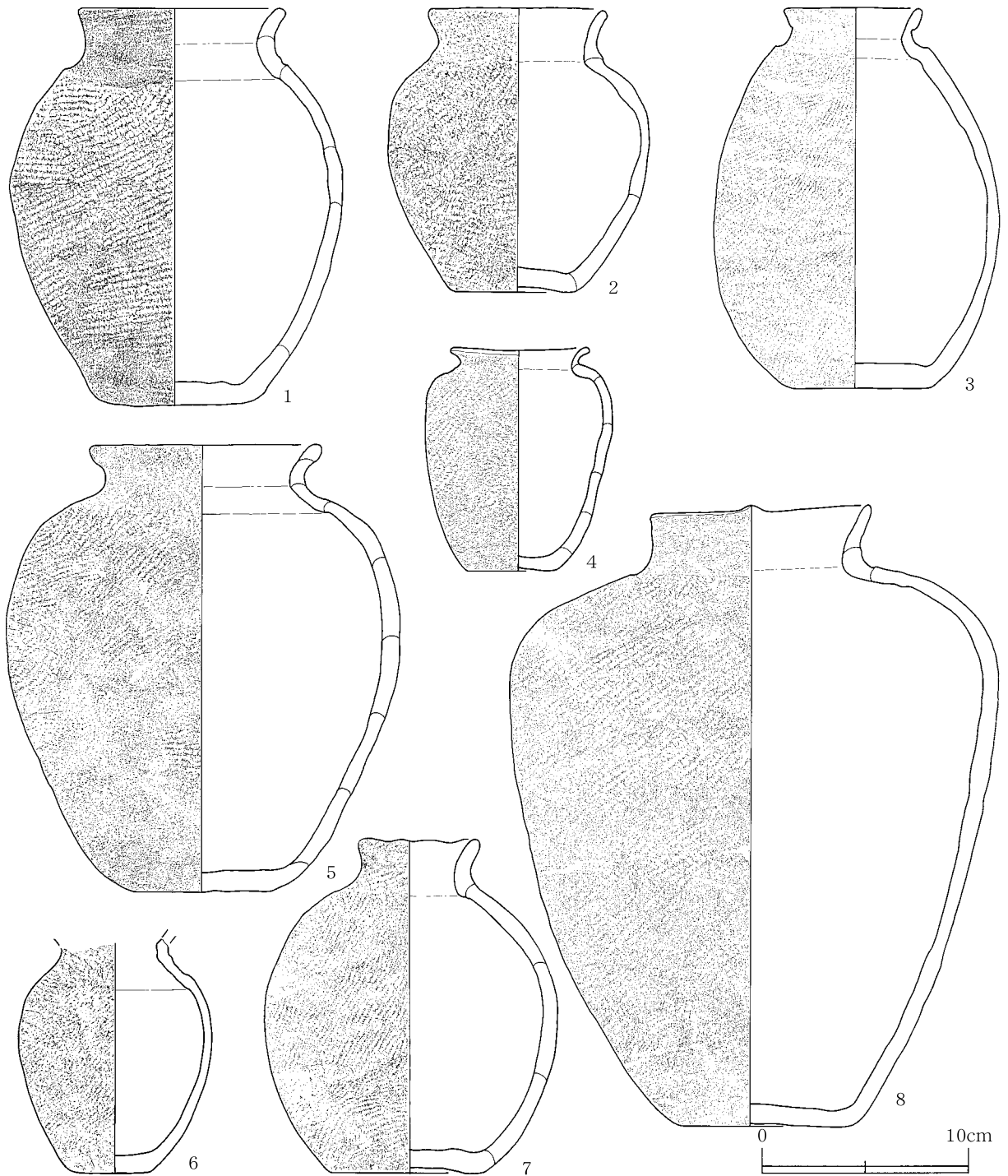
第133図 大洞C₁式 壺 (2)

第2章 捨て場と遺物



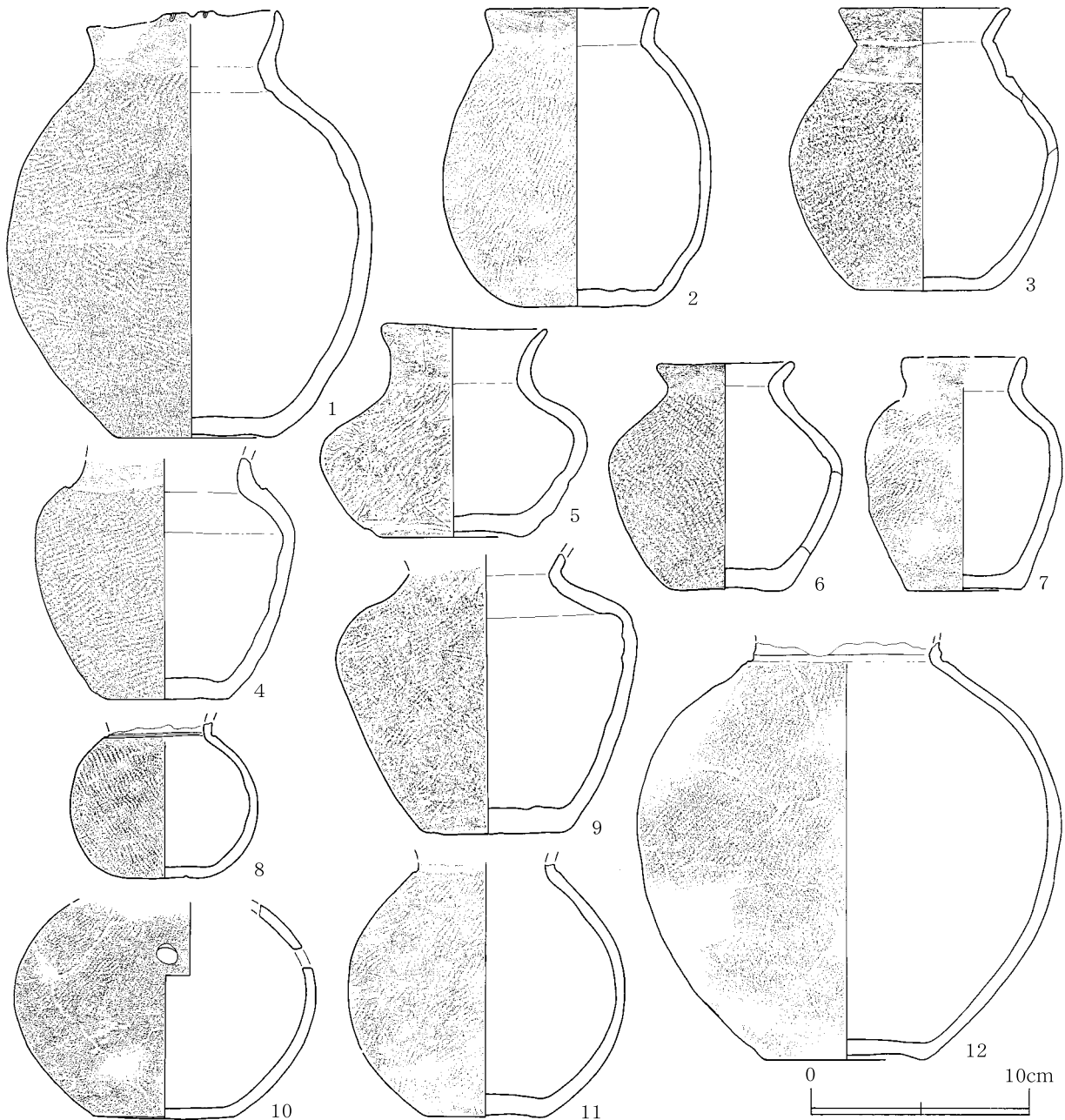
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
134	1	3035	LS34-b		1号	C ₁	無	壺		9.3	12.6	5.7	13.1	7.0	-	-	-	323.7	
134	2	221	LP34-b		1号	C ₁	無	壺		7.4	10.1	3.3	11.0	6.0	-	-	-	276.4	
134	3	1350	LQ35-c		1号	C ₁	無	壺		5.7	11.2	3.8	9.4	4.0	-	-	-	164.5	
134	4	1043-2	MA28-a		2号	C ₁	無	壺		(5.2)	9.5	4.4	(9.5)	(4.2)	-	-	-	180.6	
134	5	1229	MA28-d		2号	C ₁	無	壺		(7.6)	10.5	(3.8)	(11.8)	(6.4)	-	-	-	283.1	
134	6	641	LN35-b		1号	C ₁	無	壺		(7.9)	11.5	(5.7)	(10.5)	(6.7)	-	-	-	228.0	
134	7	1042	MA28-a		2号	C ₁	無	壺		(6.3)	10.0	(4.9)	(9.1)	(5.5)	-	-	-	180.6	
134	8	681	LO35-a		1号	C ₁	無	壺		7.6	11.8	5.4	11.7	6.7	-	-	-	450.2	
134	9	657	LO35-c		1号	C ₁	無	壺		6.7	10.3	5.2	9.6	6.0	-	-	-	305.6	
134	10	37	LR34-b		1号	C ₁	無	壺		7.4	11.0	5.8	10.5	7.1	-	-	-	326.4	
134	11	1273	MA28-b		2号	C ₁	無	壺		6.8	11.4	4.5	10.9	5.7	-	-	-	345.6	
134	12	642	LN35-b		1号	C ₁	無	壺		6.0	8.2	3.0	7.8	5.4	-	-	-	188.2	
134	13	374-1	LQ36-a		1号	C ₁	無	壺		(11.0)	19.3	欠	(20.9)	(8.4)	-	-	-	788.0	

第134図 大洞C₁式 壺 (3)



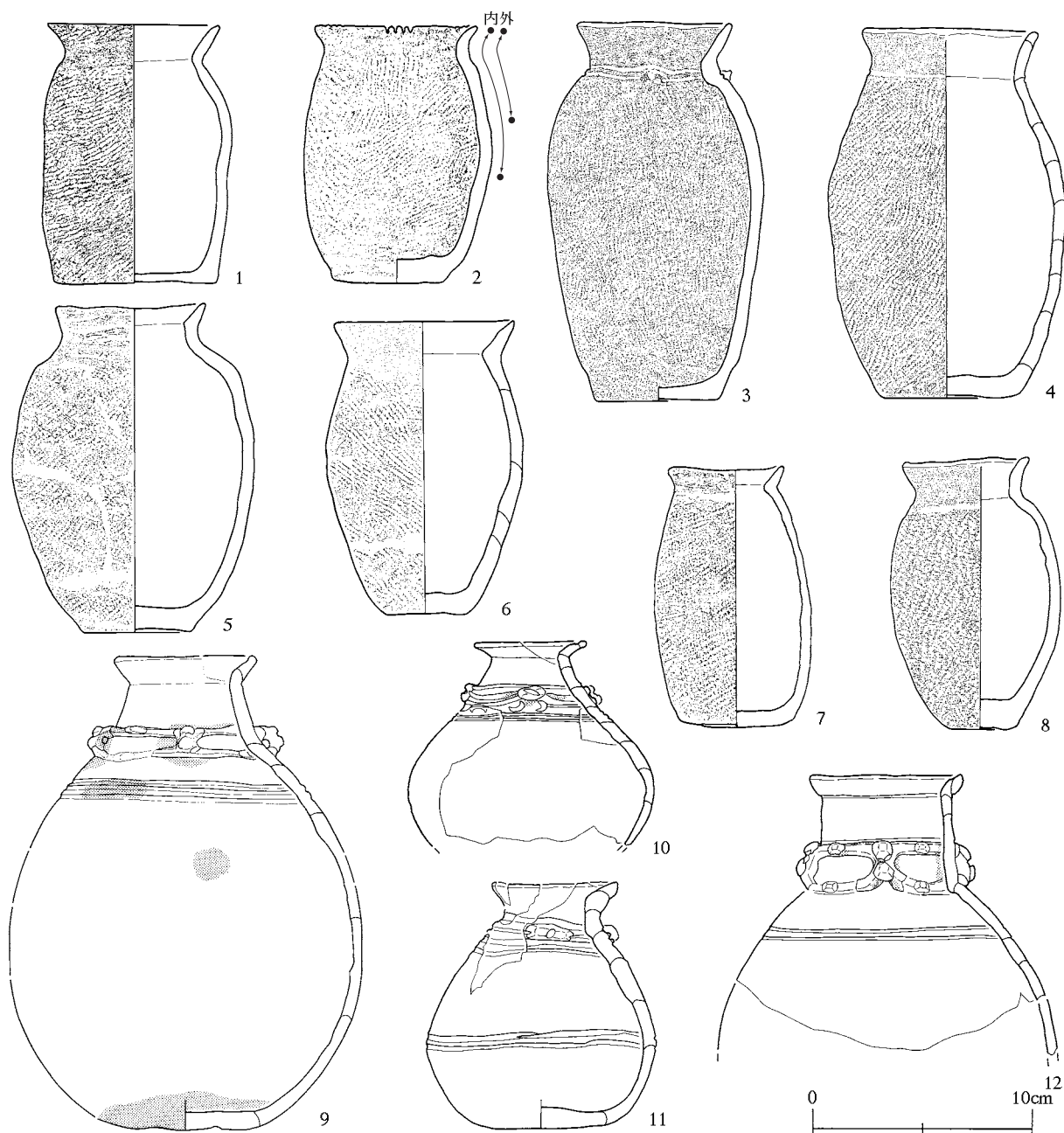
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
135	1	631	LP34-b		1号	C ₁	無	壺		10.0	19.0	6.8	16.0	9.1	-	-	-	1040.0	
135	2	654	LO35-a		1号	C ₁	無	壺		8.6	13.6	5.9	12.6	7.6	-	-	-	503.6	
135	3	3051	LP34		1号	C ₁	無	壺		6.6	18.3	7.0	13.7	5.7	-	-	-	788.0	
135	4	3084	LQ34-c		1号	C ₁	無	壺		(6.7)	10.8	4.3	9.0	5.7	-	-	-	219.0	
135	5	264	LQ34-d		1号	C ₁	無	壺		(11.1)	(21.4)	6.5	18.9	9.5	-	-	-	1200.0	
135	6	189	LQ35-c		1号	C ₁	無	壺		欠	11.2	3.5	9.3	5.1	-	-	-	191.2	
135	7	3044	LT34-a		1号	C ₁	無	壺		5.9	15.9	7.4	14.2	5.3	-	-	-	830.0	
135	8	428	LO34-c		1号	C ₁	無	壺		10.7	30.0	8.0	23.5	10.0	-	-	-	2100.0	

第135図 大洞C₁式 壺 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
136	1	3063	LS33-c		1号	C ₁	無	壺		8.7	19.4	7.5	16.5	8.2	-	-	-	1068.0	
136	2	109	LR34-b		1号	C ₁	無	壺		7.9	13.5	6.0	12.2	7.3	-	-	-	407.8	
136	3	287	LP34-c		1号	C ₁	無	壺		(7.8)	12.8	5.8	12.2	6.2	-	-	-	317.2	
136	4	1039	MA29-a		2号	C ₁	無	壺		欠	10.9	5.5	11.8	7.4	-	-	-	386.8	
136	5	3014	LS34-c		1号	C ₁	無	壺		7.5	9.8	6.5	12.2	6.3	-	-	-	377.6	
136	6	650-1	LN35-c		1号	C ₁	無	壺		6.3	10.4	5.0	10.6	5.3	-	-	-	339.2	
136	7	3406	MB28-d		2号	C ₁	無	壺		(5.7)	10.6	5.0	8.9	(5.2)	-	-	-	206.8	
136	8	173	LP36-b		1号	C ₁	無	壺		欠	7.0	2.0	8.5	(4.7)	-	-	-	108.4	
136	9	202	LQ35-b		1号	C ₁	無	壺		欠	12.7	6.5	13.7	(6.9)	-	-	-	544.8	
136	10	3519	ME38		外	C ₁	有	壺		欠	9.7	(6.4)	(13.6)	-	-	-	-	280.2	穿孔1ヶ所
136	11	3389	MB28-d		2号	C ₁	無	壺		欠	11.5	5.3	(12.6)	欠	-	-	-	279.6	
136	12	3400	MA26		2号	C ₁	無	壺		欠	18.9	(7.2)	(19.3)	(8.3)	-	-	-	512.5	

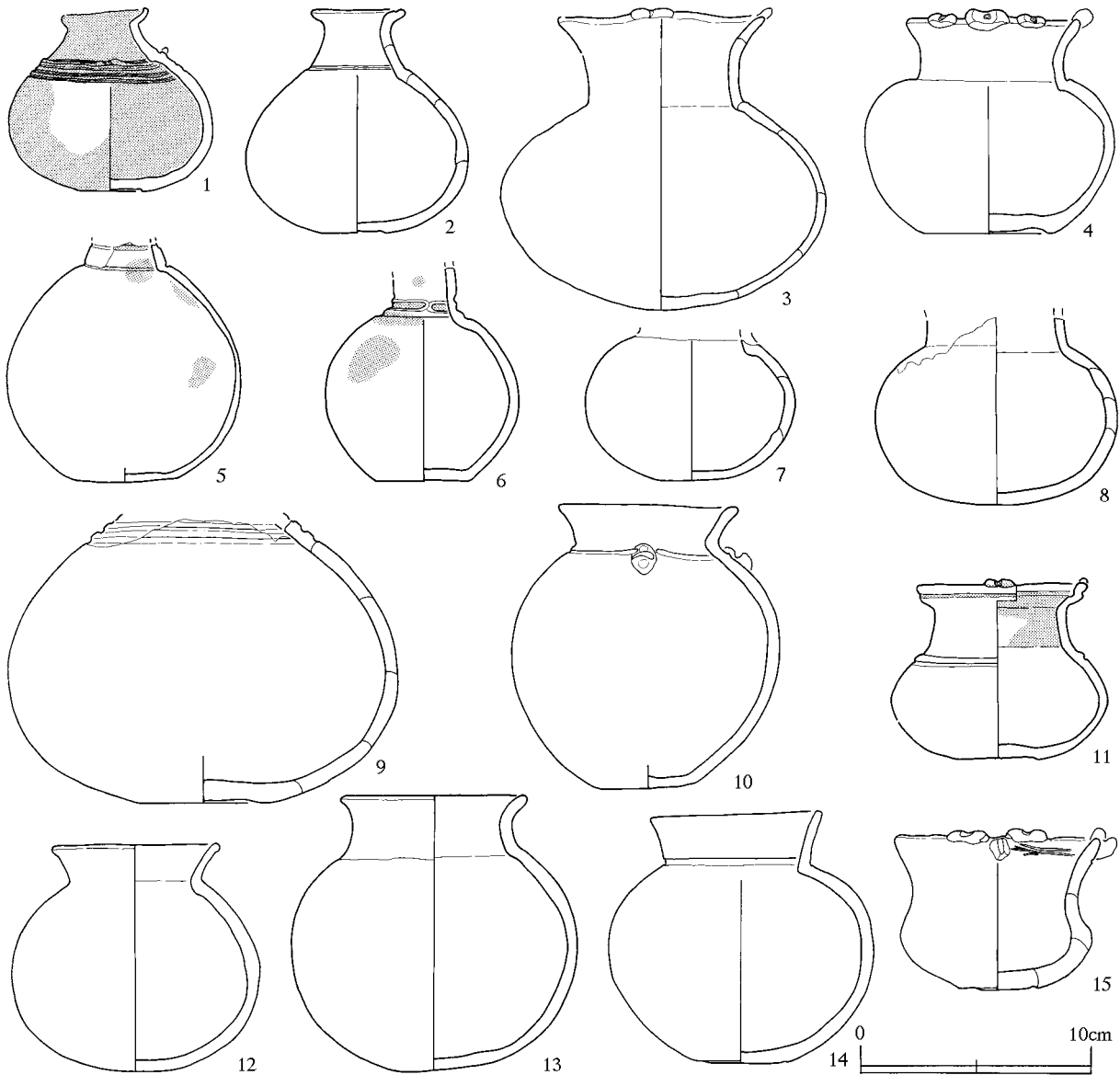
第136図 大洞C₁式 壺 (5)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
137	1	275	LP34-c		1号	C ₁	無	壺		7.8	11.8	7.3	8.5	6.3	-	-	-	283.6	
137	2	111	LQ33-b		1号	C ₁	無	壺		7.3	11.6	5.0	8.5	6.5	-	-	-	265.2	
137	3	437-1	LO33-c		1号	C ₁	無	壺		7.1	17.2	5.6	9.8	5.8	-	-	-	502.2	
137	4	695	LO35-b		1号	C ₁	無	壺		7.9	16.7	6.0	10.7	6.9	-	-	-	506.5	
137	5	3098	MB28-d		2号	C ₁	無	壺		(6.7)	14.9	4.9	10.9	6.1	-	-	-	387.8	
137	6	1103	MB28-a		2号	C ₁	無	壺		(8.2)	13.2	(3.5)	(8.9)	(6.9)	-	-	-	241.0	
137	7	3012	LP35-b		1号	C ₁	無	壺		5.2	11.8	5.0	7.0	4.6	-	-	-	179.2	
137	8	662	LO35-c		1号	C ₁	無	壺		5.7	12.3	2.6	7.7	4.7	-	-	-	225.6	
137	9	3522	MJ35		4号	C ₁	有	壺		(6.5)	(21.5)	5.0	(16.0)	(5.1)	-	-	-	715.7	四脚
137	10	663	LP34-c		1号	C ₁	有	壺		(5.1)	9.1	欠	(11.1)	3.5	-	-	-	109.2	
137	11	537	LP34-a		1号	C ₁	無	壺		(5.7)	11.2	4.9	10.4	(4.3)	-	-	-	291.5	
137	12	549	LP35-a		1号	C ₁	有	壺		6.9	12.6	欠	15.2	5.8	-	-	-	266.4	

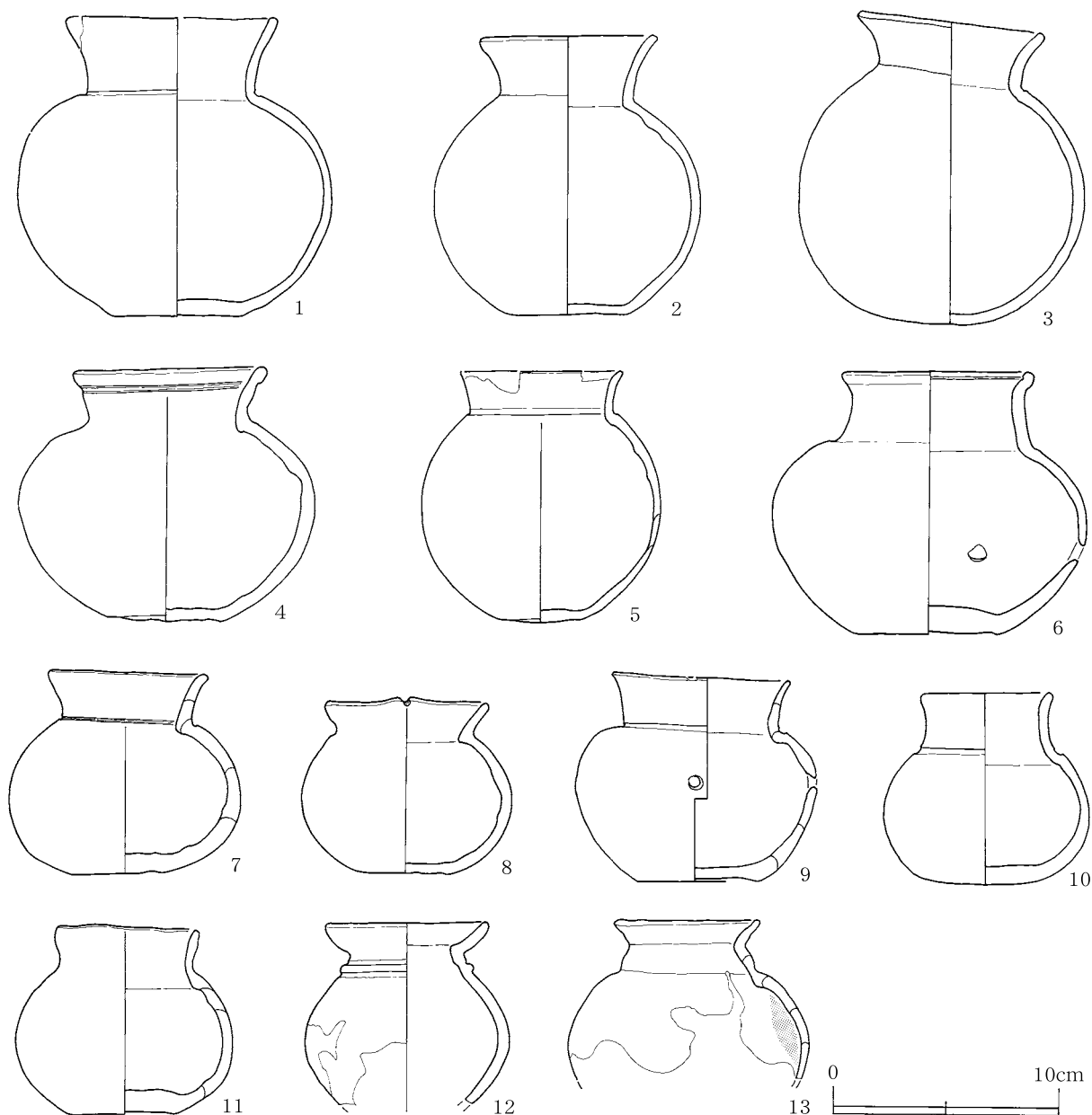
第137図 大洞C₁式 壺 (6)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
138	1	1029	MA27-c		2号	C ₁	有	壺		3.8	7.9	2.6	8.7	3.1	-	-	-	120.4	
138	2	534-2	LP34-a		1号	C ₁	無	壺		(4.1)	(9.6)	(2.9)	(9.5)	(2.8)	-	-	-	109.5	
138	3	3025	LS34-c		1号	C ₁	無	無文壺		(8.8)	13.0	丸	13.9	6.4	-	-	-	272.6	
138	4	704	LQ34-d		1号	C ₁	無	壺		7.5	9.6	5.5	10.7	6.2	-	-	-	214.6	
138	5	3046	LS34-b		1号	C ₁	有	壺		欠	10.2	4.1	9.9	2.8	-	-	-	140.5	
138	6	615	LQ33-c		1号	C ₁	有	壺		欠	9.2	4.1	8.4	2.6	-	-	-	136.0	
138	7	1214	MA28-c		2号	C ₁	無	壺		欠	6.2	2.3	9.0	-	-	-	-	141.2	
138	8	3367	MB28-d		2号	C ₁	無	壺		欠	8.0	丸	(10.3)	(5.9)	-	-	-	125.3	
138	9	3521	MH35		4号	C ₁	無	壺		欠	12.0	(5.6)	(16.6)	-	-	-	-	348.9	
138	10	3399	MB29-d		2号	C ₁	無	壺		7.8	12.4	4.1	11.6	6.2	-	-	-	265.5	
138	11	3352	LT26-c		2号	C ₁	有	壺		(7.3)	7.7	3.5	(9.3)	(5.7)	-	-	-	125.0	
138	12	3002	LQ35-b		1号	C ₁	無	無文壺		7.1	9.8	丸	10.6	5.6	-	-	-	231.2	
138	13	450	LR36-b		1号	C ₁	無	壺		8.1	12.1	丸	12.3	6.8	-	-	-	340.0	
138	14	3331	MB28-d		2号	C ₁	無	無文壺		7.4	10.8	4.0	11.4	6.2	-	-	-	170.9	
138	15	629	LQ34-a		1号	C ₁	無	壺		8.8	6.9	3.2	8.2	7.1	-	-	-	193.2	

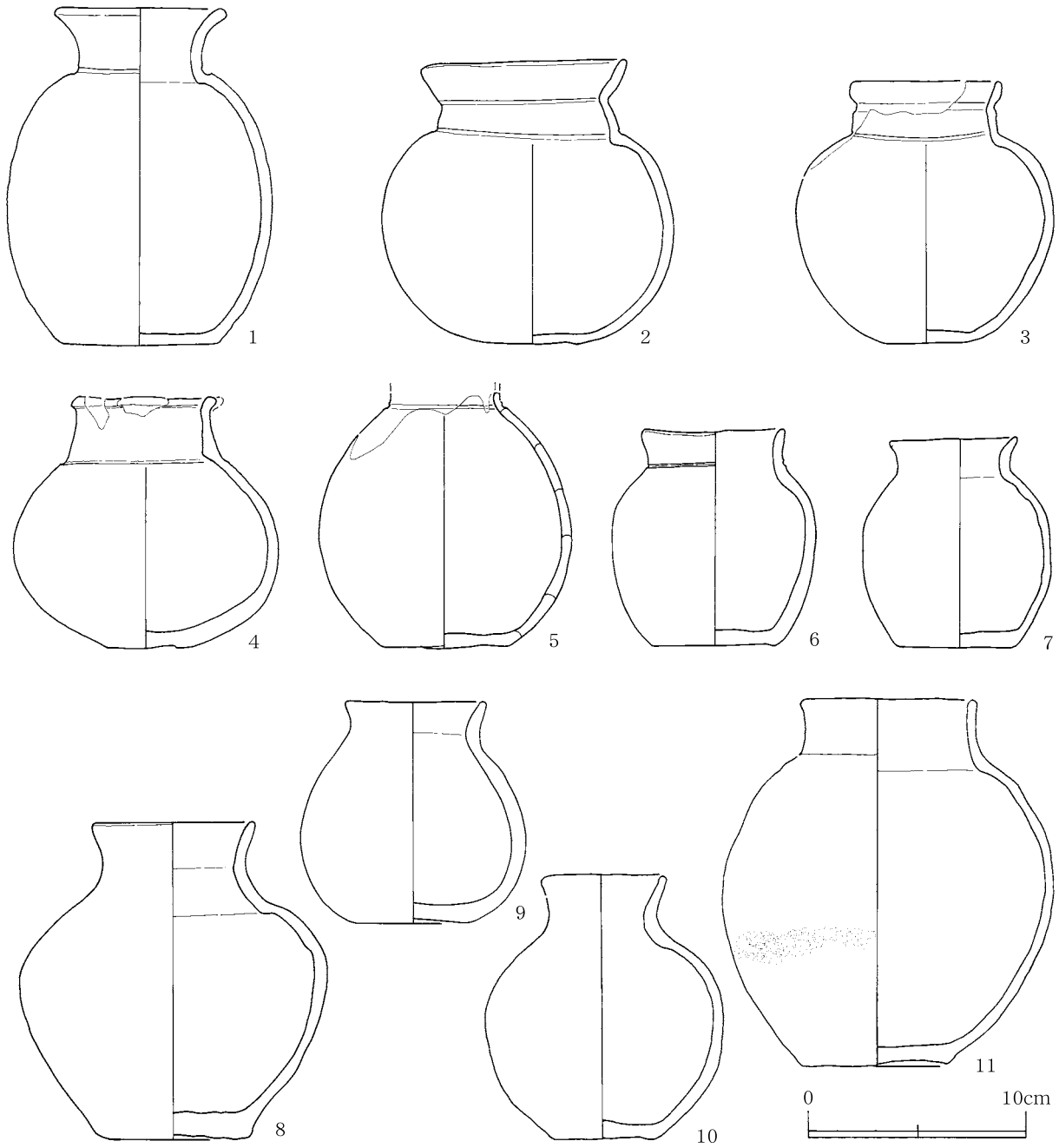
第138図 大洞C₁式 壺 (7)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
139	1	3239	LR34-d		2号	C1	無	無文壺		(9.3)	13.1	5.9	13.7	(7.3)	-	-	-	280.5	
139	2	3011	LR35-d		1号	C1	無	無文壺		7.8	12.2	4.9	11.6	5.8	-	-	-	276.0	
139	3	3416	LR33		1号	C1	無	壺		8.3	13.7	4.0	12.6	6.2	-	-	-	305.4	
139	4	702	LQ35-a		1号	C1	無	壺		(8.5)	11.2	5.1	13.0	6.9	-	-	-	333.9	
139	5	210	LQ34-a		1号	C1	無	無文壺		7.2	11.0	3.4	10.5	6.3	-	-	-	214.2	
139	6	1279	MA28-b		2号	C1	無	壺		8.4	11.5	6.4	13.7	7.5	-	-	-	346.4	穿孔1ヶ所
139	7	218	LR33-b		1号	C1	無	無文壺		7.0	9.0	3.8	10.1	5.7	-	-	-	247.8	
139	8	85	MA36-b		3号	C1	無	無文壺		7.2	7.7	3.8	9.2	6.0	-	-	-	173.6	
139	9	3033	LR34-b		1号	C1	無	壺		7.9	9.2	5.5	10.6	6.8	-	-	-	227.4	穿孔1ヶ所
139	10	3016	LT34-d		1号	C1	無	無文壺		(5.8)	8.4	(3.0)	(9.1)	(5.4)	-	-	-	160.2	
139	11	1302	MD38		3号	C1	無	壺		6.3	8.3	4.6	9.5	5.8	-	-	-	179.6	
139	12	3354	MB28-d		2号	C1	無	壺		(7.2)	8.0	欠	(9.0)	(5.0)	-	-	-	129.9	
139	13	3429	LS32-c		1号	C1	有	無文壺		(6.5)	7.0	欠	(10.6)	(5.1)	-	-	-	98.2	

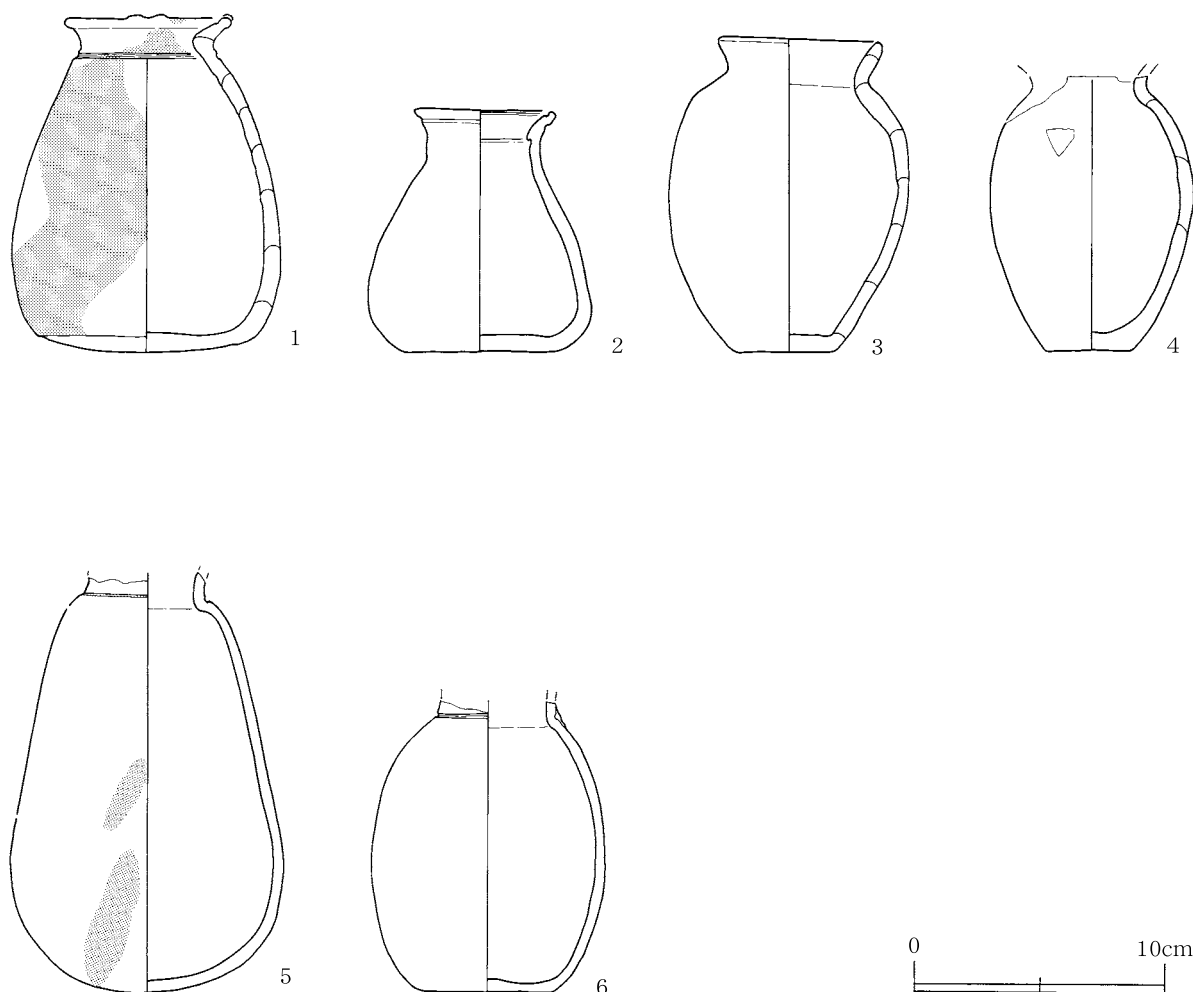
第139図 大洞C1式 壺 (8)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
140	1	3385	MB28-b		2号	C ₁	無	無文壺		(7.8)	15.3	(6.8)	(12.0)	(5.6)	-	-	-	307.4	
140	2	3010	LS33-c		1号	C ₁	無	無文壺		9.4	13.0	4.7	13.4	7.6	-	-	-	354.8	
140	3	3152	LR35-d		1号	C ₁	無	無文壺		(6.9)	11.9	(4.0)	(11.7)	(6.3)	-	-	-	206.8	
140	4	602	LQ34-b		1号	C ₁	無	壺		6.6	11.5	3.4	12.0	6.1	-	-	-	289.0	
140	5	3133	LS35-a		1号	C ₁	無	壺		欠	11.6	5.6	11.5	(4.9)	-	-	-	228.7	
140	6	3250	LQ33-c		1号	C ₁	無	無文壺		6.6	9.9	5.7	9.3	6.2	-	-	-	174.6	
140	7	113	LQ33-a		1号	C ₁	無	壺		5.8	9.6	5.1	8.5	5.1	-	-	-	185.8	
140	8	29	LR34-b		1号	C ₁	無	壺		7.4	14.4	6.8	14.0	6.4	-	-	-	536.2	
140	9	3015	MC36		3号	C ₁	無	壺		6.4	10.1	5.2	10.3	5.8	-	-	-	308.8	
140	10	3008	LS34-a		1号	C ₁	無	壺		(5.7)	12.0	4.8	10.8	4.8	-	-	-	303.6	
140	11	1337	MA28-b		2号	C ₁	無	壺		(8.0)	16.6	6.8	15.0	7.7	-	-	-	518.4	アスファルト 付着

第140図 大洞C₁式 壺 (9)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
141	1	426	LP34-d		1号	C ₁	有	壺		6.6	13.3	7.7	10.6	5.2	-	-	-	357.9	
141	2	3221	LQ33-c		1号	C ₁	無	無文壺		5.6	9.6	5.8	8.8	4.5	-	-	-	121.5	
141	3	194	LQ35-b		1号	C ₁	無	無文壺		6.5	12.5	3.8	9.5	5.5	-	-	-	238.8	
141	4	1102-2	MB29-a		2号	C ₁	無	壺		欠	10.8	3.4	(8.0)	(4.5)	-	-	-	173.8	
141	5	3245	LO35-b		1号	C ₁	有	壺		欠	16.6	丸	(10.7)	(4.7)	-	-	-	143.7	
141	6	3262	LQ33-b		1号	C ₁	無	無文壺		欠	11.5	5.1	9.2	欠	-	-	-	192.1	

第141図 大洞C₁式 壺 (10)

大形品には、第124図3、第118図4、第119図2・4のように、内面の底部から胴部へ立ち上がる境目に1条の沈線や帯縄文が施される個体もある。

深鉢口縁部は、四単位の突起がつく。第143図1の様に二種類の突起が4単位ずつ8単位となるものもある。2は、沈線が波状部分で上昇して突起に合流する。もとはB突起だった名残だろう。波状部分には三角形の彫刻文が施される。

6 無文土器

概要

無文土器は、完形品121点、破片資料7,235点が出土した。完形品の内訳は、深鉢18点、台付鉢3点、

第2章 捨て場と遺物

浅鉢2点、鉢41点、注口土器11点、壺34点、香炉1点、ミニチュア土器10点、土偶1点で構成される。破片資料の内訳は、精製土器643点、粗製土器6,592点となる。精製土器は、台付鉢127点、浅鉢167点、鉢193点、注口土器7点、壺149点で構成される。粗製土器は、浅鉢81点、台付鉢428点、壺383点、土製品1点、鉢5,249点、深鉢450点で構成される。

本来は、これらこそ型式同定や同一器種内での器形分化に対する分析が必要なのであるが果たせなかった。いずれも無文で地文縄文、もしくは磨きを施す。また、粗製土器では磨きを行わず、粗いナデ・ケズリによる調整を残す。

深鉢は第145～148図に示した。側面形はバケツ形で、口縁が内湾するが底部から一気に立ち上がる。鉢は第149～152図に示した。口縁部が屈曲する第149図1～3の様な半精製品と変わらないものもある。おおかたは、器面の調整が粗く製作時の指頭圧痕による凸凹をナデた上に縄文を施している。側面は緩くカーブしつつ立ち上がり、口縁は直線的に開くものとやや内湾するものがある。

壺は第153～155図に示した。肩部の張り出しが目立つ。器壁は厚く、持ち重りがする個体が多い。

ミニチュア土器は第156～157図に示した。第156図1・2・9は、大洞B C式、7・8は大洞C₁式と考えられる。

7 土偶・土製品

土偶は第158～163図に示した。第162図までに大洞B C～C₁式の大形から中形の遮光器土偶を、第163図には小形品をまとめた。第158～159図は、入組文・三叉文の多用から大洞B C式期、第160～161図は大洞C₁式期である。

土製品は第164図に示した。1は大洞B C式の土版である。文様は、向かい合う渦巻文で岩版の文様と共通する。2は、三角形に彫刻される透かし穴から大洞C₁式期と考えられる。装身具だと考えている。3・4は耳飾り、5・6は垂飾である。7・8は土製円盤である。7は周辺を打ち欠き、8は研磨して形を整えている。

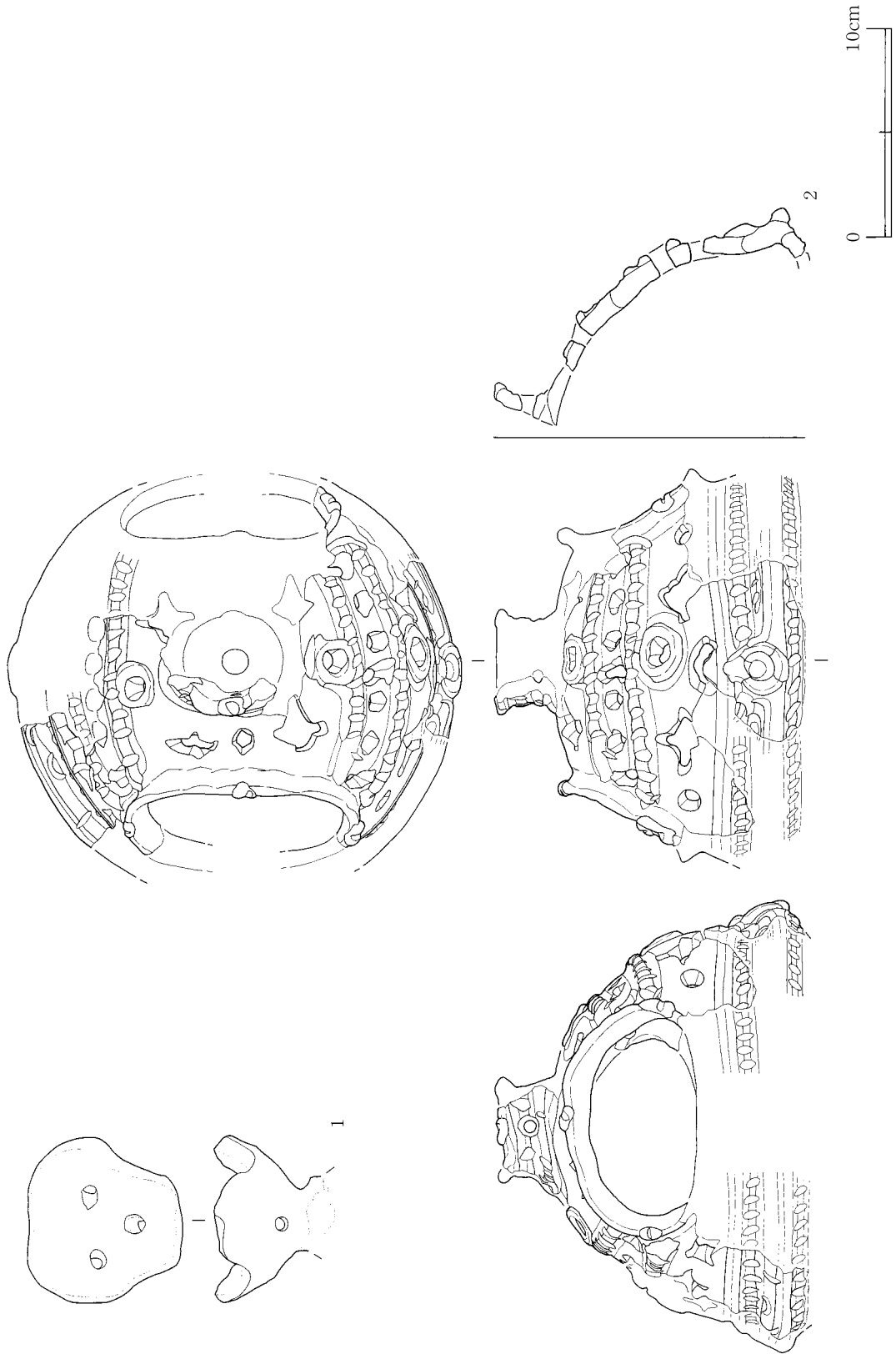
8 土器の使用痕について

土器の内外面には、炊事の吹きこぼれと考えられるおコゲや火にかけたときのススが付着している。これらを使用痕と考え、器種ごとに付着箇所を検討する。実測した787点の土器の内230点29.2%に使用痕が残っていた。そして、外面に使用痕が残るもの193点、内面に残るもの194点である。より詳細な内訳は第24表に示した。なお、2点のみ口縁部内面から口唇部にかけて灯心状の焼けこげが残るものがあり、灯明具として使用されたものと考えた^(註6)。

使用痕付着の器種別卓越性は明瞭である。深鉢、台付鉢、そして鉢の3器種のみである。また、粗製土器をほとんど扱っていない現状では、統計学的な検定を望めないが、精製・粗製を問わず、上記器種に使用痕がつく傾向はある。

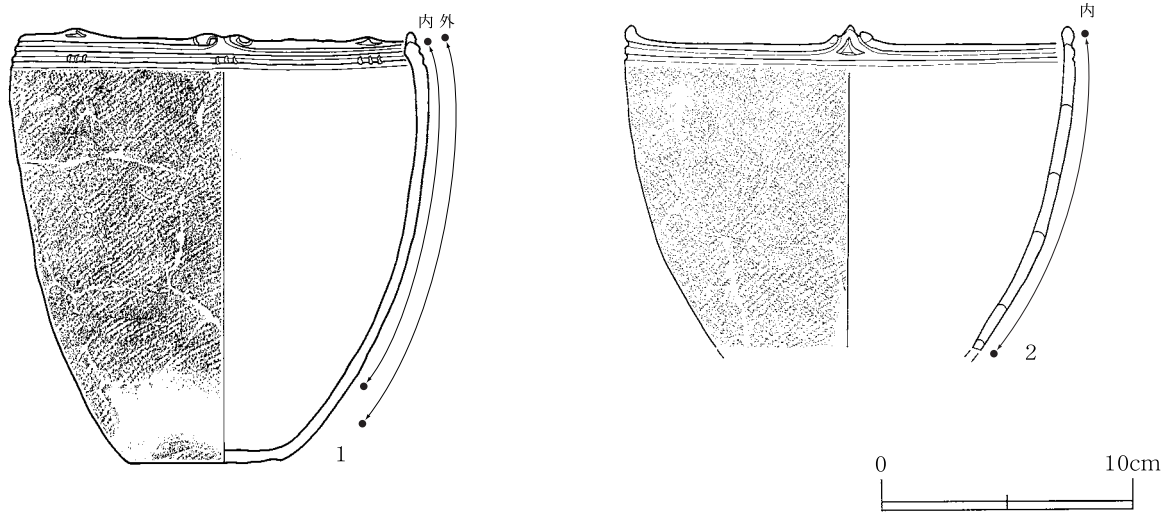
型式との関係は、大洞B₂式11点、大洞B C式98点、大洞C₁式78点、大洞C₂式2点、無文土器41点となる。型式による差異よりも、出土比による差異を反映したものといえる。したがって以下、時期別区分をせず大洞式を一括して扱い、器種ごとの差異を検討する。

使用痕付着部位と付着パターンを内外面とも7種類に区分した。使用痕は内面のみに残るもの、外



図版	番号	遺物	出土位置	属位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 胴径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
142	1	I210	ME27-c		2号	不明	無	香炉		欠	3.8	欠	5.3	-	-	-	-	38.9	頭部
142	2	I222	MA28-a		2号	C1	無	香炉		-	9.9	欠	(14.4)	-	-	-	-	101.4	

第142図 大洞C1式 香炉 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
143	1	3162	LP33-d		1号	C ₂	無	深鉢		15.3	16.9	6.0	16.5	-	-	-	-	500.1	
143	2	3422	LQ35-b		1号	C ₂	無	深鉢		(17.8)	12.7	欠	-	-	-	-	-	252.3	

第143図 大洞C₂式 深鉢 (1)

面のみに残るものがわずかにあるが、ほとんどは両面につく。上述の通り、数量比も193 : 194とほぼ1 : 1の対応を示すことから理解される。また、器種ごと・部位ごとに見ても内面のみ、もしくは外面のみで特に付着する部位はない。したがって、内外面を同様に扱っても問題はないと考える。検討課題となるのは、各器種における使用痕の付着部位と付着パターンである。

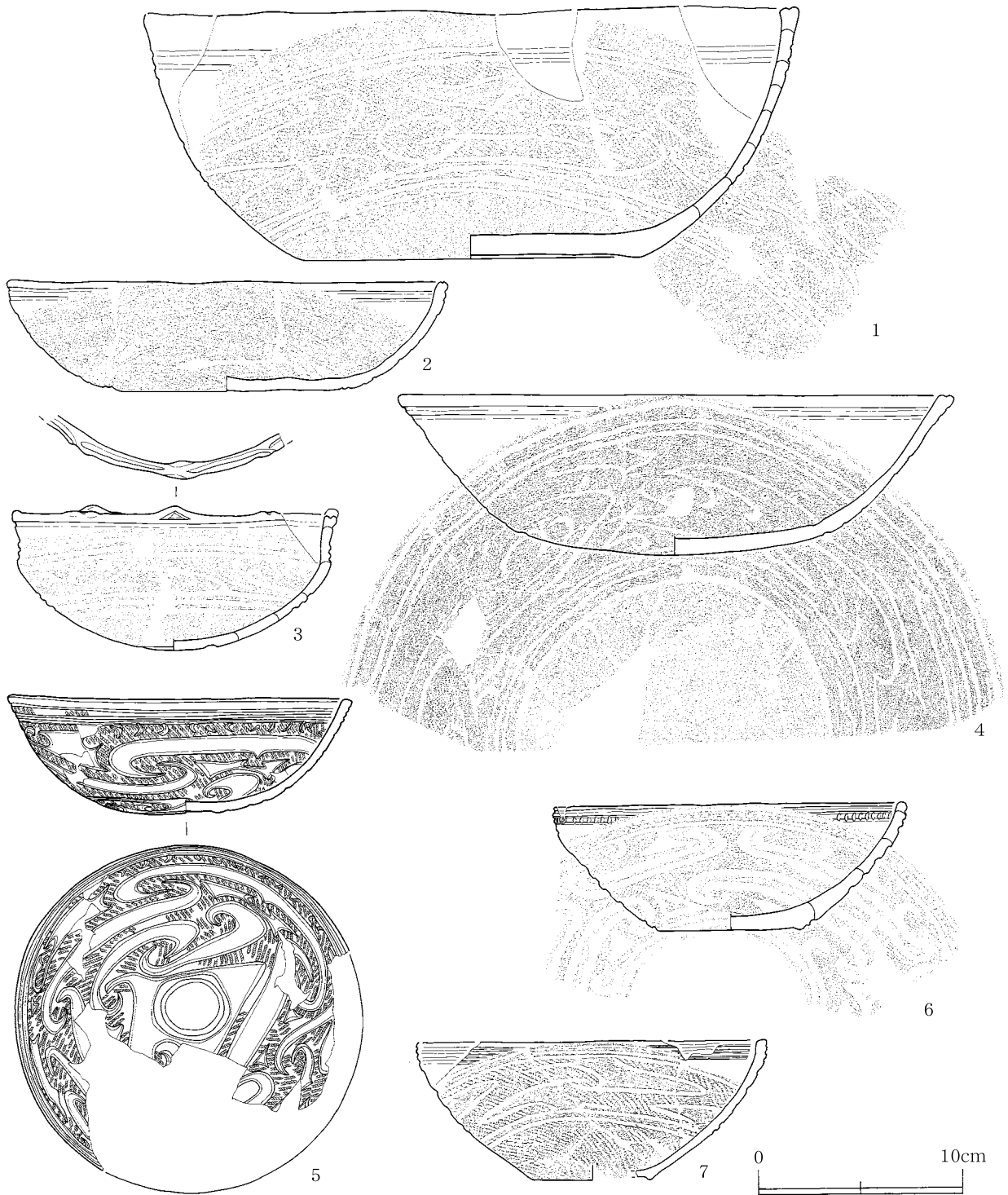
全体的な傾向として、使用痕の付着部は上半部に卓越すること、また下半3分の1につくものも目立つことが明確である。これは、炎の熱分布の物理性と炊事法 = 土器の使用法と大きく関わる特徴である。

深鉢では、外面43点、内面44点に使用痕が残る。これらの内、全面に付着するものは外面14点、内面18点である。体部上半分までに使用痕が付着するのは外面23点(パターン 18点、パターン 5点)、内面21点(パターン 17点、パターン 4点)である。

胴部下半では、外面19点に対して内面11点となる。上半部に比べて少ないが、外面に多くつく傾向がある。これは、所謂「3点カマド」による炊事を考えれば焼きの上に直接乗る部分であることと関係するのだろう。上下2カ所に使用痕がつくものがわずかにあることから、最も火勢の強い炎の外縁部にふれる胴部上半と焼きに当たる下半3分の1に使用痕がつくのは、使用形態から理解される。

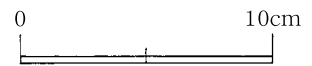
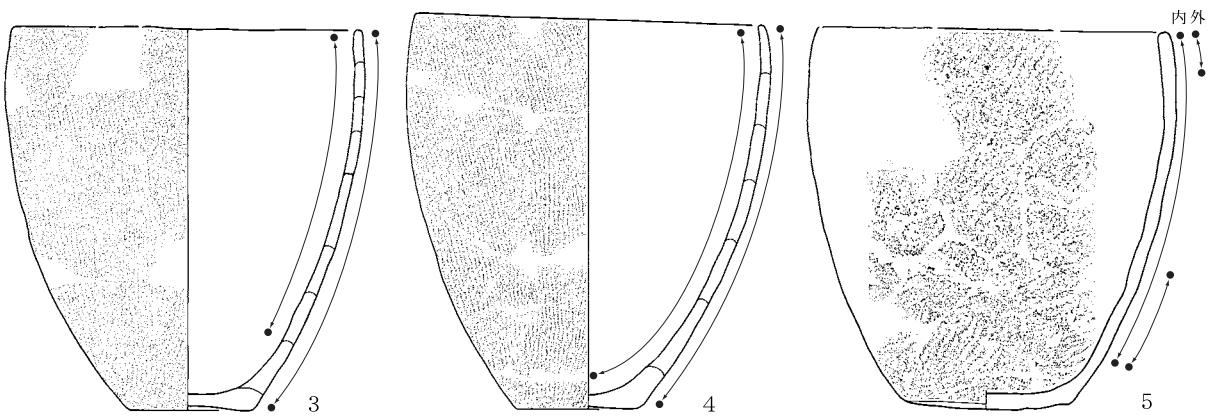
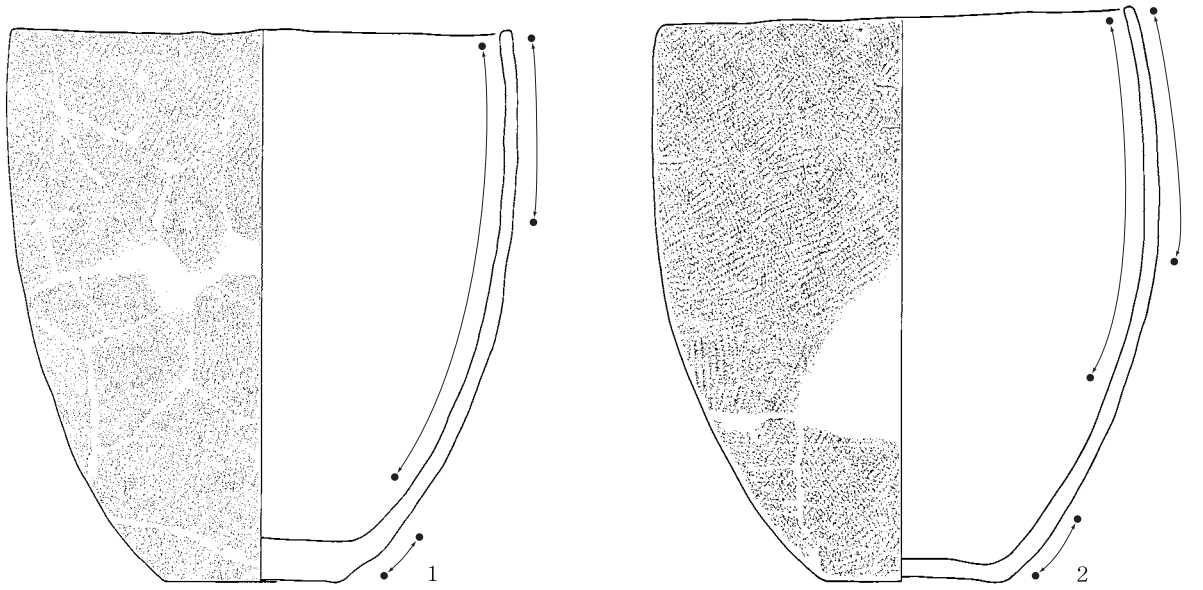
台付鉢では、外面80点、内面78点に使用痕が残る。これらの内、全面に付着するものは外面31点、内面27点である。体部上半分までに使用痕が付着するのは外面34点(パターン 29点、パターン 5点)、内面42点(パターン 33点、パターン 9点)である。

胴部下半では、外面11点に対して内面4点となる。上半部に比べて少ないが、外面に多くつく傾向がある。ここで、胴部外面下半3分の1に使用痕がつく個体が2桁となるのはこの器種のみである。そして、使用痕の付着が台部ではなく、あくまで胴部下半であることは注意を要する。



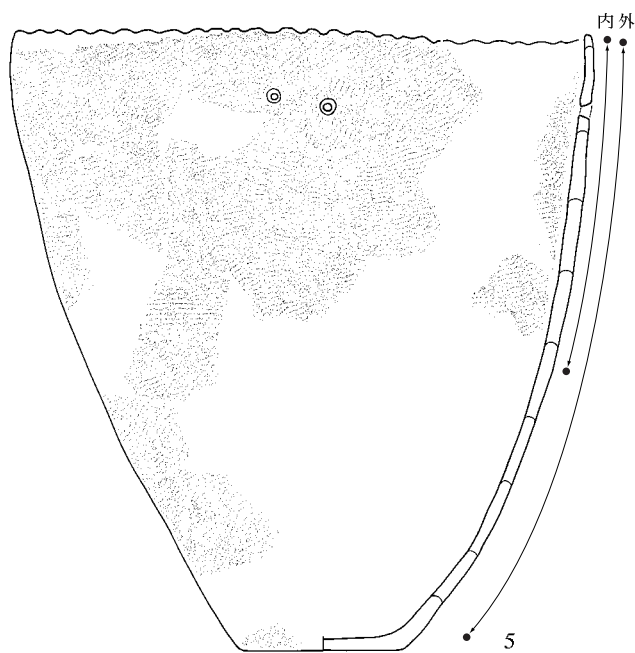
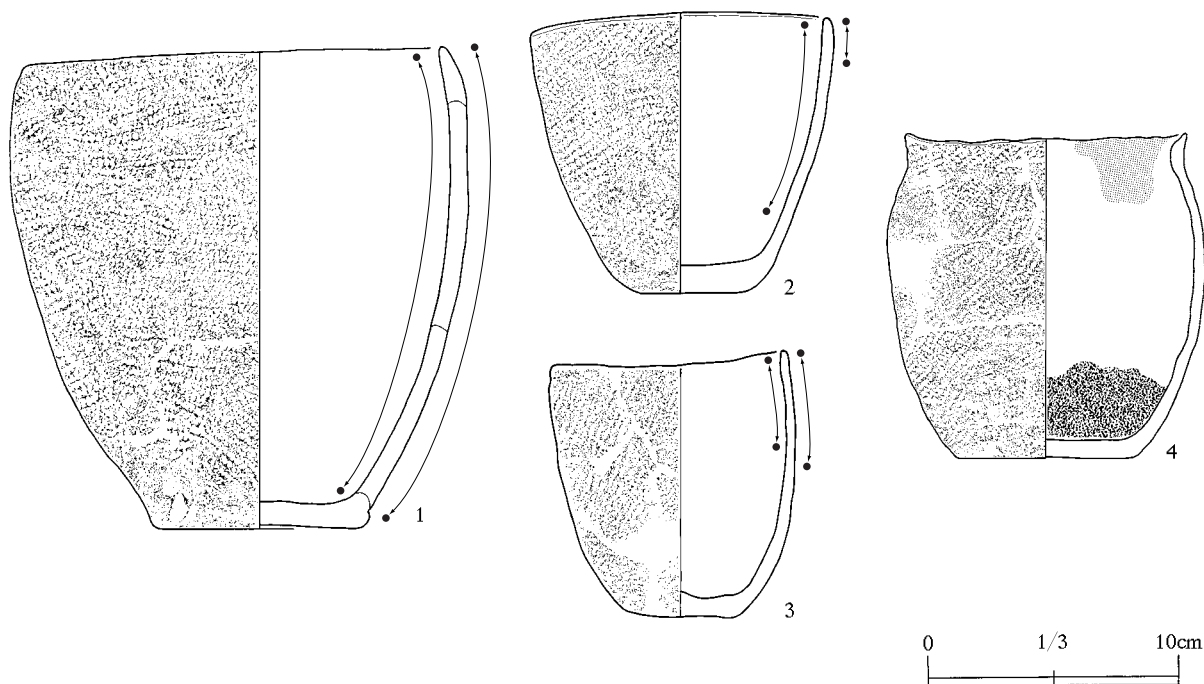
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
144	1	3440	LN35-d	1号	C ₂	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(31.9)	12.1	16.6	-	-	-	-	-	-	1183.4	
144	2	3273	LO35-a	1号	C ₂	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(21.4)	5.4	(11.9)	-	-	-	-	-	-	318.6	
144	3	3264	LO34-c	1号	C ₂	有	鉢		15.8	7.0	4.2	15.2	15.0	-	-	-	-	151.8	
144	4	279	LP34-c	1号	C ₂	無	浅鉢	洗面器 (台形)	(27.0)	(7.8)	(15.0)	-	-	-	-	-	-	551.1	
144	5	1041	MA28-a	2号	C ₂	無	浅鉢	ボウル(円)	(16.8)	6.0	3.7	-	-	-	-	-	-	173.4	
144	6	3525	MH36	4号	C ₂	無	浅鉢	ボウル(円)	17.2	6.1	7.2	-	-	-	-	-	-	248.5	
144	7	555	LQ35-d	1号	C ₂	無	浅鉢	ボウル(円)	(17.0)	(6.7)	(5.7)	-	-	-	-	-	-	90.0	

第144図 大洞C₂式 浅鉢・鉢 (1)



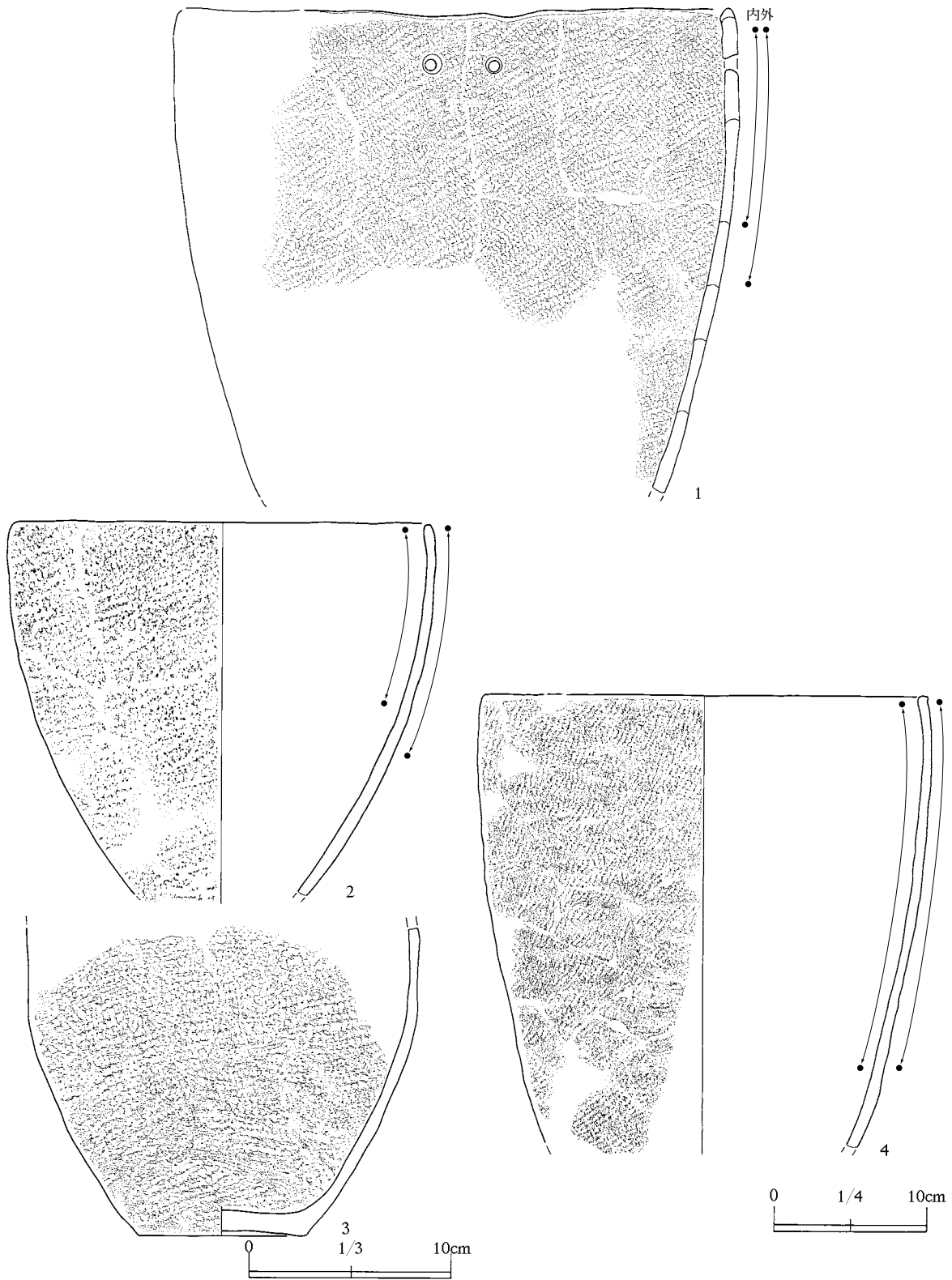
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
145	1	3091	LS34-a		1号	不明	無	深鉢		19.8	21.8	6.9	20.2	-	-	-	-	856.0	
145	2	3186	LR34-a		1号	不明	無	深鉢		18.8	22.7	7.0	20.0	-	-	-	-	1070.2	
145	3	3523	MH36		4号	不明	無	深鉢		13.8	15.1	5.0	14.2	-	-	-	-	382.1	
145	4	3421	MA34		3号	不明	無	深鉢		13.8	15.6	4.8	14.3	-	-	-	-	353.5	
145	5	3193	LR35-d		1号	不明	無	深鉢		(13.8)	15.0	(6.4)	(14.5)	-	-	-	-	305.8	

第145図 大洞式 深鉢 (1)



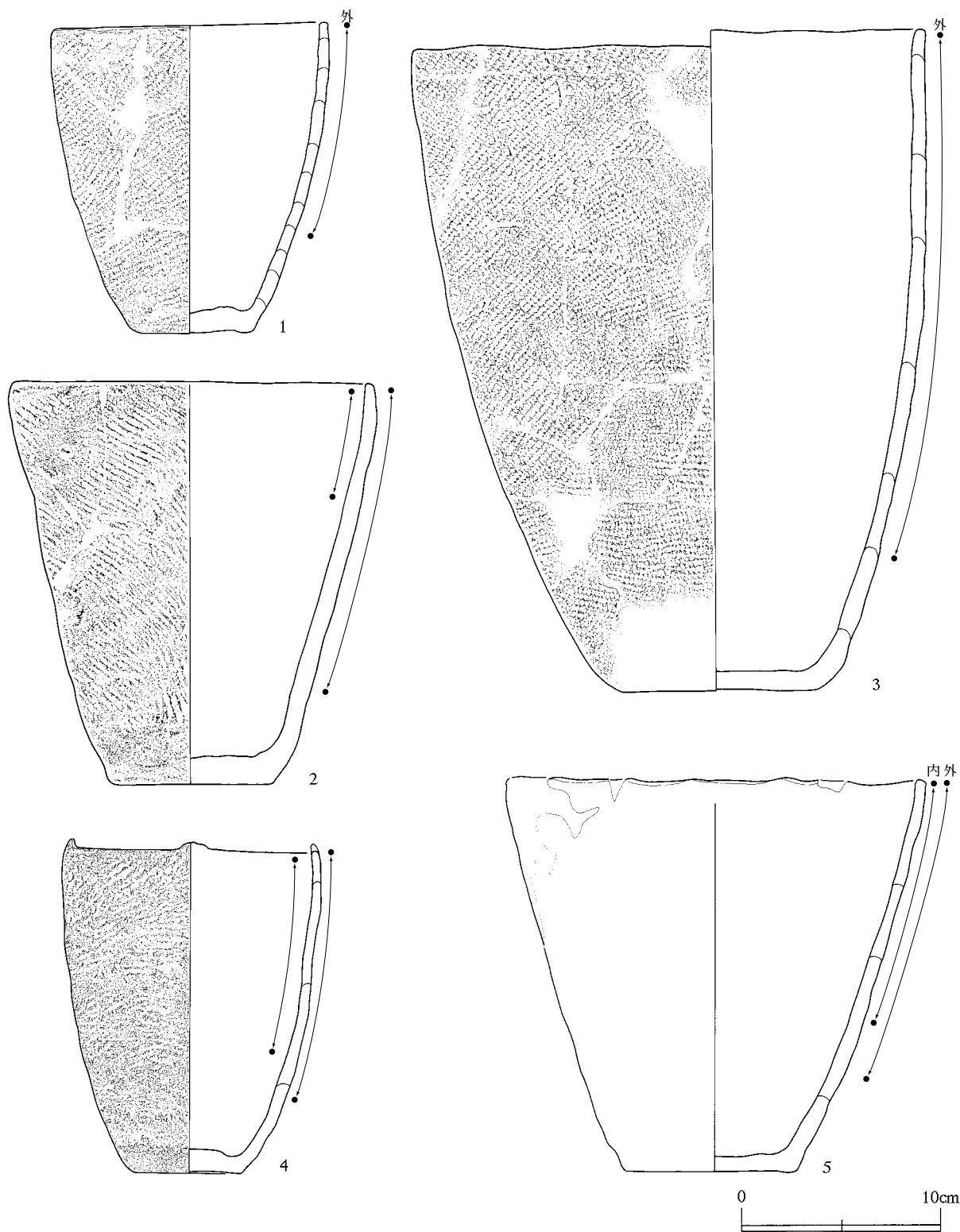
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
146	1	3139	LS33-c		1号	不明	無	深鉢		16.5	19.0	8.0	18.1	-	-	-	-	1001.5	
146	2	3050	LO34-c		1号	不明	無	深鉢		12.0	11.1	3.9	-	-	-	-	-	337.6	
146	3	3188	LR33-d		1号	不明	無	深鉢		9.4	10.6	4.5	9.7	-	-	-	-	195.1	
146	4	512	LQ34-b		1号	不明	有	深鉢		長径(11.2) 短径(9.5)	12.9	6.7	(11.0)(12.6)	-	-	-	-	331.0	漆? 内容物残存
146	5	3336	MA25-c		2号	不明	無	深鉢		30.8	33.0	8.4	-	-	-	-	-	1813.0	補修孔1対

第146図 大洞式 深鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
147	1	529-2	LP34-a		1号	不明	無	深鉢		(27.0)	23.7	欠	(27.6)	-	-	-	-	1200.0	補修孔1対
147	2	3375	不明		1号	不明	無	深鉢		(20.3)	18.9	欠	-	-	-	-	-	736.6	
147	3	1216-1	MB28-d		2号	不明	無	深鉢		欠	15.0	(8.2)	(19.0)	-	-	-	-	476.4	
147	4	3197	LR36-b		1号	不明	無	深鉢		(29.1)	29.5	欠	-	-	-	-	-	963.5	

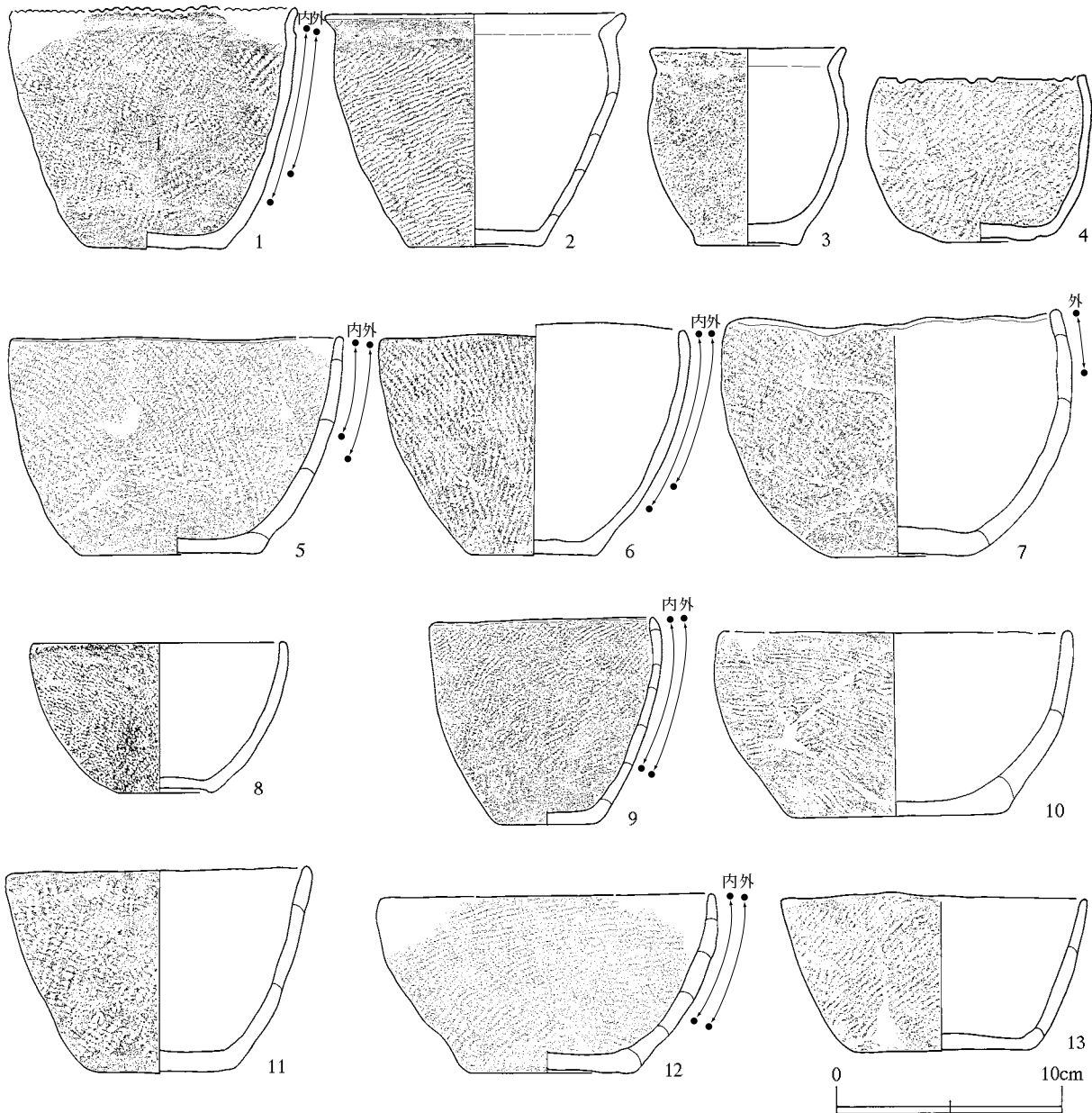
第147図 大洞式 深鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
148	1	529-1	LQ34-a		1号	不明	無	深鉢		13.6	15.5	5.7	13.8	-	-	-	-	433.1	
148	2	3201	LP33-c		1号	不明	無	深鉢		17.8	20.0	8.0	-	-	-	-	-	1320.0	
148	3	3202	LP33-c		1号	不明	無	深鉢		25.6	32.9	9.7	-	-	-	-	-	2120.0	
148	4	394	LQ35-d		1号	不明	無	深鉢		12.1	16.6	5.3	12.9	-	-	-	-	412.5	
148	5	3314	MA36-c		3号	不明	無	深鉢		(20.8)	19.6	8.4	-	-	-	-	-	908.3	

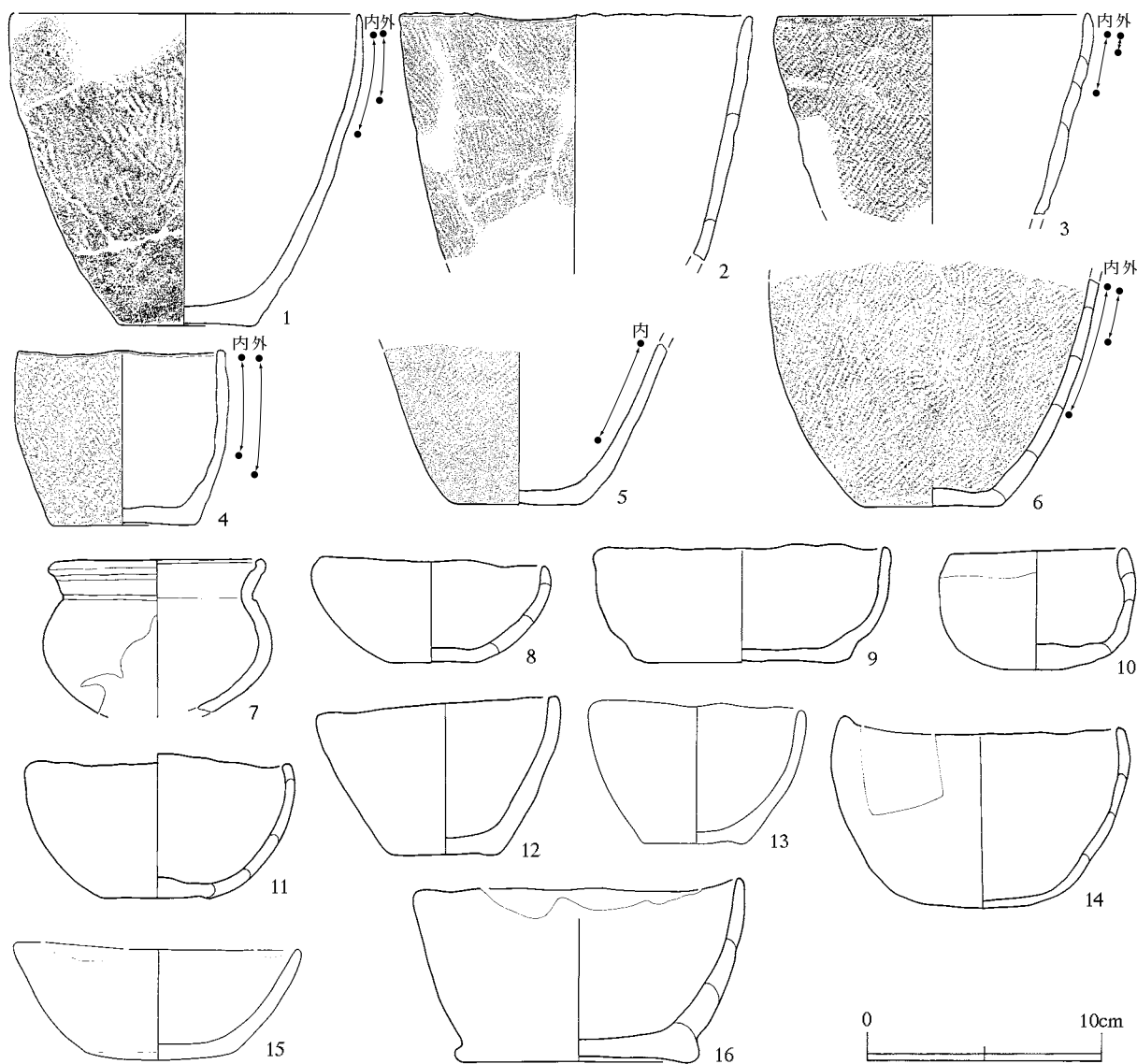
第148図 大洞式 深鉢 (4)

第2章 捨て場と遺物



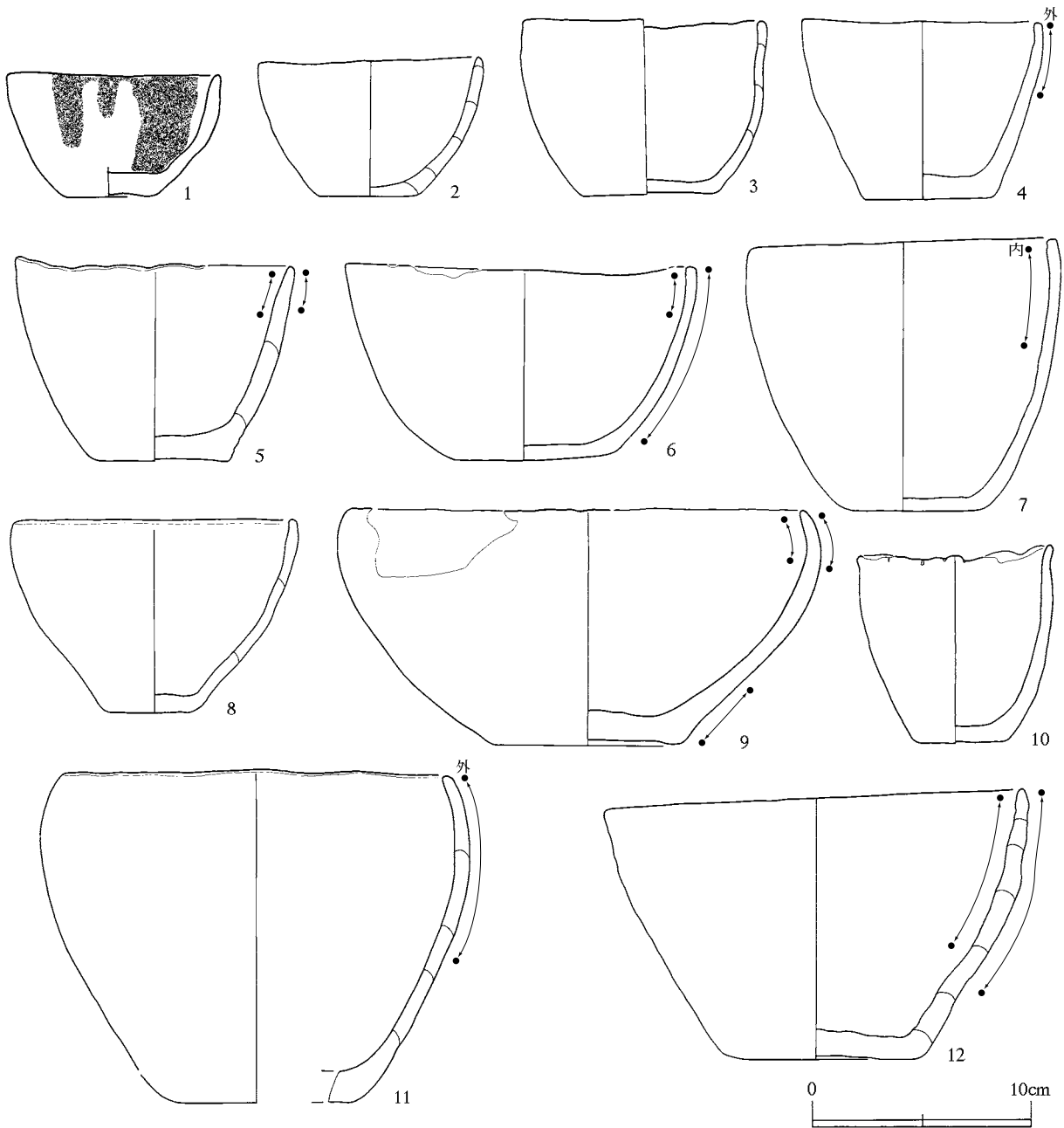
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
149	1	632	LP34-b		1号	不明	無	鉢		12.4	10.8	6.0	12.6	12.3	-	-	-	347.2	
149	2	405	LP34-a		1号	不明	無	鉢		13.3	10.2	5.8	12.6	12.3	-	-	-	345.6	
149	3	3195	LR35-d		1号	不明	無	鉢		8.6	8.7	4.6	8.7	8.0	-	-	-	146.5	
149	4	3019	LQ33-b		1号	不明	無	鉢		9.1	7.2	4.0	9.9	-	-	-	-	181.3	
149	5	1099	MB28-a		2号	不明	無	鉢		14.5	9.5	7.8	-	-	-	-	-	421.2	
149	6	590	LN36-a		1号	不明	無	鉢		13.3	9.9	5.7	13.7	-	-	-	-	346.6	
149	7	652	LN35-b		1号	不明	無	鉢		14.7	10.7	6.0	15.3	-	-	-	-	573.0	再利用
149	8	592	LO36-b		1号	不明	無	鉢		10.9	6.6	4.0	11.3	-	-	-	-	179.5	
149	9	3071	LP35-b		1号	不明	無	鉢		9.8	9.0	4.4	10.2	-	-	-	-	201.5	
149	10	3125	LS33-b		1号	不明	無	鉢		15.4	8.2	9.4	15.8	-	-	-	-	490.8	
149	11	650-2	LO35-c		1号	不明	無	鉢		13.1	9.1	6.3	13.3	-	-	-	-	335.2	
149	12	1072	MA28-c		2号	不明	無	鉢		14.5	7.9	7.2	15.1	-	-	-	-	445.4	
149	13	3127	LS33-c		1号	不明	無	鉢		13.4	6.8	7.8	-	-	-	-	-	209.0	

第149図 大洞式 鉢 (1)



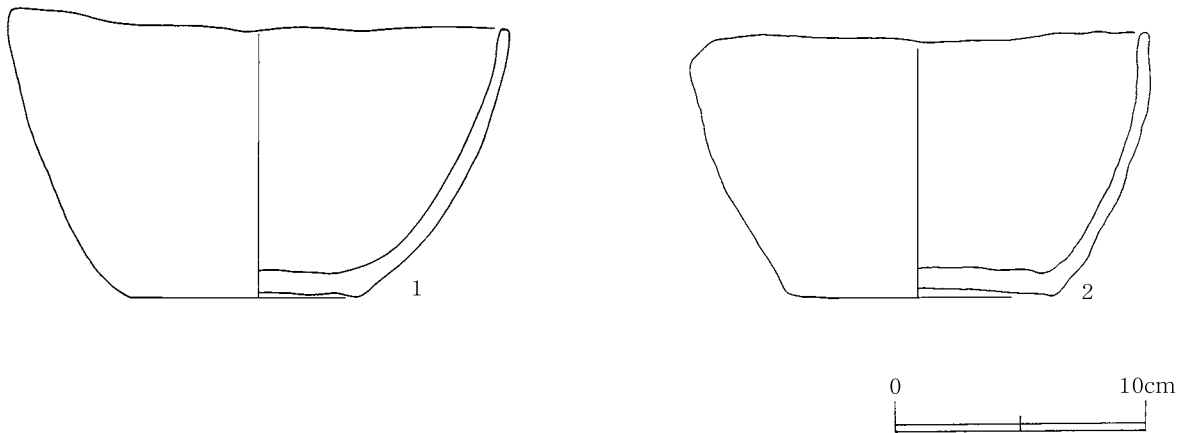
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
150	1	585	LN36-b		1号	不明	無	鉢		(14.7)	13.2	(5.4)	(14.9)	-	-	-	-	247.2	
150	2	417	LN33-c		1号	不明	無	鉢		(15.0)	10.4	欠	-	-	-	-	-	188.0	
150	3	578-1	LO36-a		1号	不明	無	鉢		(13.0)	8.4	欠	(13.4)	-	-	-	-	130.0	
150	4	666	LQ35-a		1号	不明	無	鉢		8.7	7.4	5.9	9.0	-	-	-	-	202.2	
150	5	539	LP34-a		1号	不明	無	鉢		欠	6.7	5.4	-	-	-	-	-	183.6	
150	6	3059	LS34-d		1号	不明	無	鉢		欠	9.6	5.7	13.9	-	-	-	-	295.6	
150	7	3402	MA28-b		2号	不明	無	鉢		(9.2)	6.5	欠	(9.6)	(8.0)	-	-	-	149.5	
150	8	3252	LO35-c		1号	不明	無	鉢		9.7	4.5	3.6	10.1	-	-	-	-	90.6	
150	9	3184	LR34-a		1号	不明	無	鉢		(12.5)	4.9	(9.2)	-	-	-	-	-	97.0	
150	10	475	LO35-b		1号	不明	無	無文鉢		7.4	5.2	2.5	8.3	-	-	-	-	117.2	
150	11	3179	LR34-b		1号	不明	無	鉢		11.3	5.7	4.3	11.4	-	-	-	-	154.7	
150	12	1207	MA28-c		2号	不明	無	鉢		10.2	6.7	4.2	-	-	-	-	-	182.4	
150	13	3518	MH36		4号	不明	無	鉢		9.2	6.1	4.4	-	-	-	-	-	148.3	
150	14	3191	LR35-d		1号	不明	無	鉢		11.9	8.2	6.0	12.6	-	-	-	-	156.0	
150	15	3516	MJ35		4号	不明	無	鉢		12.2	5.0	6.0	-	-	-	-	-	147.6	
150	16	3199	LR33-c		1号	不明	無	鉢		(13.8)	7.8	10.3	-	-	-	-	-	434.6	

第150図 大洞式 鉢 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
151	1	3517	MJ35		4号	不明	無	鉢		9.6	5.7	4.2	-	-	-	-	-	159.7	アスファルト 付着
151	2	3070	LP33-a		1号	不明	無	鉢		10.2	6.3	4.5	-	-	-	-	-	145.6	
151	3	1324	MB28-d		2号	不明	無	鉢		11.6	8.4	6.5	-	-	-	-	-	264.4	
151	4	1344	MA28-c		2号	不明	無	鉢		11.0	8.2	5.7	-	-	-	-	-	251.2	
151	5	1327-1	MB28-d		2号	不明	無	鉢		(12.6)	9.2	(5.9)	-	-	-	-	-	191.1	灯明具?
151	6	3371	LS34-d		1号	不明	無	鉢		15.9	8.9	7.3	-	-	-	-	-	333.6	
151	7	594-1	LO36-b		1号	不明	無	鉢		13.7	12.4	6.0	14.2	-	-	-	-	367.4	
151	8	646	LQ35-b		1号	不明	無	鉢		12.6	8.8	4.1	13.0	-	-	-	-	247.5	
151	9	3456	MA36-b		3号	不明	無	鉢		20.5	10.6	8.6	21.8	-	-	-	-	788.9	
151	10	3018	LP34-b		1号	不明	無	鉢		8.8	9.1	4.3	-	-	-	-	-	184.4	
151	11	3167	LO35-d		1号	不明	無	鉢		17.4	14.9	(7.5)	19.4	-	-	-	-	868.1	
151	12	1047	MA28-d		2号	不明	無	鉢		18.7	12.2	8.7	19.2	-	-	-	-	856.0	

第151図 大洞式 鉢 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
152	1	3185	LT34-d		1号	不明	無	鉢		19.7	11.3	9.0	-	-	-	-	-	558.0	
152	2	3004	LR33-a		1号	不明	無	鉢		17.8	10.5	9.9	18.1	-	-	-	-	448.2	

第152図 大洞式 鉢（4）

つまり台付鉢は台によって安定して自立し、上述の深鉢よりも相対的に高い位置に底部があることになる。焼き火上面に置く深鉢と異なり、台部の周りに燃料を積むことで土器下半を炎で包み込む様な使用法を想定できるだろう。

鉢では、外面69点、内面71点に使用痕が残る。これらの内、全面に付着するものは外面22点、内面18点である。体部上半分までに使用痕が付着するのは外面36点（パターン 26点、パターン 10点）、内面47点（パターン 33点、パターン 14点）である。

胴部下半では、外面も内面も5点となる。深鉢・台付鉢と同様に下半3分の1につくものが卓越する。

外面装飾との関係では、地文縄文の土器に使用痕が残り、地文無文研磨（赤彩）土器には使用痕が残らない。この点は、土器の精粗の差ではなく赤彩の有無が使用方法の差を規定していたことを推測させる。もちろん、地文無文研磨土器が壺や浅鉢に対応した調整技法であり、赤彩はその仕上げとして行われていることと無関係ではない。

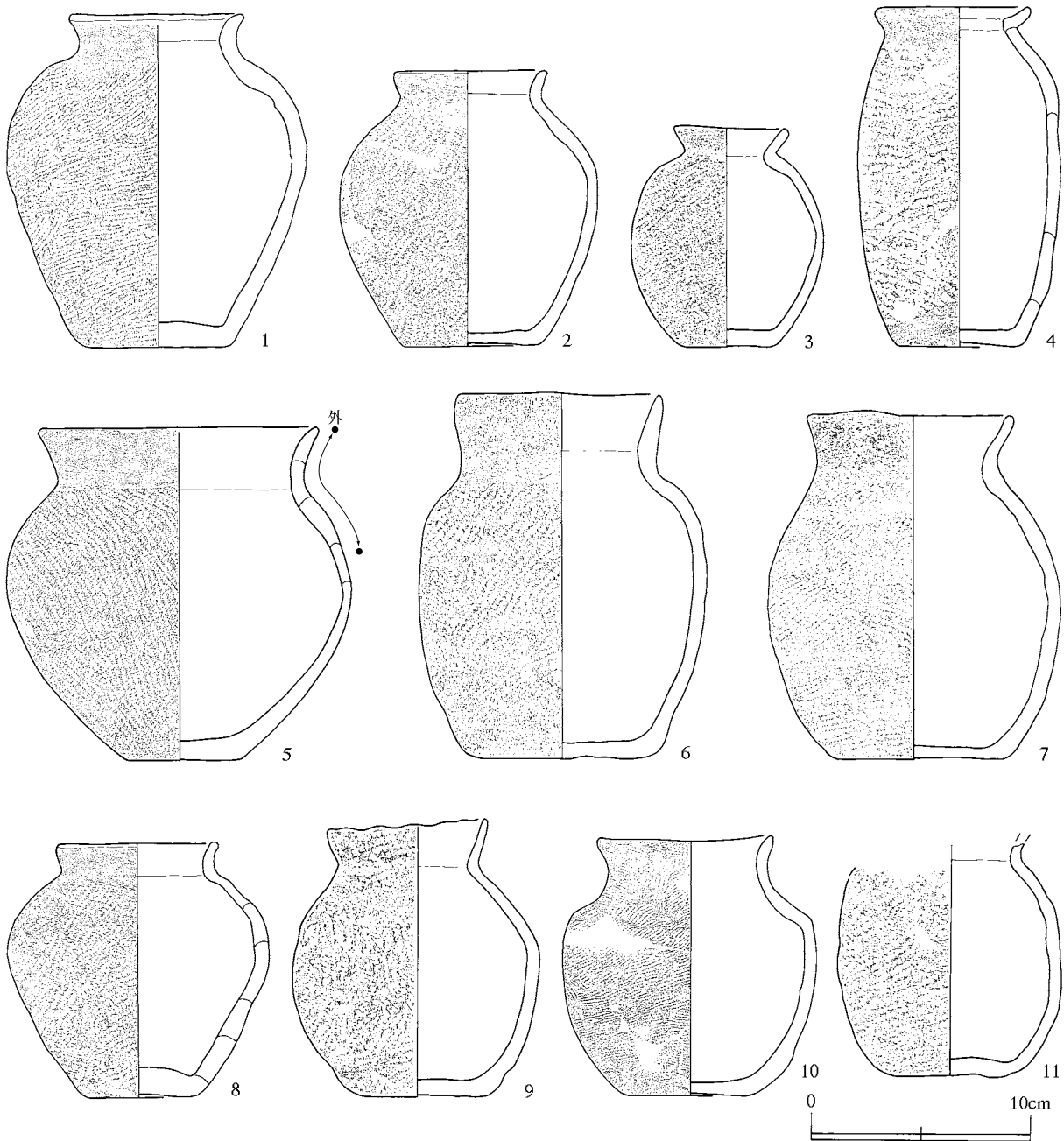
第24表 土器使用痕付着位置

器形	側	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
深鉢	外側	14	18	5	1	1	1	3	①全部 ②上半分 ③上3分の1 ④まん中ぐらい ⑤下半分 ⑥下～3分の1まで ⑦上と下2ヶ所
	内側	18	17	4		1	3	1	
台付	外側	31	29	5	3	1	10	1	
	内側	27	33	9	2	1	3	3	
鉢	外側	22	26	10	2	1	4	4	
	内側	18	33	14	1	2	3		
その他	外側			1			1		
	内側		1						
合計	外側	67	73	21	6	3	16	7	
	内側	63	84	27	3	4	9	4	

時期	B2	BC	C1	C2	不明
	11	91	78	2	

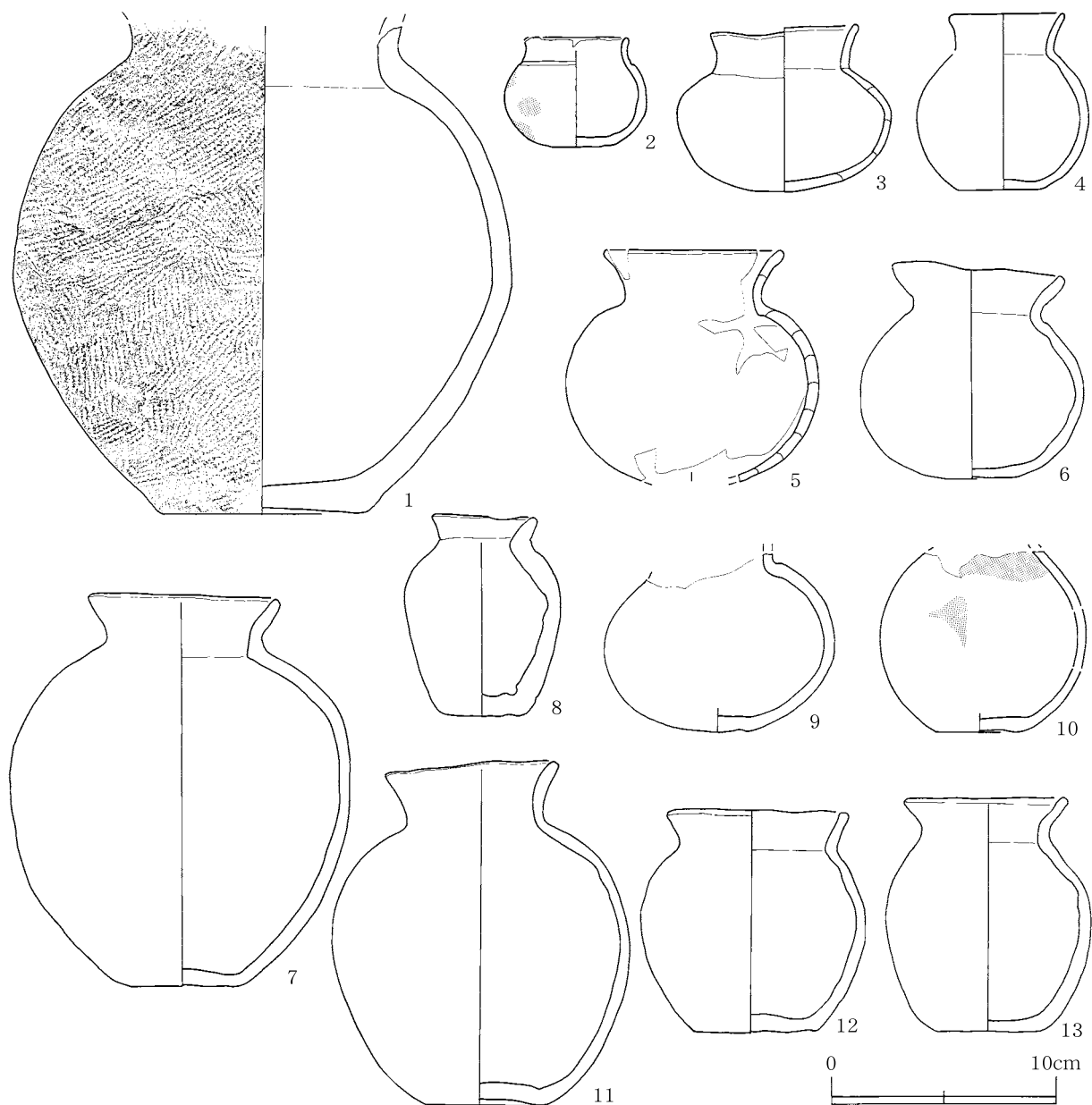
灯明皿 2点

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
153	1	668	LP36-b		1号	不明	無	壺		7.9	15.0	6.2	13.5	7.0	-	-	-	660.5	
153	2	1043-3	MA28-a		2号	不明	無	壺		(6.9)	12.5	6.0	11.6	6.3	-	-	-	325.8	
153	3	1277	MB28-a		2号	不明	無	壺		5.1	10.0	4.1	8.6	4.1	-	-	-	206.0	
153	4	3149	LQ33		1号	不明	無	壺		7.0	15.3	5.4	9.1	6.0	-	-	-	300.6	
153	5	496	LN35-b		1号	不明	無	壺		12.7	15.0	5.0	15.5	11.1	-	-	-	660.1	
153	6	3072	LR35-d		1号	不明	無	壺		9.1	16.5	7.0	13.0	8.8	-	-	-	622.5	
153	7	3006	LQ33-d		1号	不明	無	壺		9.3	15.4	7.6	13.2	8.0	-	-	-	664.1	
153	8	540	LP34-a		1号	不明	無	壺		7.3	11.5	4.5	11.8	6.9	-	-	-	422.6	
153	9	1294	MA28-c		2号	不明	無	壺		7.2	12.6	5.0	11.1	6.3	-	-	-	397.4	
153	10	3102	MB27-d		2号	不明	無	壺		8.0	11.8	5.6	11.5	7.2	-	-	-	328.8	
153	11	1238	MA27-c		2号	不明	無	壺		欠	10.5	5.0	(10.0)	-	-	-	-	234.2	

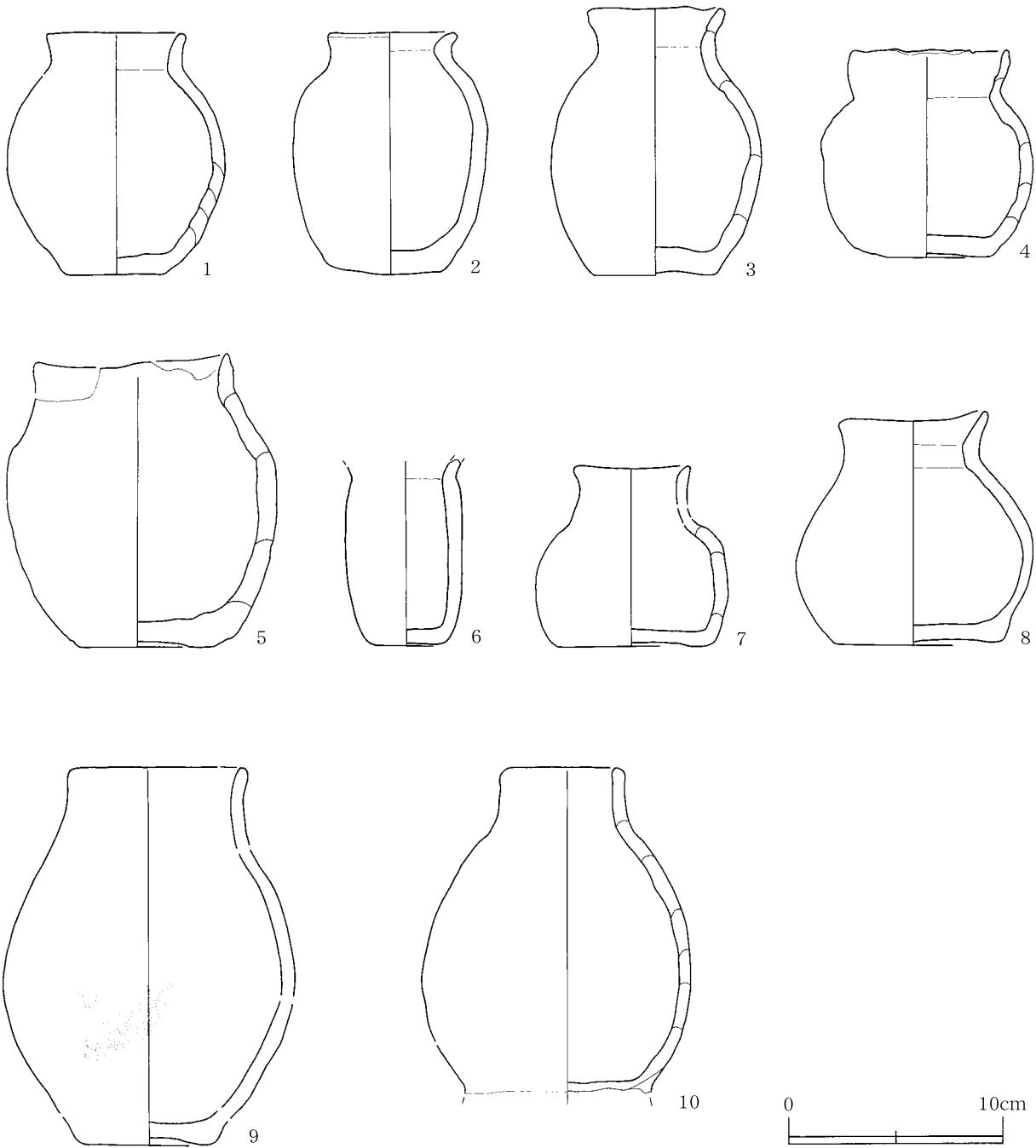
第153図 大洞式 壺 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
154	1	614	LQ33-d		1号	不明	無	壺		欠	21.6	(9.0)	(22.0)	(11.6)	-	-	-	1200.0	
154	2	3362	MB28-d		2号	不明	有	壺		(4.6)	4.8	2.2	6.4	(4.5)	-	-	-	54.2	
154	3	3356	MA28-b		2号	不明	無	壺		6.6	7.4	2.0	9.5	5.9	-	-	-	131.9	
154	4	3142	LR33-c		1号	不明	無	無文壺		(5.1)	7.8	3.7	7.6	(4.3)	-	-	-	87.8	
154	5	3134	LS36		1号	不明	無	無文壺		8.0	10.2	欠	11.2	6.0	-	-	-	163.3	
154	6	709	LQ35-a		1号	不明	無	無文壺		7.6	9.6	3.0	9.9	5.6	-	-	-	186.4	
154	7	1295	MA28-b		2号	不明	無	壺		8.4	17.3	5.1	15.0	6.8	-	-	-	670.5	
154	8	1026	MA27-c		2号	不明	無	壺		4.7	9.0	3.3	6.9	4.0	-	-	-	213.0	
154	9	3382	MB28-d		2号	不明	無	無文壺		欠	7.9	3.5	10.3	欠	-	-	-	185.6	
154	10	3056	LR33-c		1号	不明	有	無文壺		欠	8.0	4.0	(9.1)	-	-	-	-	117.4	
154	11	1125	MB29-a		2号	不明	無	無文壺		7.8	15.2	5.2	13.1	6.0	-	-	-	444.8	
154	12	1335	MA28-b		2号	不明	無	壺		8.0	9.8	5.4	9.9	6.9	-	-	-	215.6	
154	13	3338	MB28-b		2号	不明	無	無文壺		7.2	10.3	4.6	9.0	5.7	-	-	-	210.7	

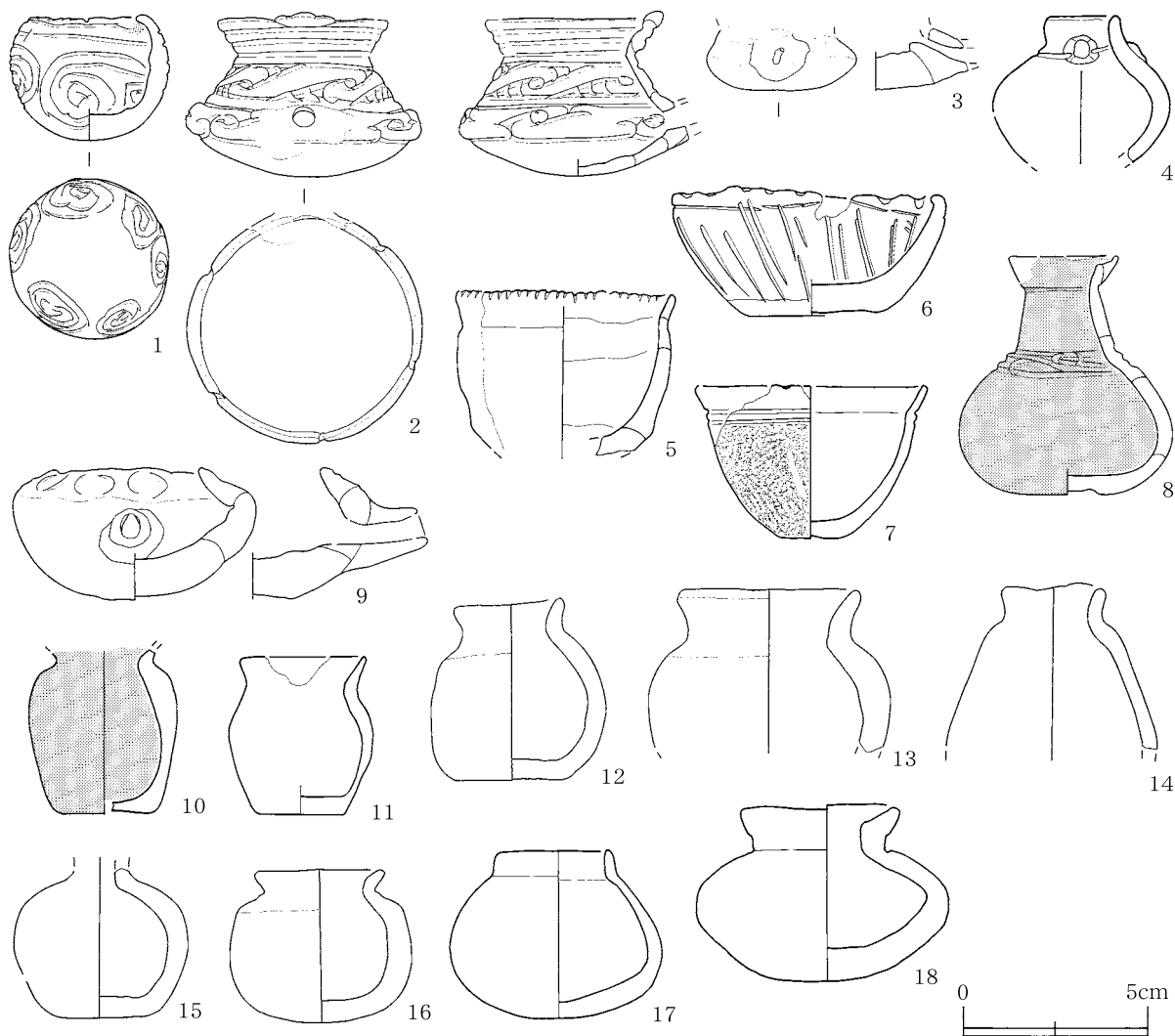
第154図 大洞式 壺 (2)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
155	1	1239	MA28-b		2号	不明	無	壺		(6.3)	11.2	4.4	10.0	(5.9)	-	-	-	240.1	
155	2	3086	LR35-a		1号	不明	無	壺		6.0	11.2	5.3	9.0	5.6	-	-	-	324.0	
155	3	636	LQ34-b		1号	不明	無	壺		6.4	12.5	5.7	9.9	5.5	-	-	-	396.5	
155	4	397	LR36-b		1号	不明	無	壺		7.3	9.6	4.8	9.8	6.8	-	-	-	299.4	
155	5	384	LQ35-d		1号	不明	無	壺		(8.8)	13.6	6.2	12.5	9.2	-	-	-	625.0	
155	6	3064	LP34-b		1号	不明	無	壺		欠	8.5	3.4	5.4	4.8	-	-	-	136.5	
155	7	3116	LT33-a		1号	不明	無	壺		5.5	8.4	7.1	9.0	5.0	-	-	-	214.5	
155	8	3013	LS35-b		1号	不明	無	壺		7.0	10.8	7.8	11.0	6.2	-	-	-	330.2	
155	9	1313	MB36		3号	不明	無	壺		8.3	17.4	5.7	13.5	8.0	-	-	-	562.3	アスファルト 付着
155	10	1312	MB36		3号	不明	無	壺		(5.8)	15.1	欠	(12.5)	-	-	-	-	298.5	

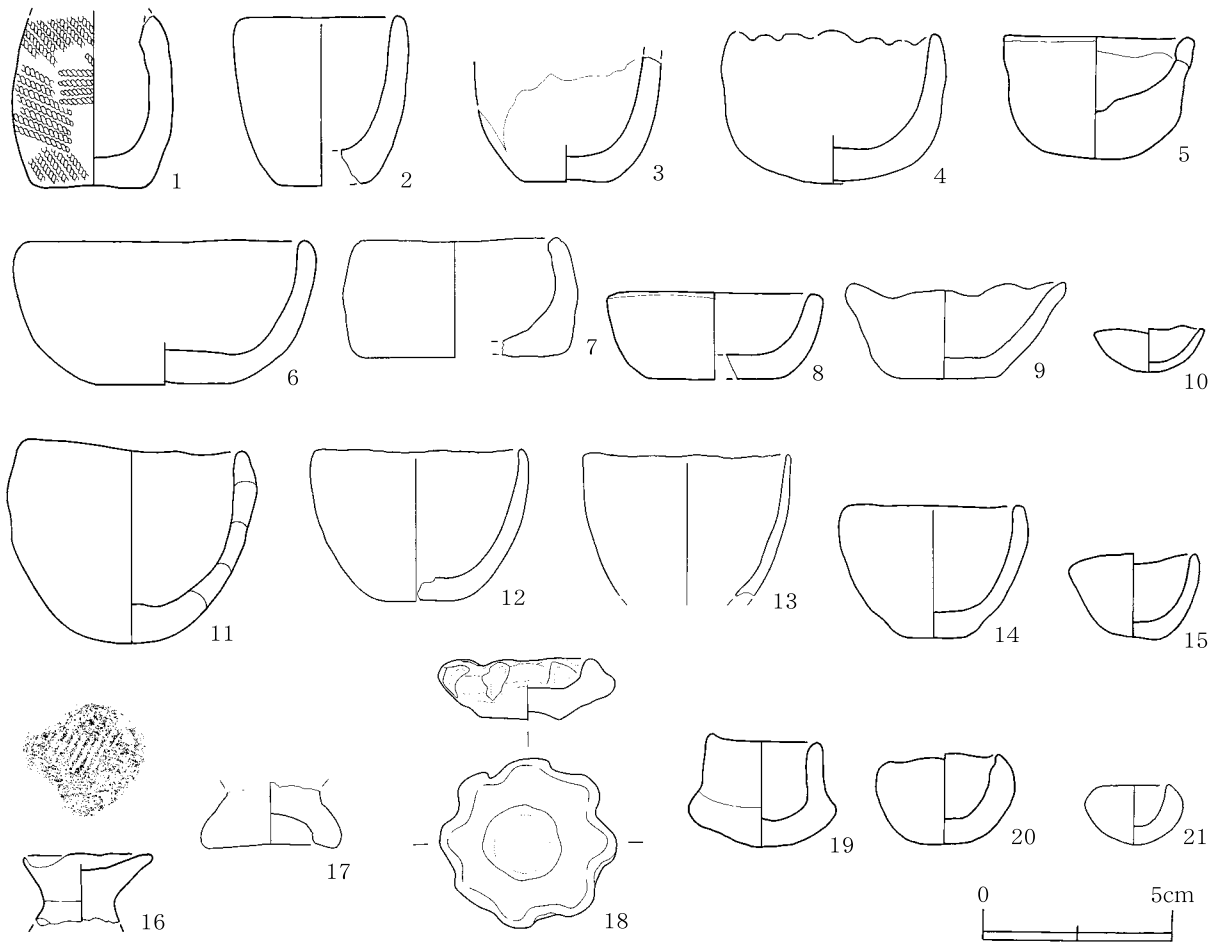
第155図 大洞式 壺 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	胴部高	台部高	胴部 底径	重量	備考
156	1	327	LP35-c		1号	B C	有	ミニチュア		3.3	3.5	丸	4.4	-	-	-	-	31.9	鉢
156	2	1292	MA28-c		2号	B C	無	ミニチュア		4.6	4.5	丸	6.4	3.3	-	-	-	41.7	注口
156	3	1176	MA26-c		2号	C1	無	ミニチュア		欠	1.8	2.0	4.1	-	-	-	-	17.1	注口
156	4	3465	LN35		1号	C1	無	ミニチュア		2.0	4.0	欠	4.8	2.1	-	-	-	27.3	壺
156	5	3479	MA28-c		2号	C1	無	ミニチュア		(6.0)	4.4	欠	-	-	-	-	-	13.2	鉢
156	6	3467	LS34-c		1号	C1	無	ミニチュア		7.5	3.5	3.6	-	-	-	-	-	71.0	鉢
156	7	3478	LP35-a		1号	C1	無	ミニチュア		(6.3)	4.2	1.6	-	-	-	-	-	24.1	鉢
156	8	1213	MA28-c		2号	C1	有	ミニチュア		2.9	6.5	1.4	5.7	1.9	-	-	-	55.9	壺
156	9	204	LQ33-d		1号	不明	無	ミニチュア		4.2	3.6	丸	6.6	-	-	-	-	79.3	注口
156	10	3513	MH35		4号	不明	有	ミニチュア		欠	4.4	(2.5)	(4.0)	(2.6)	-	-	-	12.5	壺
156	11	3458	LQ34-b		1号	不明	無	ミニチュア		3.4	4.3	2.3	3.9	2.9	-	-	-	27.9	壺
156	12	3464	LO36-b		1号	不明	無	ミニチュア		3.1	4.9	3.2	4.8	2.8	-	-	-	51.2	壺
156	13	3482	LQ35-a		1号	不明	無	ミニチュア		(5.0)	4.4	欠	(6.6)	(4.4)	-	-	-	20.7	壺
156	14	3471	LP35-d		1号	不明	無	ミニチュア		(2.8)	4.5	欠	(5.8)	(2.6)	-	-	-	11.7	壺
156	15	3469	LS35-c		1号	不明	無	ミニチュア		欠	4.0	2.6	(4.8)	(1.5)	-	-	-	35.0	壺
156	16	3470	LR33-d		1号	不明	無	ミニチュア		(3.6)	4.2	(1.5)	(5.0)	(3.1)	-	-	-	30.6	壺
156	17	1245	MA28-b		2号	不明	無	ミニチュア		3.1	4.6	丸	5.8	-	-	-	-	52.8	壺
156	18	3151	LP35-d		1号	不明	無	ミニチュア		4.3	4.9	2.0	6.9	3.6	-	-	-	64.3	壺

第156図 大洞BC・C1式 ミニチュア土器 (1)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	胴部高	台部高	胴部底径	重量	備考
157	1	3468	LO35-d		1号	不明	無	ミニチュア		欠	4.6	2.6	4.2	-	-	-	-	28.4	鉢
157	2	3473	LP35-d		1号	不明	無	ミニチュア		(4.6)	4.5	(2.3)	-	-	-	-	-	18.5	鉢
157	3	3472	LR32-d		1号	不明	無	ミニチュア		欠	3.4	2.4	-	-	-	-	-	28.3	鉢
157	4	3474	LQ34-b		1号	不明	無	ミニチュア		(5.3)	4.0	丸	(6.0)	-	-	-	-	35.0	鉢
157	5	3466	LQ35-a		1号	不明	無	ミニチュア		(5.1)	3.3	1.9	-	-	-	-	-	42.2	鉢
157	6	3476	LQ34-d		1号	不明	無	ミニチュア		(7.6)	3.8	(3.7)	(8.0)	-	-	-	-	31.8	鉢
157	7	554	LQ35-d		1号	不明	無	ミニチュア		(5.3)	3.1	(5.5)	(6.3)	-	-	-	-	14.7	鉢
157	8	3475	LP36-a		1号	不明	無	ミニチュア		(5.8)	2.3	(3.6)	-	-	-	-	-	18.3	鉢
157	9	182	LP34-d		1号	不明	無	ミニチュア		5.8	2.5	2.8	-	-	-	-	-	25.5	鉢
157	10	3462	MA28-b		2号	不明	無	ミニチュア		2.9	1.2	丸	-	-	-	-	-	2.9	鉢
157	11	3446	LP34-b		1号	不明	無	ミニチュア		6.1	5.4	丸	-	-	-	-	-	78.7	鉢
157	12	3481	LO33-d		1号	不明	無	ミニチュア		(5.6)	4.0	(1.8)	-	-	-	-	-	17.6	鉢
157	13	3477	LO35-d		1号	不明	無	ミニチュア		(5.5)	3.7	欠	-	-	-	-	-	12.4	鉢
157	14	3480	LN36-b		1号	不明	無	ミニチュア		(4.7)	3.5	1.6	(5.0)	-	-	-	-	14.3	鉢
157	15	3463	LP34-b		1号	不明	無	ミニチュア		3.5	2.3	丸	-	-	-	-	-	13.4	鉢
157	16	3504	LP35-d		1号	不明	無	ミニチュア		3.4	1.8	欠	-	-	1.2	0.6	1.9	11.4	台付鉢
157	17	1275	MA28-c		2号	不明	無	ミニチュア		欠	1.8	2.4	-	-	欠	1.8	3.7	15.3	台付鉢
157	18	3459	LQ35-b		1号	不明	無	ミニチュア		3.7	1.6	2.1	4.7	-	-	-	-	21.6	皿
157	19	3461	LO36-c		1号	不明	無	ミニチュア		3.1	3.1	丸	3.9	-	-	-	-	22.8	鉢
157	20	3460	LS36		1号	不明	無	ミニチュア		2.9	2.4	1.3	3.7	-	-	-	-	21.2	鉢
157	21	3509	排土	-	-	不明	無	ミニチュア		(2.0)	1.6	丸	2.6	-	-	-	-	7.4	鉢

第157図 大洞式 ミニチュア土器 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	幅	厚さ	胸部 底径	重量	備考
158	1	3488	MB29-b	2号	B C	有	土偶		-	5.3	-	-	-	9.2	4.0	-	110.7	顔面残存	
158	2	146-2	LP35-c	1号	B C	無	土偶		-	7.6	-	-	-	5.9	1.9	-	52.2	両腕・左脚欠損	
158	3	3501	LT34-a	1号	B C	無	土偶		-	9.6	-	-	-	5.4	1.8	-	63.8	右腕・脚欠損	
158	4	246	LQ34-b	1号	B C	無	土偶		-	7.8	-	-	-	8.6	3.9	-	76.1	頭・胸部・右腕残存	

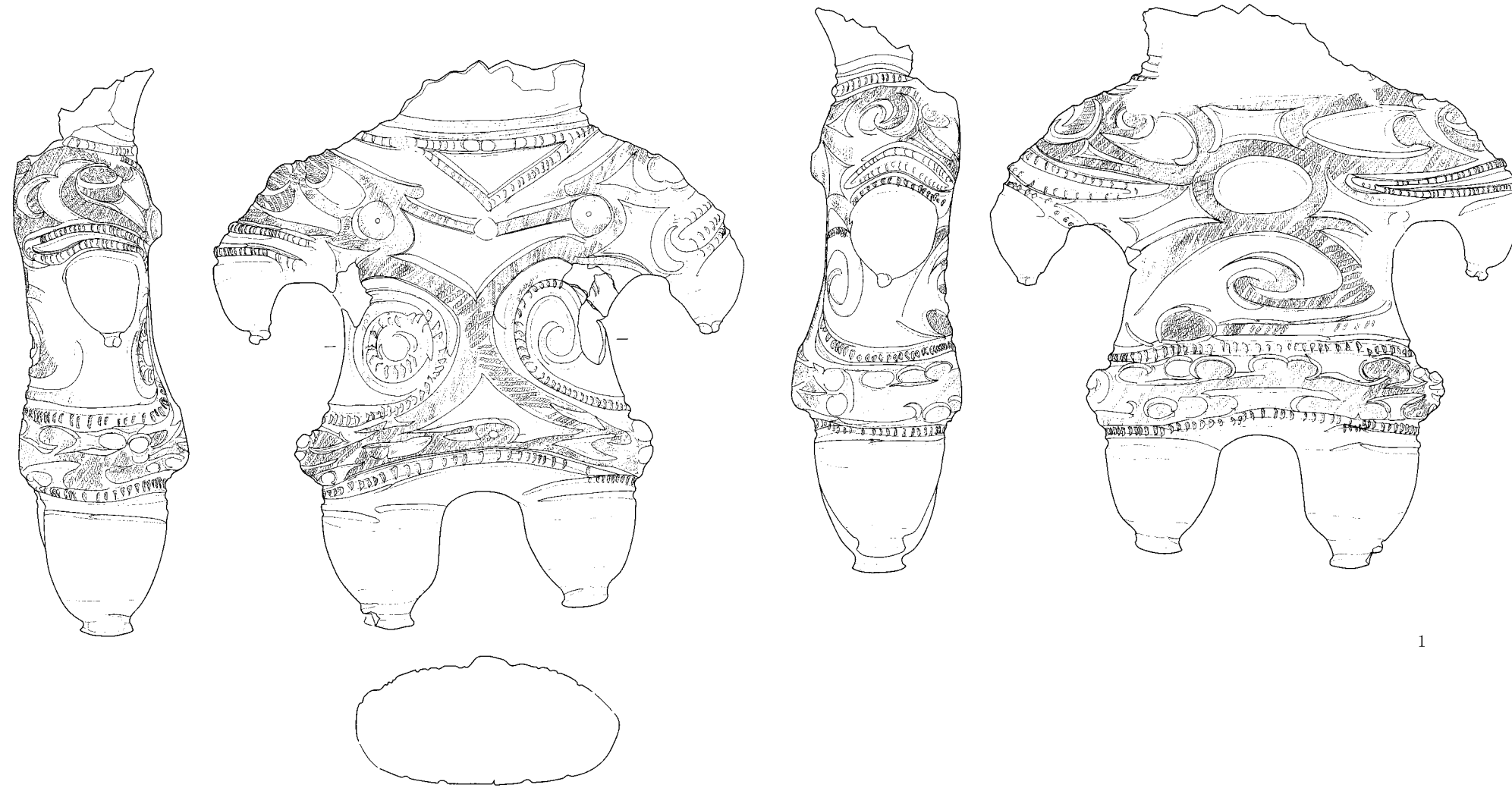
第158図 大洞BC式 土偶 (1)



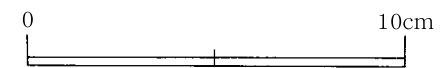
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胴径	最小頸径	幅	厚さ	胴部底径	重量	備考
159	1	3500	LR34-a		1号	BC	無	土偶		-	12.8	-	-	-	8.4	3.3	-	217.9	頭部・両腕欠損

第159図 大洞BC式 土偶 (2)

- 註1 山内清男 (1930)「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第1巻3号東京考古学会
山内清男 (1967)『日本先史土器図譜 - 図版・解説 - 』(再版・合冊) 先史考古学会
- 註2 高橋龍三郎 (1981)「亀ヶ岡式土器の研究 - 青森県南津軽郡浪岡町細野遺跡の土器について - 」『北奥古代文化』第12号 1 - 51 p . 北奥古代文化研究会
高橋龍三郎 (1999)「東北地方晩期 (亀ヶ岡式土器) 」『縄文時代』第10号 178 - 196 p . 縄文時代文化研究会
- 註3 金子昭彦 (1991)「大洞B₂式の磨消縄文について (上) - 東北地方北部を中心として - 」『研究紀要』XI 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦 (1992)「大洞B₂式の磨消縄文について (中) - 東北地方北部を中心として - 」『研究紀要』XII 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦 (1993)「大洞B₂式の磨消縄文について (下) - 東北地方北部を中心として - 」『研究紀要』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 註4 鈴木加津子 (1993)「真福寺小考 - 安行式と亀ヶ岡式における編年と分布の推敲 - 」『埼玉考古』第30号 15 - 92 p .
鈴木加津子 (2004)「秋田県戸平川遺跡における大洞C₁式終末期から大洞C₂式 (期) への移行」『第17回縄文セミナー-晩期中葉の再検討』2004年2月7・8日 当日資料 .
- 註5 小林圭一 (2003)「東北北半における縄文晩期前葉の注口土器」『研究紀要』創刊号 1 - 44 p . 169 p . 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 註6 白鳥文雄 (2000)「縄文時代の灯明具? - 小型土器の用途について - 」『青森県埋蔵文化財調査センター 研究紀要』第5号

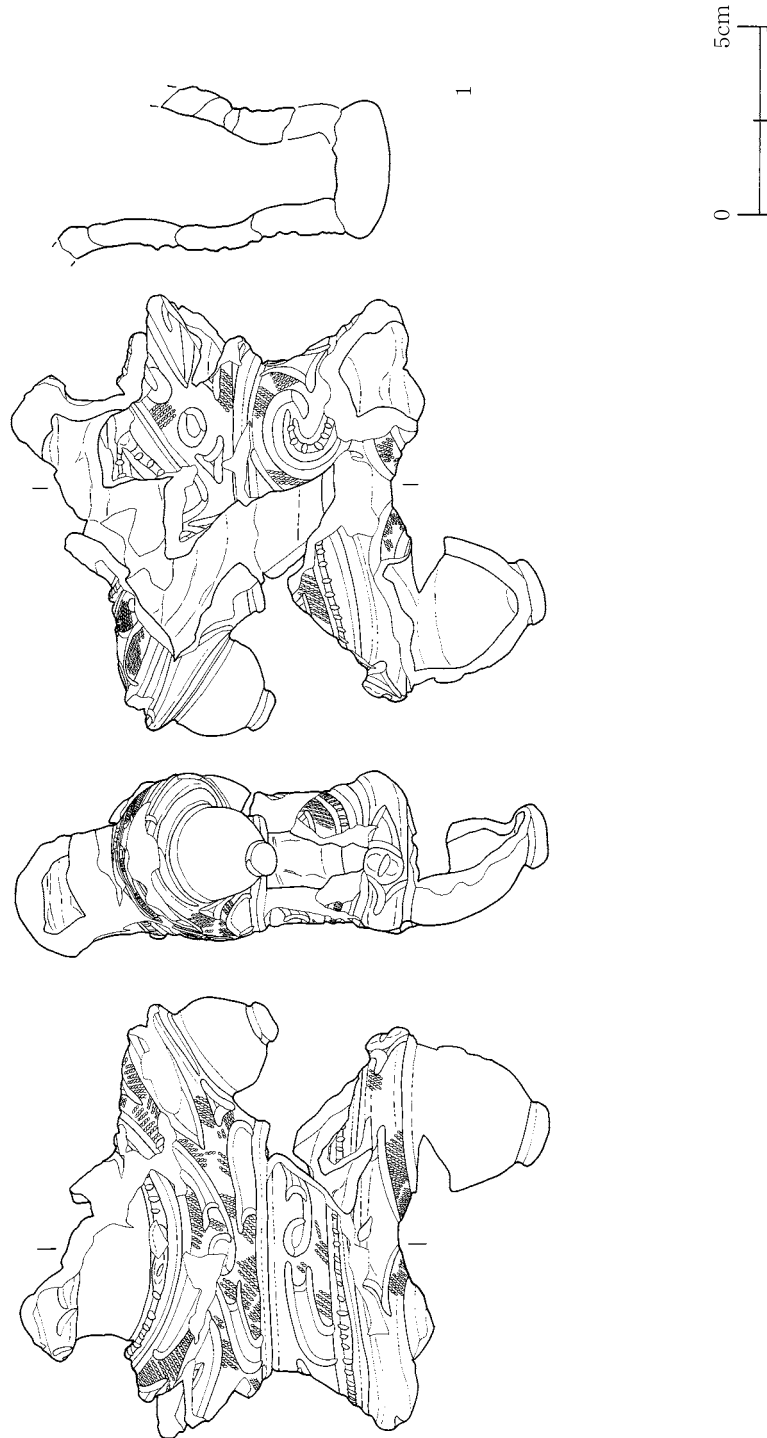


1



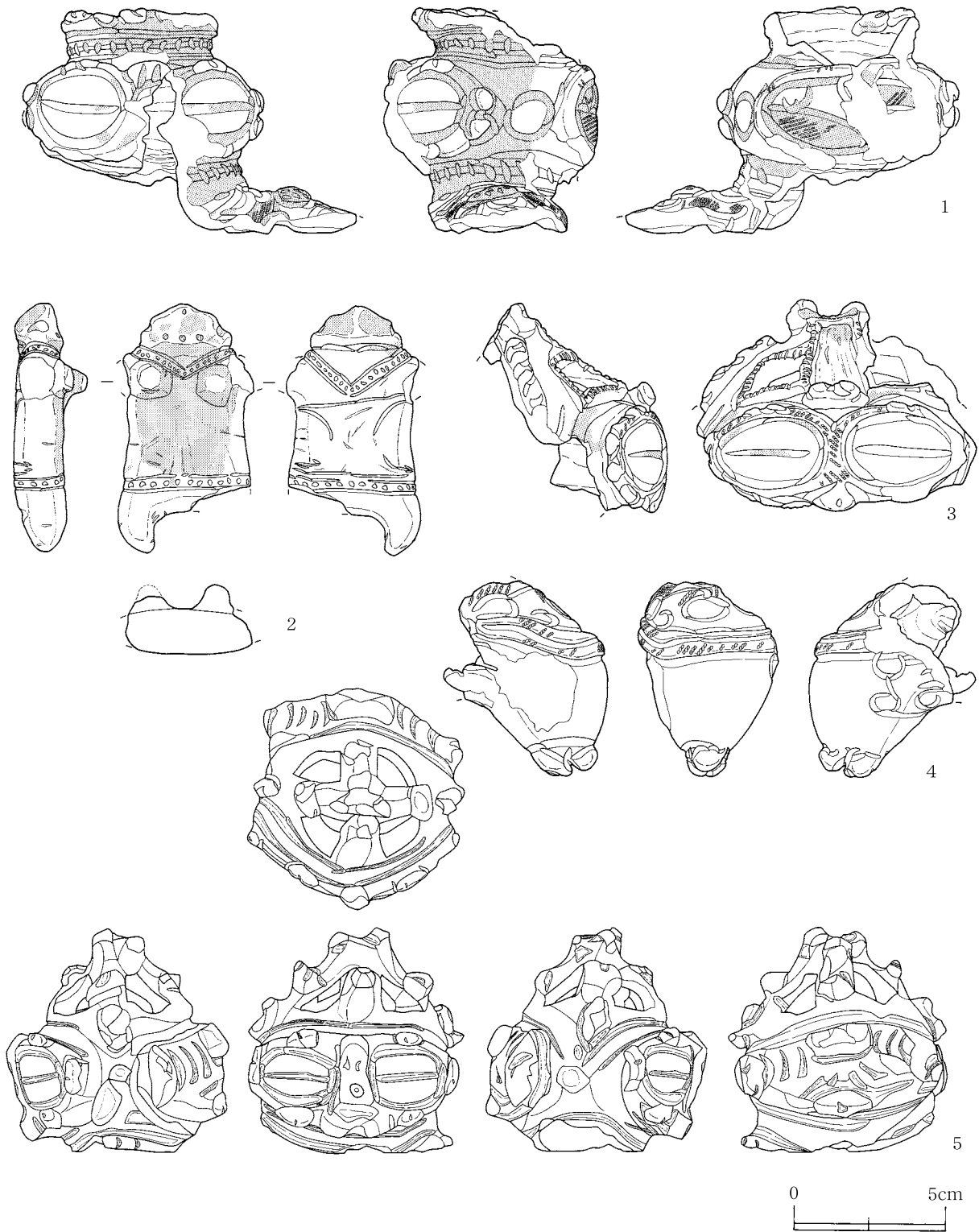
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	幅	厚さ	胴部 底径	重量	備考
160	1	1227	MA28-d		2号	C ₁	無	土偶		-	20.0	-	-	-	18.6	5.9	-	499.9	頭部欠損

第160図 大洞C₁式 土偶 (1)



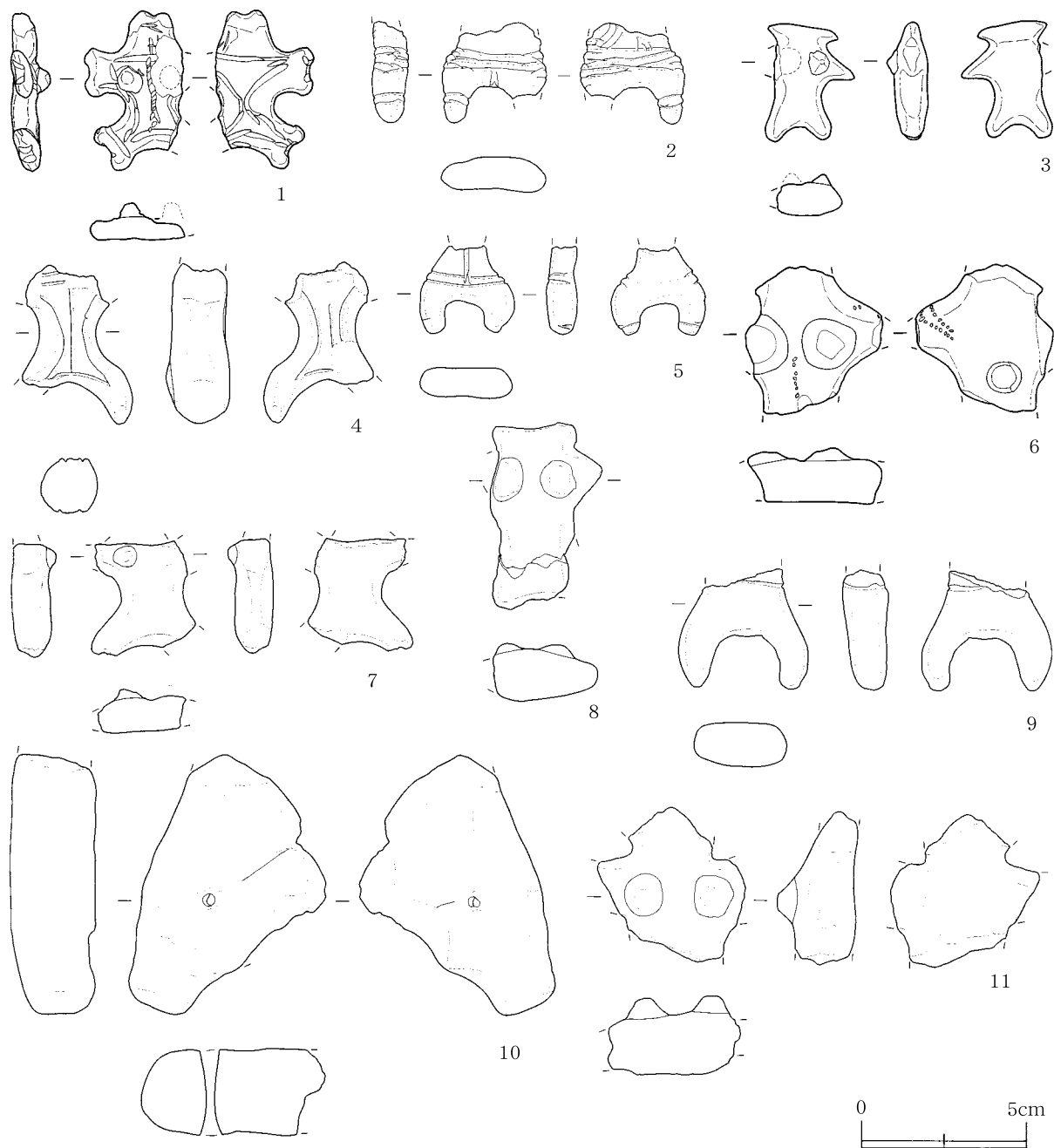
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	幅	厚さ	胴部 底径	重量	備考
161	1	3489	LP36-b		1号	C1	無	土偶		-	14.1	-	-	-	11.7	4.4	-	195.9	胴部・右腕・脚 欠損

第161図 大洞C1式 土偶 (2)



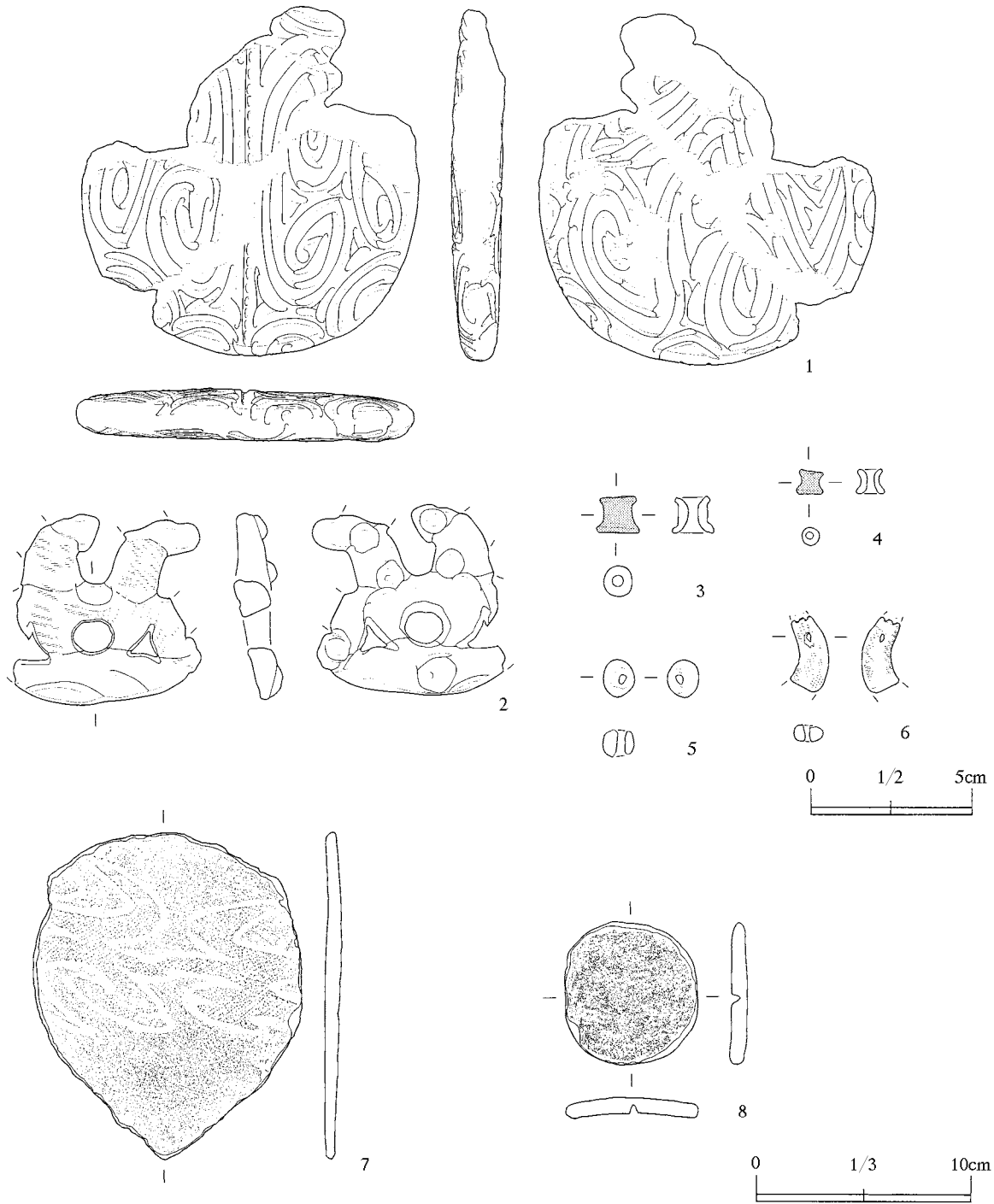
図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大 胴径	最小 頸径	幅	厚さ	胴部 底径	重量	備考
162	1	518	LQ34-a		1号	C ₁	有	土偶		-	7.4	-	-	-	7.9	7.0	-	129.9	頭・肩一部残存
162	2	3502	LP34-d		1号	C ₁	有	土偶		-	8.2	-	-	-	4.1	2.3	-	50.2	両腕・左脚欠損
162	3	321	LP35-b		1号	C ₁	有	土偶		-	6.9	-	-	-	9.1	6.0	-	72.7	顔面残存
162	4	217	LR33-b		1号	C ₁	無	土偶		-	6.4	-	-	-	5.4	4.6	-	60.4	脚部残存
162	5	146-1	LP35-c		1号	C ₁	無	土偶		-	7.4	-	-	-	7.2	7.3	-	153.5	頭部残存

第162図 大洞C₁式 土偶 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	器高	底径	最大胸径	最小頸径	幅	厚さ	胸部底径	重量	備考
163	1	3499	LQ34-c	1号	1号	不明	無	土偶		-	4.8	-	-	-	3.0	1.2	-	8.8	左腕・脚欠損
163	2	456	LO34-d	1号	1号	不明	無	土偶		-	3.0	-	-	-	3.2	1.1	-	7.9	腰部・左脚残存
163	3	3492	LN34-a	1号	1号	不明	無	土偶		-	3.6	-	-	-	2.7	1.3	-	6.8	右腕欠損
163	4	3498	LO35-a	1号	1号	不明	無	土偶		-	4.8	-	-	-	3.4	2.0	-	18.5	胸部・左脚残存
163	5	3494	LS35-c	1号	1号	不明	無	土偶		-	2.6	-	-	-	3.0	1.0	-	6.0	腰部・両脚残存
163	6	3490	LO35-b	1号	1号	不明	無	土偶		-	4.4	-	-	-	4.2	1.7	-	24.9	胸部残存
163	7	3495	LQ36-d	1号	1号	不明	無	土偶		-	3.4	-	-	-	3.2	1.4	-	12.5	頭部・左腕・脚欠損
163	8	3491	LR38	1号	1号	不明	無	土偶		-	5.1	-	-	-	3.2	1.8	-	27.4	右腕欠損
163	9	3497	LP36-c	1号	1号	不明	無	土偶		-	3.6	-	-	-	4.0	1.4	-	13.8	腰部・両脚残存
163	10	3493	LN37	1号	1号	不明	無	土偶		-	7.9	-	-	-	5.7	2.6	-	80.0	右脚残存 穿孔1ヶ所
163	11	3496	LT34-d	1号	1号	不明	無	土偶		-	4.6	-	-	-	4.5	2.4	-	28.7	胸部残存

第163図 大洞式 土偶 (1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	捨て場	型式	朱塗り	器種	側面	口径	長さ	底径	最大胴径	最小頸径	幅	厚さ	胴部底径	重量	備考
164	1	3485	LO35-d		1号	BC	無	土製品		-	10.9	-	-	-	10.5	1.6	-	133.8	土版
164	2	3484	LS39-d		外	C1	無	土製品		-	5.9	-	-	-	5.9	1.4	-	31.3	装身具?
164	3	3505	不明	不明	不明	不明	有	土製品		-	1.15	-	-	-	1.3	-	-	1.1	耳飾
164	4	3506	不明	不明	不明	不明	有	土製品		-	0.75	-	-	-	0.85	-	-	0.4	耳飾
164	5	3508	LO33-b		1号	不明	無	土製品		-	1.15	-	-	-	0.95	0.85	-	0.8	玉
164	6	3507	不明	不明	不明	不明	無	土製品		-	2.35	-	-	-	1.0	0.5	-	1.4	勾玉
164	7	3486	LS36-a		1号	C2	無	土製品		-	15.1	-	-	-	12.3	0.7	-	148.7	円盤状土製品
164	8	3487	LP34-a		1号	不明	無	土製品		-	6.5	-	-	-	6.1	0.7	-	38.2	円盤状土製品

第164図 大洞BC・C1・C2式 土製品 (1)

第4節 縄文時代晩期の石器・石製品

1 概要

縄文時代晩期の石器は、全部で83,529点出土している。99%以上がグリッド毎の一括資料として取り上げられているため、共伴した土器の細別型式による時期限定が出来ない。遺跡全体の土器出土状況から、大洞B2式から大洞C2式までの間で、特に大洞BC式から大洞C1式に伴う石器群と考える。

出土した83,529点の内訳を、第25表に示した。これらの石器を機能別に大きく分類すると、狩猟具、加工具（土掘具・伐採具・工具）、調理具、祭祀具、装身具、素材と6大別できる。

狩猟具とは石鏃・尖頭器である。伐採具とは磨製石斧である。工具とは、スクレイパー、礫器、抉入石器、敲石である。土掘具は工具に含めて計算している。調理具とは、石皿、磨石、凹石である。祭祀具とは石棒・石剣・岩版である。装身具とは有孔石製品である。そして素材には、石器素材と顔料素材があり、いずれも原石・剥片・石核で構成される。チップは剥片に含めた。顔料素材には、楔形石器も含む。これら顔料素材は、器種分類・数値分析に当たり、石器素材とは分類を別にした。

素材が全体の73,591点88.1%を占めている。ここから石核1,108点を除くと、剥片類は72,483点86.8%である。剥片の数量が圧倒的に多いので、石器組成の数量分析結果がわかりにくくなる。そこで、以下素材の内、石核を素材の代表として石器とともに組成の数的な分析を行う。したがって石器と石核を合わせた11,046点13.2%が組成分析の対象となる。剥片類については、別に分析する。

機能別数量比による内訳は、石核1,108点10.0%、狩猟具993点9.0%、伐採具87点0.8%、工具6,394

第25表 石器組成と順位

a (石器組成)

種類	個数	機能
石鏃	875	狩猟具
尖頭器	118	狩猟具
石鏃・土掘具	16	工具
磨製石斧	87	工具
スクレイパー	3074	工具
CSC	515	工具
鋸歯縁石器	83	工具
抉入石器	187	工具
石匙	536	工具
石篋	128	工具
石錐	957	工具
楔形石器	533	工具
礫器	80	工具
敲石	274	工具
石皿・台石	96	工具・調理具
磨石	396	調理具
凹石	56	調理具
石棒・石剣	146	祭祀具
玉・異形石器	83	祭祀具
円盤状石製品	90	祭祀具
赤礫	1264	顔料素材
剥片	49700	素材
R.F.	13909	素材
U.F.	8874	素材
石核	1108	素材
その他	344	その他
合計	83529	

b (順位)

器種	個数	機能	%	修正ウェーバー値	順位
スクレイパー	3074	工具	27.83	5208.642	1
赤礫	1264	顔料素材	11.44	1978.188	2
石錐	957	工具	8.664	1118.068	3
石鏃	875	狩猟具	7.921	750.3447	4
敲石・磨石	670	調理具・工具	6.066	603.087	5
石匙	536	工具	4.852	544.3711	6
楔形石器	533	工具	4.825	509.6718	7
CSC	515	工具	4.662	491.9959	8
抉入石器	187	工具	1.693	530.1939	
石棒・石剣	146	祭祀具	1.322		
石篋	128	工具	1.159		
尖頭器	118	狩猟具	1.068		
磨製石斧	87	伐採具	0.788		
石皿・台石	96	調理具・工具	0.869		
円盤状石製品	90	祭祀具	0.824		
鋸歯縁石器	83	工具	0.751		
礫器	80	工具	0.724		
凹石	56	調理具	0.507		
異形石器	54	祭祀具	0.489		
有孔石製品	29	装身具	0.263		
その他	344	その他	3.114		

加工痕のある剥片はR.F.とする。
使用痕のある剥片はU.F.とする。

第2章 捨て場と遺物

点57.9%、調理具537点4.9%、祭祀具290点2.6%、装身具29点0.3%、赤礫1,264点11.4%、その他344点3.1%である（第25表）。

本遺跡石器組成の大きな特徴は、工具と赤礫が主体（第25表、修正ウェーバー値第1位と2位）となり、伐採具が異常に少ない石器組成を示すことにある。他遺跡では注意されない赤礫が2位となることは、特筆に値する。そして、狩猟具、調理具がそれぞれ1割弱、祭祀具、装身具も一定の割合で含まれることに注目したい。素材と赤礫を除いて主体器種を求めると、第1位の工具のみとなる。

次に個別器種ごとの主体に分けると、主体器種は8種類（1位から8位まで）となる。1位からスクレイパー（工具）、赤礫（顔料素材）、石錐（工具）、石鏃（狩猟具）、敲石・磨石（調理具）、石匙（工具）、楔形石器（工具）、コア・スクレイパー（工具）があげられる。5種類の工具、他は狩猟具、顔料素材（赤礫）、調理具が1種類ずつという内訳になる。赤礫以外は、縄文時代にごく一般的な石器である。3・4位に石錐と石鏃が上がっている点が注目される。これらは両者とも尖頭部を持つ石器であり、刺突・穿孔の機能を持つ。

機能部位に注目すれば、削る・こそぐ・こじるのはスクレイパーと石匙、抉る・刺す・穴あけは石鏃と石錐、砕く・潰す・磨るは敲石・磨石、割り剥がすのが楔形石器と、基本的な機能はほぼカバーしている。

2 狩猟具

（1）石鏃

全部で875点出土している。分類法は第165図に示した。茎部の有無によって有茎鏃と無茎鏃とに2大別し、それぞれを背面に対する側縁の形態、基部と茎部の接合部分の形態によって細別した。また、アスファルト付着の有無によって「完成品」と「非完成品」とし、破損品については「完成後破損品」と「非完成破損品」に分けた。この「非完成破損品」中には、阿部^{註1}が指摘した「失敗作」・「習作」と所謂「未製品」が含まれる。阿部（計測点は凡例に記載）に従い、アスファルト付着の有無による「製作者達にとっての完成品と非完成品」を識別することを試みた。考古学におけるイーミック^{註2}への接近を目指すものである。




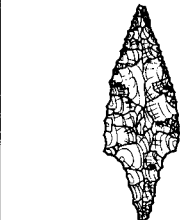






有茎鏃は865点98.8%、無茎鏃は10点1.2%出土している。圧倒的に有茎鏃が多いのは、縄文時代後期十腰内1式以後顕著となる特徴である。

使用石材は、総数875点中709点81.0%分について観察しえた。硬質頁岩677点95.5%、玉髓29点4.1%、片麻岩2点0.3%、瑪瑙1点0.1%である（第28表）。

総数875点出土した内、アスファルトが付着したものは175点20.0%である。アスファルトが付着した石鏃のうち、完形品は118点67.4%となる。これら118点を、縄文人達が一応の完成品と認識して矢柄に結合したものと考え、アスファルトの付着していない石鏃と形態比較する。石鏃各部位に対する計測点の選定とその計測方法は、阿部に従う（計測点は凡例に示した）。上記アスファルトが付着した完成品石鏃118点中87点73.7%を、阿部の計測法により詳細に分析した。完成品石鏃の基礎データにおける、サイズの特徴は以下の通りとなる。

完成品石鏃の長さは、最大61.1mm、最小19.7mm、平均35.1mmで、39.0mmのものが7点8.0%と最頻値をしめす。幅は、最大17.5mm、最小8.2mm、平均13.4mmで、13.9～14.0mmのものが22点25.3%と最頻値

石鏃の分類

茎の有無	基部の形	側面の形	身の形
 茎無し0	凹A 	 直線 I	 正三角形 a
	平B 		
 茎有1	凸C 	 内湾 III	 二等辺三角形 b
	尖D 		

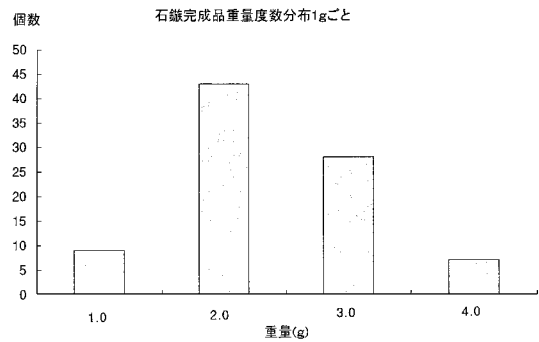
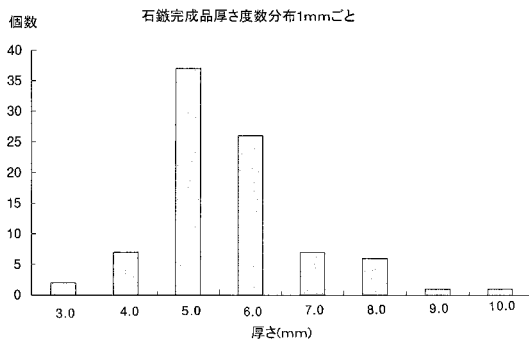
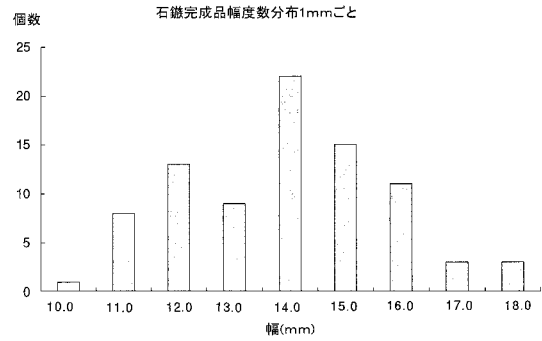
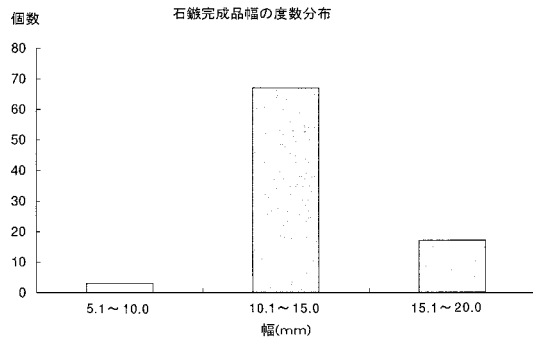
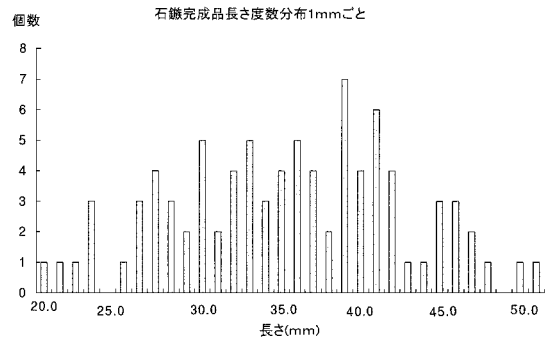
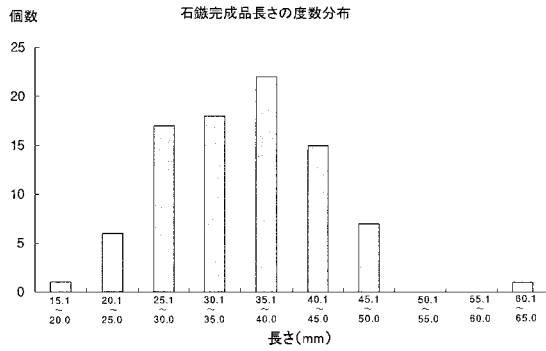
第165図 石鏃の分類

を示す。厚さは、最大9.2mm、最小2.4mm、平均5.2mmで、4.1~5.0mmのものが37点42.5%と最頻値を示す。重量は、最大4.0g、最小0.7g、平均1.9gで、1.1~2.0gのものが43点49.4%と最頻値を示す。石鏃の各サイズ分布は、第166~167図・第26表に示した。

次に非完成品についてのデータを示す。長さは、最大64.3mm、最小17.0mm、平均35.7mmで、36.1~37.0mmのものが29点7.6%と最頻値を示す。幅は、最大35.0mm、最小6.5mm、平均13.7mmで、14.1~15.0mmのものが59点15.5%と最頻値を示す。厚さは、最大12.4mm、最小2.4mm、平均5.7mmで、4.1~5.0mmのものが104点27.4%と最頻値を示す。重量は、最大9.8g、最小0.5g、平均2.2gで、1.1~2.0gのものが166点43.7%と最頻値を示す。非完成品石鏃の各サイズ分布は、第168図・第51表に示した。

第26・51表から、完成品・非完成品の各サイズ計測値には大きな違いがある。これらの違いには意

第2章 捨て場と遺物



第26表 アスファルト付着石鏝完形品サイズの特徴 (全87点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	35.127586	13.394253	5.2137931	1.9436782
最大値	61.1	17.5	9.2	4
最小値	19.7	8.2	2.4	0.7
範囲	41.4	9.3	6.8	3.3
最頻値	39.0mm	14.0mm	5.0mm	2g
最頻値個数	7	22	37	43
最頻値%	8.045977	25.287356	42.528736	49.425287
分散	56.613881	3.6107805	1.3993424	0.5996979
標準偏差	7.5242196	1.9002054	1.182938	0.7744017
尖度	0.4867126	-0.213304	1.9113947	0.2523951
歪度	0.2585816	-0.255159	0.8593234	0.7501825

第27表 石鏝完形品・破損品とアスファルト付着

アスファルト	あり	%	なし	%	合計(%)
完形	118	67.428571	380	55.072464	498(57.6%)
破損	57	32.571429	310	44.927536	367(42.4%)
合計	175	20.231214	690	79.768786	865(100%)

完形アスファルト付きで微細形態を記載していないもの31点

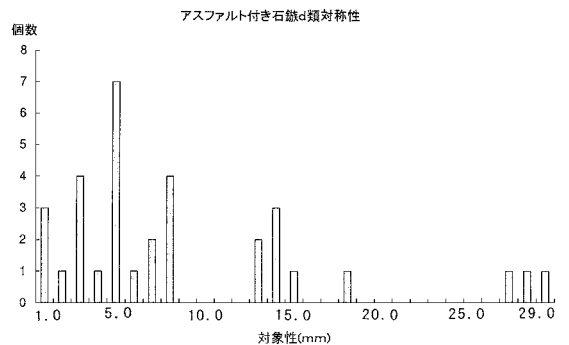
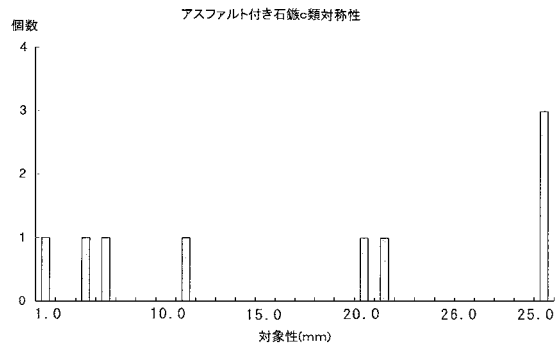
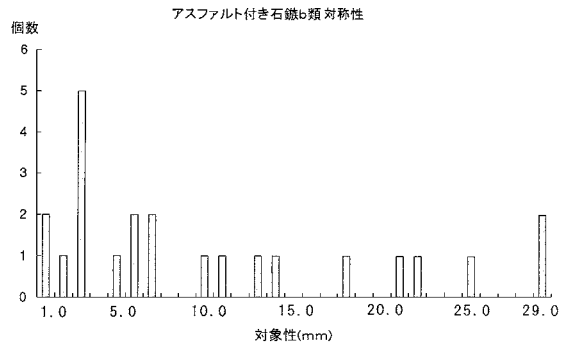
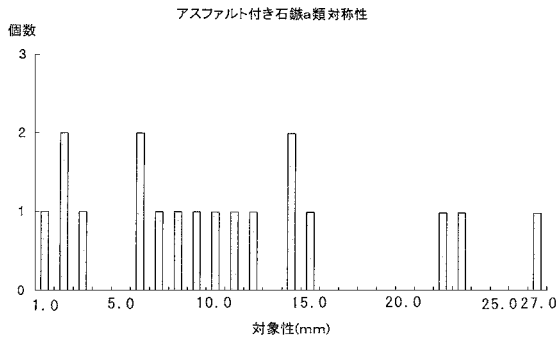
第28表 石鏝の石材

石鏝の石材	個数	%
頁岩	677	95.486601
玉髓	29	4.090268
片麻岩	2	0.2820874
瑪瑙	1	0.1410437
合計	709	100

第29表 アスファルト付着部分

残存部位	個数	%
先端のみ	7	12.280702
胴部のみ	1	1.754386
胴・基部	12	21.052632
先端僅欠	3	5.2631579
先・基部僅欠	5	8.7719298
基部僅欠	17	29.824561
側面欠損	6	10.526316
不明	6	10.526316
合計	57	100

第166図 アスファルト付着石鏝サイズの特徴



第30表 アスファルト付着石鏃対称性の基礎統計

	a類(18点)	b類(23点)	c類(9点)	d類(33点)
平均	0.0980066	0.2440664	0.2120092	0.153991
最大値	0.2682927	2.2888889	2.5757576	0.3116883
最小値	-0.055556	0.006135	0.0377358	0
範囲	0.3238482	2.2827539	2.5380217	0.3116883
分散	0.0065867	0.2173514	0.6600623	0.0061762
標準偏差	0.0811584	0.4662096	0.8124422	0.0785886
尖度	0.1762871	21.049317	8.652592	2.0958667
歪度	0.376279	4.5112364	2.9220217	1.5759297

第31表 アスファルト付着石鏃側面形態多様度

側面形態	個数	a:log2(X)	比率	c:a*b
直線	65	-1.387023	0.3823529	-0.530332
凸カーブ	79	-1.10561	0.4647059	-0.513784
凹カーブ	26	-2.708951	0.1529412	-0.41431
合計	170			

多様度H'	1.4584261
H'max	1.5849625
公平度E	0.9201644

第32表 アスファルト付着石鏃破損形態多様度

残存部位	個数	a:log2(X)	%	c:a*b
先端のみ	7	-3.025535	0.122807	-0.371557
胴部のみ	1	-5.83289	0.0175439	-0.102331
胴・基部	12	-2.247928	0.2105263	-0.473248
先端僅欠	3	-4.247928	0.0526316	-0.223575
先・基部僅欠	5	-3.510962	0.0877193	-0.307979
基部僅欠	17	-1.745427	0.2982456	-0.520566
側面欠損	6	-3.247928	0.1052632	-0.341887
不明	6	-3.247928	0.1052632	-0.341887
合計	57			1

多様度H'	2.6830307
H'max	3
公平度E	0.8943436

第33表 アスファルト付着石鏃破損形態多様度 (不明除分)

残存部位	個数	a:log2(X)	%	c:a*b
先端のみ	7	-2.86507	0.1372549	-0.393245
胴部のみ	1	-5.672425	0.0196078	-0.111224
胴・基部	12	-2.087463	0.2352941	-0.491168
先端僅欠	3	-4.087463	0.0588235	-0.240439
先・基部僅欠	5	-3.350497	0.0980392	-0.32848
基部僅欠	17	-1.584963	0.3333333	-0.528321
側面欠損	6	-3.087463	0.1176471	-0.363231
合計	51			1

多様度H'	2.4561076
H'max	2.8073549
公平度E	0.8748832

第34表 アスファルト付着石鏃の対称性度数分布

対象性(mm)	a類(18点)	b類(23点)	c類(9点)	d類(33点)	合計(83点)
0.01~0.05	4(22.2%)	9(39.1%)	1(11.1%)	16(48.5%)	30(36.1%)
0.06~0.10	6(33.3%)	5(21.7%)	2(22.2%)	7(21.2%)	20(24.1%)
0.11~0.15	5(27.8%)	3(13.0%)	1(11.1%)	6(18.2%)	15(18.1%)
0.16~0.20	0(0%)	1(4.3%)	1(11.1%)	1(3.0%)	3(4.0%)
0.21~0.25	2(11.1%)	3(13.0%)	1(11.1%)	0(0%)	6(7.2%)
0.26~0.30	1(5.6%)	2(8.7%)	3(33.3%)	3(9.1%)	9(10.8%)
合計(%)	18(21.7%)	23(27.7%)	9(10.8%)	33(39.8%)	83(100%)

第167図 アスファルト付着石鏃対称性

第2章 捨て場と遺物

第35表 アスファルト付着石鏝破損率

石鏝	個数	%
完成品	118	67.428571
破損品	57	32.571429
合計	175	100

第36表 アスファルト付着石鏝側面形態

側面形態	個数	%
直線	65	37.142857
凸カーブ	79	45.142857
凹カーブ	26	14.857143
不明	5	2.8571429
合計	175	100

第37表 アスファルト付着石鏝鏝身形態

鏝身形態	個数	%
正三角形	22	12.571429
二等辺三角形	148	84.571429
不明	5	2.8571429
合計	175	100

第38表 アスファルト付着石鏝詳細破損部位比率

先端部側	先端個数	%
1	46	80.701754
2	5	8.7719298
不明	6	10.526316
合計	57	100

第39表 アスファルトなし石鏝完形品基部形態

基部形態	個数	%
凹基	7	1.8421053
平基	50	13.157895
凸基	222	58.421053
尖基	38	10
不明	63	16.578947
合計	380	100

第40表 アスファルトなし石鏝完形品側面形態

側面形態	個数	%
直線	102	26.842105
凸カーブ	167	43.947368
凹カーブ	51	13.421053
左右違い	1	0.2631579
不明	59	15.526316
合計	380	100

第41表 アスファルトなし石鏝完形品鏝身形態

鏝身形態	個数	%
正三角形	47	12.368421
二等辺三角形	273	71.842105
不明	60	15.789474
合計	380	100

第42表 アスファルトなし石鏝破損部位

残存部位	個数	%
先端のみ	42	13.548387
胴部のみ	5	1.6129032
胴・基部	43	13.870968
先端僅欠	4	1.2903226
先・基部僅欠	31	10
基部僅欠	25	8.0645161
側面欠損	2	0.6451613
不明	158	50.967742
合計	310	100

第43表 アスファルト付着石鏝基部形態多様度

基部形態	個数	a:log2(X)	%	c:a*b
凹基	3	-5.866249	0.0171429	-0.100564
平基	39	-2.165809	0.2228571	-0.482666
凸基	118	-0.568568	0.6742857	-0.383377
尖基	7	-4.643856	0.04	-0.185754
不明	8	-4.451211	0.0457143	-0.203484
合計	175		1	

多様度H'	1.3558458
H'max	2.3219281
公平度E	0.583931

第44表 アスファルト付着石鏝基部形態多様度(不明分除外)

基部形態	個数	a:log2(X)	比率	c:a*b
凹基	3	-5.798742	0.0179641	-0.104169
平基	39	-2.098302	0.2335329	-0.490023
凸基	118	-0.501061	0.7065868	-0.354043
尖基	7	-4.576349	0.0419162	-0.191823
合計	167			

多様度H'	1.140058
H'max	2.3219281
公平度E	0.4909962

第45表 アスファルト付着石鏝基部形態

基部形態	個数	%
凹基	3	1.7142857
平基	39	22.285714
凸基	118	67.428571
尖基	7	4
不明	8	4.5714286
合計	175	100

第46表 アスファルト付着石鏝破損部位詳細

基部側	基部個数	%
2	3	5.2631579
3	1	1.754386
4	4	7.0175439
5	43	75.438596
不明	6	10.526316
合計	57	100

第47表 アスファルトなし石鏝完形品基部形態多様度

基部形態	個数	a:log2(X)	%	c:a*b
凹基	7	-5.762501	0.0184211	-0.106151
平基	50	-2.925999	0.1315789	-0.385
凸基	222	-0.77544	0.5842105	-0.45302
尖基	38	-3.321928	0.1	-0.332193
不明	63	-2.592576	0.1657895	-0.429822
合計	380		1	

多様度H'	1.7061859
H'max	2.3219281
公平度E	0.7348143

第48表 アスファルトなし石鏝完形品側面形態多様度

側面形態	個数	a:log2(X)	比率	c:a*b
直線	102	-1.654004	0.317757	-0.52557
凸カーブ	167	-0.942725	0.520249	-0.49045
凹カーブ	51	-2.654004	0.158879	-0.42166
左右違い	1	-8.326429	0.003115	-0.02594
合計	321			

多様度H'	1.463627
H'max	2
公平度E	0.731813

第49表 アスファルトなし石鏝破損形態多様度

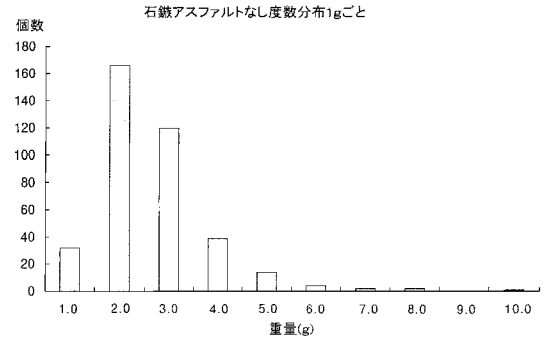
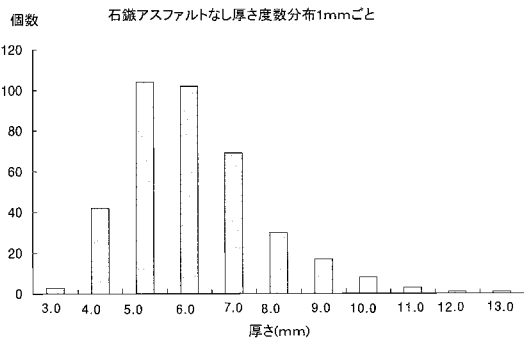
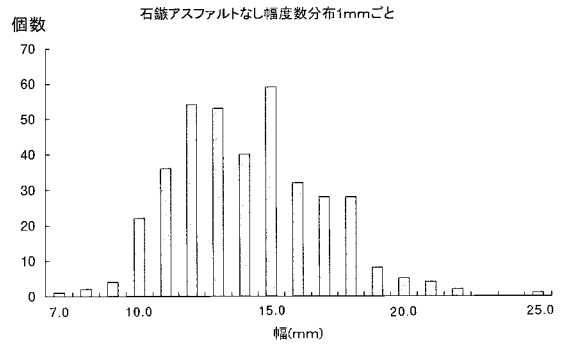
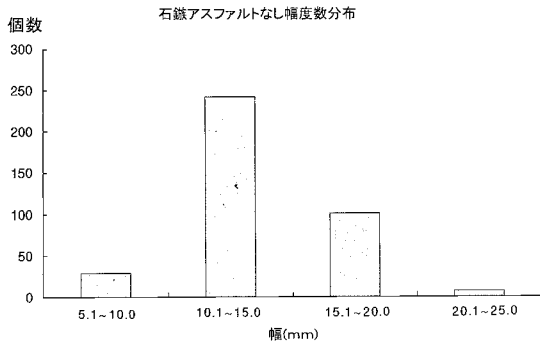
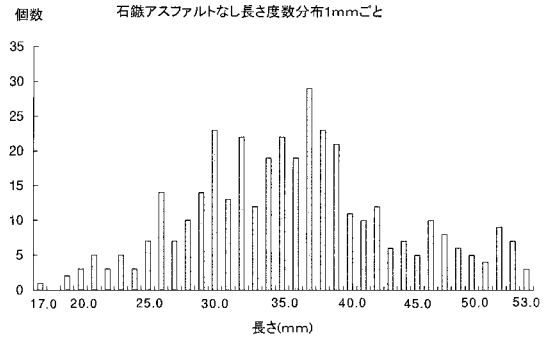
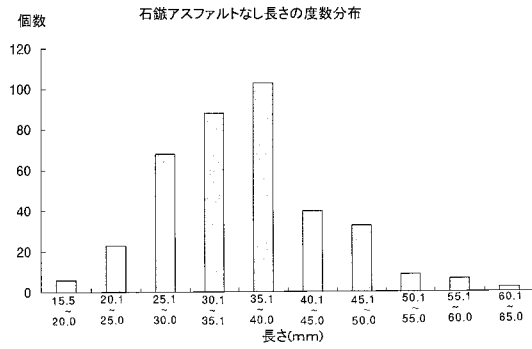
残存部位	個数	a:log2(X)	b:比率	c:a*b
先端のみ	42	-2.883807	0.1354839	-0.390709
胴部のみ	5	-5.954196	0.016129	-0.096035
胴・基部	43	-2.84986	0.1387097	-0.395303
先端僅欠	4	-6.276124	0.0129032	-0.080982
先・基部僅欠	31	-3.321928	0.1	-0.332193
基部僅欠	25	-3.632268	0.0806452	-0.292925
側面欠損	2	-7.276124	0.0064516	-0.046943
不明	158	-0.972344	0.5096774	-0.495582
合計	310		1	

多様度H'	2.1306721
H'max	3
公平度E	0.710224

第50表 アスファルトなし石鏝破損形態多様度(不明分除外)

残存部位	個数	a:log2(X)	b:比率	c:a*b
先端のみ	42	-1.85561	0.2763158	-0.512734
胴部のみ	5	-4.925999	0.0328947	-0.162039
胴・基部	43	-1.821663	0.2828947	-0.515339
先端僅欠	4	-5.247928	0.0263158	-0.138103
先・基部僅欠	31	-2.293731	0.2039474	-0.4678
基部僅欠	25	-2.604071	0.1644737	-0.428301
側面欠損	2	-6.247928	0.0131579	-0.08221
合計	152		1	

多様度H'	2.3065272
H'max	2.8073549
公平度E	0.8216016



第51表 アスファルトなし石鏃サイズの特徴 (全370点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	35.730526	13.738947	5.6934211	2.21
最大値	64.3	35	12.4	9.8
最小値	17	6.5	2.4	0.5
範囲	47.3	28.5	10	9.3
最頻値	37.0mm	15.0mm	5.0mm	2.0g
最頻値個数	29	59	104	166
最頻値%	7.6315789	15.526316	27.368421	43.684211
分散	67.443762	8.567925	2.2903788	1.2915092
標準偏差	8.2124151	2.9271018	1.5133997	1.1364459
尖度	0.7431358	6.7851394	1.5128636	7.1851169
歪度	0.6070876	1.3054795	1.0301684	1.9806395

第52表 アスファルトなし石鏃側面形態

側面形態	個数	%
直線	168	24.347826
凸カーブ	228	33.043478
凹カーブ	69	10
左右違い	2	0.2898551
不明	223	32.318841
合計	690	100

第53表 アスファルトなし石鏃破損比率

石鏃	個数	%
完成品	380	55.072464
破損品	310	44.927536
合計	690	100

第54表 アスファルトなし石鏃鏃身形態

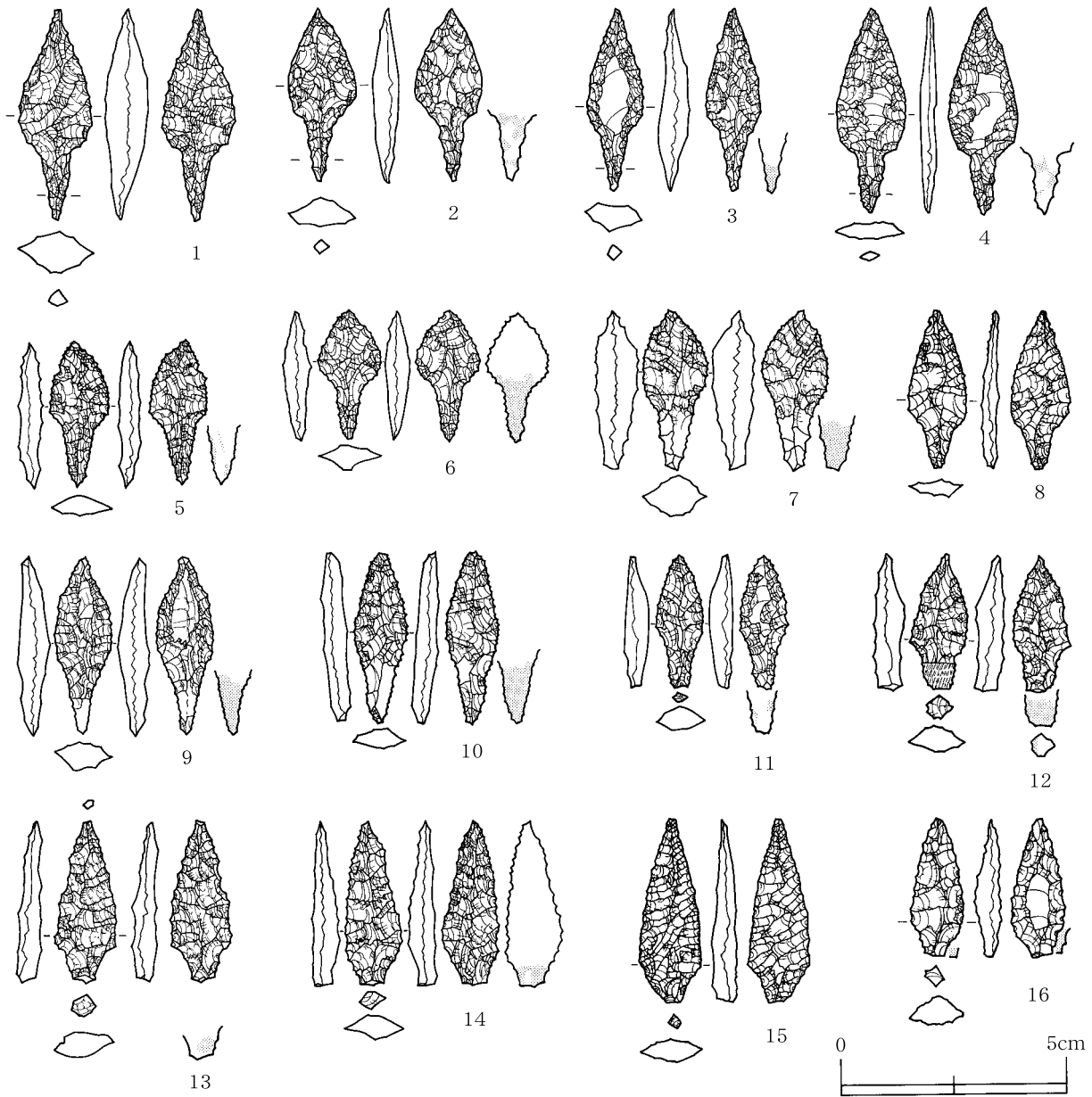
鏃身形態	個数	%
正三角形	54	7.826087
二等辺三角形	409	59.275362
不明	227	32.898551
合計	690	100

第55表 アスファルトなし石鏃基部形態

基部形態	個数	%
凹基	7	1.0144928
平基	85	12.318841
凸基	307	44.492754
尖基	41	5.942029
不明	250	36.231884
合計	690	100

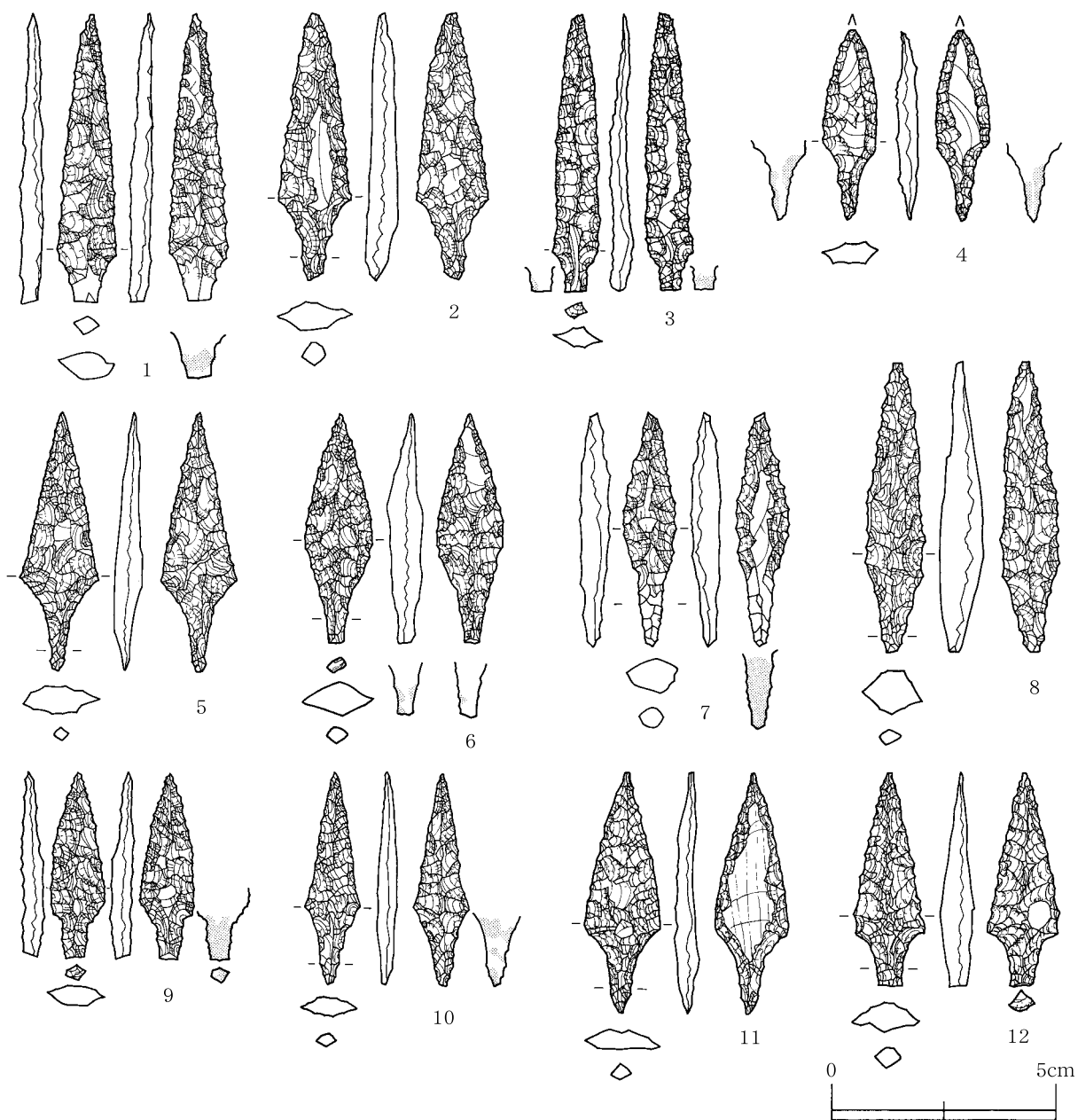
第168図 アスファルトなし石鏃サイズの特徴

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
169	1	48	LQ33		頁岩	46.2	16.0	9.0	4.7	1	C		b	
169	2	608	MA27		頁岩	37.7	15.1	5.7	2.3	1	C		b	アスファルト付
169	3	316	MC27		頁岩	40.8	12.5	6.9	2.5	1	C		b	アスファルト付
169	4	503	MA26		頁岩	44.7	15.5	3.7	2.2	1	C		b	アスファルト付
169	5	145	表探		頁岩	31.3	12.7	4.7	1.6	1	C		b	アスファルト付
169	6	310	MC28		頁岩	27.7	13.7	5.7	1.3	1	C		b	アスファルト付
169	7	389	MD26		頁岩	34.3	14.4	9.0	3.4	1	C		b	アスファルト付
169	8	552	LO34		頁岩	34.4	12.4	3.8	1.2	1	C		b	
169	9	293	MD25		頁岩	38.5	12.5	7.1	2.6	1	C		b	アスファルト付
169	10	314	LT31		頁岩	37.0	11.8	5.9	2.0	1	C		b	アスファルト付
169	11	278	MA27		頁岩	28.8	10.0	5.0	1.2	1	C		b	アスファルト付
169	12	132	LR34		頁岩	29.4	12.1	6.1	1.6	1	C		b	アスファルト付
169	13	103683	LP29		頁岩	34.3	13.3	5.2	2.0	1	C		b	アスファルト付
169	14	294	LP35		頁岩	35.5	12.4	5.5	2.1	1	C		b	アスファルト付
169	15	548	LR35		頁岩	40.1	12.6	4.9	2.4	1	C		b	
169	16	553	LS32		頁岩	29.4	11.4	5.7	1.9	1	C		b	アスファルト付

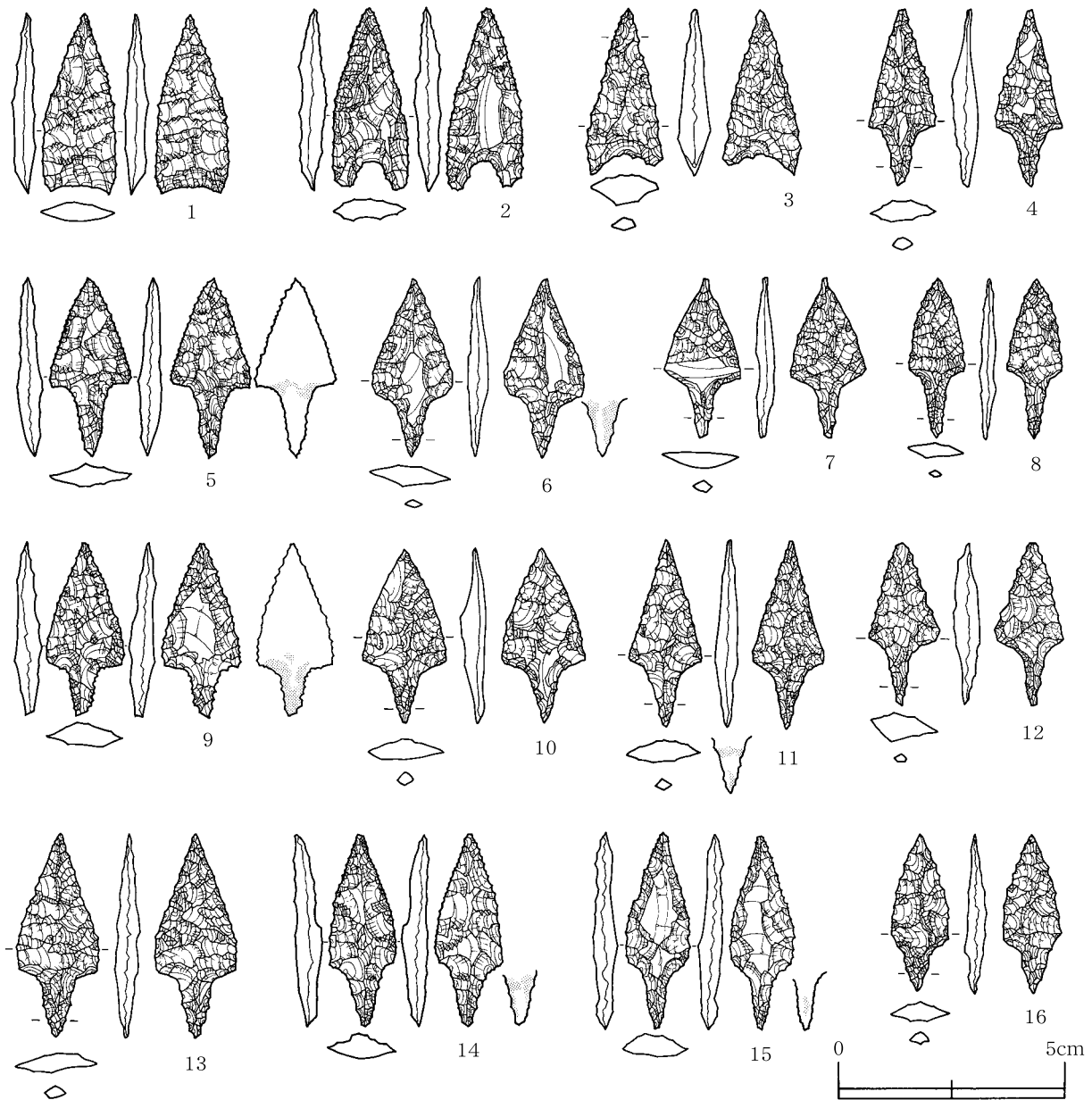
第169図 石鏃(1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
170	1	103685	LS35		頁岩	63.7	12.4	5.4	3.6	1	C		b	アスファルト付
170	2	588	LR35		頁岩	59.5	15.9	7.5	5.9	1	C		b	
170	3	576	LS33		頁岩	61.1	10.3	5.1	3.0	1	C		b	アスファルト付
170	4	595	MA28		頁岩	41.4	11.7	4.5	2.2	1	C		b	アスファルト付
170	5	554	MA27		頁岩	56.8	17.6	6.0	3.9	1	C		b	
170	6	2875	LR35		頁岩	50.1	15.1	8.5	4.8	1	C		b	アスファルト付
170	7	103684	LT27		頁岩	50.6	11.4	6.7	3.6	1	C		b	アスファルト付
170	8	404	LQ37		頁岩	64.5	12.8	10.4	6.0	1	C		b	
170	9	274	MB28		頁岩	41.0	11.8	4.8	1.9	1	C		b	アスファルト付
170	10	430	LN36		頁岩	47.4	12.0	5.0	1.9	1	C		b	アスファルト付
170	11	681	LP36		頁岩	53.1	16.7	5.6	3.2	1	C		b	
170	12	672	LQ34		頁岩	47.0	16.4	7.7	3.6	1	C		b	

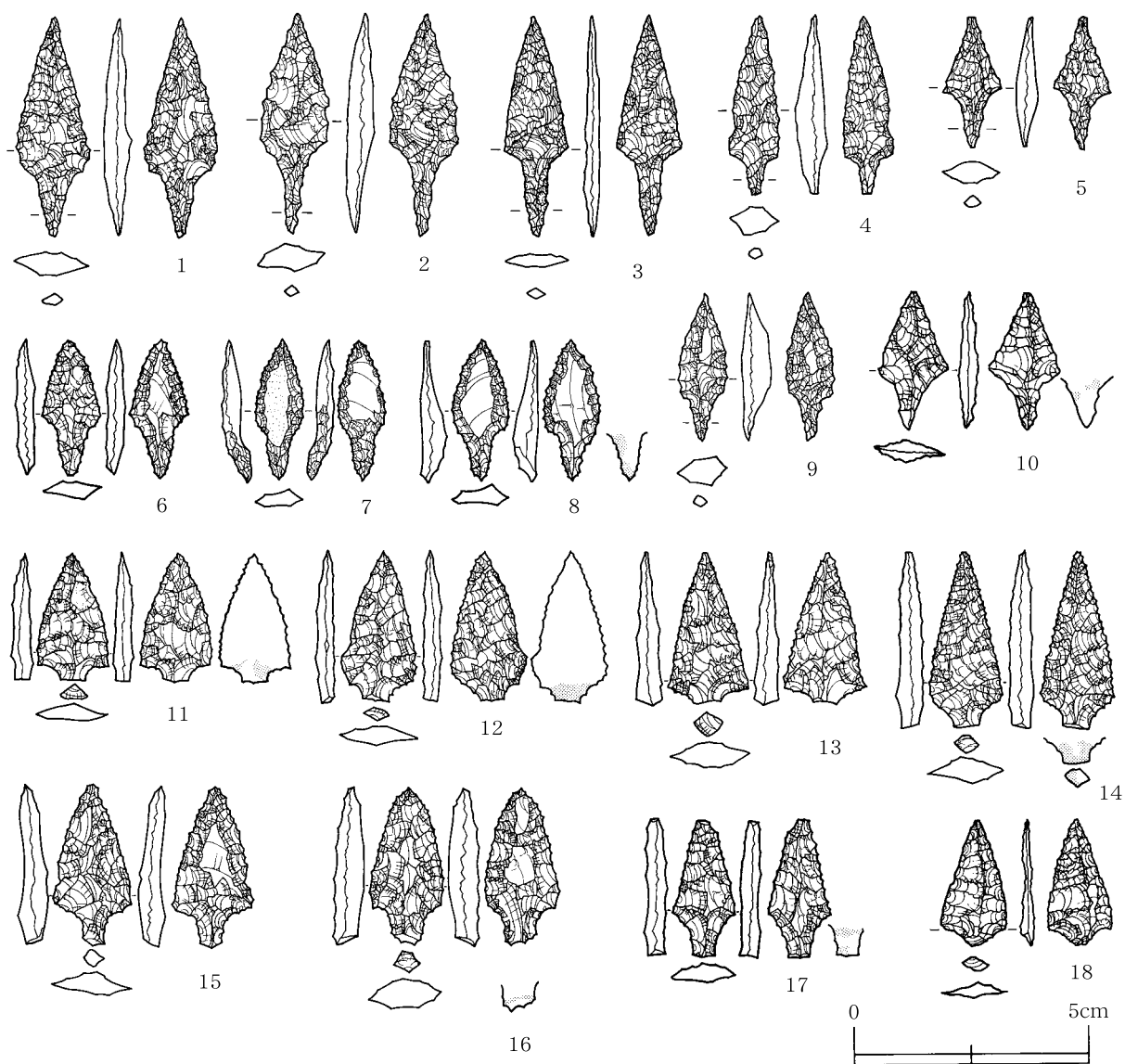
第170図 石鏃(2)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
171	1	87	LR34		頁岩	40.0	5.6	4.9	2.8	0	A		b	
171	2	134	LT32		頁岩	40.2	16.7	5.3	3.0	0	A		b	
171	3	22	LT35		頁岩	37.5	16.5	7.0	2.9	0	A		b	
171	4	573	LQ38		頁岩	35.5	15.6	6.0	1.6	1	B		b	
171	5	126	LS35		頁岩	38.9	17.4	5.0	2.0	1	B		a	アスファルト付
171	6	642	MA28		頁岩	39.0	17.7	4.6	2.1	1	C		b	アスファルト付
171	7	63	LP34		頁岩	34.2	16.5	4.0	1.6	1	C		a	アスファルト付
171	8	1521	LT25		頁岩	34.3	12.6	4.9	1.2	1	B		b	
171	9	301	MA28		頁岩	37.1	17.0	5.9	2.3	1	B		b	アスファルト付
171	10	716	MB28		頁岩	37.7	18.1	5.7	2.3	1	C		b	
171	11	687	MA28		頁岩	41.2	15.9	5.1	2.1	1	C		b	
171	12	574	MA28		頁岩	50.6	16.3	6.0	3.1	1	B		b	
171	13	673	LT25		頁岩	44.5	18.1	5.8	3.1	1	C		b	
171	14	117	LO31		頁岩	41.5	13.9	5.6	2.4	1	B		b	アスファルト付
171	15	101	LT34		頁岩	42.6	14.3	5.2	2.2	1	C		b	アスファルト付
171	16	654	LR36		頁岩	34.7	12.8	4.6	1.5	1	C		b	

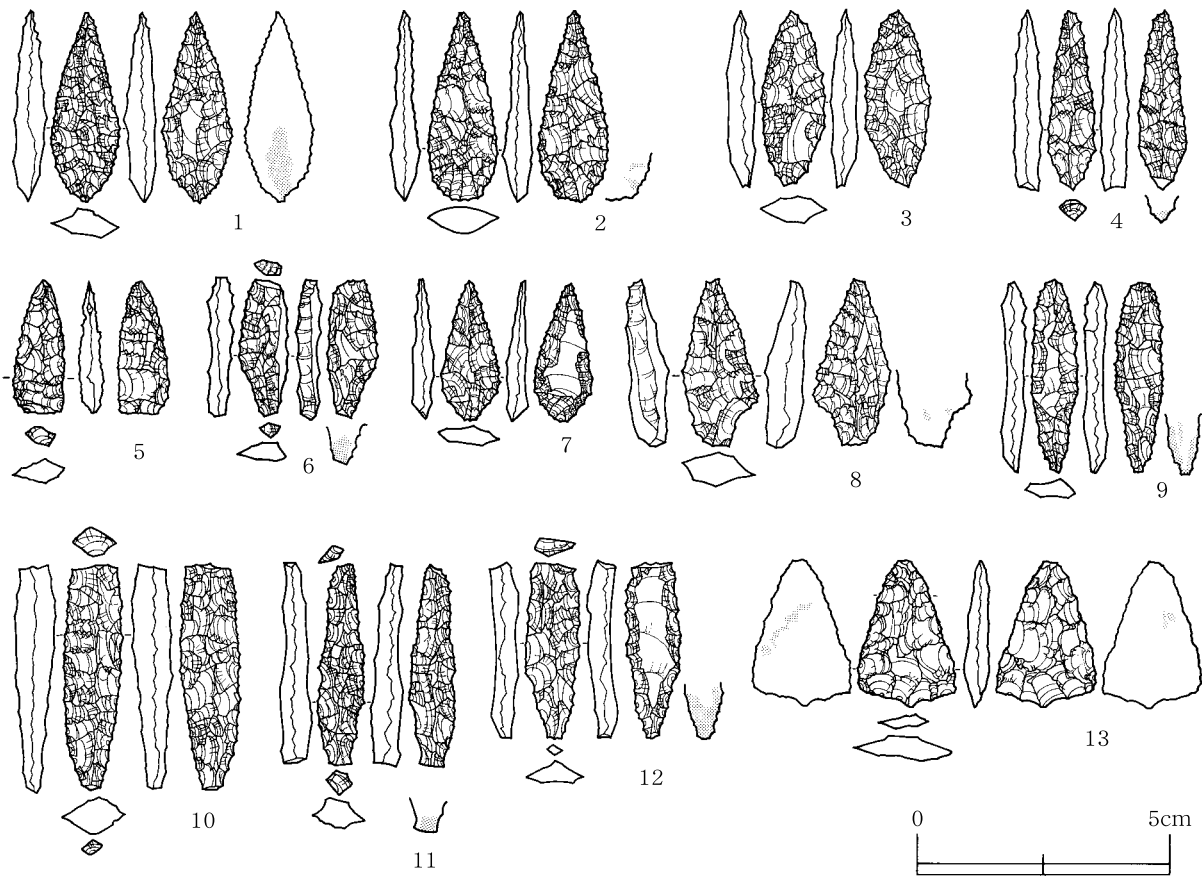
第171図 石鏃(3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
172	1	57321	LS33		頁岩	45.0	15.6	5.4	2.7	1	C		b	
172	2	592	MB27		頁岩	46.7	14.7	6.1	2.6	1	B		b	
172	3	652	LN34		頁岩	46.2	13.4	3.7	1.5	1	B		b	
172	4	628	MB28		頁岩	37.5	10.4	6.9	1.6	1	B		b	
172	5	647	表探		頁岩	28.0	12.7	4.9	1.1	1	C		a	
172	6	308	LS37		玉髓	28.4	12.0	3.5	1.0	1	C		b	
172	7	276	LO33		頁岩	29.2	9.8	4.0	0.8	1	C		b	
172	8	360	MC28		玉髓	28.8	11.5	4.7	1.2	1	C		b	アスファルト付
172	9	92	LS35		頁岩	30.8	10.0	6.6	1.7	1	C		b	
172	10	540	LP32		頁岩	28.1	14.5	4.2	1.1	1	B		a	アスファルト付
172	11	104	LN31		頁岩	26.6	15.2	3.7	1.3	1	B		b	アスファルト付
172	12	286	LT31		頁岩	31.3	16.0	3.7	1.6	1	B		b	アスファルト付
172	13	307	LQ33		玉髓	31.0	16.0	4.4	2.0	1	B		b	
172	14	340	LP36		頁岩	36.9	14.9	4.7	2.4	1	C		b	アスファルト付
172	15	305	MD30		頁岩	33.2	16.5	5.1	2.3	1	B		b	
172	16	106	LT31		頁岩	32.2	15.1	6.6	3.0	1	B		b	アスファルト付
172	17	103	LN31		頁岩	28.3	22.6	4.1	1.3	1	C		b	アスファルト付
172	18	551	LQ38		頁岩	25.9	13.5	3.5	1.0	1	B		b	

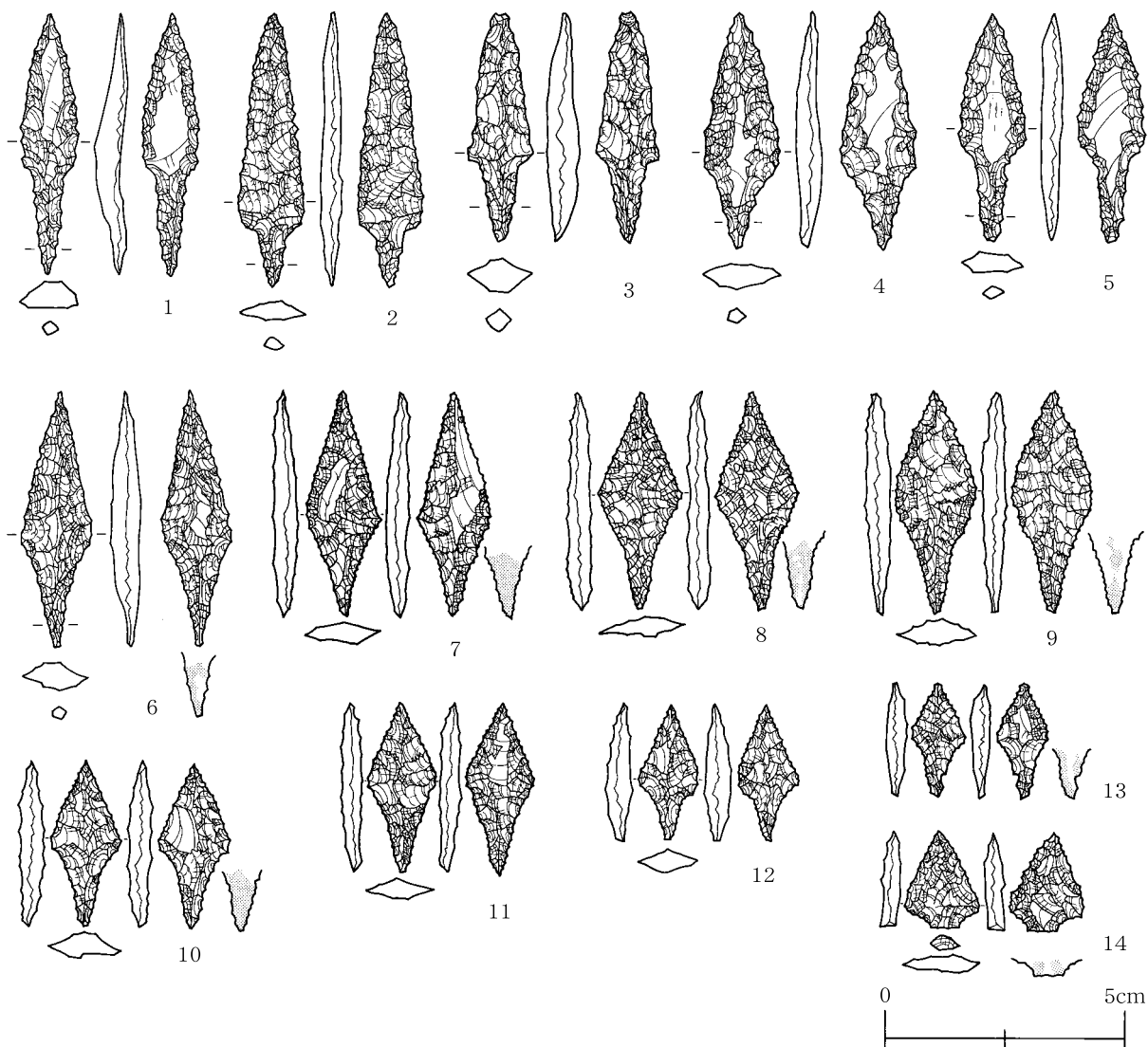
第172図 石鏃(4)

第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
173	1	328	MB28		頁岩	36.7	13.1	5.8	2.2	1	D		b	アスファルト付
173	2	196	MA28		頁岩	36.5	13.4	6.1	2.2	1	D		b	アスファルト付
173	3	297	MA28		頁岩	34.0	12.3	5.2	2.1	1	D		b	
173	4	125	LS33		頁岩	35.0	10.0	5.0	1.6	1	C		b	アスファルト付
173	5	549	LT32		頁岩	25.5	9.6	4.8	1.0	1	C		b	
173	6	177	LO34		頁岩	29.3	9.4	5.2	0.9	1	C		b	アスファルト付
173	7	110	LT29		頁岩	26.6	11.3	4.1	1.1	1	D		b	
173	8	300	MA27		頁岩	32.4	14.7	7.1	2.9	1	C		b	アスファルト付
173	9	355	MB27		頁岩	36.9	9.2	4.2	1.6	1	D		b	アスファルト付
173	10	349	LS34		頁岩	43.4	11.2	7.2	3.8	1	D		b	
173	11	128	LS33		頁岩	39.3	9.2	6.0	2.1	1	C		b	アスファルト付
173	12	272	MB28		頁岩	34.5	10.4	5.0	1.8	1	D		b	アスファルト付
173	13	243	MB27		頁岩	28.5	19.1	4.9	2.2	1	B		b	アスファルト付

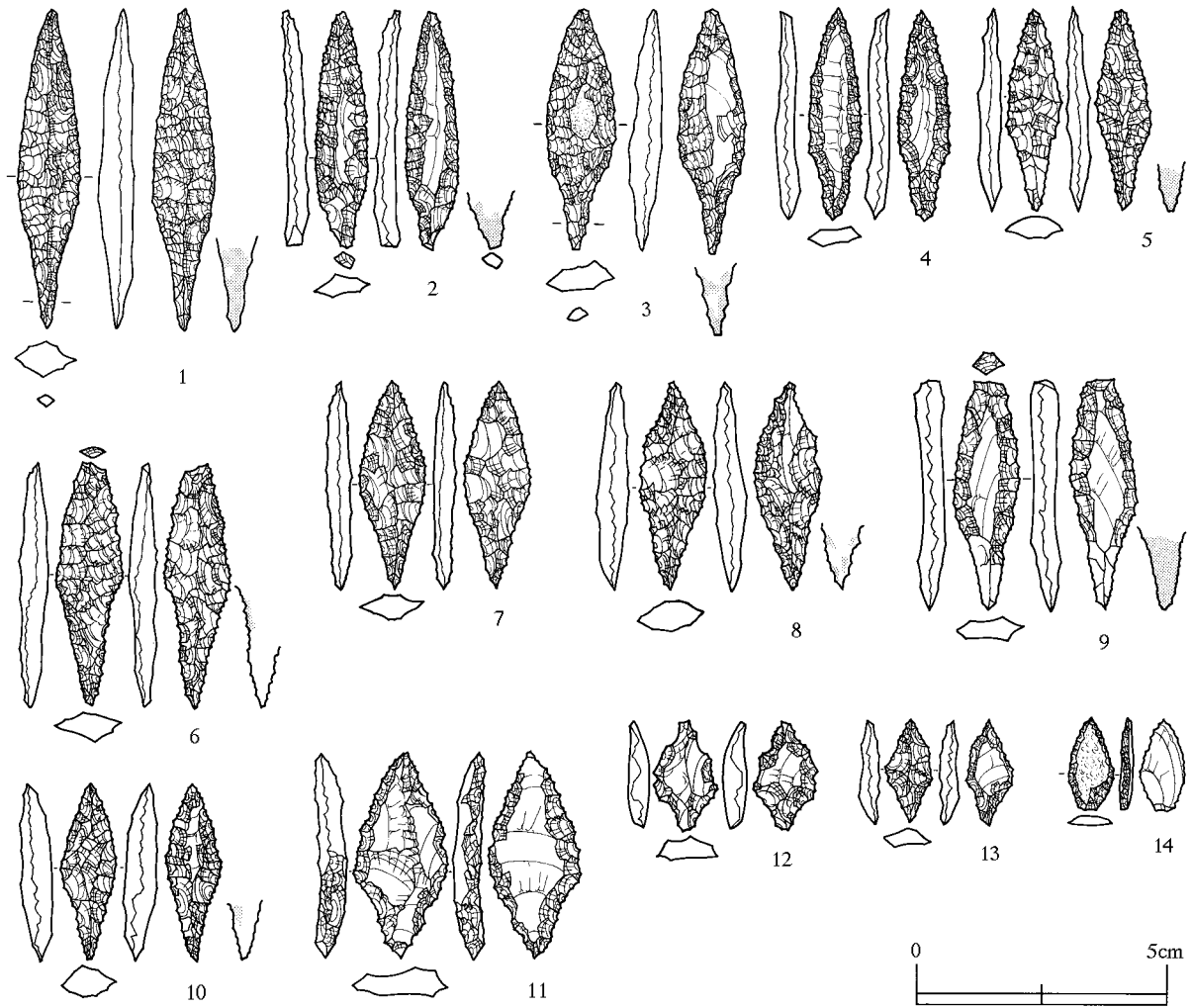
第173図 石鏃(5)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
174	1	361	MA28		頁岩	54.0	12.0	6.4	2.7	1	C		b	
174	2	637	LT28		頁岩	56.7	13.8	4.5	2.6	1	C		b	
174	3	532	MC23		頁岩	47.3	13.6	7.4	3.2	1	C		b	
174	4	440	LS34		頁岩	49.1	15.9	5.8	3.4	1	C		b	
174	5	2858	MA32		頁岩	46.4	14.9	5.2	2.8	1	C		b	
174	6	401	MA26		頁岩	52.8	14.3	6.4	3.1	1	D		b	アスファルト付
174	7	484	MA28		頁岩	45.4	14.4	4.5	2.1	1	C		b	アスファルト付
174	8	431	MA28		頁岩	44.4	17.3	4.7	2.4	1	C		a	アスファルト付
174	9	332	MA28		頁岩	45.1	16.2	5.3	2.8	1	D		b	アスファルト付
174	10	356	MA27		頁岩	33.6	14.2	5.2	1.7	1	C		a	アスファルト付
174	11	477	LQ33		頁岩	34.8	14.0	4.5	1.5	1	C		a	
174	12	302	MA28		頁岩	27.6	12.1	5.3	1.1	1	C		b	
174	13	133	LT31		頁岩	22.7	10.2	4.2	0.8	1	C		a	アスファルト付
174	14	344	LN36		頁岩	19.7	14.0	3.9	1.0	1	B		a	アスファルト付

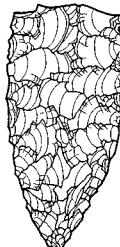
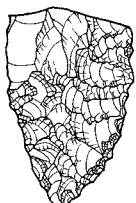



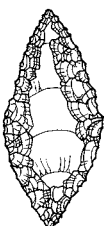
第174図 石鏃(6)

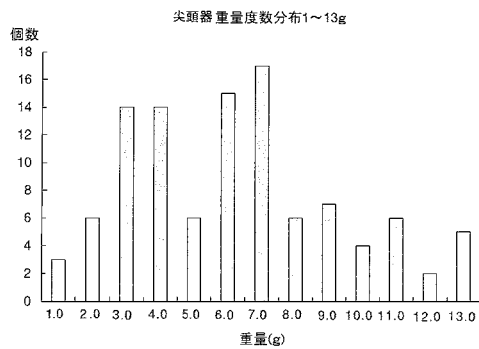
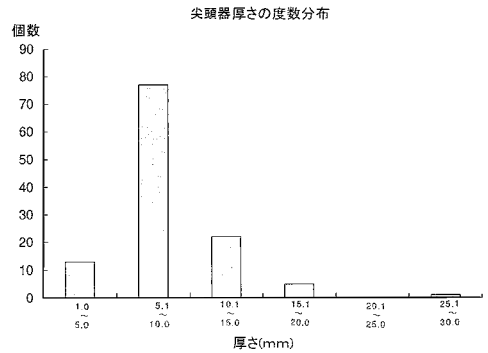
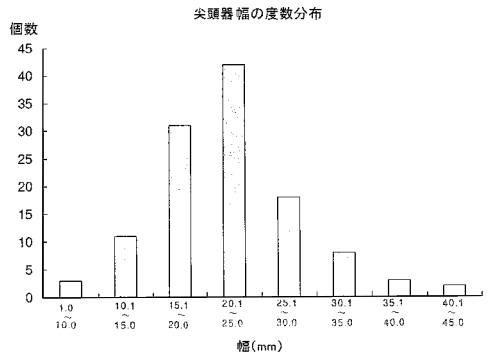
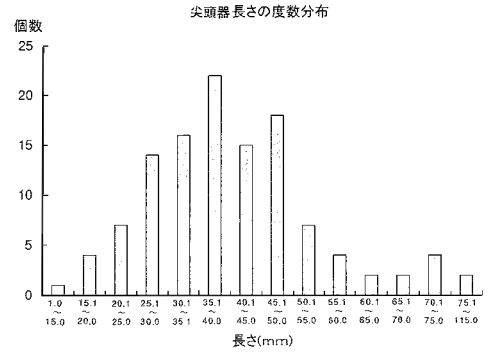
第2章 捨て場と遺物



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	茎	基	側	身	備考
175	1	428	MA28		頁岩	64.3	12.0	7.5	4.6	1	C		b	アスファルト付
175	2	448	MB28		頁岩	46.3	10.6	4.6	1.6	1	C		b	アスファルト付
175	3	1525	LR34		頁岩	47.0	14.5	7.4	4.0	1	C		b	アスファルト付
175	4	281	LS32		頁岩	41.5	10.5	4.0	1.9	1	C		b	
175	5	295	LS35		頁岩	39.5	11.0	4.7	1.5	1	C		b	アスファルト付
175	6	321	LO34		頁岩	47.9	13.4	5.3	2.7	1	C		b	アスファルト付
175	7	449	MA28		頁岩	39.9	12.8	4.7	1.8	1	C		b	
175	8	135	LS33		頁岩	40.4	12.5	6.4	2.5	1	A		b	アスファルト付
175	9	456	LQ32		頁岩	44.9	13.1	5.0	3.1	1	C		b	アスファルト付
175	10	116	LR34		頁岩	34.6	10.6	6.4	1.7	1	C		b	アスファルト付
175	11	354	LS32		頁岩	40.2	18.8	5.8	3.8	1	C		b	
175	12	394	LR41		頁岩	21.5	11.5	4.3	0.7	1	C		b	
175	13	323	MC28		頁岩	19.2	9.3	3.4	0.6	1	C		a	
175	14	82	LT34		瑪瑙	17.1	8.3	2.4	0.5	1	C		b	

第175図 石鏃(7)

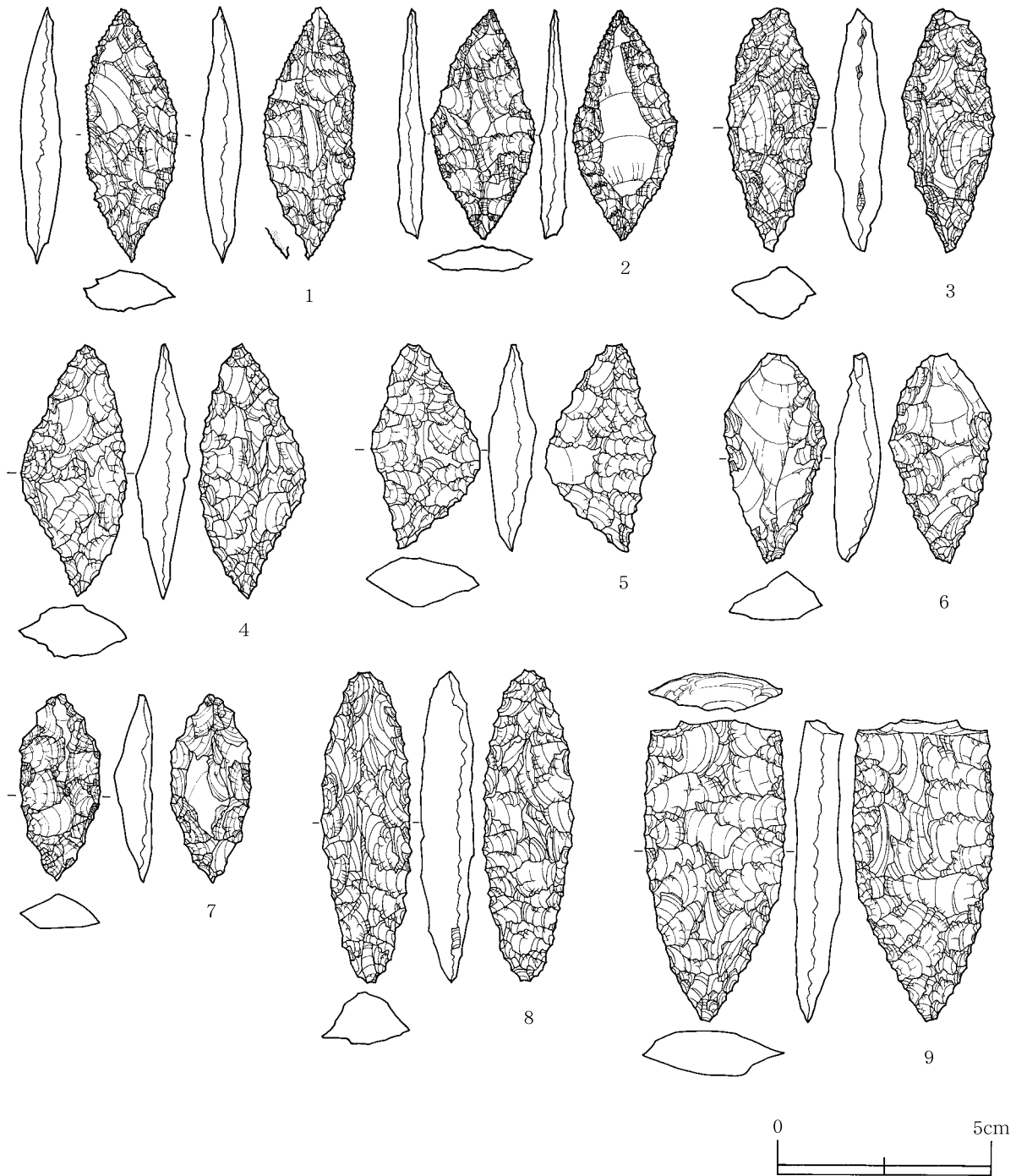
	表裏の全面加工のもの	片面全面と裏面周縁加工のもの
形状がやや幅広のもの A		
形状が細身のもの B		
側縁が張り出すもの C		



第56表 尖頭器サイズの特徴 (全118点)

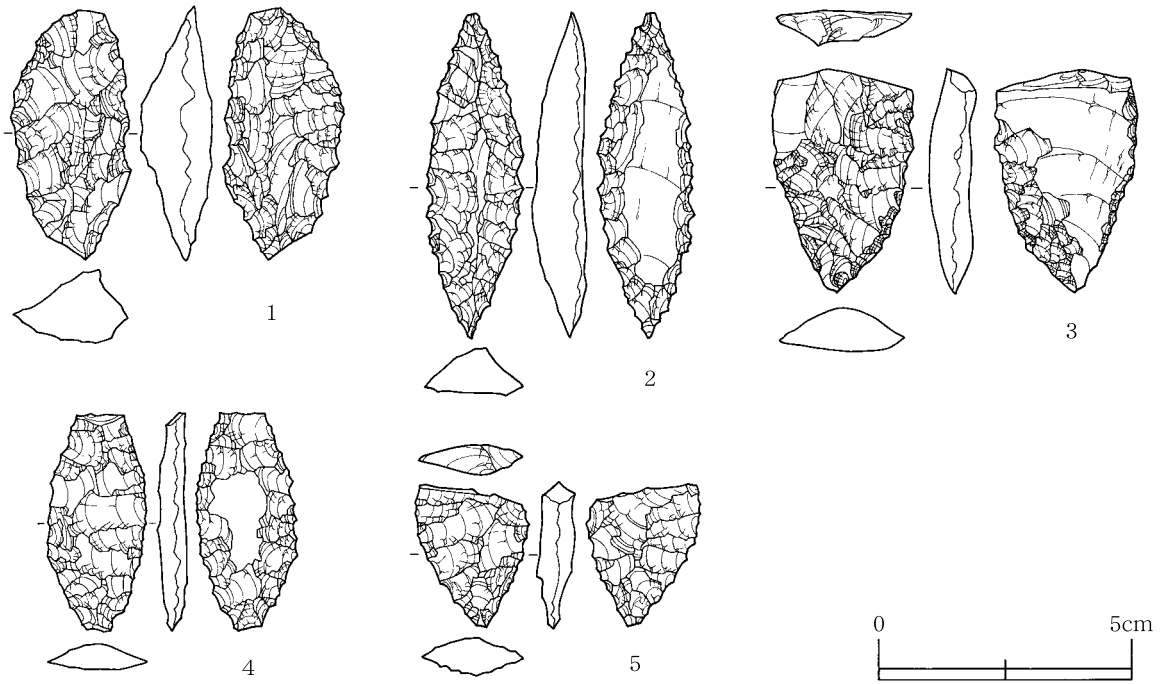
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	40.75	21.959664	8.3445378	7.9932773
最大値	110.9	43.7	25.1	61.7
最小値	11.1	5.1	2.3	0.4
範囲	99.8	38.6	22.8	61.3
最頻値	36~40mm	21~25mm	5~10mm	7g
最頻値個数	22	42	77	17
最頻値%	18.644068	35.59322	65.254237	14.40678
分散	212.60782	44.174127	11.423868	66.049237
標準偏差	14.581077	6.646362	3.3799213	8.1270681
尖度	4.5808359	1.0474716	4.9016541	17.235028
歪度	1.4806818	0.4838734	1.5403401	3.5067249

第176図 尖頭器の分類とサイズの特徴



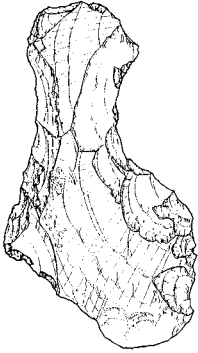
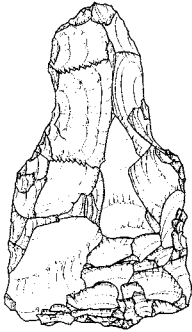
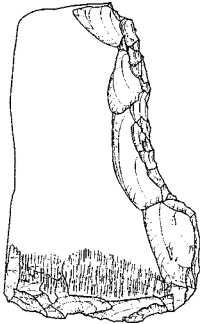
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	加工状態	備考
177	1	274	MB28		頁岩	41.0	11.8	4.8	1.9	C		
177	2	9032	MA27		頁岩	53.1	24.5	6.1	6.8	C		
177	3	9050	MA28		頁岩	55.6	21.5	12.7	11.9	B		
177	4	9073	MA28		頁岩	58.1	24.7	11.9	12.1	C		
177	5	9048	MA27		頁岩	47.0	25.3	10.6	10.3	C		
177	6	9053	LT34		頁岩	48.2	23.5	10.4	10.2	C		
177	7	9023	MA32		頁岩	41.4	18.4	7.8	5.5	C		
177	8	9101	LS34		頁岩	71.5	20.5	12.9	19.0	B		
177	9	9051	MA29		頁岩	70.1	32.7	11.0	29.5	A		

第177図 尖頭器(1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	加工状態	備考
178	1	9044	MA29		頁岩	47.8	22.5	13.4	12.0	C		
178	2	9104	MB28		頁岩	63.0	18.8	10.3	9.8	B		
178	3	9020	LT36		頁岩	43.3	27.2	8.1	11.5	A		
178	4	9039	LQ37		頁岩	41.7	19.0	5.7	4.6	C		
178	5	9084	MA28		頁岩	29.2	21.3	7.5	4.0	A		

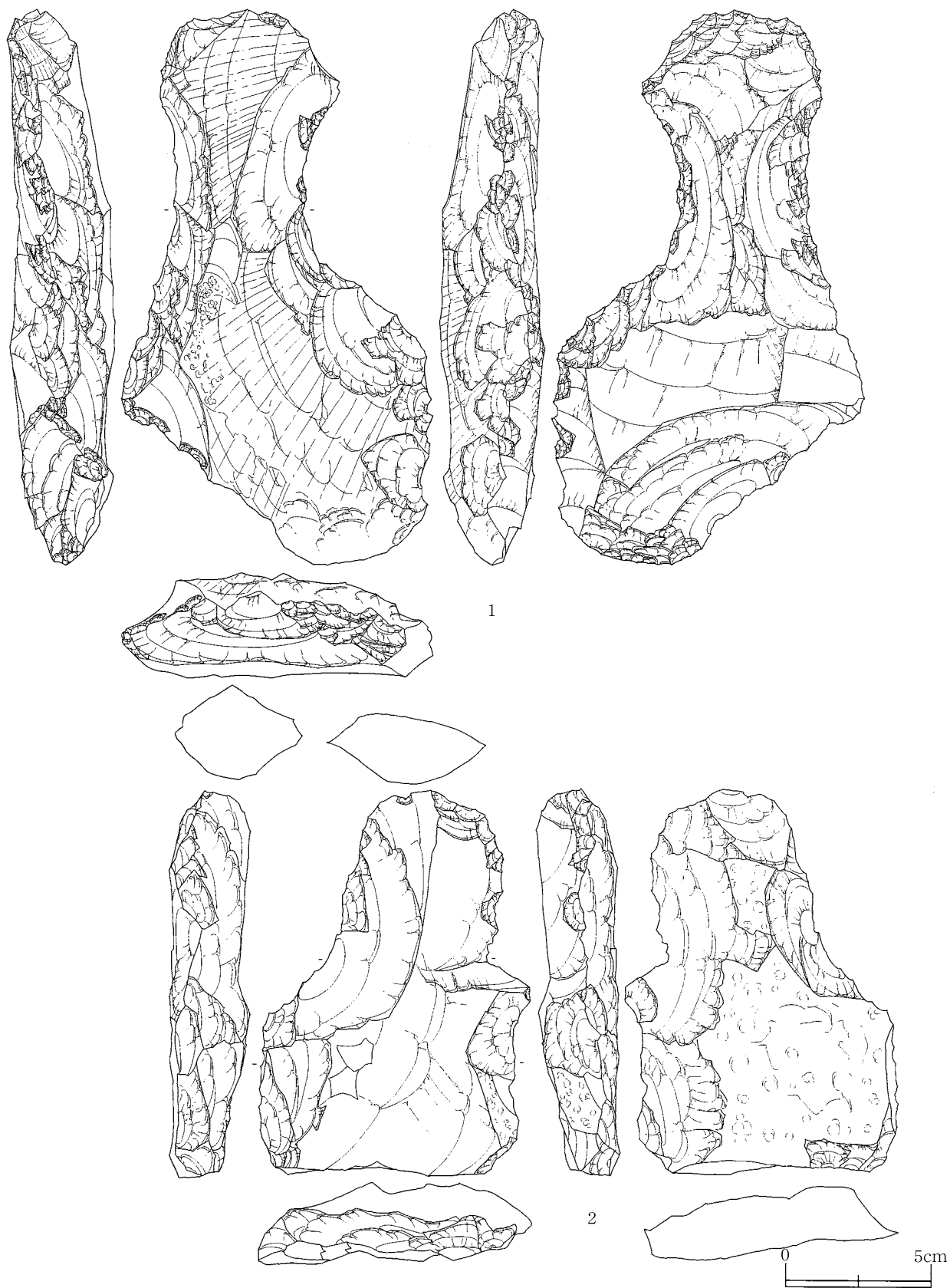
第178図 尖頭器(2)

撥形で 両側縁 に抉り を持つ もの	刃部が 丸く偏 刃のも の I	
	平坦な 刃部を 持つも の II	
短冊形 のもの B	平坦な 刃部を 持つも の I	

第57表 石鋏サイズの特徴 (全4点)

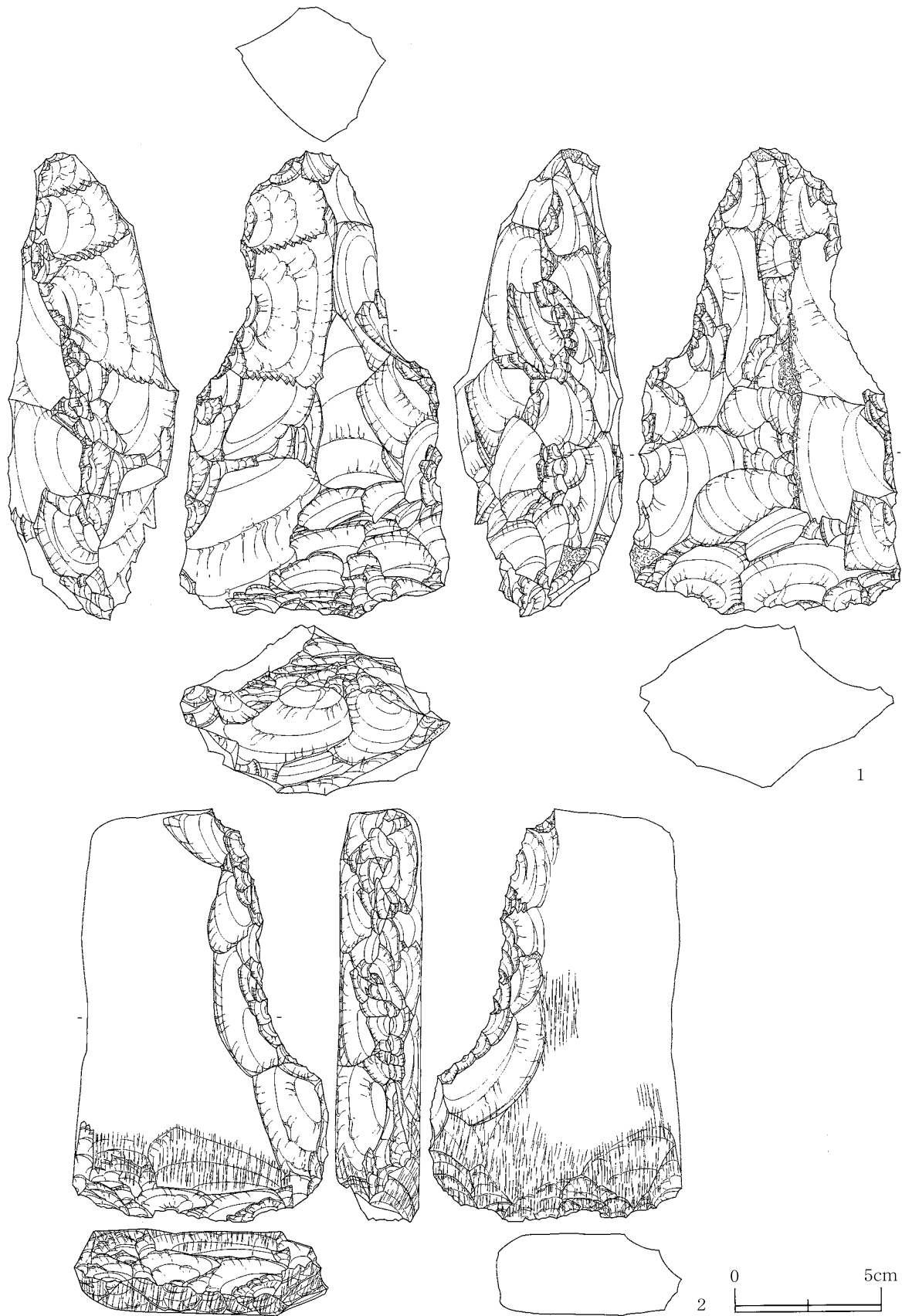
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	144.575	85.375	27.9	326.9
最大値	196	106.1	39	567
最小値	108	56.5	15.5	79.1
範囲	88	49.6	23.5	487.9
分散	1375.6558	438.36917	92.886667	48703.54
標準偏差	37.089835	20.937267	9.6377729	220.68879
尖度	2.0023543	1.8032383	1.5	-3.014612
歪度	1.1169054	-1.075752	-0.39975	-0.065904

第179図 石鋏の分類



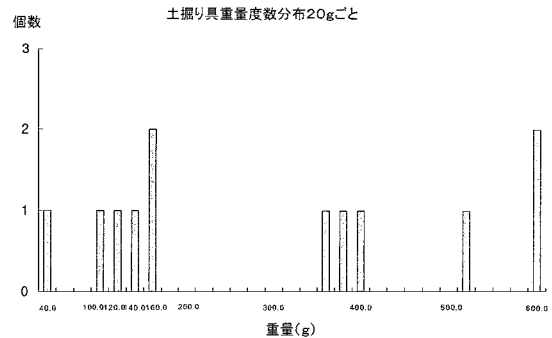
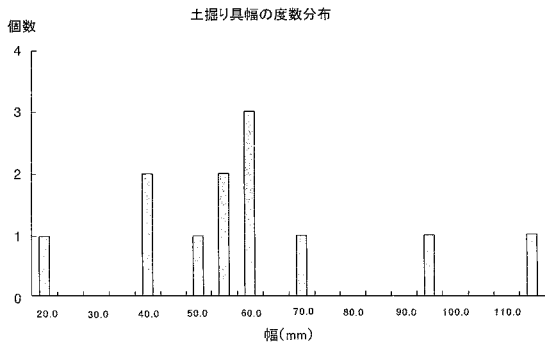
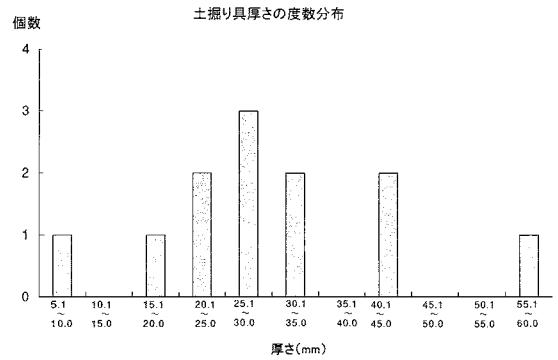
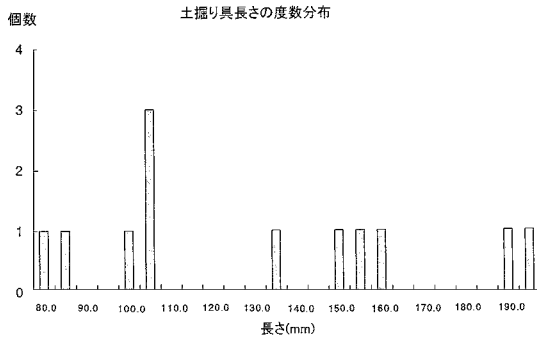
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
180	1	57327	MA25		流紋岩	196.0	106.1	39.0	447.0	A -
180	2	57329	MA32		凝灰岩	133.0	92.5	27.9	214.5	A

第180図 石鍬(1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
181	1	57330	MA27		頁岩	156.3	92.9	57.4	597.0	A -
181	2	57328	表探		頁岩	141.3	86.4	29.2	567.0	B -

第181図 石鍬(2)



第58表 土掘具サイズの特徴 (全12点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	127.29167	57.341667	29.625	285.76667
最大値	190.4	112.9	57.4	598.2
最小値	79.1	17.6	9.5	25.8
範囲	111.3	95.3	47.9	572.4
最頻値	101~105mm	56~60mm	26~30mm	141~160g
最頻値個数	3	3	3	2
最頻値%	25	25	25	16.666667
分散	1491.2536	643.26265	162.31841	43055.799
標準偏差	38.616752	25.362623	12.740424	207.49891
尖度	-1.151856	1.3137603	0.9557413	-1.452028
歪度	0.4504788	0.9020873	0.6947297	0.3898582

第59表 土掘具と石鏃のサイズ比較

	長さ	幅	厚さ	重量
土掘具分散	1491.254	643.2627	162.3184	43055.8
石鏃分散	389.0192	59.13282	15.87248	510.4152
Fs	3.833368	10.87827	10.22641	84.35446
ts	6.866641	3.968738	4.763416	4.437664
t0(1%)	3.098302	3.105813	3.105549	3.109456
有意差	高度にあり	高度にあり	高度にあり	高度にあり

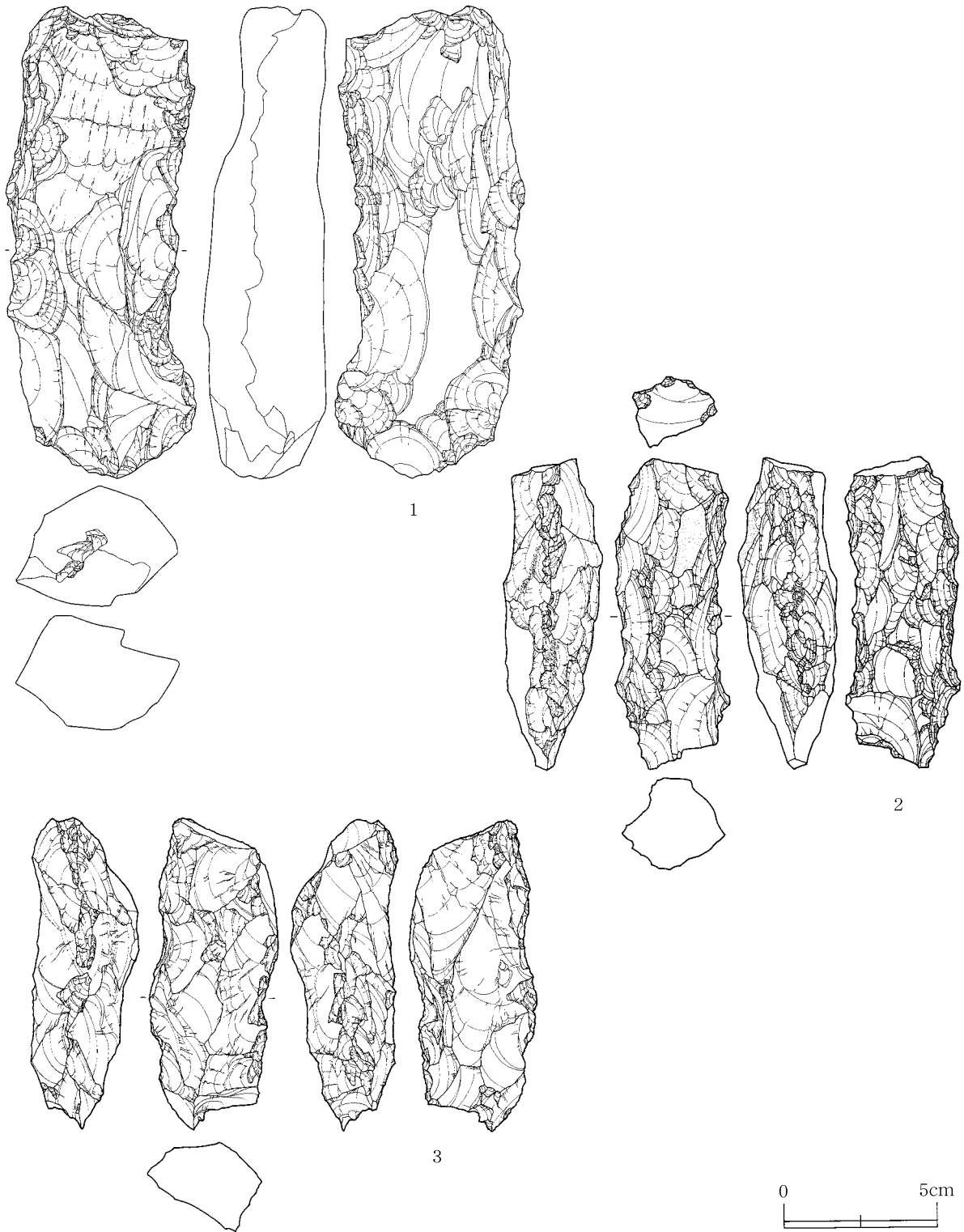
第182図 土掘具サイズの特徴

味があるのか、それとも単なる偶然なのかを検証する。まず、これらの母分散をF検定した上で、計測値の有意差をt検定した。結果は、長さについて $t_s=32.02$ $t(1\%)=2.63$ と、完成品と非完成品では、計測値の上からも高度に有意差があることが判明した。したがって、アスファルトが付着した石鏃と付着していない石鏃では、大きさ・重量全てに大きな違いがあるといえる。その違いをもたらした原因は、縄文人が「製作が終了した完成品」と考えたか否かの差である可能性が高い。

次に、完成品石鏃とアスファルトの付着していない石鏃の基部形態比率を、マッカーサーの多様度指数を用いて比較する。破損品でも部位の明確な物は含めた。また、残存部位が不明な物は除いた。完成品167点における多様度1.14公平度0.49に対して、アスファルトの付着していない石鏃317点では、多様度1.27公平度0.55となる。完成品の方が、多様度が低い(第43~47表)。



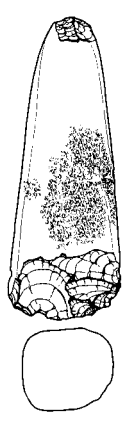

さらに両者の側縁形態比率を、同様に比較する。破損品でも部位の明確な物は含めた。また、残存部位が不明な物は除いた。完成品170点における多様度1.46公平度0.92に対して、アスファルトの付着していない石鏃321点では、多様度1.46公平度0.73となる。完成品は、公平度が高く出ている。

完成品と「失敗作」ともいえるアスファルトの付着していない物とでは、大きさ・重量において高



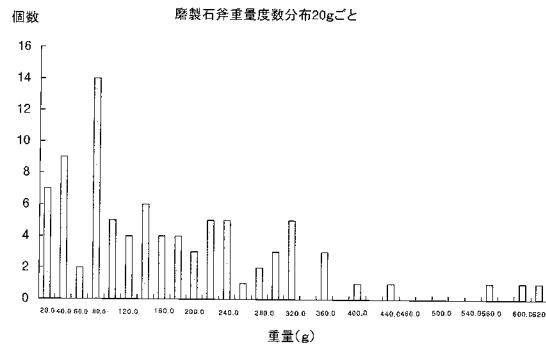
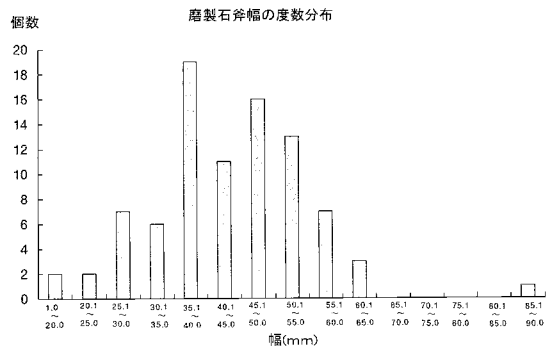
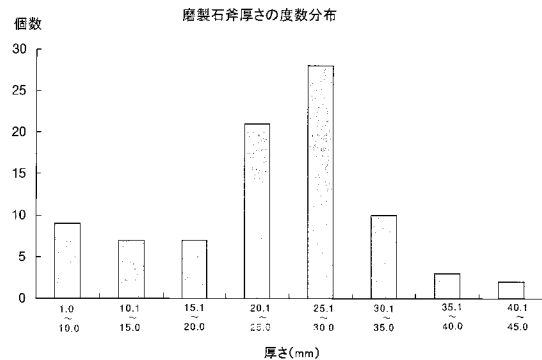
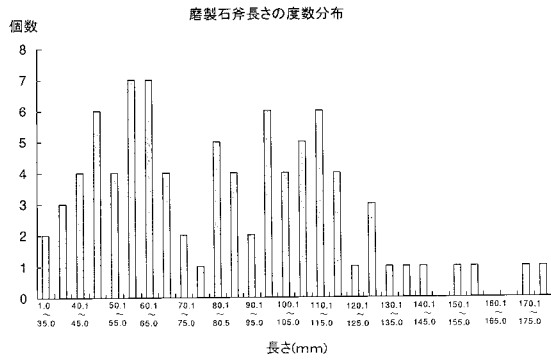
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
183	1	8041	LS35		頁岩	150.8	57.3	42.1	371.3	
183	2	8043	LR30		頁岩	101.8	36.3	27.7	140.8	
183	3	102488	MG33		頁岩	100.8	36.2	34.6	121.2	

第183図 土掘具(1)

大形の もの	中心に 抉りの ないもの	断面が 扁平な もの	
	I	a	
	中心に 抉りの あるもの	断面が 丸いもの	
II	b		
A	その他		
	III		
B	小形の もの		

第184図 磨製石斧の分類

第2章 捨て場と遺物



第60表 磨製石斧サイズの特徴（完形品22点）

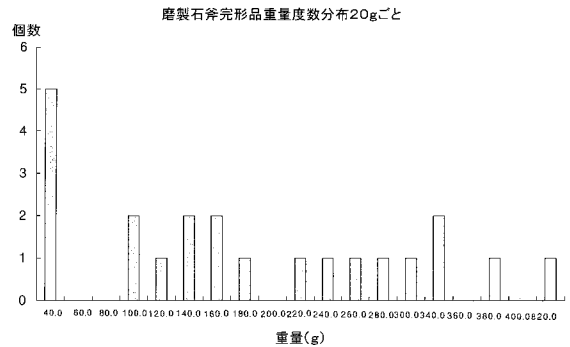
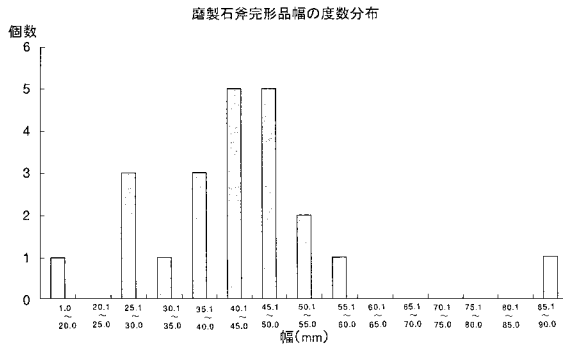
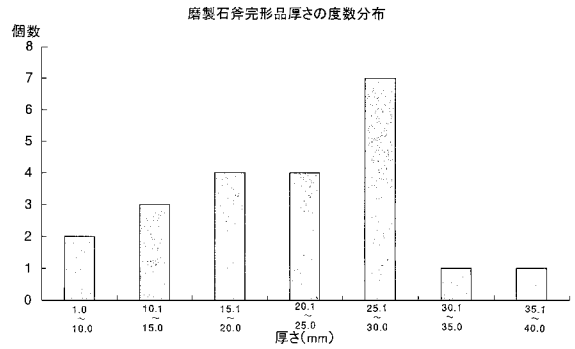
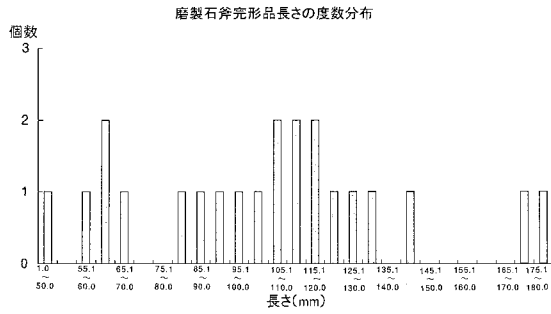
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	84.858621	43.487356	23.750575	163.15115
最大値	178	85.2	41.5	820
最小値	33.3	19.2	5.6	6.35
範囲	144.7	66	35.9	813.65
最頻値	56~65mm	36~40mm	26~30mm	61~80g
最頻値個数	14	19	28	14
最頻値%	16.091954	21.83908	32.183908	16.091954
分散	1131.7855	127.21112	63.993226	19959.909
標準偏差	33.64202	11.278791	7.9995766	141.27954
尖度	-0.335806	1.1978513	-0.232654	5.116859
歪度	0.4934143	0.3318434	-0.408218	1.8152767

第185図 磨製石斧完形品サイズの特徴

い有意差があることを先述した。基部形態の多様度比較において、アスファルトの付着する物の方が数値が低いことは、それだけ形態が固定されていることを示している。逆に言えば、アスファルトの付着しない物は未製品や「失敗作」だからこそ多様な形態を持つと考えられる。さらに穿っていえば、真の「未製品」だけを集めて検定すれば「完成品」に準じる多様度・有意差を持つはずである。完成形を実現するために要求される素材の幅は自ずと狭められるだろう。比較の結果がそうっていないのは、アスファルトが付着していない石鏃中には、将来は完成するはずの「未製品」だけでなく、素材選定の段階ですでにミスした必然的「失敗作」を多く含んでいることを傍証する。

阿部が指摘するように、エティック（他者による「客観的」）な分類によってア・プリアリに「未製品」を認定してしまうと、資料の裏に隠れたイーミック（当事者による知識・認識体系）な分類による縄文人自身の石器製作工程を見逃してしまう。従来のエティックな分類・分析の弱点であり、イーミックな認識論をふまえた新しい分析方法を構築するためには、詳細な石器の観察・計測が不可欠である。

次に、完成品石鏃破損品とアスファルトの付着していない石鏃破損品の残存部位の比率を「壊れ方



第61表 磨製石斧サイズの特徴（全87点）

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	105.26818	43.027273	22.163636	192.62727
最大値	178	85.2	39.1	820
最小値	46	19.2	9.2	22.4
範囲	132	66	29.9	797.6
最頻値	106~120mm	41~50mm	26~30mm	6~10g
数	6	10	7	5
最頻値%	27.272727	45.454545	31.818182	22.727273
分散	1170.2775	183.29636	71.910043	30740.234
標準偏差	34.209319	13.538699	8.479979	175.32893
尖度	0.0193395	3.6137026	-0.854509	7.2700193
歪度	0.2841081	1.1041903	-0.024337	2.2471033

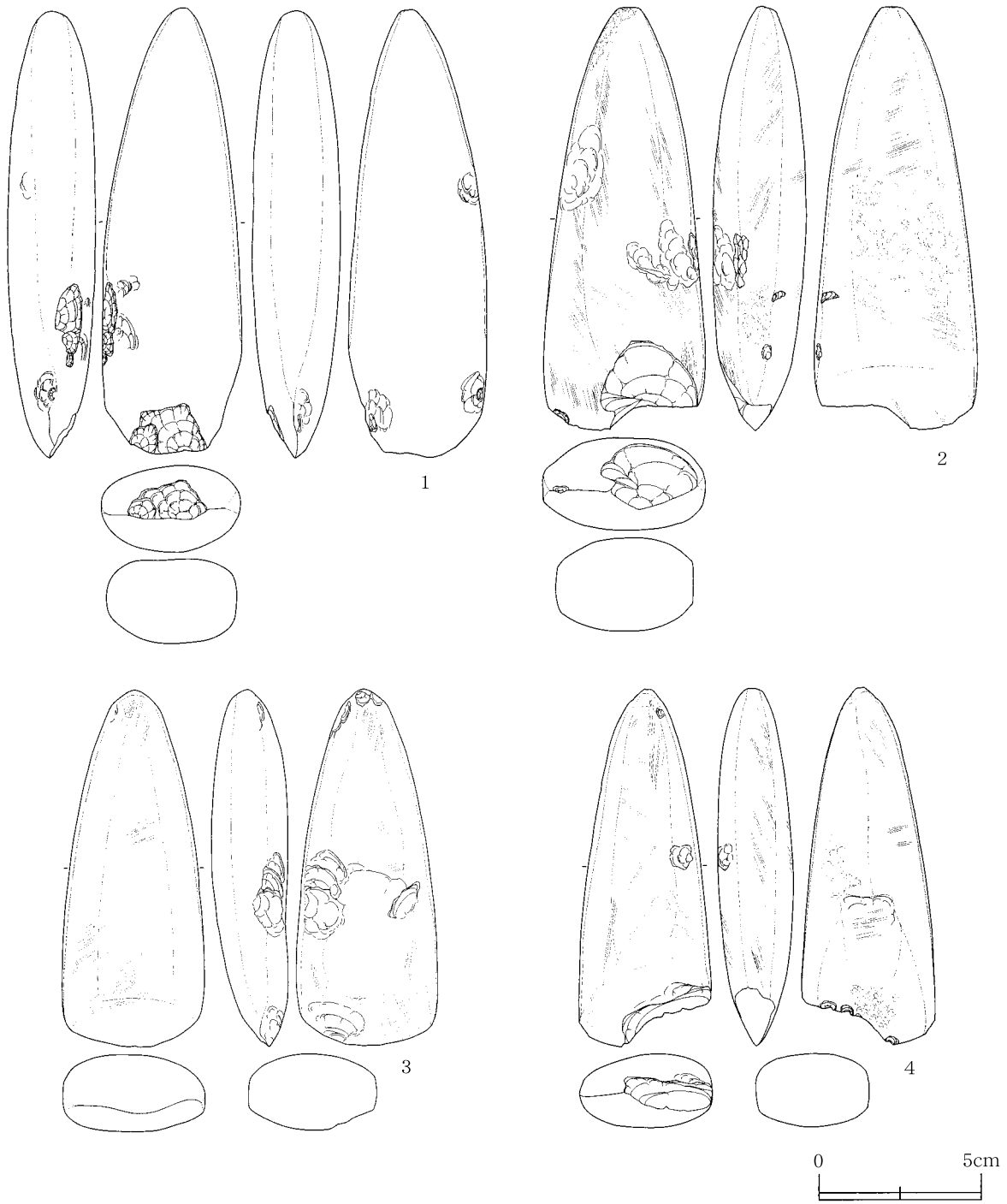
第186図 磨製石斧サイズの特徴

の多様度」として、マッカーサーの多様度指数を用いて比較する。残存部位が不明な物は除いた。完成後の破損品51点における多様度2.46公平度0.87に対して、アスファルトの付着していない石鏃152点では、多様度2.31公平度0.82となる。完成後破損品の方が、多様度が高い（第32～33・49～50表）。

完成品の形態多様度が、アスファルトの付着していない石鏃に対して低く計算されていたのとは対照的に、壊れ方の多様度は完成品が高い。完成品が壊れる理由には、使用による場合と再調整による場合の2点が考えられる。未製品ならば製作途上の破損であろうから、両者の多様度に差があるのは、破損原因の差を示している可能性が高い。

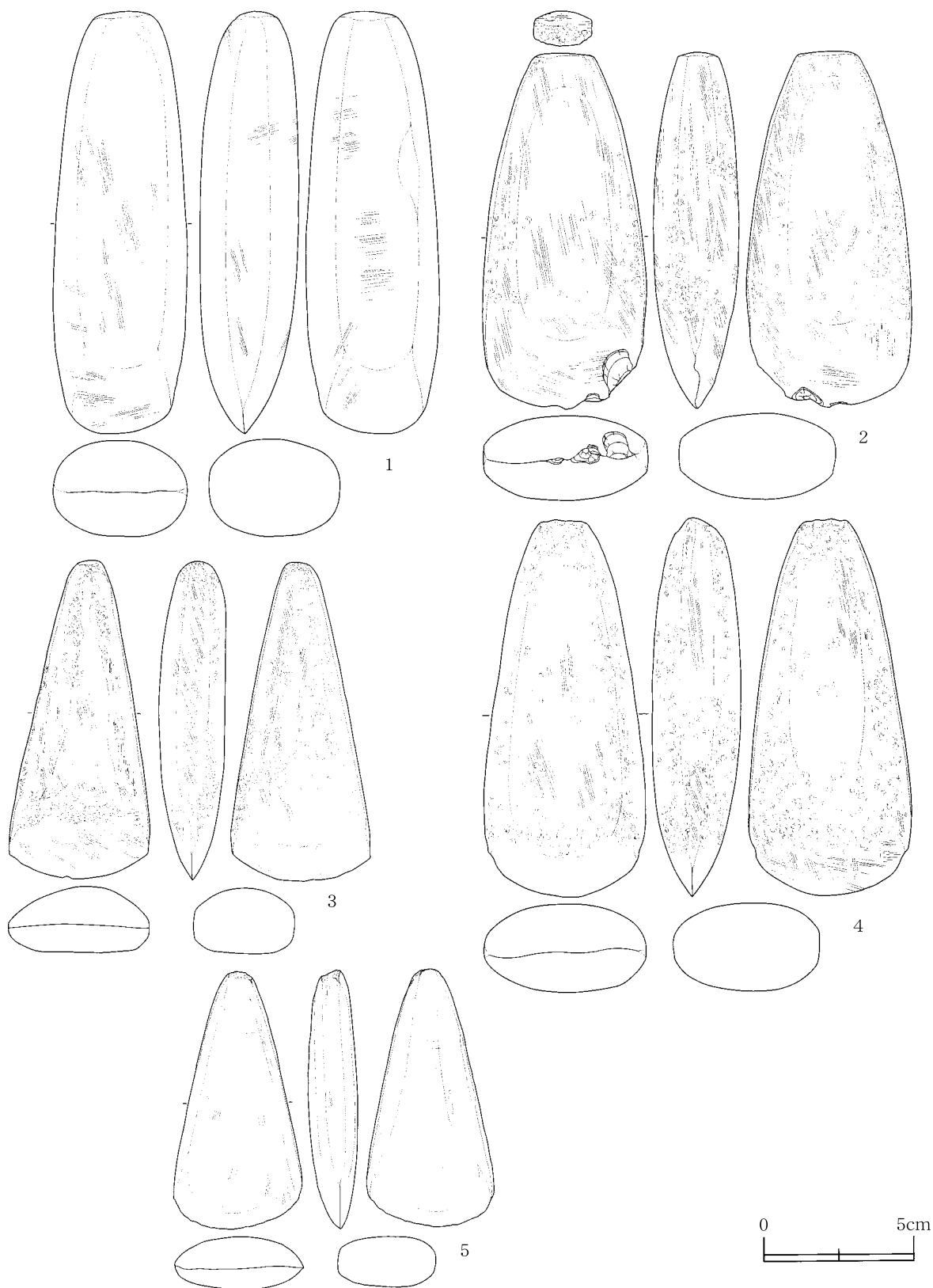
阿部の計測点から側面形態と対称性を計測し、度数分布表とした（第34表）。a類18点21.7%、b類23点27.7%、c類9点10.8%、d類33点39.8%である。c類のように強く湾曲する物は少ない。

また、対称性は中軸線に対する左右最大幅の差が0.05mm以内の物30点36.1%、0.06～0.10mmの物24.1%、0.11～0.15mmの物15点18.1%、0.16～0.20mmの物3点3.6%、0.21～0.25mmの物6点7.2%、0.26～0.30mmの物9点10.8%となる。対称性が0.10mm以下の物で50%を超え、0.15mm以下の物まで含めれば70%以上となる。一番対称性が高い0.05mm以下のものが最も多く、対称性0.20mm以下の物まで



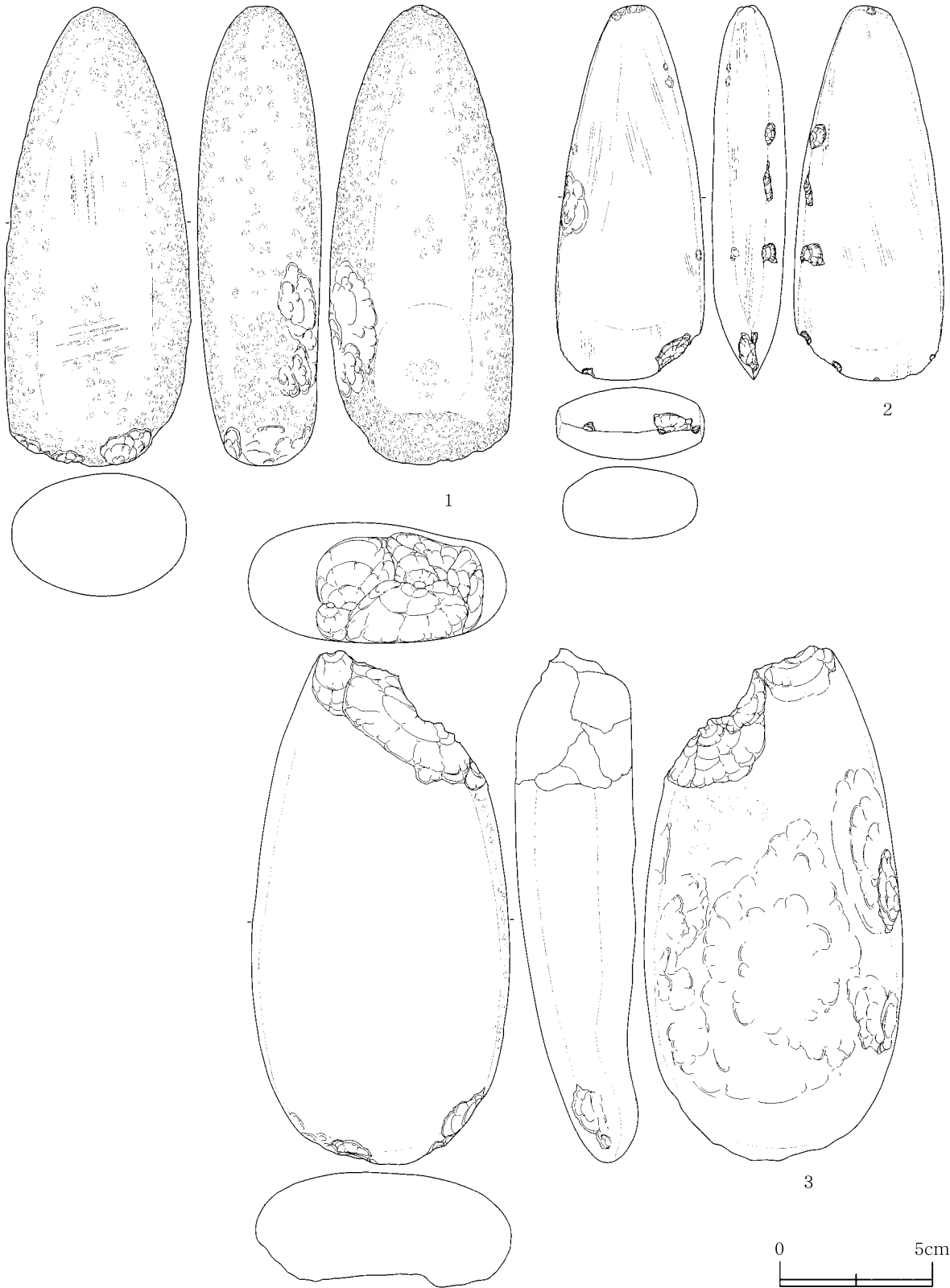
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
187	1	9418	MD23		ホルンフェルス	138.0	43.3	26.4	238.9	A		a	完形
187	2	7824	MA27		輝石安山岩	130.6	51.1	28.9	274.8	A		a	完形
187	3	102475	MI34		輝石安山岩	110.0	44.0	24.0	179.2	A		a	完形
187	4	7819	LN33		輝石安山岩	109.7	41.8	23.6	156.9	A		a	完形

第187図 磨製石斧(1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
188	1	7823	LS29		閃緑岩	142.1	45.0	33.5	356.8	B		b	完形
188	2	7827	MA29		変質流紋岩	118.4	56.4	28.7	311.8	A		a	完形
188	3	102476	MG32		変質流紋岩	105.6	46.8	21.9	152.4	A		a	完形
188	4	7826	LT43	トレンチ	輝石安山岩	126.8	45.6	29.2	315.8	A		a	完形
188	5	102478	MH33		輝石安山岩	85.0	42.8	17.7	86.0	A		a	完形

第188図 磨製石斧(2)



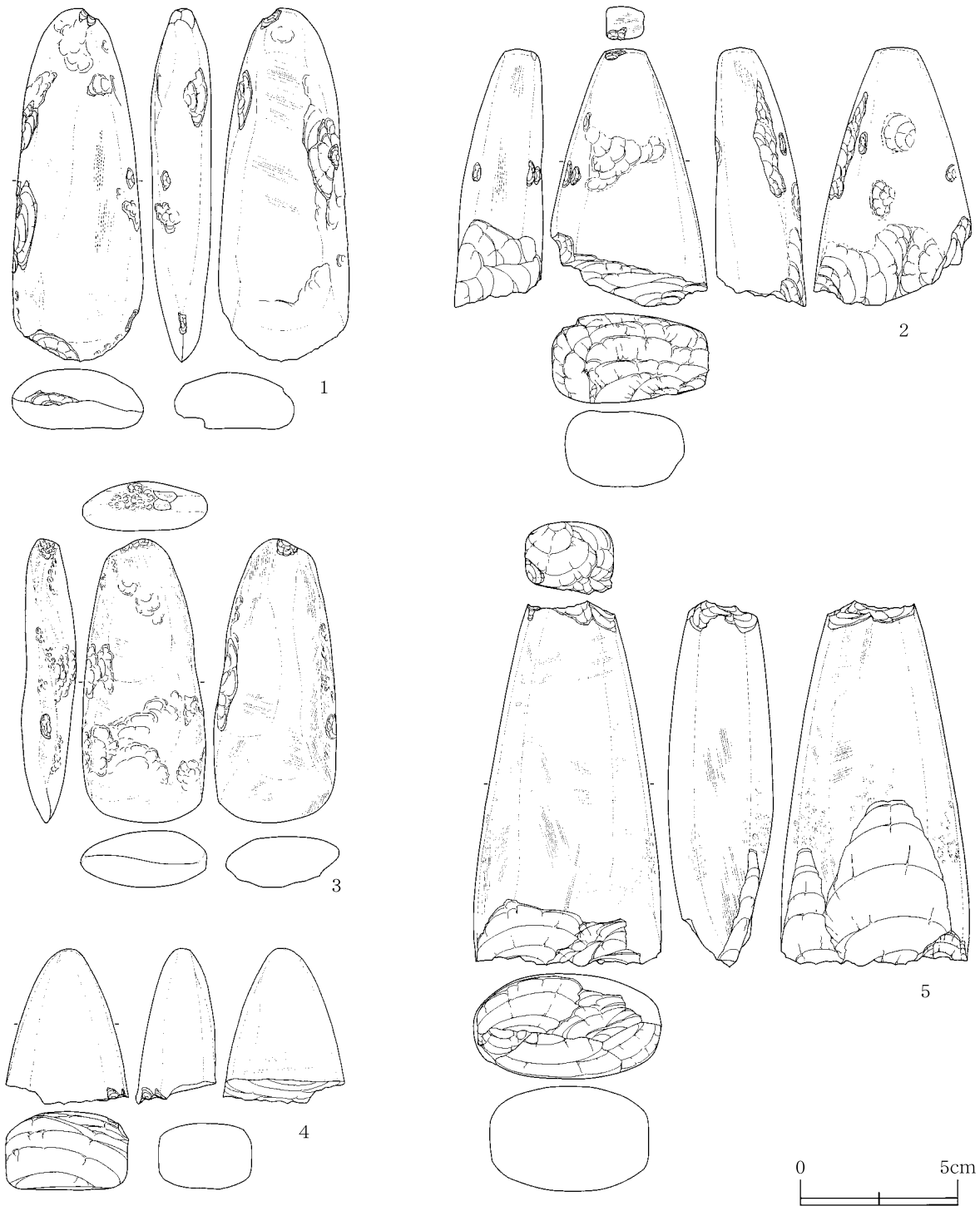
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
189	1	102472	MJ26		輝石安山岩	150.8	61.5	40.6	592.6	A		b	完形
189	2	102477	NH37		輝石安山岩	122.5	48.9	24.1	226.4	A		a	完形
189	3	102473	MJ26		輝石安山岩	171.0	85.2	39.1	820.0	A		a	完形

第189図 磨製石斧(3)



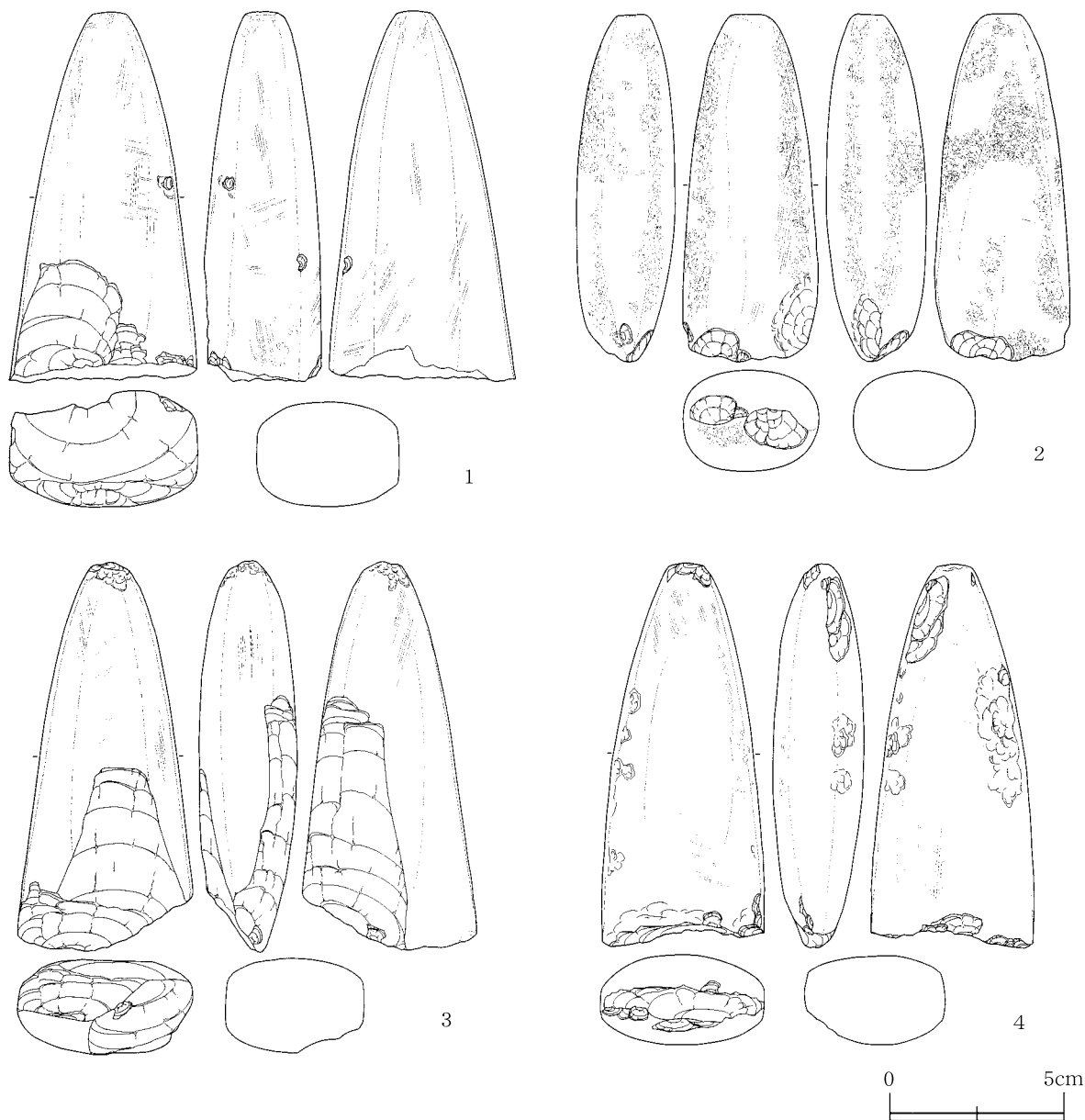
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
190	1	50960	LR36		輝石安山岩	113.2	54.6	28.9	303.6	A		a	刃部欠
190	2	7820	MB25		輝石安山岩	119.8	48.3	25.1	233.3	A		a	刃部欠
190	3	7829	LN35		安山岩?	104.7	39.4	24.8	131.0	A		a	刃部欠
190	4	9417	LS33		変質流紋岩	146.1	52.2	30.6	380.8	A		a	刃部欠

第190図 磨製石斧(4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
191	1	7825	LQ32		輝石安山岩	112.1	41.8	19.7	156.2	A		a	完形
191	2	9419	LO35		変質流紋岩	82.6	46.2	27.0	173.1	A		a	刃部欠
191	3	102474	MG33		輝石安山岩	89.8	39.0	16.7	90.2	A		a	完形
191	4	102480	NC24		凝灰岩質岩	53.6	46.6	19.5	84.0	A		a	刃部欠
191	5	7828	LT32		輝石安山岩	116.6	59.5	33.0	346.8	A		a	刃部欠

第191図 磨製石斧(5)



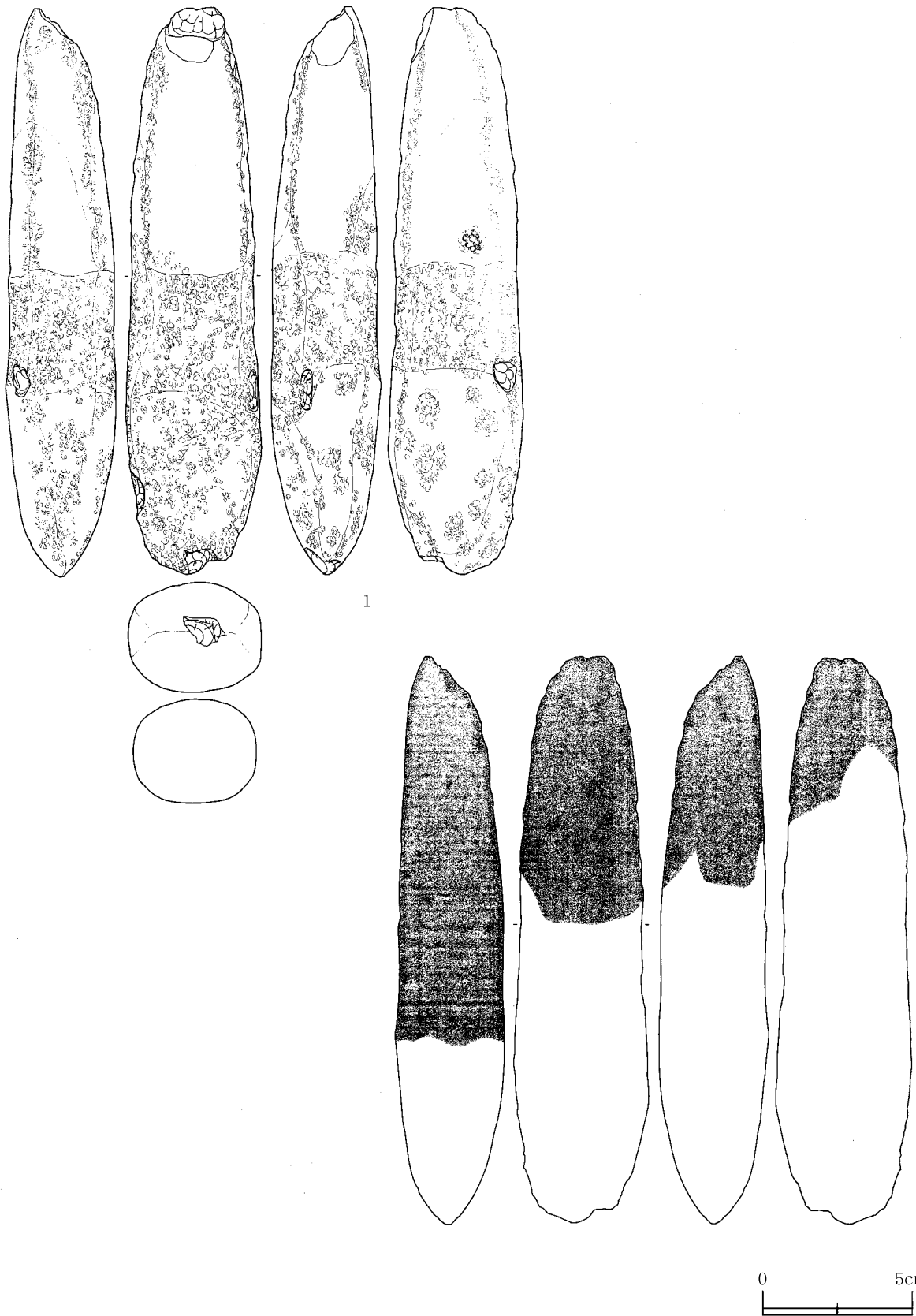
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
192	1	7822	LS33		輝石安山岩	106.2	53.6	33.1	300.2	A		a	刃部欠損
192	2	9421	MC28		輝石安山岩	100.0	38.6	29.2	189.9	A		b	完形
192	3	7833	MB25		輝石安山岩	111.3	48.8	28.3	212.0	A		a	刃部欠損
192	4	7830	LT36		閃緑岩	111.0	48.4	25.9	216.6	A		a	刃部欠損

第192図 磨製石斧(6)



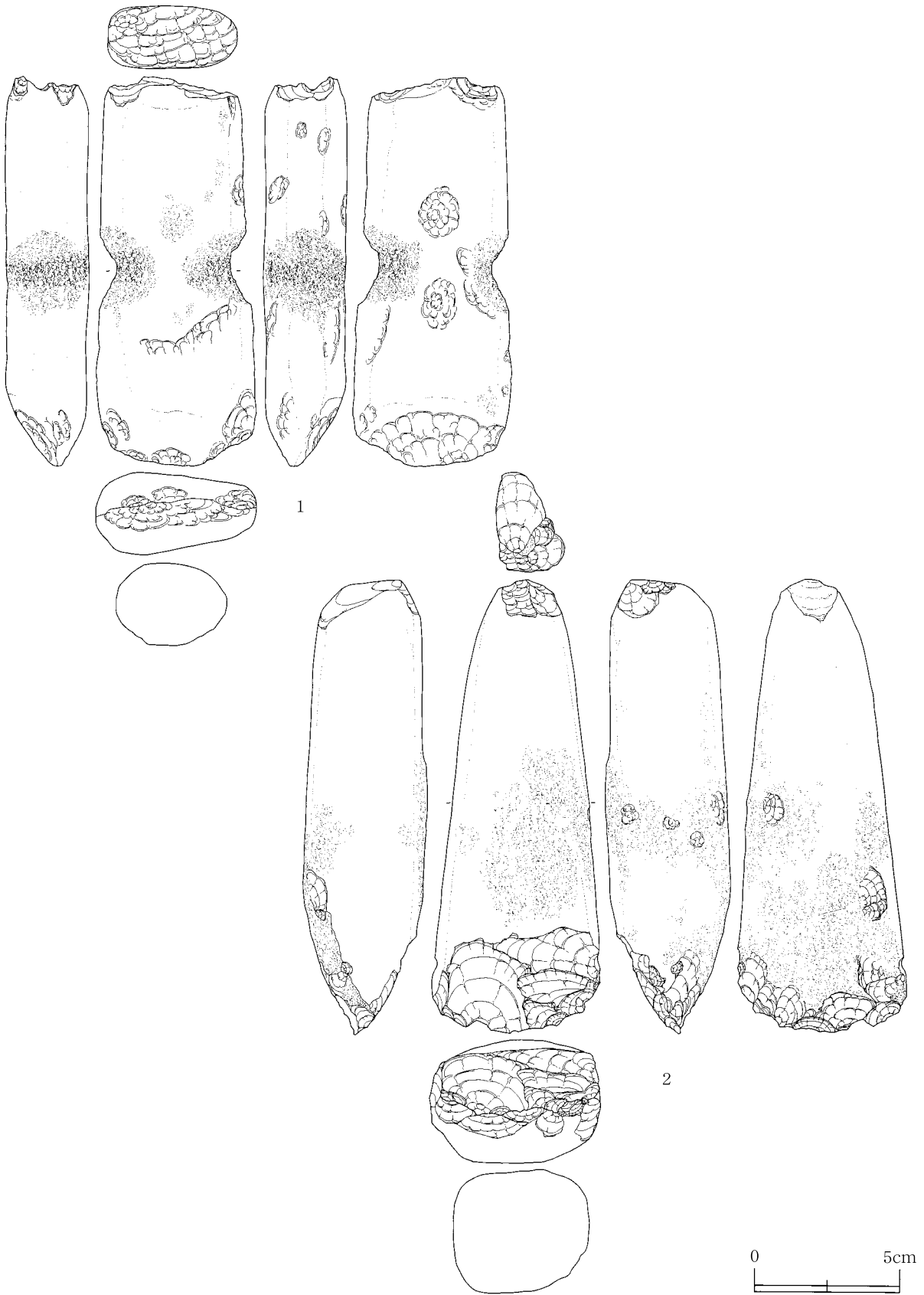
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
193	1	7831	MI26		流紋岩	109.2	63.0	35.3	420.6	A		a	基部欠損
193	2	102482	NC24		変質流紋岩	50.8	38.4	23.1	60.6	A		a	基部欠損
193	3	7821	MB27		輝石安山岩	90.3	56.1	35.5	300.8	A		a	基部欠損
193	4	7832	MA33		輝石安山岩	98.3	53.5	29.7	276.2	A		a	基部欠損

第193図 磨製石斧(7)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
194	1	56071	MC27		安山岩	187.0	47.2	40.1	51.0	A		b	完形・焼き跡あり

第194図 磨製石斧(8)



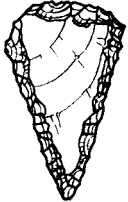
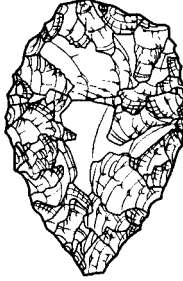
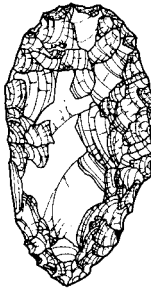
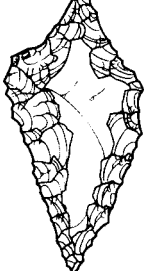
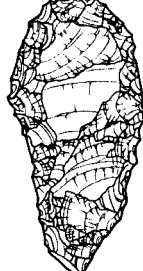



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
195	1	9416	LT42		緑泥片岩	132.0	53.9	27.7	349.9	A		a	基部欠損
195	2	9415	LT27		玄武岩	156.0	57.0	41.5	541.3	A		b	刃部欠損

第195図 磨製石斧(9)

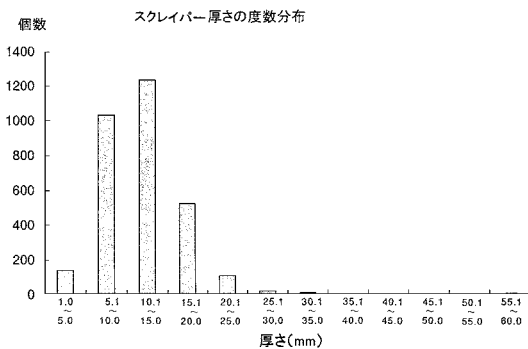
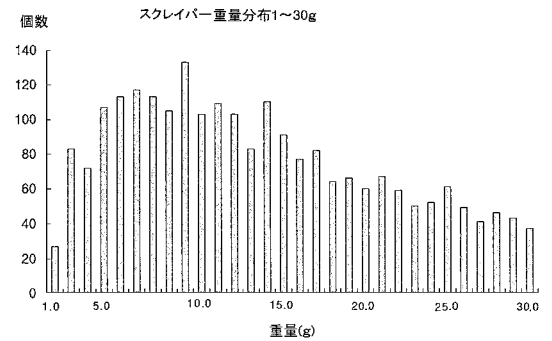
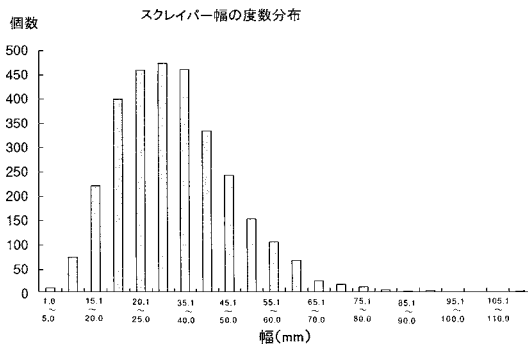
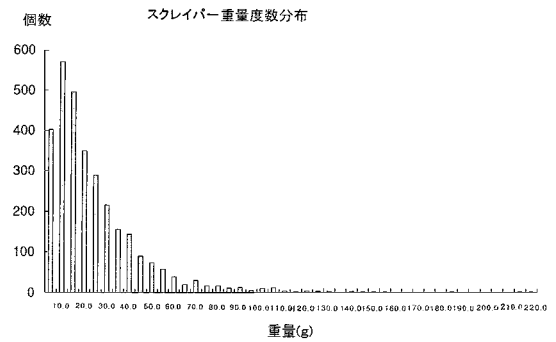
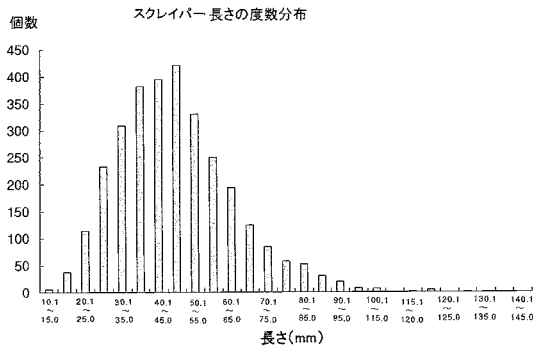


図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	胴部	側面	断面	備考
196	1	102479	MJ34		ひん岩	63.6	29.3	12.5	36.8	B		a	完形
196	2	103675	LS34		変質流紋岩	59.9	26.9	11.1	31.0	B		a	完形
196	3	103674	MB26		変質流紋岩	60.3	32.0	9.4	28.0	B		a	完形
196	4	102611	LP33		玄武岩?	66.3	19.1	10.0	22.2	B		a	完形・楔として使われた。
196	5	102481	MJ35		変質流紋岩	56.3	38.2	14.0	51.2	B		a	基部欠損
196	6	103673	MB26		変質流紋岩	45.2	25.5	9.5	24.1	B		a	完形
196	7	9423	LQ30		不明	42.1	28.5	22.8	31.6	?	?	?	

第196図 磨製石斧(10)

	直刃と直刃	凸刃と凸刃	直刃と凸刃
刃部末端が尖るもの	 I	 II	 III
	直刃と凹刃	凸刃と凹刃	凹刃と凹刃
A	 IV	 V	 VI
	直刃	凸刃と凹刃	凹刃と凹刃
刃部末端が尖らないもの	 I	 II	 III
B			

第197図 スクレイパーの分類



第62表 スクレイパーサイズの特徴 (全3,074点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	47.333702	35.334185	11.839165	22.612133
最大値	140.2	114.6	56.8	244
最小値	13	6.4	2	0.4
範囲	127.2	108.2	54.8	243.6
最頻値	46~50mm	31~35mm	11~15mm	9g
最頻値個数	421	472	1234	571
最頻値%	13.695511	15.354587	40.143136	18.575146
分散	260.04783	177.05957	22.265081	519.31314
標準偏差	16.125999	13.306373	4.7185889	22.788443
尖度	1.4790621	1.8531086	4.9288653	15.539862
歪度	0.8689569	0.9102921	1.1715739	3.0042018

第198図 スクレイパーサイズの特徴

漸移的に減少した後、0.21~0.30mmまで増加に転ずる。

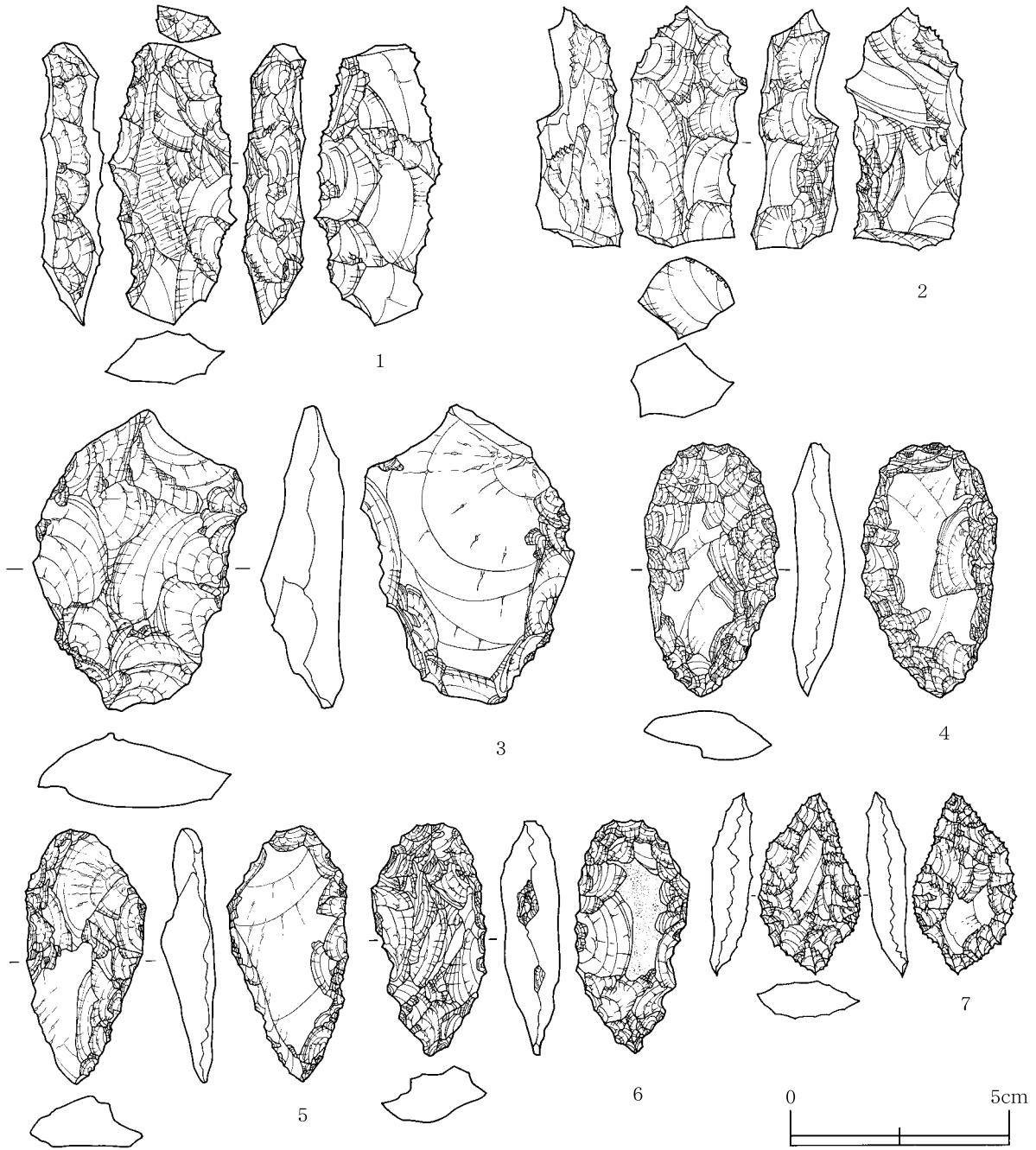
0.30mm以内のズレにどこまで意味があったのか明らかではないが、5割を超える石鏃が、ほぼ完全に対称といえる平面形を要求されている以上、逆に2割近い石鏃がその規範を逸脱しても完成品と認識されている理由を、今後考える必要がある。

(2) 尖頭器

全部で118点出土している。使用石材は99%硬質頁岩である。尖頭器は、平面形状で3種類、表裏加工の状態で2種類の6類型に分類した(第176図)。

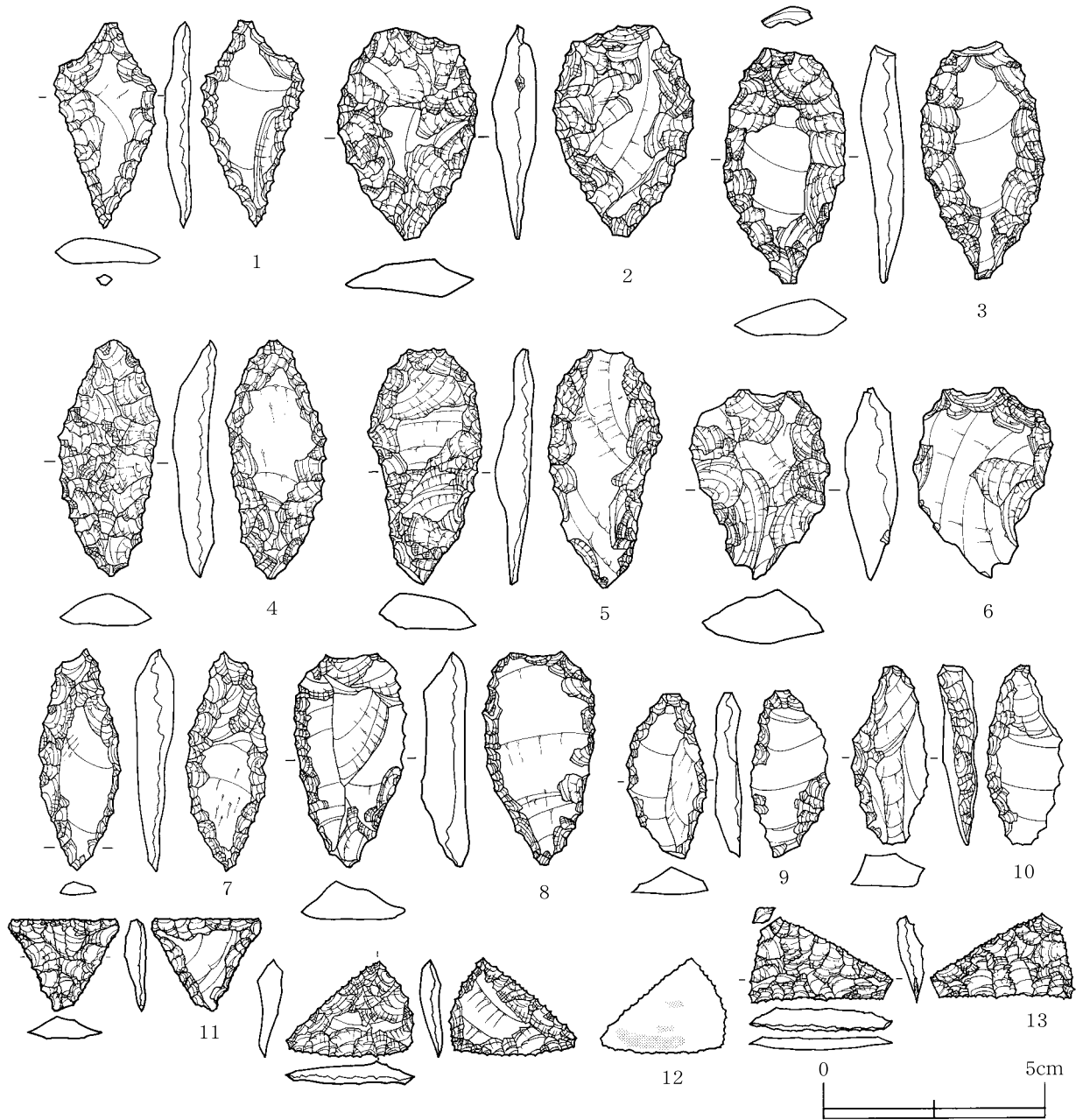
尖頭器の長さは、最大110.9mm、最小11.1mm、平均40.6mmで、35.1~40.0mmのものが22点18.6%と最頻値を示す。幅は、最大43.7mm、最小5.1mm、平均22.0mmで、20.1~25.0mmのものが42点35.6%と最頻値を示す。厚さは、最大25.1mm、最小2.3mm、平均8.3mmで、5.1~10.0mmのものが77点65.3%と最頻値を示す。重量は、最大61.7g、最小0.4g、平均8.0gで、7.0gのものが17点と最頻値を示す。尖頭器の各サイズ分布は第176図・第56表に示した。

一見して、C類は平面形が非対称であり、断面形も分厚い印象を受ける。尖頭スクレイパーとの分



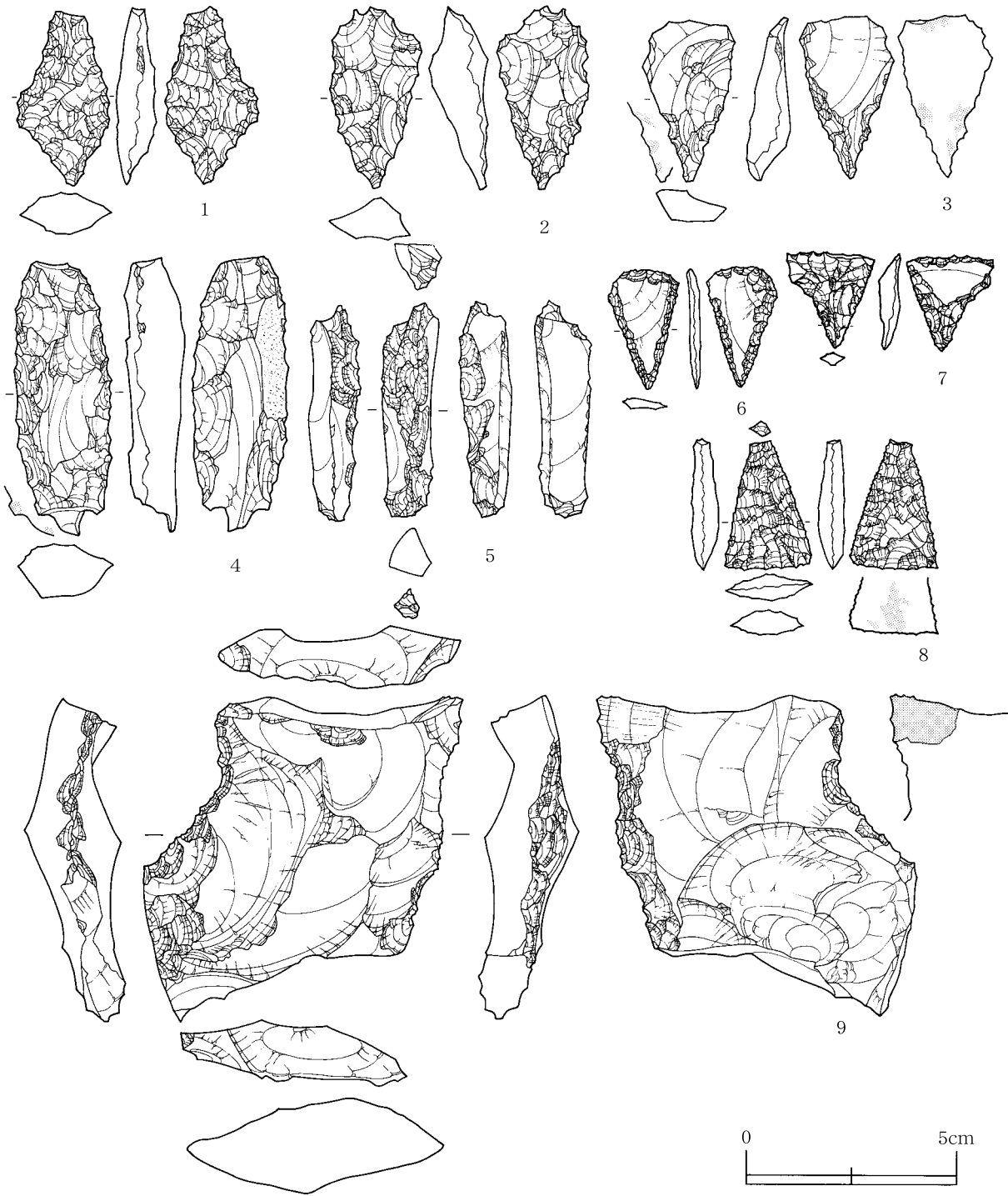
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
199	1	3243	LO34		頁岩	64.2	28.0	14.1	26.0	A		
199	2	50261	MB28		頁岩	54.2	28.6	19.7	25.6	A		下端折損
199	3	23640	LP37		頁岩	69.4	50.0	17.5	52.6	A		
199	4	9018	LR32		頁岩	57.1	30.1	10.6	21.4	A		
199	5	9022	LQ33		頁岩	57.3	26.6	10.0	14.3	A		
199	6	9029	MA37		頁岩	51.2	25.3	21.9	16.8	A		
199	7	494	LQ39	粘土	頁岩	40.5	25.0	8.5	7.8	A		

第199図 スクレイパー(1)



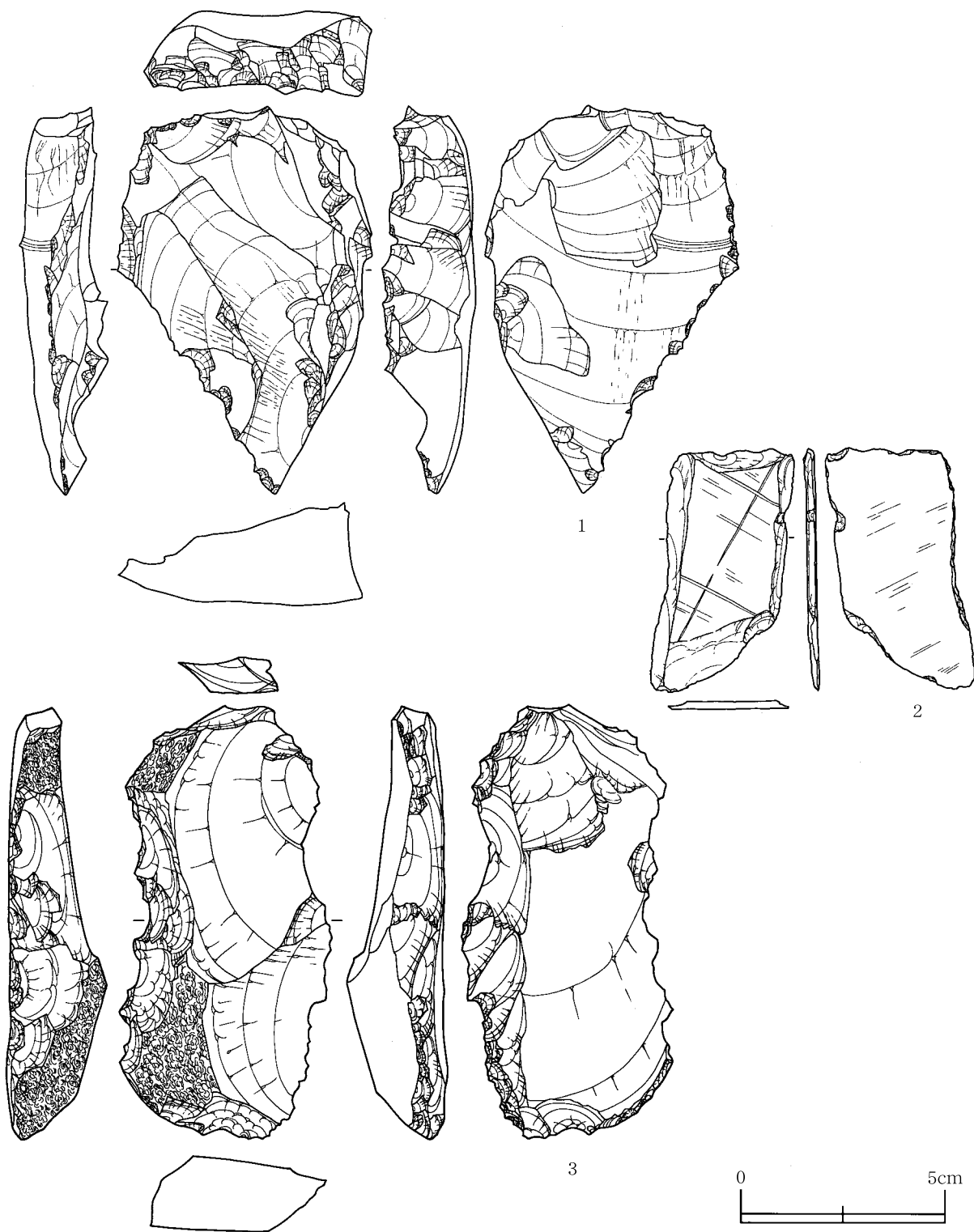
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
200	1	9069	MA28		頁岩	45.6	23.4	5.0	5.6	A		
200	2	9019	LP33		頁岩	46.8	31.0	9.6	13.2	A		
200	3	9025	MB28		頁岩	53.1	26.9	7.8	14.4	A		
200	4	9031	LT33		頁岩	50.8	21.0	7.9	9.3	A		
200	5	9030	MA36		頁岩	51.5	24.0	6.2	9.3	A		
200	6	16594	LQ36		頁岩	43.8	31.8	12.2	15.2	A		
200	7	9098	MB36		頁岩	49.0	18.1	8.6	7.4	A		
200	8	9027	LP32		頁岩	46.1	24.2	8.1	11.5	A		
200	9	9062	LS36		頁岩	35.6	17.8	6.0	3.8	A		
200	10	9063	LP37		頁岩	38.9	17.1	7.5	5.2	A		
200	11	603	MD29		玉髄	20.7	24.4	5.2	1.9	A		
200	12	315	MB27		頁岩	28.7	19.6	4.9	2.3	B		アスファルト付
200	13	140	MA34		頁岩	31.3	20.1	5.0	2.5	B		

第200図 スクレイパー(2)



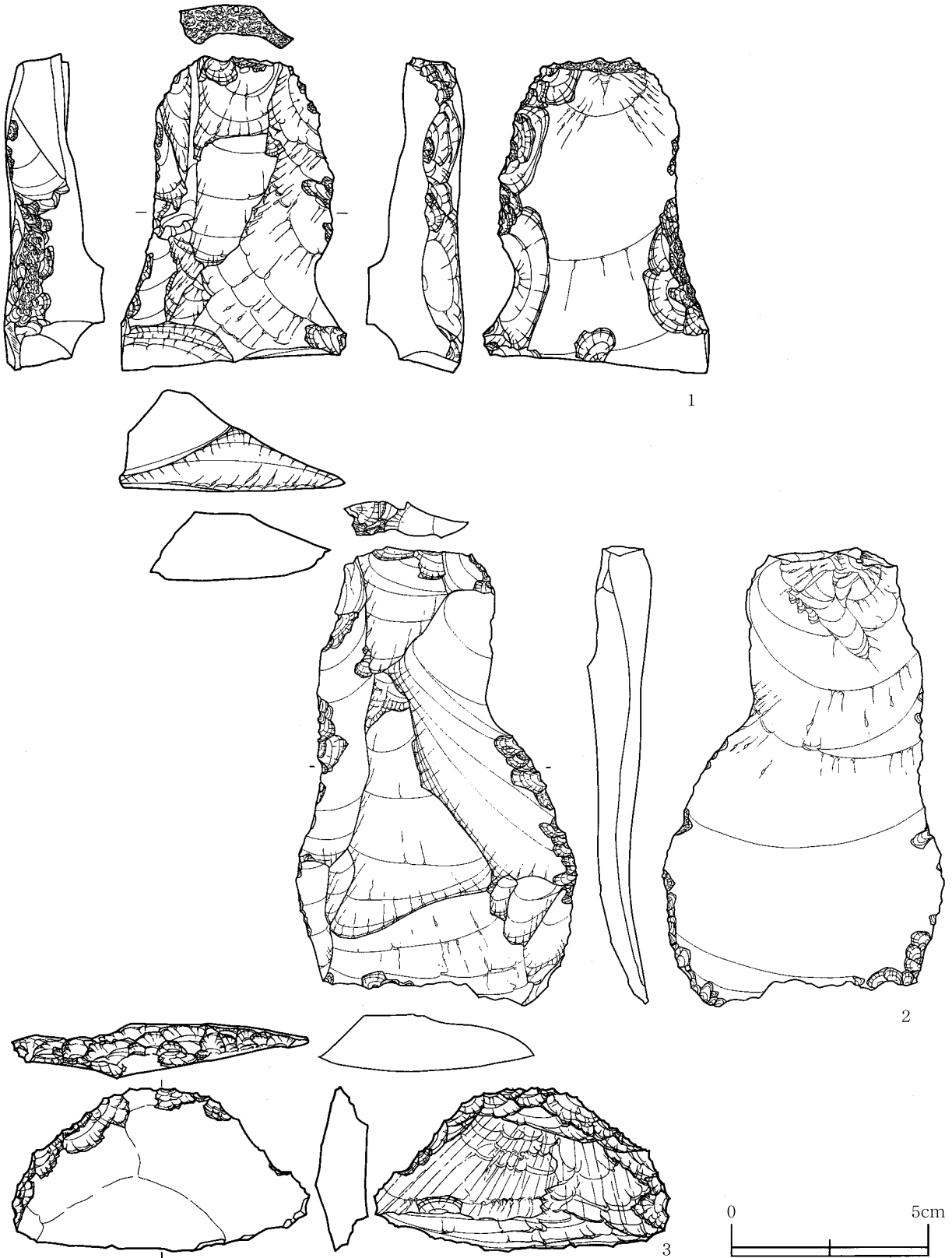
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
201	1	9065	LS37		頁岩	41.2	21.7	8.8	7.0	A		
201	2	9086	MB28		頁岩	42.4	21.4	13.1	8.8	A		
201	3	9082	LP34		頁岩	38.0	21.2	9.0	5.6	A		アスファルト付
201	4	9034	MB28		頁岩	65.2	22.8	14.7	22.3	B		アスファルト付
201	5	56046	LN32		頁岩	49.8	12.6	12.3	8.1	B		
201	6	102491	MI34		頁岩	28.3	16.5	2.4	1.0	A		
201	7	606	MA28		玉髄	22.0	20.7	5.0	1.6	A		
201	8	121	LO32		頁岩	30.0	20.1	6.2	3.3	B		アスファルト付
201	9	56069	LP35		頁岩	100.2	71.9	20.6	94.9	B		アスファルト付

第201図 スクレイパー(3)



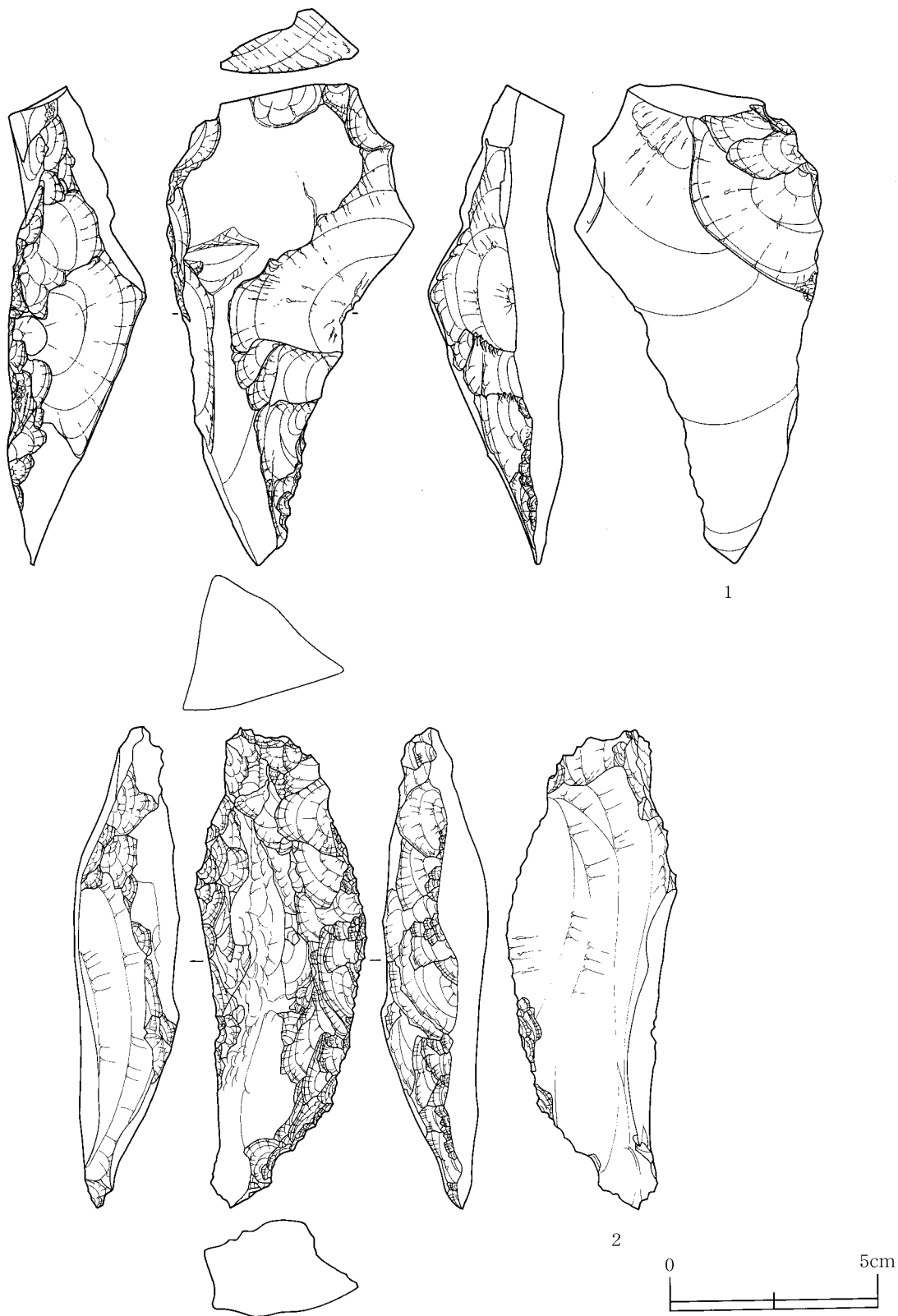
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
202	1	69551	LQ36		頁岩	93.6	61.9	22.6	113.0	A		
202	2	102493	MI31		頁岩	60.5	30.2	2.5	8.6	B		線状痕有り
202	3	8626	LS32		頁岩	105.2	47.8	23.0	125.0	B		

第202図 スクレイパー(4)



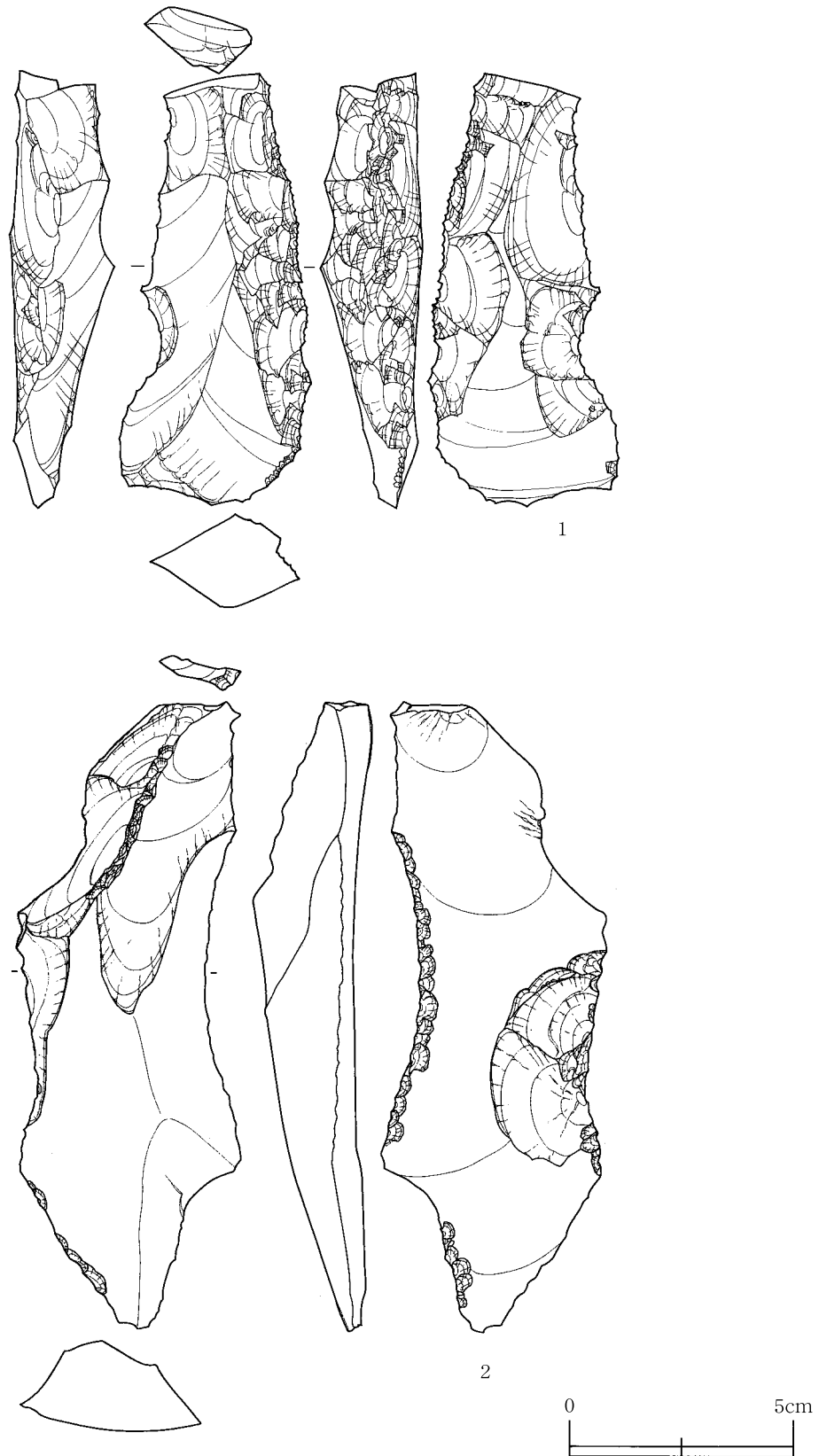
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
203	1	56070	LR38		頁岩	79.1	57.2	25.5	100.3	B		
203	2	56068	MA36		頁岩	115.0	72.1	15.2	105.6	B		
203	3	3246	LS35		頁岩	74.9	41.2	11.2	39.9	B		

第203図 スクレイパー(5)



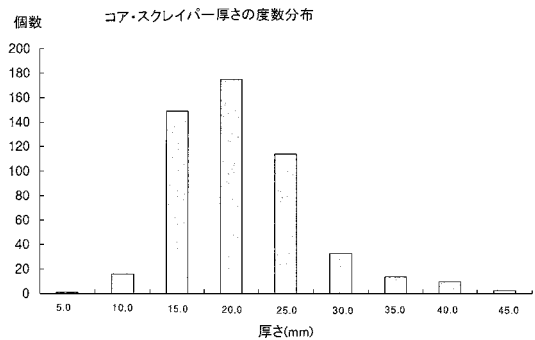
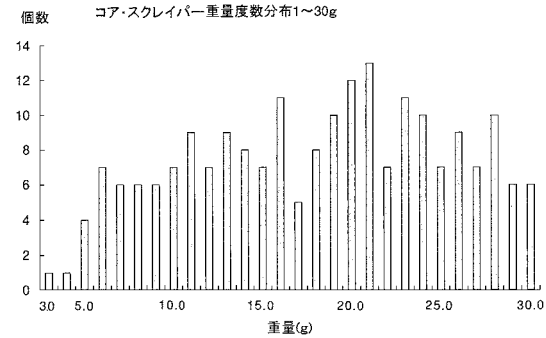
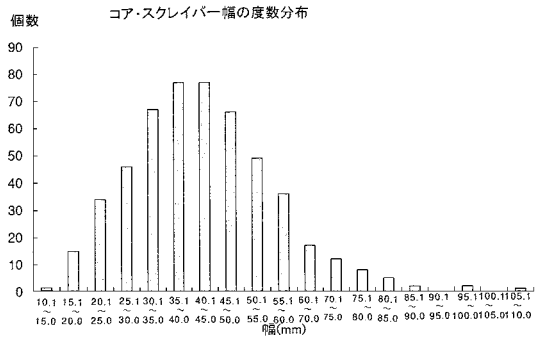
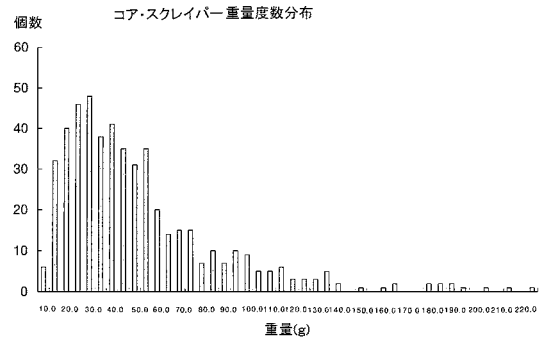
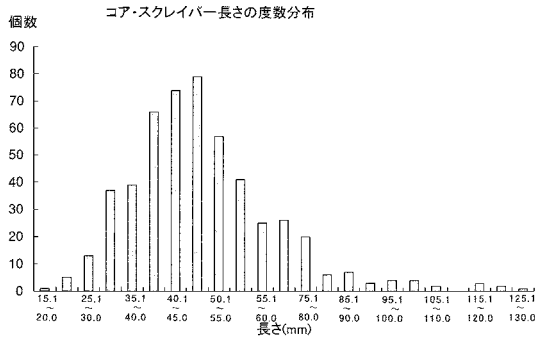
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
204	1	56066	MB26		頁岩	116.5	60.0	32.0	144.6	A		
204	2	56065	LO32		頁岩	114.8	39.4	25.4	104.0	A		

第204図 スクレイパー(6)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	刃部形態	備考
205	1	50123	LO35		頁岩	95.3	39.6	23.0	70.8	B		
205	2	56067	MA27		頁岩	140.2	49.0	21.3	107.0	A		

第205図 スクレイパー(7)



第63表 コア・スクレイパーサイズの特徴 (全515点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	53.829903	42.233981	18.578058	49.264175
最大値	125.5	101.8	43	410
最小値	17.4	11.8	5	2.6
範囲	108.1	90	38	407.4
最頻値	51~55mm	36~45mm	16~20mm	21g
最頻値個数	79	154	175	48
最頻値%	15.339806	29.902913	33.980583	9.3203883
分散	289.47766	186.02493	37.873895	2339.2877
標準偏差	17.014043	13.639096	6.154177	48.366183
尖度	2.4725875	0.8863792	1.6110874	13.748531
歪度	1.2158666	0.6340111	1.0428619	3.0760586

第206図 コア・スクレイパーサイズの特徴

類が困難な資料が多い。尖頭スクレイパーに比べてより薄手の資料を選択しているが、製作過程における未製品、もしくは失敗作が当然存在するはずである。ただし、尖頭スクレイパーがリダクションを繰り返して薄くなるとは思えないので、これら2器種は素材選択の段階で分かれているはずである。

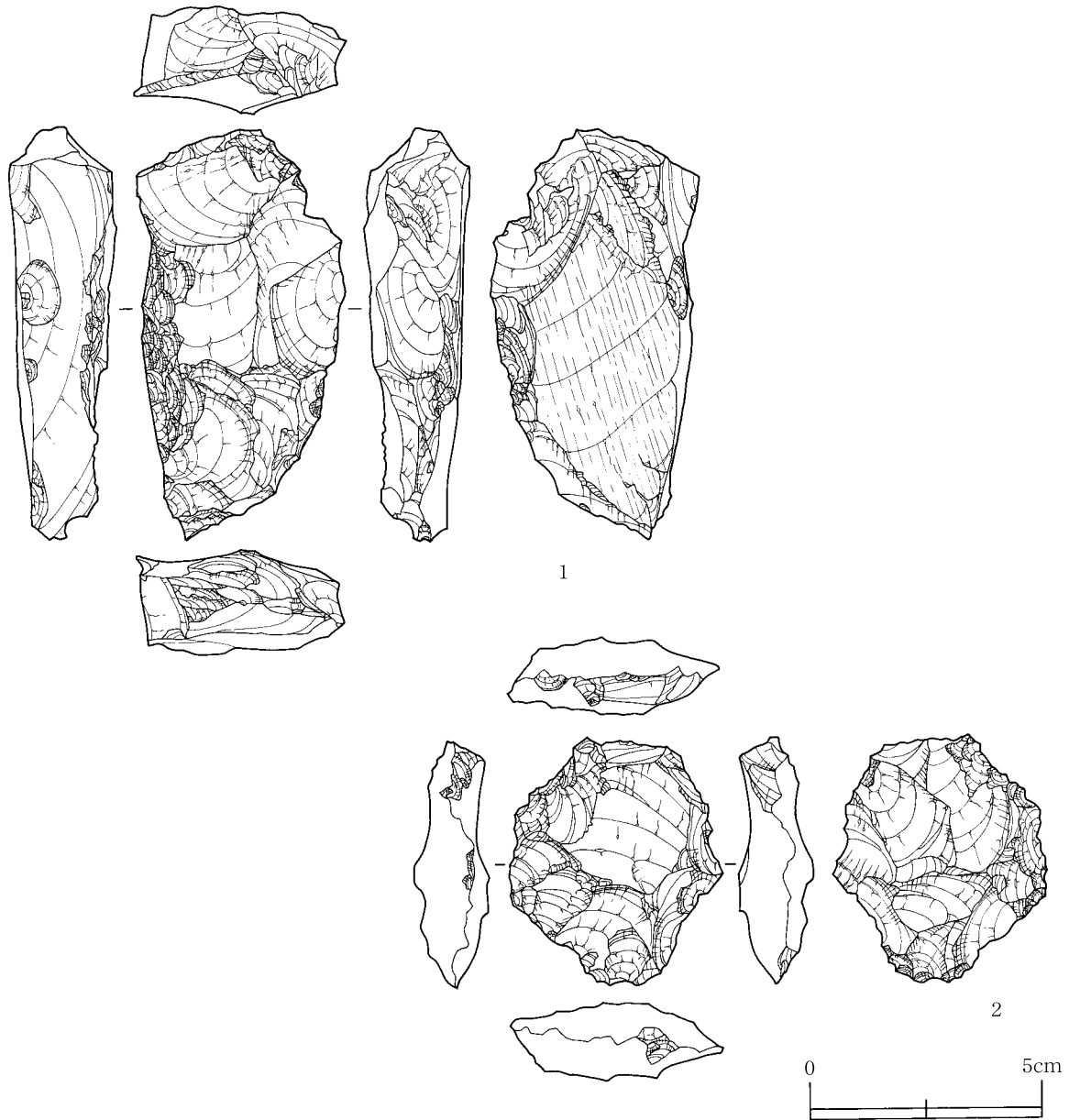
A類は、対称的かつ両面加工も進んでおり優品が多く含まれる。同時に、折れている物が目立つ(第177図9、第178図3・5)。

3 加工具

(1) 石鋏

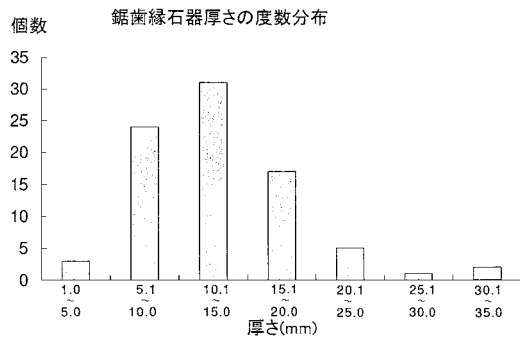
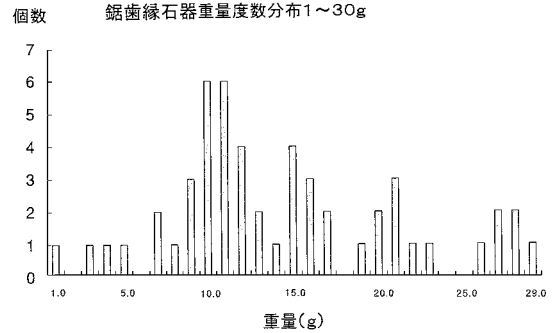
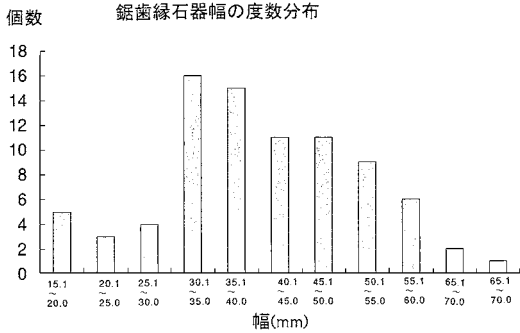
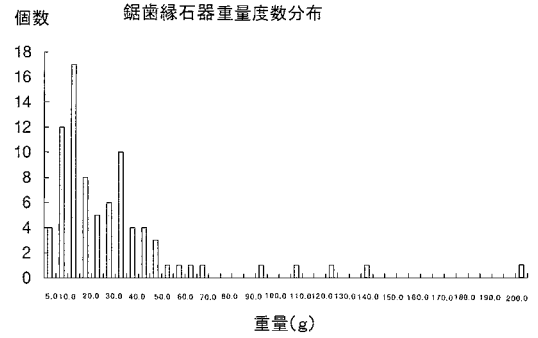
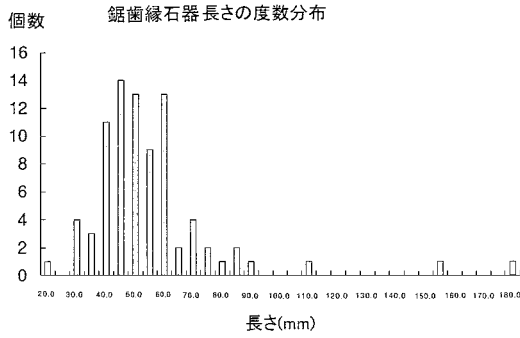
全部で4点出土している。第179図に分類を示した。

石鋏の長さは、最大196.0mm、最小108.0mm、平均144.6mmである。幅は、最大106.1mm、最小56.5mm、平均85.4mmである。厚さは、最大39.0mm、最小15.5mm、平均27.9mmである。重量は、最大567.0g、最小79.1g、平均326.9gである。石鋏の各サイズ分布は第57表に示した。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
207	1	8940	MA28		頁岩	87.1	44.7	21.2	95.1	
207	2	23770	LR35		頁岩	53.0	46.5	17.1	36.6	

第207図 コア・スクレイパー(1)



第64表 鋸歯縁石器サイズの特徴 (全83点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	52.551807	40.060241	13.160241	29.148193
最大値	177	68.5	31.5	201.8
最小値	19.5	16	4.3	1
範囲	157.5	52.5	27.2	200.8
最頻値	41~45mm	31~35mm	11~15mm	11~15g
最頻値個数	14	16	31	17
最頻値%	16.86747	19.277108	37.349398	20.481928
分散	522.07765	129.5112	28.264863	1007.5673
標準偏差	22.849019	11.380299	5.3164709	31.7422
尖度	13.85032	-0.32203	2.5423993	12.253375
歪度	3.1546984	0.0388057	1.2143639	3.1242804

第208図 鋸歯縁石器サイズの特徴

出土点数は少ないが、定形性の強い石器であり極めて特徴的である。刃部には使用による摩滅やつぶれ、剥離、そして線状痕が明確に残る。

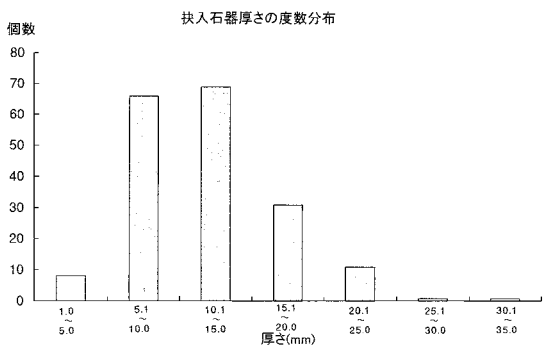
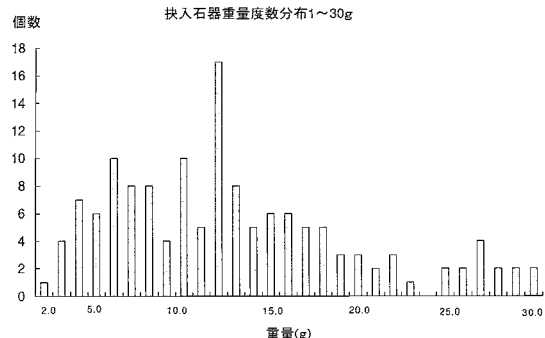
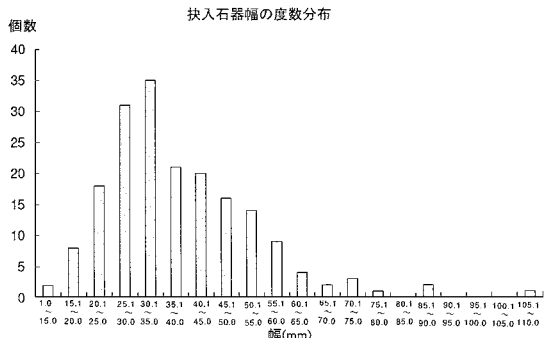
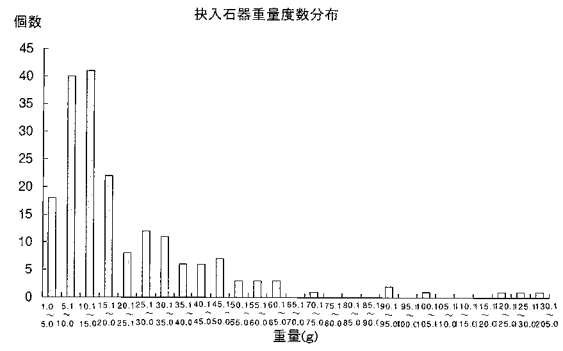
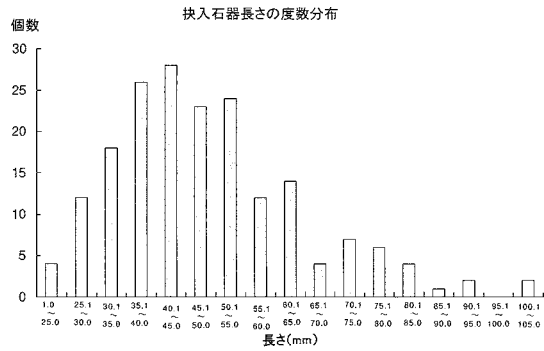
第180図 1 は、凝灰岩の大形板状剥片を利用している。柄部を中心に表裏を粗く調整して形を整えている。

背面に対して刃部左側を大きく欠損している。刃部は強く摩滅しており、欠損後さらに腹面側を再調整して刃部を再生しており、使用は継続されたと考えられる。使用者が右利きだとした場合、刃部破損の状態から、手前に引き込む動作によって破損したことが考えられる。

柄部は、背面右側を広く、左側を狭く調整しており、摩滅が著しい。このことも手持ち耕起具であることを想定させる。

第180図 2 も凝灰岩性の大形板状剥片を利用している。柄部は、非常に粗い調整で作り出している。素材剥片の形状は、もともと側面一端が強く飛びだしていたものを選択しており、その部位を利用して柄を作り出している。刃部は、折れて失われているが、破損後「槌」のように折損面を使っており、腹面右下には長軸方向の剥離面が残される。

第2章 捨て場と遺物



第65表 挿入石器サイズの特徴 (全187点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	49.013904	38.572727	11.898396	22.65615
最大値	104.4	109.8	30.5	203.3
最小値	22.5	12.7	3.6	1.8
範囲	81.9	97.1	26.9	201.5
最頻値	41~45mm	31~35mm	11~15mm	12g
最頻値個数	45	35	69	17
最頻値%	24.064171	18.716578	36.898396	9.0909091
分散	253.91013	218.77425	23.988331	607.64764
標準偏差	15.934558	14.791019	4.8977884	24.65051
尖度	0.9062155	3.0019167	0.6711641	17.927176
歪度	0.9626474	1.311098	0.805297	3.4614484

第209図 挿入石器サイズの特徴

第181図1は非常に大形厚手の荒割礫を素材としたと考えられる。平面形は第180図2と似ているが、非常に分厚い。前2例が板状に剥離しやすい凝灰岩を素材としたのに対し、本例は硬質頁岩であることも関連する。器面の調整は両面に施され、摩滅が進んでいない分、粗い印象を受ける。

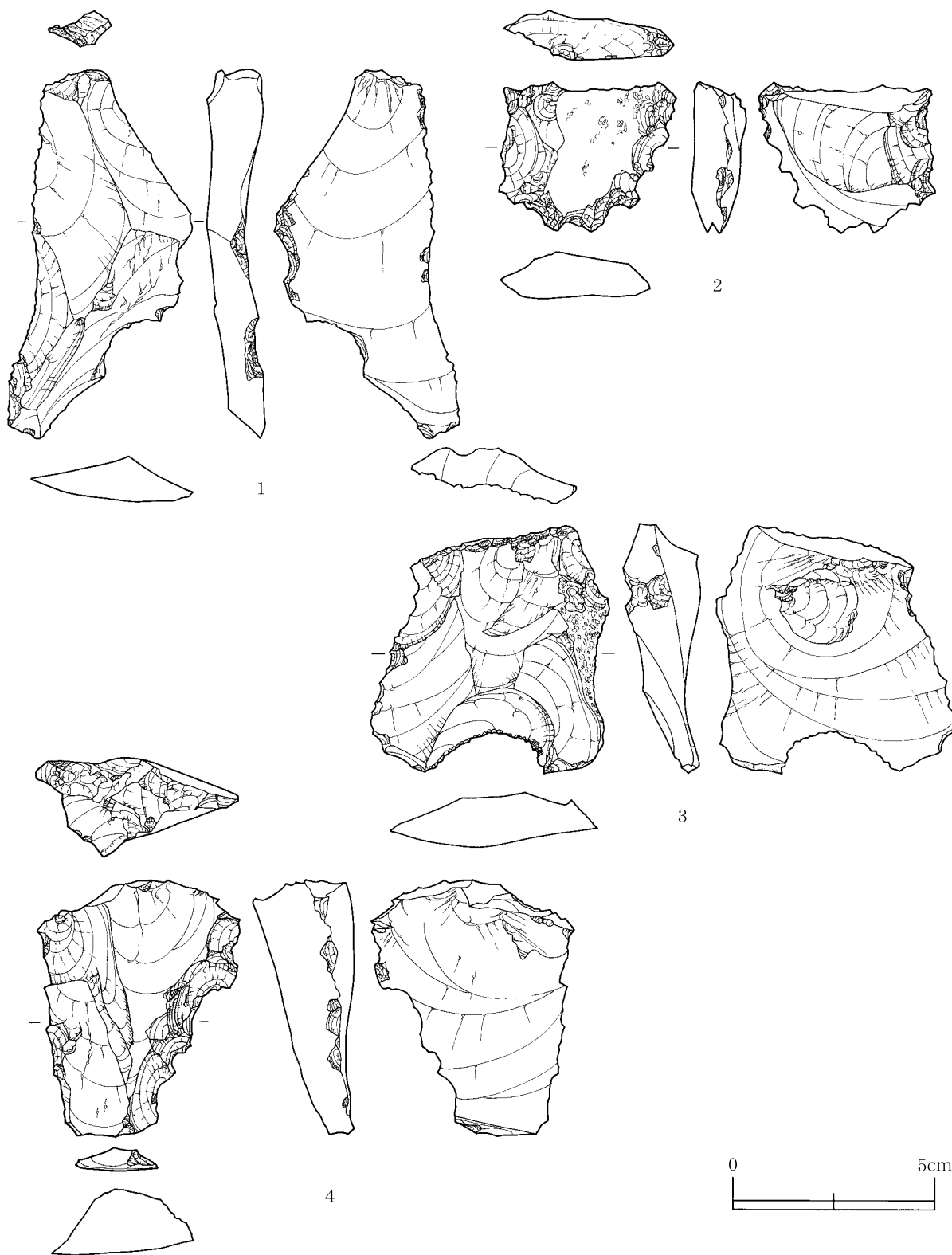
ただし、刃部のつぶれは著しく、何度も刃部再生をした結果、刃部角が90度に近づいている。刃部再生剥離は全てステップ・フラクチャーをおこしており、器体の厚さを考えればこれ以上の調整剥離を行っても刃部をある程度鋭角に戻すことは不可能と考えられる。

第181図2は、黒色頁岩もしくは硬質な泥岩製で、直方体の礫に側面1辺と刃部を調整しただけで、そのまま使用している。調整はチョッピング・ツール状で礫器と見まごうが、刃部には長軸方向の線状痕が極めて明瞭に残されており、礫器とは異なった使用法をされていたことが分かる。

刃部の潰れ方は第181図1と同じで、使用と再生剥離を繰り返した結果、剥離痕は全てステップ・フラクチャーとなっており、刃部角は90度近く開くなど、再生不可能な状態となっている。







(2) 土掘具

全部で12点出土している。石鍬との違いは、幅広い刃部を作らず棒状を呈する点にある。平面形の



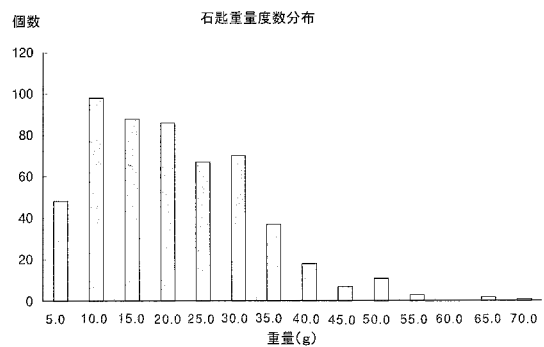
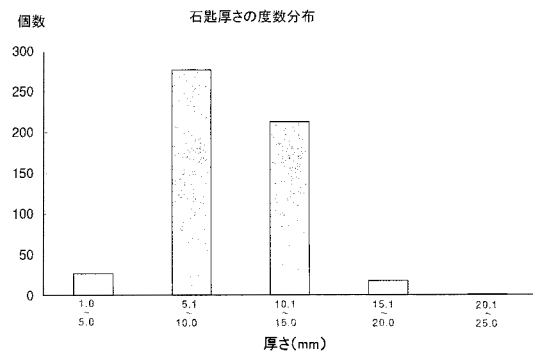
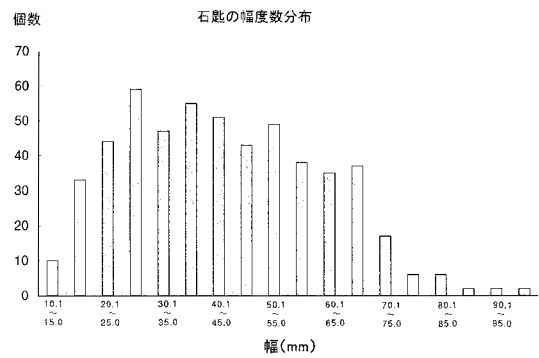
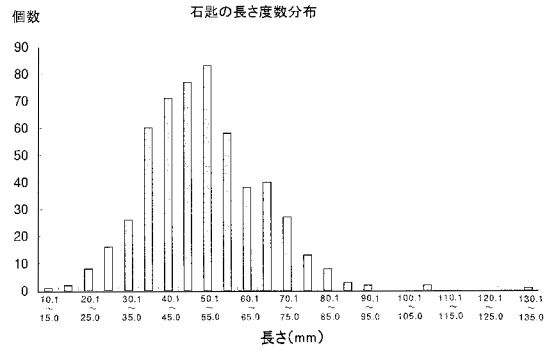
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
210	1	23994	MA33		頁岩	91.9	40.1	12.5	33.2	鋸齒縁石器
210	2	49914	MC25		頁岩	41.8	36.9	13.1	20.8	鋸齒縁石器
210	3	24010	MC39		頁岩	61.0	57.9	13.3	46.8	抉入石器
210	4	23991	LS32		頁岩	60.9	50.4	23.9	55.0	鋸齒縁石器

第210図 鋸齒縁石器・抉入石器(1)

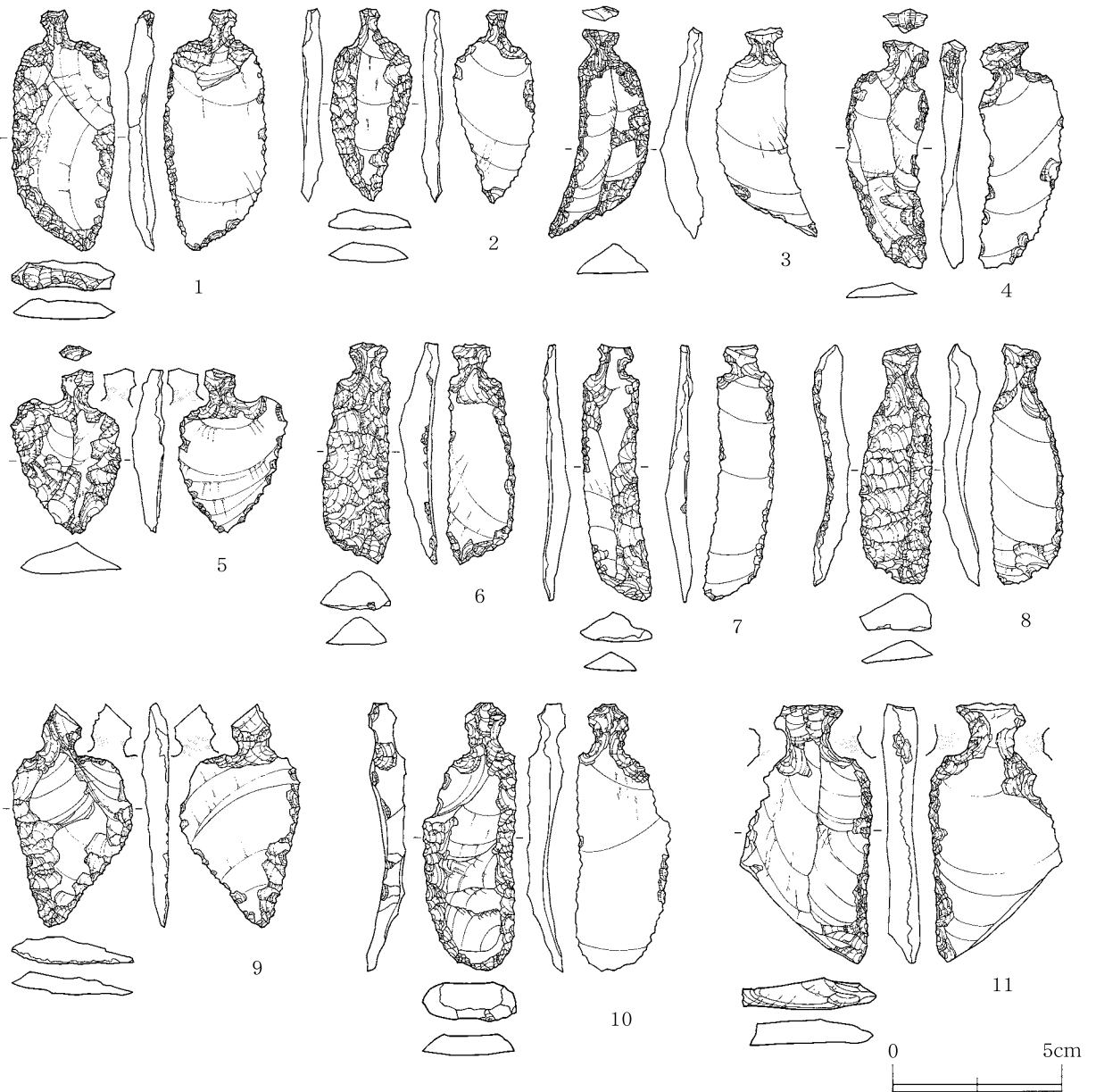
つまみに対して刃部が縦に付くもの	刃部末端が尖るもの I	
	刃部末端が尖らないもの II	
つまみに対して刃部が斜めに付くもの	刃部末端が尖るもの I	
	刃部末端が尖らないもの II	
つまみに対して刃部が横に付くもの	刃部末端が尖るもの I	
	刃部末端が尖らないもの II	

第66表 石匙サイズの特徴 (全536点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	51.562127	43.601119	9.5358209	18.729198
最大値	133.6	99.4	21	68.2
最小値	13.6	10.7	2.7	1.6
範囲	120	88.7	18.3	66.6
最頻値	51~55mm	26~30mm	5~10mm	5~10g
最頻値個数	83	59	277	98
最頻値%	15.485075	11.007463	51.679104	18.283582
分散	208.20815	305.97832	8.2992004	129.1116
標準偏差	14.42942	17.492236	2.8808333	11.362729
尖度	2.0555119	-0.475849	0.1155496	1.0492929
歪度	0.7164024	0.3564364	0.2974002	0.9137105

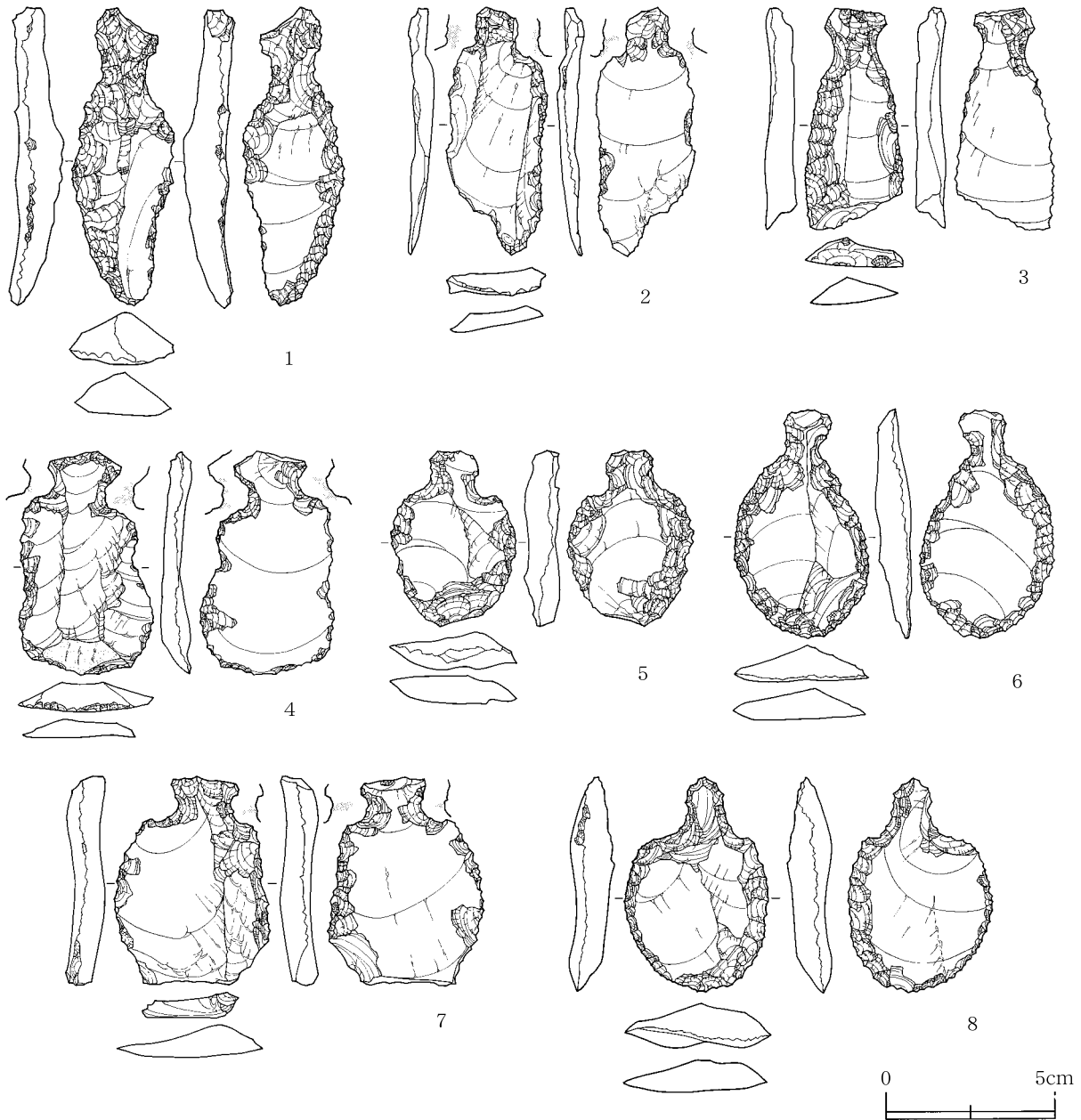


第211図 石匙の分類とサイズの特徴



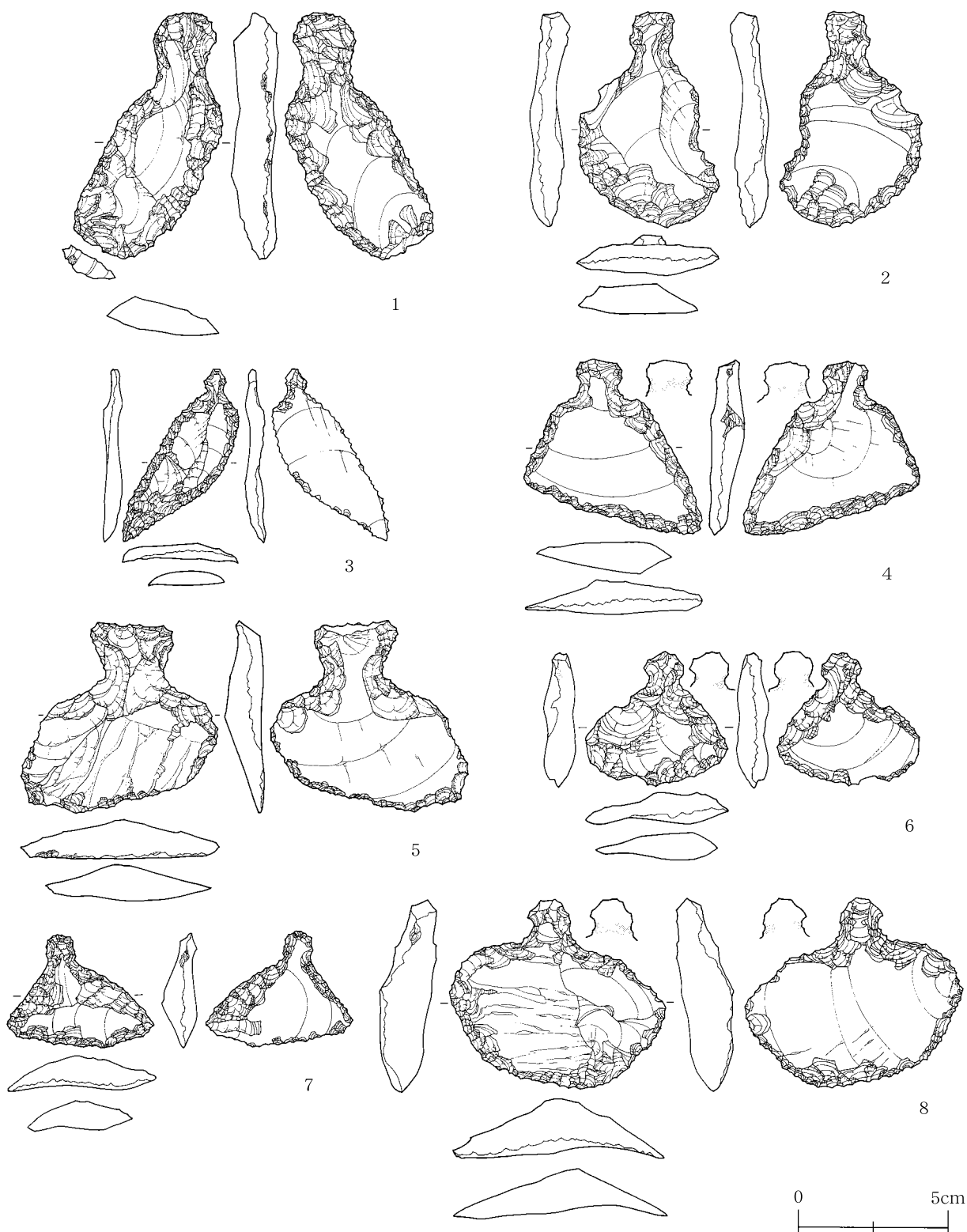
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
212	1	8878	LR34		頁岩	71.2	30.1	7.9	17.3	A		
212	2	9638	LS36		頁岩	56.3	23.8	5.1	7.4	A		
212	3	8876	LS34		頁岩	61.8	25.2	12.2	10.6	A		
212	4	8855	LO35		頁岩	66.8	22.9	8.3	8.6	A		
212	5	8867	MA38		頁岩	48.5	3.6	9.1	10.5	A		アスファルト付
212	6	8854	LR34		頁岩	63.9	19.4	9.5	11.6	A		
212	7	9604	LR32		頁岩	74.8	15.5	6.1	8.8	A		
212	8	8819	LR32		頁岩	69.8	21.1	7.8	12.1	A		
212	9	9591	MA28		頁岩	65.7	36.5	4.7	11.6	A		アスファルト付
212	10	8795	LO33		頁岩	77.9	27.4	7.9	17.6	A		
212	11	8809	LO32		頁岩	75.5	38.1	9.6	28.1	A		アスファルト付

第212図 石匙(1)



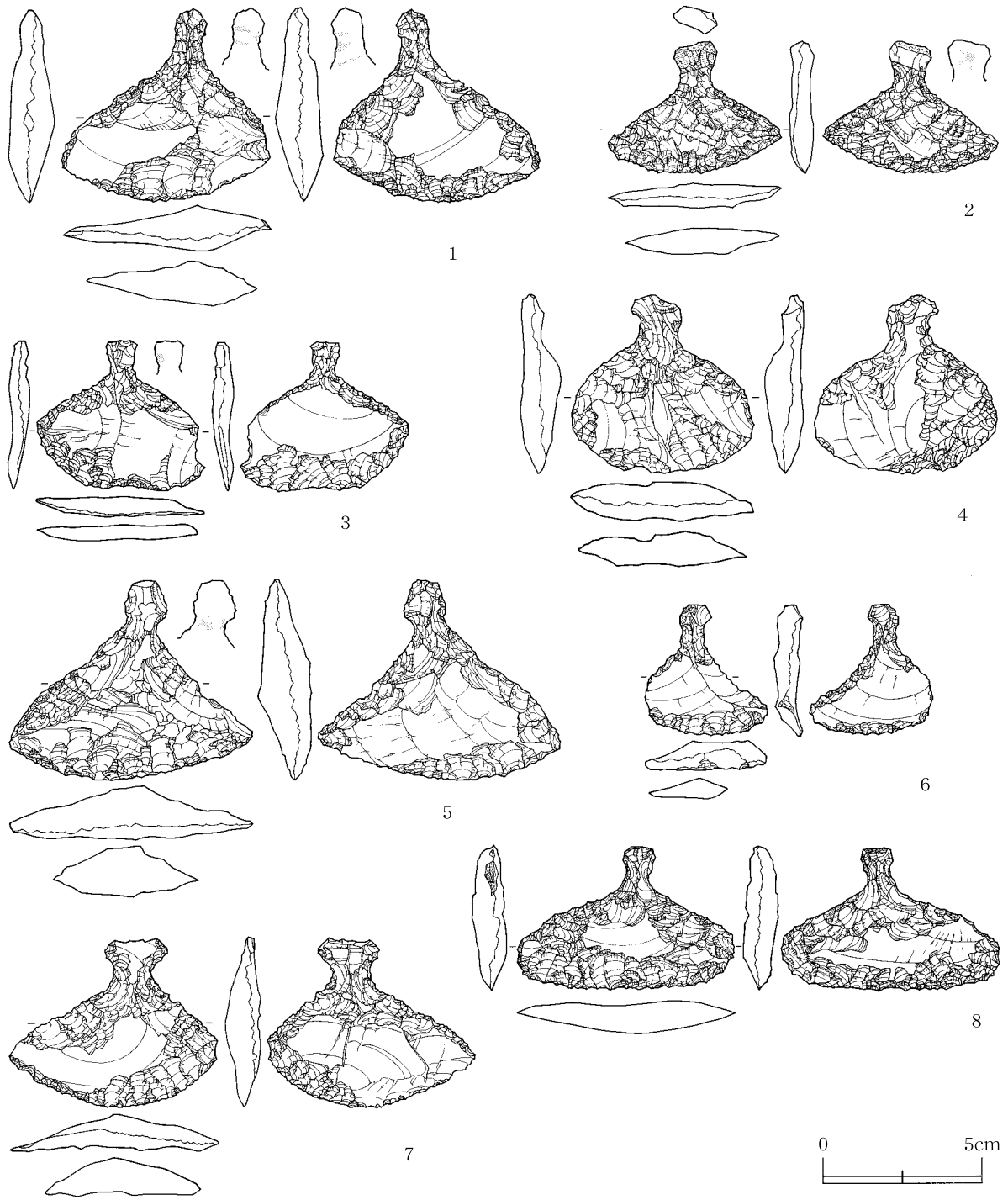
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
213	1	8768	LT33		頁岩	86.1	33.9	13.7	44.2	A		
213	2	8794	LO32		頁岩	72.9	28.3	5.7	14.2	A		アスファルト付
213	3	9597	LQ36		頁岩	65.4	28.6	8.4	15.8	A		
213	4	9593	MD34		頁岩	66.1	40.1	8.6	21.3	A		アスファルト付
213	5	8821	MA30		頁岩	51.8	37.7	9.2	19.1	A		
213	6	9640	MC35		頁岩	67.7	39.9	9.2	22.5	A		
213	7	8852	LS36		頁岩	61.9	45.9	10.1	28.4	A		アスファルト付
213	8	9603	LS36		頁岩	63.1	42.6	11.5	29.7	A		

第213図 石匙(2)



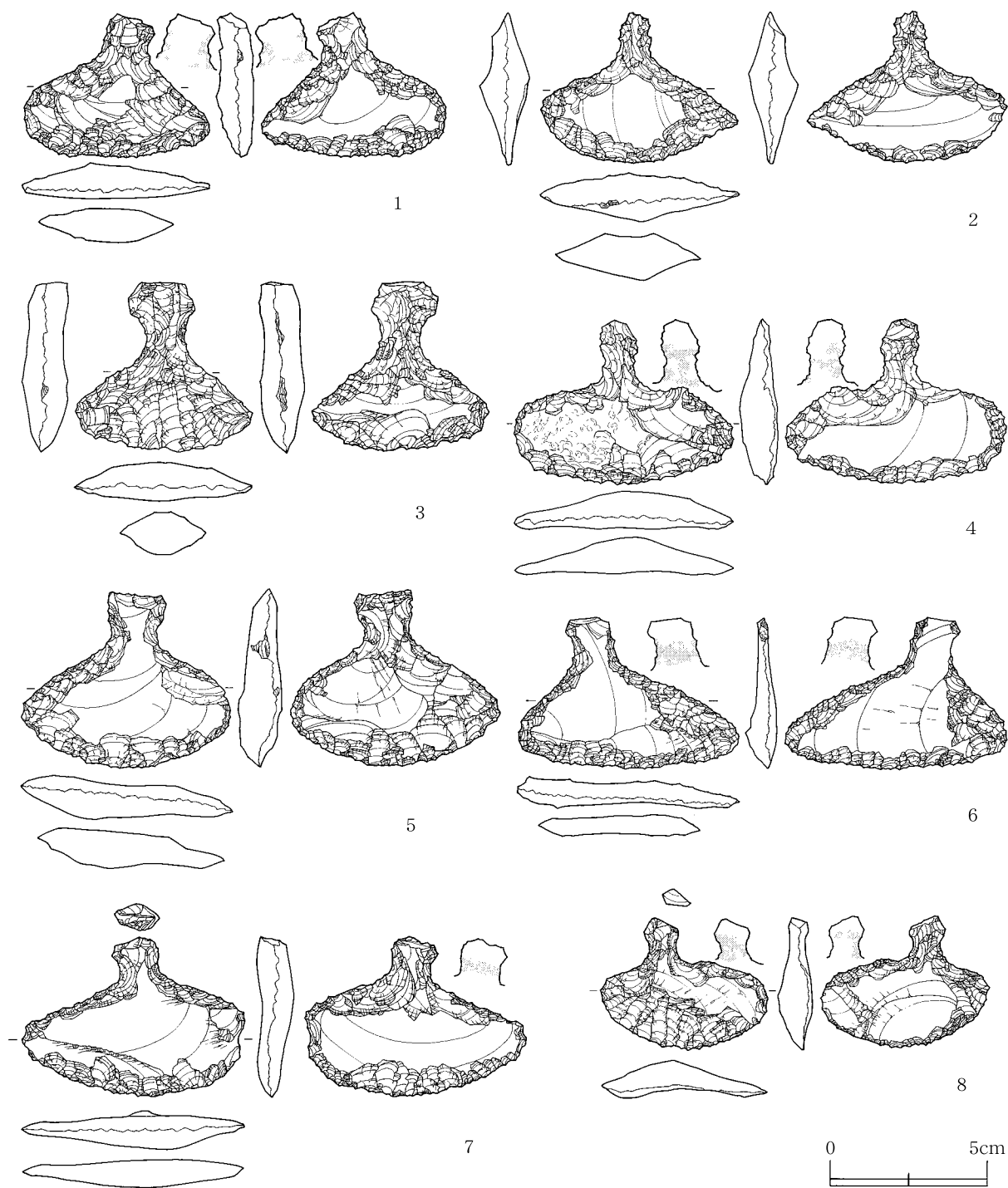
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
214	1	8766	LQ33		頁岩	87.9	29.2	13.1	29.0	B		
214	2	9602	MC36		頁岩	71.9	52.0	9.5	32.2	B		
214	3	9596	LO35		頁岩	65.1	22.2	5.1	7.7	B		
214	4	8843	LR33		頁岩	50.2	60.4	10.8	30.0	B		アスファルト付
214	5	8762	LS34		頁岩	60.6	67.0	12.0	36.9	B		
214	6	8807	LT33		頁岩	45.0	47.3	10.5	15.8	C		アスファルト付
214	7	8771	MA28		頁岩	36.7	47.8	10.3	13.5	C		
214	8	9675	MB37		頁岩	66.0	71.9	13.6	49.2	C		アスファルト付

第214図 石匙(3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
215	1	8871	LR30		頁岩	13.6	64.4	13.9	36.3	C		アスファルト付
215	2	71215	不明		玉髄	39.7	53.9	8.0	12.9	C		アスファルト付
215	3	8847	LQ36		玉髄	46.8	52.3	6.6	14.4	C		アスファルト付
215	4	8835	LO35		頁岩	55.7	57.0	12.2	28.6	C		
215	5	8767	LQ33		頁岩	61.1	76.0	15.4	45.8	C		アスファルト付
215	6	8864	LS33		頁岩	40.6	37.7	7.9	7.8	C		
215	7	8824	LQ33		頁岩	53.0	64.1	9.7	24.7	C		
215	8	8674	LP33		頁岩	44.5	68.2	10.2	25.0	C		

第215図 石匙(4)



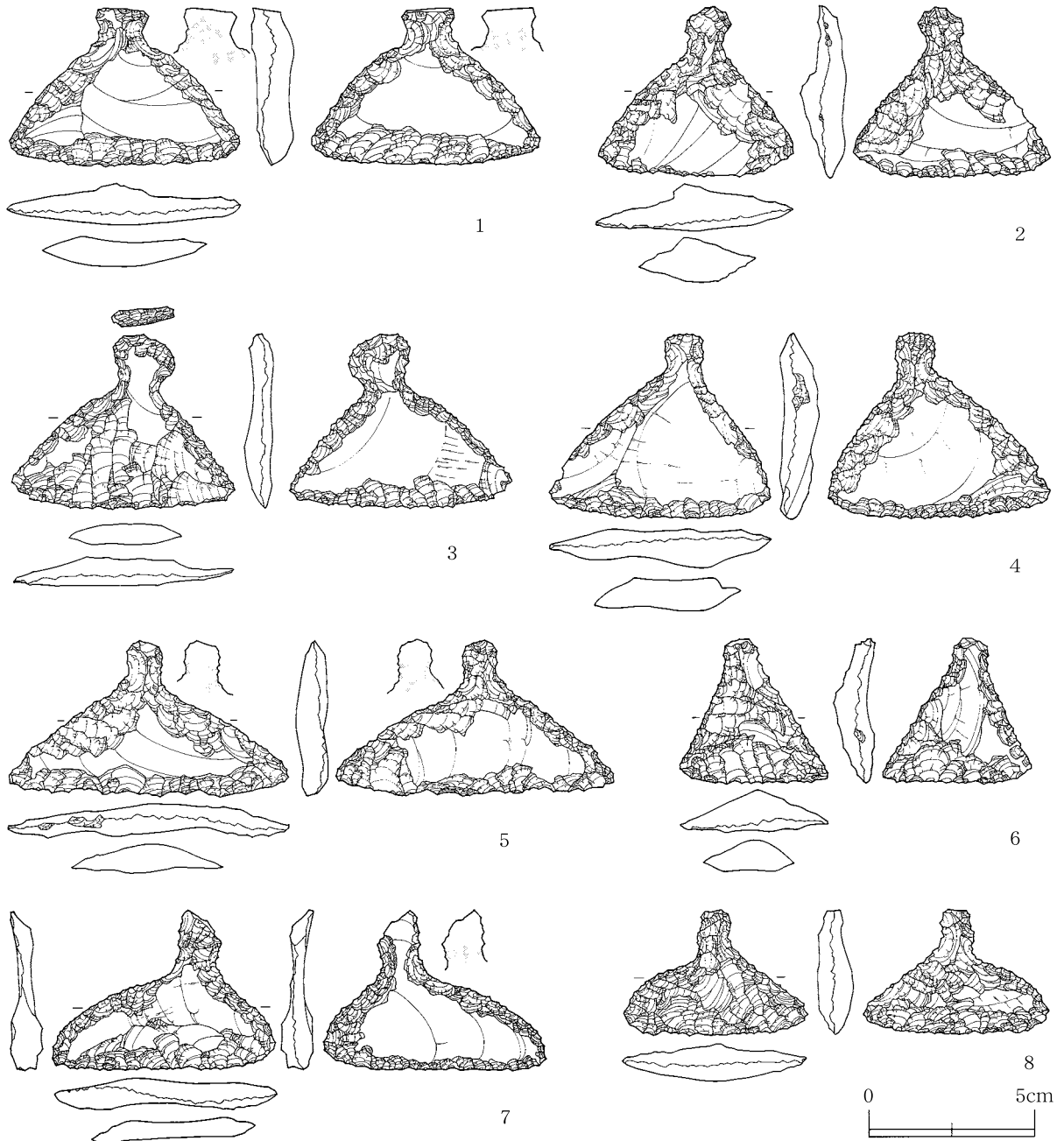
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
216	1	9592	MA28		頁岩	45.3	59.4	10.5	25.0	C		アスファルト付
216	2	8850	LP32		頁岩	48.2	63.7	16.0	25.3	C		
216	3	8842	LQ30		頁岩	54.3	55.4	13.8	28.7	C		
216	4	8770	MA29		頁岩	51.4	69.5	11.4	30.4	C		アスファルト付
216	5	8761	LN34		頁岩	55.5	66.1	13.3	38.5	C		
216	6	8769	LN34		頁岩	51.5	63.1	13.0	34.2	C		アスファルト付
216	7	8845	LQ34		頁岩	50.3	70.3	12.0	38.7	C		アスファルト付
216	8	8793	LQ33		頁岩	53.7	71.7	9.3	32.2	C		アスファルト付

第216図 石匙(5)



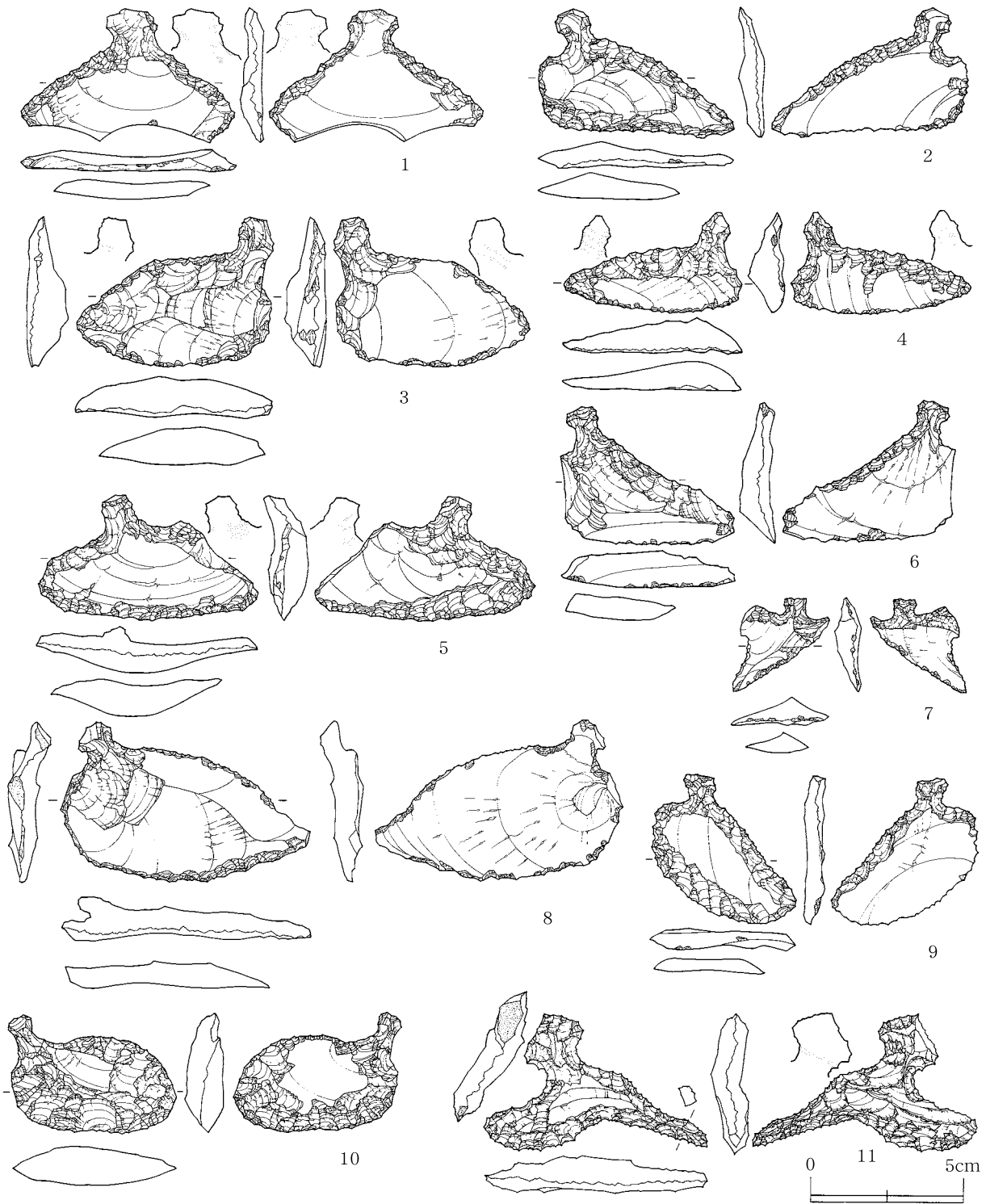
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
217	1	8716	LR34		頁岩	44.2	58.2	10.0	17.6	C		アスファルト付
217	2	8810	LT35		頁岩	47.2	75.9	12.3	28.1	C		
217	3	8849	LQ33		頁岩	44.5	49.0	12.1	22.0	C		
217	4	8764	LR34		頁岩	43.0	81.9	13.7	35.5	C		アスファルト付
217	5	8868	LQ34		頁岩	32.0	46.7	7.4	9.4	C		
217	6	8804	LR34		頁岩	54.5	79.2	9.8	38.6	C		
217	7	9674	MH26		頁岩	53.5	68.0	10.3	32.0	C		アスファルト付
217	8	8836	LQ33		頁岩	53.7	71.7	9.3	32.2	C		アスファルト付

第217図 石匙(6)



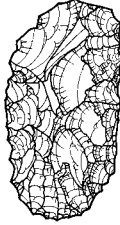





図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
218	1	8825	LO31		頁岩	48.8	68.2	11.7	30.2	C		アスファルト付
218	2	9621	MA35		頁岩	51.4	58.6	13.1	22.2	C		
218	3	8853	LR35		頁岩	52.7	66.3	7.8	23.6	C		
218	4	8763	LN35		頁岩	56.1	65.6	10.1	27.6	C		
218	5	8812	LP33		頁岩	46.7	82.7	9.0	24.6	C		アスファルト付
218	6	8838	LO35		頁岩	42.8	43.4	12.0	15.5	C		
218	7	8844	LS36		頁岩	47.5	65.5	8.5	19.7	C		アスファルト付
218	8	8808	LN35		頁岩	37.9	54.5	10.5	15.9	C		

第218図 石匙(7)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	刃部	末端形状	備考
219	1	8840	LS35		頁岩	43.7	68.0	5.1	15.4	C		アスファルト付
219	2	9667	LR35		頁岩	40.2	62.0	7.3	16.1	C		
219	3	8806	LR33		頁岩	48.8	63.5	11.5	33.6	C		アスファルト付
219	4	8880	MC25		頁岩	32.0	57.1	11.0	12.7	C		アスファルト付
219	5	8800	LN33		頁岩	40.9	71.1	12.1	27.0	C		アスファルト付
219	6	8792	LR33		頁岩	47.3	57.0	12.0	19.3	C		
219	7	8862	LR35		頁岩	36.8	27.0	8.3	4.7	A		
219	8	8872	LR33		頁岩	47.5	81.2	9.6	28.3	C		
219	9	8820	LT35		頁岩	35.4	54.6	6.6	10.9	B		
219	10	8718	LP35		頁岩	37.6	54.1	12.6	24.4	B		
219	11	1513	LS32		頁岩	71.3	46.9	10.8	19.1	C		アスファルト付

第219図 石匙(8)

	表裏の全面加工のもの	片面全面と裏面周縁加工のもの
形状が 籠状の もの A	 I	 II
形状が 細身の もの B	 I	 II
形状が 尖るも の C	 I	 II

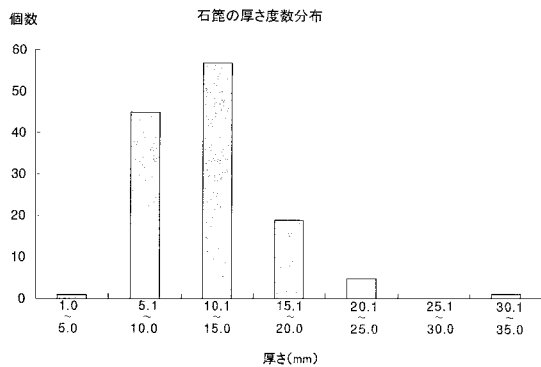
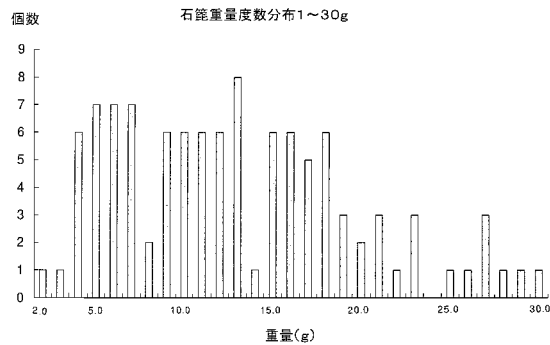
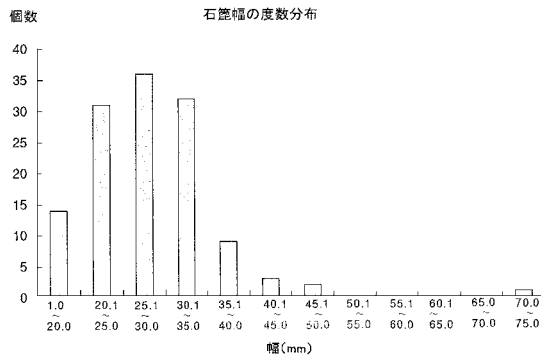
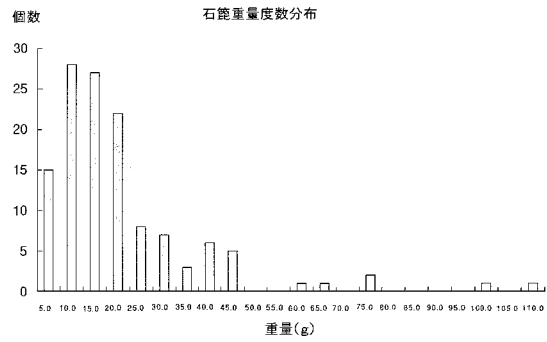
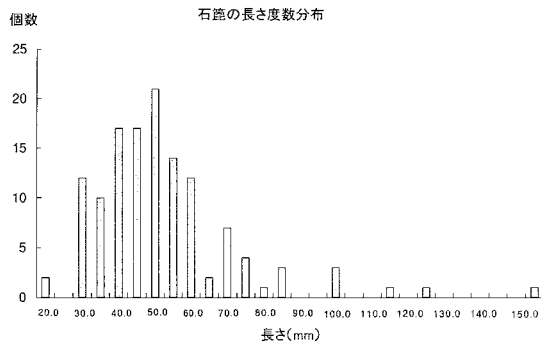
第220図 石籠の分類

特徴は、いずれもわずかにカーブを描くことである。刃部破損はカーブの内側にあたる部分に起きていることが、注目される。

土掘具の長さは、最大190.4mm、最小79.1mm、平均127.3mmで、100.1~105.0mmのものが3点25.0%と最頻値を示す。幅は、最大112.9mm、最小17.6mm、平均57.3mmで、55.1~60.0mmのものが3点25.0%と最頻値を示す。厚さは、最大57.4mm、最小9.5mm、平均29.7mmで、25.1~30.0mmのものが3点25.0%と最頻値を示す。重量は、最大598.2g、最小25.8g、平均285.8gで、140.1~160gのものが2点と最頻値を示す。土掘具の各サイズ分布は第182図・第58表に示した。

第183図1の先端は、丸く潰れている。また、先端から長軸方向への剥離痕が腹面側にあり、これを切る形で背面側に再調整を施す。刃部再生による剥離と考えられる。

第2章 捨て場と遺物



第67表 石籠サイズの特徴 (全128点)

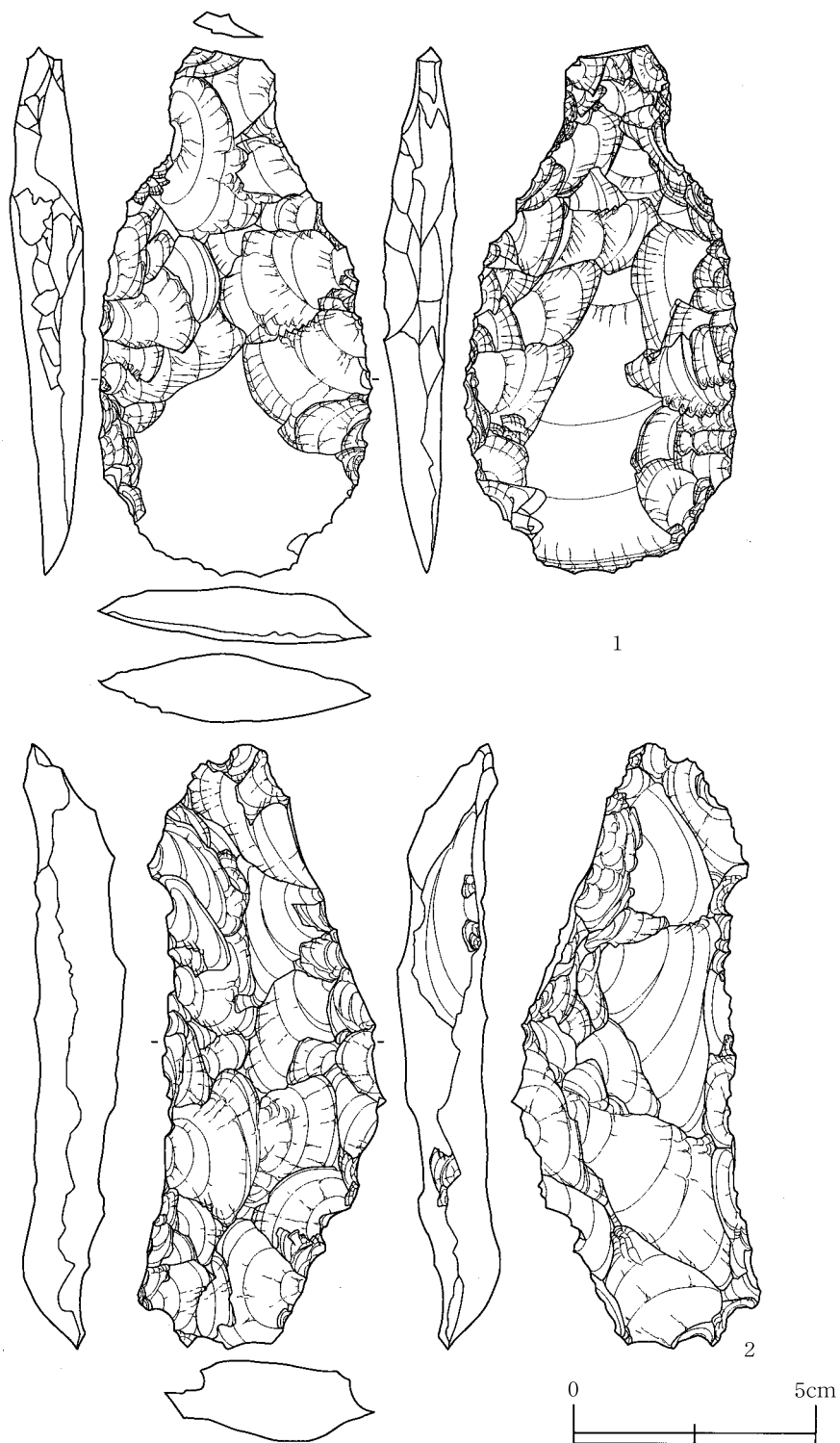
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	49.814063	28.159375	12.025781	19.803906
最大値	150.2	72.1	31.8	184
最小値	19.3	15.5	5	1.8
範囲	130.9	56.6	26.8	182.2
最頻値	46~50mm	26~30mm	11~15mm	11~15g
最頻値個数	21	36	57	28
最頻値%	16.40625	28.125	44.53125	21.875
分散	389.01917	59.132825	15.87248	510.41518
標準偏差	19.723569	7.689787	3.9840281	22.59237
尖度	6.5550652	7.5818405	4.1733032	23.764898
歪度	2.0382848	1.7226569	1.3681832	4.1423032

第221図 石籠サイズの特徴

第183図2も刃部末端腹面側に大きな剥離痕が残る。上述したようにこの剥離痕は緩くカーブを描く器体の内側に当たる部分である。この剥離は、使用による衝撃剥離の可能性が高い。石鏃第180図1で想定したのと類似して、手前に引き込みつつ突き刺すような動作の結果である可能性がある。もしくは、刃部再生に失敗した物かもしれない。どちらにしても、この剥離が最も新しく、以後再調整は行われていないことから、刃部先端を欠損した段階で廃棄されたと考えられる。

第183図3も同様で、刃部末端には器体長軸に直交する横方向の大きな剥離が残っており、これが刃部をほぼ90度にまで開いてしまっており、再生不可能となっている。

なお、東北地方ではしばしば石籠と打製石斧が、土掘具として混同されている。本遺跡における土掘具と石籠の長さの母分散は、等しくない ($F_s = 3.83$ $F(1\%) = 2.40$)。その上で、t検定すると、高度に有意差がある ($t_s = 6.87$ $t(1\%) = 3.10$)。すなわち、長さに代表される大きさ(幅・厚さも同じく高度の有意差が出た)が、これら2器種では明らかに異なっている。この大きさの違いは、それぞれの器種に要求された機能・使用法の差として現れている可能性が高い。つまり、一般的な石籠を土掘具に分類するのは、間違いである(ごく僅かに明瞭な線条痕を持つ石籠がある。これらにつ





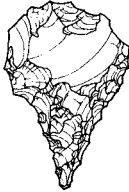




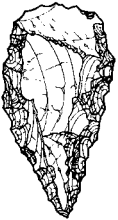
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	加工状態	備考
222	1	69552	MD34		頁岩	107.1	56.3	15.3	79.2	C		
222	2	102489	NN27		頁岩	125.0	47.0	21.0	100.0	A		

第222図 石篋(1)



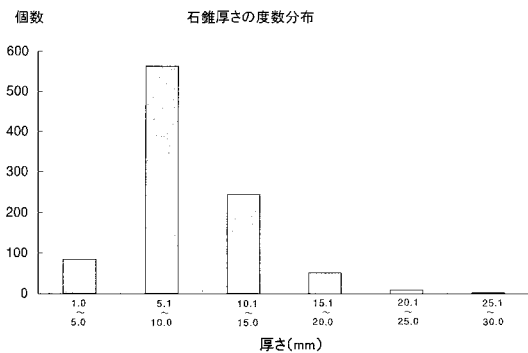
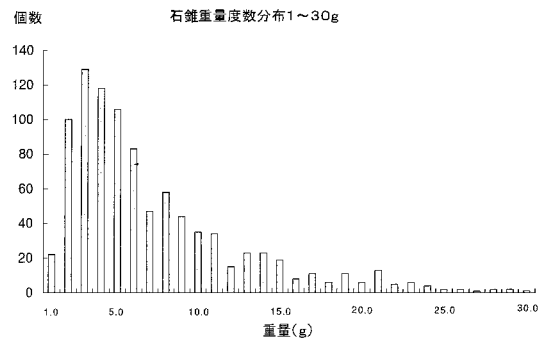
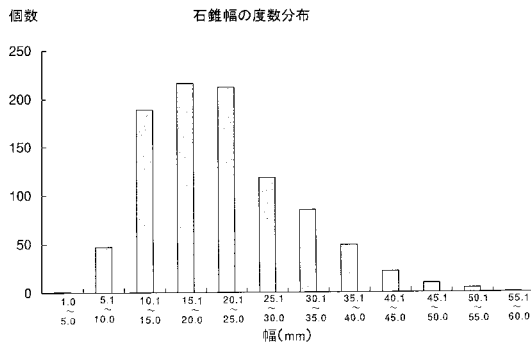
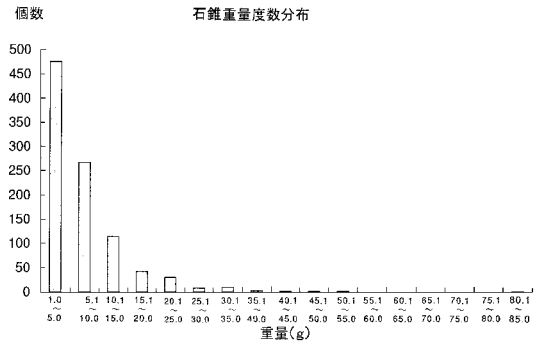
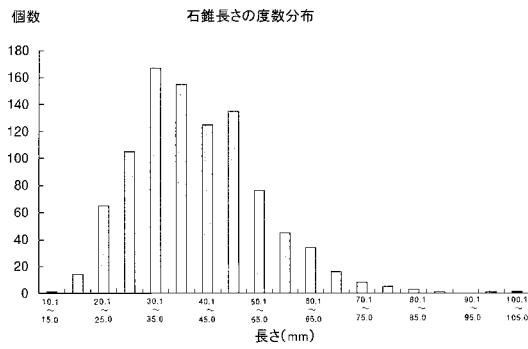
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	加工状態	備考
223	1	8590	LR33		頁岩	75.9	34.3	15.5	40.1	A		
223	2	1583	LO35		頁岩	65.5	34.3	14.4	35.4	A		
223	3	8328	LS33		頁岩	80.2	30.3	14.5	42.9	B		
223	4	9016	LP34		頁岩	110.9	30.8	15.8	61.7	B		槍から器に転用、摩滅アスファルト付き
223	5	8592	LS32		頁岩	59.7	26.5	14.9	19.6	C		
223	6	2865	LR34		頁岩	48.1	20.2	15.6	12.2	C		

第223図 石筥(2)

つまみ部 と錐部の 境界の 状態	錐部の 形状	つまみ部の加工状態	
		ほぼ全周を 加工	一部加工
明瞭な もの	長いもの I	 a	 b
	短いもの II	 a	 b
不明瞭 なもの	長いもの I	 a	 b
	短いもの II	 a	 b
A			
B			

第224図 石錐の分類

第2章 捨て場と遺物



第68表 石錐サイズの特徴 (全957点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	40.589551	21.88465	9.0977011	7.4555381
最大値	100.8	58.6	26.7	81.6
最小値	14.9	4.9	2.6	0.4
範囲	85.9	53.7	24.1	81.2
最頻値	31~35mm	16~20mm	5~10mm	3g
最頻値個数	167	216	563	129
最頻値%	17.450366	22.570533	58.829676	13.479624
分散	153.16636	80.064829	12.535099	53.826196
標準偏差	12.37604	8.9478952	3.5404942	7.3366339
尖度	1.107224	0.6577234	1.7937303	17.425014
歪度	0.7674185	0.8303978	1.0921043	3.1808504

第225図 石錐サイズの特徴

いては、便宜的な土掘具への転用と考えている)。

(3) 磨製石斧

磨製石斧は、全部で87点出土している。完形品22点、破損品65点である。破損品が圧倒的に多い。分類は、第184図に示した。

完形品22点によって、大きさの特徴を示す。磨製石斧の長さは、最大178.0mm、最小33.3mm、平均84.9mm、55.1~65.0mmのものが14点16.1%と最頻値を示す。幅は、最大85.2mm、最小19.2mm、平均43.5mmで、35.1~40.0mmのものが19点21.8%と最頻値を示す。厚さは、最大41.5mm、最小5.6mm、平均23.8mmで、25.1~30.0mmのものが28点32.2%と最頻値を示す。重量は、最大820.0g、最小6.35g、平均163.2gで、60.1~80.0gのものが14点16.1%と最も多い。磨製石斧の各サイズ分布は第185図・第60表に示した。

磨製石斧は、伐採斧としての大形品と、加工斧としての小形品に明確に分かれる。第185図の長さ分布を見れば、70.0mm以下の小形品、75.1~145.0mmまでの中形品、そして大形品は160.1mmを超える。大きさの差は重量にもよく現れている。40g以下の軽量品、100.1~180.0gまでの中量品、そしてそ